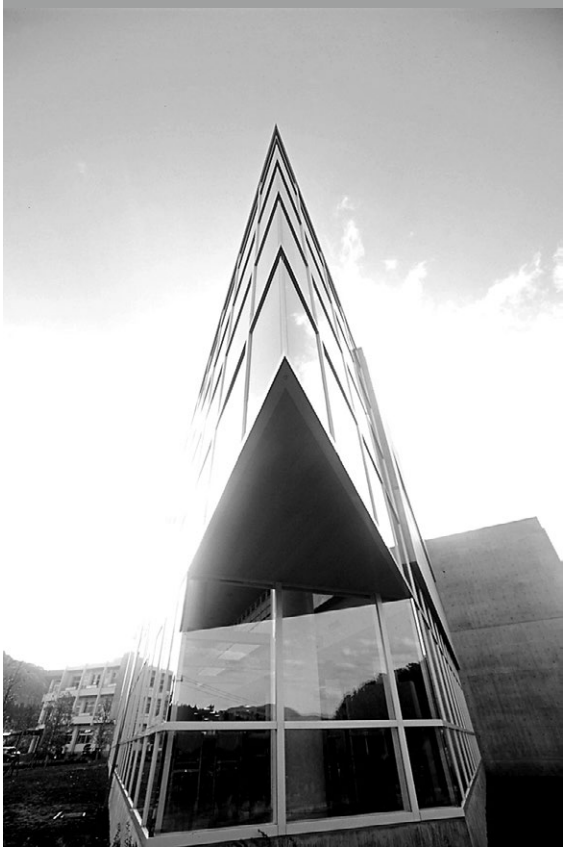
JIN-AI UNIVERSITY
2019 SYLLABUS

令和元年度

人間生活学部
シラバス



仁愛大学
JIN-AI UNIVERSITY

目　　次

Ⅰ．１年生

＜学部共通科目＞

仏教の人間観……香月　　拓……1
人間と宗教……門脇　　健……3
生命の倫理……田代　俊孝……5
日本国憲法……早川　秋子……7
生活と環境Ａ……サンドロヴィッチ　ティムール……9
スポーツと健康……出村　友寛……12
スポーツＡ(健康栄養学科)……乾　　典子……14
スポーツＡ(子ども教育学科)……野田　政弘・山村　恵子……16
英語Ⅰａ……池田・ダイクス・フッド・ハウカ・吉田……18
英語Ⅰｂ……池田・ダイクス・フッド・ハウカ・吉田……20
フランス語入門a……大竹口麻里……22
フランス語入門b……大竹口麻里……24
ドイツ語入門a……橋本　武志……26
ドイツ語入門b……橋本　武志……28
中国語入門a……永井　崇弘……30
中国語入門b……永井　崇弘……32
情報基礎Ⅰ……佐藤　宏隆・篭谷　隆弘……34
情報基礎Ⅱ……佐藤　宏隆・篭谷　隆弘……36
基礎演習……池田・樽井・尼子・岸・浦本・細田……38
基礎演習……鈴木　智子・高野　秀晴……40

＜キャリア形成科目＞

キャリア・デザインⅠ……植月　百枝……42

＜健康栄養学科専門科目＞

基礎化学……尼子　克己……45
基礎生物学……西出　和彦……48
分析化学……尼子　克己……50
有機化学……池田　涼子……52
健康管理概論……岸　　愼治……54
解剖生理学……岸　　愼治……56
解剖生理学実験……鳴瀬みどり……59
微生物学……野村　卓正……61

微生物学実験……野村　卓正……64
食品学総論……浦本　裕美……67
食品機能学……浦本　裕美……70
食品加工学……小林　恭一……72
食品分析実験……浦本　裕美……74
調理学……佐藤　真実……76
調理学実習……佐藤　真実……78
応用調理学実習……佐藤　真実……80
基礎栄養学……鈴木　和春……82
基礎栄養学実験……池田　涼子……84
応用栄養学Ⅰ（成長･発達･加齢、食事摂取基準）……鈴木　和春……86
フィールドワーク演習……樽井雅彦・佐藤真実・池田涼子・浦本裕美……88

＜健康栄養学科教職科目＞

教育原理……高野　秀晴……90

＜子ども教育学科専門科目＞

教職論……鈴木　智子・伊禮　三之……92
教育原理……高野　秀晴……95
教育課程論Ⅰ……鈴木　智子……97
子ども家庭福祉……青井　夕貴……99
保育者論……石川　昭義……101
保育原理Ⅰ……石川　昭義……103
発達心理学Ⅰ……大野木裕明……105
保育基礎演習……伊東　知之・篠田　　洋・大久保郁子……107
国語……笠原　茂子……109
音楽Ⅰ……中野　研也……111
音楽Ⅱ……津田　幸子……113
図画工作Ⅰ……伊東　知之……116
基礎ピアノⅠ……中野・桂屋・飯田・太田・野村……118
基礎ピアノⅡ……中野・桂屋・飯田・太田・野村……120
保育内容指導法（健康）……出村　友寛……122
保育内容指導法（表現Ａ）……坂本　流美……124
保育内容指導法（表現Ｃ）……乾　　典子……126
保育内容指導法（子どもの文化）……柿本　真代……128
事前・事後指導（幼稚園）……伊東　知之・鈴木　智子……130
教育実習Ⅰ（幼稚園）……伊東　知之・鈴木　智子……132

Ⅱ．２年生

＜学部共通科目＞

仏教の思想……伊東　恵深……134
哲学の世界観……橋本　武志……136
文学の世界……笠原　茂子……138
美術の世界……伊東　知之……140
生活と環境Ｂ……安彦　智史……142
生活と環境Ｄ……藤原　英一……144
ふくい総合学……杉島　一郎・織田　暁子・鳴瀬みどり・柿本　真代……146
英語Ⅱａ……フッド晴美・紺渡　弘幸……148
英語Ⅱｂ……フッド晴美・紺渡　弘幸……150

＜キャリア形成科目＞

キャリア・デザインⅡ……升田　法継……152

＜健康栄養学科専門科目＞

生命科学……鳴瀬みどり・野村　卓正……155
公衆衛生学……鳴瀬みどり……157
公衆衛生学実習……鳴瀬みどり……159
基礎生化学……尼子　克己……161
栄養生化学……鈴木　和春・池田　涼子……164
基礎生化学実験……尼子　克己……166
病理学……岸　　愼治……168
臨床医学概論……岸　　愼治……171
運動生理学……鳴瀬みどり……174
食品加工実習……浦本　裕美……176
食品衛生学……野村　卓正……178
食品衛生学実験……野村　卓正……181
調理科学実験……佐藤　真実……184
応用栄養学Ⅱ（栄養・体力アセスメント）……石黒真理子……186
応用栄養学Ⅲ（ライフステージ栄養学）……鈴木　和春・石黒真理子……188
応用栄養学Ⅳ（ライフスタイル・スポーツ栄養学）……石黒真理子・桑守　豊美……190
応用栄養学実習……三浦　　努・石黒真理子……192
栄養教育論Ⅰ（栄養教育論）……細田　耕平……194
公衆栄養学Ⅰ（地域栄養活動）……三浦　　努……197
給食経営管理論Ⅰ（給食計画）……樽井　雅彦……199
給食経営管理論Ⅱ（マネジメント）……樽井　雅彦……201

給食経営管理論実習……樽井　雅彦……203
栄養総合演習Ⅰ……佐藤裕保・三浦　努・樽井雅彦・山本浩範……205
給食運営実習……樽井　雅彦……207
フィールドワーク演習……樽井雅彦・佐藤真実・池田涼子・浦本裕美……209
分子栄養学……尼子　克己……211
国際食糧・栄養情報論……由田　克士……214
食品品質評価演習……浦本　裕美・佐藤　真実……216

＜健康栄養学科教職科目＞

教職論……高野　秀晴……218
教育心理学（健康栄養学科）……杉島　一郎……220
教育課程・特別活動論……高野　秀晴……222
教育の方法と技術（健康栄養学科）……篭谷　隆弘……224

＜子ども教育学科専門科目＞

教育心理学（子ども教育学科）……大野木裕明……226
教育の方法と技術（子ども教育学科）……篭谷　隆弘……228
教育課程論Ⅱ（特別活動を含む）……伊禮　三之……230
社会福祉……青井　夕貴……232
社会的養護……永松　　真……234
社会……奥谷　　崇……236
算数……伊禮　三之……238
理科……西出　和彦……241
生活……筧　みち子……243
体育Ⅰ……出村　友寛……246
体育Ⅱ……野田　政弘・乾　　典子……248
算数科教育法……伊禮　三之……250
理科教育法……西出　和彦……252
音楽表現Ⅰ……桂屋・飯田・太田・福田・野村……254
音楽表現Ⅱ……桂屋・飯田・太田・福田・野村……256
発達心理学Ⅱ……大野木裕明……258
子どもの保健Ⅰb……岸　　愼治……260
子どもの保健Ⅱ……日下　純子……262
保育内容研究（人間関係）……鈴木　智子……264
保育内容研究（環境）……西出　和彦……266
保育内容研究（言葉）……笠原　茂子……268
保育内容研究（表現Ｂ）……伊東　知之……271

乳児保育……八木　和……273
障がい児保育……安井　弘二……276
社会的養護内容……木越　直昭……279
保育実習指導Ⅰ……青井　夕貴・柿本　真代……281
保育実習Ⅰａ……青井　夕貴・柿本　真代……284
保育実習Ⅰｂ……青井　夕貴・柿本　真代……286
フィールドワーク演習……伊東　知之・中野　研也・柿本　真代……288
子どもの映像文化……篭谷　隆弘……290

Ⅲ．３年生

＜学部共通科目＞

音楽の世界……中野　研也……292
生活と環境Ｃ……尼子　克己……294
英語Ⅲａ……Ｒ ダイクス……297
英語Ⅲｂ……Ｒ ダイクス……299

＜健康栄養学科専門科目＞

社会福祉論……木村多佳子……301
栄養生化学実験……池田　涼子……303
栄養教育論Ⅱ（子ども・高齢期栄養教育論）……細田　耕平……305
栄養教育論Ⅲ（行動療法・カウンセリング）……森　俊之……308
栄養教育論Ⅳ（健康栄養情報処理演習）……三浦　努……310
栄養教育論実習……細田　耕平……312
臨床栄養病理学……岸　愼治……314
臨床栄養学Ⅰ（栄養療法）……佐藤　裕保……316
臨床栄養学Ⅱ（栄養アセスメント）……山本　浩範……318
臨床栄養学Ⅲ（チーム医療）……佐藤　裕保……320
臨床栄養学Ⅳ（臨床栄養管理）……山本　浩範……322
臨床栄養学実習Ⅰ（食事療法）……佐藤　裕保……324
臨床栄養学実習Ⅱ（栄養アセスメント）……山本　浩範……326
臨床栄養学実習Ⅲ（臨床栄養管理）……山本　浩範・石黒真理子……328
公衆栄養学Ⅱ（栄養疫学）……三浦　努……330
公衆栄養学実習……三浦　努……332
給食経営管理論Ⅱ（マネジメント）(編入生)……樽井　雅彦……334
給食経営管理論Ⅲ（食料商品学）……樽井　雅彦……336
栄養総合演習Ⅰ……佐藤裕保・三浦　努・樽井雅彦・山本浩範……338
給食経営管理臨地実習……樽井　雅彦……340

臨床栄養臨地実習 …… 佐藤　裕保・山本　浩範 …… 342
公衆栄養臨地実習 …… 三浦　　努 …… 344
フィールドワーク演習 …… 樽井　彦・佐藤　実・池田　子・浦本　美 …… 346
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 岸　慎治 他 …… 348
生涯発達心理学 …… 大野木裕明 …… 350
食文化論 …… 新澤　祥恵 …… 352
学校栄養教育の理論と方法 …… 細田　耕平・塚田　明美 …… 354
食育指導の理論と方法 …… 細田　耕平・塚田　明美 …… 357
心と健康 …… 山本　雅代 …… 359

＜健康栄養学科教職科目＞

教育経営論（健康栄養学科） …… 奥谷　　崇 …… 361
道徳教育の理論と方法（健康栄養学科） …… 高野　秀晴 …… 363
生徒指導論 …… 黒田　祐二 …… 365

＜子ども教育学科専門科目＞

教育経営論（子ども教育学科） …… 奥谷　　崇 …… 367
道徳教育の理論と方法（子ども教育学科） …… 高野　秀晴 …… 369
生徒・進路指導論 …… 黒田　祐二 …… 371
教育相談（子ども教育学科） …… 佐々木雅代 …… 373
家庭 …… 高原　信江 …… 375
国語科教育法 …… 笠原　茂子 …… 377
社会科教育法 …… 奥谷　　崇 …… 380
生活科教育法 …… 筧　みち子 …… 382
音楽科教育法 …… 木村　悦子 …… 384
図画工作科教育法 …… 伊東　知之 …… 387
家庭科教育法 …… 高原　信江 …… 389
体育科教育法 …… 宗倉　　啓 …… 391
音楽演習 …… 篠田　　洋 …… 393
相談援助 …… 青井　夕貴 …… 395
児童福祉援助技術 …… 天谷　泰公 …… 398
子どもの食と栄養 …… 桑守　豊美 …… 400
精神保健 …… 明神　一浩 …… 402
家庭支援論 …… 青井　夕貴 …… 404
保育内容総論 …… 石川　昭義 …… 406
保育相談支援 …… 青井　夕貴 …… 408
保育実践演習 …… 鈴木　智子・西出　和彦 …… 410

保育実習指導Ⅱ……石川　昭義・出村　友寛……412
保育実習Ⅱ……石川　昭義・出村　友寛……414
保育実習指導Ⅲ……石川　昭義・出村　友寛……416
保育実習Ⅲ……石川　昭義・出村　友寛……418
事前・事後指導（幼稚園）……鈴木　智子・中野　研也……420
教育実習Ⅱ（幼稚園）……鈴木　智子・中野　研也……422
事前・事後指導（小学校）……伊禮　三之……424
子ども教育特別演習Ⅰ……伊禮　三之……427
子ども教育特別演習Ⅰ……鈴木　智子……430
子ども教育特別演習Ⅰ……西出　和彦……432
子ども教育特別演習Ⅰ……石川　昭義……434
子ども教育特別演習Ⅰ……大野木裕明……436
子ども教育特別演習Ⅰ……柿本　真代……438
子ども教育特別演習Ⅰ……中野　研也……440
子ども教育特別演習Ⅰ……青井　夕貴……442
子ども教育特別演習Ⅰ……野田　政弘……444
子ども教育特別演習Ⅰ……伊東　知之……446
子ども教育特別演習Ⅰ……篭谷　隆弘……448
子ども教育特別演習Ⅰ……高野　秀晴……450
子ども教育特別演習Ⅰ……笠原　茂子……452
子ども教育特別演習Ⅰ……出村　友寛……454
特別支援教育論……水田　敏郎……456
子どもの発達臨床……水田　敏郎……459
子どもと英語教育……内藤　　徹……461
絵本・児童文学論……柿本　真代……463
児童館論……小林加奈子……465
児童館活動内容ａ……三浦　啓子……467

Ⅳ．４年生

＜健康栄養学科専門科目＞

栄養総合演習Ⅰ……佐藤裕保・三浦　努・樽井雅彦・山本浩範……469
栄養総合演習Ⅱ……佐藤・三浦・樽井・山本・石黒……471
臨床栄養臨地実習……佐藤　裕保・山本　浩範……473
健康・栄養特別演習Ⅱ……池田　涼子 他……475
健康・栄養特別演習Ⅲ……鳴瀬みどり 他……477
卒業研究……岸　　慎治 他……479

＜健康栄養学科教職科目＞

教育相談（健康栄養学科）……佐々木雅代 ……481
教職実践演習（栄養教諭）……細田　耕平・奥谷　　崇・塚田　明美 ……483
事前・事後指導（栄養教諭）……細田　耕平・塚田　明美 ……486
教育実習（栄養教諭）……細田　耕平・塚田　明美 ……488

＜子ども教育学科専門科目＞

教職実践演習（幼・小）……高野　秀晴・鈴木　智子・伊禮　三之 ……490
事前・事後指導（小学校）……伊禮　三之 ……493
教育実習（小学校）……伊禮　三之 ……496
子ども教育特別演習Ⅱ……伊禮　三之 ……498
子ども教育特別演習Ⅱ……鈴木　智子 ……501
子ども教育特別演習Ⅱ……西出　和彦 ……503
子ども教育特別演習Ⅱ……大野木裕明 ……505
子ども教育特別演習Ⅱ……柿本　真代 ……507
子ども教育特別演習Ⅱ……中野　研也 ……509
子ども教育特別演習Ⅱ……青井　夕貴 ……511
子ども教育特別演習Ⅱ……野田　政弘 ……513
子ども教育特別演習Ⅱ……伊東　知之 ……515
子ども教育特別演習Ⅱ……石川　昭義 ……517
子ども教育特別演習Ⅱ……篭谷　隆弘 ……519
子ども教育特別演習Ⅱ……高野　秀晴 ……521
子ども教育特別演習Ⅱ……笠原　茂子 ……523
子ども教育特別演習Ⅱ……出村　友寛 ……525
子ども教育特別演習Ⅲ……伊禮　三之 ……527
子ども教育特別演習Ⅲ……鈴木　智子 ……529
子ども教育特別演習Ⅲ……西出　和彦 ……531
子ども教育特別演習Ⅲ……石川　昭義 ……533
子ども教育特別演習Ⅲ……大野木裕明 ……535
子ども教育特別演習Ⅲ……柿本　真代 ……537
子ども教育特別演習Ⅲ……中野　研也 ……539
子ども教育特別演習Ⅲ……青井　夕貴 ……541
子ども教育特別演習Ⅲ……野田　政弘 ……543
子ども教育特別演習Ⅲ……伊東　知之 ……545
子ども教育特別演習Ⅲ……篭谷　隆弘 ……547
子ども教育特別演習Ⅲ……高野　秀晴 ……549
子ども教育特別演習Ⅲ……笠原　茂子 ……551

子ども教育特別演習Ⅲ……出村　友寛……553
卒業研究……伊禮　三之……555
卒業研究……鈴木　智子……556
卒業研究……西出　和彦……557
卒業研究……石川　昭義……558
卒業研究……大野木裕明……559
卒業研究……柿本　真代……560
卒業研究……中野　研也……561
卒業研究……青井　夕貴……562
卒業研究……野田　政弘……563
卒業研究……伊東　知之……564
卒業研究……篭谷　隆弘……565
卒業研究……高野　秀晴……566
卒業研究……笠原　茂子……567
卒業研究……出村　友寛……569
保育原理Ⅱ……石川　昭義……570
子育て支援論……青井　夕貴……572
子育て支援演習……青井　夕貴……574
地域福祉論……杉本　吉弘……576
地域福祉演習……杉本　吉弘……578
子どもと食育……細田　耕平……580
児童館活動内容ｂ……小林加奈子……583
児童館実習……石川　昭義・出村　友寛……585

仏教の人間観 (Views on the Humanity of Buddhism)			担当教員	香月　　拓
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1111	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　全学共通科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

本授業の目的は、建学の精神「仁愛兼済」のこころを育て、自分の人生をいきいきと生きていく力を身に付けることである。そのため、釈尊・親鸞の生涯やその教えにおける人間観を学ぶことを通して「本当の自分とは何か」を尋ねていく。

授業の到達目標

釈尊・親鸞の生涯とその教えについて述べることができる。仏教における人間観を学び、「本当の自分とは何か」を考察し、表現することができる。「仁愛兼済」を生きる学生像について、具体的に自分の考えを述べることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：イントロダクション－仏教に何を学ぶのか
第2回：自我と自己－本当に生きるとは
　　事後学習：配布された資料を見直し、わからないところは次回授業時に質問すること（1時間）
第3回：仁愛学園の歩みとキャンパスのモニュメントについて（グループワーク）
　　事前学習：キャンパスのモニュメントについて調べておく（2時間）
第4回：仁愛学園の歩みとキャンパスのモニュメントについて（発表）
　　事前学習：発表に向けたスライドを作成する（8時間）
第5回：四恩の自覚－いのちの大地
　　事前学習：テキスト『和』p.1～21を読んでまとめておく（2時間）
　　事後学習：配布された資料を見直し、わからないところは次回授業時に質問すること（1時間）
第6回：四恩の自覚－仁愛兼済
　　事後学習：授業内に提示した課題について、レポートにまとめる（8時間）
第7回：釈尊の生涯－誕生、青色青光・各々安立
　　事前学習：釈尊の生涯について図書館で調べる（2時間）
　　事後学習：配布された資料を見直し、わからないところは次回授業時に質問すること（1時間）
第8回：釈尊の生涯－四門出遊～出家生活
　　事後学習：配布された資料を見直し、わからないところは次回授業時に質問すること（1時間）
第9回：釈尊の生涯－苦行の放棄・降魔・成道、自己への目覚め
　　事後学習：配布された資料を見直し、わからないところは次回授業時に質問すること（1時間）
第10回：釈尊の生涯－梵天勧請と初転法輪
　　事後学習：配布された資料を見直し、わからないところは次回授業時に質問すること（1時間）
第11回：釈尊の生涯－伝道生活、仏弟子たちとの生活
　　事後学習：授業内に提示した課題について、レポートにまとめる（8時間）

第12回：釈尊の生涯－涅槃、死もまたいのちのすがた
　　事後学習：配布された資料を見直し、わからないところは次回授業時に質問すること（１時間）
第13回：親鸞の生涯－法然との出遇い
　　事前学習：親鸞の生涯について図書館で調べる（２時間）
　　事後学習：配布された資料を見直し、わからないところは次回授業時に質問すること（１時間）
第14回：親鸞の生涯－『歎異抄』の世界
　　事前学習：『歎異抄』について図書館で調べる（２時間）
第15回：まとめ
　　事後学習：全15回分のふり返りをし、レポートにまとめる（18時間）

成　績　評　価　方　法

第１回レポート（20%）、第２回レポート（20%）、第３回レポート（50%）、発表（10%）

成　績　評　価　基　準

釈尊・親鸞の生涯と思想について述べることができるか。
仏教における人間観を学び、「本当の自分とは何か」を考察し、表現することができるか。
「仁愛兼済」を生きる学生像について、具体的に自分の考えを述べることができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：『礼讃抄』、『和』　（福井仁愛学園発行）

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と宗教 (Human Beings and Religion)			担当教員	門脇　　健
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1112	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　全学共通科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

宗教という人間独自の現象を、動物との比較、言語や法そして貨幣という人間独自の制度との比較を通して考察します。

授業の到達目標

宗教という人間独自の現象を考察することによって、何気ない普段の日々の意義深さ、面白さに気づくことができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：人間と動物(「顔」について)
　事後学習：授業中に視聴したビデオの内容をまとめておくこと。(2時間)
第2回：人間と動物(想像力について　)
　事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：人間と動物の違いを調べて、まとめておくこと。(2時間)
第3回：私の発生
　事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：グラフの読み方について調べて、まとめておくこと。(2時間)
第4回：言葉の習得
　事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：グラフの読み方について調べて、まとめておくこと。(2時間)
第5回：言葉と私
　事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：ラカンの論点について調べて、まとめておくこと。(2時間)
第6回：贈与と交換
　事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業中に視聴したビデオの内容をまとめておくこと。(2時間)
第7回：視点の転換
　事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業中に視聴したビデオの内容をまとめておくこと。(2時間)
第8回：時間の逆流
　事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業中に視聴したビデオの内容をまとめておくこと。(2時間)
第9回：四苦八苦
　事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：四苦八苦について調べて、まとめておくこと。(2時間)

第10回：仏教とキリスト教
事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。（2時間）
事後学習：両宗教の差異について調べて、まとめておくこと。（2時間）
第11回：神話を生きる
事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。（2時間）
事後学習：神話概念について調べて、まとめておくこと。（2時間）
第12回：対象喪失
事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。（2時間）
事後学習：自分における相性喪失について考察し、まとめておくこと。（2時間）
第13回：喪の作業
事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。（2時間）
事後学習：喪の作業の具体例について調べて、まとめておくこと。（2時間）
第14回：儀礼と宗教
事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。（2時間）
事後学習：日常のなかの宗教的儀礼について調べて、まとめておくこと。（2時間）
第15回：まとめ
事前学習：ノート・配布資料等から前回の講義内容を確認し、まとめておくこと。（2時間）
事後学習：ノート・配布資料等を基に講義内容について、まとめておくこと。（4時間）

成 績 評 価 方 法

学期中に2、3回小レポートを実施します。
レポート試験（50%）、小レポート（30%）、平常点（20%）
平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します。

成 績 評 価 基 準

自分の関心がクリア表現できるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

門脇健 『哲学入門　死ぬのは僕らだ！』 角川SSC新書（参考図書・デジタルテキスト）

その他（受講上の注意）

講義の中で言及した文学作品や映画などに可能な限り接すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生命の倫理 (Bioethics)			担当教員	田代　俊孝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1122	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえるとともに、さまざまな生命倫理の問題について自分の考えを確立し、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

技術の進歩によって、従来不可能であった治療ができるようになっている。だが、それにともなって、われわれの従来の死生観・人間観を揺さぶるようなさまざまな倫理問題が発生している。本講義では、先端医療の現状を知ったうえで、こうした倫理問題に対する、日本を含む諸外国の考え方の違い、ガイドラインや政策の相違について知り、こうした問題についての現在までのさまざまな議論を紹介する。

授業の到達目標

・生命をめぐるさまざまな倫理問題について認識する。
・QOLやインフォームド・コンセント、など、生命倫理学の基礎的な用語を習得する。
・生命倫理問題について、国内外のさまざまな議論を知る。そして、それに対する自身の考え方を確立する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(過去の新聞記事を調べる。)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション～生命倫理といのちの教育～
　事前学習：高等学校の倫理などの時間で習った生命倫理の課題を思い出して整理してくる。(2時間)
　事後学習：なぜいのちが尊いのか、自分の考えをまとめる。(2時間)
第2回：生命倫理学(バイオエシックス)の成立
　事前学習：家族や親戚など身近な人から、実際に臓器移植や出生前診断、尊厳死などで悩んだことがないかについて聞き取りをしてくる。(2時間)
　事後学習：生命倫理学とは何かを、授業のノートと授業で配布した資料をもとに整理する。(2時間)
第3回：患者の自己決定権とインフォームド・コンセント
　事前学習：病院での診察を受けたときに、医師からどのように説明を受けたか。その経験をまとめておく。経験がない場合は家族に聞く。(2時間)
　事後学習：インフォームド・コンセントにおける自己決定と人権についての自分考えを整理しておく。(2時間)
第4回：ヒト・ゲノム解析と遺伝子操作の倫理(優生主義)　ビデオでヒト・ゲノムを見る(遺伝子検査のどこが問題かを討論する)
　事前学習：高校の生物で習った細胞や遺伝子のことを調べておく。(2時間)
　事後学習：遺伝子操作の倫理的問題点を整理しておく。(2時間)
第5回:遺伝子情の情報管理と差別(討論と発表)
　事前学習：遺伝情報が他人に知られたらどんなことが問題になるか考えておく。(2時間)
　事後学習：遺伝子診断の倫理的問題点を整理しておく。レポートにして提出する。(2時間)
第6回：生命の始まりに関する倫理問題1(生殖補助医療と人工妊娠中絶)海外の卵子バンクの実態をビデオで見る。
　事前学習：第三者の精子や卵子の利用、その売買についてどう考えるか。意見をまとめてくる。(2時間)
　事後学習：出生前診断について家族の意見を聞き、自分ならばどうするか、考えをまとめる。(2時間)

第７回：生命の始まりに関する倫理問題２（代理母、代理出産）（討論と発表）
事前学習：代理母・代理出産に関する新聞記事を集める。（２時間）
事後学習：授業中にもらった資料を基に様々なケースを整理し、代理母・代理出産における倫理的問題を整理しておく。レポートにして提出する。（２時間）
第８回：臓器移植の問題１～映像資料で現状を知る。（討論と発表）
事前学習：過去の脳死・臓器移植の新聞記事を集める。（２時間）
事後学習：自分の集めた資料、授業時にもらった資料を整理する。（２時間）
第９回：臓器移植の問題２～脳死と移植
事前学習：臓器移植に関する外国の事例について調べる。（２時間）
事後学習：日本人が外国で臓器移植をうけることについてどう思うか。文章にして提出する。（２時間）
第10回：臓器移植の問題３～改定臓器移植法について
事前学習：日本の臓器移植法の成立の経緯を調べる。（２時間）
事後学習：自分は脳死になった場合、臓器を提供するか。また、移植を受けないと助からない場合、移植を受けるかを考え、ドナーカードにサインするかしないか態度決定する。レポートにして提出する。（２時間）
第11回：生命の終わりに関する倫理問題１（治療停止）～終末期医療に関する厚労省の指針～
（厚労省の指針についての識者の討論のビデオを見る。）
事前学習：高齢者施設・療養型病院の実態を過去の新聞記事から調べる。（２時間）
事後学習：終末期の現状を整理する。（２時間）
第12回：生命の終わりに関する倫理問題２（尊厳死）（アメリカのナンシー・クルーザンのケースをビデオで見る。）
事前学習：安楽死・尊厳死に就いての過去の新聞記事を調べる。（２時間）
事後学習：尊厳死の倫理的問題を整理し、家族と話し合い、自分や家族の場合どうするか話し合う。（２時間）
第13回：生命の終わりに関する倫理問題３（積極的安楽死）～日本の判例とオランダのケース～（オランダの安楽死のドキュメントをビデオで見る）（討論と発表）
事前学習：過去の新聞記事から外国の安楽死・尊厳死に就いての実態を調べる。（２時間）
事後学習：外国のケースを参考に日本ではどうすべきかを整理し、自分の考えをレポートにして提出する。（２時間）
第14回：ホスピスとビハーラ（ビハーラ病院のドキュメントをビデオで観る）
事前学習：ホスピスやビハーラについて、過去の新聞記事から調べる。（２時間）
事後学習：ＱＯＬの考え方とホスピスやビハーラの現状を整理する。（２時間）

第15回：仏教の生命観
事前学習：前期で学習した「仏教の人間観」から仏教では生命や人間をどのように観ているか整理しておく。（２時間）。
事後学習：仏教による終末期の精神的サポートについて自分の考えをまとめてレポートにして提出する。（２時間）

成　績　評　価　方　法

授業内の５回の小レポート（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・生命をめぐるさまざまな倫理問題、およびその歴史的経緯について認識しているか。
・QOLやインフォームド・コンセント、滑りやすい坂、など、生命倫理学の基礎的な用語を習得しているか。
・生命倫理問題について、国内外のさまざまな議論を習得しているか。
・それぞれの課題に自分の考えが確立できたか。

テキスト、参考図書

テキストはとくに使用せず、適宜プリントを配布する。
参考図書・田代俊孝著『仏教とビハーラ運動－死生学入門－』京都・法藏館　1999年

その他（受講上の注意）

授業で指示した小レポートは必ず提出してください。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つものはその場で注意するが、注意によっても改まらない場合、当日欠席扱いとするので注意されたい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本国憲法 (The Japanese Constitution)			担当教員	早川　秋子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1121	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(日本国憲法)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

憲法の歴史を踏まえながら、憲法について判例を通して整理する。
平和主義については湾岸戦争以来の国際協調を軸として整理する。

授業の到達目標

立憲主義・法の支配の意味を理解し、憲法に関する基礎知識を修得する。
実生活において、権利意識を持って問題解決を図ることができる能力を育成する。
他者とのコミュニケーションが円滑に行える。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：憲法典の定義
　事前学習：授業前にテキストの1章を読み法についての理解を深めておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことがあれば確認しておくこと。(2時間)
第2回：日本国憲法成立の由来
　事前学習：テキスト8章「憲法の基本的事項とらえ方」歴史について確認しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を振り返り、テキストの該当箇所を見直しておくこと。権利の主体について身近な例を自分でも探してみよう。(2時間)
第3回：ポツダム宣言の示した新秩序実現
　事前学習：明治憲法の特色について、テキスト86頁を参考に整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を振り返り、テキストの該当箇所を見直しておくこと。(2時間)
第4回：戦争放棄── 集団的自衛権と自衛隊海外派遣
　事前学習：湾岸戦争以降の自衛隊の活動について、図書館やインターネット等も利用して理解しておくこと。(2時間)
　事後学習：平和を実現するために憲法はどうあるべきだろうか？この機会にしっかりと考えてみよう。(2時間)
第5回：象徴天皇と国事行為
　事前学習：天皇のあり方についてのあなたの考えをまとめておこう。(2時間)
　事後学習：特別な法律関係として分類されている天皇の行為についての法規定をまとめて整理しておくこと。(2時間)
第6回：基本的人権総論　新しい人権(プライバシー権)
　事前学習：テキスト96頁の該当箇所を読み、内容を確認しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直して内容を整理しておくこと。表現活動の自由に関する身近な例を自分でも探してみよう。(2時間)

第７回：基本的人権各論　表現の自由と公共の福祉・自主規制
事前学習：前回の授業で整理した事例の問題点を整理しておこう。個人の自由が他者や社会にどのような問題を引き起こしているだろうか？（２時間）
事後学習：授業内容を見直して内容を整理しておくこと。（２時間）
第８回：事例研究　靖国神社公式参拝の問題点
事前学習：政教分離に関する問題、靖国神社について知識を整理しておこう。（２時間）
事後学習：授業内容を整理して、今後どうすべきか、どうしたら問題解決へと向かえるか考えてみよう。（２時間）
第９回：国会中心立法・二院制（両院制）・衆議院の優越性
事前学習：統治機構に関する知識を整理しておこう。テキストは10章から確認しておくこと。（２時間）
事後学習：憲法条文を読み込んでみよう。分からない部分は書き出しておいて、質問できるようにしておこう。（２時間）
第10回：行政権内閣帰属の原則とその注意点
事前学習：内閣総理大臣の仕事を確認しておこう。多岐にわたる事柄をいかに処理していくべきだろうか、考えてみよう。（２時間）
事後学習：国民の民主主義を実現するための国会と内閣の連携について、しっかり整理しておこう。（２時間）
第11回：司法権の独立と司法権の制限
事前学習：裁判所の仕組みについて確認しておこう。（２時間）
事後学習：司法権の限界について、過去の講義も含めて復習しておこう。（２時間）
第12回：違憲審査制　違憲判決の具体的整理
事前学習：法の下の平等について、どんな問題が起こっているか整理しておこう。（２時間）
事後学習：違憲審査権の効果について、授業で扱った判例以外も調べてみよう。（２時間）
第13回：事例研究　在日外国人に対する参政権の付与は必要か（ディスカッション）
事前学習：次回の授業では、外国人参政権の賛否について小グループでのディスカッションをするため、自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：友人たちの自分とは違う見方を振り返り、再度考えてみよう。
第14回：地方自治の本旨
事前学習：地方公共団体に求められる活動や役割について整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容を元に地域に必要なルール等について整理してみよう。（２時間）
第15回：憲法改正
事前学習：今、議論となっている改正問題について整理しておくこと。（２時間）
事後学習：改正について、自分の視点で問い直してみよう。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験60％　小レポート30％　平常点10％（平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します）

成　績　評　価　基　準

日常生活において起こる様々な事柄やニュースを法的に理解し、自分の言葉で他者に適切に説明することができるか。

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

田中敦子・大野正博編　『法学入門』　成文堂　2018年

そ　の　他（受　講　上　の　注　意）

積極的に参加する意識をもって受講して下さい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活と環境A (Life Science and the Environment A)			担当教員	サンドロヴィッチ　ティムール
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2131	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

この授業では、「ウクライナおよび日本の原発事故」、「現代ウクライナが抱える諸問題」、「国際比較の視点から見た現代日本」という三つのテーマを軸にしながら、日々おきているニュースの流れを追う。日本社会のイメージ変容にふれるとともに、ウクライナと日本社会の諸課題を比較しながら検討することによってグローバルな視点に基づいた考え方の特徴を明らかにする。

授業の到達目標

・歴史的な観点で考えることによって、国際関係についての理解を深める。
・社説・論説など、新聞によって異なる見方や主張をしているケースは多い。読み比べ、ニュースを多角的に読むことができるようになる。
・客観的なものの見方ができる。一方で、さまざまな情報を入手し自分の考え方を確立する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、授業の進め方。時の話題を取り上げ、歴史的な見方を考える
　事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第2回：1986年のチェルノブイリ原発事故およびメディアの報道
　事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第3回：2011年の福島第一原発事故およびメディア報道
　事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第4回：原発事故の一般市民への影響
　事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第５回：チェルノブイリおよびフクシマの未来
事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第６回：現代ウクライナ社会の概要
事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第７回：ソ連崩壊とウクライナ共和国
事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第８回：ウクライナとEU加盟諸国との関係
事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第９回：現代ウクライナが直面する領土問題
事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第10回：異文化理解とその難しさ
事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第11回：日本人の自画像の系譜
事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第12回：国際比較の視点から見る日本：「日本人論」を乗り越える
事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第13回：21世紀日本の諸課題（１）
事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第14回：21世紀日本の諸課題（２）
事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第15回：まとめ、時事問題から考える歴史と未来
事前学習：授業計画でそれぞれの回のテーマを確認し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容および配布された資料についての見直しや、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、質問用紙等の状況を総合的に判断します。）

成 績 評 価 基 準

1．国際関係の諸課題についての見解を述べることができるか。（定期試験）
2．様々なニュースを多角的に読み取ることができるか。（定期試験、コミュニケーション・カード）
3．学術的な情報にアクセスしながら各自の問題意識を深め、自身の考察を論理的に記述できるようになっているか。（コミュニケーション・カード）

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

毎回資料を配布する
＊参考書
井上俊・永井良和編著、『今どきコトバ事情』ミネルヴァ書房,2016.
セルゲイ・パスケービッチ/デニス・ビセネブスキー（後藤隆雄訳）『チェルノブイリ、現実の世界』本の泉社, 2013.
河田昌東『チェルノブイリと福島』緑風出版, 2011.
エレナ・フィラトワ（池田紫訳）『ゴーストタウン チェルノブイリを走る』集英社, 2011.
尾内隆之、摩佐志編『科学者に委ねてはいけないこと 科学から「生」をとりもどす』岩波書店, 2013.
東浩紀編『チェルノブイリ・ダークツーリズム・ガイド 思想地図β vo.4－1』株式会社ゲンロン, 2013.
東浩紀編『福島第一原発観光地化計画 思想地図β vo.4－2』株式会社ゲンロン, 2013.

そ の 他（受 講 上 の 注 意）

日常生活の中で新聞を読み、テレビやラジオ、ネットなどメディアに接し、ニュースに敏感になるよう努力する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツと健康 (Sports and Health)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2132	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(体育)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

健康や体力を管理する上で必要な基本的な知識や方法について学習する。

授業の到達目標

健康を維持、増進するための手段・方法を習得する。
生涯にわたって自主的に健康・体力づくりを実践できる能力や態度を獲得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：健康の捉え方と獲得するためのポイント
　事前学習：テキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。(2時間)
第2回：生活習慣病と関連する要因
　事前学習：テキストの第2章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。(2時間)
第3回：体力とは何か
　事前学習：テキストの第3章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。(2時間)
第4回：運動のしくみ
　事前学習：テキストの第4章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。(2時間)
第5回：トレーニング理論とトレーニング方法
　事前学習：テキストの第5,6章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。(2時間)
第6回：健康を維持・増進するための運動、ダイエット計画
　事前学習：テキストの第7章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。(2時間)
第7回：ダイエット計画
　事前学習：テキストの第8章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。(2時間)
第8回：運動と水分補給、熱中症
　事前学習：テキストの第9章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。(2時間)
第9回：ウォーミングアップとクーリングダウン
　事前学習：テキストの第10章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。(2時間)

第10回：応急手当
事前学習：テキストの第11章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第11回：スポーツと心理のかかわり
事前学習：テキストの第12章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第12回：今日の学校保健の問題
事前学習：テキストの第13章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第13回：欲求、ストレスと疲労への対処法
事前学習：テキストの第14章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第14回：地域とスポーツのかかわり、社会におけるスポーツの役割
事前学習：テキストの第15,16章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第15回：まとめ
事後学修：定期試験に向け、テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（4時間）
第16回：定期試験
授業前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。
授業後は、ノートや配布資料を見直して復習しておく。

成 績 評 価 方 法

定期試験（70%）、レポート（30%）

成 績 評 価 基 準

健康を維持、増進するための手段・方法を理解できているか。
生涯にわたって自主的に健康・体力づくりを実践できる能力や態度が獲得できているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：出村慎一監修、「健康・スポーツ科学講義 第2版」、杏林書院 2012

その他（受講上の注意）

遅刻、欠席、および早退は減点の対象とします。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツA(健康栄養学科) (Sports A)			担当教員	乾　　典子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2133	1単位	1年前期	実技	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

体力の向上、仲間づくりを通した生涯スポーツへの展開。ダンス実技と主体とし、正しいストレッチ方法やリズム感の育成を体験しながら、柔軟な体と頭を作る。

授業の到達目標

青年期におけるスポーツ体験は、彼らの体力づくりや健康の指示増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を養う。将来人への健康維持のための食・またはスポーツ力向上のための食を担当する立場となる学生はスポーツを体験する必要がある。スポーツAでは個人スポーツ及び集団スポーツの実践を通して初歩的な技術から段階的に習得するとともに、健康とダンスの関係の知識を深めながら、踊る楽しみを感じられる体験を学習する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他(ダンスを教え合う)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：頭と体ほぐしのための準備運動(アップ)体験(実技)
　　事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく(0.5時間)
　　事後学習：動かした体のクールダウンのため、習った柔軟体操をしておく(0.5時間)
第2回：①ダンスのためのストレッチ方の体験・習得 リラックスタイム(実技)
　　事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく(0.5時間)
　　事後学習：学習したストレッチを復習しておく(0.5時間)
第3回：①を実施後ステップレッスン　簡単なダンスを体験［1］(実技)
　　事前学習：学習したストレッチを実施しておく(0.5時間)
　　事後学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間)
第4回：①とステップレッスン 簡単なダンスを体験［2］(実技　その他)
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間)
　　事後学習：学習したストレッチを実施しておく(0.5時間) 習ったダンスを復習しておく(0.5時間)
第5回：①とダンスの振り覚え　1　その練習(実技　その他)
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間)
　　事後学習：学習したストレッチを実施し、習ったダンスを復習しておく(0.5時間)
第6回：①とダンスの振り覚え　2　その練習(実技　その他)
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間)
　　事後学習：学習したストレッチを実施し、習ったダンスを復習しておく(0.5時間)
第7回：①とダンスの振り覚え　3　その練習(実技　その他)
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく(0.5時間)
　　事後学習：ストレッチを実施し、習ったダンスを復習しておく(0.5時間)

第８回：①とダンスの振り覚え　4　その練習（実技　その他）
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、ダンスを復習しておく（0.5時間）
第９回：①とダンスの振り覚え　5　その練習（実技　その他）
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、ダンスを復習しておく（0.5時間）
第10回：①とダンスの振り覚え　6　その練習（実技　その他）
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、ダンスを復習しておく（0.5時間）
第11回：①とダンスの練習　（発表）
　　事前学習：発表を前にダンスを練習しておく（0.5時間）
　　事後学習：自分の発表動画を見て自己評価をする（0.5時間）
第12回：①とダンス個人発表　グループ発表のためのフォーメーション創作方法の説明　（実技　グループワーク）
　　事前学習：自分の発表動画を見て自己評価をする（0.5時間）
　　事後学習：グループワークでの内容を確認する（0.5時間）
第13回：①とフォーメーションのグループ別練習（実技　グループワーク）
　　事前学習：ダンスの動画を見て、フォーメーションの例題を探る（0.5時間）
　　事後学習：グループワークでの内容を確認する（0.5時間）
第14回：①とフォーメーションのグループ別練習（実技　グループワーク）
　　事前学習：ダンスの動画を見て、フォーメーションの例題を決める（0.5時間）
　　事後学習：創作作品を動画に撮影し、手直し部分など確認する（0.5時間）
第15回：グループ別練習　発表・鑑賞（発表）
　　事前学習：グループの創作動画を見てダンスの復習をしておく（0.5時間）
　　事後学習：ダンスのグループ発表動画を見て自己評価する（0.5時間）

成　績　評　価　方　法

実技試験（70%）　　平常点（30%）　　平常点は授業への参加状況、取り組み、態度等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

青年期におけるスポーツ体力づくりや健康の指示増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を養うことの重要性を理解できたか。
個人スポーツ及び集団スポーツの実践を通して初歩的な技術から段階的に習得するとともに、健康とダンスの関係の知識を深めながら、踊る楽しみを理解することができたか。

テキスト、参考図書

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

その他（受講上の注意）

必ず体操服で受講すること。シューズも準備すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツA(子ども教育学科) (Sports A)			担当教員	野田　政弘、山村　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2133	1単位	1年前期	実技	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

青年期におけるスポーツ体験は、体力づくりや健康の維持増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を培う。健康の維持、体力の向上を図るとともに仲間づくりをとおした生涯スポーツへの展開を、バスケットボールをとおして行なう。

授業の到達目標

バスケットボールの技術、ルールを理解する。ボールの扱い、ボディコントロール、シュート、ドリブル、パスなどの個人技能を習得し、フォーメーションプレイがスムーズにできる。チームメイトとコミュニケーションがとれる。コート整備を行い適切に用具管理ができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス(授業内容の説明、バスケットボールの歴史、ルール等)
　事前学習：大学までに受講したバスケットボールの授業を振り返っておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)
第2回：個人技の習得(ボディーコントロール、フットワーク/ボールコントロール、パス・ドリブル・シュート)、1対1　2対2/、個人技能評価(ゴール下ショット、ジグザグドリブル)　①
　事前学習：個人技の構造について整理し理解を深めておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容を整理して個人技をイメージして体の動きを確認しておくこと。(2時間)
第3回：個人技の習得(ボディーコントロール、フットワーク/ボールコントロール、パス・ドリブル・シュート)、1対1　2対2/　②
　事前学習：個人技の構造について整理し理解を深めておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容を整理して個人技をイメージして体の動きを確認しておくこと。(2時間)。
第4回：個人技の習得(ボディーコントロール、フットワーク/ボールコントロール、パス・ドリブル・シュート)、1対1　2対2/　③
　事前学習：個人技の構造について整理し理解を深めておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容を整理して個人技をイメージして体の動きを確認しておくこと。(2時間)
第5回：基本技/オフェンス　コンビネーションプレー(パス＆ゴー・スクリーンプレー)/3対3　基本的フォーメーション/個人技能評価(ゴール下ショット、ジグザグドリブル)/体力・技能等メンバー構成を考慮した5分間ゲーム①
　事前学習：コンビネーションプレー(3対3)について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容を整理してコンビネーションプレーをイメージして体の動きを確認しておくこと。(2時間)

第６回：基本技/ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）/ ３対３　基本的フォーメーション/体力・技能等メンバー構成を考慮した５分間ゲーム ②
事前学習：コンビネーションプレー（３対３）について調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容を整理してコンビネーションプレーをイメージして体の動きを確認しておくこと。（２時間）
第７回：基本技/ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）/ ３対３　基本的フォーメーション/体力・技能等メンバー構成を考慮した５分間ゲーム ③
事前学習：コンビネーションプレー（３対３）について調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容を整理してコンビネーションプレーをイメージして体の動きを確認しておくこと。（２時間）
第８回：基本技/ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）/ ３対３　基本的フォーメーション/体力・技能等メンバー構成を考慮した５分間ゲーム ④
事前学習：コンビネーションプレー（３対３）について調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容を整理してコンビネーションプレーをイメージして体の動きを確認しておくこと。（２時間）
第９回：基本技/ オフェンス　コンビネーションプレー（パス＆ゴー・スクリーンプレー）/ ３対３　基本的フォーメーション/個人技能評価（ゴール下ショット、ジグザグドリブル）/体力・技能等メンバー構成を考慮した５分間ゲーム ⑤
事前学習：コンビネーションプレー（３対３）について調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容を整理してコンビネーションプレーをイメージして体の動きを確認しておくこと。（２時間）
第10回：基本技/ ５対５ /全面での攻防（５分間ゲーム）/ 作戦・戦略・審判法について学習する　①
事前学習：基本的な攻防の戦略、審判法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：ゲームの内容を振り返り課題を整理しておくこと。（２時間）
第11回：基本技/ ５対５ /全面での攻防（５分間ゲーム）/ 作戦・戦略・審判法について学習する　②
事前学習：基本的な攻防の戦略、審判法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：ゲームの内容を振り返り課題を整理しておくこと。（２時間）
第12回：基本技/ ５対５ /全面での攻防（５分間ゲーム）/ 作戦・戦略・審判法について学習する　③
事前学習：基本的な攻防の戦略、審判法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：ゲームの内容を振り返り課題を整理しておくこと。（２時間）
第13回：基本技/ ５対５ /全面での攻防（５分間ゲーム）/ 作戦・戦略・審判法について学習する　④
事前学習：基本的な攻防の戦略、審判法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：ゲームの内容を振り返り課題を整理しておくこと。（２時間）
第14回：基本技/ ５対５ /全面での攻防（５分間ゲーム）/ 作戦・戦略・審判法について学習する　⑤
事前学習：基本的な攻防の戦略、審判法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：ゲームの内容を振り返り課題を整理しておくこと。（２時間）
第15回：ゲームとまとめ/個人技能評価（ゴール下ショット、ジグザグドリブル）
事前学習：基本的な攻防の戦略、審判法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容全体を振り返り課題を整理してレポートにまとめておくこと。（２時間）
新聞やテレビ等のメディアでバスケットボールが取り上げられることも多いので、常に関心をもって積極的に情報を得るようにする。

成　績　評　価　方　法

技術の習得（70%）、平常点（30%）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

基本的な技術を習得できている。ルールを正しく理解できている。授業に欠席・遅刻・早退することがなく、積極的な態度で取り組んでいる。他者とコミュニケーションがとれている。用具、コートの管理が適切にできている。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布、参考図書を紹介する。

その他（受講上の注意）

原則として全出席を求め、早退・遅刻は認めない。スポーツウエア、屋内用の運動シューズを着用すること。熱中症予防のため水分補給に注意すること。原則として見学の場合もスポーツウエアを着用のこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅰa (English Ⅰa)			担当教員	池田　有花、R ダイクス、フッド 晴美、 M ハウカ、吉田久美子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2141	1単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(外国語コミュニケーション)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

Following a 'Warm-up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading, writing, and presentation exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Upon finishing the course, students will be able to express themselves freely in general conversation through exchanging personal information and talking about their daily lives. Additionally, students will be able to listen for key words and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short
letters, descriptions, and articles on a variety of subjects.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Class Introduction(ディスカッション)
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第2回：Unit 1 - Jobs ①(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第3回：Unit 1 - Jobs ②(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第4回：Unit 2 - Daily activities ①(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第5回：Unit 2 - Daily activities ②(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第6回：Unit 3 - At the moment ①(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第7回：Unit 3 - At the moment ②(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)

第８回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第９回：Unit ４ - Feelings ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第10回：Unit ４ - Feelings ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第11回：Unit ５ - On the weekend ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第12回：Unit ５ - On the weekend ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第13回：Unit ６ - Downtown ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第14回：Unit ６ - Downtown ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第15回：Cumulative Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第16回：Examination
Before starting each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Talk' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the writing assignments suggested in the textbook as well as other relevant assignments.
Furthermore, students will be tasked with self－study activities in preparation for the TOEIC through the use of NetAcademy２ software.

成　績　評　価　方　法

Outside-class Activities (i.e., 'Grammar Talk' pages & other homework assignments, NetAcademy２ usage, etc.) - 20%【授業外課題 20%（[例] 文法参照ページ & 宿題・Net Academy２（オンライン学習）・他】
Proactive In-class Participation - 20% 【積極的な授業参加度 20%】
Examination - 60% 【試験 60%】

成　績　評　価　基　準

Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated, as well the ability to read and comprehend short, written passages.

テキスト、参考図書

Stempleski, Susan. Stretch １（First Edition）. 2014. Oxford University Press ISBN 978-0-19-460312-6.
TEXT加藤 『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017年

その他（受講上の注意）

Prior to the beginning of the semester, a mandatory general English pre-evaluation test will be administered.【入学時にプレースメントテストを実施する】Also, during the semester, a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory (E-303) for the purpose of familiarizing students with the use of NetAcademy２ software.

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅰb (English Ⅰb)			担当教員	池田　有花、R ダイクス、フッド 晴美、 M ハウカ、吉田久美子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2142	1単位	1年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(外国語コミュニケーション)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

Following a 'Warm-up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading, writing, and presentation exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Upon finishing the course, students will be able to express themselves freely in general conversation through exchanging personal information and talking about their daily lives. Additionally, students will be able to listen for key words and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short
letters, descriptions, and articles on a variety of subjects.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Class Introduction(ディスカッション)
　事前学習：前期の学習を振り返っておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第2回：Unit 7 - People we admire ①(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第3回：Unit 7 - People we admire ②(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第4回：Unit 8 - At a supermarket ①(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第5回：Unit 8 - At a supermarket ②(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第6回：Unit 9 - Health problems ①(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第7回：Unit 9 - Health problems ②(ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)

第 8 回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第 9 回：Unit 10 - Cities ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第10回：Unit 10 - Cities ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第11回：Unit 11 - Music ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第12回：Unit 11 - Music ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第13回：Unit 12 - Travel plans ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第14回：Unit 12 - Travel plans ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第15回：Cumulative Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第16回：Examination
Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Talk' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the writing assignments suggested in the textbook as well as other relevant assignments.
Furthermore, students will be tasked with self－study activities in preparation for the TOEIC through the use of NetAcademy 2 software.

成 績 評 価 方 法

Outside-class Activities (i.e., 'Grammar Talk' pages & other homework assignments, NetAcademy 2 usage, etc.) - 20%【授業外課題 20%（[例] 文法参照ページ & 宿題・Net Academy 2（オンライン学習）・他】
Proactive In-class Participation - 20% 【積極的な授業参加度 20%】
Examination - 60% 【試験 60%】

成 績 評 価 基 準

Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated, as well the ability to read and comprehend short, written passages.

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Stempleski, Susan. Stretch 1（First Edition）. 2014. Oxford University Press ISBN 978-0-19-460312-6.
TEXT加藤 『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017年

その他（受講上の注意）

During the semester, a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory（E－303）for the purpose of familiarizing students with the use of NetAcademy 2 software. An additional mandatory general English post-evaluation test to monitor achievement will be given at the end of the semester.【TOEIC IPテスト（アチーブメントテスト）受験が単位取得条件である】

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語入門a (Introduction to French a)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2143	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

フランス語の初級文法・日常表現・生活と文化について、多様なメディアを使って総合的に学習します。

授業の到達目標

1）できるだけ早い段階で、まず臆することなくフランス語を発音することができる。
2）初級文法を学び簡単な会話文を読むことができる。
1年間の学習で「フランス語技能検定試験（仏検）」の5級に合格できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：フランス語について、ABCの発音、あいさつ（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキストの前書を読み、p 1 Introductionの地図問題をやっておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキストp 6 CDを聞いてアルファベットの発音練習をしておくこと。（0.5時間）
第2回：1課 綴字の読み方・自己紹介（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト1課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキストp 2 短母音字についてまとめておくこと。p 7 の練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第3回：1課 元気かどうか聞く（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：CDでDialogue1.2を聞き発音練習をしておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキストp 2 複母音字についてまとめておくこと。（0.5時間）
第4回：2課 職業を言う（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト2課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキストp 2 鼻母音についてまとめておくこと。p 11の練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第5回：2課 自己紹介をする（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：Dialogueを訳したあとCDを聞き発音練習をしておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキストp 2 子音字についてまとめておくこと。（0.5時間）
第6回：3課 住んでいるところを言う（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト3課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：?tre動詞の否定形と－er動詞の活用についてまとめておき発音して覚えておくこと。p15練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第7回：3課 国籍・話せる言語を言う（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：Dialogueを訳したあとCDを聞き発音練習をしておくこと。（0.5時間）
事後学習：名前・国籍・話せる言語のフレーズを使い自己紹介文を書いておくこと。（0.5時間）

第８回：テキスト４課 身の回りのもの・～を持っていますか？（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト４課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：avoir動詞の活用をまとめておき、発音して覚えておくこと。テキストｐ19の練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第９回：４課 兄弟はいますか？何才ですか？（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：Dialogueを訳したあとCDを聞き発音練習をしておくこと。（0.5時間）
事後学習：自分自身について何才か、兄弟姉妹はいるかについて作文しておくこと。（0.5時間）
第10回：５課 この人は誰ですか？（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト５課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキストｐ23の練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第11回：５課 この人は誰ですか？（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：Dialogueを訳したあとCDを聞き発音練習をしておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキストｐ22好きな人を書き、その人を５つの文で紹介できるように作文しておくこと。（0.5時間）
第12回：６課 これはなんですか？（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト６課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキストｐ27の練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第13回：６課 これは何ですか？（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：Dialogueを訳したあとCDを聞き発音練習をしておくこと。（0.5時間）
事後学習：数字の１から100までをノートに書いて覚えること。（0.5時間）
第14回：７課 私は～が好きです（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト７課の単語調べをしておくこと（0.5時間）
事後学習：テキストｐ31の練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第15回：総復習（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト１課～７課の内容を整理し、質問事項をまとめておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業の中で取り上げた最重要項目についてよく復習しておくこと。（0.5時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験（50％）平常点（50％）（平常点は、授業への参加状況・受講態度・課題があった場合の提出状況等総合して判断します。

成績評価基準

前期の段階では、１）テキストを見て簡単なフランス文が音読できるか。
２）フランス語の動詞の活用と初歩の文法を理解しフランス語に慣れているか。

テキスト、参考図書

ニコラ・ガイヤール、加藤豊子著『新装カフェ・フランセ』朝日出版社 2016
『ベーシッククラウン仏和和仏辞典』三省堂

その他（受講上の注意）

仏和辞書を買い予習すること。テキストと辞書は毎回持ってくること。（１回目の授業で辞書について話します。）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語入門b (Introduction to French b)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2144	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

前期に引き続きフランス語の初級文法・日常表現・生活と文化について多様なメディアを使って総合的に学習します。

授業の到達目標

前期に引き続き発音と文法の基礎を学習しつつ、簡単な文を読み、書き、聞き、話す総合的運用能力を身につけること。「入門b」終了時点で「フランス語技能検定試験(仏検)の5級に合格できるようになること。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：8課 AはBより～です。(毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。)
　事前学習：テキスト8課の単語調べをしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：テキストp39の練習問題を解いておくこと。(0.5時間)
第2回：8課 何を着ていますか？良い天気です。(毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。)
　事前学習：Dialogueを訳し、CDを聞いて発音練習をしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：テキストp38比較の文を作っておくこと。天気について言えるようにしておくこと。(0.5時間)
第3回：9課 私はサッカーをします。(毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。)
　事前学習：テキスト9課の単語調べをしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：動詞prendreとfaireの活用をまとめ暗記しておくこと。テキストp43練習問題を解いておくこと。(0.5時間)
第4回：9課 朝食には～を食べます。(毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。)
　事前学習：Dialogueを訳し、CDを聞いて発音練習をしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：スポーツはするか、朝食に何を食べるかについて作文しておくこと。(0.5時間)
第5回：10課 ～へ行きましょう。(毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。)
　事前学習：テキスト10課の単語調べをしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：動詞aller venir vouloir pouvoirの活用をまとめておくこと。テキストp47の練習問題を解いておくこと。(0.5時間)
第6回：10課 どのくらい時間がかかりますか？(毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。)
　事前学習：Dialogueを訳し、CDを聞いて発音練習をしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：曜日についてまとめ、CDを聞き、発音して暗記しておくこと。(0.5時間)

第７回：11課 私は～時におきます（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト11課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：動詞se coucherの活用をまとめておくこと。テキストｐ51の練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第８回：11課 ～時から～時まで授業があります。（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：Dialogueを訳し、CDを聞いて発音練習をしておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキストp50　マリとドニの一日について作文しておくこと。（0.5時間）
第９回：12課 彼女を知っていますか？（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト12課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキストｐ55の練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第10回：12課 アルバイトはしていますか？（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：Dialogueを訳し、CDを聞いて発音練習をしておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキストp53　activit?の問題を解いておくこと（0.5時間）

第11回：13課 食事を注文する（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト13課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：動詞avoirの複合過去の活用をまとめておくこと。テキストｐ59の練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第12回：13課 おいしかったです（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：Dialogueを訳し、CDを聞いて発音練習をしておくこと。（0.5時間）
事後学習：半過去についてまとめておくこと。テキストP58activit? 3 の料理の感想を書いておくこと（0.5時間）
第13回：14課 昨日何をしましたか？（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト14課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：動詞aller venirの複合過去の活用をまとめておくこと。テキストｐ63練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第14回：14課 ～へ行きました（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：Dialogueを訳し、CDを聞いて発音練習をしておくこと。（0.5時間）
事後学習：昨日したことを作文しておくこと。（0.5時間）
第15回：メールを送って下さい（毎回授業の最初にペアワークで役に分かれてDialogueを発音する。）
事前学習：テキスト15課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：命令形と近接未来についてまとめておくこと。（0.5時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）平常点（50％）（平常点は、授業への出席状況・受講態度・課題があった場合の提出状況など総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

1）テキストを見て簡単なフランス文が音読できるか。
2）フランス語の動詞の活用と初歩の文法を理解しフランス語に慣れているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

ニコラ・ガイヤール、加藤豊子著 『新装カフェ・フランセ』 朝日出版社　2016
『ベーシッククラウン仏和和仏辞典』三省堂

その他（受講上の注意）

辞書は毎回持ってくること

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語入門a (Introduction to German a)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2145	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

ドイツ語の発音と単語、文の構造を学ぶ。

授業の到達目標

ドイツ語のアルファベートの発音、単語の読み方、規則的な動詞変化(現在形)、定冠詞・不定冠詞の格変化を習得し、簡単なドイツ語のあいさつや、ドイツ語の単文をある程度読み、書き、発音することができるようになることを目的とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(ペアワーク)

授業の計画及び授業外の学習方法

毎回プリントによる練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

第1回：Lektion 1　ドイツ語という言語の説明・アルファベート(発音ペアワーク10分)
　事前学習：テキストのアルファベートのページを読み、CDを聞いて音読しておくこと(0.5時間)
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと(0.5時間)

第2回：Lektion 1　いろいろな単語を発音してみよう(発音ペアワーク10分)
　事前学習：テキストの単語の発音のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと(0.5時間)
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと(0.5時間)

第3回：Lektion 1　単語と簡単なあいさつをしてみよう。
　事前学習：テキストのあいさつのページを読み、CDを聞いて音読しておくこと(0.5時間)
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと(0.5時間)

第4回：小テスト1　およびこれまでの復習
　事前学習：小テストにむけてこれまでの復習をしておくこと(0.5時間)
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと(0.5時間)

第5回：Lektion 2　動詞の人称変化・定動詞第2位の法則
　事前学習：動詞の人称変化のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと(0.5時間)
　事後学習：返却された小テストの間違った箇所のやり直しを行い、宿題プリントを完成させておくこと(0.5時間)

第6回：Lektion 4　動詞の不規則な人称変化
　事前学習：動詞の不規則な人称変化のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと(0.5時間)
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと(0.5時間)

第7回：Lektion 3　名詞の性
　事前学習：名詞の性のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと(0.5時間)
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと(0.5時間)

第８回：Lektion３　定冠詞の格変化
　　事前学習：定冠詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第９回：Lektion３　不定冠詞の格変化
　　事前学習：不定冠詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：小テストにむけてこれまでの復習をしておくこと。宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第10回：小テスト２　およびこれまでの復習
　　事前学習：小テストにむけてこれまでの復習をしておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第11回：映像によってドイツ文化を知る１
　　事前学習：ケストナー『二人のロッテ』のストーリーを調べておくこと（0.5時間）
　　事後学習：返却された小テストの間違った箇所のやり直しを行い、宿題プリントを完成させておくこと。映画の聞き取れた単語をノートし、映画に関する質問を考えておくこと（0.5時間）
第12回：Lektion４　名詞の複数形
　　事前学習：名詞の複数形のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第13回：Lektion４　複数名詞の定冠詞・不定冠詞変化
　　事前学習：複数名詞の冠詞変化のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第14回：映像資料によってドイツ文化を知る２
　　事前学習：『美女と野獣』（実写、アニメどちらでも）のストーリーを調べておくこと（２時間）
　　事後学習：映画の聞き取れた単語をノートし、映画に関する質問を考えておくこと（0.5時間）
第15回：これまでのまとめ
　　事前学習：前期の学習の復習を行い、わからないところは質問を考えておくこと（0.5時間）
　　事後学習：質問への回答を用いて、定期試験に備え前期の総復習をしておくこと（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

・ドイツ語の発音の規則を理解し、知らない単語にも応用することができるか。
・動詞変化の基本的規則を理解し、自分で動詞を変化させることができるか。
・英語にはない動詞の「性および格」について理解し、冠詞変化規則を自分で応用することができるか。

テキスト、参考図書

（１）西村祐子　ルドルフ・ペトリック　『新・行ってみたいなドイツ』　郁文堂　2013年
（２）在間進　『新キャンパス独和辞典』　郁文堂 2011年
初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明する。

その他（受講上の注意）

語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語入門b (Introduction to German b)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2146	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

ドイツ語入門aにつづいて、ドイツ語のやや高次な初級文法について学ぶ。

授業の到達目標

ドイツ語の定冠詞・不定冠詞類の格変化、前置詞、助動詞を習得し、英語とは異なるドイツ語独自の「ワク構造」について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（ペアワーク）

授業の計画及び授業外の学習方法

毎回プリントによる練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は、必ず復習しておくこと。

第1回：ドイツ語Ⅰaの復習
　事前学習：ドイツ語Ⅰaで学んだ総復習をしておくこと（0.5時間）
　事後学習：授業で用いた復習プリントの間違い直しをしておくこと（0.5時間）
第2回：Lektion 5　定冠詞類・不定冠詞類1（ペアワーク）
　事前学習：テキストの定冠詞類のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第3回：Lektion 5　定冠詞類・不定冠詞類2（ペアワーク）
　事前学習：テキストの不定冠詞類のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第4回：Lektion 3　人称代名詞
　事前学習：テキストの人称代名詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第5回：小テスト1
　事前学習：小テストにむけてこれまでの復習をしておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第6回：Lektion 6　前置詞1
　事前学習：テキストの3格、4格支配の前置詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：返却された小テストの間違い直しをし、宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第7回：Lektion 6　前置詞2
　事前学習：テキストの3・4格支配の前置詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第8回：Lektion 6　前置詞3
　事前学習：テキストの前置詞の縮約形・動詞とペアで用いる前置詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）

第９回：Lektion７　話法の助動詞とワク構造
　　事前学習：テキストの話法の助動詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第10回：小テスト２
　　事前学習：小テストにむけてこれまでの復習をしておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第11回：Lektion10　動詞の３基本形と過去形
　　事前学習：テキストの動詞の過去形のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　　事後学習：返却された小テストの間違い直しをし、宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第12回：Lektion11　現在完了形とワク構造１
　　事前学習：テキストのhabenを用いる現在完了形のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第13回：Lektion11　現在完了形とワク構造２
　　事前学習：テキストのseinを用いる現在完了形のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第14回：小テスト３
　　事前学習：小テストにむけてこれまでの復習をしておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第15回：これまでのまとめ
　　事前学習：後期で扱ったテキスト部分、プリントを見直し、質問を考えておくこと。（0.5時間）
　　事後学習：返却された小テストの間違い直しをし、提起試験に備えること（0.5時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

・冠詞類、動詞の不規則変化、前置詞、話法の助動詞、過去形について理解し、ある程度応用できるか。

テキスト、参考図書

（１）西村祐子　ルドルフ・ペトリック　『新・行ってみたいなドイツ』　郁文堂　2013年
（２）在間　進　『エクセル独和辞典』　郁文堂　2011年
初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。

その他（受講上の注意）

語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語入門a (Introduction to Chinese a)			担当教員	永井　崇弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2147	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

中国語圏における国際的理解を深めるために、その基礎となる入門レベルの中国語を習得します。

授業の到達目標

中国語の発音表記であるピンインの習得を中心とします。ピンインを正確に発音したり、中国語を聴いてピンインで表記できるようにします。また同時に中国語コミュニケーションで必要となる初歩的な基礎単語、基礎文法もあわせて学びます。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他（受講者自身が主体的に発言・発表を行う）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業概要・評価法説明、発音（単母音、声調）の習得（受講者は反復練習と発表）
事前学習：単母音と声調部分の説明を読み、CDを聞きながら発音練習し、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：授業内容をまとめる。練習1～練習3を解答し、レポート用紙に記入。（0.5時間）
第2回：第1回の復習と発音（子音）の習得（受講者は反復練習と発表）
事前学習：子音部分の説明を読み、CDを聞きながら発音練習、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：授業内容をまとめる。練習4～練習5を解答し、レポート用紙に記入。（0.5時間）
第3回：第2回の復習と発音（複母音、鼻母音）の習得（受講者は反復練習と発表）
事前学習：複母音、鼻母音部分の説明を読み、CDを聞きながら発音練習し、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：授業内容をまとる。練習6～練習9を解答し、レポート用紙に記入。（0.5時間）
第4回：第3回の復習と発音（軽声、変調、アール化）の習得（受講者は反復練習と発表）
事前学習：軽声、変調、アール化部分の説明を読む。CDを聞きながら発音練習し、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：授業内容をまとめ、練習10～練習12を解答し、レポート用紙に記入。（0.5時間）
第5回：発音の総復習と「呼称」、「挨拶」の習得（ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】）
事前学習：自己の苦手な音を整理し、呼び方・挨拶部分のCDを聞いて発音練習し疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：補充問題の練習問題（発音）を解答する。苦手な発音を把握しておく。（0.5時間）
第6回：文法（人称代名詞、動詞「是」、助詞「?」、副詞「也」、「?」）の習得（受講者は例文の発音発表）
事前学習：キーポイント1の説明を読み、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：キーポイント1の例文と単語を発音しながら覚える。（0.5時間）
第7回：自己紹介に関する会話文の習得（ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】）
事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。（0.5時間）
事後学習：授業での会話文を繰り返し発話する。トレーニング1、リスニング1、練習問題1を解答（0.5時間）

第８回：文法（指示代詞、「??」、否定詞「不」、疑問詞「什?」、助詞「的」）の習得（受講者は例文の発音発表）
事前学習：キーポイント２の説明を読み、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：キーポイント２の例文と単語を発音しながら覚える。（0.5時間）
第９回：物の詳細をたずねる会話文の習得（ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】）
事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。（0.5時間）
事後学習：授業での会話文を繰り返し発話する。トレーニング２、リスニング２、練習問題２を解答（0.5時間）
第10回：文法（形容詞述語文、疑問詞「怎??」の用法）
事前学習：キーポイント３の説明を読み、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：キーポイント３の例文と単語を発音しながら覚える。（0.5時間）
第11回：買い物での会話文の習得（ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】）
事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。（0.5時間）
事後学習：授業での会話文を繰り返し発話する。トレーニング３、リスニング３、練習問題３を解答（0.5時間）
第12回：文法（数詞、助詞「?」、数量詞の用法）の習得（受講者は例文の発音発表）
事前学習：キーポイント４の説明を読み、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：キーポイント４の例文と単語を発音しながら覚える。（0.5時間）
第13回：値段交渉に関する会話文の習得（ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】）
事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。（0.5時間）
事後学習：授業での会話文を繰り返し発話する。トレーニング４、リスニング４、練習問題４を解答（0.5時間）
第14回：文法（場所詞、動詞「在」、助動詞「想」の用法）（受講者は例文の発音発表）
事前学習：キーポイント５の説明を読み、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：キーポイント５の例文と単語を発音しながら覚える。（0.5時間）
第15回：場所をたずねる会話文の習得（ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】）
事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。（0.5時間）
事後学習：授業での会話文を繰り返し発話する。トレーニング５、リスニング５、練習問題５を解答（0.5時間）
第16回：定期試験（持ち込み不可）

成　績　評　価　方　法

定期試験（60%）　平常点（40%）　（平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

ピンイン、基礎単語、基礎文法が正確に習得されているか。中国語の文を正確に構成し、表記・発話することができるか。

テキスト、参考図書

塚本慶一、劉穎　『《最新版》1年生のコミュニケーション中国語』　白水社　2014年

その他（受講上の注意）

外国語の授業ですので、受講者は毎回、大きな声で発音するように心がけてください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語入門b (Introduction to Chinese b)			担当教員	永井　崇弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2148	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

「中国語入門a」に引き続き、国際理解のための中国語の基礎を習得します。

授業の到達目標

発音(ピンイン)に留意しつつ、中国語コミュニケーションにおいて必要な基礎単語、基礎文法を習得するとともに、会話における表現を身に付けて、中国語の基礎力をたくわえます。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学修(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(受講者自身が主体的に発音・発表を行う)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業概要の説明、発音の総復習(受講者は反復練習と発表)
　事前学習：テキスト6頁～11頁までの項目を発音練習し、苦手な発音を把握する。(0.5時間)
　事後学習：苦手な発音をCDを聞きながら克服する。(0.5時間)
第2回：文法(動詞「有」、助数詞の用法)の習得(受講者は例文の発音発表)
　事前学習：キーポイント6の説明を読み、疑問点を整理。(0.5時間)
　事後学習：キーポイント6の例文と単語を発音しながら覚える。(0.5時間)
第3回：レストランでの会話文の習得(ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】)
　事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。(0.5時間)
　事後学習：授業での会話文を繰り返し発話する。トレーニング6、リスニング6、練習問題6を解答(0.5時間)
第4回：文法(アスペクト助詞の「了」、選択疑問文の用法)の習得(受講者は例文の発音発表)
　事前学習：キーポイント7の説明を読み、疑問点を整理。(0.5時間)
　事後学習：キーポイント7の例文と単語を発音しながら覚える。(0.5時間)
第5回：ホテルでのチェックインに関する会話文の習得(ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】)
　事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。(0.5時間)
　事後学習：授業での会話文を繰り返し発話する。トレーニング7、リスニング7、練習問題7を解答(0.5時間)
第6回：文法(過去の経験「?」、時間詞の用法)の習得(受講者は例文の発音発表)
　事前学習：キーポイント8の説明を読み、疑問点を整理。(0.5時間)
　事後学習：キーポイント8の例文と単語を発音しながら覚える。(0.5時間)

第７回：時間表現を用いた会話文の習得（ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】）
事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。（0.5時間）
事後学習：授業での会話文を繰り返し発話する。トレーニング８、リスニング８、練習問題８を解答（0.5時間）
第８回：文法（前置詞「从」・「到」、時量補語、二重目的語文の用法）の習得（受講者は例文の発音発表）
事前学習：キーポイント９の説明を読み、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：キーポイント９の例文と単語を発音しながら覚える。（0.5時間）
第９回：タクシーでの会話文の習得（ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】）
事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。（0.5時間）
事後学習：授業での会話文を繰り返し発話する。トレーニング９、リスニング９、練習問題９を解答（0.5時間）
第10回：文法（助動詞「可以」・「能」・「会」、前置詞「在」、動詞の重ね型）の習得（受講者は例文の発音発表）
事前学習：キーポイント10の説明を読み、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：キーポイント10の例文と単語を発音しながら覚える。（0.5時間）
第11回：デパートでの会話文の習得（ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】）
事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。（0.5時間）
事後学習：授業での会話文を繰り返し発話。トレーニング10、リスニング10、練習問題10を解答（0.5時間）
第12回：文法（前置詞「?」、「是」の省略、方向補語「来」・「去」の用法）の習得（受講者は例文の発音発表）
事前学習：キーポイント11の説明を読み、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：キーポイント11の例文と単語を発音しながら覚える。（0.5時間）
第13回：苦情を訴える会話文の習得（ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】）
事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。（0.5時間）
事後学習：授業での会話文を繰り返し発話。トレーニング11、リスニング11、練習問題12を解答（0.5時間）
第14回：文法（「是～的」、「～的?候」の用法）の習得（受講者は例文の発音発表）
事前学習：キーポイント12の説明を読み、疑問点を整理。（0.5時間）
事後学習：キーポイント12の例文と単語を発音しながら覚える。（0.5時間）
第15回：紛失届の提出に関する会話文の習得（ペアによる発話練習と発表【グループワークを含む】）
事前学習：会話文の日本語訳を作成し内容を理解したうえで、CDを聞きながら会話練習を行う。（0.5時間）
事後学習：授業での会話文を繰り返し発話。トレーニング12、リスニング12、練習問題12を解答（0.5時間）
第16回：定期試験（持ち込み不可）

成　績　評　価　方　法

定期試験（60%）　平常点（40%）　（平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

ピンイン、基礎単語、基礎文法が正確に習得されているか。中国語の文を正確に構成し、表記・発話することができるか。

テキスト、参考図書

塚本慶一、劉穎　『《最新版》1年生のコミュニケーション中国語』　白水社　2014年

その他（受講上の注意）

外国語の授業ですので、受講者は毎回、大きな声で発音するように心がけてください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報基礎Ⅰ (Basic Information Systems Ⅰ)			担当教員	佐藤　宏隆、篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2151	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　情報科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(情報機器の操作)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

パーソナルコンピュータの基本操作

授業の到達目標

現代社会においては情報活用能力が必要不可欠となっている。コンピュータを文書作成・情報検索等のツールとして利用するための基礎的学習を目標とする。主な内容としてオペレーティングシステムの基礎、ワープロソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。学内ネットワーク利用方法、インターネット・WWW・電子メール利用の基礎、入出力用周辺機器の利用方法について理解できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業の目的・使用設備・学内ネットワーク等の説明、パソコンの基本操作、タイピング
　事前学習：情報ガイダンスで配布された資料等を確認しておく。(1時間)
　事後学習：授業で行なった内容を再確認し、質問等があれば担当教員もしくは情報サポート室スタッフに問い合わせる。タイピング練習(1時間)
第2回：WWWの利用、e−Learningシステム、情報倫理
　事後学習：様々な検索を試す。タイピング練習(2時間)
第3回：電子メールの設定・利用、タッチタイピングについて
　事後学習：PCおよびスマートフォンでメールの送受信を行なう。タイピング練習(3時間)
第4回：ワープロ(1)文字の入力(実技)
　事後学習：学習管理システム(LMS)上の小テストに解答する。キーボードについてのプリントの記入欄を埋める。タイピング練習(4時間)
第5回：ワープロ(2)文書の作成、印刷(実技)
　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習(4時間)
第6回：ワープロ(3)文字フォント・段落の設定(実技)
　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習(4時間)
第7回：ワープロ(4)表の活用(実技)
　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習(4時間)
第8回：ワープロ(5)図や画像の挿入(実技)
　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習(4時間)
第9回：デジタルカメラ・イメージスキャナの利用、写真の管理(実技)
　事後学習：写真・図形等を含む自己紹介文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習(5時間)
第10回：プレゼンテーションソフト(1)スライド作成・編集(実技)
　事後学習：SmartArtを使った概念図を作成する。タイピング練習(5時間)

第11回：プレゼンテーションソフト（2）切り替え効果・アニメーション（実技）
　　事後学習：アニメーションを含むスライド資料を作成しLMSに提出する。タイピング練習（5時間）
第12回：プレゼンテーションソフト（3）スライドショー、配布資料の作成（実技）
　　事後学習：所属する学科の専門分野に関するプレゼン資料を作成しLMSに提出する。タイピング練習（6時間）
第13回：応用練習（1）ビジネス文書作成（実技）
　　事後学習：復習用練習文書1を作成しLMSに提出し、添削をうける。タイピング練習（4時間）
第14回：応用練習（2）ビジネス文書作成（実技）
　　事後学習：復習用練習文書2を作成しLMSに提出し、添削をうける。タイピング練習（4時間）
第15回：応用練習（3）その他の機能（実技）
　　事後学習：復習用練習文書3を作成しLMSに提出し、添削をうける。タイピング練習（4時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

全ての課題を提出すること、Type Quickにて指定する条件の成績・練習時間を達成することを必要条件とする。
定期試験成績50%、提出課題50%で評価する

成　績　評　価　基　準

ワープロ・プレゼンテーション資料の演習課題を提出しているか。
Type Quickにて指定する条件の成績・練習時間を達成できているか。
定期試験にて、指定された様式に従って文書作成が行えるか。

テキスト、参考図書

『30時間でマスター Windows 10対応　Office 2016』 実教出版　2016年
教材として、タイピング練習ソフトType Quick（日本データパシフィック）を使用する。
市販のWord、PowerPoint、Windowsに関連する書籍も参考にすること。

その他（受講上の注意）

この授業ではパソコンの操作が中心となるため、極力授業を欠席しないこと。もし欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。また、課題提出を重視するので、課された課題は必ず提出すること。
また、学習内容に関連する検定・資格の取得をめざすことで、より一層の知識・技術を習得することが望ましい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報基礎Ⅱ (Basic Information Systems Ⅱ)			担当教員	佐藤　宏隆、篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2152	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　情報科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

表計算ソフトの活用とデータの分析

授業の到達目標

表計算ソフトによるデータの集計・分析について学ぶ。ソフトウェアの操作方法のみならず、栄養や子どもの分野で扱われる様々なデータの客観的判断をするための基礎的な統計処理の考え方を修得する。主な内容は、表の作成・計算式の入力・関数の入力・グラフの作成、データの代表値の取り扱い、散布度の求め方、クロス集計の方法、度数分布とヒストグラムについて、2変数間の相関分析などについて学ぶ。パーソナルコンピュータの操作を併用する演習形式で行う。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業の目的・概要説明、Excelの起動と終了、データ入力
　　事後学習：テキストの例題の表を完成させておく。(2時間)
第2回：計算式の入力、書式の変更(実技)
　　事後学習：テキストの実習課題を行ない学習管理システム(LMS)に提出する。(4時間)
第3回：関数の利用、罫線、表の編集(実技)
　　事後学習：テキストの実習課題を行ないLMSに提出する。(4時間)
第4回：グラフ作成、その他の関数(実技)
　　事後学習：テキストの実習課題を行ないLMSに提出する。(4時間)
第5回：セル参照、条件付き書式(実技)
　　事後学習：テキストの実習課題を行ないLMSに提出する。(4時間)
第6回：並べ替え、フィルタ(実技)
　　事後学習：テキストの実習課題を行ないLMSに提出する。(4時間)
第7回：統計について、代表値(実技)
　　事後学習：練習課題を行ないLMSに提出する。(4時間)
第8回：散布度(実技)
　　事後学習：練習課題を行ないLMSに提出する。(4時間)
第9回：度数分布(実技)
　　事後学習：練習課題を行ないLMSに提出する。(4時間)
第10回：クロス集計(実技)
　　事後学習：練習課題を行ないLMSに提出する。(4時間)
第11回：基準値、偏差値(実技)
　　事後学習：練習課題を行ないLMSに提出する。(4時間)

第12回：相関係数、散布図（実技）
　　事後学習：練習課題を行ないLMSに提出する。（4時間）
第13回：回帰分析（実技）
　　事後学習：練習課題を行ないLMSに提出する。（4時間）
第14回：復習課題（実技）
　　事後学習：配布する復習課題を行なう。（5時間）
第15回：まとめ
　　事後学習：復習課題の答え合わせを行ない、修正したものをLMSに提出する。（5時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

全ての課題を提出することを必要条件とする。
定期試験成績50%、提出課題50%で評価する。

成　績　評　価　基　準

表計算ソフトウェア・統計解析の演習課題を提出しているか。
定期試験にて、指定された計算方法に従って統計解析を行い、指定された様式に従って表の作成が行えるか。

テキスト、参考図書

1）『30時間でマスター Windows 10対応　Office 2016』 実教出版　2016年
2）『Excelで学ぶビジネスデータ分析の基礎』 オデッセイコミュニケーションズ
市販のExcelや統計学に関連する書籍も参考にすること。

その他（受講上の注意）

この授業ではパソコンの操作が中心となるため、極力授業を欠席しないこと。もし欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。また、課題提出を重視するので、課された課題は必ず提出すること。
また、学習内容に関連する検定・資格の取得をめざすことで、より一層の知識・技術を習得することが望ましい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎演習 (Basic Seminar)			担当教員	池田　涼子、樽井　雅彦、尼子　克己、 岸　　慎治、浦本　裕美、細田　耕平
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2161	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学ぶ

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。

授業の到達目標

・履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。
・附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。
・管理栄養士の教育目標や専門分野の基礎的な事柄について学び、学習に対する積極的な態度を身につける。さらに職業観・倫理観・人間力を培う。
・本演習を通して学生と教員、学生相互間のコミュニケーションを活性化する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成
　事前学習：(2時間)　学生便覧の当該頁に目を通す。
　事後学習：(2時間)　授業内で作成した計画をもとに自らの生活を見直す。
第2回：意見交換会(3年生への質問、事前アンケート，宿泊研修注意事項)　グループワーク、ディスカッション
　事前学習：(2時間)　大学生活における疑問点などをピックアップする。
　事後学習：(2時間)　意見交換により分野別に集約した質問群に優先順位をつける。
第3回：宿泊研修に関する準備　グループワーク、ディスカッション
　事前学習：(2時間)　配布資料をもとに、分担作業の内容などを確認する。
　事後学習：(2時間)　担当となった係りの学生同士で内容を確認し、注意点などを共有する。
第4回：越前市周辺散策(味真野・万葉菊花園)　グループワーク
　事前学習：(2時間)　万葉集の中から万葉菊花園に歌碑のある短歌を味わい、気に入ったものを一つ選ぶ。
　事後学習：(2時間)　事前学習で選んだ短歌について実際の歌碑や説明などの感想を800字程度でまとめる。
第5回：宿泊研修　グループワーク、ディスカッション
　事前学習：(2時間)　研修で訪れる施設について、配布資料で確認する。
　事後学習：(2時間)　宿泊研修を通して学んだことを800字程度でまとめる。

第６回：図書館ガイダンス　グループワーク
　　事前学習：（２時間）　任意の授業の参考図書の検索テーマを検討する。
　　事後学習：（２時間）　図書館ガイダンスで習得した方法を用いて、実際に読みたい本を検索し借り出す。
第７回：学生生活、学習方法などに関する確認
　　事前学習：（２時間）　初回の授業で作成した計画と現在の生活リズムを照合し、良い点悪い点を考える。
　　事後学習：（２時間）　授業内で受けたアドバイスをもとに計画を見直し、大学生活への適応力向上をはかる。
第８回：管理栄養士の役割Ⅰ
　　事前学習：（２時間）　日本栄養士会HPを参考に、社会における管理栄養士の役割について知る。
　　事後学習：（２時間）　管理栄養士の役割について、800字程度でまとめる。
第９回：講演会（特別講師招聘）健康栄養学科OB/OGによる講演①
　　事前学習：（２時間）　日本栄養士会HPを参考に、招聘講師の専門分野について知る。
　　事後学習：（２時間）　OB/OGによる講演の感想を800字程度にまとめる。
第10回：講演会（特別講師招聘）健康栄養学科OB/OGによる講演②
　　事前学習：（２時間）　日本栄養士会HPを参考に、招聘講師の専門分野について知る。
　　事後学習：（２時間）　OB/OGによる講演の感想を800字程度にまとめる。
第11回：管理栄養士の役割Ⅱ（自分はどんな管理栄養士になりたいか）　グループワーク、ディスカッション
　　事前学習：（２時間）　第８～10回の授業を参考に、理想とする管理栄養士像、活躍したい専門分野について考える。
　　事後学習：（２時間）　自己の将来像として思い描く管理栄養士について800字程度にまとめる。
第12回：越前市　地域学習（健康増進課の取り組みについて）
　　事前学習：（２時間）　越前市HPを参考に、越前市の人口や産業の規模、地理的条件について調べる。
　　事後学習：（２時間）　越前市健康増進課の取り組みについて、800字程度にまとめる。
第13回：テーマ討論会１（発表準備）　グループワーク、ディスカッション
　　事前学習：（２時間）　第12回の授業で提示されるテーマについて調べる。
　　事後学習：（２時間）　グループワークの内容、次回までに準備すべきことを確認し、他の班員と共有する。
第14回：テーマ討論会２（発表）　　プレゼンテーション
　　事前学習：（２時間）　グループ発表の班員とともに、発表練習をおこなう。
　　事後学習：（２時間）　発表の成果、反省点などを他の班員と話し合い共有する。
第15回：自己の学習計画の振返り，今後の学生生活についての計画作成
　　事前学習：（２時間）　第１回、第７回で作成・使用した学習計画・履修計画を確認し、現在の学生生活と照合する。
　　事後学習：（２時間）　本科目から学んだことについて、前期の学生の振り返りも含めて総括する。
予習・復習として、授業時に配布された資料、提案された課題内容について、関連する書籍、資料を検索し、まとめておく。また、授業で取り上げられた事項について詳細に調べ、理解した上で次週の授業に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

レポート（70%）　平常点（30%）
平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

基本的なアカデミックスキル（学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法）が修得できているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布する。

その他（受講上の注意）

学科を少人数に分け、担当教員を置く。
この担当教員は、１年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎演習 (Basic Seminar)			担当教員	鈴木　智子、高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2161	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

大学4年間の学生生活、さらにはその後の人生をどう生きるかについて、学生一人ひとりが責任をもって方向を確立していくための助言・指導を行う。担当教員による専門分野の基礎的なことがらについて演習形式で授業を行い、大学生活の方向付けを模索する。また、本演習を通して学生と教員、学生相互間のコミュニケーションを活性化することをねらいとする。

授業の到達目標

・レポート作成方法や授業ノートの取り方を知ることができる。
・図書館の利用方法や文献検索方法を知り、学習や研究に必要な図書利用方法を身につける。
・大学、学科の教育課程、教育制度、授業形態について理解している。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

(各授業の詳細については、全体ガイダンスにおいて説明する。)
第1回：全体ガイダンス(オリエンテーション)を通して、本授業の内容や達成すべき目標について理解する
　　：学科の教育課程、教育制度、授業形態について説明を受け理解する
　　：履修に関する助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする
　　事前学習：学生便覧を読み、学科の教育課程、教育制度、履修方法について理解し、質問項目をまとめておく(2時間)
　　事後学習：授業内容、学生便覧を踏まえて、自己の学習計画・理由計画を見直す(2時間)
第2回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。①(グループワーク)
　　事前学習：これまで受講し他の授業をふまえて、受講の仕方、ノートの取り方、学習の仕方について質問項目をまとめておく(2時間)
　　事後学習：授業内容を踏まえて、自分の受講についての反省点、改善点をまとめる(2時間)
第3回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。②
　　事前学習：テキストの第1章を読み、演習課題を行っておく(2時間)
　　事後学習：授業内容を踏まえて、テキストの第1章を読み直し、演習課題を再度行う(2時間)
第4回：個人面談①、または、図書館ガイダンス①
　　事前学習：自己認識シートの必要事項を記入し、今後の学習における抱負をまとめておく(2時間)
　　事後学習：指導教員との面談で指摘されたことを踏まえて、今後の学修課題をまとめる(2時間)

第５回：個人面談②、または、図書館ガイダンス②
事前学習：大学の図書館のHPを閲覧し、利用方法を理解した上で質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：ガイダンスを踏まえて、関心のある分野の書籍等を検索して借りる等、図書館を利用する（２時間）
第６回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。③
事前学習：テキストの第２章を読み、演習課題を行っておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストの第２章を読み直し、演習課題を再度行う（２時間）
第７回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。④
事前学習：テキストの第３章を読み、演習課題を行っておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストの第３章を読み直し、演習課題を再度行う（２時間）
第８回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。⑤
事前学習：テキストの第４章を読み、演習課題を行っておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストの第４章を読み直し、演習課題を再度行う（２時間）
第９回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。⑥
事前学習：テキストの第５章を読み、演習課題を行っておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストの第５章を読み直し、演習課題を再度行う（２時間）
第10回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。⑦
事前学習：テキストの第６章を読み、演習課題を行っておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストの第６章を読み直し、演習課題を再度行う（２時間）
第11回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。⑧
事前学習：テキストの第７章を読み、演習課題を行っておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストの第７章を読み直し、演習課題を再度行う（２時間）
第12回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。⑨
事前学習：テキストの第８章を読み、演習課題を行っておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストの第８章を読み直し、演習課題を再度行う（２時間）
第13回：大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。⑩（グループワーク）
事前学習：レポートの書き方について、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、レポートの書き方の要点をまとめる（２時間）
第14回：地域との連携・学外探訪（実習、フィールドワーク　）
事前学習：越前市の子育て支援について事前に調べ、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、今後の子育て支援のあり方についてレポートにまとめる（２時間）
第15回：まとめ課題等を行う
事前学習：これまでの授業内容を踏まえて、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、前期の自己の学習態度を振り返り、反省点や改善点をまとめる（２時間）

成　績　評　価　方　法

レポート、課題等（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・レポート作成方法や授業ノートの取り方を知ることができたか。
・図書館の利用方法や文献検索方法を知り、学習や研究に必要な図書利用方法を身につけることができたか。
・大学、学科の教育課程、教育制度、授業形態について理解できたか。

テキスト、参考図書

大人のための国語ゼミ（野矢茂樹　山川出版社　平成29年）

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

キャリア・デザインⅠ（Career Design Ⅰ）			担当教員	植月　百枝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2162	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

変化の厳しい時代、これが正しいというキャリアモデルはありません。知人・友人などのネットワークや、自ら考え学び自分は将来どのような仕事をしたいのか、どうありたいのかを常に探求していくことが重要です。
この授業では、キャリア形成と仕事へのアプローチのために必要なことは何かを自ら考え、挨拶・電話対応・ビジネス文書作成などの実践と、グループワークを通してビジネス社会での基本マナーとルールを身につけていきます。

授業の到達目標

・自分自身のキャリア形成のため必要な意識と知識を修得する。
・社会人のマナーやルールを理解する。
・他者に敬意をはらい、円滑なコミュニケーションを修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：学生時代に学ぶこと、考えること
　事前学習：大学時代にやるべきことは沢山ある。自分のなすべきこと、やりたいことを考え、まとめておくこと。（2時間）
　事後学習：自身の未来に思いをはせ、具体的に挑戦したいことをまとめ、ノートに記入することを課す。（2時間）
第2回：コミュニケーションとビジネスマナーの基本
　事前学習：授業前にテキストの第1編1章を読み、社会が求める期待される社会人について考えておくこと。（2時間）
　事後学習：良好なコミュニケーションのために気をつけることをまとめ、ノートに記入することを課す。（2時間）
第3回：ビジネスマナーはなぜ必要か（グループワーク）
　事前学習：ビジネスマナーの意義について自分なりの考えをまとめて発表できるようにしておくこと。（2時間）
　事後学習：授業やグループワークの学びからビジネスマナーがなぜ必要か熟考すること。復習課題を課す。（2時間）
第4回：指示の受け方と、報告・連絡・相談
　事前学習：授業前にテキストの第1編4章を熟読し理解を深め、分からないことは質問をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：実技を通し学んだことをまとめ、ノートに記入することを課す。（2時間）

第５回：話し方ときき方のポイント（グループワーク）
事前学習：授業前にテキストの第１編５章を熟読し理解を深めること。（２時間）
事後学習：きき方のグループワークを通して学んだことをまとめ、ノートに記入することを課す。（２時間）
第６回：ビジネス文書、ビジネスメールの書き方
事前学習：授業前にテキストの第２編２章を熟読し理解を深めること。質問があればまとめておくこと。（２時間）
事後学習：身の回りの文書（書類、手紙，はがき）を点検し、書き方を確認すること。復習課題を課す。（２時間）
第７回：ビジネス文書の作成・名刺交換（グループワーク）
事前学習：テキスト第１編６章を熟読すること。授業では名刺を作成し、交換をするので準備をしておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことは図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第８回：電話応対の基本と重要性
事前学習：授業前にテキストの第２編３章を熟読し理解を深めること。それに関することをまとめておくこと。（２時間）
事後学習：プリントを熟読し、声に出して電話応対の仕方を練習すること。復習課題を課す。（２時間）
第９回：キャリア支援センターについて
事前学習：授業ではキャリア支援センターについて話を聞くので、就職に関する質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で課された大学の歴史、建学の精神について、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：情報収集と効果的な活用法
事前学習：授業前にテキストの第２編５章を熟読し、さまざまな情報源について調べ理解を深めること。（２時間）
事後学習：情報源の活用について復習課題を課す。（２時間）
第11回：敬語の種類と必要性
事前学習：授業前にテキストの第１編５章を読み理解を深めること。敬語について図書館などで調べること。（２時間）
事後学習：プリント資料などで復習すること。敬語の復習課題を課す。（２時間）
第12回：ビジネスマナー実践①挨拶、言葉遣い、さまざまなハラスメントなど（グループワーク）
事前学習：DVDで学習後に実践で体得していく。テキストの該当項目を熟読し理解しておくこと。（２時間）
事後学習：グループワークで学んだことを日常生活で実践すること。振り返りの課題を課す。（２時間）
第13回：ビジネスマナー実践②身だしなみ、報告・連絡・相談、コンプライアンスなど（グループワーク）
事前学習：DVDで学習後に実践で体得していく。テキストの該当項目を熟読し理解しておくこと。（２時間）
事後学習：グループワークで学んだことを日常生活で実践すること。振り返りの課題を課す。（２時間）
第14回：ビジネスマナー実践③他社訪問、面接対応、電話応対、電子メールの注意点など（グループワーク）
事前学習：DVDで学習後に実践で体得していく。テキストの該当項目を熟読し理解しておくこと。（２時間）
事後学習：グループワークで学んだことを日常生活で実践すること。振り返りの課題を課す。（２時間）
第15回：ビジネスマナー実践④ビジネス文書、会社のルール、国際人としてのビジネスマナーなど（グループワーク）
事前学習：DVDで学習後に実践で体得していく。テキストの該当項目を熟読し理解しておくこと。（２時間）
事後学習：グループワークで学んだことを日常生活で実践すること。振り返りの課題を課す。（２時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験（50％）、演習（25％）、平常点（25％）
＊平常点は授業への出席状況、グループワークへの参加態度、実践への取り組みなどを総合して判断する。

成績評価基準

・自分自身のキャリア形成のため必要な意識と知識を修得しているか。
・社会人のマナーやルールを理解しているか。
・他者に敬意をはらい、円滑なコミュニケーションをとることができるか。

テキスト、参考図書

『2019年版ビジネス能力検定ジョブパス３級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター

その他（受講上の注意）
グループごとの発表が多いので、積極的に発言し協力してまとめること。 上記の授業計画は予定である。授業の進行状況によって変更することもある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎化学 (Basic Chemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2102	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

管理栄養士養成課程で学ぶ内容には、ヒトのからだの中で起こっている現象や、調理における食品の変化など、化学的思考を理解の前提としたものが少なくない。本講義では高校で化学（化学基礎・化学）を学ばなかった、あるいは十分に理解できなかった者を対象に、その中でも特に根本となる理論化学の内容について重点的に取り扱う。また、化学が人間生活でどのように役立ち、化学の考え方がどこで使われているかについて適宜触れ、専門基礎科目への導入として、以降の学修とのつながりをイメージさせる。

授業の到達目標

① 原子・分子の構造を理解し、それに基づいて元素の持つ大凡の性質を説明できる。
② モルの概念を理解し、モル濃度を基礎とした濃度計算ができる。
③ 化学反応式をベースとした化学反応の量的関係について、自身で取り扱うことができる。
④ 酸・塩基反応、酸化還元反応、熱化学方程式の成り立ちを理解し、基本的な数量関係を取り扱うことができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：生命活動は化学反応の集合体
事前学習：事前に実施したプレイスメントテストの内容を復習しておくこと。テキスト第1章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
事後学習：課題提出に必要となる、Office365等、学習に必要な動画受信、電子的な課題提出に必要な操作について、指定されたテスト用送受信を行い、トラブルが生じた場合は情報サポート室や担当教員に問い合わせ、解決する。テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第2回：原子この世界をかたちづくっている材料
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、わからない語句について調べておくこと。テキスト第2章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
事後学習：テキストの章末問題サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第3回：元素と周期表
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第3章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第4回：周期表と電子配置
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第4章のp.37－39を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）

第５回：原子と原子のつながり
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第４章のp.40－48を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第６回：化学式と化学物質の読み方
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第７回：化学反応式
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第５章のp.49－57を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第８回：物質量、モルと化学反応式の量的関係
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第５章のp.58－64を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組む。（２時間）
第９回：濃度の表しかた
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第６章を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組む。（２時間）
第10回：酸化と還元
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第７章のp.79－86を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組む。（２時間）
第11回：酸化還元反応の量的関係
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第７章のp.87－90を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組む。（２時間）
第12回：物質の性質と状態
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第８章を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第13回：水と溶液、酸と塩基
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第12章を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第14回：酸塩基反応の量的関係
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第14章のp.161－167を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第15回：pHと緩衝液
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第14章のp.168－176を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第16回：定期試験
①事前学習で示す動画は、高校の化学基礎・化学に関する基本的な講義内容になっている。
②大学の講義では一般に問題演習の時間をあまり取らないが、それを疎かにすると理解が深まらないので各自で補う必要がある。事後学習で示す演習問題は、テキスト・サブテキスト内にある問題以外にも、配布プリントとして与えることがある。

成　績　評　価　方　法

定期試験40％、授業時に行う小テスト30％、事前・事後学習を含めた授業への取り組み態度30％を総合的に評価する。小テストの成績が著しく不良の場合は、授業時間外に再テストを課す。

成 績 評 価 基 準

① 原子・分子の構造を理解し、それに基づいて元素の持つおおよその性質を説明できるか。
② モルの概念を理解し、モル濃度を基礎とした濃度計算ができるか。
③ 化学反応式をベースとした化学反応の量的関係について、自身で取り扱うことができるか。
④ 酸・塩基反応、酸化還元反応の成り立ちを理解し、そこにある基本的な数量関係を取り扱うことができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：『はじめて学ぶ化学』 野島高彦著、化学同人　2012年　および　講義用配布資料
演習書：『高校とってもやさしい化学基礎』 柿澤壽著、旺文社　2012年
演習書は推薦入試入学者の入学前教育テキストと同じ。予復習・演習に使用する。
参考書：
高校教科傍用の図説。例えば『ダイナミックワイド図説化学』東京書籍　等。
中川徹夫著 『化学の基礎～元素記号からおさらいする化学の基本』 化学同人　2010年
辻・中村編著　栄養科学シリーズNEXT『基礎化学』 講談社サイエンティフィック　2010年
田島編著 『基礎からのやさしい化学～ヒトの健康と栄養を学ぶために』 建帛社　2011年

その他（受講上の注意）

・管理栄養士養成課程で必要と考えられる基本的な計算能力は、本科目における演習と多くの部分で重複する。このため、それが身についていない場合は授業外に時間を設定し、別途指導することがあるので留意すること。
・本科目だけで管理栄養士に必要な化学をすべて網羅しているわけではない。引き続き「分析化学」・「有機化学」などの科目を受講することで高校～大学の内容をカバーすることに留意すること。
・遅刻・欠席は、理解の妨げになるので慎むこと。
・質問や相談はオフィスアワーに限らず随時受け付ける。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎生物学 (Basic Biology)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2101	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

管理栄養士課程で必要となる生物学の知識を、全般にわたり概説する。小・中・高と進む生物学の学びは、その領域の広さはそのままに、徐々に内容を深化・細分化させて進行し、大学での学びも基本的にはその延長線上にある。本講義は以降に学ぶ科目の導入となるよう、概ね高校生物の内容を（高校で生物を履修していない学生にも配慮して）網羅しつつ、履修者の習熟状況に応じて講義内容を調整しながら進めていく。

授業の到達目標

生物学における基本的な用語の意味を説明できる。人体の構造、および機能の概要を述べることができる。また単なる知識の羅列ではなく、背景にある実験・観察結果をベースに生物学の事項を説明できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：生きているとはどういうことか？
　事前学習：生物の多様性と共通性に関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：生物の多様性と共通性に関する演習問題を解く（2時間）。
第2回：細胞とはどのようなものか？（グループワーク）
　事前学習：細胞に関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：細胞に関する演習問題を解く（2時間）。
第3回：生命活動を支える代謝とは何か？（ＰＢＬ）
　事前学習：代謝に関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：代謝に関する演習問題を解く（2時間）。
第4回：DNA・遺伝子・ゲノムとは何か？（グループワーク）
　事前学習：遺伝子とそのはたらきに関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：遺伝子とそのはたらきに関する演習問題を解く（2時間）。
第5回：DNAはどのように複製されるのか？
　事前学習：DNAの複製に関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：DNAの複製に関する演習問題を解く（2時間）。
第6回：遺伝子の発現とは何か？
　事前学習：遺伝子の発現に関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：遺伝子の発現に関する演習問題を解く（2時間）。
第7回：体内環境の維持とは何か？
　事前学習：体内環境の維持に関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：遺体内環境の維持に関する演習問題を解く（2時間）。

第８回：体内環境を調節する器官とは何か？
　　事前学習：体内環境を調節する器官に関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：体内環境を調節する器官に関する演習問題を解く（２時間）。
第９回：腎臓のはたらきとは何か？（グループワーク）
　　事前学習：腎臓のはたらきに関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：腎臓のはたらきに関する演習問題を解く（２時間）。
第10回：体内環境を保つしくみとは何か？
　　事前学習：体内環境を保つしくみに関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：体内環境を保つしくみに関する演習問題を解く（２時間）。
第11回：血糖量の調節とは何か？（ＰＢＬ）
　　事前学習：血糖量の調節に関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：血糖量の調節に関する演習問題を解く（２時間）。
第12回：体内環境を守るしくみとは何か？
　　事前学習：体内環境を守るしくみに関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：体内環境を守るしくみに関する演習問題を解く（２時間）。
第13回：免疫システムとは何か？
　　事前学習：免疫システムに関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：免疫システムに関する演習問題を解く（２時間）。
第14回：適応免疫とは何か？
　　事前学習：適応免疫に関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：適応免疫に関する演習問題を解く（２時間）。
第15回：感染症への対応とはどのようなものか？
　　事前学習：感染症への対応に関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：感染症への対応に関する演習問題を解く（２時間）。
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験50％、講義中に実施する小テスト30%、および授業に対する姿勢20%で評価する。

成　績　評　価　基　準

（１）生物学に関する語句を適切に説明できるか。
（２）グラフや表などで表された実験結果をもとに、生物学上の知見を説明できるか。

テキスト、参考図書

『はじめて学ぶ生命科学の基礎』化学同人
『文系のための生命科学』羊土社
『ドリルと演習シリーズ　基礎生物学』電気書院
問題集：『改訂レッツトライノート　生物基礎』 東京書籍

その他（受講上の注意）

・テキストに相当する資料を配布する。
・高校で生物（生物基礎・生物）を学ばなかった、あるいは十分に理解できなかった者は、できるかぎり受講することが望ましい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

分析化学 (Analytical Chemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2103	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

高校化学（未修者、理解が十分でない者を含む）と大学との橋渡しを意識しながら、化学変化の数量的解釈、および生体に関わる成分を科学的に「はかる」方法について講義します。化学反応速度論、化学平衡など、体内で起こる化学変化の原理について整理したあと、生化学・食品化学・栄養化学などで用いられる実験手法について、それらの原理、得られる情報、正確な測定を行うために注意すべき点などを重点的に採り上げます。

授業の到達目標

基礎研究や食品開発における機器分析を、適切に行い解釈できるようになるための素養を身につける。具体的には、①化学反応における定量関係を理解している。②化学反応速度、および化学平衡の基礎理論について理解している。③各種滴定の原理を理解し、その利用に必要な計算ができる。④光の性質と、その分析化学における利用について理解している。⑤栄養科学・バイオサイエンス分野で頻用される分析化学の手法について、その概要と意義について説明できる。がその目標となる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：測定値の処理と信頼性①：平均値・中央値・正規分布
　事前学習：事前に配布した統計関連の資料①を通読し、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第2回：測定値の処理と信頼性②：標準偏差と標準誤差
　事前学習：事前に配布した統計関連の資料②を通読し、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第3回：測定値の処理と信頼性③：有効数字・誤差伝播・最小二乗法
　事前学習：事前に配布した統計関連の資料③を通読し、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第4回：測定値の処理と信頼性④：推定と検定の基礎・比べて「差がある」と判断する考え方
　事前学習：事前に配布した統計関連の資料④を通読し、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第5回：信頼性の高い測定をするために：外部/内部標準、精度評価
　事前学習：事前に配布した標準試料や精度評価に関する資料を通読し、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第6回：反応速度・化学平衡・水溶液①：熱化学・活性化エネルギーと触媒
　事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第10章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）

第７回：反応速度・化学平衡・水溶液②：反応速度式・アレニウスの式
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、反応速度論に関する配布資料を通読し、テキスト第11章の１～３節を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第８回：反応速度・化学平衡・水溶液③：エントロピー・ギブスの自由エネルギー変化
事前学習：反応速度論に関する配布資料を通読し、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第９回：反応速度・化学平衡・水溶液④：質量作用の法則、ル・シャトリエの原理
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、化学平衡に関する配布資料を通読し、テキスト第11章の４～６節を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第10回：反応速度・化学平衡・水溶液⑤：酸塩基平衡とpH、ヘンダーソンハッセルバルヒの式
事前学習：酸塩基平衡とヘンダーソン・ハッセルバルヒの式に関する配布資料を通読し、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第11回：コロイド溶液の性質、分離と濃縮・精製、クロマトグラフィー
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第13章の２～３項を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第12回：種々の滴定：酸塩基・酸化還元・キレート・沈殿
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、滴定に関する配布資料を通読し、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第13回：気体の性質
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、テキスト第９章を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第14回：光を使う分析法：光の性質・吸光度・ランベルト・ベールの法則
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、分光法に関する配布資料を通読し、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第15回：最新の生命科学分析法：質量分析・DNAシークエンサー
事前学習：事前に指定した動画を閲覧し、最新生命科学分析法に関する配布資料を通読し、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験50％、授業時に行う小テスト30%、および授業に対する姿勢20%で評価する。

成　績　評　価　基　準

①化学反応における定量関係を理解しているか。②化学反応速度、および化学平衡の基礎理論について理解しているか。③各種滴定の原理を理解し、その利用に必要な計算ができるか。④光の性質と、その分析化学における利用について理解しているか。⑤栄養科学・バイオサイエンス分野で頻用される分析化学の手法について、その概要と意義について説明できるか。⑥関数電卓やそれと同等の機能を持つソフトウェアを用いた、栄養科学・バイオサイエンス分野で用いられる計算を実行できるか。

テキスト、参考図書

テキスト：『はじめて学ぶ化学』 野島高彦著、化学同人　2012年（『基礎化学』教科書）
これ以外に、必要におじて講義用資料を別途配布する。
参考図書：『バイオ分析化学実験法』Kent他著、伊藤監訳、丸善株式会社、2006年
『絶対わかる分析化学』（絶対わかる化学シリーズ）　斎藤・坂本著、講談社サイエンティフィック、2007年
『分析化学』（化学はじめの一歩シリーズ５）　角田・渡辺著、化学同人、2014年
『コンパクト分析化学』 脇田久伸・横山拓史　三共出版　2013年
『すべて分析科学者がお見通しです！』 津村ゆかり他　技術評論社　2011年。

その他（受講上の注意）

授業計画表のうち、テキストに記載がない項目については別途プリントを配布します。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

有機化学 (Organic Chemistry)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2104	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

「食品・栄養学分野を理解する・生命科学のための有機化合物」をサブテーマとして、有機化合物の構造や性質、生体内での変化（代謝）の基本について講義形式の授業を実施する。また、知識の定着を図るためテーマごとに授業内で小テストを実施する。小テストは採点して返却し、授業内での解説を行う。
有機化合物は生活のさまざまなところで利用される身近で種類の豊富な物質であるが、特に栄養・食品分野で重要な栄養素・生体成分について重点を置き、生化学・基礎栄養学分野で学習する内容と関連づけた講義を展開する。

授業の到達目標

有機化学とは「炭素を基本骨格とした化合物に関する化学」であり、ミネラルを除いた栄養素は全て有機化合物である。このミネラルの多くも食品中や生体内で有機化合物と結合して存在し、その機能を発揮している。すなわち有機化合物は食べ物とからだ、生命に関与する物質であり、栄養学の基本となる生化学とごく密接に関連している。有機化学を学ぶことは栄養学全体を理解するための基礎として極めて重要であり、本科目では有機化合物の成り立ちや名称、構造について知識を養うこと、食品・栄養学分野で登場する栄養素や生体成分の構造や化学的性質とそれぞれの代謝や機能との関連性について理解を深めることを目的とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：有機化合物の分類（確認テスト）
　事前学習：教科書「はじめに」を読み、質問項目をまとめる。（2時間）
　事後学習：確認テストの誤答箇所を見直す。（2時間）
第2回：有機化合物と化学式
　事前学習：化学結合論について確認し、質問項目を整理する。（2時間）
　事後学習：分子式・組成式・示性式・構造式について、学習内容を整理する。（2時間）
第3回：有機化合物の命名法　※小テスト－1
　事前学習：ギリシア語の数詞接頭語、有機化合物の名称に使う慣用語を表にまとめる。（2時間）
　事後学習：小テスト－1の誤答箇所を見直す。（2時間）
第4回：有機化合物の立体化学－1（構造異性体）
　事前学習：「異性体」について確認し、質問項目をまとめる。（2時間）
　事後学習：構造異性体、位置異性体について例となる物質とともに整理する。（2時間）
第5回：有機化合物の立体化学－2（立体異性体）
　事前学習：立体異性体の種類について確認し、質問項目をまとめる。（2時間）
　事後学習：乳酸・アミノ酸の異性体について、学習内容を整理する。（2時間）
第6回：官能基とその性質－1（水酸基およびカルボニル基）
　事前学習：還元糖について構造式を確認し、ノートにまとめる。（2時間）
　事後学習：官能基について、学習内容を一覧表に整理する（2時間）

第７回：官能基とその性質－２（その他の官能基）　※小テスト－２
　　事前学習：アミノ酸について一般式を確認し、ノートにまとめる。（２時間）
　　事後学習：小テスト－２の誤答箇所を見直す。（２時間）
第８回：炭化水素の構造と化学的性質－１（アルカン・アルケン）
　　事前学習：炭化水素の分類について確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：アルカンおよびアルケンの構造と性質について、学習内容を整理する。（２時間）
第９回：炭化水素の構造と化学的性質－２（アルキン）　※小テスト－３
　　事前学習：身近にあるアルキンの例を調べ、名称や構造を調べる。（２時間）
　　事後学習：小テスト－３の誤答箇所を見直す。（２時間）
第10回：炭水化物の構造と分類
　　事前学習：糖質・炭水化物について確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：糖質・炭水化物の構造と性質について、学習内容を整理する。（２時間）
第11回：炭化水素の化学的性質　※小テスト－４
　　事前学習：糖質の化学的構造を確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：小テスト－４の誤答箇所を見直す。（２時間）
第12回：脂質の構造と分類
　　事前学習：脂肪酸・中性脂肪について確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：脂肪酸・中性脂肪の構造と性質について、学習内容を整理する。（２時間）
第13回：脂質の化学的性質　※小テスト－５
　　事前学習：中性脂肪の化学的構造を確認し、質問項目をまとめる（２時間）
　　事後学習：小テスト－５の誤答箇所を見直す。（２時間）
第14回：アミノ酸・タンパク質の構造と分類
　　事前学習：アミノ酸・タンパク質について確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：アミノ酸・タンパク質の構造と性質について、学習内容を整理する。（２時間）
第15回：アミノ酸・タンパク質の化学的性質　※小テスト－６
　　事前学習：アミノ酸・タンパク質の化学的構造を確認し、質問項目をまとめる（２時間）
　　事後学習：小テスト－６の誤答箇所を見直す。（２時間）
第16回：定期試験
本科目は学習内容が幅広く、予習・復習が非常に重要である。予習は次回の講義予定に応じて教科書の該当部分に目を通し、キーワードを抽出する。復習は参考図書を利用して授業ノートの確認・補足を中心に行う。
また、復習の手助けとして授業内容に応じて出題される課題に取り組み理解を深める。なお、次回の講義予定、参考図書、課題については授業内に指示する。返却された小テストの内容を見直し、理解が不足している部分の補強に努めることも大切である。最終回の小テストについては、定期試験前に返却する。

成　績　評　価　方　法

小テスト40%、定期試験50%、平常点10%とし、合計で評価する。
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等から総合的に判断する。）

成　績　評　価　基　準

有機化合物の化学式が書けること。有機化合物の化学式からその名称が正確に答えられること。
官能基が有機化合物に与える化学反応性や物理的性質を説明できること。
栄養素または生体成分としての有機化合物について、構造や性質を説明できること。
以上を鑑み、総合点60点以上を合格として単位を認定する。（詳細は履修規定第７条を参照すること）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

健康と栄養のための有機化学　（山本勇 編著 / 健帛社）
テキストは改訂などの理由により変更する場合がある。その他、必要に応じてプリントを配布する。

その他（受講上の注意）

本科目は学習内容が幅広く、予習・復習が非常に重要である。毎回欠かさずに取り組むこと。
講義内容には連続性があり、欠席や遅刻により内容理解に支障きたすことがある。体調管理に留意すること。
授業中に過去に学習した内容を確認することがある。授業ノートにはルーズリーフではなく、通常のノートを推奨する。その他、学生の理解度に応じて授業計画が変更されることがある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

健康管理概論 (Preventive Medicine and Health Promotion)			担当教員	岸　慎治
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2108	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

健康の概念とその歴史的概念を理解する。個人、集団（地域、学校、職場など）を対象として、健康の維持・増進、疾病の予防、回復を目的として行う健康管理について、健康の概念と歴史、疫学、世界、我が国の人口統計、国民の健康づくり、生活習慣病の現状と予防、地域保健、ライフステージ別の保健、健康管理、学校・職場での健康管理などについて教授する。

授業の到達目標

健康の概念とその歴史的概念および個人、集団（市町村、学校、職場など）の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：健康概念、公衆衛生とその歴史（グループワーク、ディスカッション）
　事前学習：授業前にテキストの第1章A.B.Dを読み「健康」の定義、例、質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第2回：疫学1（疫学の概念、疫学指標）
　事前学習：授業前にテキストの第4章A.B.C.Dを読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第3回：疫学2（疫学的研究法）
　事前学習：授業前にテキストの第4章A.B.C.Dを読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第4回：スクリーニング、EBM、疫学研究と倫理
　事前学習：授業前にテキストの第4章E.F.Hを読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第5回：保険統計1（人口統計、人口指標、人口特性）
　事前学習：授業前にテキストの第3章A.B.Cを読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）

第６回：保健統計２（生命表、平均寿命、健康寿命、疾病統計）
事前学習：授業前にテキストの第３章D.E.Fを読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第７回：健康づくり（健康の生物社会心理学モデル、生活習慣病・NCDの概念、健康日本21　グループワーク）
事前学習：授業前にテキストの第５章Aを読み、それぞれについて説明できる様にまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第８回：生活習慣と健康１（身体活動・運動、喫煙）
事前学習：授業前にテキストの第５章C.D.を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第９回：生活習慣と健康２（飲酒、睡眠・休養・ストレス、歯科保健）
事前学習：授業前にテキストの第５章E.F.Gを読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、配布された問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第10回：主要疾患の疫学と予防１（生活習慣病）
事前学習：授業前にテキストの第６章A.B.Cを読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第11回：主要疾患の疫学と予防２（感染症、精神疾患、自殺、不慮の事故、虐待暴力）
事前学習：授業前にテキストの第６章E.F.G.Hを読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第12回：社会保障（医療制度、福祉制度、地域の保健予防システム）
事前学習：授業前にテキストの第７章、第８章を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第13回：高齢者・成人の健康管理、母子の健康管理
事前学習：授業前にテキストの第10章、第11章を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第14回：学校の健康管理
事前学習：授業前にテキストの第13章を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第15回：職場の健康管理
事前学習：授業前にテキストの第12章を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

健康の概念とその歴史的概念および個人、集団（市町村、学校、職場など）の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。

テキスト、参考図書

『社会・環境と健康』（第５版）南江堂　2017年、
講義時にプリントを配布する。

その他（受講上の注意）

講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

解剖生理学 (Anatomical Physiology)			担当教員	岸　慎治
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2110	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

正常な人体のしくみを、その構成単位である細胞レベルから組織、器官、器官系レベルまで、構造と機能との密接な関連のもとに、体系的に理解できるよう教授する。個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も講義する。

授業の到達目標

ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体の形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：細胞
事前学習：授業前にテキスト（解剖生理学 第1章1－5）を読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第2回：組織と器官
事前学習：授業前にテキスト（解剖生理学第1章6.7）を読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間）
第3回：内部環境の恒常性
事前学習：授業前に配布された資料の空所を確認し、質問事項をまとめておく事。（2時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。テキストも参照する事。（2時間）
第4回：消化器系の構造と機能
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち10A）を読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間）
第5回：循環器系の構造と機能
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち11A）を読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間）

第６回：腎・尿路系の構造と機能
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち12A）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第７回：内分泌器官と分泌ホルモン
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち13A）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第８回：神経系の構造と機能
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち14A ａ－ｃ）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第９回：感覚器系（聴覚、味覚、嗅覚、触覚）
事前学習：授業前にテキスト（解剖生理学 第１章人体の構造と機能及び疾病の成り立ち14A ｄ、解剖生理学 第12章）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第10回：呼吸器系の構造と機能
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち15A）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第11回：運動器系の構造と機能
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち16A）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第12回：生殖器系の構造と機能
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち17A）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第13回：血液・造血器・リンパ系の構造と機能
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち18A）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第14回：免疫と生体防御
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち18A）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第15回：まとめ
事前学習：授業前に第１回から第14回までに配布された資料、問題を見直し、不明な点をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体の形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。

テキスト、参考図書
－サクセス管理栄養士講座－『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅡ』 加藤昌彦　第一出版 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第２版　羊土社 講義時にプリントを配布する。
その他（受講上の注意）
講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

解剖生理学実験 (Experiments in Anatomical Physiology)			担当教員	鳴瀬みどり
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2111	1単位	1年後期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

生体組織の形態と生体機能についての学習と理解。
人体の構造と機能について組織観察、血液、呼吸および循環に関する実験、消化実験、感覚器に関する実験を通して理解する。
動物の生命維持および代謝産物の生産活動に対する制御機構や栄養素の生体における生理作用について理解する。

授業の到達目標

・人体の構造について細胞単位から系統的に説明ができる。
・各器官系の構造と機能について説明ができる。
・消化吸収のしくみについて説明ができる。
・成長と栄養素の関わりについて説明ができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他（DVD視聴）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンスおよび人体構造の系統的理解･人体構造に関する（DVD視聴）
第2回：ラットの成長試験①（ガイダンス・飼料作成）（グループワーク、実験、実技）
第3回：ラットの成長試験②（解剖・臓器の観察）（グループワーク、実験、実技）
第4回：呼吸と循環に関する実験（体力測定と運動負荷試験）（グループワーク、実験、実技）
第5回：ラットの成長試験③（血中尿素窒素の測定・まとめ）（グループワーク、実験、実技、討議）
第6回：組織の観察①（胃・十二指腸）（グループワーク、実験、実技）
第7回：組織の観察②（顎下腺･膵臓）（グループワーク、実験、実技）
第8回：消化に関する実験（唾液腺の種類によるアミラーゼ活性の差）（グループワーク、実験、実技）
第9回：前半の総合理解とディスカッション（討議）
第10回：組織の観察③（横紋筋・血球）（グループワーク、実験、実技）
第11回：血液に関する実験①（血球数・ヘモグロビン濃度・ヘマトクリット値）（グループワーク、実験、実技）
第12回：血液に関する実験②（血液凝固と線溶現象）（グループワーク、実験、実技）
第13回：組織の観察④（肝臓･腎臓）（グループワーク、実験、実技）
第14回：尿に関する実験（グループワーク、実験、実技）
第15回：組織の観察⑤（生殖器）（グループワーク、実験、実技）
第16回：定期試験予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ実験手順を確認し、疑問点を考えておくこと。復習については、授業中に指示する。

成績評価方法

定期試験および授業中の復習テスト（30%）、レポート（50%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、授業中の態度、動物飼育時の当番活動も含めて総合評価する。）

成 績 評 価 基 準

・人体の構造と機能について細胞単位から系統的に理解できているか。
・筋・骨格系、神経系、消化器系、血液・血管系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系について、各々の器官系を形成する器官の構造と機能について理解できているか。
・運動時の身体機能の変化、恒常性の維持について理解できているか。
・栄養素の消化吸収のしくみについて理解できているか。
・成長と栄養素の関わりについて理解できているか。

テキスト、参考図書

青峰正裕他編 『イラスト解剖生理学実験 第３版』 東京数学社 2018年
志村二三夫他編 『栄養科学イラストレイテッド演習版：解剖生理学ノート－人体の構造と機能－（改訂第２版）』 羊土社 2014年（ワークブック）
その他、必要に応じて資料等をプリントして配布する。

その他（受講上の注意）

・実験室内では白衣および上履き着用など注意事項を必ず守ること。
・実験は２～３名のグループで行なう。
・組織の観察では、指定のスケッチブック（500円程度）を使用すること。（事前に購入の指示有り）
・色鉛筆、関数電卓を用意すること。
・毎回、１年生前期開講の「解剖生理学」のテキストを持参すること。
・４月または５月に体力測定を実施し，第３回の運動生理に関する実験の基礎データとする。実施日は新入生ガイダンス時または基礎演習の時間に連絡する。
・その他、各回の実験で準備が必要な事項に関しては、第１回のガイダンスで指示する。
・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

微生物学 (Microbiology and Immunology)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2119	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科 / 専門科目 / 専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□　人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生監視員･食品衛生管理者任用資格（選択）

授業の内容

環境中に無数に存在する微生物（細菌･ウイルス･真菌･原虫など）という生命の形態や性状を理解する。
微生物がヒトの健康や生活に及ぼす有害性と有益性について理解する。
微生物感染宿主における生体防御（免疫）応答について理解する。
食品の変質における微生物の作用を理解する。

授業の到達目標

生物の進化と多様性を理解し、比較生物学的な見地から生物の体のつくりとはたらきを概説できる。
原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。
主な感染症の要因となる病原体およびその感染経路を分類できる。
各種微生物（真菌･細菌･ウイルス･寄生虫）の基本的性状や病原性とそれによって生じる病態を概説できる。
細菌の外毒素と内毒素について説明できる。
真菌（カビ類･酵母類･キノコ類）の微生物学的特徴を概説できる。
ウイルスを構造と性状により分類できる。
原虫類･蠕虫類の分類および生活史（ライフサイクル）、感染経路と感染疫学的意義を概説できる。
生体防御機構における免疫系の特徴（特異性、多様性、寛容、記憶）を概説できる。
免疫反応に関わる組織と細胞および分子群を説明できる。
自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。
微生物感染症における免疫応答の特徴を概説できる。
免疫寛容の維持機構とその破綻によるアレルギー発症の機序を概説できる。
アナフィラキシーの症候と診断･治療法を概説できる。
炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を概説できる。
エンドトキシンショックと全身性炎症性反応症候群（SIRS）について概説できる。
下痢症、食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できる。
院内感染の病因となる病原体、薬剤耐性菌を列挙し、対策を説明できる。
日和見感染症を概説できる。
新興感染症･再興感染症および輸入感染症を列挙できる。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できる。
食品の品質変化における微生物の作用を説明できる。
主な発酵食品について、原料と発酵微生物の組合せを説明できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：微生物学序論：微生物の分類と進化の歴史／食品・感染症との関わり
事前学習：第１章／第２章第１節（ｐ２～ｐ８）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「生命の進化と分類」について、ノートにまとめ、「生命とはなにか？」について考察する。（２時間）
学習セルフマネジメント・シートに基づき、当該科目を履修する「目的」と「目標」を明確に把握する。（１時間）

第２回：微生物学総論①：真菌（カビ･酵母）
事前学習：第２章第２節／第３章第４節（p16～p22／p35）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「真菌（カビ･酵母）」を類型化し、ノートにまとめる。（３時間）
第３回：微生物学総論②：ウイルス
事前学習：第２章第２節（p23～p25）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「ウイルス」を類型化し、ノートにまとめる。（３時間）
第４回：グループ課題①　／【小試験①②】
事前学習：なし
事後学習：小試験①②で不正解だった問題を中心に復習し、ノートを修正する。（２時間）
【グループ課題１】で分析対象とする食中毒事例についてグループで検討する。（２時間）

第５回：微生物学総論③：真正細菌（分類と構造）
事前学習：第２章第２節／第３章第３節（p112～p125／p34）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「真正細菌の分類と構造」について整理し、ノートにまとめる。（２時間）
第６回：微生物学総論④：微生物の増殖
事前学習：第３章第２節（p30～p33）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「微生物の増殖条件」を整理し、ノートにまとめる。（２時間）
第７回：微生物学総論⑤：微生物の増殖抑制　／【グループ課題１】提出
事前学習：第４章第２～３節（p39～p44）を読み、課題を整理する。（１時間）
【グループ課題１】をグループでまとめる。（３時間）
事後学習：「微生物の増殖抑制／食品保存条件」を整理し、ノートにまとめる。（２時間）
第８回：グループ課題②　／【小試験③④】／【グループ課題１】返却
事前学習：なし
事後学習：【小試験③④】で不正解だった問題を中心に復習し、ノートを修正する。（１時間）
【グループ課題１】の改善点についてグループで検討する。（２時間）
【グループ課題２】で分析対象とする食中毒事例についてグループで検討する。（１時間）

第９回：微生物学総論⑥：微生物の代謝①（エネルギー代謝）
事前学習：第３章第１節（p26～p29）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「解糖系」について整理し、ノートにまとめる。（２時間）
第10回：微生物学総論⑦：微生物の代謝②（エネルギー代謝）
事前学習：第３章第１節（p26～p29）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「ＴＣＡ回路」について整理し、ノートにまとめる。（２時間）
第11回：微生物学総論⑧：微生物の代謝③（発酵）　／【グループ課題２】提出
事前学習：第３章第１節（p26～p29）を読み、課題を整理する。（１時間）
【グループ課題２】をグループでまとめる。（３時間）
事後学習：「発酵系」について整理し、ノートにまとめる。（２時間）
第12回：グループ課題③　／【小試験⑤⑥】／【グループ課題２】返却
事前学習：なし
事後学習：【小試験⑤⑥】で不正解だった問題を中心に復習し、ノートを修正する。（１時間）
他のグループの課題レポートを検討・評価する。（１時間）
【グループ課題２】の改善点についてグループで検討する。（１時間）
【グループ課題３】で分析対象とする食中毒事例についてグループで検討する。（１時間）

第13回：食品微生物学①：食品の変質（腐敗）
事前学習：第４章第１節（p36～p39）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「腐敗における食品成分の変化」を類型化し、ノートにまとめる。（２時間）
第14回：食品微生物学②：食品の変質（発酵）
事前学習：第５章（p46～p57）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「発酵における食品成分の変化」を類型化し、ノートにまとめる。（２時間）

第15回：グループ課題④：相互評価（グループ間）【討議】／【小試験⑦⑧】
事前学習：【グループ課題３】をグループでまとめる。（５時間）
事後学習：【小試験⑦⑧】で不正解だった問題を中心に復習し、ノートを修正する。（１時間）

第16回：【定期試験】

グループ課題は【課題解決型学習（PBL）】とし、最終的にグループ単位で【成果物】を作成します。
課題：「過去の重大な食中毒事例の原因分析および再発予防策の提言（ケースリポート）」
授業と並行して、主に授業外の自主学習として【グループワーク】形式で取り組んでください。

※授業計画は、学年暦（休日）、進捗状況等により変更する可能性があります。
①小試験は、「自筆ノート」の持込みを認めますので、毎週、授業およびテキストの内容をまとめるよう努めてください。
②グループ課題：「過去の食中毒事例の原因分析および再発防止策の提案①②③」

成績評価方法

①平常点　：40%（小試験５%x８回の合算で評価します／自筆ノートのみ持込可）
②プロジェクト型グループ課題：30%（形成的ルーブリック評価表）
③定期試験：30%（筆記試験／自筆ノート等持込不可）

成績評価基準

生物の進化と多様性を理解し、比較生物学的な見地から生物の体のつくりとはたらきを概説できるか。
原核細胞と真核細胞の特徴を説明できるか。
主な感染症の要因となる病原体およびその感染経路を分類できるか。
各種微生物（真菌･細菌･ウイルス･寄生虫）の基本的性状や病原性とそれによって生じる病態を概説できるか。
細菌の外毒素と内毒素について説明できるか。
真菌（カビ類･酵母類･キノコ類）の微生物学的特徴を概説できるか。
ウイルスを構造と性状により分類できるか。
原虫類･蠕虫類の分類および生活史（ライフサイクル）、感染経路と感染疫学的意義を概説できるか。
生体防御機構における免疫系の特徴（特異性、多様性、寛容、記憶）を概説できるか。
免疫反応に関わる組織と細胞および分子群を説明できるか。
自然免疫と獲得免疫の違いを説明できるか。
微生物感染症における免疫応答の特徴を概説できるか。
免疫寛容の維持機構とその破綻によるアレルギー発症の機序を概説できるか。
アナフィラキシーの症候と診断･治療法を概説できるか。
炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を概説できるか。
エンドトキシンショックと全身性炎症性反応症候群（SIRS）について概説できるか。
下痢症、食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できるか。
院内感染の病因となる病原体、薬剤耐性菌を列挙し、対策を説明できるか。
日和見感染症を概説できるか。
新興感染症･再興感染症および輸入感染症を列挙できるか。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できるか。
食品の品質変化における微生物の作用を説明できるか。
主な発酵食品について、原料と発酵微生物の組合せを説明できるか。

テキスト、参考図書

テキスト：
①『基礎･応用･臨床　微生物学と実験』　光生館　2014年　定価￥1,995－（税込）
②『病気が見える⑥：免疫･膠原病･感染症』　メディックメディア社　2009年　定価￥3,150－（税込）
参考図書：
① 東京大学編　『生命科学（改訂第３版）』　羊土社　2009年
② 古賀泰裕編　『医科プロバイオティクス学』　シナジー　2009年
③ 本田武司編　『イラスト感染症･微生物学』　羊土社　2011年
④『ブラック微生物学（第６版）』　丸善

その他（受講上の注意）

授業開始時に出欠状況を確認する。
遅刻は、授業の１/３（30分）以内に申し出れば認め、それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱う。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

微生物学実験 (Experiments in Microbiology)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2120	1単位	1年後期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科 / 専門科目 / 専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生監視員･食品衛生管理者任用資格（選択）

授業の内容

微生物の生態や微生物によって引き起こされる種々の現象を観察するための基本的な技法の原理を理解する。
食品衛生検査および食品微生物操作に必要な微生物学的技術を習得する。

授業の到達目標

様々な環境（土壌･水中等）あるいは生物（食物）の体表面に微生物群が常在していることを理解する。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を理解する。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得する。
食品に付着あるいは内在している微生物を分離･培養し、検出する方法の原理を理解する。
各種微生物（真菌･細菌･ウイルス･寄生虫等）の生育要件を把握し、培養できる。
各種微生物（真菌･細菌･寄生虫卵等）を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できる。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法（公定法および迅速簡易法）を理解する。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の意味を理解する。
発酵における微生物の働きを理解する。
腸内微生物が摂取した食品の影響により変化することを理解する。
抗菌活性のある薬剤や化合物の微生物への作用機序および薬剤耐性の機序を理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：実験1：環境･体表面からの菌の分離①（培地の作成）
第2回：実験1：環境･体表面からの菌の分離②（検体採取と分離培養）
第3回：実験1：環境･体表面からの菌の分離③（分離した細菌のグラム染色）
第4回：実験1：環境･体表面からの菌の分離④（顕微鏡観察）
第5回：実験1：実験レポート作成法の説明
　　事後学習：【実験1報告書】の作成を【グループワーク】で行う。

第6回：実験2：食品による腸内微生物叢の変化①（マウス飼育）
　　【実験1報告書】の自己添削・修正

第7回：実験3：河川水・飲用水の微生物検査①（検液処理･培養）
第8回：実験3：河川水・飲用水の微生物検査②（集落計測･結果判定）
　　事後学習：【実験3報告書】の作成を【グループワーク】で行う。

第8回：実験2：食品による腸内微生物叢の変化②（検体採取）
　　【実験3報告書】自己評価（グループ内）　【討議】

第９回：実験４：食材／加工食品の微生物検査①（検体処理･培養）
第10回：実験４：食材／加工食品の微生物検査②（集落計測･結果判定）
事後学習：【実験４報告書】の作成を【グループワーク】で行う。
第11回：【実験４報告書】相互評価（グループ間）【討議】

第12回：実験２：食品による腸内微生物叢の変化③（分析結果のまとめ）
事後学習：【実験２報告書】の作成を各自で行う。

第13回：実験５：抗菌薬/保存剤と薬剤感受性試験①（培養）
第14回：実験５：抗菌薬/保存剤と薬剤感受性試験②（結果判定）
事後学習：【実験５報告書】の作成を【グループワーク】で行う。

第15回：【理解度確認試験】および実験室大掃除

実験１～５はすべて、【課題解決型学習】を【実験・実技】形式で実施します。
【実験報告書】は、事後学習として【グループワーク】形式でグループ毎に作成してください。

※授業計画は、学年暦（休日等）、気候や進捗状況等により変更する可能性があります。実験報告書（レポート）の作成にあたっては、第一に「精確な観察」、第二に「論理的な考察」に留意して記述してください。
①なぜそのような観察結果が得られたのか？
②観察された事実･現象から何が示唆されるか？
③どのような仮説を構築すれば、それらの観察結果を矛盾なく説明できるのか？
④そして、どのような検証実験を行えば、その仮説の真偽を検証できるのか？
について固定観念を排してすなおに「考察」しながら「結論」を導いてください。
参考図書は、授業の際にも紹介します。

成績評価方法

①レポート課題：75%（実験レポート（各15%）x５）　※提出は授業への出席が前提
②確認試験：25%（確認試験（各５%）x５）

成績評価基準

様々な環境（土壌･水中等）あるいは生物（食物）の体表面に微生物群が常在していることを説明できるか。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を説明できるか。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得しているか。
食品に付着あるいは内在している微生物を分離･培養し、検出する方法の原理を説明できるか。
各種微生物（真菌･細菌･ウイルス･寄生虫等）の生育要件を把握し、培養できるか。
各種微生物（真菌･細菌･寄生虫卵等）を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できるか。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法（公定法および迅速簡易法）を説明できるか。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の意味を説明できるか。
発酵における微生物の働きを説明できるか。
腸内微生物が摂取した食品の影響により変化することを説明できるか。
抗菌活性のある薬剤や化合物の微生物への作用機序および薬剤耐性の機序を説明できるか。

テキスト、参考図書

テキスト：
①『基礎･応用･臨床　微生物学と実験』光生館　2014年　【購入済】
②配布資料（実験ノート形式）
参考図書：
①『病気が見える⑥：免疫･膠原病･感染症』メディックメディア社　2009年　【購入済】
② 熊谷進・山本茂貴編『食の安全とリスクアセスメント』中央法規　2004年
③『大量調理施設　衛生管理のポイント（５訂）』中央法規　2016年

その他（受講上の注意）

毎回の実験への出席（実験作業への参加）を重視し、授業開始時に出欠状況を確認します。
遅刻は、授業の１/３（45分）以内に申し出れば認め、それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱います。
実験用白衣および靴を持参しなかった場合、各１点減点します。
授業中の私語･携帯電話（スマートフォン）の使用等で説明を聞かず実験に失敗した場合、１点減点します。
実験終了後、火元点検に不備があれば、グループ全員から１点減点します。
安全を期するために白衣を着用し、正確な実験操作を妨げるおそれのある華美な服装は慎むこと。実験は、ガス･火･薬品を使用し危険が伴うため、安全確保の決まりごとをよく理解するよう努め、これを遵守してください。
故意に安全衛生上の危険行為をとる者には、実験停止･室外退去の措置を取り、さらに単位を認定しないこともあります。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品学総論 (Food Science and Food Chemistry)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2121	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格(選択)

授業の内容

食品の基本的知識や特性を食品の一次機能成分である栄養成分を中心に網羅的に解説する。食品中の主要栄養成分の化学構造と成分の化学的特性とそれに基づく化学変化がさまざまな食品の特徴になっていることを理解してもらうこと、また、今後履修する専門科目にその知識がつなげられるようにすることがねらいである。

授業の到達目標

管理栄養士国家試験の「食べものと健康」領域の主要科目の一つであるとともに栄養管理を行える能力を身につける上でもっとも基本となる科目の一つである。食品の分類、各食品群の栄養的特徴など食品の基本的知識を理解する。また、食品中の主要な栄養成分(食品の一次機能成分)の化学構造と化学的特性を体系的に理解し、食品の加工・貯蔵・調理過程などで生じるそれら成分の化学変化を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食品とは、食品の分類
　事前学習：テキストp13〜14を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：食品の分類についての課題プリントを完成させておくこと。(2時間)
第2回：食品成分表：構成と内容
　事前学習：テキストp15〜32を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第3回：水の構造と性質
　事前学習：テキストp37〜43を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第4回：タンパク質(1)アミノ酸の構造と分類
　事前学習：テキストp63〜69を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第5回：タンパク質(2)アミノ酸の性質、ペプチド
　事前学習：テキストp69〜71を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第6回：タンパク質(3)タンパク質の構造・種類・栄養価
　事前学習：テキストp71〜79を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。(2時間)

第７回：炭水化物（１）単糖類の構造と性質
事前学習：テキストp44～50を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第８回：炭水化物（２）少糖類、甘味料
事前学習：テキストp50～54を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第９回：炭水化物（３）多糖類
事前学習：テキストp54～63を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第10回：脂質（１）脂肪酸の構造と性質
事前学習：テキストp79～84を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第11回：脂質（２）脂質の分類
事前学習：テキストp84～87を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第12回：脂質（３）油脂の性質、油脂の加工技術、脂質の栄養
事前学習：テキストp88～94を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第13回：ビタミン（１）脂溶性ビタミン
事前学習：テキストp100～106を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第14回：ビタミン（２）水溶性ビタミン
事前学習：テキストp106～115を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第15回：無機質
事前学習：テキストp94～98を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験40%、小テスト60%（20%×３回）

成績評価基準

・食品を分類できる。
・食品中の主な栄養成分の化学構造を理解し、化学的特性を説明できる。
・食品中の主な栄養成分の化学的特性を加工・貯蔵・調理過程で生じる化学変化と関連づけて説明できる。
・成分名などの基礎専門用語が身についている。

テキスト、参考図書

テキスト
小関正道編　食べものと健康　改訂　マスター食品学Ⅰ　建帛社　2016年
日本食品成分表2019　七訂　栄養計算ソフト・電子版付　医歯薬出版　（食品成分表説明の際に使用、他の授業でも使用する。）

参考図書
荒井綜一・倉田忠男・田島眞編　新　櫻井　総合食品事典　同文書院　2012年
久保田紀久枝・森光康二郎編　スタンダード栄養・食物シリーズ５　食品学－食品成分と機能性－　第２版補訂　東京化学同人　2011年

その他（受講上の注意）
講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。欠席した場合は、欠席した授業内容により、補講あるいは課題に対するレポート提出を課す。授業計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品機能学 (Functional Food Science)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2122	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格(選択)

授業の内容

食品の一次機能(栄養)、二次機能(嗜好)、三次機能(生体調節)の内、二次機能と三次機能について解説する。食品成分の生体調節機能については保健機能食品を中心に説明する。本科目内容は、管理栄養士国家試験の「食べものと健康」領域の出題内容を含んでいる。

授業の到達目標

嗜好成分の種類と特徴および食品中機能成分の健康に与える影響、それらの疾病予防に対する役割等、生体調節機能について理解する。また、特定保健用食品などの「新しい食品」の法制上の位置づけおよびその表示を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食品成分の3つの機能について、嗜好成分(1)　色素成分
　事前学習：テキストP115～121を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第2回：嗜好成分(2)　味成分
　事前学習：テキストP122～127を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第3回：嗜好成分(3)　香り成分
　事前学習：テキストP128～131を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第4回：嗜好成分(4)　アミノ・カルボニル反応と反応生成物質
　事前学習：テキストP163～167を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第5回：機能性食品とは、健康食品にかかわる制度
　事前学習：テキストP171～174を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)
第6回：特定保健用食品(1)　整腸
　事前学習：テキストp181～182を読み、質問項目についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。(2時間)

第７回：特定保健用食品（２）　血圧調整
　　事前学習：テキストp182～183を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第８回：特定保健用食品（３）　脂質の吸収・代謝の調整１
　　事前学習：テキストp182を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第９回：特定保健用食品（４）　脂質の吸収・代謝の調整２
　　事前学習：テキストp185を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第10回：特定保健用食品（５）骨・歯の健康維持調整１
　　事前学習：テキストp183を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第11回：特定保健用食品（６）骨・歯の健康維持調整２
　　事前学習：テキストp184を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第12回：特定保健用食品（７）血糖値の調整
　　事前学習：テキストp184～185を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第13回：特定保健用食品について
　　事前学習：テキストP174～175を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第14回：栄養機能食品・特別用途食品について
　　事前学習：テキストP175～180を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第15回：遺伝子組換え食品について
　　事前学習：第14回に配布したプリントを読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験50%、小テスト（25%×２回）

成　績　評　価　基　準

・嗜好成分の種類と特徴および食品中機能成分の生体調節機能について説明できる。
・特定保健用食品などの機能表示が可能な食品の法制上の位置づけと表示について説明できる。

テキスト、参考図書

前期の食品学総論で使用するテキストと配布プリント

その他（受講上の注意）

試験毎の課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。授業の計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品加工学 (Food Processing)			担当教員	小林　恭一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2123	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生管理者任用資格（選択）

授業の内容

現代の食生活において、加工食品は欠かせないものとなっている。食品加工の目的は、原料農林水産物の保存・品質保持、栄養性・嗜好性の向上、利便性・輸送性・経済性の向上などだが、これら食品加工の意義･目的に触れながら、食品保存及び食品加工の原理を解説する。また、個々の加工食品ごとの加工操作の特徴･方法及び技術についても紹介し、さらに新しい食品加工技術、食品の規格や表示についても解説する。

授業の到達目標

食品加工の原理･方法･技術について理解することを目標とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：はじめに、食品加工の意義および目的
　　事後学習：食品加工の意義、目的についてノートにまとめること（2時間）
第2回：食品の加工時における変化
　　事前学習：配られたプリントの第2回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第3回：食品保存の原理（1）、食品の劣化要因（生物的要因、化学的要因、物理的要因）
　　事前学習：配られたプリントの第3回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第4回：食品保存の原理（2）、温度操作･水分制御･pHの調節による保存
　　事前学習：配られたプリントの第4回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第5回：食品の保存原理（3）、殺菌･食品添加物による保存
　　事前学習：配られたプリントの第5回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第6回：穀類の加工
　　事前学習：配られたプリントの第6回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第7回：豆類・いも類の加工
　　事前学習：配られたプリントの第7回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第8回：野菜類・果実類の加工
　　事前学習：配られたプリントの第8回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）

第９回：畜肉類･乳類・卵の加工
　　事前学習：配られたプリントの第９回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第10回：水産物の加工、魚介類の成分特性、魚介類の加工
　　事前学習：配られたプリントの第10回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第11回：発酵食品
　　事前学習：配られたプリントの第11回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第12回：食用油脂、調味料
　　事前学習：配られたプリントの第12回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
　　授業で課されたテーマについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：香辛料･嗜好飲料類
　　事前学習：配られたプリントの第13回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第14回：食品包装（役割･材料･方法）、食品の表示
　　事前学習：配られたプリントの第14回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第15回：新しい食品加工技術
　　事前学習：配られたプリントの第15回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　小レポート（20%）　平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

食品加工の原理・方法・技術について理解できたかを判断の基準とします。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用しません。適時プリントを配布します。
参考図書
１）菅原龍幸編著 「改訂　食品加工学」 建帛社（2012）
２）吉田勉編著　 「新食品加工学」 医師薬出版　（1999）
３）西村公雄編　 「食品加工学」 化学同人（2012）
４）小倉長雄ほか 「食品加工学」 建帛社（1998）

その他（受講上の注意）

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品分析実験 (Experiments in Food Analysis)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2125	1単位	1年前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格(選択)

授業の内容

食品成分分析に必要な分析技術の理論と原理を理解するため、基礎的な滴定法をはじめ、比色法、原子吸光法、クロマトグラフ法などを用いた分析を行う。また、これら分析技術をとおして、食品成分表に掲載されている成分についてや食品成分の化学的特性など座学で学んだ知識をより深く理解することをねらいとする。

授業の到達目標

・化学実験の基礎技術である中和滴定、沈殿滴定をとおして、基本的実験器具の取扱い、試薬溶液の濃度の概念(モル濃度と規定濃度)を理解する。
・食品成分の化学的特性を利用してさまざまな分析法で食品成分が分析できることをその原理・理論をとおして理解する。
・食品成分表に掲載されている一般成分について、その分析法と食品毎の各成分含有量の違いや特徴について理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、実験の進め方、実験にあたっての基礎知識
第2回：レポートの書き方、試薬溶液の濃度と調製について説明
第3回：実験：中和滴定(1)　水酸化ナトリウムの力価の標定
第4回：実験：中和滴定(2)　食酢中の酢酸濃度の定量
第5回：実験：沈殿滴定(1)　硝酸銀溶液の力価の標定
第6回：実験：沈殿滴定(2)　食品中の食塩の定量(モール法と原子吸光光度法による食塩の定量)
第7回：比色法について説明、実験：比色分析(1)　酒石酸鉄吸光光度法による検量線の作成
第8回：実験：比色分析(2)　酒石酸鉄吸光光度法による緑茶及び茶葉中のタンニンの定量
第9回：一般成分分析実験計画の説明、実験：一般成分の分析(1)　試料調製
第10回：実験：一般成分の分析(2)　水分の定量・灰分の定量
第11回：実験：一般成分の分析(3)　脂質の定量－1　秤量・抽出
第12回：実験：一般成分の分析(4)　脂質の定量－2　秤量、たんぱく質の定量－1　試料の分解
第13回：実験：一般成分の分析(5)　タンパク質の定量－2　蒸留・滴定
第14回：実験：一般成分の分析(6)　タンパク質の定量－3　蒸留・滴定及び一般成分全体のまとめ
第15回：実験：天然色素の分離
実験ノートは毎回整理する。食品学総論で学んだ知識と関連づけて学び、専門用語をよく理解するように努力する。

成績評価方法

レポート(90%)、平常点(10%)、平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。

成　績　評　価　基　準

・食品分析技術が身につき、また、分析原理・理論を理解した操作ができる。
・化学実験で用いる濃度の概念が理解でき、測定値から正確な計算結果（食品中の成分含有量）を導き出せる。
・自ら行った実験で求めた結果から、食品中のある成分含有量を食品学総論で学んだ知識を生かし客観的に評価・考察できる。

テキスト、参考図書

テキスト　『基礎から学ぶ　食品化学実験テキスト』　谷口　亜樹子　他編者　建帛社

その他（受講上の注意）

実験に臨む態度として、安全を期するために白衣、室内用靴、タオルを持参すること。実験は、ガス、火、薬品を使用するので、危険が伴うため、決まりごとについては守ってもらう。指示に従わない者、危険行為や態度をとる者に対しては、実験停止措置をとり、さらには単位を認定しないこともある。なお授業には連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすことがある。欠席者は補講あるいは課題を課す。授業の計画の予定は変更されることがある。授業内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

調理学 (Cookery Science)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2128	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)　栄養士免許(必修)　食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(必修)

授業の内容

調理中の変化を科学的に解明し、健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作るための調理の理論を学ぶ。

授業の到達目標

歴史や文化によって培われた食文化、食生活、健康、食料、環境問題といった人間と食べ物の関わりについて理解する。
調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：人間と食品(食文化)
　事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間)
第2回：人間と食品(環境)、食事設計の基礎
　事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(2時間)
第3回：食事設計の基礎
　事前学習：授業前にテキストの第2章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。切り貼り用プリントをノートに切り貼りし、まとめておくこと(3時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(1時間)
第4回：調理操作(加熱調理操作、非加熱調理操作、調味操作)、設備・器具・エネルギー源
　事前学習：授業前にテキストの第3章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。切り貼り用プリントをノートに切り貼りし、まとめておくこと(3時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(1時間)
第5回：食品の特徴に応じた調理の特性(食品成分)
　事前学習：授業前にテキストの第3章6.1を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。切り貼り用プリントをノートに切り貼りし、まとめておくこと(3時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(1時間)
第6回：食品の特徴に応じた調理の特性(植物性食品1)
　事前学習：授業前にテキストの第3章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。切り貼り用プリントをノートに切り貼りし、まとめておくこと(3時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う(1時間)

第７回：食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品２）
　　事前学習：授業前にテキストの第３章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。切り貼り用プリントをノートに切り貼りし、まとめておくこと（３時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（１時間）
第８回：食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品３）
　　事前学習：授業前にテキストの第３章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。切り貼り用プリントをノートに切り貼りし、まとめておくこと（３時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（１時間）
第９回：食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品１）
　　事前学習：授業前にテキストの第３章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。切り貼り用プリントをノートに切り貼りし、まとめておくこと（３時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（１時間）
第10回：食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品２）
　　事前学習：授業前にテキストの第３章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。切り貼り用プリントをノートに切り貼りし、まとめておくこと（３時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（１時間）
第11回：食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品３）
　　事前学習：授業前にテキストの第３章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。切り貼り用プリントをノートに切り貼りし、まとめておくこと（３時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（１時間）
第12回：食品の特徴に応じた調理の特性（抽出食品素材・その他）
　　事前学習：授業前にテキストの第３章6.4を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。切り貼り用プリントをノートに切り貼りし、まとめておくこと（３時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（１時間）
第13回：調理操作による食品組織・物性と栄養成分の変化
　　事前学習：授業前にテキストの第４章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。切り貼り用プリントをノートに切り貼りし、まとめておくこと（３時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（１時間）
第14回：献立作成１（献立作成条件と手順）
　　事前学習：授業前にテキストの第５章を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題について、図書館等で調べておくこと（２時間）
第15回：献立作成２（供食、食卓構成、食事環境）
　　事前学習：前回の授業で課された課題について、資料を収集しておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題について、完成させて提出をする（２時間）
第16回：定期試験
予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、予習ノートを作成すること。
復習として、講義の当該部分の配布資料などを見直して、ノート整理を行うこと。

成　績　評　価　方　法

定期試験（60%）　予習ノートの状況・小テスト（30%）　平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について説明することができる。

テキスト、参考図書

テキスト：西堀すき江編著　「マスター調理学」（第３版）　建帛社
参考図書：藤沢和恵　他　「現代調理学」　医歯薬出版
　　渕上倫子編著　「調理学」　朝倉書店
　　山崎清子　他　「調理と理論」　同文書院

その他（受講上の注意）

出席状況、授業への取り組み態度（小テスト含む）を重視する。必ず予習・復習を含むノート整理を行う。授業の計画予定は変更されることがある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

調理学実習 (Cookery Science Practicum)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2129	1単位	1年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修) 栄養士免許(必修)

授業の内容

健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る基礎技術を習得する。

授業の到達目標

調理学の理論に基づいて、食品の性質と調理操作との関係を理解する。
安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作る基礎的な調理技術を身につける。
適切な食品の選択と組み合わせによる献立作成ができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：調理の意義と目的　および　計量方法や器具の使い方
第2回：日本料理　(炊飯、だし、間接焼き、和える、卵の調理)(実習)
第3回：日本料理　(変り飯、煮る、寒天の調理)(実習)
第4回：日本料理　(もち米、蒸す、でんぷんの調理)(実習)
第5回：日本料理　(すし、小麦粉の調理)(実習)
第6回：日本料理　(麺の扱い方、揚げ物)(実習)
第7回：中国料理　(湯菜・拌菜・蒸菜)(実習)
第8回：中国料理　(点心・揚菜)(実習)
第9回：中国料理　(点心・炸菜)(実習)
第10回：中国料理　(点心・炒菜)(実習)
第11回：中国料理　(点心)(実習)
第12回：西洋料理　(肉の調理、いもの調理、ゼラチンの調理)(実習)
第13回：西洋料理　(ルー、揚げる、砂糖の調理)(実習)
第14回：西洋料理　(魚の調理、オーブン加熱)(実習)
第15回：西洋料理　(パンの調理、果物の調理、嗜好飲料)(実習)
第16回：定期試験
予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。

成績評価方法

定期試験(30%)　実技試験(20%)　平常点(20%)　実習ノート(30%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、実習ノートの提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作るための基礎的な調理技術を習得できている。
調理学の理論に基づいて、適切な食品の選択、組み合わせによる献立作成および調理、演出（盛り付け）ができる。

テキスト、参考図書

テキスト：西堀すき江編著　『食育に役立つ調理学実習』
　　『日本食品標準成分表2015年版（七訂）』
　　その他、プリントを配布する。
参考図書：谷洋子他　『わかりやすい調理』　みらい　1998

その他（受講上の注意）

衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習室では、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。
実習費は別途に集金する。
授業への出席状況、実習態度、ノートの提出を重視する。欠席した場合は必ず補講（実習）を受講する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用調理学実習 (Applied Cookery Science Practicum)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2130	1単位	1年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）栄養士免許（必修）

授業の内容

健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る応用技術を習得する。

授業の到達目標

より高度かつ最新の調理器具の使い方や調理技術を身につける。
郷土料理、行事食、対象者別の供応食について自ら計画し、適応調理を実施できる。
フルコースのテーブルセッテイングからサービスの方法について学ぶ。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：季節の献立（秋）（実習）
第2回：諸外国の料理（インド・ロシア・ベトナム他）　（実習）
第3回：諸外国の料理（スペイン・イタリア・韓国他）　（実習）
第4回：年中行事と食卓の演出　（実習、グループワーク、発表）
第5回：福井県の郷土料理　（実習）
第6回：フルコース（前菜・スープ・魚・肉・サラダ・菓子）　（実習）
第7回：フルコース（食卓作法）　（実習）
第8回：対象者別の調理　（実習、グループワーク、発表）
第9回：新しい調理法　（実習）
第10回：包丁とぎ　（実習）
第11回：行事食（クリスマス料理）（実習）
第12回：行事食（正月料理）（実習）
第13回：季節の献立（冬）（実習）
第14回：材料・テーマ別の調理　（実習、グループワーク、発表）
第15回：包丁の使い方　（実習）
第16回：定期試験
予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。
自主献立のときは、グループのメンバーとともに料理の由来や調理法などを調べ、献立を作成すること。

成績評価方法

定期試験（30%）　実技試験（20%）　平常点（20%）　実習ノート（30%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、自主献立レポートの内容、提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

高度かつ最新の調理器具や調理技術、テーブルセッテイングやマナーなどの知識が修得できている。
郷土料理を味わい、由来や調理法などについて説明することができる。
行事食、供応食などについて自ら献立を作成し、適応調理を実施することができる。

テキスト、参考図書

テキスト：西堀すき江編著　『食育に役立つ調理学実習』　建帛社
　　『日本食品標準成分表2015年版（七訂）』
　　その他、プリントを配布する。
参考図書：谷洋子他　『わかりやすい調理』　みらい

その他（受講上の注意）

衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習室では、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。
実習費は別途に集金する。
授業への出席状況、実習態度、ノートの提出を重視する。欠席した場合は必ず補講（実習）を受講する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎栄養学 (Nutrition)			担当教員	鈴木　和春
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2132	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　栄養とその意義についての理解

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）
栄養士免許（必修）
食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

本講義では人間が必要とする糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルや食物繊維など各栄養素について解説し、食物の消化・吸収・体内での利用・排泄を通して人体で営まれる「栄養」という生命現象の機序について学ぶ。

授業の到達目標

栄養の基本的概念及びその意義を理解するとともに、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、エネルギー及び栄養素の代謝とその生理的意義を理解する。
また、現代の食生活の変化に伴い食事形態が高脂質・高たんぱく質及び低食物繊維食の傾向となるなかで、そのメカニズムが摂食行動や食嗜好にどのような影響を及ぼしているか解説し理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス・栄養学の基本概念
　事前学習：授業前に教科書第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業でキーワードについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：摂食行動（グループワーク）
　事前学習：次回の授業では食欲と摂食についてディスカションをするため、第2章の食欲について自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：配布プリント等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べておくこと。（2時間）
第3回：栄養素の消化と吸収
　事前学習：授業前に教科書第3章の消化器のを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で配布したプリント等の見直し、問に答えること。（2時間）
第4回：栄養素の消化と吸収
　事前学習：授業前に教科書第3章の吸収の部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学修：授業で配布したプリント等の見直し、キーワードについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第5回:栄養素の機能と代謝　糖質の栄養
　事前学習：授業前に教科書第4章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で配布したプリント等の見直し、問に答えること。（2時間）
第6回：栄養素の機能と代謝　糖質の代謝
　事前学習：授業前に教科書第4章の糖質の体内代謝の部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業でキーワードについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）

第７回：栄養素の機能と代謝　脂質の栄養
　　事前学習：授業前に教科書第５章を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布したプリント等の見直し、問に答えること。（２時間）
第８回：栄養素の機能と代謝　脂質の代謝（中間試験を含む）
　　事前学習：授業前に教科書第５章の脂質の栄養機能の部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業でキーワードについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第９回：栄養素の機能と代謝　タンパク質の代謝
　　事前学習：授業前に教科書第６章を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布したプリント等の見直し、問に答えること。（２時間）
第10回：栄養素の機能と代謝　　たんぱく質の栄養
　　事前学習：授業前に教科書第５章のたんぱく質の栄養価の部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業でキーワードについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第11回：栄養素の機能と代謝　　ビタミンの栄養
　　事前学習：授業前に教科書第７章の脂溶性ビタミンの部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布したプリント等の見直し、問に答えること。（２時間）
第12回：栄養素の機能と代謝　　ビタミンの栄養
　　事前学習：授業前に教科書第７章の水溶性ビタミンの部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業でキーワードについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：栄養素の機能と代謝　　ミネラルの栄養
　　事前学習：授業前に教科書第８章の多量ミネラルの部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業でキーワードについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：栄養素の機能と代謝　　ミネラルの栄養
　　事前学習：授業前に教科書第８章の微量電素の部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業でキーワードについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：水・電解質の栄養的意義（グループワーク）
　　事前学習：授業前に教科書第９章を読み、自分なりの質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業でキーワードについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験
学習する単元ごとの重要なキーワードをノートにファイルすることをすすめる。
授業に関連して出題される課題については、その背景となる知識も含めて整理しまとめておくことが望ましい。

成　績　評　価　方　法

定期試験45％、中間試験45%、授業への取り組み態度等10％

成　績　評　価　基　準

・栄養の基本的概念およびその意義を理解できているか。
・健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割が理解できているか。
・栄養素の代謝及び生理的意義が理解できているか。
・栄養素の摂取に対する生体応答の個人差について説明できるか。

テキスト、参考図書

テキスト：三訂「基礎栄養学」 林　淳三監修木元・鈴木編著　（建帛社）
参考図書：「人体栄養学の基礎　第２版」小林修平、山本茂編著　（建帛社）
　　「基礎栄養学 - 栄養科学イラストレイテッド」 田地陽一 著　（羊土社）
　　「基礎栄養学ノート改訂２版 - 栄養科学イラストレイテッド」 田地陽一 著　（羊土社）
　　「カレント　基礎栄養学」木元・中島編著　（建帛社）

その他（受講上の注意）

・栄養学を修める上での基盤となる重要な科目であり、授業の際には、ノートはきちんと取り、必ず課題を提出すること。
・講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。
・授業の計画の予定は、変更されることがある。
・授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎栄養学実験 (Experiments in Nutrition)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2133	1単位	1年前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　栄養素の代謝とその生理的意義についての理解

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

食物を摂取することにより生体に必要な物質を取り入れ、生命維持や成長・発育、健康維持に利用する営みを「栄養」といい、栄養素を利用するためのしくみやそれぞれの栄養素のはたらきについて学ぶのが基礎栄養学である。本科目では、基礎栄養学の講義で学習する知識をより深く、確かなものとするよう栄養生理学的な内容とも関連付けた実践的な授業を展開する。
授業ではグループに分かれて実験を行い、実験の目的・原理を把握し、実験器具の操作、実験方法を習得するとともに、個人で作成・提出する実験報告書（レポート）や「班レポート」(実験グループの構成メンバーが共同で作成する)、グループ討議を通して得られた結果を適正に考察する能力を養う。

授業の到達目標

栄養とは何か、その意義について栄養素の定性実験や定量実験を通して理解する。また、各学生が栄養素の化学的な性質、生理学的な役割についての知識を養うとともに、科学的根拠に基づく栄養学を実践するための実験手法の基礎を習得することを到達目標とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　──授業計画・実験器具・機器の操作説明──　（グループワーク）
第2回：秤量器具の取扱い、濃度計算　（グループワーク）
第3回：糖質の定性（1）　でんぷん・糖の定性　（実験, ディスカッション, グループワーク）
第4回：糖質の定性（2）　ケトースの定性　（実験, ディスカッショングループワーク）
第5回：糖質の定性（3）　還元糖の定性　（実験, ディスカッショングループワーク）
第6回：脂質の定性　コレステロール・グリセリンの定性　（実験, ディスカッション, グループワーク）
第7回：タンパク質の変性、凝固　（実験, ディスカッショングループワーク）
第8回：タンパク質・アミノ酸の定性（1）　アミノ基・ペプチド結合の定性（実験, ディスカッショングループワーク）
第9回：タンパク質・アミノ酸の定性（2）　アミノ酸の側鎖と定性　（実験, ディスカッショングループワーク）
第10回：物質の同定　（中間実技試験）　（実験）
第11回：糖質の消化試験（1）でんぷんの抽出と確認　（実験, ディスカッション, グループワーク）
第12回：糖質の消化試験（2）　パンクレアチンによる消化　（実験, ディスカッション, グループワーク）
第13回：タンパク質の定量　──ビウレット法──　（実験, ディスカッション, グループワーク）
第14回：タンパク質の消化試験　（実験, ディスカッション, グループワーク）
第15回：脂質の消化試験　──TLC法──　（実験, ディスカッション, グループワーク）
第16回：定期試験
班レポートは原則として個人レポートの締め切り前に提出するものであり、回収後は速やかに実験データや考察内容などについてコメントして返却する。班レポートの評価内容、修正点を確認し、個人レポートに反映させると良い。
その他、授業内容・学生の理解度に応じてその他の課題を与えることがある。レポートは原理・考察を記述する際に必ず参考文献を引用し、出典を明記すること。各回のテーマとキーワードをよく理解するよう努めること。

成　績　評　価　方　法
レポート25%、実技試験25%、定期試験40%、平常点10%とし、合計で評価する。 （平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断する。）
成　績　評　価　基　準
定性試験の結果にもとづき、栄養素を分類・同定できるか。実験原理を理解し、栄養素を正確に定量できるか。また、定量方法や栄養素の物理的、化学的ならびに栄養学的性質について説明できるか。以上を鑑み、総合点60点以上を合格として単位を認定する。（詳細については履修規定第７条を参照すること）
テキスト、参考図書
Nブックス　実験シリーズ・基礎栄養学実験（木元幸一・鈴木和春　編著 / 建帛社） その他、必要に応じて参考図書の紹介、プリントの配布をおこなう。
その他（受講上の注意）
実験室に入室する際は必ず白衣・上履きを着用し、タオル・ハンカチを持参すること。長い髪はまとめ、前髪や顔の横に垂れる頭髪はピンで留める。実験操作に支障をきたす化粧などはしない。安全管理上、授業中の指示や実験室使用のルールについては必ず従うこと。指示に従わない者、危険な行為に及ぶ者については実験を中止し、退去を命じることがある。 レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。また、期限内に提出された場合でも内容不十分な場合は再提出となる。 欠席した場合は、必要に応じて追実験を実施する。日程については担当教員に相談すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅰ(成長･発達･加齢、食事摂取基準) (Applied Nutrition Ⅰ (Development, Dietary Reference Intakes))			担当教員	鈴木　和春
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2134	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　日本人の食事摂取基準の理論を理解し、活用に利用できるよう理解する。

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)　栄養士免許(必修)

授業の内容

エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準(推定エネルギー必要量及び各策定項目)がどのような科学的根拠、すなわち、栄養学研究の成果に基づいて策定されているかのかの基礎理論i 及び、栄養マネジメントにおける食事摂取基準の活用について解説する。
また、人体の成長・発達・加齢にともなう主要な生理現象と生化学的変化、ライフステージにおける食事摂取基準の策定と活用について解説する。

授業の到達目標

栄養環境への身体適応及び、エネルギー・栄養素に関する食事摂取基準の科学的根拠について、理解する。人体の成長・発達・加齢にともなう生理現象と生化学的変化、各ライフステージにおける食事摂取基準の特徴について知識を取得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食事摂取基準の意義
　事前学習：テキストの1総論　策定方針についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：策定方針で出てきた語句の意味をノートにまとめておくこと。(2時間)
第2回：食事摂取基準策定の基礎理論－その1
　事前学習：テキストの1総論　指標の目的と種類の部分をを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：指標の種類とその意味をノートにまとめておくこと。(2時間)
第3回：食事摂取基準策定の基礎理論－その2
　事前学習：テキストの1総論　基準改定の採択方針と策定の留意事項についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：この項目で出てきた語句の意味をノートにまとめておくこと。(2時間)
第4回：食事摂取基準活用の基礎理論
　事前学習：テキストの1総論　活用に関する基本的事項についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：この項目で出てきた語句の意味をノートにまとめておくこと。(2時間)
第5回：食事摂取基準活用の基礎理論(グループワーク)
　事前学習：テキストの1総論　目的に応じた活用上の留意点の部分を読み、質問項目をまとめて、グループでまとめる準備をすること。(2時間)
　事後学習：策定方針で出てきた語句の意味をノートにまとめておくこと。(2時間)

第６回：エネルギー・たんぱく質の摂取基準
事前学習：テキストのⅡ各論　エネルギー・たんぱく質の食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第７回：脂質・　炭水化物・食物繊維の摂取基準
事前学習：テキストのⅡ各論　脂質・炭水化物の食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第８回：エネルギー産生栄養素バランス
事前学習：テキストのⅡ各論　エネルギー産生栄養素バランス についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第９回：脂溶性ビタミンの摂取基準
事前学習：テキストのⅡ各論　脂溶性ビタミンの摂取基準の部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：水溶性ビタミンの摂取基準
事前学習：テキストのⅡ各論　水溶性ビタミンの摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第11回：ミネラルの摂取基準
事前学習：テキストのⅡ各論　多量ミネラルの食摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第12回：ミネラルの摂取基準（中間試験を含む）
事前学習：テキストのⅡ各論　微量ミネラル摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：成長・発達に伴う身体的・精神的変化と栄養について
事前学習：テキストの第３章の成長、発達、加齢の概念についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：言葉の定義をノートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：妊娠期、授乳期の栄養
j事前学習：テキストの第４章の部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：この章に出てきた語句の意味をノートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：妊娠期、授乳期の栄養（グループワーク）
事前学習：各人の母子手帳を準備して各項目を確認し、授業での資料をまためておくこと。（２時間）
事後学習：授業で作業したものをノートにまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験
各回の講義を受けた後で当該部分のノートや配布資料を見直して復習をし、不明な点は、参考となる資料の収集を行い次の授業に挑んで下さい。

成　績　評　価　方　法

定期試験（45%）、中間試験（45%）、平常点（10%）（平常点は、授業への参加状況・授業態度等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準の科学的根拠について、説明できるか。人体の成長・発達・加齢にともなってみられる主要な生理現象と生化学的変化について説明できるか。

テキスト、参考図書

１）テキスト　「ライフステージ栄養学」鈴木和春編著　（光生館）
２）テキスト（科目共通）「日本人の食事摂取基準2015年版（第一出版）」
参考図書
１）健康・栄養科学シリーズ　「応用栄養学」戸谷誠之、藤田美明、伊藤節子　編、南江堂、改訂第５版
２）コンパクト「応用栄養学」鈴木・重田・近藤編　（朝倉書店）

その他（受講上の注意）

授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。また、国内外の文献・記事なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	樽井　雅彦、佐藤　真実、池田　涼子、 浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2165	2単位	1～3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。

授業の到達目標

1・2・3年次を対象に自己の進路を見据えた体験学習を課題にして設ける。例えば、福祉施設、病院などでの奉仕活動、事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施してたり、得られた成果について報告書を提出する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1年次～3年次に事前学習及び事後学習を合計60時間行う。
①受講希望者は、各フィールドワーク演習の企画教員から内容を確認したうえで実施する。
　参画する奉仕活動やインターンシップについて事前に十分な下調べ（概要等）を行なうこと。
②実際に体験したボランティア活動について報告書（内容・到達目標・経過時間・得られた成果）を作成すること。また作成した報告書は企画教員から押印後、フィールドワーク演習担当教員に提出し承認を得ること。承認後の報告書は各自で保管すること。
③各種ボランティア活動について（フィールドワーク）
　参加した全てのボランティア活動の詳細（参加時間数の合計等）についてまとめておくこと。
④3年次終了時に報告書一覧表（ボランティア活動毎報告書添付）を作成しフィールドワーク演習担当教員に提出すること。

成績評価方法

プログラム取り組み（40%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（30%）

成績評価基準

参加した福祉施設、病院などでの奉仕活動で自身が得た成果について報告書を参考に評価する。事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施する。

テキスト、参考図書

使用しない。

その他（受講上の注意）
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育原理 (Principles of Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2181	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

私たちは、誰もが教育を受けた経験があるがゆえに、教育について考える際に、自らの経験のみに依拠してしまうことになりがちである。本授業では、教育に関する基本的概念を修得し、それをもとに、多様な教育の理念や教育の歴史、思想を概観することにより、自らの経験のみに依拠することなく教育について考察する力量の形成を目指す。

授業の到達目標

・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができる。
・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができる。
・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景をもとに生まれてきたかについて説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間)
　事後学習：授業内容に関連する図書を検索し、読書計画を立てる。(2時間)
第2回：教育の基本的概念(1)──子どもの権利について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第3回：教育の基本的概念(2)──教育における愛と暴力
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第4回：教育の基本的概念(3)──乳幼児期から老年期までの発達について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第5回：日本教育史(1)──家族や社会のなかの教育
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第6回：日本教育史(2)──塾と学校の登場
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第7回：日本教育史(3)──義務教育制度成立史
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)

第８回：西洋における教育の思想と歴史（１）── 古代ギリシア、ローマの教育
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第９回：西洋における教育の思想と歴史（２）── コメニウスと一斉教授について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第10回：西洋における教育の思想と歴史（３）── ルソーにおける子どもの発見について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第11回：西洋における教育の思想と歴史（４）── 自律を目指した思想家たち
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第12回：西洋における教育の思想と歴史（５）── 教育制度の思想的基礎
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第13回：教育と福祉の関係 ── 家庭、地域、学校の役割について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第14回：現代における教育の課題 ── 生涯学習の観点から
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）
平常点（30％）
（平常点は、授業への参加状況、および授業時の課題の内容をもとに評価する。）

成　績　評　価　基　準

・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができるか。
・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができるか。
・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景をもとに生まれてきたかについて説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：プリントを配布する。
参考図書：高橋陽一『教育通義』武蔵野美術大学出版局　2013年

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	鈴木　智子、伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2100	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

大学における学び方を含め、教師教育の観点から自己を位置づけ、専門職としての教師に向けての基礎を培うことを目的とする。教職の意義及び教員の役割や職務内容等について、制度的、実態的側面から解説する講義を中心とする。

授業の到達目標

(鈴木智子)
1.幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できる。
2.現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像についての考えを明確化する。
3.自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化する。
(伊禮三之)
1.小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解する。
2.社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考える。
3.小学校の教師として実践的な指導力を身に付けるため、自ら課題を持ち、継続して追求することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　各自の幼児教育観と幼児教育者像を確認する(グループワーク)(鈴木智子)
　事前学習：授業前に各自の幼児教育観、幼児教育者像についての意見をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：授業のグループワークでの他の学生の意見、授業内容を踏まえて、各自の幼児教育観、幼児教育者像についてレポートにまとめておくこと。(2時間)
第2回：幼児教育者の専門性(鈴木智子)
　事前学習：幼稚園教諭と小学校教諭の違いについて自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教諭の専門性について、レポートにまとめておくこと。(2時間)
第3回：幼稚園教員の役割と職務(鈴木智子)
　事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説序章第2節を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べ、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第4回：幼稚園教諭免許取得と専門性の向上(鈴木智子)
　事前学習：幼稚園教諭免許状について事前に調べ、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：授業内容を踏まえて、専門性の向上の方法について、レポートにまとめておくこと。(2時間)
第5回：子育て支援と幼児教育センターとしての役割(鈴木智子)
　事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説第1章総説第7節2を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：子育て支援を行うために必要な資質・能力について、レポートにまとめておくこと。(2時間)

第６回：幼稚園教諭の協働性（鈴木智子）
事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説第１章総説第４節３を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：幼稚園教諭の協働性を高めるために必要な資質・能力について、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第７回：まとめ　幼児教育者としての自覚と成長（鈴木智子）
事前学習：これまでの授業内容を振り返り、幼稚園教諭の専門性、役割等についての質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：幼稚園教諭に求められる資質・能力について、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第８回：教師とは何か（小学校の教師を中心に）　①教師の専門性、②教職という仕事の特質、③教師のリーダーシップ（伊禮三之）
事前学習：教職についてのメタファー（隠喩）を考えて、それをもとに自分の教育観についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：教師の専門性やその仕事の特質について、班ごとのディスカッションや講義資料をもとに、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第９回：小学校における教師の役割　①授業をつくる、②授業から学ぶ、③子どもを育む（伊禮三之）
事前学習：アクティブ・ラーニングについて調べてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：事前学習と算数科におけるアクティブ・ラーニングの事例体験をもとに、その意義等について、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：教職の制度と教師の身分　①「全体の奉仕者」としての教師、②教師の職務と権限、③基本的な教育法規（伊禮三之）
事前学習：制度の上の教師について、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：教師の制度上の位置づけ等について、講義資料をもとに、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第11回：小学校教師としてのあり方・生き方　①教育実習から新任教師へ、②教師としてのアイデンティティ、③中年期の危機、④ベテラン教師として（伊禮三之）
事前学習：教職に就いて10年目のあなたから現在の自分へのアドバイスにつてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに教師のライフステージににについて、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第12回：学び合うコミュニティとしての学校　①学校という職場、②学校での授業の探求、③学校における同僚性（伊禮三之）
事前学習：自分の母校や連携協力校の教師へ、チーム学校についてインタビューを行いまとめておくこと。（２時間）
事後学習：インタビューや講義をもとに学校における同僚性の意義について、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：開かれた学校づくり ①学校評議員制度、②学校と地域社会との協働関係構築（伊禮三之）
事前学習：社会に開かれた教育課程について、新学習指導要領解説を読んでまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義資料等をもとに開かれた学校づくりの意義について、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：教師の未来　①新しい時代に求められる教師の資質・能力（伊禮三之）
事前学習：小学校教諭に求められる資質・能力について、自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義の資料等と班ごとのデイスカッションをもとに新しい時代に求められる小学校教師の資質・能力について、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：まとめ（伊禮三之）
事前学習：これまでの授業内容を振り返り、小学校教諭の専門性、役割等についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：小学校教諭に求められる資質・能力について、レポートにまとめておくこと。（２時間）

成　績　評　価　方　法

レポート（70％）、平常点（30％）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

（鈴木智子）
1. 幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できるか。
2. 現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像について考えを明確化できているか。
3. 自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化できているか。

（伊禮三之）
1. 小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解できているか。
2. 社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考えることができているか。
3. 小学校の教師として実践的な指導力を身に付けるため、自ら課題を持ち、継続して追求することができているか。

テキスト、参考図書
テキスト （1）幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省） （2）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館　2019年 （3）小学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省） 参考書 （1）岡本夏木著「幼児期――子どもは世界をどうつかむか――」岩波書店　2005年 （2）丹野清彦著「子どもの願い　いじめVS12の哲学」高文研　2018年 （3）「平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」チャイルド本社　2017年
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育原理 (Principles of Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2101	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

私たちは、誰もが教育を受けた経験があるがゆえに、教育について考える際に、自らの経験のみに依拠してしまうことになりがちである。本授業では、教育に関する基本的概念を修得し、それをもとに、多様な教育の理念や教育の歴史、思想を概観することにより、自らの経験のみに依拠することなく教育について考察する力量の形成を目指す。

授業の到達目標

・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができる。
・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができる。
・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景をもとに生まれてきたかについて説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。（2時間）
　事後学習：授業内容に関連する図書を検索し、読書計画を立てる。（2時間）
第2回：教育の基本的概念（1）──子どもの権利について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）
第3回：教育の基本的概念（2）──教育における愛と暴力
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）
第4回：教育の基本的概念（3）──乳幼児期から老年期までの発達について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）
第5回：日本教育史（1）──家族や社会のなかの教育
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）
第6回：日本教育史（2）──塾と学校の登場
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）
第7回：日本教育史（3）──義務教育制度成立史
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）

第８回：西洋における教育の思想と歴史（１）── 古代ギリシア、ローマの教育
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第９回：西洋における教育の思想と歴史（２）── コメニウスと一斉教授について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第10回：西洋における教育の思想と歴史（３）── ルソーにおける子どもの発見について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第11回：西洋における教育の思想と歴史（４）── 自律を目指した思想家たち
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第12回：西洋における教育の思想と歴史（５）── 教育制度の思想的基礎
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第13回：教育と福祉の関係 ── 家庭、地域、学校の役割について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第14回：現代における教育の課題 ── 生涯学習の観点から
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）平常点（30％）
（平常点は、授業への参加状況、および授業時の課題の内容をもとに評価する。）

成　績　評　価　基　準

・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができるか。
・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができるか。
・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景をもとに生まれてきたかについて説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：プリントを配布する。
参考図書：高橋陽一『教育通義』武蔵野美術大学出版局　2013年

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育課程論Ⅰ (Theory of Curriculum Ⅰ)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2151	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

本授業では、子どもの主体的な遊びを内容とする保育・幼児教育において、子どもの発達に必要な指導計画の意義・編成を理解し、実際に計画を立案する力を養うこと、また計画を実践に移した後も指導目標と照らし合わせた上で保育・教育に対する反省･評価を行い、再び指導の目標設定に移るまでの循環的な流れを身につけることを目的としている。
テキストや参考図書を基に講義を中心とするが、グループで討論し、指導計画を立てることで、他の受講生と意見交換をし、考えを深める機会を設ける。

授業の到達目標

教育課程・全体的な計画・指導計画の意義について説明することができる。
子ども理解から指導計画の作成、評価までの流れを説明することができる。
短期の指導計画と長期の指導計画の関連について説明することができる。
短期、長期の指導計画案を立てることができる。
小学校、保護者、地域との連携を踏まえた指導計画案を立てることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：幼児教育・保育における目標と計画の基本的考え方
　事前学習：幼稚園教育要領・保育所保育指針の指導計画に関する部分を読み、質問項目をまとめておく(2時間)
　事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針の指導計画に関する部分を再読し、要点をまとめる(2時間)
第2回：教育課程・全体的な計画と指導計画との関連性
第3回：幼児教育・保育におけるカリキュラム・マネジメントとPDCAサイクル
第4回：環境構成と子どもの発達
第5回：教育課程・全体的な計画の編成1(指導案作成の実際)
第6回：教育課程・全体的な計画の編成2(3歳未満児の指導計画の考え方)
第7回：教育課程・全体的な計画の編成3(3歳未満児の指導計画の実際)
第8回：教育課程・全体的な計画の編成4(3歳以上児の指導計画の考え方)
第9回：教育課程・全体的な計画の編成5(3歳以上児の指導計画の実際)
　第2回～第9回の事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく(16時間)
　第2回～第9回の事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる(16時間)

第10回：指導計画の評価と反省１（保育の柔軟な展開）
事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：テキストの日案の反省を読み、次週の週案を作成する（２時間）
第11回：指導計画の評価と反省２（保育記録の取り方）
第12回：指導計画の評価と反省３（保育記録の省察・活用）
第13回：評価・改善と教育・保育の質向上
第11回～第13回の事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、演習課題を実施しておく（６時間）
第11回～第13回の事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問する（６時間）
第14回：教育課程・全体的な計画における保・幼・小の連携
第15回：保護者や地域との連携
第14回・第15回の事前学習：幼稚園教育要領・保育所保育指針の指導計画に関する部分を読み、質問項目をまとめておく（４時間）
第14回・第15回の事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針の該当する部分を再読し、授業内容と合わせて要点をまとめる（４時間）

成績評価方法

レポート・課題（70%）、グループ討論の参加態度（20%）、平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成績評価基準

教育・保育課程の意義について説明することができるか。
子ども理解から指導計画の作成、評価までの流れを説明することができるか。
短期の指導計画と長期の指導計画の関連について説明することができるか。
短期、長期の指導計画案を立てることができるか。
小学校、保護者、地域との連携を踏まえた指導計画案を立てることができるか。

テキスト、参考図書

テキスト
（１）柴崎正行・増田まゆみ・戸田雅美編『保育課程・教育課程総論』　ミネルヴァ書房　2010年
（２）保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館
（３）幼稚園教育要領解説　文部科学省　フレーベル館
参考図書
（１）「平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」チャイルド本社　2017年

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども家庭福祉			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2103	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

保育所などの児童福祉施設に従事する保育士には、子どものwell−beingの実現を目指した保育活動の実践だけではなく、子どもの家庭を含めた支援が求められる。そのため、専門職として子ども家庭福祉に関する基礎的な知識が必要とされる。本授業では、児童福祉法を中心とした関連法をもとに、子ども家庭福祉における保育士の役割と職務について学んでほしい。

授業の到達目標

現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
子どもの人権擁護について理解する。
子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、子ども家庭福祉の理念と概念
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第2回：子ども・児童の定義
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第3回：子どもの権利、人権擁護
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第4回：子ども家庭福祉の歴史的変遷
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第5回：子ども家庭福祉を支える法律①〜児童福祉六法
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第6回：子ども家庭福祉を支える法律②〜その他
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第7回：子ども家庭福祉の実施機関①〜行政機関
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)

第８回：子ども家庭福祉の実施機関②～児童福祉施設
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第９回：子ども家庭福祉の専門職
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第10回：子ども家庭福祉の現状と課題①～少子化と地域子育て支援、多様な保育ニーズ
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第11回：子ども家庭福祉の現状と課題②～母子保健と子どもの健全育成
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第12回：子ども家庭福祉の現状と課題③～ひとり親家庭、子どもの貧困
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第13回：子ども家庭福祉の現状と課題④～社会的養護、障害のある子どもの福祉
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第14回：子ども家庭福祉の現状と課題⑤～非行、子ども虐待・DV、外国籍の子どもの福祉
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第15回：子ども家庭福祉の動向と展望、まとめ
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験（70%）、提出課題（30%）

成績評価基準

現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について説明することができるか。
子どもの人権擁護について説明することができるか。
子ども家庭福祉の制度や実施体系等について説明することができるか。
子ども家庭福祉の現状と課題について説明することができるか。
子ども家庭福祉の動向と展望について説明することができるか。

テキスト、参考図書

西尾祐悟、小崎恭弘 「第３版　子ども家庭福祉論」 晃洋書房
ミネルヴァ書房編集部 「保育小六法2019」 ミネルヴァ書房

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育者論 (Role of Nursery Teachers in Society)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2150	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

今日の社会状況をふまえ，保育者(保育士・幼稚園教諭・保育教諭)の役割と倫理，保育士の制度的な位置づけと職務内容について学ぶ。

授業の到達目標

保育者(保育士・幼稚園教諭・保育教諭)の役割について説明することができる。
保育者の制度的な位置づけと職務内容について説明することができる。
保育者の職務上の倫理について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(授業の概要説明、留意事項の説明)
　事前学習：1年前期で学んだ保育所保育指針第1章(総則)を読み、保育士の役割について復習しておく。(2時間)
　事後学習：わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)
第2回：人生における仕事の意味
　事前学習：テキスト第1章1を読み、質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)
第3回：生涯発達の中におけるキャリア形成
　事前学習：テキスト第2章1・2・3を読み、質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)
第4回：保育者の制度的な位置づけ1(児童福祉法、学校教育法、認定こども園法)
　事前学習：法令集を読み、保育者に関連する規定をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)
第5回：保育者への道(保育士養成課程、教職課程の解説)
　事前学習：テキスト第1章2を読み、質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)
第6回：就学前の子どもを対象とする仕事の意義1(子どもの最善の利益)
　事前学習：指針第1章及び児童の権利に関する条約を読み、質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)

第７回：就学前の子どもを対象とする仕事の意義２（潜在的カリキュラム）
事前学習：テキスト第４章を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第８回：保育士の役割と職務内容１（子どもの保育を中心に）
事前学習：指針第２章及びテキスト第６章を読み、保育者の専門性について質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第９回：保育士の役割と職務内容２（保護者の支援を中心に）
事前学習：指針第４章及びテキスト第７章を読み、子育て支援について質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第10回：DVD視聴　認定こども園（小レポート作成）
事前学習：ここまでの授業内容を振り返り、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をふまえ課題レポートを作成する。（２時間）
第11回：保育士の専門性１（知識、技術、判断,全国保育士会倫理綱領）
事前学習：全国保育士会倫理綱領を読み、保育士の倫理について質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第12回：保育士の専門性２（省察と自己評価）
事前学習：指針第１章及びテキスト第９章を読み、保育における評価について質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第13回：保育者の協働（同僚性及び専門機関との連携）
事前学習：テキスト第８章を読み、職員の協働性について質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第14回：保育者の成長（研修と自己研鑽とキャリア形成）
事前学習：指針第５章及びテキスト第13章・第14章を読み、職員の資質向上について質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第15回：まとめ（近年の保育をめぐる政策と課題）
事前学習：テキスト第15章を読み、保育者のキャリア形成について質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：これまでの授業内容を振り返り、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問したりして定期試験の準備をする。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（40％）　中間の課題レポートまたは自主ノート（40％）　平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、課題レポートの提出状況を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の役割について現代社会の状況を踏まえて説明することができるか。
保育者の制度的な位置づけと職務内容について説明することができるか。

テキスト、参考図書

石川昭義他編『保育者のためのキャリア形成論』　建帛社　2015年

その他（受講上の注意）

必要に応じてプリントを配布する。テキストと併せて、１年前期で使用した『保育所保育指針解説』を引き続き使用します。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育原理Ⅰ (Principles of Early Childhood)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2102	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

今日の子どもを取り巻く環境を概観しつつ、保育に係る制度(子ども・子育て支援新制度含む)、歴史、思想の概要と保育の意義を学ぶ。

授業の到達目標

特に幼稚園と保育所に係る制度(法律を含む)を理解し説明することができる。
西洋及び日本の保育の歴史(思想を含む)について、その概要を理解し、説明することができる。
幼稚園教育要領及び保育所保育指針の内容について、その概要を理解し、説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(授業の概要説明、留意事項の説明)
　事前学習：新聞等で子どもに関わる記事を読み、ノートにまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートに整理する。(2時間)
第2回：現代社会と子どもの生活1(産業構造の変化)
　事前学習：授業前にテキスト第1章を1読み、関連する事項をノートにまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートに整理する。(2時間)
第3回：現代社会と子どもの生活2(家庭生活や地域社会の変化)
　事前学習：授業前にテキスト第1章2を読み、関連する事項をノートにまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートに整理する。(2時間)
第4回：わが国の保育制度1(幼稚園及び保育所の制度と機能)
　事前学習：授業前に法令を調べ、関連する事項をノートにまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容を法令で再確認しながらノートに整理する。(2時間)
第5回：わが国の保育制度2(子ども・子育て支援新制度)
　事前学習：授業前に法令を調べ、関連する事項をノートにまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートに整理する。(2時間)
第6回：平成29年改定保育所保育指針について1(改定の背景、第1章総則を中心に)
　事前学習：授業前に保育所保育指針第1章を読み、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：保育所の機能と保育士の役割をノートに整理する。(2時間)
第7回：平成29年改定保育所保育指針について2(保育の内容を中心に)
　事前学習：授業前に保育所保育指針第1章と第2章を読み、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：保育のねらいと内容をノートに整理する。(2時間)
第8回：幼保連携型認定こども園について
　事前学習：授業前に法令を調べ、関連する事項をノートにまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容を法令で再確認しながらノートに整理する。(2時間)

第９回：西欧の保育の思想と歴史１（ルソーを中心に）
事前学習：授業前にテキスト第２章１（１）～（４）を１読み、関連する事項をノートにまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容をノートに整理する。（２時間）
第10回：西欧の保育の思想と歴史２（フレーベルを中心に）
事前学習：授業前にテキスト第２章１（５）～（８）を読み、関連する事項をノートにまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容をノートに整理する。（２時間）
第11回：わが国の保育の思想と歴史１（幼稚園の誕生と歩み）
事前学習：授業前にテキスト第２章２（１）を読み、関連する事項をノートにまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容をノートに整理する。（２時間）
第12回：わが国の保育の思想と歴史２（児童中心主義）
事前学習：授業前にテキスト第２章２（２）を読み、関連する事項をノートにまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容をノートに整理する。（２時間）
第13回：わが国の保育の思想と歴史３（保育所の誕生と歩み）
事前学習：授業前にテキスト第２章２（３）～（４）を読み、関連する事項をノートにまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容をノートに整理する。（２時間）
第14回：わが国の保育の思想と歴史４（戦後の制度改革）
事前学習：授業前にテキスト第２章２（５）～（７）を読み、関連する事項をノートにまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容をノートに整理する。（２時間）
第15回：まとめ（わが国の保育制度の課題
事前学習：ノートや配布資料をもとにこれまでの授業内容を振り返り、質問事項をノートにまとめておく。（２時間）
事後学習：わからないところを図書館で調べたり、担当教員に質問したりして、定期試験の準備をする。（２時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

平常点（30％）　定期試験（70％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、中間レポートの提出を総合して判断します。）

成績評価基準

幼稚園と保育所に係る制度（平成27年度からの新制度を含む）を理解できているか。
西洋及び日本の保育の歴史（思想を含む）について、その概要を理解できているか。
平成29年改定の保育所保育指針の内容について、その概要を理解できているか。

テキスト、参考図書

【テキスト】
大森隆子他編　『子どもを見る変化を見つめる保育〔第３版〕』　ミネルヴァ書房　2011年
厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館、2018年）
【参考書】
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園　教育・保育要領

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

発達心理学Ⅰ (Developmental Psychology Ⅰ)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2159	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

・保育士資格関連科目「保育の心理学」の対応科目。
・内容は非常に多岐に及ぶので、詳細は「授業の計画」を参照のこと。

授業の到達目標

子どもの発達のようすと大まかな道筋について、主に発達心理学の立場から保育に関わる内容を知り、自分なりに生かせるような力を身につけること。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：発達の視点〜子どもの発達を理解することの保育上の意義〜。
　事後学修：授業内容の疑問点のリストアップ、より学びたい箇所の構想プランの作成(4時間)
第2回：発達の視点〜子どもを取り巻く人的・自然的・情報的環境の影響〜。
　事前学習：前回授業の疑問点の準備(2時間)
　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(2時間)
第3回：発達の視点〜心理学的な発達の諸理論と保育上の子ども観〜
　事前学習：テキスト該当箇所の予習(2時間)
　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(2時間)
第4回：ここまでのまとめ及び今日的諸問題と発表及び意見交換。(ディスカッション・グループワーク・発表)
　事前学習：ここまでのまとめと疑問点の洗い出し(1時間)
　事後学習：授業内容のまとめ(3時間)
第5回：子どもの社会的・感情的発達の過程。
　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(2時間)
　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(2時間)
第6回：子どもの身体的機能と運動的機能の発達。
　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(2時間)
　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(2時間)
第7回：子どもの認知発達過程。
　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間)
　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(1時間)
第8回：子どもの言語発達過程。
　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間)
　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(1時間)

第９回：ここまでのまとめ及び今日的諸問題の意見交換と発表。このあたりで小テスト。（ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：ここまでの子どもの知情意に関わる発達に関してグループワークとして意見交換をおこなうための各自のメモの作成（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第10回：人間発達の過程としての子どもの学びと保育。（ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：保育士としての関わりに関する抱負の発表メモ作成（２時間）
事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること（２時間）
第11回：乳幼児の学びに関する処理論～ボウルビイ他～。
事前学習：該当箇所の予習（１時間）
事後学習：次回提出用小レポートとし、授業内容の復習と発展的な調べ学習内容をまとめること（２時間）
第12回：乳幼児の学びに関する諸理論～学習理論と認知理論～。
事前学習：該当箇所の予習（１時間）
事後学習：次回提出用小レポートとし、授業内容の復習と発展的な調べ学習内容をまとめること（２時間）
第13回：乳幼児の学びの過程と特性。
事前学習：実習や身近な機械からのエピソードの場面の抽出（３時間）
事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること（１時間）
第14回：乳幼児の学びを支える保育。（ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：前回の事後学修でまとめた事例の発表準備（３時間）
事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること（１時間）
第15回：ここまでのまとめ及び今日的課題。このあたりで小テスト。これまでの提出物の返却。（ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：グループワークの資料作成（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）

成　績　評　価　方　法

小テスト２回（30パーセント分×２=60パーセント）
授業内容に関する短いレポート２回（20パーセント分×２＝40パーセント）
以上の合計で100パーセント

成　績　評　価　基　準

・専門的な基礎知識の習得の状態。
・発達と保育に関する「発達心理学」「保育の心理学」的な見方・考え方について、一定の総合的な見識を持つこと。
・授業中に意見交換して自分や他者の意見・考えを交換できること。

テキスト、参考図書

成田朋子ほか『保育の心理学（新・保育実践を支える）』福村出版 2018年

その他（受講上の注意）

第１回目の授業で第15回までのワークシートを配布するので、事前に目を通してテキストなどを見ながら自分なりの理解を深め、不明の点があればそれが何かを明らかにしておくこと。授業後は、明らかになった不明な点は定着をはかり、未解決の部分は自学自習やオフィスアワーで質問をして解消すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育基礎演習 (Basic Seminar for Early Childhood Care and Education)			担当教員	伊東　知之、篠田　　洋、大久保郁子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2108	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

授業は、3人の教員がそれぞれの専門分野に応じた実技を中心にオムニバス方式で進めていく。
(伊東知之／5回)
主にクレヨンを用いた基本的な絵画活動や折り紙等の身近な素材を用いた工作、造形遊び等、実際の保育の現場で子どもたちと関わることができる活動を体験していく。また、実際の子どもたちとの関わりの中で、学んだ造形活動がどのように展開されていくのかや造形活動を通した子どもたちとの触れ合い方を学ぶ。
(篠田洋／5回)
実際の教育機関の現場で、子どもたちの音楽を通した活動を効果的に推進するために必要な「器楽」の基本的概念や奏法を学ぶ。楽器の歴史と併せ、子どもたちに身近な“リズム”や“ことば”が、器楽への興味へとつながっていくことを理解し、また、グループ等での小編成合奏や創作遊びを通して、楽器の基本的な扱い方、奏法を身につけさせる。
(大久保郁子／5回)
乳幼児との心の通う関わり方の一方法として、遊びを通したコミュニケーションづくりの基礎を身に付けさる。“楽しい”を伝えられる支援者としての第一歩となるように、乳幼児との関わりに有効な手遊び・言葉遊びの基礎を体験し、遊びの展開方法を身に付けさせる。さらに、遊びの展開方法に重要な“ことばと表情”による表現の仕方の基礎的な方法を修得させる。

授業の到達目標

造形、音楽、身体表現の基礎的な理論を理解し、実践できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：遊びの体験／出会い(総合演習室)(大久保)
　事前学習：子どもの遊びについて調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の遊びの体験をまとめておくこと。(2時間)
第2回：手遊び、言葉遊びに素材の体験(総合演習室)(大久保)
　事前学習：乳幼児に適した手遊び、ことば遊びを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で体験した遊びの展開の仕方を復習しておくこと。(2時間)
第3回：手遊び、言葉遊びの素材の展開法(総合演習室)(大久保)
　事前学習：いろいろな遊びの展開の仕方を調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で体験したいろいろな遊びの展開の仕方を復習し、身につけておくこと。(2時間)
第4回：ホスピタリティの示し方　表現・話し方トレーニング(総合演習室)(大久保)
　事前学習：対象児に伝わりやすい表情、話し方を調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で体験したホスピタリティ溢れる話し方を復習しておくこと。(2時間)

第５回：コミュニケーションづくりの基礎技術（総合演習室）（大久保）
事前学習：対象児に合わせた遊びの説明の仕方を練習しておくこと。（２時間）
事後学習：対象児とより良い関わりを持つために、授業で体験したことを実践に努めること。（２時間）
第６回：子どもと造形遊び（図工室）（伊東）
事前学習：幼児教育・保育の５領域について調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。（２時間）
第７回：幼稚園・保育園見学（学外）（伊東）
事前学習：見学する附属幼稚園、仁愛保育園の概要をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：見学の内容をレポートにまとめる。（２時間）
第８回：遊びの中の造形（伊東）
事前学習：子どもと造形活動についての考えをまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。（２時間）
第９回：造形遊びから造形表現（図工室）（伊東）
事前学習：子どもの造形に関する発達について調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。（２時間）
第10回：造形表現の実践とまとめ（図工室）（伊東）
事前学習：造形表現の具体的な内容をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。（２時間）
第11回：言葉とリズムの表現（言葉をリズムで表現させ、またそのリズムを叩いてみる）（音楽室）（篠田）
事前学習：日常使用される言葉を”リズム”の面から探り、分析しておく。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、形成されたリズムを確認してみる。（２時間）
第12回：手拍子での表現（ボディパーカッションの応用）（言葉のリズムを手拍子や、体の部分でとらせる）（音楽室）（篠田）
事前学習：日常使用される言葉のリズムを手拍子で叩けるように体験しておく。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、リズムと手拍子との関連性を確認してみる。（２時間）
第13回：楽器を用いたリズム表現（単純な楽器を使ったリズム表現や楽器製作）（音楽室）（篠田）
事前学習：自分の名前や相手の名前をリズムで表現出来るようにしておく。（２時間）
事後学習：授業の内容に応じたリズム体系を身近な楽器で叩いてみる。（２時間）
第14回：メロディに合わせたリズム表現（簡単なメロディに合わせ楽器や手拍子等でリズム表現）（音楽室）（篠田）
事前学習：簡単な楽譜を読んだり、リズムを叩いたり出来るよう練習しておく。（２時間）
事後学習：２人以上でのリズム表現を楽譜に応じて演奏してみる。（２時間）
第15回：まとめ、アンサンブル（全体で言葉のリズムを歌等を交え表現させる）（音楽室）（篠田）
事前学習：２人以上のアンサンブルで、それぞれのパートを演奏出来るようにしておく。（２時間）
事後学習：それぞれ演奏するリズムが各自聞き取れるよう、復習してみる。（２時間）

成　績　評　価　方　法

レポート（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

造形の基礎的な理論を理解し、実践できるか。
音楽の基礎的な理論を理解し、実践できるか。
身体表現の基礎的な理論を理解し、実践できるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布する。

その他（受講上の注意）

日程によって教室が異なるため注意すること。また、総合演習室での授業では、動きやすい服装、履物で受講し、図工室での授業では図工用具一式を持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

国語 (Japanese Language)			担当教員	笠原　茂子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2152	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　・教科及び教科の指導法に関する科目
・領域に関する専門的事項

<科目に含めることが必要な事項>　・国語(書写を含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

小学校指導要領「国語」の内容を踏まえながら、小学校教諭、幼稚園教諭として国語の力を身につける。

授業の到達目標

自らの言語感覚を磨き国語に対する関心を深めて、自信をもって国語科の指導ができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
事前学修：「小学校学習指導要領解説国語編」第1章を読んで質問事項をまとめておくこと。漢字ワークP4～15　(2時間)
事後学修：授業での学修を参考にして「小学校学習指導要領解説国語編　第1章」「幼稚園教育要領言葉」を読んで関連性をノートにまとめておくこと。(2時間)
第2回：学習指導要領における「国語」について
事前学修：①「小学校学習指導要領解説国語編　第2章国語科の目標および内容」を読んで質問事項をまとめておくこと。②各自が持っている国語便覧の「文学史」を読み、日本文学についてまとめておくこと。漢字ワークP16～19　(2時間)
事後学修：①「小学校学習指導要領解説国語編」を読んで各領域における学年ごとの目標②時代を代表する文学の作品名や作者名、及び内容の概略の2点について調べ、それぞれノートにまとめておくこと。(2時間)
第3回：国語の基礎①声の表現　(ワークショップ)
事前学修：「小学校学習指導要領解説国語編国語科の内容　A話すこと・聞くこと　P28～31」を読んで質問事項をまとめておくこと。漢字ワークP20～31　(2時間)
事後学修：「話すこと・聞くこと」の活動を形態によって分類し、実際に行う場合の留意点についてノートに整理しておくこと。(2時間)
第4回：国語の基礎②漢字(送り仮名・仮名遣い)　(実技)
事前学修：「小学校学習指導要領解説国語編国語科」の付録3(学年別漢字配当表)を参考に漢字の復習をしておくこと。漢字ワークP32～35(2時間)
事後学修：①現代仮名遣い及び送り仮名の付け方について例解辞典等で確認しておくこと。
②都道府県名及び県庁所在地名を、漢字で正しく書けるように練習すること。(2時間)
第5回：国語の基礎③カタカナ・ローマ字　(実技)
事前学修：図書館や参考文献等でカタカナの由来やもととなった漢字、ローマ字表記について調べ、質問事項をまとめておくこと。漢字ワークP36～47　(2時間)
事後学修：小学校3年生の国語の教科書からローマ字に関する教材文を参考にして、ローマ字で50単語程度の日記を書いてみること。(2時間)

第６回：国語の基礎④ひらがな　（実技）
事前学修：図書館や参考文献等でひらがなの由来やもととなった漢字、鉛筆の持ち方について調べ、質問事項をまとめておくこと。漢字ワークＰ48～53　（２時間）
事後学修：ひらがなの字源を調べたり、文字の概形や組み立て方を確認したりして、字形指導の効果的な指導計画を立ててみること。（２時間）
第７回：国語の基礎⑤板書・原稿用紙の使い方　（実技）
事前学修：小テストに備えて既習事項や漢字（ワークＰ４～73）の復習をしておくこと。漢字ワークＰ54～73　（２時間）
事後学修：小テストの解答をもとに誤答を中心に復習しておくこと。（２時間）
第８回：国語の基礎⑥文法・敬語　（実技）
事前学修：各自が持っている国語便覧の「口語文法」の項目を読み、質問事項をまとめておくこと。漢字ワークＰ74～77　（２時間）
事後学修：口語文法と敬語に関する復習課題を課す。（２時間）
第９回：国語の基礎⑦古典（１）古文＜百人一首＞　（グループワーク）
事前学修：各自が持っている国語便覧の「百人一首」の項目を読み、何首かは暗唱できるようにしておくこと。漢字ワークＰ78～95　（２時間）
事後学修：百人一首に関する復習課題を課す。競技カルタのルールを習得しておくこと。（２時間）
第10回：国語の基礎⑧白川漢字学
事前学修：図書館で白川静博士及び白川漢字学について調べておくこと。（２時間）
事後学修：授業で配布された資料をもとに、小学校における白川漢字学の学習活動について大まかな指導計画を立ててみること。漢字ワークＰ96～119　（２時間）
第11回：国語の基礎⑨文章（小論文・随筆等）の書き方　（ワークショップ）
事前学修：「ふくい風花文学賞　入賞作品集」を読んで感想をまとめておくこと。漢字　ワークＰ120～135　（２時間）
事後学修：著名人の随筆やエッセイを読み、書きぶりの特徴やよさについてまとめること。（２時間）
第12回：国語の基礎⑩熟語・慣用句他　（グループワーク）
事前学修：自分が知っている「四字熟語」について読み方や由来、今日的な使われ方等についてまとめておくこと。漢字ワークＰ136～141（２時間）
事後学修：授業中に紹介された「四字熟語」の中で、意味がわからないものについて調べ、ノートにまとめておくこと。また、それらを使って短文づくりをすること。（２時間）
第13回：書写「大筆」（実技）
事前学修：「小学校学習指導要領解説国語編国語科の内容（３我が国の言語文化に関する事項〇書写）」を読んで質問事項をまとめておくこと。漢字ワークＰ144～157（２時間）
事後学修：小学校の書写教科書を読んで、書写教育の今日的意義についてノートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：指導者としての国語力　（ディスカッション）
事前学修：「小学校学習指導要領解説国語編の付録３（小学校教育要領　第２章第１節国語）付録10（幼稚園教育要領）を読んでまとめておくこと。漢字ワークＰ158～169　（２時間）
事後学修：幼小の教育者として今日求められている国語力について自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
第15回：まとめ
事前学修：小テストに備えて、既習事項や漢字（ワークP74～157）の復習をしておくこと。漢字ワークＰ170～181　（２時間）
事後学修：教育要領「言葉」や指導要領「国語」の記述を参照しながら、この講義を受講して具体的にどのようなことを学んだかノートにまとめること。（２時間）

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（50%）、授業内の小テスト（30%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

国語を学ぶ意義を理解し、提出物や実技を通して自らの国語の力を高められたか。

テキスト、参考図書

１．『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』　文部科学省、東洋館出版社、平成29年７月
２．『常用漢字ワイドアルファ』　加納　喜光　監修、桐原書店、2012年２月

その他（受講上の注意）

書写や実技の回では、その都度持ち物を指示します。各自で持参してください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽Ⅰ (Music Ⅰ)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2104	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　・教科及び教科の指導法に関する科目
・領域に関する専門的事項

<科目に含めることが必要な事項>　音楽

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）小学校教諭一種免許状（選択）保育士資格（必修）

授業の内容

音楽理論の基礎と、楽譜を理解する力を身に付ける。

授業の到達目標

音楽理論の基礎知識を身に付け、教育・保育現場で使用される音楽を理解できるようにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：リズムと拍子1　音の長さとリズムとの関係
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第1章－1を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.17～p.19を実施すること。（2時間）
第2回：リズムと拍子2　言葉のもつリズム（ディスカッション）
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第1章－2を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.22～p.23を実施すること。（2時間）
第3回：リズムと拍子3　さまざまなリズム（ディスカッション）
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第1章－3を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.25、p.27を実施すること。（2時間）
第4回：五線と鍵盤
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」プレリュード－1を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.13～p.16を実施すること。（2時間）
第5回：音階と調1　わらべうたや民謡などの音階
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第2章－1を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：「おんがくのしくみ」第2章－1より、課題4～課題6を実施すること。（2時間）
第6回：音階と調2　長音階と短音階（グループワーク、ディスカッション）
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第2章－2よりp.54～p.56を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.68～p.69、p.71を実施すること。（2時間）
第7回：音程1　全音と半音
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第2章よりp.57～p.61を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.72～p.73を実施すること。（2時間）
第8回：音程2　完全音程と長短系音程
事前学習：授業前に「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.48～p.49、p.52～p.53を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
事後学修：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.54～p.55、p.58～p.59、p.61を実施すること。（2時間）

第９回：和音と伴奏１　主要三和音
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第３章よりp.66、および「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.80～p.81を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.82～p.83を実施すること。（２時間）
第10回：和音と伴奏２　伴奏のいろいろ（グループワーク）
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第３章よりp.62～p.65を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：「おんがくのしくみ」第３章よりp.62～p.65の課題１～課題３を実施すること。（２時間）
第11回：和音と伴奏３　７の和音（グループワーク）
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第３章よりp.80～p.81を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：「おんがくのしくみ」第３章よりp.82～p.83の課題５を実施すること。（２時間）
第12回：和音と伴奏４　その他の和音とコードネーム（ディスカッション）
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第３章よりp.70～p.71を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.88～p.89を実施すること。（２時間）
第13回：曲のアレンジ１　さまざまなアレンジの方法
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第３章よりp.73～p.74の課題１を実施しておくこと。（２時間）
事後学修：「おんがくのしくみ」第４章よりp.85～p.86の譜例を弾いておくこと。（２時間）
第14回：曲のアレンジ２　アレンジの実践
事前学習：授業前に「おんがくのしくみ」第３章よりp.84を読み質問項目をまとめておくとともに、p.85～p.86の譜例を弾いておくこと。（２時間）
事後学修：「ジュニアクラス楽典テキストワーク」p.38～p.39、p.91を実施すること。（２時間）
第15回：まとめ
事前学習：第14回授業で配付した資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業で配付した問題プリントを実施すること。（２時間）
第16回：定期試験
各回での理解が、それ以降の授業内容の理解に大きく影響します。そのため、第一に授業時間内での理解に努めてください。

成績評価方法

定期試験（60％）
平常点（40％）※平常点には、受講態度と宿題の提出状況が含まれる。

成績評価基準

音楽理論の基礎知識が身につき、教育・保育現場で使用される楽譜を理解できるようになったか。

テキスト、参考図書

おんがくのしくみ　今川恭子（監修）教育芸術社
ジュニアクラスの楽典テキストワーク　内藤雅子

その他（受講上の注意）

クラスの全体的な理解度に応じて、シラバスの日程と実際の授業内容の日程とは、多少前後します。
また、できる限り授業時間内での理解に努めること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽Ⅱ (Music Ⅱ)			担当教員	津田　幸子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2156	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　・教科及び教科の指導法に関する科目
・領域に関する専門的事項

<科目に含めることが必要な事項>　・音楽

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）、幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（選択）

授業の内容

保育や教育の現場で必要となる楽譜の基本的な視唱力と、歌唱法（発声法を含む）の習得。
無伴奏の歌唱により、聴く力（高い意識の持続）を養う。

授業の到達目標

幼児教育や小学校の音楽教育において歌唱教材を展開する上で必要となる、視唱力・読譜力の獲得と発声の基本（聴く力を含む）を学ぶことを目的とする。
・正しい音程を発声することができる。
・拍子やリズムを理解し、歌唱することができる。
・段階を踏んで各種の調性や、ハーモニー感を養成する。
・歌詞を解釈し、発音と発声法の関連を演習することで、音楽的歌唱表現の適切なあり方を探求する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□ 発表（プレゼンテーション）□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

【視唱練習】全訳コールユーブンゲン（以下【視唱】）　【歌唱表現】改訂ポケットいっぱいのうた（以下【表現】）
第1回：【視唱】音階・二度音程・音符と休符・単純拍子等　（第二～十二章）
【表現】次回の課題指定
事前学習：授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ（音程の模倣・リズム）を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音する。（2時間）
事後学習：基礎音楽が日々の修練の成果として身につくことから、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（1時間）
第2回：【視唱】三度音程・付点やタイを用いたリズム　（第十三～十五章）
【表現】課題の歌唱と表現方法（発声）
事前学習：授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ（音程の模倣・リズム）を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音する。（2時間）
事後学習：基礎音楽が日々の修練の成果として身につくことから、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（1時間）
第3回：【視唱】四度・増四度音程練習、複合拍子と単純拍子の比較　（第十六～十九章）
【表現】課題の歌唱と表現方法（発声）。 グループワーク課題選曲
事前学習：授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ（音程の模倣・リズム）を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音する。（2時間）
事後学習：基礎音楽が日々の修練の成果として身につくことから、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（1時間）

第４回：【視唱】第１～３回の復習　（第二～十九章）
【表現】課題の歌唱と表現方法（発声）
事前学習：授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ（音程の模倣・リズム）を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音する。（２時間）
事後学習：基礎音楽が日々の修練の成果として身につくことから、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（１時間）
第５回：選曲課題について（グループワーク）
事前学習：各曲の歌唱と歌詞から考察できることをまとめておく。（４時間）
事後学習：各曲について、授業での意見交換も踏まえ、歌唱に生かせる工夫をまとめる。（レポート提出）　（４時間）
第６回：【視唱】五度音程、リズム・拍子の復習　（第二十章）
【表現】課題の歌唱と表現方法（歌詞からの考察）
事前学習：授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ（音程の模倣・リズム）を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音する。（２時間）
事後学習：基礎音楽が日々の修練の成果として身につくことから、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（１時間）
第７回：【視唱】シンコペーションのリズム練習・弱起の拍子の拍感　（第二十二～二十三章）
【表現】課題の歌唱と表現方法（歌詞からの考察）
事前学習：授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ（音程の模倣・リズム）を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音する。（２時間）
事後学習：基礎音楽が日々の修練の成果として身につくことから、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（１時間）
第８回：【視唱】六度音程、複合拍子の復習。三連音のリズム練習　（第二十五～二十六章）
【表現】課題の歌唱と表現方法（歌詞からの考察）
事前学習：授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ（音程の模倣・リズム）を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音する。（２時間）
事後学習：基礎音楽が日々の修練の成果として身につくことから、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（１時間）
第９回：【視唱】三連音・音符四個を一拍に数える練習、および拍子感の対比　（第二十八章）
【表現】課題の歌唱と表現方法（歌詞からの考察）
事前学習：授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ（音程の模倣・リズム）を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音する。（２時間）
事後学習：基礎音楽が日々の修練の成果として身につくことから、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（１時間）
第10回：選曲課題について（グループワーク）
事前学習：第５回グループワークの個人レポートを基に、グループ内で工夫を共有し歌唱しておく。（４時間）
事後学習：各曲について、歌唱に必要な読譜の仕方を考え、まとめる。（レポート提出）　（４時間）
第11回：【視唱】最小付点音符を使ったリズム　（第二十九章）
【表現】課題の歌唱と表現方法
事前学習：授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ（音程の模倣・リズム）を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音する。（２時間）
事後学習：基礎音楽が日々の修練の成果として身につくことから、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（１時間）
第12回：【視唱】七度音程、各種の付点音符と三連音の混用したリズム練習　（第三十章）
【表現】課題の歌唱と表現方法
事前学習：授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ（音程の模倣・リズム）を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音する。（２時間）
事後学習：基礎音楽が日々の修練の成果として身につくことから、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（１時間）
第13回：【視唱】拍子感の対比、三連音・音符四個を一拍に数える練習　（第二十八章、第三十章）
【表現】課題の歌唱と表現方法
事前学習：授業計画を先取りした練習をし、未熟なところ（音程の模倣・リズム）を各自認識しておくこと。個人の練習時には録音する。（２時間）
事後学習：基礎音楽が日々の修練の成果として身につくことから、知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（１時間）
第14回：選曲課題について（グループワーク）
事前学習：各曲の歌唱と読譜をグループ内で共有し、目的と期待する効果も考えておく。（４時間）
事後学習：各曲について、指導・歌唱（表現時）・聴く時（力）の違いをまとめる。（レポート提出）（４時間）

第15回：【視唱】音程・リズムの復習　（第二～三十章）
【表現】課題の表現
事前学習：練習時には録音し、未熟なところ（音程・リズム）を各自認識しておく。（１時間）
事後学習：知識として学んだこと、演習で体得したことを繰り返すことで身につける。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（60%）　レポート（30%）　平常点（10%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・課題を正しい音程・リズムで歌唱できるか。
・課題の音楽表現（旋律や歌詞から想像）ができるか。

テキスト、参考図書

（１）【全訳コールユーブンゲン】　フランツ・ヴュルナー著・信時潔訳　大阪開成館版
（２）「改訂　ポケットいっぱいのうた」 実践　こどものうた　簡単に弾ける144選　教育芸術社

その他（受講上の注意）

テキストは毎回必ず持参して受講すること。（他人との貸し借りは、個人的書き込みに支障をきたす為、禁止。）
科目の性格上、受講中の私語は厳禁。（音の高低・声色が聴きとれなくなる為。）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

図画工作Ⅰ (Arts and Crafts Ⅰ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2105	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　・教科及び教科の指導法に関する科目
・領域に関する専門的事項

<科目に含めることが必要な事項>　・図画工作

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(選択)、保育士資格(必修)

授業の内容

図画工作、美術の基本的な知識や技術を身につけることを目的とし、実際の制作を通して様々な基本的な造形技法や道具の技術等を主に絵画的な制作から修得する。また、幼児教育の造形に関わる知識や発達理論等についても学ぶ。

授業の到達目標

・学んだ造形技法について説明することができる。
・学んだ造形技法を用いて工夫して表現することができる。
・子どもの造形に関する発達について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：子どもと造形活動について
　事前学習：造形活動についてテキスト等を読んでまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間)
第2回：絵画演習(1)デッサン(素描)①　鉛筆を使って
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間)
　事後学習：作品を完成させる。(2時間)
第3回：絵画演習(2)デッサン(素描)②　鉛筆を使って
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間)
　事後活動：作品を完成させる。(2時間)
第4回：絵画演習(3)ブルーノ・ムナーリの造形遊び
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間)
　事後学習：;作品を完成させる。(2時間)
第5回：デザイン演習(1)構成①　鉛筆の単色
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間)
　事後学習：作品を完成させる。(2時間)
第6回：デザイン演習(2)構成②　絵の具を使って
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間)
　事後学習：作品を完成させる。(2時間)
第7回：版画演習(1)フロッタージュ
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。(2時間)
　事後学習：作品を完成させる。

第８回：版画演習（２）スチレン版画
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第９回：版画演習（３）スタンプで遊ぼう（グループワーク）
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第10回：工作演習（１）飛ばして遊ぼう①
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第11回：工作演習（２）飛ばして遊ぼう②
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第12回：工作演習（３）ポップアップカード（飛び出すカード）
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第13回：工作演習（４）走るおもちゃ
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第14回：工作演習（５）風車
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：これまでの内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：これまでの作品の質を高めて提出できるようにする。（２時間）

成　績　評　価　方　法

課題作品（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

学んだ造形技法の特質を理解し、工夫して表現されているか。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリントを配布する。

その他（受講上の注意）

指定された図工用具一式を購入し、毎時間持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎ピアノⅠ (Basic Piano Ⅰ)			担当教員	中野　研也、桂屋　京子、飯田　由美、 太田　佳代、野村加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2106	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

教育・保育の現場で必要とされるピアノ演奏技術を身に付ける。
個人レッスンの形で行う。

授業の到達目標

ピアノ演奏技術を学び、2年次の弾き歌い科目「音楽表現　Ⅰ・Ⅱ」を履修するための基礎力を身に付けることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□ 討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

次の授業計画は、「グレード1」の教育内容についての進度目標である。「グレード2～5」に関しては、レッスンノートを参照のこと。

第1回：グレード判定テスト(実技、グループワーク)
　事前学習：第1回授業時にグレード判定に用いる曲を練習しておくこと。(2時間)
　事後学修：バイエルピアノ教則本p.4～p.5を読み、音の高さと長さを覚えること。(2時間)
第2回：譜表の読み方と鍵盤の位置の確認　(バイエルピアノ教則本 No.19～21)(実技、グループワーク)
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.19～21より指定された曲を練習しておくこと。(2時間)
　事後学修：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。(2時間)
第3回：二度・三度の練習　(バイエルピアノ教則本 No.22～25)(実技、グループワーク)
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.22～25より指定された曲を練習しておくこと。(2時間)
　事後学修：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。(2時間)
第4回：スタッカートの練習　(バイエルピアノ教則本 26～31)(実技、グループワーク)
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.26～31より指定された曲を練習しておくこと。(2時間)
　事後学修：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。(2時間)
第5回：公開演奏(実技、発表)
　事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。(2時間)
　事後学修：公開演奏における反省点を踏まえ、復習(練習)すること(2時間)
第6回：タイの練習　(バイエルピアノ教則本 No.32～37)(実技、グループワーク)
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.32～37より指定された曲を練習しておくこと。(2時間)
　事後学修：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。(2時間)
第7回：右手加線の読み方　(バイエルピアノ教則本 No.38～43)(実技、グループワーク)
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.38～43より指定された曲を練習しておくこと。(2時間)
　事後学修：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。(2時間)
第8回：左手加線の読み方　(バイエルピアノ教則本 No.44～49)(実技、グループワーク)
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.44～49より指定された曲を練習しておくこと。(2時間)
　事後学修：授業で学んだ曲を復習(練習)すること。(2時間)

第９回：八分音符の練習　　（バイエルピアノ教則本 No.32～54）（実技、グループワーク）
　　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.32～54より指定された曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（２時間）
第10回：公開演奏（実技、発表）
　　事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（２時間）
第11回：低音部記号（ヘ音記号）の習得　（バイエルピアノ教則本 No.55～57）（実技、グループワーク）
　　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.55～57より指定された曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（２時間）
第12回：強弱記号の読み方　　（バイエルピアノ教則本 No.58～60、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（実技、グループワーク）
　　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.58～60より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（２時間）
第13回：八分の三拍子の練習　　（バイエルピアノ教則本 No.61～62、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（実技、グループワーク）
　　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.61～62より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（２時間）
第14回：連弾の練習　　（バイエルピアノ教則本 No.63～64）（実技、グループワーク）
　　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.63～64より指定された曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（２時間）
第15回：公開演奏（実技、発表）
　　事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（２時間）
教育実習曲も習得する。
毎回の実技到達度テストの結果はその都度担当教員より伝達され、次回への指針とする。練習室や自宅等で、必ず練習（準備・復習）を行うこと。

成績評価方法

公開演奏（実技試験）（70％）
※第６回、11回、15回目の授業で公開演奏（実技試験）を行い、これら３回分の点数を平均して評価する。
平常点（30％）
※平常点は、授業への参加状況と受講態度で判断する。

成績評価基準

各グレードにおける課題曲を、正確かつ円滑に演奏することができるか。

テキスト、参考図書

（１）バイエルピアノ教則本　　（２）ツェルニー100番練習曲　　（３）ブルグミュラー25の練習曲
（４）ツェルニー30番練習曲　　（５）ソナチネアルバムⅠ，Ⅱ　　（６）ツェルニー40番練習曲等
（７）教育実習曲譜
※（１）～（６）については、出版社は特に指定しない

その他（受講上の注意）

通常の受講について：週に１度の個人レッスンの時間内だけで身につく内容ではないので、普段からの継続的な練習を必ず必要とする。また、レッスンで受講する曲目は、必ず予習（譜読みと練習）をしてから受講に臨むこと。
実技試験について：実技試験を兼ねた公開演奏を行う第６回、11回、15回目の授業を欠席した場合、その回の点数は０点として計算される。従って、試験にはくれぐれも体調等を整えて臨むこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎ピアノⅡ（Basic PianoⅡ）			担当教員	中野　研也、桂屋　京子、飯田　由美、太田　佳代、野村加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2158	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）

授業の内容

教育・保育の現場で必要とされるピアノ演奏技術を身に付ける。
個人レッスンの形で行う。

授業の到達目標

基礎ピアノⅠに続いてピアノ演奏技術を学び、2年次の弾き歌い科目「音楽表現　Ⅰ・Ⅱ」を履修するための基礎力を身に付けることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□ 討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

次の授業計画は、「グレード1」の教育内容についての進度目標である。「グレード2～5」に関しては、レッスンノートを参照のこと。

第1回：ハ長調　（バイエルピアノ教則本 No.65～67）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.65～67より指定された曲を練習しておくこと。（2時間）
　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（2時間）
第2回：ト長調　（バイエルピアノ教則本 No.68～73）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.68～73より指定された曲を練習しておくこと。（2時間）
　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（2時間）
第3回：ニ長調　（バイエルピアノ教則本 No.74～76）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.74～76より指定された曲を練習しておくこと。（2時間）
　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（2時間）
第4回：イ長調　（バイエルピアノ教則本 No.77～79）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.77～79より指定された曲を練習しておくこと。（2時間）
　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（2時間）
第5回：公開演奏（実技、発表）
　事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。（2時間）
　事後学修：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（2時間）
第6回：和音の練習　（バイエルピアノ教則本 No.80～81）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.80～81より指定された曲を練習しておくこと。（2時間）
　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（2時間）
第7回：ホ長調　（バイエルピアノ教則本 No.82～84）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.82～84より指定された曲を練習しておくこと。（2時間）
　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（2時間）
第8回：連弾の練習　（バイエルピアノ教則本 No.85～87）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.85～87より指定された曲を練習しておくこと。（2時間）
　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（2時間）

第９回：付点八分音符の練習　　（バイエルピアノ教則本 No.88～90）（グループワーク）
　　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.88～90より指定された曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（２時間）
第10回：公開演奏（実技、発表）
　　事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（２時間）
第11回：イ短調・ヘ長調　　（バイエルピアノ教則本 No.91～96、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク）
　　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.91～96より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（２時間）
第12回：装飾音符　　（バイエルピアノ教則本 No.97～100、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク）
　　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.97～100より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（２時間）
第13回：十六分音符　　（バイエルピアノ教則本 No.101～103、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク）
　　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.101～103より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（２時間）
第14回：半音階　　（バイエルピアノ教則本 No.104～106、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク）
　　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.104～106より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。（２時間）
第15回：公開演奏（実技、発表）
　　事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。（２時間）
　　事後学修：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（２時間）
教育実習曲も習得する。
毎回の実技到達度テストの結果はその都度担当教員より伝達され、次回への指針とする。練習室や自宅等で、必ず練習（準備・復習）を行うこと。

成　績　評　価　方　法

公開演奏（実技試験）（70％）
※第５回、11回、15回目の授業で公開演奏（実技試験）を行い、これら３回分の点数を平均して評価する。
平常点（30％）
※平常点は、授業への参加状況と受講態度で判断する。

成　績　評　価　基　準

各グレードにおける課題曲を、正確かつ円滑に演奏することができるか。

テキスト、参考図書

（１）バイエルピアノ教則本　　（２）ツェルニー100番練習曲　　（３）ブルグミュラー25の練習曲
（４）ツェルニー30番練習曲　　（５）ソナチネアルバムⅠ，Ⅱ　　（６）ツェルニー40番練習曲等
（７）教育実習曲譜
※（１）～（６）については、出版社は特に指定しない。

その他（受講上の注意）

通常の受講について：週に１度の個人レッスンの時間内だけで身につく内容ではないので、普段からの継続的な練習を必ず必要とする。また、レッスンで受講する曲目は、必ず予習（譜読みと練習）をしてから受講に臨むこと。
実技試験について：実技試験を兼ねた公開演奏を行う第５回、11回、15回目の授業を欠席した場合、その回の点数は０点として計算される。従って、試験にはくれぐれも体調等を整えて臨むこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容指導法(健康) (Teaching method of Early Childhood Care and Education(Health))			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2153	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

幼児期における身体の発育・発達に関する基本的な情報および幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育環境のあり方などについて学習する。

授業の到達目標

領域「健康」のねらいや内容について理解する。
幼児期における身体の発育・発達に関する基本的な知識を習得する。
幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育環境のあり方についての知識を習得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：領域「健康」のとらえ方と目指すもの
　事前学習：テキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第2回：幼稚園教育要領における「健康」とは(グループワーク)
　事前学習：幼稚園教育要領の「健康」に関する内容を整理し、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：幼稚園教育要領の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第3回：保育所保育指針における「健康」とは(グループワーク)
　事前学習：保育所保育指針の「健康」に関する内容を整理し、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：保育所保育指針の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第4回：幼児の発育・発達(からだ、こころ)(グループワーク)
　事前学習：テキストの第2章(p.28−33)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第5回：幼児の発育・発達(社会性、脳)(グループワーク)
　事前学習：テキストの第2章(p.34−46)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第6回：幼児の生活習慣の現状と課題(グループワーク)
　事前学習：テキストの第3章(p.47−51)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第7回：基本的生活習慣の理解と形成(グループワーク)
　事前学習：テキストの第3章(p.52−65)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第8回：幼児の身体活動の現状と課題(グループワーク)
　事前学習：テキストの第4章(p.66−88)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)

第９回：幼児期運動指針について（グループワーク）
　　事前学習：幼児期運動指針（文部科学省、2012）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：幼児期運動指針の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第10回：幼児期に身につけたい基本的動作（情報機器の活用含む）（グループワーク）
　　事前学習：テキストの第５章（p.89－102）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第11回：運動遊びの指導上の留意点（グループワーク）
　　事前学習：テキストの第５章（p.102－112）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第12回：健全な発育・発達の測定と評価方法（グループワーク）
　　事前学習：テキストの第６章（p.113－137）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第13回：安全管理と安全教育の必要性（グループワーク）
　　事前学習：テキストの第７章（p.138－146）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第14回：応急処置法（グループワーク）
　　事前学習：テキストの第７章（p.146－161）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：テキスト第６章以外を読み、試験に備える。（４時間）
第16回：定期試験
授業前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。
授業後は、ノートや配布資料を見直して復習する。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）　レポート（30％）

成　績　評　価　基　準

領域「健康」のねらいや内容を理解できているか。幼児期における身体の発育・発達に関して理解できているか。幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育環境のあり方について理解できているか。

テキスト、参考図書

テキスト：春日晃章編集代表　松田繁樹・中野貴博編集 「保育内容　健康」 株式会社みらい　2015年
参考図書：幼稚園教育要領（平成29年３月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）適宜配布

その他（受講上の注意）

遅刻、欠席、および早退は減点の対象とします。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容指導法(表現A) (Teaching method of Early Childhood Care and Education(Expression A))			担当教員	坂本　流美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2154	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（選択）

授業の内容

「表現」の領域における音楽的視点から、幼児教育者として様々な保育の在り方に資すための一手段として「わらべうたあそび」を数多く実践し、幼児の発達段階に応じながら自立性・自発性を育てる実践法を
演習する。

授業の到達目標

幼児が自ずと持っている繊細で鋭敏な感受性に働きかけ、表現する意欲と豊かな創造力を引き出すための手法を知ることを目的とする。幼児期の発達段階を踏まえた様々な「わらべうたあそび」の基本的演習を通して、保育の現場で子ども達に感動体験の機会を多彩に展開できる技法を修得させる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■ 発表（プレゼンテーション）□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：15回の全体計画。幼児期の音楽教育の役目・わらべうたあそびとは・わらべうたを使ったソルフェージュ。
事前学習：授業前に知っているわらべうたは無いかを考えてまとめておくこと。（2時間）
事後学習：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚え、1人でも歌えるようにすること。（2時間）
第2回：季節のわらべうたあそび① 秋のうた中心の実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）（実技）
事前学習：秋に関する自然のものを考えてまとめておくこと。習ったわらべうたの復習をすること。（2時間）
事後学習：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚え、1人でも歌えるようにすること。（2時間）
第3回：季節のわらべうたあそび② 冬のうた中心の実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）（実技）
事前学習：冬に関する自然のもの考えてまとめておくこと。習ったわらべうたの復習をすること。（2時間）
事後学習：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚え、1人でも歌えるようにすること。（2時間）
第4回：季節のわらべうたあそび③ 春のうた中心の実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）（実技）
事前学習：春に関する自然のものを考えてまとめておくこと。習ったわらべうたの復習をすること。（2時間）
事後学習：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚え、1人でも歌えるようにすること。（2時間）
第5回：季節のわらべうたあそび④ 梅雨のうた中心の実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）（実技）
事前学習：梅雨に関する自然のものを考えてまとめておくこと。習ったわらべうたの復習をすること。（2時間）
事後学習：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚え、1人でも歌えるようにすること。（2時間）

第６回：季節のわらべうたあそび⑤ 夏のうた中心の実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）（実技）
事前学習：夏に関する自然のものを考えてまとめておくこと。習ったわらべうたの復習をすること。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚え、１人でも歌えるようにすること。（２時間）
第７回：通常のわらべうたあそび① 親子あそび・集団あそびの実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）（実技）
事前学習：習ったわらべうたの復習し、配布した資料を読み返しておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚え、１人でも歌えるようにすること。（２時間）
第８回：通常のわらべうたあそび② 親子あそび・集団あそびの実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）（実技）
事前学習：習ったわらべうたの復習し、配布した資料を読み返しておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚え、１人でも歌えるようにすること。（２時間）
第９回：文学とわらべうた①（小道具作成～クレヨン・色鉛筆・はさみ・定規が必要）
事前学習：かえうたを事前に考え、かえうたをする元となるうたを１人で歌えるようにすること。（２時間）
事後学習：小物を使っての表現にについて、考えてまとめておくこと。（２時間）
第10回：文学とわらべうた②（発表～保育の現場など指導者としての自信に繋げる）
事前学習：かえうたを事前に考え、かえうたをする元となるうたを１人で歌えるようにすること。（２時間）
事後学習：小物を使っての表現にについて、考えてまとめておくこと。（２時間）
第11回：わらべうたを使ってのアンサンブル、ソルフェージュ。（グループワーク）
事前学習：リズムとソルミゼーションについて、事前に調べてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：楽譜の内容を確認し、実際に歌うこと。（２時間）
第12回：設定保育案の作成①
事前学習：設定保育の内容について、考えてまとめておくこと。実践するわらべうたを選ぶこと。（２時間）
事後学習：設定保育案を次回までに作成すること。（２時間）
第13回：設定保育案の作成②．設定保育案の実践①（模擬授業形式での発表）
事前学習：設定保育案の内容を十分に把握し、発表練習をすること。（２時間）
事後学習：設定保育の発表に関する感想と反省をまとめておくこと。（２時間）
第14回：設定保育案の実践②（模擬授業形式での発表）（発表）
事前学習：設定保育案の内容を十分に把握し、発表練習をすること。（２時間）
事後学習：設定保育の発表に関する感想と反省をまとめておくこと。（２時間）
第15回：わらべうたあそびのまとめ、確認。（実技）
事前学習：授業で配布した資料を見直し、１人でも歌えるようにすること。（２時間）
事後学習：わらべうたあそびを覚え、１人でも歌えるようにする（２時間）

成 績 評 価 方 法

授業中の積極的態度（30％）わらべうたの修得度（30％）小レポート・設定保育案（40％）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。

成 績 評 価 基 準

より多くわらべうたを覚え、わらべうたを１人で清潔（音程・リズム正しく）に歌える、わらべうたを保育にどのように取り入れるのか設定保育を自分で作成できるか。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリントを配布。
＜参考書・参考資料等＞
わらべうた・音楽の理論と実践 ── 就学前の音楽教育（フォライ・カタリン著・知念直美編・畑玲子訳 明治図書出版 平成３年）
幼稚園・保育園のわらべうた・あそび 春・夏（畑玲子、知念直美、大倉三代子著 明治図書出版 平成６ 年）
幼稚園・保育園のわらべうた・あそび 秋・冬（畑玲子、知念直美、大倉三代子著 明治図書出版 平成６ 年）
幼稚園教育要領（平成29 年３ 月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29 年３ 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

実技習熟学習が主体となるので、授業での積極性、貢献度を重視する。
実践中心の為　動きやすい服装で受講する。ねらいを持って受講する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容指導法(表現C) (Teaching method of Early Childhood Care and Education(Expression C))			担当教員	乾　典子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2155	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)　保育士資格(必修)

授業の内容

幼児の心身の発達過程において、保育者としての身体表現の気づき、「表現」としての発想と感性の理解とその動きの習得、身体表現遊びの方法の理解と創作の習得、他者との関わりや円滑なグループ活動を進める力などの重要性を理解する。

授業の到達目標

幼児の心身の発達過程において、豊かな感性と発想で感じたことや考えたことを身体で表現することにより、幼児の創造性が豊かになることの理解を深める。幼児の豊かな創造性を引き出すための保育者としての力を身に付ける。また乳児保育の3つの視点も捉えながら、自由な発想の大切さを理解し「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：身体表現についての理解・簡単な身体表現の体験・成績評価と学習の内容。
　事前学習：受講前にテキストに目を通しておくこと。(2時間)
　事後学習：体験した発想と動きを他者と自分を照らし合わせて理解すること。(2時間)
第2回：こどもが好きな動きの体験と理解 フォークダンスの体験と習得。(実技)
　事前学習：フォークダンスについて調べてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：子供の好きな動きを調べて覚えておくこと。(2時間)
第3回：動き・遊びの体験と理解 プレイバルーンの動かし方と創作方法の理解(情報機器及び教材の活用含む)。(グループワーク)。
　事前学習：プレイバルーンについて調べてまとめておくこと。(2時間)
　事前学習：プレイバルーンの創作方法の理解と創作した内容を復習しておくこと。(2時間)
第4回：リズム遊びの体験と理解 プレイバルーンの創作と練習・その発表。(グループワーク・発表)
　事前学習：他のバルーンの動かし方を考え、実践すること。
　事後学習：発表動画を見て創作のグループ活動に参加できたか顧みること。
第5回：童謡の歌詞を使って動きの創作とその発表(表現)発表に至る内容を記録。(発表)
　事前学習：どんな童謡があるか調べてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：発表に至るグループの内容の記録をまとめて、次回提出すること。(2時間)
第6回：身体表現遊び(1)課題のダンスの体験 具体的な指導場面の構想。(実技)
　事前学習：課題のダンスについて調べておくこと。動画などを視聴し、参考にすること。(2時間)
　事後学習：習ったダンスを復習しておくこと。(2時間)
第7回：身体表現遊び(2)課題のダンスの練習と指導・その発表。(実技・発表)
　事前学習：前回習ったダンスを練習しておくこと。(2時間)
　事後学習：発表の作品の動画を見て、良かった点・悪かった点を理解しておくこと。(2時間)

第８回：身体表現遊び（３）課題のダンスをグループでダンス構成する。（グループワーク・実技）
事前学習：構成について調べてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：創作過程をまとめておくこと。（２時間）
第９回：身体表現遊び（４）課題のダンスをグループで練習・指導・その発表。（グループワーク・発表）
事前学習：グループで創作したダンスを復習しておくこと。（２時間）
事後学習：発表した作品の動画を視聴し、創作過程と発表についてまとめて、次回提出すること。（２時間）
第10回：ダンス創作（１）課題の曲での創作、その主題と手法の理解。創作手順を記録（情報機器及び教材の活用含む）。（グループワーク）。
事前学習：子供らしい動きについて調べてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：創作過程をまとめておくこと。（２時間）
第11回：ダンス創作（２）グループでの踊り考案・練習。創作内容を記録。（グループワーク・実技）
事前学習：前回創作した内容を復習しておくこと。（２時間）
事後学習：創作過程をまとめておくこと。（２時間）
第12回：ダンス創作（３）グループでの踊りの練習・指導・その発表。練習内容を記録。（グループワーク・実技・発表）
事前学習：前回創作した内容を復習しておくこと。（２時間）
事後学習：創作・発表した動画を視聴し、創作過程と発表についてまとめて、次回提出すること。（２時間）
第13回：身体表現･グループでの模擬保育（１）のための内容決定・その手順の学習と記録。（ディスカッション・グループワーク）
事前学習：模擬保育の内容をグループでディスカッションするので、テキストを見て興味を引く内容を絞っておくこと。（２時間）
事後学習：ディスカッションの内容など記録しておくこと。（２時間）
第14回：身体表現･グループでの模擬保育（２）のための創作活動と指導法の理解。創作内容と指導内容を記録。
事前学習：グループで決まった模擬保育の内容を考えておくこと。（２時間）
事後学習：模擬保育の内容を発表できるように復習し、内容を記録すること。（２時間）
第15回：身体表現・模擬保育とまとめ。創作記録を提出。（発表）
事前学習：模擬保育の発表に向けて練習すること。（２時間）
事後学習：発表の方法と内容、時間配分などの反省し、今後の模擬保育に活かすこと。（２時間）

成績評価方法

実技演習発表（60%）　提出物・創作記録（40%）

成績評価基準

幼児の心身の発達過程において、豊かな感性と発想で感じたことや考えたことを身体で表現することにより、幼児の創造性が豊かになることの理解を深めているか。
幼児の豊かな創造性を引き出すための保育者としての力を身に付けているか。
乳児保育の３つの視点も捉えながら、自由な発想の大切さを理解し「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けているか。

テキスト、参考図書

テキスト
事例で学ぶ保育内容 領域 表現（無藤隆（監修）浜口順子（著者）萌文書林 平成29 年）
参考資料
幼稚園教育要領（平成29 年３ 月告示 文部科学省）
保育所保育指針（平成29 年３ 月告示 厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29 年３ 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

必ず体操服で受講すること。シューズも準備すること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容指導法(子どもの文化) (Teaching method of Early Childhood Care and Education(Culture of Children))			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2107	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

子どもの発達と児童文化財の役割や保育現場での活用を学ぶとともに、児童文化財をそれぞれが制作することを通して具体的な指導場面を想定して保育を構想する技術・方法を身に付ける。

授業の到達目標

当該科目では、領域「言葉」や「表現」の指導に関連する、幼児を取り巻く文化や、幼児と文化財との関りについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業全体の目標及び15回の計画の内容、学修の要点について
　事前学習：シラバス、教科書の目次を読んでおく(2時間)
　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する(2時間)
第2回：子どもと大人の違いとは何か、子ども観とは何か(グループワーク)
　事前学習：関連する法令等をまとめておく(2時間)
　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する(2時間)
第3回：言葉の発達と児童文化財について(グループワーク)
　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく(2時間)
　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する(2時間)
第4回：児童文化財と図書館・情報機器の活用方法(グループワーク)
　事前学習：基礎演習で学んだことを復習し、図書館の利用方法を再確認しておく(2時間)
　事後学習：大学図書館や公共図書館に行き、本の探し方、借り方を習得しておく(2時間)
第5回：絵本の読み聞かせの方法(発表)
　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく(2時間)
　事後学習：授業の内容をふまえ、絵本の読み聞かせを復習する(2時間)
第6回：絵本の読み聞かせの実践(発表)
　事前学習：発表にそなえ、絵本の読み聞かせを練習しておく(2時間)
　事後学習：コメントシートをもとに振り返りを行い自己課題を見つける(2時間)
第7回：紙芝居の特性と実践(グループワーク)
　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく(2時間)
　事後学習：紙芝居を借り、読み方を復習しておく(2時間)
第8回：シアタースタイルの児童文化財について①パネルシアター・エプロンシアター(グループワーク)
　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく(2時間)
　事後学習：授業で紹介した参考書や動画をもとに操作方法をマスターしておく(2時間)

第９回：シアタースタイルの児童文化財について②ペープサート・人形劇（グループワーク）
　　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（２時間）
　　事後学習：授業で紹介した参考書や動画をもとに操作方法をマスターしておく（２時間）
第10回：児童文化財と情報機器の保育現場での活用
　　事前学習：配布資料を読み、要点をまとめておく（２時間）
　　事後学習：授業で紹介した参考書や動画をもとに復習する（２時間）
第11回：子どもの文化財の制作～指導計画の立て方
　　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（２時間）
　　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する（２時間）
第12回：子どもの文化財の制作～具体的な制作の方法
　　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（２時間）
　　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する（２時間）
第13回：自作の文化財による模擬保育①グループⅠ～Ⅲ（実技・発表）
　　事前学習：参考書などをもとに制作の計画を立てる（２時間）
　　事後学習：発表に間に合うよう制作、練習をしておく（２時間）
第14回：自作の文化財による模擬保育②グループⅣ～（実技・発表）
　　事前学習：発表の練習をする（２時間）
　　事後学習：コメントシートをもとに振り返りを行い自己課題を見つける（２時間）
第15回：文化財と模擬保育についての講評
　　事前学習：振り返りレポートをまとめる（２時間）
　　事後学習：コメントシートをもとに振り返りを行い自己課題を見つける（２時間）
定期試験は実施しない。

成　績　評　価　方　法

中間レポート（30％）、制作・模擬保育（30％）、振り返りレポート（20％）、授業後のコメントシート（20％）

成　績　評　価　基　準

子どもを取り巻く文化に関心を持っているか。それぞれの文化財の役割を理解した上で主体的に発表に取り組めているか。

テキスト、参考図書

教科書：保育者のための言語表現の技術：子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践（古橋和夫編著、萌文書林、2016年）
参考書：絵本から学ぶ子どもの文化（浅木尚美編著、同文書院、2015年）、幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

制作時間が限られていますので、授業中に仕上がらない場合は空き時間などを利用して制作してください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導(幼稚園) (Guidance for Field Practice(Preschool))			担当教員	伊東　知之、鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2109	1単位	1年･3年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育実習

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

この授業は「教育実習Ⅰ(幼稚園)」(1年次)及び「教育実習Ⅱ(幼稚園)」(3年次)の事前事後指導として実施されるものである。幼稚園教育実習の目的・内容・方法及び留意事項などを理解するとともに、実習日誌の記録や指導計画の作成をはじめとして、実践に必要な基礎的な技能・技法についても学習する。また、教育実習を評価・反省することを通して、実習後の学習課題を明確にしていくための場でもある。

授業の到達目標

・実習の目的や意義を理解する。
・実習に必要な知識や技能を修得する。
・実習に必要な態度や心構えを身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1年次
第1回：教育実習オリエンテーション・教育実習の意義と目的を理解する。(伊東、鈴木)
第2回：4段階実習(見学・観察実習、参加実習、部分実習、指導実習)の意義・役割とその方法について理解する。(伊東、鈴木)
第3回：実習ノート(日誌)等の記録の取り方、記入の仕方を学習する。(伊東、鈴木)
第4回：指導案(週案・日案・設定保育案)の作成法、模擬保育実践を仮定して、立案を試みる。(伊東、鈴木)
第5回：模擬保育①(伊東、鈴木)(グループワーク)
第6回：模擬保育②(伊東、鈴木)(グループワーク)
第7回：模擬保育③(伊東、鈴木)(グループワーク)
第8回：模擬保育④(伊東、鈴木)(グループワーク)
第9回：研究テーマ、実習心構えの作成及び実習に臨む際、子どもの健康面、安全面などへの配慮、留意すべき点の確認をする。(伊東、鈴木)
第10回：実習報告会(2年生の実習体験報告を聞き、疑問点等の質問をする)。(伊東、鈴木)
第11回：スキルアップ講座①(学外指導者による実習に対する講演)(外部講師)
第12回：スキルアップ講座②(学外指導者による実践的指導)(外部講師)
第13回：スキルアップ講座③(学外指導者による実践的指導)(外部講師)
・模擬保育の練習を行う。
・実習の心構えや研究テーマを作成する。

成績評価方法

課題提出物(40%)、模擬保育(40%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準
・実習の意義や目的を理解している。 ・指導案がしっかり作成されている。 ・実習に必要な提出物が提出されている。
テキスト、参考図書
林幸範、石橋裕子編　『最新　保育園幼稚園の実習　完全マニュアル』 文部科学省　『幼稚園教育要領』 仁愛大学実習指導委員会編　『教育実習（幼稚園）実習の手引き』
その他（受講上の注意）
1年次の本授業受講者は、3年次も受講すること。評価は3年次末ににあわせて行う。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習Ⅰ(幼稚園) (Teaching Practice Ⅰ (Preschool))			担当教員	伊東　知之、鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-E-2161	1単位	1年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実習に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育実習

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

1年次2月に3グループに分かれて仁愛女子短期大学付属幼稚園で1週間(5日間)の教育実習を行う。

授業の到達目標

・見学・観察実習中の態度・姿勢がよい。
・幼児と積極的に関わる。
・幼児の個性や発達の違いを理解する。
・実習記録のつけ方が適切である。。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■　実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

教育実習は次に掲げる目的をもって「見学・観察」に即した実習を行う。
(1)幼稚園の1日の流れを知る。
(2)満3歳児から6歳児までの発達段階に対応した幼児の活動を見通す。
(3)部分実習(ex. 絵本の読み聞かせ・手遊びなど)の体験を通して、指導実習にかかる幼児の観察・理解の一助とする。
(4)教諭の仕事や役割を理解する。・実習ノート(日誌)を毎日作成し、実習園に提出する。
・実習の心構えや研究テーマ等を実習開始までに作成する。
・指導案を作成し、指導者の助言を受けて修正をする。
・部分実習の準備を行う。

成績評価方法

実習園での評価(評価表)と大学の評価を総合して評価する。

成績評価基準

・見学・観察実習中の態度・姿勢がよかったか。
・幼児と積極的に関われたか。
・幼児の個性や発達の違いを理解しようとしたか。
・実習記録のつけ方は適切だったか。

テキスト、参考図書

(1)文部科学省　『幼稚園教育要領』
(2)子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習(幼稚園)の手引き』
(3)子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習Ⅰ(幼稚園)実習ノート』
(4)林幸範、石橋裕子編著『保育園幼稚園の実習完全マニュアル』

その他（受講上の注意）
教育実習は、卒業後、教員として就職することを強く希望する学生のために、実習園の教育的配慮・好意によって受け入れていただくものである。また、「教育実習Ⅱ（幼稚園）」（３年次前期）の受講資格の要件に含まれる科目なので、幼稚園教諭を目指す学生は必ず受講すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

仏教の思想 (Views of Buddhism)			担当教員	伊東　恵深
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1211	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　全学共通科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

ブッダと親鸞の思想を学ぶことを通して、人間の課題を学び、自らの生き方を問い尋ねていく。ブッダと親鸞の生涯と教えについて基本的な知識を修得する。そのことを通して、「人間とは何か」「人として生きる（人生）とはどういうことか」を学び、自己理解と他者理解を深め、豊かな人間関係を築く上での人間力を養う。

授業の到達目標

ブッダと親鸞の生涯と思想について基本的な知識を修得し、説明することができる。
仏教思想における人間観を学び、「自分とは何か」を考察し、表現することができる。
仏教思想を通して、豊かな人間関係のあり方を学び、主体的に考える姿勢を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：イントロダクション
　　事前学習：受講前に、テキストの「はじめに」と2～8頁を読んでおくこと。（8時間）
第2回：ブッダに学ぶ①　ブッダの生涯に何を学ぶか
第3回：ブッダに学ぶ②　四苦に向きあう1
第4回：ブッダに学ぶ③　四苦に向きあう2
　　事後学習：学んだ箇所を復習し、レポートにまとめること。（8時間）
　　事前学習：テキストの56～72頁を読んでおくこと。（8時間）
第5回：ブッダに学ぶ④　悟りとは何か1
第6回：ブッダに学ぶ⑤　悟りとは何か2
第7回：ブッダに学ぶ⑥　ブッダに出会った人びと1
第8回：ブッダに学ぶ⑦　ブッダに出会った人びと2
　　事後学習：学んだ箇所を復習し、レポートにまとめること。（8時間）
　　事前学習：テキストの92～101頁を読んでおくこと。（8時間）
第9回：親鸞に学ぶ①　概説
第10回：親鸞に学ぶ②　ブッダの教えに生きる
第11回：親鸞に学ぶ③　求道の歩み1
第12回：親鸞に学ぶ④　求道の歩み2
　　事後学習：学んだ箇所を復習し、レポートにまとめること。（8時間）
　　事前学習：テキストの112～136頁を読んでおくこと。（6時間）
第13回：親鸞に学ぶ⑤　自己との出遇い
第14回：親鸞に学ぶ⑥　救いとは何か
第15回：全体のまとめ
　　事後学習：授業全体を通して何を学んだか、レポート・配布資料等振り返り確認すること。（6時間）

成　績　評　価　方　法
授業内小レポート・感想文、課題（50%）　平常点（50%） （平常点は、出席状況、受講態度等で総合的に判断します。）
成　績　評　価　基　準
講義の理解度と、理解した内容を自らの課題として考察・表現できているかどうかを基準にする。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
『ブッダと親鸞』（東本願寺出版部）
その他（受講上の注意）
私語、携帯電話等の使用は厳禁です。複数回注意を受けた場合は欠席扱いとします。テキストは必携です。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

哲学の世界観 (Philosophical Thinking)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1221	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

古代からの西洋の哲学・思想が生み出してきたさまざまなものの見方を紹介する。また、そうしたものの見方が現代に及ぼしている影響について講義する。

授業の到達目標

哲学独自の思考方法や批判的思考に慣れ親しむことを通じて、社会人なら知っておくべき程度の、哲学・倫理学の基本的な概念を理解し、その術語を習得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーションと「世界観」概念の説明
　事前学習：参考文献などを基に「哲学」「世界観」について調べノートしておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと(2時間)
第2回：神話的世界観ではなぜ不十分なのか？(ミュートスからロゴスへ)
　グループワーク(10分)授業中に出す「神話と科学の違い」に関して、同じ列の学生とで話し合って考える。
　事前学習：参考文献などを基に、日本や中国、ギリシャの「宇宙創成神話」について調べノートしておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと(2時間)
第3回：哲学的思考の発祥(プレソクラテス1)
　事前学習：参考文献などを基に「ピタゴラス」について調べてノートしておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと(2時間)
第4回：哲学的思考の展開(プレソクラテス2)
　事前学習：参考文献などを基に「ヘラクレイトス」「パルメニデス」について調べノートしておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと(2時間)
第5回：ロゴス思想の展開と原子論へ(プレソクラテス3)
　事前学習：参考文献などを基に「原子論」について調べノートしておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと(2時間)
第6回：対話という方法の発明(ソクラテスのディアレクティケー1)
　事前学習：参考文献などを基に「ソクラテスの生涯」について調べノートしておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと(2時間)
第7回：「知る」とはどういう営みか？(ソクラテスのディアレクティケー2)
　事前学習：参考文献などを基にソクラテスの「無知の知」について調べノートしておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと(2時間)

第８回：何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？（プラトンのイデア論１）
事前学習：現代語のアイディア（idea）の語義を調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第９回：何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？（プラトンのイデア論２）
事前学習：前回の授業を踏まえて「イデア」と「概念」の違いについて考え、ノートしておくこと（２時間）
事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第10回：「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？（アリストテレスの目的論と全体論）
事前学習：現代語の「エネルギー（energy）」の語義について調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第11回：「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？（アリストテレスの存在論）
事前学習：参考文献などを基に「実体」''substance'',''subject''の語義を調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第12回：宇宙観の変化が人間観・世界観に与えた影響１
事前学習：参考文献などを基に「コペルニクス」「ガリレイ裁判」について調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第13回：宇宙観の変化が人間観・世界観に与えた影響２
事前学習：参考文献などを基にパスカルの「人間は考える葦である」という箴言について調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第14回：身体は一種の機械なのか？（デカルトの心身二元論）
事前学習：参考文献などを基に「懐疑主義」の語義について調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第15回：知識の源泉としての自我（デカルトの自我論・知識論）
事前学習：参考文献などを基にデカルトの「方法的懐疑」について調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第16回：定期試験
毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。そのうえで、授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。

成績評価方法

定期試験（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する）

成績評価基準

・哲学の基本的な用語や人名について、これを理解し、説明することができるか。
・授業で扱う西洋思想の流れを理解しているか。

テキスト、参考図書

テキストはとくに使用せず、適宜プリントを配布する。
参考図書については１回目の授業で一覧を配布するが、安価かつ容易に入手できるものを以下に記載しておく。
・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書）　岩波書店　2003
・伊藤邦武『物語　哲学の歴史』（岩波新書）　岩波書店　2012
・熊野純彦『西洋哲学史　古代から中世へ』（岩波新書）　岩波書店　2006
・熊野純彦『西洋哲学史　近世から現代へ』（岩波新書）　岩波書店　2006

その他（受講上の注意）

毎回授業内で小レポートを書いてもらう。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つものはその場で注意するが、注意によっても改まらない場合、当日欠席扱いとするので注意されたい。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

文学の世界 (The World of Literature)			担当教員	笠原　茂子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1222	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

郷土に関係する作家や文学作品や昔話おとぎ話等を取り上げ読解する。読むことで得た知識をもとに簡単な文学作品を創作する。

授業の到達目標

古今の郷土に関係のある文学作品や作家の生き方に触れることで、それぞれの時代にふるさとに生きた人々の思想や願いに思いをはせるとともに、創作活動に必要な文章構成や表現の工夫などの基礎的な知識を身につけることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
事前学修：今までの自分の読書生活を振り返り、この講義で学びたいことややってみたいことなどについて、簡単なスピーチができるようにしておくこと。（2時間）
事後学修：「ビブリオバトル」のルールについて、図書やインターネットで等で調べておくこと。（2時間）
第2回：郷土（武生・今立）の文学概論　（発表・ディスカッション）
事前学修：ビブリオバトルができるように準備しておくこと。（2時間）
郷土に関連のある作家や文学作品の中で興味のあるものについて調べ、ノートにまとめておくこと。
事後学修：越前市東部（味真野地区・今立地区）の文化遺産について調べ、ノートにまとめておく（2時間）
第3回：郷土の文学①いわさきちひろと絵本　（発表・ディスカッション）
事前学修：ビブリオバトルができるように準備しておくこと。（2時間）
「いわさきちひろ」について、図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。
事後学修：安曇野と東京のちひろ館やちひろの絵の技法について調べ、ノートにまとめておくこと。（2時間）
第4回：郷土の文学②加古里子とかこさとし絵本館　（発表・ディスカッション）
事前学修：ビブリオバトルができるように準備しておくこと　（2時間）
「かこさとし」について図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと
事後学修：かこさとし公園やかこさとしの絵の技法について調べ、してノートにまとめておくこと。（2時間）
第5回：文学散歩①学外研修　（2コマ連続　フィルドワーク）
第6回：文学散歩②学外研修
事前学修：越前市旧市内の文学遺産について調べ、「文学散歩」に参加するうえでの課題や計画をグループごとに立てておくこと。（4時間）
事後学修：「文学散歩」での写真やパンフレット、聞き取りメモ等を整理しておくこと。（4時間）

第７回：文学散歩③研修のまとめ
事前学修：集めた資料をもとに「文学散歩新聞」のレイアウトを作成しておくこと。（２時間）
事後学修：「文学散歩新聞」を完成させること。（２時間）
第８回：郷土が生んだ作家たち③橘曙覧と独楽吟　（発表・グループワーク）
事前学修：ビブリオバトルができるように準備しておくこと。（２時間）
「橘曙覧」について、図書館やインターネットで調べておくこと。
事後学修：「平成独楽吟集」を読み、曙覧の句と比べて社会的背景や先人の物の見方・感じ方について感想をノートにまとめておくこと。（２時間）
第９回：神話・昔話の世界①小学校１年生の教科書教材　（発表・ディスカッション）
事前学修：ビブリオバトルができるように準備しておくこと　（２時間）
日本の神話や昔話（古事記・宇治拾遺物語・御伽草子等）について調べ、ノートにまとめておくこと。
事後学修：授業中に紹介された日本の説話集について、図書館で調べたりオフィスアワーの時間に担当教員に質問したりすること。（２時間）
第10回：神話・昔話の世界②原典や絵本等を読む　（発表・ディスカッション）
事前学修：ビブリオバトルができるように準備しておくこと。（２時間）
西洋の昔話（グリム・アンデルセン・ペロー等）について調べ、ノートにまとめておくこと。
事後学修：授業中に紹介された西洋の昔話・おとぎ話について、図書館で調べたりオフィスアワーの時間に担当教員に質問したりすること。（２時間）
第11回：童話創作法　（発表・ディスカッション・グループワーク）
事前学修：ビブリオバトルができるように準備しておくこと。（２時間）
芥川龍之介について調べ、ノートにまとめておくこと。
事後学修：芥川龍之介の作品（説話集からの再話）を一つ読み、400字程度の感想文を書くこと。（２時間）
第12回：童話の創作①　（発表・ディスカッション）
事前学修：ビブリオバトルができるように準備しておくこと。（２時間）
日本の昔ばなしや西洋のおとぎ話をテーマにした絵本・児童向け作品集を読み、あらすじと感想をノートにまとめておくこと。
事後学修：幼児教育における昔話やおとぎ話の意義について、意見をノートにまとめること。（２時間）
第13回：童話の創作②　（発表・ディスカッション）
事前学修：ビブリオバトルができるように準備しておくこと。（２時間）
図書館やインターネット等で日本の代表的な説話集にどのような物があるか調べ、ノートにまとめておくこと。
事後学修：授業で課された課題の続きをすること。（２時間）
第14回：童話の創作③　（発表・ディスカッション）
事前学修：ビブリオバトルができるように準備しておくこと。（２時間）
課題の続きをすること。
事後学修：授業の課題（日本の説話集から作品を選び、現代の社会状況に合わせて書き直す）を完成させること。（２時間）
第15回：創作童話の合評会　（プレゼンテーション）
事前学修：ビブリオバトルで自分が取り上げた作品について、ワークシートにまとめておくこと。（２時間）
事後学修：本授業を受講して印象に残ったことや更に調べてみたいことなどをノートにまとめておくこと。（２時間）

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（50％）、授業内の課題（30％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

古今の郷土に関係する作家や作品について理解を深めたか。作品創作に必要な手順や方法など基礎的な知識を理解して、文章構成や表現に留意した作品が書けたか。

テキスト、参考図書

テキストは、使用しません。参考図書は、その都度指示します。

その他（受講上の注意）

毎回、ビブリオバトルをします。（１冊本を読んでおく）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

美術の世界 (The World of Art)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1223	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

先史時代から現代までの美術の歴史を概観することによって美術史の特徴や普遍性について考察する。また、美術の中の絵画、彫刻、デザインといった各分野についてさらに詳しい具体的な内容を検証し、私たちの身の周りに存在する美術についても考察していく。そして、美術と人間の関わり、美術と社会との関わりを探究することによって美術の起源、存在理由等、美術の本質に迫りながら人間の営みとしての美術を総合的に見ていく。

授業の到達目標

・美術の歴史や分野について説明できる。
・ある程度、美術作品として自分なりに工夫して表現できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：美術の起源・なぜ人は絵を描くのか
　事前学習：美術の起源について調べてまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間)
第2回：美術の歴史①(古代)
　事前学習：古代美術について調べてまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間)
第3回：美術の歴史②(ルネッサンス)
　事前学習：ルネッサンスについて調べてまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業ないようについてまとめておく。(2時間)
第4回：美術の歴史③(ルネッサンス)
　事前学習：ルネッサンスについてさらに調べてまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間)
第5回：美術の分野①(絵画)
　事前学習：興味のある絵画について調べておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間)
第6回：美術の分野②(彫刻)
　事前学習：興味のある彫刻について調べておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間)
第7回：美術の分野③(工芸)
　事前学習：興味のある工芸について調べておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間)
第8回：美術の分野④(デザイン)
　事前学習：興味のあるデザインについて調べておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をまとめておく。(2時間)

第９回：美術展見学
　　事前学習：見学する美術展について調べておく。（２時間）
　　事後学習：見学した内容をレポートにまとめる。（２時間）
第10回：美術作品について①
　　事前学習：興味のある美術作品について調べておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容をまとめておく。（２時間）
第11回：美術作品について②
　　事前学習：さらに興味のある美術作品について調べておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容をまとめておく。
第12回：美術作品について③
　　事前学習：さらに興味のある美術作品について調べておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容をまとめておく。（２時間）
第13回：作品発表
　　事前学習：作品発表できるように作品制作をする。（２時間）
　　事後学習：指摘があった箇所についてさらに制作する。（２時間）
第14回：美術の歴史④（近代、現代）
　　事前学習：美術の歴史の概要について調べておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容をまとめておく。（２時間）
第15回：まとめ・美術について
　　事前学習：授業全体の内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：美術についてのレポートを提出する。（２時間）

成　績　評　価　方　法

レポート（60％）、作品（20％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

・美術の歴史や意味について説明できるか。
・テーマに基づいて自分なりに工夫して作品ができたか。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布する。

その他（受講上の注意）

美術展の見学を土曜日に行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活と環境B (Life Science and the Environment B)			担当教員	安彦　智史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2231	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

情報機器の構成・動作原理、ソフトウェアやネットワークの理解

授業の到達目標

近年、我々人間の生活に多大な影響を及ぼす社会基盤のひとつとなった、コンピュータや情報通信技術を中心とする情報環境について理解することができる。主な内容として、デジタル情報の基礎的理解、ハードウェアの構成、オペレーティングシステム、アプリケーションソフトウェアの種類、ネットワークの活用と技術、情報関連の法律と倫理、情報リスクとセキュリティについて用語やその関連性、関連数値の計算について説明ができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習 (PBL)　□討議 (ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表 (プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：チュートリアル　情報とは何か
　事前学習：シラバスを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：第1回授業資料を読み、課題を提出すること（2時間）
第2回：データの種類と拡張子について、コンピューターの特徴
　事前学習：第1回授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：第2回を読み、課題を提出すること（2時間）
第3回：高度情報化社会とコンピューター
　事前学習：第2回授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：第3回授業資料を読み、課題を提出すること（2時間）
第4回：コンピュータの仕組みと5大機能
　事前学習：第3回授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：第4回授業資料を読み、課題を提出すること（2時間）
第5回：第1回から第4回のまとめ
　事前学習：第1回から第4回までの授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：第1回から第4回までの授業資料を読み、復習を行うこと（2時間）
第6回：情報の計算
　事前学習：期末テストに向けて前回までの範囲をまとめること（2時間）
　事後学習：第6回授業資料を読み、課題を提出すること（2時間）
第7回：情報の表現
　事前学習：第6回授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：第7回授業資料を読み、課題を提出すること（2時間）
第8回：ネットワークをつなぐ
　事前学習：第7回授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：第8回授業資料を読み、課題を提出すること（2時間）

第９回：ネチケットとインターネットの落とし穴
　　事前学習：第８回授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：第９回授業資料を読み、課題を提出すること（２時間）
第10回：第６回目から第９回目計算問題まとめ
　　事前学習：第６回から第９回までの授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：第６回から第９回までの授業資料を読み、復習を行うこと（２時間）
第11回：福祉と情報、プログラミング思考
　　事前学習：期末テストに向けて前回までの範囲を復習すること（２時間）
　　事後学習：第11回授業資料を読み、課題を提出すること（２時間）
第12回：情報システムにおけるアルゴリズム
　　事前学習：第11回授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：第12回授業資料を読み、課題を提出すること（２時間）
第13回：フローチャートの記述
　　事前学習：第12回授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：第13回授業資料を読み、課題を提出すること（２時間）
第14回：データベースについて
　　事前学習：第13回授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：第14回授業資料を読み、課題を提出すること（２時間）
第15回：デザイン思考について
　　事前学習：第14回授業資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：第15回授業資料を読み、課題を提出すること（２時間）
第16回：定期試験
この授業では、非常に多くの関連する用語について、その意味などを理解する必要があるので、情報関連の用語事典なども参考にすること。

成　績　評　価　方　法

小テスト・定期試験による結果を50%、復習課題の結果を50%とする。

成　績　評　価　基　準

情報機器の構成・動作原理、ソフトウェアやネットワークについて、用語やその関連性について説明できるか。関連する数値の計算を行えるか。

テキスト、参考図書

配布するプリントをテキストとする。

その他（受講上の注意）

欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。また、課された課題は必ず提出すること。
また、学習内容に関連する検定・資格（ITパスポート試験、IC３等）の取得をめざすことで、より一層の知識を習得することが望ましい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活と環境D (Life Science and the Environment D)			担当教員	藤原　英一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2232	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

これからの時代にふさわしい生活環境のあり方、人や環境にやさしい生活者、まちづくりの担い手となるための知識やノウハウを学ぶ。

授業の到達目標

持続可能な地域社会を実現するうえで必要となる人と自然にやさしい生活環境づくりに向けて、以下のとおり、我々が行動すべきこと、地域社会に働きかけるべきことを体得することを目標とする。
○人と環境にやさしいまちづくりに関する知識・考え方を体得する
○人と環境にやさしいライフスタイル・暮らし方に関する知識・考え方を体得する
○ワークショップ手法を通じて、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる能力を高める

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

授業は講義形式を中心とし、節目節目において課題のプレゼンテーションを交える。
第1回：まちづくり
　事前学習：まちづくりについて、事前に調査し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことを再度調べてまとめておくこと。(2時間)
第2回：景観と景観まちづくり～暮らしを豊かにする風景・景観～
　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことを再度調べてまとめておくこと。(2時間)
第3回：デザイン～社会問題を解決するデザイン～
　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことを再度調べてまとめておくこと。(2時間)
第4回：幸せな地域にあるもの①～社会の課題・地域の課題とその解決策～
　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことを再度調べてまとめておくこと。(2時間)
第5回：幸せな地域にあるもの②(グループワーク)
　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：各グループにて役割分担し、テーマについて調査し、まとめておくこと。(2時間)
第6回：幸せな地域にあるもの③(グループワーク)
　事前学習：各グループにて役割分担し、テーマについて調査し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：グループワークの内容について、振り返り、反省点などをまとめておくこと。(2時間)
第7回：コンパクトシティ①～今後必要となるライフスタイル・暮らし方～
　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことを再度調べてまとめておくこと。(2時間)

第８回：コンパクトシティ②
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことを再度調べてまとめておくこと。（２時間）
第９回：シビックプライド①～まちと自分の関係～
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことを再度調べてまとめておくこと。（２時間）
第10回：シビックプライド②（グループワーク）
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：グループワークの内容について、振り返り、反省点などをまとめておくこと。（２時間）
第11回：リノベーション～豊かな暮らし、自分がしたい暮らし方～
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことを再度調べてまとめておくこと。（２時間）
第12回：公共空間の再構築①～これからの時代に必要な公共空間～
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことを再度調べてまとめておくこと。（２時間）
第13回：公共空間の再構築②
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことを再度調べてまとめておくこと。（２時間）
第14回：公共空間の最構築③＋ワークショップⅣ（グループワーク）
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマについて、事前に調査し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：各グループにて役割分担し、テーマについて調査し、まとめておくこと。（２時間）
第15回：私たちが考えるこれからのまちづくりの提案（プレゼンテーション）
　　事前学習：発表用プレゼンテーションの作成し、発表準備をしておくこと。（２時間）
　　事後学習：個々の発表内容について、関心がある事項等をまとめておくこと。（２時間）

成　績　評　価　方　法

出席状況および出欠アンケートの内容70％、グループワークショップ・プレゼンの内容10％、受講姿勢・意欲20％で評価を行う。

成　績　評　価　基　準

成績評価の基準は、授業の到達目標に対する学修成果の達成度を以下の基準に基づいて評価する。
○人と環境にやさしいまちづくり・ライフスタイルに関して必要となる視点やその理由に関する理解度
○ワークショップ手法の理解度、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる技術等の体得状況

テキスト、参考図書

参考文献
『地域を変えるデザイン』　筧裕介著（英治出版）2011年
『コミュニティデザインの時代』　山崎亮著（中公新書）2012年
『ソーシャルデザイン実践ガイド』　筧裕介著（英治出版）2013年　他

その他（受講上の注意）

授業の妨げとなる行為（私語、携帯、受講姿勢不良等）が著しい者には退席を命ずることがある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

ふくい総合学 (General Studies of Fukui)			担当教員	杉島　一郎、織田　暁子、鳴瀬みどり、 柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2233	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

様々な分野・専門領域における「ふくい」についての現況の課題や行政施策等の理解促進を目的とする授業です。本授業では特に「ふくい」の中の「越前市」に焦点をあて、市職員を招聘し、学生へ市計画等の事業の現状、将来構想、施策の特徴を講義し、「市を取り巻く状況」に始まり、「戦略的取組」「行政課題」や「今後の展望」などを取り上げます。
後半は、本学各学科各領域からの視点で越前市や地域との関連性について取り上げ、大学の立地自治体の特徴、文化の理解を深めてもらえるような内容となっています。

授業の到達目標

本学が立地する自治体である「越前市」の特徴や行政全般、さらには独自の文化等に対しての理解が深まる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：「ふくい」総合学」趣旨説明＜ 総論＞越前市を取り巻く状況
　事前学習：授業前にシラバスを読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容を振り返り、e−learningを通じてリフレクションを実施すること。(2時間)
第2回：戦略的取り組み＜まちづくり編＞コウノトリと里山の人たちとの共生、かこさとしさんと読書のまち宣言
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：e−learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間)
第3回：戦略的取り組み＜福祉編＞検診を受けよう　新しい健康づくり、子どもの笑顔が輝く環境づくり
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：e−learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間)
第4回：戦略的取り組み＜文化編＞国府が置かれた歴史あるまちづくり、たけふ菊人形63年のあゆみ
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：e−learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間)
第5回：戦略的取り組み＜産業編＞越前市の産業活性化(産業活性化プラン・工芸の里構想)
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：e−learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間)
第6回：戦略的取り組み＜環境編＞下水道事業で人と環境のネットワークづくり、もったいない！捨てないで資源回収しよう
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：e−learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間)
第7回：行政課題(1)地域が支える災害に強いまちづくり、まちづくりと交通体系
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：e−learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。(2時間)

第８回：行政課題（２）越前市の財政、越前市で暮らそう！～新生活を始めるなら中心市街地がおすすめ～
事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e－learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第９回：行政課題（今後）オープンデータを利用したまち情報の発信、きくりんがちょっといいこと教えちゃうリン！～越前市の嬉しい情報をお届けします～
事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e－learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第10回：行政課題（展望）市民協働プロセスの確立、市民交流・ネットワークづくり
事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e－learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第11回：心理学の視点から（心理学科教員）
事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e－learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第12回：コミュニケーション学の視点から（コミュニケーション学科教員）
事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e－learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第13回：健康栄養学の視点から（健康栄養学科教員）
事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e－learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第14回：子ども教育学の視点から（子ども教育学科教員）
事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e－learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第15回：まとめ（とりまとめ教員）
事前学習：授業前に14回までを振り返り、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e－learningを通じて授業全体のリフレクションを実施すること。（２時間）

成　績　評　価　方　法

レポート（60％）　平常点（40％）
（平常点は、授業時のリアクションペーパー、受講態度等を総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

「越前市の人とまち、その文化」というテーマで、「越前市の取組み」についての現況の課題や今後の施策内容等を理解できたか。

テキスト、参考図書

毎回プリントを配布。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅱa (EnglishⅡa)			担当教員	フッド　晴美、紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2241	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

Following a 'Warm-up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for key words and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of scanning for general understanding as well as reading for specific content. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習 (PBL)　■討議 (ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表 (プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Class Introduction (ディスカッション)
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第2回：Unit 1 - Hobbies ① (ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第3回：Unit 1 - Hobbies ② (ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第4回：Unit 2 - Clothes and Colors ① (ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第5回：Unit 2 - Clothes and Colors ② (ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第6回：Unite 3 - An Active Life ① (ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)

第７回：Unite 3 - An Active Life ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第８回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第９回：Unit 4 - Getting Around ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第10回：Unit 4 - Getting Around ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第11回：Unit 5 - Personality ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第12回：Unit 5 - Personality ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第13回：Unit 6 - Cooking ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第14回：Unit 6 - Cooking ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第15回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第16回：Examination（ディスカッション）
Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Talk' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the written assignments suggested in the textbook as well as other relevant assignments.

成 績 評 価 方 法

Outside-class Assignments - 20%
Proactive In-class Participation - 20%
Examination - 60%

成 績 評 価 基 準

Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.

テキスト、参考図書

Stempleski, Susan. Stretch 2. Oxford University Press. 2014. ISBN 978-0-19-460313-3
TEXT加藤 『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017年

その他（受講上の注意）

Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university. Also, at least one class will be held in the E-Lounge (E-301) or CALL (E-303) during the semester to familiarize the students with the latest available English self-study materials.

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅱb (EnglishⅡb)			担当教員	フッド　晴美、紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2242	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

Following a 'Warm-up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises.
Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for key words and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of scanning for general understanding as well as reading for specific content. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to- understand manner.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習 (PBL)　■討議 (ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表 (プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Class Introduction (ディスカッション)
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第2回：Unit 7 - Weather ① (ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第3回：Unit 7 - Weather ② (ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第4回：Unit 8 - Everyday Activities ① (ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第5回：Unit 8 - Everyday Activities ② (ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第6回：Unit 9 - Math, history, and art ① (ディスカッション)
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)

第７回：Unit 9 - Math, history, and art ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第８回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第９回：Unit 10 A - busy semester ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第10回：Unit 10 - A busy semester ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第11回：Unit 11 - Favors and requests ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第12回：Unit 11 - Favors and requests ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第13回：Unit 12 - Before you travel ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第14回：Unit 12 - Before you travel ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第15回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第16回：Examination
Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Talk' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the written assignments suggested in the textbook as well as other relevant assignments.

成 績 評 価 方 法

Outside-class Assignments - 20%
Proactive In-class Participation - 20%
Examination - 60%

成 績 評 価 基 準

Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.

テキスト、参考図書

Stempleski, Susan. Stretch 2. Oxford University Press. 2014.　ISBN 978-0-19-460313-3
TEXT加藤　『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017年

その他（受講上の注意）

Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university.

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

キャリア・デザインⅡ（Career DesignⅡ）			担当教員	升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2261	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学修経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと

授業の内容

社会の中での役割を主体的に果たしながら、「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できる機会の提供を通じて、今後の大学生活の目標を設定する。

授業の到達目標

・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができる。
・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：キャリア・デザインとは
　事前学習：初回の授業ではキャリア・デザインの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で課されたライフストーリーについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：ライフストーリー①
　事前学習：次回の授業ではゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、ゲストスピーカーの職業概要について自分なりに調べておくこと。（2時間）
　事後学習：事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
　※ゲストスピーカーは初回授業でお知らせします。
第3回：ライフストーリー②
　事前学習：次回の授業ではゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、ゲストスピーカーの職業概要について自分なりに調べておくこと。（2時間）
　事後学習：事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
　※ゲストスピーカーは初回授業でお知らせします。
第4回：ライフストーリー③
　事前学習：次回の授業ではゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、ゲストスピーカーの職業概要について自分なりに調べておくこと。（2時間）
　事後学習：事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
　※ゲストスピーカーは初回授業でお知らせします。

第５回：ライフストーリー（グループワークおよび発表）
事前学習：次回の授業では各自調査したライフストーリーについて考えるため、調査対象のライフストーリーについて自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第６回：職業理解①
事前学習：次回の授業では金融業界について考えるため、金融業界について自分なりに調べておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
※金融業界は予定です（変更する場合があります）。
第７回：職業理解②
事前学習：次回の授業ではマスコミ業界について考えるため、マスコミ業界について自分なりに調べておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
※マスコミ業界は予定です（変更する場合があります）。
第８回：職業理解③
事前学習：次回の授業では建設業界について考えるため、建設業界について自分なりに調べておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
※建設業界は予定です（変更する場合があります）。
第９回：「はたらく」とは
事前学習：次回の授業では「はたらくことの意味・意義」について考えるため、について自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第10回：スキルアップ
事前学習：次回の授業ではスキルと資格の必要性について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第11回：インターンシップ
事前学習：次回の授業ではインターンシップ参加の意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第12回：就職活動①
事前学習：次回の授業では就職活動の心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第13回：就職活動②
事前学習：次回の授業では就職活動の心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第14回：労働法
事前学習：次回の授業では労働法について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第15回：まとめ
事前学習：次回の授業では「はたらく」ことと大学生活での「学び」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）

成　績　評　価　方　法

課題に対する活動内容・提出物（70％）、平常点（30％）
※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの

成　績　評　価　基　準
・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができるか。 ・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができるか。
テキスト、参考図書
テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。
その他（受講上の注意）
民間企業を前提としたプログラム構成となっており、幅広い視野を養うことを狙いとしています。また、リアクション・ペーパー（授業中作成）の内容については、最終授業においてフィードバックします。なお、「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生命科学 (Life Science)			担当教員	鳴瀬みどり、野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2205	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

管理栄養士に必要な生命科学に関する知識を習得し、実際に医療チームの一員として行動する際に倫理学的に対応できる能力を養う

授業の到達目標

・「生命とは何か」「ヒトはどのように進歩してきたのか」「死とは何か」、生命の基本単位、発生と分化等、生命の誕生から死まで生命活動の一連の流れについて説明することができる。
・生命倫理の必要性を理解し、説明することができる。
・生命科学と生命に関する諸問題について学び、医療チームの一員としての管理栄養士に必要な倫理観を養う。

アクティブ・ラーニング

□ 課題解決型学習 (PBL)　□討議 (ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表 (プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他 (DVD視聴)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：生命科学はどのように誕生したか (野村)
　事前学習：教科書第1章 (p.11－p.24) を読み、質問事項をまとめておくこと (1時間)
　事後学習：「生命とは何か」ノートにまとめておくこと (3時間)
第2回：生命はどのように設計されているか① (野村)
　事前学習：教科書第2章第1～3節 (p.26－p.33) を読み、質問事項をまとめておくこと (1時間)
　事後学習：「細胞の構成」についてノートにまとめておくこと (3時間)
第3回：生命はどのように設計されているか②／小試験① (野村)
　事前学習：教科書第2章第4節 (p.33－p.36) を読み、質問事項をまとめておくこと (1時間)
　事後学習：「遺伝物質の構造」についてノートにまとめておくこと (1時間)
　小試験①で解けなかった問題を中心に復習し、ノートにまとめておくこと (2時間)
第4回：生命はどのように設計されているか③ (野村)
　事前学習：教科書第2章第5節 (p.36－p.40) を読み、質問事項をまとめておくこと (1時間)
　事後学習：「遺伝情報の発現」についてノートにまとめておくこと (3時間)
第5回：ゲノム情報はどのように発現するのか① (野村)
　事前学習：教科書第3章第1～5節 (p.42－p.48) を読み、質問事項をまとめておくこと (1時間)
　事後学修：「遺伝子の構造」についてノートにまとめておくこと (3時間)
第6回：ゲノム情報はどのように発現するのか②／小試験② (野村)
　事前学習：教科書第3章第6節 (p.49－p.54) を読み、質問事項をまとめておくこと (1時間)
　事後学習：小試験②で解けなかった問題を中心に復習し、ノートにまとめておくこと (3時間)
第7回：複雑な体はどのようにしてつくられるか① (野村)
　事前学習：教科書第4章第7～8節 (p.64－p.66) を読み、質問事項をまとめておくこと (1時間)
　事後学習：「発生と分化」についてノートにまとめておくこと (3時間)

第８回：複雑な体はどのようにしてつくられるか②／小試験③
　　事前学習：教科書第４章第１～６節（p.56－p.63）を読み、質問事項をまとめておくこと（１時間）
　　事後学習：小試験③で解けなかった問題を中心に復習し、ノートにまとめておくこと（３時間）
第９回：生命のしくみと再生医療（鳴瀬）（DVD視聴）
　　事前学習：第７回・第８回の講義テキスト・ノート・資料等を参考に、胚性幹細胞、体性幹細胞、iPS細胞の違いと再生医療についてまとめておくこと（１時間）
　　事後学習：視聴したDVDの内容について、胚性幹細胞、体性幹細胞、iPS細胞と再生医療に関するレポートを作成し、提出すること（３時間）
第10回：健康とは何か①（脳と健康）（鳴瀬）（講義と実技：認知症予防のためのエクササイズの体験）
　　事前学習：テキスト第５章を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第11回：健康とは何か②（食と健康）（鳴瀬）
　　事前学習：テキスト第７章を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第12回：健康とは何か③（生体防御機能）（鳴瀬）
　　事前学習：テキスト第８章を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第13回：がんとはどのような現象か（鳴瀬）
　　事前学習：テキスト第６章を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第14回：科学技術の進歩と生命倫理②（再生医療と生命倫理）（鳴瀬）
　　事前学習：テキスト第10章に掲載のColumnを読み、最新の科学技術について自分の考えをまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第15回：科学技術の進歩と生命倫理③（臓器移植・生殖補助医療と生命倫理）（鳴瀬）
　　事前学習：テキスト第11章を読み、臓器移植や生殖補助医療について自分の考えをまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験（鳴瀬・野村）
新聞・ニュース等で報じられる生命科学や倫理に関する諸問題について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、生命科学技術の発展に対する自分の考えと医療チームの一員としての倫理観を構築すること。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、課題レポート（20%）、平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・「生命とは何か」「ヒトはどのように進歩してきたのか」「死とは何か」、生命の基本単位、発生と分化等、生命の誕生から死まで生命活動の一連の流れについて説明することができるか。
・臓器移植、再生医療技術の発展等、医学研究にまつわる倫理的な諸問題について正しく理解できているか。

テキスト、参考図書

東京大学生命科学教科書編集委員会編『現代生命科学』羊土社 2015年

その他（受講上の注意）

・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。
・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。
・疑問点や不明点があれば直ちに質問すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公衆衛生学 (Public Health)			担当教員	鳴瀬みどり
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2206	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

集団的に人を捉えた予防医学が公衆衛生学であり、人々の健康状態の現状について学び、健康保持・増進を目的とした法律および施策について理解を深める。

授業の到達目標

・公衆衛生の概念とその重要性について理解し、説明することができる。
・人間を集団として捉え、人々の健康と環境および生活習慣との関わり、健康評価の方法等を理解し、説明することができる。
・集団としての健康の保持・増進に関する法律および施策について理解し、説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：社会と健康
　事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第1章末の練習問題をすること（2時間）
第2回：環境と健康①（生態系と人々の生活）
　事前学習：授業前にテキストの第2章p27～30を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第2章末の練習問題をすること（2時間）
第3回：環境と健康②（環境汚染と健康）
　事前学習：授業前にテキストの第2章p30～36、p40～43を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第2章末の練習問題をすること（2時間）
第4回：環境と健康③（環境衛生）
　事前学習：授業前にテキストの第2章p36～46を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第2章末の練習問題をすること（2時間）
第5回：保健統計①（人口静態統計，人口動態統計）
　事前学習：授業前にテキストの第3章p51～64を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第6章指定箇所も読んでおくこと（2時間）
第6回：保健統計②（生命表，健康状態と受療状況）
　事前学習：授業前にテキストの第3章p64～72を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第6章の指定箇所も読んでおくこと（2時間）
第7回：保健・医療・福祉の制度①
　事前学習：授業前にテキストの第7章p203～211を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第7章末の練習問題をすること（2時間）

第８回：保健・医療・福祉の制度②
　　事前学習：授業前にテキストの第７章p212～219を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第７章末の練習問題をすること（２時間）
第９回：地域保健
　　事前学習：授業前にテキストの第８章p223～230を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第８章末の練習問題をすること（２時間）
第10回：母子保健
　　事前学習：授業前にテキストの第９章p233～241を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第９章末の練習問題をすること（２時間）
第11回：成人保健
　　事前学習：授業前にテキストの第10章p245～ｐ253を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第５章の指定箇所も読んでおくこと（２時間）
第12回：高齢者保健・介護
　　事前学習：授業前にテキストの第11章p255～263を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第11章末の練習問題をすること（２時間）
第13回：産業保健
　　事前学習：授業前にテキストの第12章p265～276を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第12章末の練習問題をすること（２時間）
第14回：学校保健
　　事前学習：授業前にテキストの第13章p279～289を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第６章の指定箇所も読んでおくこと（２時間）
第15回：国際保健
　　事前学習：授業前にテキストの第14章p291～300を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習し、新聞・ニュース等で報じられている国際保健関係の取り組みについて情報収集する（２時間）
第16回：定期試験
新聞・ニュース等で報じられる健康の保持・増進に関する取組について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、疾病の予防や健康増進について公衆衛生学の重要性の理解に努めてください。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、小テスト（20%）、平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・授業態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・公衆衛生の概念について理解できているか。
・環境と健康について理解できているか。
・保健統計について理解できているか。
・健康増進のための取組みや疾病の予防対策について理解できているか。
・保険・医療・福祉の制度や取組みについて理解できているか。

テキスト、参考図書

健康・栄養科学シリーズ『社会・環境と健康（改訂第４版）』　編集／田中平三・徳留信寛他　南江堂

その他（受講上の注意）

・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。
・疑問点や不明点があれば直ちに質問すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公衆衛生学実習 (Public Health Practicum)			担当教員	鳴瀬みどり
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2207	1単位	2年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

公衆衛生管理に関する実験とグループ学習。
人々の健康を社会集団として捉え、その社会集団の健康の維持増進を目的として、環境因子（水，光，温度等）と健康、環境因子の異常原因、疾病の予防等について改善技術や方策などを理解する。

授業の到達目標

・公衆衛生学の講義で習得した基礎的知識を実習を通してより深く理解する。
・人々の健康問題に関心を持ち、問題を掘り起こし、健康の維持増進のための解決法の開発に貢献できる能力を習得する。
・チーム医療や保健衛生に関わる業務に必要な協調性とコミュニケーション能力を養成する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス
　　環境衛生測定①（水質検査Ⅰ：水の硬度測定①　試薬の調整）（実験、実技、グループワーク）
第2回：環境衛生測定②（水質検査Ⅱ：水の硬度測定②，残留塩素，細菌検査等）（実験、実技、グループワーク）
第3回：環境衛生測定③（水質検査Ⅲ：DO，BOD，COD等）（実験、実技、グループワーク）
第4回：環境衛生測定④（水質検査Ⅳ：第3回のつづき，まとめ）（実験、実技、グループワーク）
第5回：健康管理に関する実験（体力測定・疲労測定）
第6回：環境衛生実験⑤（室内環境検査Ⅰ：気温，気湿，気流，照度，騒音等）（実験、実技、グループワーク）
第7回：環境衛生実験⑥（室内環境検査Ⅱ：浮遊粉じん，一酸化炭素，二酸化炭素，ホルムアルデヒド等）（実験、実技、グループワーク）
第8回：保健統計・疫学①（疫学の概念，疫学の指標）（実習、フィールドワーク　）
第9回：保健統計・疫学②（疫学の方法，疫学の効果指標）（実習、フィールドワーク　）
第10回：保健統計・疫学③（検査の指標とスクリーニング）（実習、フィールドワーク　）
　　グループ調査研究①（テーマ選定）（PBL、グループワーク）
第11回：グループ調査研究②（調査手法の検討）（PBL、グループワーク）
第12回：グループ調査研究③（情報収集および分析①）（PBL、実習、フィールドワーク　、グループワーク）
第13回：グループ調査研究④（情報収集および分析②）（PBL、実習、フィールドワーク　、グループワーク）
第14回：グループ調査研究⑤（プレゼンテーション資料の作成）（PBL、討議、実習、フィールドワーク　、グループワーク）
第15回：グループ調査研究⑥（調査研究成果のプレゼンテーション）（PBL、討議、グループワーク、発表）
新聞・ニュース等で報じられる健康の保持・増進に関する取組について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、疾病の予防や健康増進について公衆衛生学の重要性の理解に努めてください。

成　績　評　価　方　法
環境衛生測定レポート（20%）、保健統計および疫学のレポート（20%）、調査研究発表および報告書（40%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、課題への取組み方等を総合して判断する）
成　績　評　価　基　準
・環境衛生の分析方法および結果の評価方法を習得できているか。 ・保健統計について理解できているか。 ・疫学の概念、その方法および評価指標について理解できているか。 ・グループで他者と強調して、調査テーマの選定、調査計画の立案、情報収集、情報の疫学的分析およびディスカッションを行い、得られた成果をまとめることができるか。
テキスト、参考図書
角野猛他編　『公衆衛生学実験・実習』　　建帛社　2011年 その他、必要に応じて、資料（実験ノート）を配布する。
その他（受講上の注意）
・公衆衛生学の講義やテキスト、参考書により、あらかじめ自分達（５～７名程度のグループ）がどのような研究をしたいか、どのような研究ができるかを考えておいて欲しい。 ・授業中の携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。 ・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎生化学 (Fundamental Biochemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2212	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

管理栄養士が行う栄養指導等の業務内容は、最終的には生化学的知識がその基盤となっている。そうした観点から、本講義では生体構成成分の構造と機能および生体物質の代謝・動態を中心にして、人体の構造と機能を体系的に理解する。先ず、細胞・細胞小器官の構造と機能、生体成分の構造と機能を学ぶ。次いで、エネルギー代謝、糖質代謝、脂質代謝、タンパク質・アミノ酸代謝、核酸の構造・機能と代謝についてその詳細を学ぶ。無機質代謝、ホルモンやビタミンの機能と作用メカニズム、血液、免疫のしくみについても学習する。

授業の到達目標

① 生体構成の階層性、細胞・細胞小器官の構造と機能および各生体成分の構造と機能を説明することができる。
② エネルギー代謝の統合性を理解した上で、糖質代謝、糖尿病、脂質代謝、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドロームおよびタンパク質・アミノ酸代謝について、相互の関連性を含めて説明することができる。
③ 核酸の構造・機能と代謝、無機質代謝、代謝へのホルモン機能と作用メカニズム、ビタミンの化学的性質と役割、血液、免疫のしくみなどについて、体系的に説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：はじめに：学習目標の理解、生体構成の階層性、細胞と細胞小器官の構造と機能
　事前学習：テキスト第1章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第2回：生体構成成分の構造と機能.タンパク質とアミノ酸、酵素と酵素活性中心
　事前学習：テキスト第2章A節を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第3回：糖質、脂質、生体膜の構造と機能、核酸・ヌクレオチドの構造と機能
　事前学習：テキスト第2章BC節を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第4回：物質代謝とその調節、統合性、同化と異化、電子伝達系とエネルギー論的理解
　事前学習：テキスト第3章AC節を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第5回：糖質代謝：解糖系、TCA回路、ペントースリン酸回路
　事前学習：テキスト第4章B節のa～c項を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）

第６回：グリコーゲン、糖新生、血糖調節、糖尿病
事前学習：テキスト第４章Ｂ節のd～f項を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第７回：脂質代謝：リポタンパク質、高脂血症、脂肪酸の生合成と分解
事前学習：テキスト第４章Ｃ節のa～c項を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第８回：コレステロール代謝、動脈硬化、プロスタグランジン類、メタボリックシンドローム
事前学習：テキスト第４章Ｃ節のd～f項を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第９回：タンパク質・アミノ酸代謝：尿素回路、アミノ酸と誘導体の合成
事前学習：テキスト第４章Ａ節を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第10回：核酸とヌクレオチド代謝：生合成と分解、痛風
事前学習：テキスト第２章Ｄ節のa～e項を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第11回：ホルモン機能と作用メカニズム、シグナル伝達
事前学習：テキスト第５章Ａ節を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第12回：ビタミンの性質と役割、補酵素としての機能、カルシウム代謝と調節など
事前学習：テキスト第３章Ｂ節を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第13回：血液、ヘモグロビンと血漿タンパク、血液凝固、免疫のしくみ
事前学習：テキスト第５章Ｂ節を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第14回：遺伝と遺伝子：DNA複製と修復、遺伝子発現の調節機構
事前学習：テキスト第２章Ｄ節のf～i項を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第15回：遺伝子組換え技術の基礎：遺伝子クローニング、PCR、塩基配列決定、分子栄養学の基礎
事前学習：事前に配布する遺伝子組み換え技術に関する資料を通読し、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第16回：定期試験
・別途、予習教材を指定することがあります。
・講義中よくわからなかったところについては、後日Office365にて配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。疑問を積み残さ無いようにすること。

成　績　評　価　方　法

定期試験60％、小テスト30％、および授業への取り組み態度など10％を基準に総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

①　細胞・細胞小器官の構造と機能および各生体成分の構造と機能を説明することができるかどうか。
②　エネルギー代謝の統合性を理解した上で、糖質代謝、糖尿病、脂質代謝、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドロームおよびタンパク質・アミノ酸代謝について、相互の関連性を含めて説明することができるか。
③　核酸の構造・機能と代謝、無機質代謝、代謝へのホルモン機能と作用メカニズム、ビタミンの化学的性質と役割、血液、免疫のしくみなどについて、体系的に説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：佐々木ら著・「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち〈1〉生化学（サクセス管理栄養士講座）　」および　講義用配布資料
授業で直接は取り扱わないが、薗田編・「栄養科学イラストレイティッド演習版 生化学ノート」(改訂第2版・羊土社・2012) は、基礎生化学およびその周辺で扱う用語を覚えるためのドリルとして活用できるので推奨する。
参考図書：
(1)山口編、成田著・「基礎からしっかり学ぶ生化学」・羊土社・2014年。管理栄養士課程用に編集されたものではないが、より論理的に理解したい学生に適した記述となっている。
(2)入村ら監訳・「ストライヤー生化学第7版」東京化学同人・2013年。体系的かつ詳細な内容。管理栄養士課程としての学修で通読は求めないが、リファレンス的用途に適する。
(3)奥・山田編・「基礎から学ぶ生化学」改訂第2版・南江堂・2014。同じ内容を違う角度から分類・説明している点で参考になる。

その他(受講上の注意)

① 1年次に履修した基礎化学、生物学、有機化学、基礎栄養学などの授業内容を、復習しておくこと。
② 遅刻、欠席、私語等は、授業の理解の妨げになるので、厳に慎むこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養生化学 (Nutritional Biochemistry)			担当教員	鈴木　和春、池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2213	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルまでの機能を理解する。

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）
栄養士免許（必修）
食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

生体を構成する物質の化学的性質を明らかにし、これらの物質が生体内でどのような化学的変化を受けているかを視聴覚資料などを通して観察し、栄養素が摂取された後、どのような経路を経て生体機能の維持に役立つかを学ぶ。

授業の到達目標

・栄養素の代謝、エネルギー代謝の機構、調節相互関係（血液や尿など）等を生体側に立って理解できる。
・からだの仕組みと生体成分の異化作用、同化作用について理解し、説明することができる。
・生きているということの物質代謝がほどよく滞りなく行われることが理解できる。
以上に列記した正常な人体の仕組みについての細胞レベルから組織・器官レベルまでの機能を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：エネルギーはどのように産生され利用されているのか～エネルギーの変換と利用～（池田涼子）
　事前学習：生体内のエネルギー物質について整理し、質問項目をまとめる。（2時間）
　事後学習：TCA回路と電子伝達系の共役について、学習内容を整理する。（2時間）
第2回：タンパク質の代謝（1）　～タンパク質の体内動態、アミノ酸代謝～（池田涼子）
　事前学習：アミノ酸の種類と特徴について整理し、質問項目をまとめる。（2時間）
　事後学習：アミノ酸の体内動態について、学習内容を整理する。（2時間）
第3回：タンパク質の代謝（2）　～糖原性とケト原性～（池田涼子）
　事前学習：アミノ酸を糖原性とケト原性に分類し、質問項目をまとめる。（2時間）
　事後学習：アミノ酸由来の糖新生経路について、学習内容を整理する。（2時間）
第4回：糖質の代謝（1）～フルクトース代謝とグリセロール合成～（池田涼子）
　事前学習：フルクトース,グリセロール,ジヒドロキシアセトンリン酸の構造式を調べ、ノートにまとめる。（2時間）
　事後学習：フルクトース代謝とグリセロール代謝の接点となる物質について、学習内容を整理する。（2時間）
第5回：糖質の代謝（2）～ガラクトース代謝、ペントースリン酸経路～（池田涼子）
　事前学習：解糖系のマップをノートにまとめる。（2時間）
　事後学習：上記のマップにガラクトース代謝、ペントースリン酸系の合流を記入する。（2時間）
第6回：糖質の代謝（3）～糖新生経路～（池田涼子）
　事前学習：解糖系の各段階を詳細に確認し、糖新生経路との相違点を整理する。（2時間）
　事後学習：解糖系と糖新生経路の相違点についてその意義を考察する。（2時間）

第７回：脂質の代謝（１）～脂肪酸の生合成と分解（池田涼子）
　　事前学習：脂肪酸の構造式を調べ、ノートにまとめる。（２時間）
　　事後学習：β酸化系のマップを作成し、学習内容を整理する。（２時間）
第８回：脂質の代謝（２）～コレステロールの代謝と機能～（池田涼子）
　　事前学習：食品および生体に含まれるステロイド類について確認し、ノートにまとめる。（２時間）
　　事後学習：コレステロールの合成経路について、学習内容を整理する。（２時間）
第９回：微量栄養素の吸収と体内動態（鈴木和春）
　　事前学習：微量栄養素を水溶性と脂溶性に分類し、ノートにまとめる。（２時間）
　　事後学習：微量栄養素の消化経路をノートに図式する。（２時間）
第10回：微量栄養素の生体内相互作用（鈴木和春）
　　事前学習：微量栄養素の種類と生理作用について確認し、質問事項をまとめる。（２時間）
　　事後学習：微量栄養素の相互作用による栄養素の過不足についてまとめる。（２時間）
第11回：物質代謝を調節するもの ～ビタミンB群～（鈴木和春）
　　事前学習：ビタミンB群の生理作用を確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：補酵素と補欠分子族についてそれぞれの役割を総括する。（２時間）
第12回：物質代謝を調節するもの ～ビタミンCとビタミンE～（鈴木和春）
　　事前学習：脂質過酸化について確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：生体内および食品における抗酸化作用の意義についてまとめる。（２時間）
第13回：物質代謝を調節するもの ～ビタミンAとビタミンD～（鈴木和春）
　　事前学習：ビタミン「AおよびDの生理作用について確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：「核内受容体」などタンパク質の合成に関わる因子ついて確認する。（２時間）
第14回：物質代謝を調節するもの ～補因子としてのミネラル～（鈴木和春）
　　事前学習：酵素のはたらきと性質を確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：主要な酵素およびその補因子となるミネラルについて一覧表を作成する。（２時間）
第15回：核酸の代謝（鈴木和春）
　　事前学習：核酸の構造を確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：核酸の代謝経路について、学習内容を整理する。（２時間）
第16回：定期試験（鈴木和春・池田涼子）
・学習する各単元ごとの重要なキーワードを各自ノートにファイルすることをすすめる。
・栄養・食品・からだに関する興味ある雑誌・単行本を読む習慣をつける。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、レポート・課題など（20%）、平常点（10%）
平常点は、授業への参加状況、授業態度などを総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・食物成分の生体での異化作用、同化作用について理解できているか。
・各栄養素の代謝について理解できているか。
・エネルギーの変換と利用について理解できているか。
・生命維持において物質代謝が恒常性のもとに滞りなく行われることが理解できているか。

テキスト、参考図書

教 科 書：池田涼子 共著 「基礎から学ぶ生化学」 南江堂
参考図書：中屋豊・宮本賢一 編著 「エッセンシャル　基礎栄養学」 医歯薬出版
　　木村修一・古野純典 翻訳監修「最新栄養学――専門領域の最新情報――」 建帛社
その他必要に応じ適宜紹介する。

その他（受講上の注意）

授業を妨げる行為は退室させるので留意すること。
不明なことや疑問があれば聞きに来ること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎生化学実験 (Experiments in Biochemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2214	1単位	2年前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

生化学の基本である生体成分の性質、酵素の特性ならびに遺伝子の性質を、それらに関する実験実技を通して理解する。グループに分かれて実験を行い、実験報告書（レポート）を作成し提出する。授業内容・学生の理解度に応じて課題を与えることがある。生化学実験は、一般の科学実験と同様に実験を遂行するにあたり基礎的な知識が必要であるとともに、慎重かつ細やかな観察力が不可欠である。実験の再現性を高めるために必要な事項、ならびに実験結果から推察される事象を論理的に導くことに意識する。

授業の到達目標

正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する遺伝子レベル細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を 実験を通して理解する。実験の基礎的な手法を習得するとともに、生化学の教科書の記載に体験を伴った理解を加えることを到達目標とする。具体的には、①生化学実験の基礎的な手法、実験からレポート提出に至る一連の作業の記録・整理方法を習得する。②各種測定の原理を理解する。③酵素の基本的性質と栄養素・生体成分の性質と代謝について、教科書の記載と実験結果の関係を合理的に説明できる。④DNAの構造と性質、遺伝子検査技術の原理とそれに基づいた遺伝型判定について、正しく実験操作を行い、原理に基づいて結果を正しく説明できる。 ことが目標となる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス：ピペッター操作の説明、分光光度計の原理・色と波長（実験）
第2回：生体の成分の分析－1　肝グリコーゲンの分離・定量（1）－抽出と分離（実験）
第3回：生体の成分の分析－2　肝グリコーゲンの分離・定量（2）－加水分解（実験）
第4回：生体の成分の分析－3　肝グリコーゲンの分離・定量（3）－検量線作成と定量（実験）
第5回：生体の成分の分析－4　ペーパークロマトグラフィーによるアミノ酸の定性分析（実験）
第6回：生体の成分の分析－5　ビタミンの定量（実験）
第7回：生体の成分の分析－6　タンパク質の分析：SDS－ポリアクリルアミド電気泳動（実験）
第8回：酵素の基本的性質－1　酵素活性の測定（実験）
第9回：酵素の基本的性質－2　タイムコース分析（実験）
第10回：酵素の基本的性質－3　至適pH（実験）
第11回：酵素の基本的性質－4　酵素の失活・至適温度、活性化エネルギー（実験）
第12回：酵素の基本的性質－5　ミカエリス定数と最大反応速度（実験）
第13回：遺伝子の解析－1　遺伝子検査（1）：ゲノムDNAの分離（実験）
第14回：遺伝子の解析－2　遺伝子検査（2）：PCRによる分析対象遺伝子の増幅（実験）
第15回：遺伝子の解析－3　遺伝子検査（3）：RFLPによるSNPs解析（実験）

授業内で出題される課題について調べ、まとめる。実験レポートについては原理・考察を記述する際に必ず参考文献を引用し、出典を明記すること。各回のキーワードは生化学を修得するための基本となるため、よく理解するよう努めること。実験の原理や操作、考察課題に関する授業時間中の説明はビデオ撮影し、後日Office365ビデオにて閲覧可能とするので、そこで触れた内容についての疑問点はまずビデオを閲覧して、どこがどうわからないのか疑問点を整理した上で担当教員に尋ねること。

成　績　評　価　方　法

レポート80%、実験への取り組み方、受講態度、口頭での質疑20%とし、合計で評価する。習熟状況に応じて、各実験に対するレポートに加えて復習的意味を伴う追加のレポートを求めることがある。

成　績　評　価　基　準

生化学実験の基礎的な手法、実験からレポート提出に至る一連の作業の記録・整理方法が習得できているか。各種測定の原理を理解しているか。酵素の基本的性質と栄養素・生体成分の性質と代謝について、教科書の記載と実験結果の関係を合理的に説明できるか。DNAの構造と性質、遺伝子検査技術の原理とそれに基づいた遺伝型判定について、正しく実験操作を行い、原理に基づいて結果を正しく説明できるか。 を基準とする。

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキスト：独自に作成した実験書を分冊して配布する。授業内容に応じて適宜、参考図書の紹介、資料の配布をおこなう。
参考図書：はじめてみよう生化学実験　山本克博編　三共出版　2008年
生命科学のための化学実験　高橋知義他編　東京教学社　2007年
生理・生化学実験第４版　谷政八編　地人書館　2007年

その他（受講上の注意）

　実験室に入室する際は必ず白衣・上履きを着用し、タオル・ハンカチを持参すること。長い髪はまとめ、実験操作に支障をきたす化粧などはしないこと。安全管理上、授業中の指示や実験室使用のルールについては必ず従うこと。指示に従わない者、危険な行為に及ぶ者については実験を中止し、退去を命じることがある。
レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。また、期限内に提出された場合でも内容不十分な場合は再提出となることがある。
欠席については補講として追実験を実施することがある。実施およびその日程については担当教員に相談すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

病理学 (Pathology)			担当教員	岸　慎治
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2216	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

総論的事項として炎症、腫瘍などの発病機構および疾患診断・治療の概要を理解し、各論的事項では、各臓器、各器官別の疾病の成因、病態、診断、治療、予防等を体系的に理解できるように教授する。あわせて、各種疾病に対する食事療法の意義および応用についての知識を深めるよう講義する。

授業の到達目標

各臓器、各器官別の疾病の発症機構、病態、診断を理解し、臨床栄養学を学ぶための基礎を身に着け、管理栄養士国家試験に対応できる知識と考え方を習得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：加齢・疾患に伴う変化（加齢、疾患に伴う変化、個体の死）
　事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち6）を読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第2回：疾患診断の概要（問診・診察、主な症候、臨床検査）
　事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち7）を読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第3回：疾患治療の概要（治療計画、治療の方法、末期患者の治療）
　事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち8）を読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第4回：糖尿病
　事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち9Cb）を読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第5回：脂質異常症、高尿酸血症・痛風
　事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち9Ｃｃｄ）を読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）

第６回：消化器系疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち10B）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第７回：循環器系疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち11B）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第８回：腎・尿路系疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち12B）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第９回：内分泌系疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち13B）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第10回：神経系疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち14B）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第11回：呼吸器系疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち15B）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第12回：運動器系疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち16B）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第13回：生殖器系・血液系疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち17B 18B）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第14回：免疫・アレルギー系疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち19B）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第15回：感染症
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち20）を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成績評価基準

疾患に伴う変化、各臓器、各器官別の疾病の発症機構、病態、診断、および各種疾病を理解し、説明できる。

テキスト、参考図書

－サクセス管理栄養士講座－『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅡ』 加藤昌彦　第一出版　2016年
講義時にプリントを配布する。

その他（受講上の注意）
講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床医学概論 (Medical Science Compendium)			担当教員	岸　慎治
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2217	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

栄養アセスメント、栄養療法を適切に行うためには、患者の病態を正確に把握することが重要である。その前提として、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防について講義する。

授業の到達目標

患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：臨床医学における診療(グループワーク、ディスカッション)
　事前学習：授業前に基礎医学と臨床医学との相違、必要性、臨床医学における診療科と取り扱う疾患について、学習しまとめておく事。(2時間)
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第2回：糖尿病(分類、診断)
　事前学習：授業前にテキスト(人体の構造と機能及び疾病の成り立ち9Cb)を読み、さらにインスリンの作用、糖尿病の分類、診断基準についてまとめておく事。(2時間)
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第3回：糖尿病(合併症、治療)、栄養障害
　事前学習：授業前にテキスト(人体の構造と機能及び疾病の成り立ち9B　9Cb)を読み、糖尿病の合併症と治療、栄養障害について質問事項をまとめておく事。(2時間)
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第4回：肥満とメタボリックシンドローム、脂質異常症
　事前学習：授業前にテキスト(人体の構造と機能及び疾病の成り立ち9Bc)を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第5回：ビタミン・微量元素欠乏症、過剰症(グループワーク、ディスカッション)
　事前学習：授業前にテキスト(人体の構造と機能及び疾病の成り立ち9Bcd)の表にある疾患について調べておく事。(2時間)
　事後学習：授業で配布された資料、発表のまとめを再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)

第６回：痛風と高尿酸血症、先天代謝異常
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち　9Ｃｄ　9Ｄ）を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第７回：動脈硬化症、高血圧、心疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち11Ｂｄ－ｇ）を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第８回：電解質異常、酸塩基平衡異常（グループワーク、ディスカッション）
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち12ｄ　e）を読み、電解質異常、酸塩基平衡異常をきたす機序および疾患について調べておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料、発表のまとめを再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第９回：腎疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち11Ba－c）を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第10回：慢性腎不全、透析
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち11d－f）を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第11回：消化管の疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち10a－g m）を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第12回：肝疾患、膵疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち10h－l）を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第13回：中枢神経系疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち14Aa B）を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第14回：血液疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち18B）を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第15回：内分泌疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち13B）を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、診断、症状、治療、予防について説明できる。

テキスト、参考図書
－サクセス管理栄養士講座－『人体の構造と機能及び疾病の成り立ちⅡ』 加藤昌彦　第一出版　2016年 講義時にプリントを配布する。
その他（受講上の注意）
講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

運動生理学 (Exercise Physiology)			担当教員	鳴瀬みどり
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2218	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

運動はスポーツ選手のみならず一般の人々の体力づくりや健康の維持・増進に欠くことができない。しかし、運動の効果は運動の種類、強度、時間、頻度などによって異なるため運動についての正しい知識が求められる。筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて学ぶ。

授業の到達目標

筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：健康と運動
　事前学習：「健康の保持・増進」と運動の関係について、テキスト巻頭「はじめに」p.iii－iv、p.135－137、p.149－150を読み、また新聞・ニュース・書籍等で情報を収集するなどして、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、:「健康の保持・増進」と運動の関係についてノートにまとめること(2時間)
第2回：安静時と運動時のエネルギー代謝
　事前学習：テキスト第1章を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)
第3回：運動と身体組成
　事前学習：テキスト第2章を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)
第4回：運動と呼吸・循環器系の機能①
　事前学習：テキスト第3章p.29 - 33、p.34 - 35を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)
第5回：運動と呼吸・循環器系の機能②
　事前学習：テキスト第3章p.33 - 34、p.35 - 37を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)
第6回：運動と骨格筋の機能
　事前学習：テキスト第4章を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)
第7回：運動と中間代謝・内分泌系の機能①
　事前学習：テキスト第5章p.57 - 63を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)
第8回：運動と中間代謝・内分泌系の機能②
　事前学習：テキスト第5章p.63 - 69を読み、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)

第９回：環境と運動栄養
　　事前学習：テキスト第６章を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第10回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響①（糖質・たんぱく質・脂質）
　　事前学習：テキスト第７章を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第11回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響②（ビタミン・ミネラル・その他）
　　事前学習：テキスト第８章p.95 - 104読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第12回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響③（運動時の食事内容と摂取のタイミング）
　　事前学習：テキスト第８章p.104 - 109読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第13回：体力・運動能力の加齢変化
　　事前学習：テキスト第10章読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第14回：健康保持・増進のための身体活動・運動指導①（メディカルチェックと運動療法）
　　事前学習：テキスト第12章読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第15回：健康保持・増進のための身体活動・運動指導②（フレイル・骨粗鬆症・認知症の予防と運動）
　　事前学習：テキスト第13章読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験
予習では、各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、日常生活におけるスポーツや運動の効果について理解や関心を深める。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）、平常点（20%）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できている。

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

樋口満監修・湊久美子／寺田新編集、「 - 栄養・スポーツ系の - 運動生理学」、南江堂

その他（受講上の注意）

講義で学んだ知識を日常の生活や身体運動に活用できるようにすること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品加工実習 (Food Science and Technology Practicum)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2224	1単位	2年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格(選択)

授業の内容

食品加工学や食品学総論で学んだ知識をより深く総合的に理解するために、いろいろな加工食品を小規模に工夫して製造する。

授業の到達目標

食品成分の化学的特性を利用して、栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品加工の原理を理解するとともに、さまざまな食品を開発する能力を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス
第2回：アイスクリームの加工① アイスクリーム(実習)
第3回：アイスクリームの加工②　アイスミルク、ラクトアイス(実習)
第4回：ジャムの加工①　マーマレード(高メトキシペクチンジャム)、瓶詰、殺菌(実習)
第5回：ジャムの加工②　りんごジャム(低メトキシペクチンジャム)、評価(実習)
第6回：パンの加工①　混合・発酵(実習)
第7回：パンの加工②　成形・焼成、評価(実習)
第8回：こんにゃくの加工①　芋の処理・混合(膨潤)(実習)
第9回：こんにゃくの加工②　成形・加熱、評価(実習)
第10回：かまぼこの加工①　すりみの調製(実習)
第11回：かまぼこの加工②　成形・加熱、評価(実習)
第12回：豆腐の加工①　豆乳の調製(実習)
第13回：豆腐の加工②　各種凝固剤を用いた木綿豆腐・絹ごし豆腐の加工、評価(実習)
第14回：みかんのシラップ漬け(缶詰)の加工①　じょうのう膜の除去、シロップの糖度と酸度の決定(実習)
第15回：みかんのシラップ漬け(缶詰)の加工②　シロップの調製、缶締、殺菌(実習)
食品加工についてのキーワードおよび加工理論をよく理解するように努める。

成績評価方法

レポート(90%)、平常点(10%)、平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。

成績評価基準

・食品加工の原理を理解して製品を評価できる。
・加工原理と製造方法を関連付けて製品を上手くつくることができる。

テキスト、参考図書

谷口亜樹子編著　第2版　食品加工学と実習・実験　光生館　2016、プリント配布

その他（受講上の注意）
・白衣、タオルを持参すること。 ・実習費は別途に集金する。詳細は、第１回目のガイダンスで説明する。 ・授業の計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業第１回目のガイダンスにて説明する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品衛生学 (Food Hygiene)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2226	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科 / 専門科目 / 専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生監視員･食品衛生管理者（任用資格）（選択）

授業の内容

食品衛生の概念を理解し、食糧の生産・加工・流通・消費の過程に潜むリスク要因を把握すると同時に、リスクを排除し「食の安全」を担保するための法整備・行政施策・食品関連技術に関する知識を習得する。
── 食品衛生に関する法規・行政制度について理解し、食品が安全であるための原理・原則、食品の安全性の確保の方策などについて理解する ──

授業の到達目標

人の命と健康を守る栄養士/管理栄養士としての職責を自覚する。
食品衛生と関連法規について理解する。
食品の生産･流通体制について理解する。
食品の変質による安全性低下とその衛生管理法の原理について理解する。
食中毒の分類と発生状況について理解する。
食中毒の原因物質（微生物･天然自然毒･化学物質等）について理解する。
食品による感染症･寄生虫症について理解する。
食品中の汚染物質について理解する。
食品添加物の種類と管理制度について理解する。
食品衛生管理の制度や手段について理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食品衛生の目的と諸問題
　事前学習：第1章第1～3節（p14～p18）を読み、課題を整理する。（1時間）
　第3章第1～2節（p50～56）を読み、課題を整理する。（1時間）
　事後学習：「食中毒の分類と発生状況」について、ノートにまとめ、
　「食品が安全である」とはどういうことか考察する。（1時間）
　学習セルフマネジメント・シートに基づき、
　当該科目を履修する「目的」と「目標」を明確にする。（1時間）

第2回：食品の変質①（食品成分の化学変化）
　事前学習：第2章第1～6節（p34～p43）を読み、課題を整理する。（1時間）
　事後学習：「食品成分の化学変化」を類型化し、ノートにまとめる。（3時間）
第3回：食品の変質②（食品の加工･保存･調理技術）
　事前学習：第2章第7節（p43～p47）を読み、課題を整理する。（1時間）
　事後学習：「食品の保存法」を類型化し、ノートにまとめる。（3時間）

第４回：グループ課題①：課題説明　／【小試験①②】
事前学習：第２～３回の内容について
事後学習：【小試験①②】で不正解だった問題を中心に復習し、ノートを修正する。（２時間）
食品衛生講習の「目的」と「目標」についてグループで検討する。（２時間）

第５回：食品中の有害汚染物質①（食品添加物および残留農薬等）
事前学習：第５章第１～５節（p112～p125）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「食品の安全性評価」についてノートにまとめる。（２時間）
第６回：食品中の有害汚染物質②（重金属･放射能･環境汚染物質等）
事前学習：第４章第２～４節（p94～p107）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「食品中の有害物質」を類型化し、ノートにまとめる。（１時間）
「化学性食中毒」（p79～p81）について、ノートにまとめる。（２時間）
第７回：グループ課題②：進捗確認　／【小試験③④】
事前学習：食品衛生講習の「目的」と「目標」をグループでまとめる。（２時間）
事後学習：【小試験③④】で不正解だった問題を中心に復習し、ノートを修正する。（１時間）
大量調理施設における「調理工程毎の課題」についてグループで検討する。（２時間）

第８回：食中毒②（自然毒性食中毒／カビ毒）
事前学習：第３章第12～13節／第４章第１節（p81～p85／p90～p94）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「自然毒／カビ毒」を類型化し、ノートにまとめる。（２時間）
第９回：グループ課題③：進捗確認　／【小試験⑤⑥】
事前学習：大量調理施設における「調理工程毎の課題」をグループでまとめる。（２時間）
事後学習：【小試験⑤⑥】で不正解だった問題を中心に復習し、ノートを修正する。（１時間）
第６章（p133～151）を読んで、要点をノートに整理する。（２時間）

第10回：食中毒③（毒素型細菌性食中毒①）
事前学習：第３章第４節（p65～p67）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「毒素型細菌性食中毒」を類型化し、ノートにまとめる。（２時間）
グループ課題（調理工程毎の衛生管理の調査）を進める。（１時間）
第11回：食中毒③（感染型細菌性食中毒②）
事前学習：第３章第３節（p57～p65）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「感染型細菌性食中毒」を類型化し、ノートにまとめる。（２時間）
グループ課題（調理工程毎の衛生管理の要点整理）を進める。（１時間）
第12回：食中毒④（ウイルス性食中毒／寄生虫性食中毒）
事前学習：第３章第５節（p67～p68）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「食中毒ウイルス／寄生虫」を類型化し、ノートにまとめる。（２時間）
グループ課題（調理工程毎の衛生管理のまとめ）を進める。（１時間）

第13回：グループ課題④：成果物（初稿）確認　／【小試験⑦⑧】
事前学習：食品衛生講習の「配布用資料」をグループで１部作成する。（３時間）
事後学習：【小試験⑦⑧】で不正解だった問題を中心に復習し、ノートを修正する。（１時間）

第14回：食品衛生関連法令･行政制度および施策（法令・制度）
事前学習：第１章第４～８節（p19～p31）を読み、課題を整理する。（１時間）
事後学習：「食品関連法令」について、要点をノートに整理する。（２時間）
第15回：グループ課題⑤：成果物の相互評価　【発表】【討議】
事前学習：食品衛生講習の「配布用資料」をグループで12部作成する。（２時間）
事後学習：相互評価で指摘された点を修正して、グループ課題【成果物】を完成させる。（３時間）

第16回：【定期試験】およびグループ課題【最終成果物】の提出
グループ課題は【課題解決型学習（PBL）】として、最終的にグループ単位で成果物を作成します。
課題：「大量調理施設における食品衛生講習のためのプレゼン（および配布）資料」の作成
授業と並行して、主に授業外の自主学習として【グループワーク】形式で取り組んでください。
※授業計画は、進捗状況等により変更する可能性があります。
①　小試験は、「自筆ノート」のみ持込みを認めますので、毎週、授業の内容をまとめるよう努めてください。
②　開講期間中に、関連書籍（専門書）を少なくとも１冊読み、内容をレポートにまとめてください。
③　新聞･ニュース等で報じられる食品衛生に関する事件について日頃から関心を持ち、それらの事件がどのような原因で発生し、どのような脅威を公衆衛生に及ぼしたのか洞察し、再発防止の取組みの妥当性について評価するために必要な食品衛生学上の知識を修得できているか否か常に自己点検してください。

成 績 評 価 方 法

① 平常点　：40%（小試験５%x８回の合算で評価します／自筆ノートのみ持込可）
② プロジェクト型グループ課題：30%（形成的ルーブリック評価表）
③ 定期試験：30%（期末筆記試験／自筆ノート等持込不可）

成 績 評 価 基 準

人の命と健康を守る栄養士/管理栄養士としての職責を自覚できているか。
食品衛生と関連法規について理解しているか。
食品の生産･流通体制について理解しているか。
食品の変質による安全性低下とその衛生管理法の原理について理解しているか。
食中毒の分類と発生状況について理解できているか。
食中毒の原因物質（微生物･天然自然毒･化学物質等）について理解できているか。
食品による感染症･寄生虫症について理解できているか。
食品中の汚染物質について理解できているか。
食品添加物の種類と管理制度について理解できているか。
食品衛生管理の制度や手段について理解できているか。

テキスト、参考図書

テキスト：
①『栄養科学イラストレイテッド：食品衛生学』　羊土社　2017年　定価￥2,800－（税別）　【新規】
②『基礎･応用･臨床　微生物学と実験』　光生館　2014年　【購入済】
③『病気が見える⑥：免疫･膠原病･感染症』　メディックメディア社　2009年　定価￥3,150－（税込）　【購入済】
参考図書：
①　『サクセス管理栄養士養成講座シリーズ：食べ物と健康②　食品衛生学』　第一出版　2010年
②　熊谷進・山本茂貴編『食の安全とリスクアセスメント』　中央法規　2004年
③　『大量調理施設　衛生管理のポイント（４訂）』　中央法規　2011年

その他（受講上の注意）

授業開始時に出欠状況を確認する。
遅刻は、授業の１/３（30分）以内に申し出れば認め、欠席１/３回としてカウントする。
それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱う。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品衛生学実験 (Experiments in Food Hygiene)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2227	1単位	2年前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科 / 専門科目 / 専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□　人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

① 管理栄養士国家試験受験資格［必修］
② 食品衛生監視員（任用資格）/ 食品衛生管理者（任用資格）［選択］

授業の内容

食の安全確保の実現に必要な食品衛生検査の原理を理解し、理化学的および微生物学的食品検査技術を習得する。
食品を介して人の健康を害する諸要因の特質･作用、危害の特質とその防止方法、食品をとりまく環境因子（水･光･温度等）と健康、環境因子の異常原因、予防、改善技術や方策などを理解する。

授業の到達目標

様々な環境（土壌･水中等）あるいは生物（食物）の体表面に微生物群が常在していることを理解する。
主な食物群について生産･流通･調理行程を把握し、各行程における微生物汚染のリスクを把握する。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できる。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の意味を理解する。
食品･添加物に設定されている規格･基準（成分規格および製造･加工･保存基準等）を把握する。
「大量調理施設衛生管理マニュアル」の各プロトコルを把握し、その意義と効果を説明できる。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法（公定法および迅速簡易法）を理解する。
食品に付着あるいは内在している微生物を分離･培養し、検出する方法の原理を理解する。
各種微生物（真菌･細菌･ウイルス･寄生虫等）の生育要件を把握し、培養できる。
各種微生物（真菌･細菌等）を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できる。
食中毒の病因となる主な細菌について、それぞれの微生物学特徴を利用して分離･培養できる。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得する。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を理解する。
微生物の増殖を抑制する各種の保存法および加工･調理法の原理と効果を理解する。
食品の変質による品質および安全性の低下とその評価法の方法論を理解する。
食用油脂類の品質と安全性の指標とその検査法の原理を理解する。
食品の安全性を確保するための原理と方法論（加工･調理等）を理解する。
「食中毒予防の三原則」について、その意義と効果を説明できる。
各種抗原（特定原材料等）を検出する免疫学的検査法の原理を理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：食品衛生検査概論（品質と安全性の管理）

第２回：理化学的検査①：　実験１?：特定原材料の検査（アレルギー原因物質の検出）
第３回：理化学的検査③：　実験１?：油脂の品質評価（酸価･過酸化物価･カルボニル価）
第４回：理化学的検査④：　実験１?：食品添加物の検査（発色剤の検出）
第５回：【実験報告書】作成の指導
　　事後学習：【実験１?報告書】の作成を【グループワーク】で行う。

第６回：微生物学的検査①：　実験２?：生鮮野菜類の塩素消毒効果の確認①（検体処理･培養）
第７回：微生物学的検査②：　実験２?：生鮮野菜類の塩素消毒効果の確認②（結果判定）
第８回：【実験１?報告書】の自己評価（グループ内）【討議】
　　事後学習：【実験２?報告書】の作成を【グループワーク】で行う。

第９回：微生物学的検査③：　実験３?：穀類の衛生管理効果の確認①（検体処理･培養）
第10回：微生物学的検査④：　実験３?：穀類の衛生管理効果の確認②（結果判定）
　　【実験２?報告書】の相互評価（グループ間）【討議】
　　事後学習：【実験３?報告書】の作成を【グループワーク】で行う。

第11回：微生物学的検査⑤：　実験４?：畜肉類の加熱調理効果の確認①（検体処理･培養）
第12回：微生物学的検査⑥：　実験４?：畜肉類の加熱調理効果の確認②（結果判定）
　　【実験３?報告書】の相互評価（グループ間）【討議】
　　事後学習：【実験４?報告書】の作成を【グループワーク】で行う。

第13回：微生物学的検査⑦：　実験５?：鮮魚介類の冷凍･冷蔵効果の確認①（検体処理･培養）
第14回：微生物学的検査⑧：　実験５?：鮮魚介類の冷凍･冷蔵効果の確認②（結果判定）
　　【実験４?報告書】の相互評価（グループ間）【討議】
　　事後学習：【実験５?報告書】の作成を【グループワーク】で行う。

第15回：【理解度確認試験】および実験室大掃除

実験２?～５?はすべて、【課題解決型学習】を【実験・実技】形式で実施します。
【実験報告書】は、事後学習として【グループワーク】形式でグループ毎に作成してください。

※授業計画は、気候や進捗状況等により変更する可能性があります。実験報告書（レポート）の作成にあたっては、第一に「精確な観察」、第二に「論理的な考察」に留意して記述してください。
①　なぜそのような観察結果が得られたのか？
②　観察された事実･現象から何が示唆されるか？
③　どのような仮説を構築すれば、それらの観察結果を矛盾なく説明できるのか？
④　そして、どのような検証実験を行えば、その仮説の真偽を検証できるのか？
について固定観念を排してすなおに「考察」しながら「結論」を導いてください。
参考図書は、授業の際にも紹介します。

成　績　評　価　方　法

①　レポート課題：75%（実験報告書（各15%）x５）
②　確認試験：25%（確認試験（各５%）x５）
欠席回数が５回を上回った場合（６回以上欠席）、単位認定の資格を失う。
欠席した実験のレポート提出は認めない。
実験報告書（レポート）の評価には、「ルーブリック評価表」を用いる。

成 績 評 価 基 準

様々な環境（土壌･水中等）あるいは生物（食物）の体表面に微生物群が常在していることを理解しているか。
主な食物群について生産･流通･調理行程を把握し、各行程における微生物汚染のリスクを把握しているか。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できるか。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の意味を理解しているか。
食品･添加物に設定されている規格･基準（成分規格および製造･加工･保存基準等）を把握しているか。
「大量調理施設衛生管理マニュアル」の各プロトコルを把握し、その意義と効果を説明できるか。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法（公定法および迅速簡易法）を理解しているか。
食品に付着あるいは内在している微生物を分離･培養し、検出する方法の原理を理解しているか。
各種微生物（真菌･細菌･ウイルス･寄生虫等）の生育要件を把握し、培養できるか。
各種微生物（真菌･細菌･寄生虫卵等）を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できるか。
食中毒の病因となる主な細菌について、それぞれの微生物学特徴を利用して分離･培養できるか。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得しているか。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を理解しているか。
微生物の増殖を抑制する各種の保存法および加工･調理法の原理と効果を理解しているか。
食品の変質による品質および安全性の低下とその評価法の方法論を理解しているか。
食用油脂類の品質と安全性の指標とその検査法の原理を理解しているか。
食品の安全性を確保するための原理と方法論（加工･調理等）を理解しているか。
「食中毒予防の三原則」について、その意義と効果を説明できるか。
各種抗原（特定原材料等）を検出する免疫学的検査法の原理を理解しているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

□テキスト：
① 『基礎･応用･臨床　微生物学と実験』 光生館　2014年 【購入済】
② 配布資料（実験ノート形式）
□参考図書：
① 熊谷進・山本茂貴編『食の安全とリスクアセスメント』 中央法規　2004年
② 『大量調理施設　衛生管理のポイント（４訂）』 中央法規　2011年

その他（受講上の注意）

毎回の実験への出席（実験作業への参加）を重視し、授業開始時に出欠状況を確認します。
遅刻は、授業の１/３（45分）以内に申し出れば認め、それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱います。
実験用白衣および靴を持参しなかった場合、各１点減点します。
授業中の私語･携帯電話（スマートフォン）の使用等で説明を聞かず実験に失敗した場合、１点減点します。
実験終了後、火元点検に不備があれば、グループ全員から１点減点します。
安全を期するために白衣を着用し、正確な実験操作を妨げるおそれのある華美な服装は慎むこと。実験は、ガス･火･薬品を使用し危険が伴うため、安全確保の決まりごとをよく理解するよう努め、これを遵守してください。
故意に安全衛生上の危険行為をとる者には、実験停止･室外退去の措置を取り、さらに単位を認定しないこともあります。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

調理科学実験 (Experiments in Fundamental Cookery Science)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2231	1単位	2年後期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)　食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(必修)

授業の内容

健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作るための調理学の理論を実験を通して科学的に理解する。

授業の到達目標

調理操作によって起こる食品の化学的・物理的変化について、実験を通して理論を裏づけ、より高い技術の向上と応用、高度の研究手法を学ぶ。
化学的・物理的手法を用いて食品のおいしさ、調理することの意義、調理学の重要性について学ぶ。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：実験の基礎　(実験)
第2回：食べ物の評価方法①(官能評価分析の要点)(実験)
第3回：食べ物の評価方法②(官能評価の方法と解析法)(実験)
第4回：調理の五感を鍛える実験　(実験)
第5回：栄養・健康性に視点をあてた実験①(食べやすさと調理)(実験)
第6回：栄養・健康性に視点をあてた実験②(食習慣と調理)(実験)
第7回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験①(米、小麦)　(実験)
第8回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験②(いも、野菜)　(実験)
第9回：調理による理化学的変化に視点を当てた実験③(食肉、魚介)　(実験)
第10回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験④(鶏卵、乳・乳製品)　(実験)
第11回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験⑤(砂糖、でん粉)　(実験)
第12回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験⑥(寒天・カラギーナン・ゼラチン)　(実験)
第13回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験⑦(嗜好飲料、冷凍食品)　(実験)
第14回：調理機器の特徴を理解するための実験　(実験)
第15回：調理科学実験の結果発表　(グループワーク)(発表)
第16回：定期試験
予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習として、実験データ、資料などを見直して、詳細にレポートをまとめておくこと。

成績評価方法

定期試験(50%)　平常点(20%)　実験レポート(30%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、レポートの提出状況等を総合して判断します。)

成績評価基準

化学的・物理的手法を用いて食品のおいしさ、調理操作における食品の変化や諸現象を化学的に説明できる。

テキスト、参考図書
今井悦子・安原安代編『調理科学実験　改訂新版』　（株）アイ・ケイコーポレーション
その他（受講上の注意）
衛生・安全に配慮すること。実験室では、必ず白衣を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。長い髪は束ねること。 授業への出席状況、実習態度、レポートの提出を重視する。欠席した場合は必ず補講を受講する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅱ（栄養・体力アセスメント） (Applied NutritionⅡ(Nutrition and Physical Activity Assessment))			担当教員	石黒　真理子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2235	1単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

各ライフステージにおける身体機能、生理的特徴、代謝等を踏まえ、栄養アセスメント（栄養状態の評価と判定）や栄養評価に応じた栄養管理の基本的な考え方について学ぶ。

授業の到達目標

各ライフステージでの機能、生理、代謝等を理解した上で栄養アセスメントから栄養管理の計画、実施、評価にいたるプロセスを理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：栄養ケア・マネジメントの進め方
　事前学習：栄養ケア・マネジメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（1時間）
　事後学習：講義の内容を図等を用い説明できるよう、まとめること（2時間）
第2回：栄養アセスメントの方法1（身体測定、食事調査）
　事前学習：栄養アセスメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：各方法についてまとめること（2時間）
第3回：栄養アセスメントの方法2（臨床診査、臨床検査）
　事前学習：栄養アセスメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：各方法についてまとめること（2時間）
第4回：栄養ケア・栄養プログラム（計画、目標設定、実施）
　事前学習：栄養ケア・栄養プログラムについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめること（2時間）
第5回：栄養評価・判定
　事前学習：栄養評価・判定についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（1時間）
　事後学習：講義の内容をまとめること（2時間）
第6回：メタボリックシンドロームの栄養ケア・マネジメント
　事前学習：メタボリックシンドロームについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめること（2時間）
第7回：要支援・要介護者の栄養ケア・マネジメント
　事前学習：要支援・要介護者についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントの内容を整理し、理解を深めること。（2時間）
第8回：健康づくりのための身体活動基準2013、アクティブガイド
　事前学習：健康づくりのための身体活動基準2013、アクティブガイドを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布資料を参考に講義の内容をまとめること（2時間）
第9回：定期試験

成　績　評　価　方　法
定期試験（80%）、平常点（20%）（平常点は授業への参加状況、取組み態度等を総合的に判断する）
成　績　評　価　基　準
栄養アセスメント、栄養管理の計画、実施、評価の手法を適切に説明できるか。 アセスメント方法について意義を理解し、適切な方法を選択できるか。
テキスト、参考図書
・ライフステージ栄養学　鈴木和春　編著　光生館 <参考図書> ・健康・栄養科学シリーズ　「応用栄養学」戸谷誠、伊藤節子,渡邊令子　編、南江堂 ※必要に応じてプリントを配布
その他（受講上の注意）
授業計画は進捗状況により変更することがあります。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅲ（ライフステージ栄養学） （Applied NutritionⅢ（Life Stage））			担当教員	鈴木　和春、石黒　真理子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2236	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

妊娠・授乳期から授乳期、幼児期、学童期、青年期、成人期を経て高齢期に至るプロセスにおいて各ステージの生理的特徴や栄養状態等の変化を理解し、それに基づいた基本的な栄養アセスメントのあり方を学ぶ。また、各ステージで留意すべき栄養関連の病態・疾患に関しても学修する。

授業の到達目標

各ライフステージの生理的特徴、栄養状態の特徴、栄養アセスメント、食事摂取基準、栄養関連疾患について理解し、栄養管理を行える能力を養う。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：妊娠期、胎児期、授乳期の特徴と栄養（鈴木和春）
　事前学習：ホルモン分泌および機能について理解しておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第2回：乳児期の特徴1（鈴木和春）
　事前学習：乳児期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第3回：乳児期の特徴2（鈴木和春）
　事前学習：「乳児期の特徴1」の内容を理解し、テキストを読んでおくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを利用し、内容をまとめておくこと（2時間）
第4回：乳児期の栄養（鈴木和春）
　事前学習：乳児期の特徴を理解し、乳児期の栄養についてテキストを読んでおくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第5回：幼児期の特徴1（鈴木和春）
　事前学習：幼児期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを利用し、講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第6回：幼児期の特徴2（鈴木和春）
　事前学習：「幼児期の特徴1」の内容を理解し、テキストを読んでおくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第7回：幼児期の栄養（鈴木和春）
　事前学習：幼児期の特徴について理解し、幼児期の栄養についてテキストを読んでおくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第8回：学童期の特徴と栄養（石黒真理子）
　事前学習：学童期についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）

第９回：思春期の特徴と栄養（石黒真理子）
　　事前学習：性ホルモンの分泌と機能について理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第10回：成人期の特徴・疾患（石黒真理子）
　　事前学習：生活習慣病についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第11回：成人期の栄養（石黒真理子）
　　事前学習：成人期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第12回：更年期の特徴（石黒真理子）
　　事前学習：思春期におけるホルモン分泌について理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第13回：更年期の栄養（石黒真理子）
　　事前学習：更年期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第14回：高齢期の特徴（石黒真理子）
　　事前学習：高齢期の特徴についてテキストを読み、理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第15回：高齢期の栄養（石黒真理子）
　　事前学習：高齢期の栄養についてテキストを読み、理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）　平常点（20％）（平常点は授業の取組み態度等）

成　績　評　価　基　準

各ライフステージでの生理的特徴、栄養状態の特徴、栄養アセスメント、食事摂取基準、栄養関連疾患について理解しているか。さらに、栄養管理の進め方を適切に説明できるか。

テキスト、参考図書

ライフステージ栄養学　鈴木和春　編著　光生館
※必要に応じてプリントを配布

その他（受講上の注意）

授業計画は進捗状況により変更することがあります。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅳ(ライフスタイル・スポーツ栄養学) (Applied NutritionⅣ(Lifestyle and Sports))			担当教員	石黒真理子、桑守　豊美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2237	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

スポーツ実施者の健康・体力、競技力の向上を支援するための栄養管理、異常環境、ストレス下での健康を維持増進するための栄養管理の方法を学習する。

授業の到達目標

スポーツ実施者および異常環境、ストレス下の栄養生理を理解し、栄養管理を行うための知識と技術を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：運動と健康づくりのための身体活動基準(桑守豊美)
　事前学習：運動と健康づくりのための身体活動基準についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)
第2回：運動とトレーニングにおけるエネルギー代謝、エネルギー消費量の評価(桑守豊美)
　事前学習：運動とトレーニングにおけるエネルギー代謝、エネルギー消費量の評価についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)
第3回：スポーツ選手の身体組成、トレーニング後・試合後のリカバリー、試合前の食事(桑守豊美)
　事前学習：スポーツ選手の身体組成、トレーニング後・試合後のリカバリー、試合前の食事についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)
第4回：スポーツ選手のたんぱく質摂取・骨の健康と栄養摂取(桑守豊美)
　事前学習：スポーツ選手のたんぱく質摂取・骨の健康と栄養摂取についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)
第5回：スポーツ選手の貧血、ビタミン・抗酸化物質と運動、水分補給(桑守豊美)
　事前学習：スポーツ選手の貧血、ビタミン・抗酸化物質と運動、水分補給についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)
第6回：スポーツ選手のウエイトコントロール、サプリメント(桑守豊美)
　事前学習：スポーツ選手のウエイトコントロール、サプリメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと(2時間)

第７回：スポーツ選手の栄養教育・食事管理、質疑応答（桑守豊美）
　　事前学習：スポーツ選手の栄養教育・食事管理についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第８回：環境と栄養の概要（石黒真理子）
　　事前学習：環境と栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第９回：生体リズムと栄養（石黒真理子）
　　事前学習：生体の恒常性についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第10回：ストレス時の代謝（石黒真理子）
　　事前学習：ストレス時のホルモン分泌と機能についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第11回：ストレス時の栄養（石黒真理子）
　　事前学習：糖質、たんぱく質、脂質代謝について理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第12回：高温・低温環境と栄養（石黒真理子）
　　事前学習：高温・低温環境と栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第13回：高圧・低圧と栄養（石黒真理子）
　　事前学習：高圧・低圧と栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第14回：無重力状態の栄養（石黒真理子）
　　事前学習：無重力状態の栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第15回：環境と栄養・質疑応答（石黒真理子）
　　事前学習：テキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを利用し、内容をまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）　平常点（20％）　（平常点は授業の取組み態度等を総合的に評価する）

成　績　評　価　基　準

スポーツ実施者および異常環境、ストレス下の栄養生理について理解できたか。またこれらの環境における栄養管理の手法について説明できるか。

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

・ライフステージ栄養学　鈴木和春　編著　光生館
・体育・スポーツ栄養学と学生のためのスポーツ栄養学　田口素子　編　市村出版
・「新版コンディショニングのスポーツ栄養学」樋口満　編　布村出版　2013年
＜参考図書＞
健康・栄養科学シリーズ「応用栄養学」戸谷誠、伊藤節子、渡邊令子　編、南工堂

そ　の　他（受　講　上　の　注　意）

授業計画は進捗状況により変更することがあります。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

応用栄養学実習 (Applied Nutrition Practicum)			担当教員	三浦　　努、石黒真理子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2238	1単位	2年通年(隔週)	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

妊娠や発育、加齢などによる心身・栄養状態等の変化の特徴を捉え、現代社会の多様な食環境等を踏まえて、各時期の栄養量の基準に応じた食事計画とその実際にについて学ぶ。
また、特に幼児期、学童期における栄養管理ならびに高齢者の咀嚼や嚥下障害などの介護食への対応も実習する。

授業の到達目標

各ライフステージによる心身・栄養状態等の変化に対応した栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）や栄養管理、食事方針を学び、各時期に起きる栄養上の問題点への栄養管理の対応を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　～授業計画の詳細と応用栄養学実習についての説明　＜担当：三浦＞
第2回：妊娠期の栄養（栄養アセスメント）　＜担当：三浦＞
第3回：妊娠期、授乳期食の対応 ＜実習＞　＜担当：三浦＞
第4回：乳児期の栄養（栄養アセスメント）　＜担当：三浦＞
第5回：乳児期食の対応（乳汁栄養、離乳栄養）＜実習＞　＜担当：三浦＞
第6回：幼児期栄養（栄養アセスメント）　＜担当：三浦＞
第7回：幼児期食の対応 ＜実習＞　＜担当：三浦＞
第8回：学童期栄養（栄養アセスメント）　＜担当：三浦＞
第9回：アレルギーについて　＜担当：石黒＞
第10回：アレルギー対応食について ＜実習＞　＜担当：石黒＞
第11回：成人期の栄養について（栄養アセスメント）　＜担当：石黒＞
第12回：メタボリックシンドロームと生活習慣病　＜担当：石黒＞
第13回：高齢期栄養について（栄養アセスメント）　＜担当：石黒＞
第14回：高齢者症候群と栄養ケア ＜実習＞　＜担当：石黒＞
第15回：介護食の対応 ＜実習＞　＜担当：石黒＞
第16回：定期試験
応用栄養学実習に関連する科目（基礎栄養学、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておこくと。復習は授業時に配布されたプリントや板書についてを各自でまとめて授業後の理解を深めるとともに、レポート課題においては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成績評価方法

レポート40%、定期試験40%、実習への取り組み態度等20%の総合評価（100%）

成　績　評　価　基　準

各ライフステージによる心身・栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）が的確にできること。
各ライフステージにおける栄養管理と食事方針が的確に立案でき対応できること。
各時期に起きる栄養上の問題点への栄養管理と食事方針が的確に立案でき対応できること。

テキスト、参考図書

「新編　応用栄養学実習書」 宮澤節子・長浜幸子編　学建書院　2015年
「食品成分表2018」 香川芳子監　女子栄養大学出版部　2018年

その他（受講上の注意）

栄養士免許資格、管理栄養士国家試験受験資格を修得するためには、この科目は必修になるので積極的に実習に臨むこと。実習に臨む態度として、安全と衛生を期するために白衣（調理用）、室内用靴、タオルを持参すること。また、料理の味や香りに影響を与えるので、実習時には化粧等はしないこと。実習は、刃物、ガス、火を使用するので危険が伴うため、決まりごとについては遵守してもらう。指示に従わない者、危険行為や態度をとる者に対しては、実習停止の措置をとり、さらには単位を認定しないこともある。なお実習には連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすことがある。遅刻は、安全衛生管理上、実習に参加させないこともある。授業の計画の予定は変更されることがある。授業内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスの際に説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅰ（栄養教育論） （Nutrition Education Ⅰ）			担当教員	細田　耕平
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2239	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

栄養教育プログラムをマネジメントするために必要な事項，行動変容の支援に必要となる行動科学の理論，モデルについて学ぶ。理解を促すため練習問題を交えて講義を進める。

授業の到達目標

栄養教育プログラムを総合的にマネジメントするために必要となる，栄養状態，食行動，食環境等についてのアセスメント，栄養教育の実践，それらを評価する方法を理解している。
健康および生活の質（Quality of Life）の向上をめざした行動変容の支援に必要となる，行動科学の理論，モデルについても説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：栄養教育の概念、歴史
事前学習：授業前にテキストp3－p12を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第2回：生活習慣、食生活の変遷
事前学習：これまで他の講義等で学習した日本人の生活習慣や食生活の特徴について復習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第3回：健康教育を基礎とする栄養教育、行動変容技法と概念
事前学習：授業前にテキストp13－18、23－27を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第4回：行動科学の理論とモデル1　ヘルスビリーフモデル
事前学習：授業前にテキストp30、31、37－39を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）

第５回：行動科学の理論とモデル２　社会的認知理論、計画的行動理論
事前学習：授業前にテキストp32、33、39－41を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第６回：行動科学の理論とモデル３　トランスセオレティカルモデル
事前学習：授業前にテキストp31、32、41－46を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第７回：栄養教育に関わる理論・モデル
事前学習：第６回までに紹介した理論・モデルについて思い出し、各モデルのキーワードを復習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第８回：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル 1 プリシード・プロシードモデル
事前学習：授業前にテキストp18－p22を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第９回：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル 2 ソーシャルマーケティング 他
事前学習：授業前に事前配布資料（第７回に配布予定）を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第10回：栄養教育マネジメント１　アセスメント
事前学習：授業前にテキストp83－93を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第11回：栄養教育マネジメント２　目標設定
事前学習：授業前にテキストp91－102を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第12回：栄養教育マネジメント３　教材・学習形態の選択
事前学習：授業前にテキストp104－117を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第13回：栄養教育マネジメント４　評価
事前学習：授業前にテキストp121－130、132－136を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第14回：栄養教育マネジメント５　実践事例
事前学習：授業前に事前配布資料（第13回に配布予定）を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第15回：食環境づくり
事前学習：授業前にテキストp73－80を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％），平常点（20％）
平常点は，授業への参加状況，受講態度，小テストの結果等から評価する。

成　績　評　価　基　準

栄養教育プログラムを総合的にマネジメントするために必要となる，栄養状態，食行動，食環境等についてのアセスメント，栄養教育の実践，それらを評価する方法を理解しているか。行動変容の支援に必要となる，行動科学の理論，モデルについても説明することができるか。

テキスト、参考図書
エッセンシャル栄養教育論　第3版，春木敏　編，医歯薬出版，2014年
その他（受講上の注意）
授業計画は進捗状況により変更することがある。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

公衆栄養学Ⅰ(地域栄養活動) (Public Health Nutrition Ⅰ (Community Involvement))			担当教員	三浦　　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2252	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

地域集団における健康・ＱＯＬの向上や疾病の発症と重症化予防のための食行動の変容を図る方法を学修する。

授業の到達目標

地域集団における食生活上に存在する課題を分析して捉え、食行動の変容を図るための公衆栄養マメジメントとして、対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントの知識と技術を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　−授業計画の詳細と公衆栄養学Ⅰ(地域栄養活動)についての説明−
　事前学習：授業前に日本における生活習慣における健康や栄養に関する問題点についてまとめておくこと。(3時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(1時間)
第2回：公衆栄養学の概念
　事前学習：教科書の第1章の公衆栄養学の概念の要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第3回：公衆栄養学の歴史
　事前学習：教科書の第1章の公衆栄養活動の要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第4回：公衆栄養活動(管理栄養士の役割)
　事前学習：前回配布した資料と教科書の第1章の公衆栄養活動の要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第5回：栄養関係法令①(栄養士法、健康増進法)
　事前学習：教科書の3章のわが国の公衆栄養活動と関連法規の要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第6回：栄養関係法令②(地域保健法、食育基本法)
　事前学習：前回配布した資料と教科書の巻末の栄養関連法規の要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第7回：国民健康・栄養調査(目的・概要)
　事前学習：教科書の3章の国民健康・栄養調査の要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第8回：わが国の健康・栄養問題の現状と課題
　事前学習：前回配布した資料と教科書の2章の要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)

第９回：健康づくりのための指針、ツール（食生活指針、食事バランスガイド）
事前学習：教科書の３章の実施に関する指針・ツールの要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第10回：わが国の栄養施策（国や地域における健康増進施策）　健康日本21
事前学習：教科書の３章の健康日本21の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第11回：わが国の栄養施策（国や地域における健康増進施策）　特定健康診査・特定保健指導
事前学習：教科書の３章の特定健康診査・特定保健指導の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第12回：公衆栄養マネジメント（概念、プロセス、アセスメント）
事前学習：教科書の５章の公衆栄養マネジメントの該当するところを調べまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第13回：公衆栄養マネジメント（プログラムの目標設定）
事前学習：教科書の５章の公衆栄養マネジメントのプログラムの目標設定の仕方の要点をまとめておくこと。（１時間）
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（３時間）
第14回：公衆栄養マネジメント（プログラムの計画・実施・評価　PDCAサイクル）
事前学習：教科書の５章の公衆栄養マネジメントの該当するところを調べ要点をまとめておくこと。（１時間）
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（３時間）
第15回：公衆栄養プログラムの展開（地域公衆栄養活動の事例）
事前学習：教科書の６章の公衆栄養プログラムの展開の仕方の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験
予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておこくと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深める。課題の取り組みについては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成　績　評　価　方　法

定期試験60%、課題レポート20%、授業への取り組み態度等20%の総合評価（100%）

成　績　評　価　基　準

地域集団における食習慣や生活習慣に存在する課題を分析して捉えることができる。
公衆栄養マメジメントととして、対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントの知識と技術を修得できる。

テキスト、参考図書

テキスト：
1. 健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学（改訂第６版）　南江堂　2018年
2.「日本人の食事摂取基準（2015年版）」 第一出版　2015年
参考図書：
3. カレント　公衆栄養学（第３版）　建帛社　2018年
4. サクセス管理栄養士講座　公衆栄養学（第７版）　第一出版　2018年
5. 2019年版　栄養士・管理栄養士必携　第一出版　2019年

その他（受講上の注意）

管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので講義中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があり、欠席や遅刻ををすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅰ(給食計画) (Food Service Management Ⅰ(Planning))			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2255	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)
食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

給食運営や食品流通、品質管理等について関連の資源との関係を総合的に述べ、栄養面、安全面のマネジメントが行えるようにする。給食が生活習慣病予防の観点から果たす役割、栄養・食事管理を効率的かつ安全に運営するためのシステム構築、マネジメントの手法について理解し、関係法規及び指導事項に精通し、栄養・食事、衛生・安全、食材・品質、生産(調理)の管理について修得する。

授業の到達目標

・給食運営に関する栄養面、安全面のマネジメントについて理解出来ている。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：給食の概念
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営と管理の科学)の給食の概念を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。(2時間)
第2回：給食経営管理の概念
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営と管理の科学)の給食経営管理の概念を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。(2時間)
第3回：栄養・食事管理Ⅰ(栄養・食事管理の概要、栄養・食事アセスメント)
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営と管理の科学)の栄養・食事管理Ⅰ(栄養・食事管理の概要、栄養・食事アセスメント)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。(2時間)
第4回：栄養・食事管理Ⅱ(栄養・食事計画、栄養・食事計画の実施)
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営と管理の科学)の栄養・食事管理Ⅱ(栄養・食事計画、栄養・食事計画の実施)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。(2時間)
第5回：給食の品質(給食の品質の標準化)
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営と管理の科学)の給食の品質(給食の品質の標準化)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。(2時間)
第6回：給食の生産Ⅰ(原価)
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営と管理の科学)の給食の生産Ⅰ(原価)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。(2時間)

第７回：給食の生産Ⅱ（食材、生産（調理）と提供）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の給食の生産Ⅱ（食材、生産（調理）と提供）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第８回：給食の安全・衛生Ⅰ（安全・衛生管理の概要、給食の安全・衛生の実際）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の給食の安全・衛生Ⅰ（安全・衛生管理の概要、給食の安全・衛生の実際）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第９回：給食の安全・衛生Ⅱ（事故・災害時対策）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の給食の安全・衛生Ⅱ（事故・災害時対策）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第10回：施設・設備管理（生産（調理）施設・設備設計、食事環境の設計と設備）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の施設・設備管理（生産（調理）施設・設備設計、食事環境の設計と設備）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第11回：給食の人事・事務（人事・労務管理、事務管理）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の給食の人事・事務（人事・労務管理、事務管理）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第12回：施設別給食経営管理Ⅰ（病院、高齢者・介護保険施設）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の施設別給食経営管理Ⅰ（病院、高齢者・介護保険施設）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第13回：施設別給食経営管理Ⅱ（児童福祉施設、障害者福祉施設）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の施設別給食経営管理Ⅱ（児童福祉施設、障害者福祉施設）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第14回：施設別給食経営管理Ⅲ（学校給食、事業所給食、外食・中食・配食）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の施設別給食経営管理Ⅲ（学校給食、事業所給食、外食・中食・配食）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第15回：今期授業の確認・質疑応答
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の総まとめとして、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した総まとめ小テストの内容について理解すること。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、授業への取り組み（30%）、小テスト（20%）

成　績　評　価　基　準

・給食運営に関する栄養面、安全面のマネジメントについて説明することができるか。
・関係法規の内容について理解しているか。

テキスト、参考図書

『栄養管理と生命科学シリーズ』
給食経営と管理の科学　理工図書　2016年

その他（受講上の注意）

学籍番号順の座席配置になるので、視力等で前方を希望する者は予め申し出ること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅱ（マネジメント） (Food Service Management Ⅱ (Management))			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2256	2単位	2年通年(隔週)	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

給食運営や食品流通の理解を基に、経営管理（組織・人事、会計・原価、情報処理、事故・災害時対策等）について関連の資源（食品の流通や食品開発の状況、給食に関わる組織やそれにかかる経費）との関係を総合的に述べ、栄養面、安全面に加え、経済面全般のマネジメントが行えるようにする。また、マーケティングの原理やその応用法、組織管理などマネジメントの基本的考え方や方法について述べる。また、さらに各種給食施設の特徴についても講義する。

授業の到達目標

・経営管理の意義と機能について説明出来る。
・給食とマーケティングについて説明出来る。
・給食の衛生管理について説明出来る。
・給食の人事管理について説明出来る。
・給食の原価構成について説明出来る。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：給与栄養目標量の設定（PBL）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（給与栄養目標量の設定）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第2回：食品構成表の作成（PBL）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（食品構成表の作成）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第3回：献立計画の立案（PBL）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（献立計画の立案）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第4回：生産計画（調理工程計画、作業工程計画）の立案（PBL）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（生産計画（調理工程計画、作業工程計画）の立案）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第5回：発注計画・出庫計画の立案（PBL）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（発注計画・出庫計画の立案）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間）

第６回：栄養教育媒体の作成及び嗜好調査表・喫食調査表の設計（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の計画（栄養教育媒体の作成及び嗜好調査表・喫食調査表の設計）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第７回：生産（調理）前の準備、点検等（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（生産（調理）前の準備、点検等）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第８回：検収と保管（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（検収と保管）を読み、質質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第９回：生産管理（調理工程）（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（生産管理（調理工程））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第10回：提供管理（盛りつけ作業）（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（提供管理（盛付作業））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第11回：検食と保存食及び食堂の準備と提供管理（配膳作業）（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（検食と保存食及び食堂の準備と提供管理（配膳作業））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第12回：下膳と食器洗浄及び清掃と点検（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（下膳と食器洗浄及び清掃と点検）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第13回：実習の全体評価及び改善点の検討、評価・改善のための各種調査法（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の評価・改善（実習の全体評価及び改善点の検討、評価・改善のための各種調査法）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第14回：原価計算の演習及びABC分析の演習（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の原価管理（原価計算の演習及びABC分析の演習）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第15回：損益分岐点分析の演習（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の原価管理（損益分岐点分析の演習）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験（50%）、授業への取り組み（30%）、小テスト（20%）

成績評価基準

・経営管理の意義と機能について説明出来るか。
・給食とマーケティングについて理解しているか。
・給食の衛生管理について理解しているか。
・給食の人事管理について理解しているか。
・給食の原価構成について理解しているか。

テキスト、参考図書

『栄養管理と生命科学シリーズ』
給食経営と管理の科学　理工図書　2016年

その他（受講上の注意）

板書などが見えにくい場合は、必ず申し出ること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理論実習 (Food Service Management Practicum)			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2258	1単位	2年通年(隔週)	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

給食経営管理論において習得した内容を基礎として、大量調理を始め、マネジメント能力が身につくよう課題ディスカッションなどにより体験的に学習する。

授業の到達目標

・栄養士として業務全体のマネジメントが理解出来る。
・各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び資料が作成出来る。
・給食における栄養管理、帳票類が理解出来る。
・原価管理（原価計算、損益分岐点分析、ABC分析等）が理解出来る。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（授業の進め方、グループ構成、課題説明など）
第2回：実習計画1（給与栄養目標量の設定、食品構成表の作成、献立の立て方等）
第3回：実習計画2（実習室案内及び機器類の説明、清掃、試作のための発注業務など）
第4回：大量調理（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検等）
第5回：大量調理と事務処理①（試作、改善点の検討、評価・改善のための調査法、実習の全体評価等）（グループワーク及び実習、実技、発表）
第6回：大量調理と事務処理②（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）（グループワーク及び実習、実技、発表）
第7回：大量調理と事務処理③（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案等）（グループワーク及び実習、実技、発表）
第8回：原価計算の演習、加重平均栄養成分表作成
第9回：大量調理と事務処理④（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）（グループワーク及び実習、実技、発表）
第10回：大量調理と事務処理⑤（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）（グループワーク及び実習、実技、発表）
第11回：大量調理と事務処理⑥（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）（グループワーク及び実習、実技、発表）
第12回：大量調理と事務処理⑦（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）（グループワーク及び実習、実技、発表）
第13回：大量調理と事務処理⑧（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案、試作等）（グループワーク及び実習、実技、発表）
第14回：大量調理と事務処理⑨（栄養管理の設定、生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案等）（グループワーク及び実習、実技、発表）

第15回：損益分岐点分析の演習等、小テスト
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

実習記録ノート及び演習（40%）、実習への取り組み（30%）、定期試験（20%）、小テスト（10%）

成　績　評　価　基　準

・栄養士係として業務全体をマネジメント出来るか。
・各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び栄養媒体等が作成出来るか。
・原価管理（原価計算、損益分岐点分析、ABC分析等）が理解できるか。
・加重平均栄養成分表作成の手順が理解できるか。

テキスト、参考図書

給食経営管理実習　ワークブック（第３版）　（株）みらい　2016年

その他（受講上の注意）

大量調理実習なので特に体調管理と衛生管理に気をつけること。
※下痢・発熱の有無や化膿創の有無及び身支度（毛髪、爪等）、手洗い等

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅰ (Integrated Seminar Ⅰ)			担当教員	佐藤　裕保、三浦　　努、樽井　雅彦、山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2259	2単位	2年後期･3年･4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。
オムニバスにて臨地実習の事前事後指導を行う。
事前指導として、臨地実習の意義についての指導および、実習に際しての具体的準備を行う。
実習先施設の特徴の把握、実習テーマ設定等を実習グループにて行う。
事後指導として、実習の成果および実習テーマについてまとめ、プレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：臨地実習オリエンテーション：社会人としてのマナーについて（佐藤裕・三浦・樽井・山本）
　　事前学習：社会人としてのマナーについて、ネット検索などによりまとめる（2時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第2回：（給食運営実習）：実習施設の特徴について（樽井）
　　事前学習：給食の運営について、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（2時間）
第3回：（給食運営実習）：給食の運営について（樽井）
　　事前学習：給食の運営について、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第4回：（給食運営実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（樽井）
　　事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（2時間）
　　事後学習：実習ノートを熟読する（2時間）
第5回：（給食運営実習）：実習報告（発表）（樽井）
　　事前学習：発表媒体・原稿の準備（2時間）
　　事後学習：他施設の発表についてまとめる（2時間）
＜公衆栄養臨地実習＞
第6回a：（公衆栄養臨地実習）：実習施設の特徴について（三浦）
　　事前学習：公衆栄養臨地実習について、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（2時間）
第7回a：（公衆栄養臨地実習）：公衆栄養マネジメントについて（三浦）
　　事前学習：公衆栄養マネジメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）

第８回a：（公衆栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（三浦）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第９回a：（公衆栄養臨地実習）：実習報告（発表）（三浦）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
＜給食経営管理臨地実習＞
第６回b：（給食経営管理臨地実習）：実習施設の特徴について（樽井）
事前学習：給食経営管理臨地実習について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（２時間）
第７回b：（給食経営管理臨地実習）：給食経営管理について（樽井）
事前学習：給食経営管理について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第８回b：（給食経営管理臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（樽井）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第９回b：（給食経営管理臨地実習）：実習報告（発表）（樽井）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第10回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の発表、臨床栄養臨地実習の聴講）（発表）（佐藤裕・三浦・樽井・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第11回：（臨床栄養臨地実習）：実習施設の特徴について（佐藤裕・山本）
事前学習：臨床栄養臨地実習について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（２時間）
第12回：（臨床栄養臨地実習）：栄養ケアマネジメントについて（佐藤裕・山本）
事前学習：栄養ケアマネジメントについて、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第13回：（臨床栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク･ディスカッション）･実習ノートについて（佐藤裕･山本）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第14回：（臨床栄養臨地実習）：実習報告（発表）（佐藤裕・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第15回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の聴講、臨床栄養臨地実習の発表）（発表）（佐藤裕・三浦・樽井・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にすること。

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解できたか。

テキスト、参考図書

それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。
必要に応じてプリント配布。

その他（受講上の注意）

正当な理由なく事前指導を欠席した場合、臨地実習に出られない場合がある。
６－９回については、選択した臨地実習に出席する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食運営実習 (Field Practice in Food Service)			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2264	1単位	2年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)・栄養士免許(必修)

授業の内容

各種給食施設(学校給食・福祉施設給食・事業所給食等)での給食業務全般に必要な校外実習を行う。食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を習得する。

授業の到達目標

・各種給食施設での栄養士の役割を理解出来る。
・各種給食施設での栄養士業務全般を理解出来ている。
・各種給食施設の喫食者の特徴を理解出来ている。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

2年次2～3月に1週間(45時間以上)の給食施設(学校・病院・福祉施設・事業所等)実習を行う。
①実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ(実習)
②実習施設ごとの実習計画による実習(実習)
③実習施設についての理解(組織・運営)(実習)
④食材料管理の把握・考察(実習)
⑤作業管理・業務分担の把握・考察(実習)
⑥安全・衛生管理の把握・考察(実習)
⑦給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶ　など・実習施設について事前に十分な下調べ(施設概要等)を行なうこと。(実習)
⑧実習成果に関する報告書及び発表(グループワーク及び発表)

成績評価方法

各自の実習実施施設の指導管理栄養士の評価(70%)、実習ノート(30%)

成績評価基準

・各種給食施設での栄養士の役割を理解出来ているか。
・各種給食施設での栄養士業務全般を理解出来ているか。
・各種給食施設の喫食者の特徴を理解出来ているか。

テキスト、参考図書

給食経営管理論および給食経営管理実習にて使用した教科書および参考図書。
『栄養管理と生命科学シリーズ』　給食経営と管理の科学　理工図書　2015年
給食経営管理実習　ワークブック(第3版)　(株)みらい　2015年

その他（受講上の注意）
・実習施設について事前に十分な下調べ（施設概要等）を行なうこと。 ・事前に出された課題は、必ず準備して実習に臨むこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	樽井　雅彦、佐藤　真実、池田　涼子、 浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2165	2単位	1～3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。

授業の到達目標

1・2・3年次を対象に自己の進路を見据えた体験学習を課題にして設ける。例えば、福祉施設、病院などでの奉仕活動、事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施してたり、得られた成果について報告書を提出する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1年次～3年次に事前学習及び事後学習を合計60時間行う。
①受講希望者は、各フィールドワーク演習の企画教員から内容を確認したうえで実施する。
　参画する奉仕活動やインターンシップについて事前に十分な下調べ（概要等）を行なうこと。
②実際に体験したボランティア活動について報告書（内容・到達目標・経過時間・得られた成果）を作成すること。また作成した報告書は企画教員から押印後、フィールドワーク演習担当教員に提出し承認を得ること。承認後の報告書は各自で保管すること。
③各種ボランティア活動について（フィールドワーク）
　参加した全てのボランティア活動の詳細（参加時間数の合計等）についてまとめておくこと。
④3年次終了時に報告書一覧表（ボランティア活動毎の報告書添付）を作成しフィールドワーク演習担当教員に提出すること。

成績評価方法

プログラム取り組み（40%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（30%）

成績評価基準

参加した福祉施設、病院などでの奉仕活動で自身が得た成果について報告書を参考に評価する。事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施する。

テキスト、参考図書

使用しない

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

分子栄養学 (Molecular Nutrition)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2271	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

基礎生化学をはじめとする幾つかの科目において、生体内で起こる様々な現象が、酵素を触媒とする化学反応の組合せによって起こることを学んだ。本講義ではそれを踏まえ、変動する環境に対して生体がどのように情報を受け取り、対応して秩序を保っているか、およびその破綻がいかに疾病につながっていくかを、分子生物学の観点から説明する。生命活動の中心原理（セントラルドグマ）の基本的な仕組み、一般的な遺伝子発現、その他の制御機構について理解したあと、生体における糖・脂質・たんぱく質などの栄養素の代謝と調節および栄養素自身が代謝調節に重要な役割を担っていることを分子生物学的観点から理解できるようにする。また遺伝的背景のわずかな差異が、個人の体質に与える影響を、実際の事例を引きながら解説する。講義は基礎生化学で学んだ内容を振り返りつつ、臨床栄養学等以降の講義で取り扱われる種々の栄養マネジメントに対して、基礎医学的な観点から根拠を与えられるよう配慮して進める。

授業の到達目標

生体における糖・脂質・たんぱく質などの栄養素の代謝と調節および栄養素自身が代謝調節に重要な役割を担っていることを分子生物学的観点から理解できる。具体的には、
① 遺伝子の構造・発現・調節機構ならびに遺伝子産物としてのたんぱく質の構造と機能を説明できる。
② 糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの代謝と、これら栄養素自身が転写因子を介して、生体機能を制御していることを理解し、解説できる。
③ 生活習慣病：循環器系疾患、肥満、糖尿病、骨粗鬆症、がん、アレルギーなどの発症機構を、代謝と病態との関連において、分子生物学的視点から説明できる。
④ ゲノム解読に伴って進化を遂げた分子生物学およびその周辺分野の技術革新を理解し、それらの栄養学や医療への応用を概説することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：遺伝子の本体：セントラルドグマ、DNAの複製
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）
第2回：転写の仕組み
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第３回：翻訳の仕組み、タンパク質の運命
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第４回：情報伝達・遺伝子発現制御の概要
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第５回：糖代謝と調節の分子機構
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第６回：脂質代謝調節の分子機構
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第７回：タンパク質代謝の分子機構
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第８回：ビタミン・ミネラル代謝の分子機構
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第９回：遺伝子解析の手法と原理、遺伝子操作技術とその問題
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第10回：ヒトゲノム、遺伝子多型と体質
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第11回：生活習慣病の分子栄養学①：基礎代謝にかかわる遺伝子多型
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第12回：生活習慣病の分子栄養学②：メタボリックシンドロームの発症機序
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）

第12回：様々な疾患の分子栄養学
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。（2時間）
第13回：がん、アレルギー、老化と分子栄養学
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）
第14回：ゲノムインプリンティング、時間栄養学
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）
第15回：遺伝子組換え作物・食品
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験50%、小テスト30%、授業に対する取り組み（受講姿勢、問題提起に対する応答等）20%を基準として、総合的に評価する。

成績評価基準

① 遺伝子の構造・発現・調節機構ならびに遺伝子産物としてのたんぱく質の構造と機能を説明できるか。
② 糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの代謝と、これら栄養素自身が転写因子を介して、生体機能を制御していることを理解し、説明できるか。
③ 生活習慣病：循環器系疾患、肥満、糖尿病、骨粗鬆症、がん、アレルギーなどの発症機構を、代謝と病態との関連において分子生物学的に説明できるか。
④ ゲノム解読に伴って進化を遂げた分子生物学およびその周辺分野の技術を理解し、それらの栄養学や医療などへの応用を概説することができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：講義用資料を配布する。
統一したテキストは指定しないが、体系的理解のためには関連する書籍を通読されることを推奨する。講義資料作成に際しては、以下の（1）～（3）を中心に準備するので、これらの何れかを手許に置かれることを勧める。
（1）佐久間著・『栄養と遺伝子のはなし　分子栄養学入門第3版』・技報堂出版・2014年
（2）加藤・藤原著・『栄養科学イラストレイテッド　分子栄養学』・羊土社・2014年
（3）宮本・井上・桑波田・金子編・『分子栄養学』・講談社栄養科学シリーズNEXT・2018年
また、リファレンス用途としては以下を勧める。
（4）アルバーツら著、中村・松原監訳・『細胞の分子生物学』第6版・（株）ニュートンプレス・2017年

その他（受講上の注意）

・2年前期開講の「基礎生化学」、及び本科目と同時期に開講の「栄養生化学」は特に関連性が高いので、併せて十分に理解するよう心がけてください。
・遅刻、欠席、私語は自身だけでなく周囲の者の理解の妨げになるので厳に慎むこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

国際食糧・栄養情報論 (International Food Situation)			担当教員	由田　克士
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2272	1単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

先進国の多くは過剰栄養が問題となっている。一方，開発途上国では，食料不足による低栄養が問題となっている国，過剰栄養と低栄養が共存している国がある。国内外の食糧・栄養に関わる諸課題について学び，私たちの毎日の食生活と世界がどのようにつながっているのかを学ぶ。

授業の到達目標

諸外国の食糧・栄養に関わる諸課題やこれらと関連する世界の人口問題について理解する。
諸外国の食料・栄養問題と日本人の食生活のつながりについて学び，個人や仲間と共にできることについて考え，食料・栄養問題について説明できるようになる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□ 発表（プレゼンテーション）□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（文献検索サイトを活用した情報収集）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：日本と世界の人口問題・食糧問題
　事前学習：文献等により、わが国や諸外国における人口の推移や食糧供給について確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で配付する教材を整理・完成させる。（2時間）
第2回：諸外国の健康・栄養問題の現状と課題
　事前学習：文献等により諸外国における健康・栄養問題について、要点を確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で配付する教材を整理・完成させる。（2時間）
第3回：諸外国の健康・栄養施策
　事前学習：文献等により諸外国における健康・栄養施策について、要点を確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で配付する教材を整理・完成させる。（2時間）
第4回：科学論文からの情報収集と先行研究や取り組みの検討
　事前学習：予め配付する科学論文を予習し要点をまとめる。（2時間）
　事後学習：授業で配付する教材と授業で取り扱った内容を整理・復習する。（2時間）
第5回：科学論文からの情報収集と先行研究の整理（文献検索サイトを活用した情報収集）
　事前学習：予め配付する教材を予習し、情報収集を可能な範囲で試みる。（2時間）
　事後学習：授業で配付する教材と授業で行った情報収集を整理・復習する。（2時間）
第6回：諸外国における栄養士養成・関連組織の役割
　事前学習：文献等により諸外国における栄養士養成について、整理・確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で配付する教材を整理・完成させる。（2時間）
第7回：国際食糧・栄養情報に関する整理・総括・演習
　事前学習：これまでに配付した教材を改めて確認し、要点を整理する。（3時間）
　事後学習：演習課題を復習し、知識の定着をはかる。（3時間）
第8回：定期試験

成　績　評　価　方　法
定期試験70%，平常点30% 平常点は，授業への参加状況，受講態度，課題の提出状況やその内容等から総合的に評価する
成　績　評　価　基　準
諸外国の食糧・栄養に関わる諸課題やこれらと関連する世界の人口問題について理解しているか。諸外国の食料・栄養問題と日本人の食生活のつながりについて学び，食料・栄養問題について自らの意見や考えを説明できるか。
テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布する。
その他（受講上の注意）
本科目は，全８回の授業からなる。出来る限り欠席することなく，受講すること。 なお，３回以上の欠席により，試験を受ける事ができないので注意すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食品品質評価演習 (Practice in Estimating Food Quality)			担当教員	浦本　裕美、佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2273	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格(選択)

授業の内容

食品を選ぶという行為は、多くの背景と動機が存在しており、管理栄養士には食品についての深い知識と品質を見抜く能力が必要となる。そこで、その能力を養う目的で、食品の生産・流通・消費についての知識、食品鑑別法、食品品質評価法(化学的評価法、物理的評価法など)を演習で学ぶ。

授業の到達目標

目の前にある食品だけでなく、その食品が消費者に届くまで、すなわち、「生産・流通」にも着目した総合判断力をもって食品の品質を見抜く力と選択能力を養う。また、食品の品質評価法を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他(食品流通施設の見学、農作物の収穫体験)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：(浦本・佐藤)ガイダンス、第3～5回の見学について説明
　事前学習：シラバスに目を通し授業内容について確認したいこと等をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：日本における食品の流通システムについて調べノートにまとめておくこと。(2時間)
第2回：(浦本)個別食品の鑑別(1)食品の流通と保存
　事前学習：テキストp122～124を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：食品の保存時に気を付けなければならないことをノートにまとめておくこと。(2時間)
第3回：(浦本)個別食品の鑑別(2)中央卸売市場の見学　魚市場(その他)
　事前学習：中央卸売市場魚市場の役割について調べ質問項目をノートにまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：見学先での説明等を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)
第4回：(浦本)個別食品の鑑別(3)中央卸売市場の見学　青果市場(その他)
　事前学習：中央卸売市場青果市場の役割について調べ、質問項目をノートにまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：見学先での説明等を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)
第5回：(浦本)個別食品の鑑別(4)地元農家の見学・収穫体験(その他)
　事前学習：地産地消について考え、質問項目をノートにまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：見学先での説明・体験を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)
第6回：(浦本)化学的評価法(米の品質検査)(1)(実験)
　事前学習：配布プリントを一読し質問項目をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：実験結果と考察、及び米の保存方法についてまとめレポートにまとめること。(2時間)
第7回：(浦本)化学的評価法(果物の品質；酵素的褐変)(2)(実験)
　事前学習：配布プリントを一読し質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。(2時間)

第８回：（浦本）化学的評価法（果物の品質；糖度・酸度）（３）（実験）
事前学習：テキストp50～53を読み質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。（２時間）
第９回：（佐藤）官能検査の基本と実施法
事前学習：テキストｐ３～30を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：官能評価の概要についてノートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：（佐藤）食品の官能検査演習（統計処理を含む）（１）（実習）
事前学習：評点法で使用したい試料について、調べておくこと。（２時間）
事後学習：評点法で使用する試料について、調べておくこと。（２時間）
第11回：（佐藤）食品の官能検査演習（統計処理を含む）（２）（実習）
事前学習：テキストp22～29を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：実験結果と考察、試料の特徴などについてまとめレポートにまとめること。（２時間）
第12回：（佐藤）物理的評価法の目的と意義
事前学習：テキストp59～63を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：食品の状態についてノートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：（佐藤）物理的評価法の手法について
事前学習：テキストp64～78を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：レオロジーとテクスチャーについてノートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：（佐藤）物理的評価演習（１）（実験）
事前学習：介護食や離乳食について調べ、ノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。（２時間）
第15回：（佐藤）物理的評価演習（２）（実験）
事前学習：テキストp64～78を読み、測定方法について理解し、質問項目をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：実験の結果や考察より、介護食や離乳食の物性についてレポートにまとめること。（２時間）

成　績　評　価　方　法

レポート（90%）、平常点（10%）、平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。

成　績　評　価　基　準

食品自体の品質を評価できるだけでなく、生産・流通も考慮した広い視野を兼ね備えた品質評価および食品選択ができるか。
食品品質評価法が理解できているか。

テキスト、参考図書

（社）日本フードスペシャリスト協会編/新版　食品の官能評価・鑑別演習（三訂版）/建帛社

その他（受講上の注意）

・個別食品の鑑別では福井県中央卸売市場などへの見学も予定しており、その際は、土曜日に実施する可能性がある。
・使用教室は、演習内容によって変更し、第１回目のガイダンスで連絡する予定である。
・テキストは、ガイダンスを聞いた上で履修することを決定してから購入するのが望ましい。
・授業内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。授業の計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、第１回目のガイダンスで連絡する予定である。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2280	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教職の意義等に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)
・進路選択に資する各種の機会の提供等

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

教員とは、どのような役割を期待され、どのような環境で、どのような仕事をしているのか。本授業は、これらの問いに対して主に法的、歴史的見地から考察する。また、事例研究を通して様々な教師像を検討することにより、受講生各自が適性を判断し、よりよい教職像を展望する機会としたい。

授業の到達目標

・現代の学校教育や教職の社会的意義を説明できる。
・今日の教員に求められる役割や資質能力について説明したうえで、自己の教職像を展望することができる。
・教員の職務内容の全体像や服務上・身分上の義務を説明できる。
・学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間)
　事後学習：授業内容に関連する図書を検索し、読書計画を立てる。(2時間)
第2回：教師はどのような仕事をしているのか
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第3回：学校に関わる様々な職業について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第4回：チームとしての学校
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第5回：よい教師とはどのような教師なのか(討議)
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第6回：教師像の諸相――聖職者、労働者、専門家
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第7回：どうすればよい教師になれるのか(討議)
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)

第８回：教員養成制度について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第９回：教員養成の歴史
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第10回：教員に求められる専門性とは何か
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第11回：教員の身分について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第12回：教員の任用について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第13回：教員の服務について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第14回：教員にとって研修のもつ意味
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）
平常点（30％）
（平常点は、授業への参加状況と、授業時の課題の内容をもとに評価する。）

成　績　評　価　基　準

・現代の学校教育や教職の社会的意義を説明できるか。
・今日の教員に求められる役割や資質能力について説明できるか。
・教員の職務内容の全体像や服務上・身分上の義務を説明できるか。
・学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について説明できるか。

テキスト、参考図書

テキスト：授業時に適宜資料を配布する。
参考図書：磯田一雄編『日本の教育課題　9　教師と子どもとのかかわり』東京法令出版　1999年

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学(健康栄養学科) (Educational Psychology)			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2282	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

教育心理学は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)を学ぶが、このうち主として中高を中心としながらも広く児童生徒の発達と学習の過程を論じる。

授業の到達目標

学校教育の場において、子どもの教育と学習に関する教育方法や関わり方、子どもの心理面について教育心理学の基礎理論を学び、方法を適用できるようにする。
・子どもの記憶について理解し、記憶を定着させる教授法を学ぶ。
・乳幼児期から青年期にかけての発達段階を理解し、児童及び生徒の心理を理解し、指導法を考える力を身につける。
・児童、生徒の学級内の集団力学について知る方法を身につける。
・障害を持った幼児、児童及び生徒を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：教育心理学とは
事後学習：教育心理学について学んだ内容を整理し、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(4時間)
第2回：教育心理学の歴史
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。(2時間)
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第3回：生涯発達の基礎的過程
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。(2時間)
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第4回：自己と社会性の発達
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。(2時間)
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第5回：発達における障害
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。(2時間)
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第６回：コミュニケーションの障害と学習障害
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第７回：児童期および青年期における適応と障害
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第８回：学習の基礎的過程
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第９回：記憶と思考
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第10回：知能
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第11回：教授・学習過程
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第12回：発達と学習の支援
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第13回：教育評価と測定、指導要録
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第14回：学級という社会
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第15回：生徒理解と特別支援教育
事前学習：テキストの該当する箇所を読み、わからないところをまとめておく。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

毎回行うブリーフレポート（20%）、定期試験（80%）

成　績　評　価　基　準

・子どもの記憶について理解し、記憶を定着させる教授法を学べているか。
・乳幼児期から青年期にかけての発達段階を理解し、幼児、児童及び生徒の心理を理解し、指導法を考える力を身につけているか。
・児童生徒の学級内の集団力学について知る方法を身につけているか。
・障害を持った幼児、児童及び生徒を理解しているか。

テキスト、参考図書

テキスト：『よくわかる学校教育心理学』 ミネルヴァ書房 2010年
参考図書：適宜関連図書や論文を紹介する。

その他（受講上の注意）

教職科目であるため、受け身的に受講するのではなく、常に教壇に立ち児童、生徒と対面する場面を想像して授業に臨むこと。また、他の教職に関する科目と同様、本来は栄養に関する科目ではないので、特に関連部分を考えながら学ぶ態度・姿勢が重要となる。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育課程・特別活動論 (Theory of Education Curriculum)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2284	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育課程の意義及び編成の方法
・道徳及び特別活動に関する内容

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

教育課程とは、学習指導要領によって示される基準にもとづいて、各学校が編成する教育計画のことである。その計画には、各教科の授業計画だけではなく、教科外の活動(特別活動、総合的な学習の時間、など)の計画も含まれる。また近年では、この計画をよりよいものにするべく、評価、改善していくプロセスも教育課程編成の一環とみなされるようになっている。以上をふまえて、この授業では、①学習指導要領について、②特別活動、総合的な学習の時間について、③様々な教育評価について、の三つのテーマを取り上げる。

授業の到達目標

現行学習指導要領の内容を説明できる。
特別活動および総合的な学習の時間の意義と役割について説明できる。
教育評価にはどのような種類、方法があるのかについて説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション　教育課程とは何か
　事前学習：シラバスをよく読んで、学修計画を立てる。(2時間)
　事後学習：関連図書を検索したうえで、読書計画を立てる。(2時間)
第2回：学習指導要領とは何か
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第3回：学習指導要領を読む(1)　第一章「総則」前半
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第4回：学習指導要領を読む(2)　第一章「総則」後半
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第5回：学習指導要領の歴史的変遷(1)　1940年代後半
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第6回：学習指導要領の歴史的変遷(2)　1950〜60年代
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第7回：学習指導要領の歴史的変遷(3)　1970〜80年代
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)

第８回：学習指導要領の歴史的変遷（４）　1990年代以降
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第９回：学力とは何か
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第10回：教育評価について　何のための評価なのか
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第11回：学習指導要領を読む（３）　総合的な学習の時間、特別活動
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第12回：特別活動、総合的な学習の時間の意義と課題
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第13回：特別活動、総合的な学習の時間の実践例
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第14回：特別活動、総合的な学習の時間の評価について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）
平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況と授業時の課題の提出状況により判断する）

成　績　評　価　基　準

現行学習指導要領の内容を逐語的に理解しているか。
特別活動および総合的な学習の時間の意義と役割について説明できるか。
教育評価にはどのような種類、方法があるのかについて説明できるか。

テキスト、参考図書

プリントを配布する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育の方法と技術(健康栄養学科) (Teaching Methods and Skills)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2286	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科教職科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

プリント資料やウェブ上の資料を参考に教育方法の理論について解説する。関連する事項について各自の考えをもとに、他の受講者と授業内やオンライン上での対話・議論を行う。オンラインフォーラムにおいては、授業テーマに関する自身の考えを述べながら、他者との議論を深める必要がある。また実際に情報機器を活用して教材を作成し、それが適切なものであるかを相互評価する。学習指導案を作成し、それにもとづく模擬授業を行った後、評価を行う。教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やウェブ上の資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。

授業の到達目標

教育方法に関する基礎的な理論や授業を構成する要件(カリキュラム・児童・教員・教材等)を理解し、設計・実施・評価といった実践に向けての指導技術を身につける。
また、授業に際して情報機器をどのように活用すると効果的か、子どもの情報活用能力の育成にどのような教材を作成し活用すると良いかを考え、それらに関する基礎的な能力を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他(オンラインでのディスカッション・相互評価)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業の目的・計画・評価方法の説明。学校・教育の現状と課題
　　事後学習：学習管理システム(LMS)のフォーラム上に自身の意見を記述する。(2時間)
第2回：カリキュラム、指導法、主体的・対話的で深い学び
　　事後学習：LMSのフォーラムにて他者の意見を読み、コメントする。(オンラインディスカッション)
　　LMSのフォーラム上に自身のアイデアを記述する。(3時間)
第3回：学習指導要領、指導計画、学習指導案、教材・教具
　　事後学習：動画教材を作成しLMSのワークショップに提出する。(6時間)
第4回：教育の情報化、情報機器の活用、情報モラル、メディアリテラシー
　　事後学習：LMSのワークショップに提出された動画教材を評価する。(オンラインでの相互評価)
　　LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。(4時間)
第5回：デジタル教科書、デジタル教材
　　事後学習：LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。(4時間)
第6回：Webサービスを利用したアンケートや問題の作成と分析
　　事後学習：Webアンケートを作成しLMSのフォーラムに投稿する。(4時間)
第7回：ストーリー型教材の設計(テーマ設定、展開)
　　事後学習：Webアンケートを回答する。ストーリー型教材のテーマを決め素材データを準備する。(4時間)

第８回：ストーリー型教材の制作（画像・写真・音・アニメーションの活用）（実技）
　　事後学習：Webアンケートを分析する。ストーリー型教材を完成させワークショップに提出する。（５時間）
第９回：プログラミングと論理的思考について
　　事後学習：ストーリー型教材を評価する。ミニプログラムを作成する。（２時間）
第10回：プログラミングによる教材の設計（思考、判断、手順）
　　事後学習：教材プログラムを作成する。（４時間）
第11回：プログラミングによる教材の制作（実技）
　　事後学習：教材プログラムを完成させる。（６時間）
第12回：教育メディアを活用した模擬授業の計画（グループワーク）
　　事後学習：グループで模擬授業の役割分担と指導案を決める。（２時間）
第13回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と評価（グループ発表）（発表・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の準備を行なう。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の評価を記録する。（２時間）
第14回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と評価（ディスカッションと改善提案）（発表・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の準備を行なう。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の評価を記録する。（２時間）
第15回：まとめ（評価の集計と分析）（グループワーク）
　　事後学習：模擬授業の評価集計・分析を行なう。授業全体の振り返りを行いレポートとしてまとめる。（６時間）
定期試験は行わない

成績評価方法

課せられた課題・成果物を提出していることを重視して評価する。
受講態度（10%）、前半内容に関連する課題と制作物（30%）、後半内容に関する制作物（40%）、模擬授業内容と相互評価（20%）

成績評価基準

授業の設計・実施・評価等に関する知識を修得しているか。
教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量が身についているか。
模擬授業について周到に準備を行い、的確に実施できているか。

テキスト、参考図書

テキスト
プリント資料および学習支援システムでのリソースにて提示する。
参考図書
教育方法論（教職課程シリーズ）（谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著　一藝社　平成16年）
教育の方法と技術（教育学のポイント・シリーズ）（柴田義松・山崎準二著　学文社　平成17年）
参考資料：
中学校学習指導要領（平成29年３月公示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年３月公示　文部科学省）
プリント資料および学習支援システムでのリソースを利用する。
オンラインフォーラムにおいて、授業テーマに関する自身の考えを述べ、他者との議論も深める必要がある。
教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やWWWの資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。

その他（受講上の注意）

欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。 模擬授業に関連して準備・練習を十分行うこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学(子ども教育学科) (Educational Psychology)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2201	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(選択)

授業の内容

教職に関する科目のうちの教育の基礎理論に関する科目「幼児、児童及び制との心身の発達及び学習の過程」に対応する科目として位置づけられているので、その内容にそくして網羅的包括的に概説してゆく。

授業の到達目標

・授業の方法として、視聴覚的方法、発見学習、有意味受容学習、講義法、プロジェクト法、TTなどについて入門的な知識を身につけ、自分なりに模擬的に計画・構想できるようにする。
・児童生徒の学級内の集団力学について諸理論を知り、学級集団の特徴を理解する手がかりを学ぶ。
・試験の諸形式と評価法について、試験問題や学習指導案を例にしながら模擬的に、これを作成できるようにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：15回の計画の概要と、子どもの発達学習に関する学習のポイント。
事後学習：授業内容のまとめること(4時間)
第2回：教育心理学の目的と課題、基本領域、教育心理学の源流と発展。教育心理学の代表的な研究法、教育心理学と発達心理学に大きく貢献した代表的な理論と研究。(グループワーク・ディスカッション)
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間)
事後学習：授業内容のまとめること(1時間)
事前学習における疑問点のリストアップは、毎回、受講生間の意見交換する。また、数回分ごとにグループワークの総括と発表をおこなう。
第3回：発達の量的・質的理解～発達の方向性、遺伝と環境の諸要因、成熟と学習～。(グループワーク・ディスカッション)
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間)
事後学習：授業内容のまとめること(1時間)
第4回：新生児・乳幼児期の発達～新生児・乳幼児期の発達の特徴、原始反射、運動機能の発達、愛着の形成、言葉の獲得。(グループワーク・ディスカッション)
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間)
事後学習：授業内容のまとめること(1時間)
第5回：幼児の発達～幼児期の発達の特徴、自我の発達、思考の発達、ことばの発達、社会性の発達。(グループワーク・ディスカッション)
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間)
事後学習：授業内容のまとめること(1時間)

第６回：児童期の発達～児童期の発達の特徴、環境の変化と身体の発達、仲間関係の発達、論理的思考の発達。（グループワーク・ディスカッション）
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめること（１時間）
第７回：青年期以降の発達～青年期の発達の特徴、青年期と発達課題、青年期の身体発達と知的発達、青年期の人格形成、道徳性の発達、親子関係、成人期と老年期。（グループワーク・ディスカッション）
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめること（１時間）
第８回：発達の諸相・知能と創造性～発達障害とDSM-５、知能と発達検査、創造性。（グループワーク・ディスカッション）
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめること（１時間）
第９回：学習の機能と原理～学習の原理、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習（モデリング）、認知説、状況的学習論。（グループワーク・ディスカッション）
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめること（１時間）
第10回：記憶と学習方略～記憶の過程、忘却、ワーキングメモリーと学習・発達、展望的記憶、メタ認知、自己調整学習、学習の転移。（グループワーク・ディスカッション）
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめること（１時間）
第11回：動機づけと原因帰属～内発的動機づけと外発的動機づけ、自己効力、原因帰属、動機づけの諸理論、学習の協同と競争。（グループワーク・ディスカッション）
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめること（１時間）
第12回：授業の過程～一斉授業形式、発見学習、有意味受容学習、挙王道っが句集、個に応じた教育、諸メディアの教育利用。（グループワーク・ディスカッション）
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめること（１時間）
第13回：学級集団～学級集団の機能、学級集団の査定、教師のリーダーシップ、教師の適性、教師/生徒関係、評価の歪み。（グループワーク・ディスカッション）
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめること（１時間）
第14回：学習－教育評価～教育評価の機能と目的、学習指導要領における教育評価、教育評価の分類と技法、これからの学習/教育評価。（グループワーク・ディスカッション）
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめること（１時間）
第15回：教育統計から教師に必要な統計の知識と技術、一変数の記述統計、に変数の記述統計（クロス集計、相関係数）、学力テストと標準特典。（グループワーク・ディスカッション）
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめること（１時間）

成績評価方法

約１か月前には予告する課題レポート（20パーセント×２本）、授業中に実施する小テスト（20パーセント×２回、第７回ごろと第14回ごろに進度を考慮しながら実施する。）、授業中の小レポート（20パーセント、数回）の合計による。

成績評価基準

・視聴覚的方法、発見学習、有意味受容学習、講義法、プロジェクト法について入門的な知識レベルの説明ができる。
・学級内の集団力学に関する諸理論を説明できる。
・試験の処刑式と評価法の知識に基づいて自分なりに試験問題が作成できる。

テキスト、参考図書

大野木裕明ほか（共著）『ガイドライン学校教育心理学』 ナカニシヤ出版 2016年

その他（受講上の注意）

この授業に関する連絡は、授業中か、メール連絡ohnogi@jindai.ac.jp、またはオフィスアワーに研究室に来て下さい。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育の方法と技術(子ども教育学科) (Teaching Methods and Skills)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2251	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科教職科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

プリント資料やWeb上の資料を参考に教育方法の理論について解説する。関連する事項について各自の考えをもとに、他の受講者と授業内やオンライン上での対話・議論を行う。また実際に情報機器を活用して教材を作成し、それが適切なものであるかを相互評価する。学習指導案を作成し、それにもとづく模擬授業を行った後、評価を行う。

授業の到達目標

教育方法に関する基礎的な理論や授業を構成する要件(カリキュラム・児童・教員・教材等)を理解し、設計・実施・評価といった実践に向けての指導技術を身につける。
また、授業に際して情報機器をどのように活用すると効果的か、子どもの情報活用能力の育成にどのような教材を作成し活用すると良いかを考え、それらに関する基礎的な能力を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他(オンラインでのディスカッション・相互評価)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業の目的・計画・評価方法の説明。学校・教育の現状と課題
　　事後学習：学習管理システム(LMS)のフォーラム上に自身の意見を記述する。(2時間)
第2回：カリキュラム、指導法、主体的・対話的で深い学び
　　事後学習：LMSのフォーラムにて他者の意見を読み、コメントする。(オンラインディスカッション)
　　LMSのフォーラム上に自身のアイデアを記述する。(3時間)
第3回：学習指導要領、指導計画、学習指導案、教材・教具
　　事後学習：動画教材を作成しLMSのワークショップに提出する。(6時間)
第4回：教育の情報化、情報機器の活用、情報モラル
　　事後学習：LMSのワークショップに提出された動画教材を評価する。(オンラインでの相互評価)
　　LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。(4時間)
第5回：デジタル教科書、デジタル教材
　　事後学習：LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。(4時間)
第6回：Webサービスを利用したアンケートや問題の作成と分析
　　事後学習：Webアンケートを作成しLMSのフォーラムに投稿する。(4時間)
第7回：ストーリー型教材の設計(テーマ設定、展開)
　　事後学習：Webアンケートを回答する。ストーリー型教材のテーマを決め素材データを準備する。(4時間)
第8回：ストーリー型教材の制作(画像・写真・音・アニメーションの活用)(実技)
　　事後学習：Webアンケートを分析する。ストーリー型教材を完成させワークショップに提出する。(5時間)

第９回：プログラミングと論理的思考について
　　事後学習：ストーリー型教材を評価する。ミニプログラムを作成する。（２時間）
第10回：プログラミングによる教材の設計（思考、判断、手順）
　　事後学習：教材プログラムを作成する。（４時間）
第11回：プログラミングによる教材の制作（実技）
　　事後学習：教材プログラムを完成させる。（６時間）
第12回：教育メディアを活用した模擬授業の計画（グループワーク）
　　事後学習：グループで模擬授業の役割分担と指導案を決める。（２時間）
第13回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と評価（１）グループ１～３（発表・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の準備を行なう。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の評価を記録する。（２時間）
第14回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と評価（２）グループ４～６（発表・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の準備を行なう。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の評価を記録する。（２時間）
第15回：まとめ（評価の集計と分析）（グループワーク）
　　事後学習：模擬授業の評価集計・分析を行なう。授業全体の振り返りを行いレポートとしてまとめる。
　　（６時間）
定期試験は行わない

成　績　評　価　方　法

課せられた課題・成果物を提出していることを重視して評価する。
受講態度（10％）、前半内容に関連する課題と制作物（30％）、後半内容に関する制作物（40％）、模擬授業内容と相互評価（20％）

成　績　評　価　基　準

授業の設計・実施・評価等に関する知識を修得しているか。
教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量が身についているか。
模擬授業について周到に準備を行い、的確に実施できているか。

テキスト、参考図書

参考図書：
（１）　教育方法論（教職課程シリーズ）（谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著、一藝社出版 平成16年）
（２）　教育の方法と技術（教育学のポイント・シリーズ）（単行本）（柴田義松・山崎準二著 学文社 平成17年）
参考資料：
小学校学習指導要領（平成29年３月告示　文部科学省）
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
プリント資料および学習支援システムでのリソースにて提示する。

その他（受講上の注意）

オンラインフォーラムにおいて、授業テーマに関する自身の考えを述べ、他者との議論も深める必要がある。
教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やWWWの資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。
欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育課程論Ⅱ（特別活動を含む） （Theory of Curriculum Ⅱ）			担当教員	伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2252	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）

<科目に含めることが必要な事項>　・教育課程の意義及び編成の方法
・特別活動の指導法

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

授業の到達目標

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことに意義を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：教育課程（カリキュラム）とは何か
事前学習：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
事後学習：講義をもとに『総則編』第2章を読み教育課程の基準について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第2回：教育課程の編成と学習指導要領
事前学習：『解説　総則編』第3章第1節1・2を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
事後学習：講義をもとに教育課程の編成について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第3回：アクティブ・ラーニングと資質・能力－コンテンツからコンピテンシー・ベースのカリキュラムへ
事前学習：『解説　総則編』第3章第1節3を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
事後学習：講義をもとに育成を目指す資質・能力について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第4回：主体的・対話的で深い学びと見方・考え方－事例を通して（グループワークと討議）
事前学習：『解説　総則編』第3章第3節1を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
事後学習：事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第5回：社会に開かれた教育課程と学びの地図－カリキュラム・マネジメントの意義
事前学習：『解説　総則編』第3章第1節4を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
事後学習：：講義をもとに社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメントについて、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第6回：教育課程の実施と学習評価及び学校間段階の接続について
事前学習：『解説　総則編』第3章第2節・第3節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
事後学習：講義をもとに教育課程の実施と学習評価及び幼少接続について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）

第７回：特色ある学校の教育課程（１）――事例①（グループワークと討議）
事前学習：『解説　総則編』第３章第４節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：連携協力校の事例をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：特色ある学校の教育課程（２）――事例②（グループワークと討議）
事前学習：『解説　総則編』第３章第５節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：連携協力校の事例をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：教育課程と特別活動
事前学習：『解説　特別活動編』第１章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに教育課程と特別活動について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：特別活動の目標と内容（グループワーク）
事前学習：目標と内容に関するグループワークに向けて『解説　特別活動編』第２章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：グループワークをもとに特別活動の目標と内容の概要について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：特別活動の内容とその実際（１）――事例①学級活動を中心に（グループワークと発表）
事前学習：『解説　特別活動編』第３章第１節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学級活動の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：特別活動の内容とその実際（２）――事例②児童会活動を中心に（グループワークと発表）
事前学習：『解説　特別活動編』第３章第２節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに児童会活動の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：特別活動の内容とその実際（３）――事例③クラブ活動を中心に（グループワークと発表）
事前学習：『解説　特別活動編』第３章第３節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとにクラブ活動の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：特別活動の内容とその実際（４）――事例④学校行事を中心に（グループワークと発表）
事前学習：『解説　特別活動編』第３章第４節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第15回：教育課程及び特別活動のまとめと今後の課題
事前学習：『解説　特別活動編』第４章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：教育課程及び特別活動について、この講義で学んだことについて、リフレクションシートにまとめる。（２時間）

成　績　評　価　方　法

毎回のＡ４裏表１枚のリフレクション・レポート（２％×15回）、ワークショップレポート（５％×８回）、講義内容に関連するレポート（15％×２回）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

教育課程の意義や編成と実施の仕方、評価と改善について理解できたか。
教育課程の基準としての学習指導要領について理解できたか。
学校の教育計画の全体構造について理解し、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの意義を理解できたか。
特別活動の目標とその内容を理解できたか。

テキスト、参考図書

テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編』東洋館出版、2018年
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別活動編』東洋館出版、2018年
参考書・参考資料等：丹野清彦著『子どもの願い　いじめVS12の哲学』高文研、2018年

その他（受講上の注意）

学習指導要領の改訂やその実施に関するニュース等に関心を持ち、国や福井県の動向を把握すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

社会福祉 (Social Welfare)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2250	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

保育士は、国家資格化や保育所保育指針の改定などを経て、子どもを取りまく社会、地域、家庭などを踏まえた子育てニーズを捉え、社会福祉の専門職として応えることが求められている。本授業では、保育士に必要な社会福祉の知識を習得し、保育実践を福祉的な視点で考える作業を重視する。

授業の到達目標

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
社会福祉における相談援助について理解する。
社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
社会福祉の動向と課題について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション～社会福祉の理念と概念
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第2回：社会福祉と子ども家庭福祉
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第3回：社会福祉の歴史的変遷
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第4回：社会福祉の制度と法体系
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第5回：社会福祉行財政
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第6回：社会福祉の実施機関
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第7回：社会福祉施設
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)

第８回：社会福祉の専門職
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第９回：社会福祉における相談援助
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第10回：社会保障
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第11回：情報提供、第三者評価
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第12回：利用者の権利擁護と苦情解決
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第13回：社会福祉の動向と課題～高齢者福祉、子育て支援
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第14回：社会福祉の動向と課題～障害者福祉、共生社会の実現
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ～在宅福祉・地域福祉の推進
　　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、提出課題（30%）

成　績　評　価　基　準

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について説明することができるか。
社会福祉の制度や実施体系等について説明することができるか。
社会福祉における相談援助について説明することができるか。
社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて説明することができるか。
社会福祉の動向と課題について説明することができるか。

テキスト、参考図書

杉本敏夫監修　立花直樹・波田埜英治編　「新はじめて学ぶ社会福祉　社会福祉概論」　ミネルヴァ書房　2017

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会的養護 (Social Nursing)			担当教員	永松　　真
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2200	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

現代社会における社会的養護の理念や基本原理、歴史的変遷、制度や法体系等を理解する。そして、施設養護の実際について理解し、多様化複雑化する問題を抱えた家庭の現状を認識、保育士として求められる知識と技術を習得する中で、地域福祉についての理解を深めていく。

授業の到達目標

・社会的養護の歴史や理念を踏まえ、今日における社会的養護の意義を理解する。
・子どもの人権擁護を踏まえた児童観や養護観を理解する。
・社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
・社会的養護を通じて、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解する。
・保育士として健全な家庭環境が子どもたちにとって不可欠なものであることの理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション　−子どもの社会的養護について考える
　事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、関連することを調べてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で課せられた基本的原則について調べてまとめておくこと。(2時間)
第2回：子どもの人権擁護　−子どもの権利条約等
　事前学習：授業前にテキスト第1章を読み、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト第1章でわからない箇所を調べて質問事項をまとめておくこと。(2時間)
第3回：社会的養護の歴史的変遷
　事前学習：授業前にテキストの第2章を読み、関連することを調べてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト第2章でわからない箇所を調べて質問事項をまとめておくこと。(2時間)
第4回：社会的養護の制度と法体系①　−児童相談所と各児童福祉施設
　事前学習：授業前にテキストの第3章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト第3章でわからない箇所を調べて質問事項をまとめておくこと。(2時間)
第5回：社会的養護の制度と法体系②　−里親制度
　事前学習：授業前にテキストの第4章を読み、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト第4章でわからない箇所を調べて質問事項をまとめておくこと。(2時間)
第6回：社会的養護の特質と基本理念、基本原則
　事前学習：授業前にテキストの第5章を読み、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト第5章でわからない箇所を調べて質問事項をまとめておくこと。(2時間)
第7回：施設養護における保育士等の倫理と責務
　事前学習：授業前にテキスト第6章、第7章を読み、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト第6章、第7章を復習し、質問事項をまとめておくこと。(2時間)

第８回：施設養護における基本的な技術支援
事前学習：授業前にテキスト第８章を読み、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト第８章でわからない箇所を調べて質問事項をまとめておくこと。（２時間）
第９回：社会的養護の実際①　－日常生活と自立支援
事前学習：授業前にテキスト第９章を読み、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：施設養護での実際でわからない箇所を調べて質問事項をまとめておくこと。（２時間）
第10回：社会的養護の実際②　－家庭・地域等との連携
事前学習：授業前にテキスト第９章を読み、施設養護の生活特性について自分の意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト第９章でわからない箇所を調べて質問事項をまとめておくこと。（２時間）
第11回：社会的養護の実際③　－個別支援計画と実践事例考察
事前学習：授業前にテキスト第10章を読み、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で課せられた課題について、調べてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第12回：被虐待児への対応及び虐待防止
事前学習：授業前にテキスト第11章を読み、虐待について自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト第11章でわからない箇所を調べて質問事項をまとめておくこと。（２時間）
第13回：児童福祉施設における運営管理と今後の課題
事前学習：授業前にテキスト第12章を読み、前回までの講義内容を復習し、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト第12章でわからない箇所を調べて質問事項をまとめておくこと。（２時間）
第14回：社会的養護の援助者（保育士）としての資質
事前学習：テキストの第13章、第14章を読み、前回までの講義内容を復習し、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト第13章・第14章でわからない箇所を調べて質問事項をまとめておくこと。（２時間）
第15回：社会的養護の課題と今後の展望、事業のまとめ
事前学習：テキストを熟読し、前回までの講義内容を復習し、質問事項をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキストを熟読し、定期試験に向けてこれまでの講義内容を確認し、まとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（60%）　小レポート（20%）　平常点（20%）
平常点は、事業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・社会的養護の歴史や理念、今日的意義について理解しているか。
・社会的養護の体系や児童相談所・児童福祉施設・里親等の機能・関連性を理解しているか。
・子どもの権利条約、施設養護の基本原理を理解し、説明することができるか。
・児童養護施設の処遇の流れや諸課題（被虐待児の問題等）、他職種への理解がなされているか。
・児童虐待や児童貧困の問題など、社会的養護の視点や当事者の立場に立った理解がなされているか。
（この点は、特にレポート課題を中心に評価する）
・保育専門職としての援助技術や倫理について理解されているか。

テキスト、参考図書

「改訂　子どもの養護――社会的養護の基本と内容――」　松本峰雄（編著）　建帛社　2019年度保育士養成課程対応

その他（受講上の注意）

対人援助職を目指す者として、受講マナーがしっかりまもられることを期待する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会 (Social Science)			担当教員	奥谷　　崇
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2253	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・社会

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

授業課題への個人思考・集団思考・集団議論・質疑応答を通して授業課題についての共通理解を深め、課題学習の方法を体得する。更に、課題解決学習力をベースに意思決定力を高める学習方法についても発展的に体得する。受身な学習形態ではなく自らの学習課題をもって学習に取り組み、個別学習や集団学習を通して、自らの問題意識の深化を図る。

授業の到達目標

今日の我が国の社会には様々な問題が山積している。社会科は諸問題の解決と将来を切り拓くための切り札となる教科である。社会科の教科としての特質を知り、各学年の発達段階に応じた社会科の基礎・基本を理解し、時代の要請に対応できる社会科について理解を深める。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■ 発表(プレゼンテーション)□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：社会科の役割　(ＰＢＬ・討議・グループワーク)
事前学習：社会科とはどんな教科なのか特質・役割について自分の考えをまとめておくこと。(2時間)
事後学習：社会科の特質・役割・使命についてまとめておくこと。(2時間)
第2回：社会科の目標　(ＰＢＬ・討議・グループワーク)
事前学習：小学校学習指導要領解説社会編Ｐ17～Ｐ29を参照し、社会科の目標について自分の考えをまとめてくること。(2時間)
事後学習：学習した社会科の目標をもとにこれまでの自分が受けてきた社会科の授業を分析すること。(2時間)
第3回：社会科の基礎・基本　(ＰＢＬ・討議・グループワーク)
事前学習：社会科における基礎・基本について考えをまとめてくること。(2時間)
事後学習：社会科の基礎・基本について整理し、基礎・基本を身に付けさせる方法を考えること。(2時間)
第4回：学習指導要領と社会科　(ＰＢＬ・討議・グループワーク)
事前学習：小学校学習指導要領解説総則編Ｐ１～Ｐ45を熟読し、要点と疑問点をノートに整理してくること。(2時間)
学習指導要領と社会科の類似点と相違点をノートに整理し、事前の疑問に自分で答えを書くこと。(2時間)
第5回：学習指導要領解説社会編のポイント　(ＰＢＬ・討議・グループワーク)
事前学習：小学校学習指導要領解説総則編Ｐ46～Ｐ75及び社会編Ｐ１～Ｐ16を熟読し、要点をノートに整理してくること。(2時間)
事後学習：総則編と社会編で社会科の基本の考え方に踏まえた活用の仕方のポイントをまとめておくこと。(2時間)

第６回：社会科の学力　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：社会科が子どもに身につけさせる学力とはどんな力か、自分の考えをまとめてくること。（２時間）
事後学習：グループワークで得た考え方を整理し、それぞれについて自己分析と自己評価をしてくること。（２時間）
第７回：社会科の授業　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：アクテイィブラーニングを踏まえた社会科授業の方法について考えをまとめてくること。（２時間）
事後学習：アクティブラーニングと課題解決型学習の授業の方法と注意点をまとめておくこと。（２時間）
第８回：社会科授業の課題と発問　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：課題解決型の学習の意義について考えをまとめてくること。（２時間）
事後学習：課題解決型の学習における課題設定の仕方ができるようにしてくること。（２時間）
第９回：社会科授業の展開　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：社会科の各学年の学習指導案に目を通し、学習指導案を作成できるようにすること。（２時間）
事後学習：社会科の学習指導案を決められた時間に書き上げることができるようにすること。（２時間）
第10回：実践事例の考察（１）単元計画指導計画　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：単元を取り上げ、実際に単元指導計画を事前に書き上げてくること。（２時間）
事後学習：学習指導案のモデルを参考に学習指導計画案を書き上げること。（２時間）
第11回：実践事例の考察（２）学習指導案　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：小学校学習指導要領解説社会編Ｐ31～Ｐ47を参照し、本時の学習指導案を書いてくること。（２時間）
事後学習：３年を対象とした本時の学習指導案を書き上げること。（２時間）
第12回：実践事例の考察（３）地域学習　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：小学校学習指導要領解説社会編Ｐ48～Ｐ69を参照し、本時の学習指導案を書いてくること。（２時間）
事後学習：導入での学習課題の設定を工夫し、４年を対象とした本時の学習指導案を書き上げること。（２時間）
第13回：実践事例の考察（４）歴史学習　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：小学校学習指導要領解説社会編Ｐ70～Ｐ96を参照し、本時の学習指導案を書いてくること。（２時間）
事後学習：展開部分の学習活動を工夫し、５年を対象とした本時の学習指導案を書き上げること。（２時間）
第14回：実践事例の考察（５）公民学習　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：小学校学習指導要領解説社会編Ｐ97～Ｐ134を参照し、本時の学習指導案を書いてくること。（２時間）
事後学習：指導上の留意点を工夫し、６年を対象とした本時の学習指導案を書き上げること。（２時間）
第15回：まとめ　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：社会科の反省と今後の使命と責任について考えをまとめてくること。（２時間
事後学習：今後の社会科の使命と社会科授業の構えをまとめること。（２時間）

成　績　評　価　方　法

レポート（70％）　平常点（30％）
平常点は、学習態度、ワークシート、ノート等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

社会科の教科としての特質を知り、各学年の発達段階に応じた社会科の基礎・基本を理解しているか。
時代の要請に対応できる社会科について理解を深めているか。

テキスト、参考図書

「小学校学習指導要領 総則」文部科学省、東洋館出版社、平成29年７月
「小学校学習指導要領 社会編」文部科学省、東洋館出版社、平成29年７月
適宜プリントを配付する。

その他（受講上の注意）

私語・無気力厳禁。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

算数 (Arithmetic)			担当教員	伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2205	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・算数

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（選択）

授業の内容

小学校段階では、数学的活動を通して、知識及び技能として習得する具体的な内容は、日常生活に深く関わり、日常生活の場面を数理化して捉える内容が多い。そのため、講義の素材は身近なところから求め、その問題解決の過程において、あらかじめ自己の考えをもって主体的に取り組めるようにし、よりよい解法に洗練させていくための意見の交流や議論など対話的な学びを適宜取り入れて、深い学びを実現する方向で講義を展開し、学生自身の数学的に考える資質・能力の育成と、数学的活動の楽しさを実感し、生涯にわたって学び続ける力の育成を目指す。

授業の到達目標

子どもたちの数学的に考える資質・能力を育むためには、教師自身が数学的に考える資質・能力を有している必要がある。そのため、初等数学を高い立場（背景となる学問領域）から見直し、小学校算数に関する教師の専門性を涵養することを目的とする。

1．日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察し、数量や図形の性質などを見いだし、統合的・発展的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
2．数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度や講義で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他（

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：数学的活動について　トイレットペーパーを通して日常の事象を数理的に捉える。（実験）
　事前学習：参考書『解説　算数編』第2章第2節2〔数学的活動〕を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：トイレットペーパーの巻き数の実験から「日常の事象から見いだした問題を解決する活動」について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第2回：音楽と数学　音楽と数学の意外なつながりに気付く。（実技）
　事前学習：第6学年の比について教科書や『解説　算数編』で調べ、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：比をもとに作成した紙笛の演奏実技をもとに「等しい比をつくる」ことのよさについて、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第3回：数あてマジックカードで遊ぶ　2進法の数学的モデル化を考える。（グループワークと実技）
　事前学習：十進位取り記数法について教科書や『解説　算数編』で調べ、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：マジックの実技とそのトリック解明のグループワークをもとに「シャッフルカード」を作成しその感想と合わせて、リフレクションシートにまとめる。（2時間）

第４回：数あてマジックカードの発展　２進法をもとに発展的に考察し、n進法へ統合する。（グループワークと討議）
事前学習：２進法以外にも記数法が存在するか考えて、考察した要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：３進法マジックが可能かのグループワーク及びその討議をもとに７進法を活用したサイコロマジックと回転グリルの暗号を作成しその感想と合わせて、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第５回：数あてマジックのさらなる発展　数学のよさと数学の社会的有用性に気付く。（実技）
事前学習：２進法⇔10進法の変換について調べ、その要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：誤り訂正符号マジックの実技をもとに１～31を当てる誤り訂正カードを作成し、感想も合わせリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第６回：モビールを作る　つり合うことの日常事象を数理的に捉え、定式化する。（実験、実技）
事前学習：「てこの原理」について調べ、その要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：「てこの原理」の実験から重心の求め方を定式化し、７やF等の文字の実技を通して確認し、「６」の文字のモビールを作成し、その感想も合わせてリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第７回：三角形を含んだモビールを作る　問題を特殊化し発展させる。（実験、実技）
事前学習：三角形の重心について調べ、その要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：三角形の重心の位置を実験で確認し、三角形を含む直線図形のモビール作成の実技を通して考察したことをフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：算数・数学教育の目標　数学的活動と３つの目標について整理する。
事前学習：参考書『解説　算数編』第２章第１節と各学年の目標を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに算数・数学教育の３つの目標と情意的学力について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：魔方陣と奇数法陣への発展　数の性質（魔方陣構成法）を見いだし、一般化する。
事前学習：３次の魔方陣について事前に解いて、解とそれに至るプロセスについて、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義で紹介した奇数方陣の構成法で、講義と違う魔方陣を作成し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：偶数方陣はどうなるの？　ラテン方陣へ統合・発展させる。
事前学習：４次の魔方陣について一つ調べ、その解に現れる性質について、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義で紹介した４次の魔方陣の性質をもとに、公務員試験等に現れる魔方陣を解いて、その解とそれに至るプロセスについて、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：四角形をしきつめる　図形の性質を見いだし、その根拠を数学的に表現する。（実技）
事前学習：参考書『解説　算数編』第３章の各学年の図形の内容の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：様々な四角形のしきつめの実技から根拠となる性質について整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：エッシャー絵に挑戦　学んだことを活用する。（グループワーク）
事前学習：くり返しのエッシャー絵についてどんな性質がもとになっているのか考え、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：エッシャー絵のグループワークによる合同変換の特定と作品のアイデアを考え、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：折り紙で正多面体を作る　図形の性質を見いだし、数学的に簡潔・明瞭・的確に表現する。（グループワークと実技）
事前学習：折り紙から正三角形を、作り出す方法について考え、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：正多面体作成の実技とグループワークによる５種類しかないことの簡単な証明について、その活動のプロセスをリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：ユニット折り紙で正多面体を作る①　正多面体に成り立つ性質を見いだす。（グループワークと実技）
事前学習：正三角形、正四角形の各ユニットについて必要枚数を事前に作成しておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに、オイラーの多面体定理等について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第15回：ユニット折り紙で正多面体を作る②　尖角を定式化し、それを統合的・発展的に考える。（グループワークと討議）
事前学習：正四角形、正五角形の各ユニットについて必要枚数を事前に作成しておくこと。（２時間）
事後学習：グループによる討議をもとにとがり具合を定式化し、デカルトの定理を帰納的に発見するプロセスを、リフレクションシートにまとめる。（２時間）

成　績　評　価　方　法

毎回のＡ４表裏１枚のリフレクション・レポート（２％×15回）、講義内容を活用したパフォーマンス課題（10％×３回）、テキストの読書レポートと講義終了後の最終レポート（20％×２回）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察し、数量や図形の性質などを見いだし、統合的・発展的に考察することができたか。また、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりすることができたか。
・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたか。また、講義で学んだことを生活や学習に活用しようとしたか。

テキスト、参考図書

テキスト：小寺隆幸編著『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育　コンテンツとコンピテンシーを見すえて』ミネルヴァ書房、2018年
自作のワークシート
参考書・参考資料等：文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』東洋館出版、2018年
黒木哲徳『入門算数学〔第３版〕』日本評論社、2017年

その他（受講上の注意）

ワークシートの保存用のファイルを準備すること。また、毎回作業を多く取り入れるので、ハサミ、定規、スティックのりを常に携帯すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

理科 (Science)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2254	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・理科

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

小学校理科で扱う内容を理解し、次の6項目の目標を達成するためにどのような授業を行ったら良いかを考える。①自然に親しむこと。②見通しをもって観察、実験などを行うこと。③問題解決の能力を育てること。④自然を愛する心情を育てること。⑤自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図ること。⑥科学的な見方や考え方を養うこと。

授業の到達目標

小学校理科の教育内容をよく理解し、授業の目的、目標に応じて、適切な教材を開発することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：学習指導要領の特色とその背景・子どもの学びの実体と理科を学ぶ力
　事前学習：学習指導要領を読む（2時間）。
　事後学習：学習指導要領について振り返り、具体的な学習内容と関連づける（2時間）。
第2回：理科の見方・考え方
　事前学習：理科の見方・考え方について調べてまとめる（2時間）。
　事後学習：理科の見方・考え方とは何かについてレポートをまとめる（2時間）。
第3回：理科の授業におけるICTの活用方法や各種教材教具の使い方
　事前学習：理科の授業に有効な方法を考える（2時間）。
　事後学習：どのような場面で、何を使用すれば、より効果的なのかを整理する（2時間）。
第4回：3年生理科のポイント（比較しながら調べる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
　事前学習：3年生理科の学習内容を把握する（2時間）。
　事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（2時間）。
第5回：3年生理科（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「比較しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
　事前学習：3年生理科の学習内容を把握する（2時間）。
　事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（2時間）。
第6回：4年生理科のポイント（働きや時間などと関係付けながらしらべる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
　事前学習：4年生理科の学習内容を把握する（2時間）。
　事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（2時間）。
第7回：4年生理科①（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
　事前学習：4年生理科の学習内容を把握する（2時間）。
　事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（2時間）。

第８回：４年生理科②（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：４年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第９回：５年生理科のポイント（変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：５年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第10回：５年生理科①（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：５年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第11回：５年生理科②（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：５年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第12回：６年生理科のポイント（要因や規則性，関係を推論しながら調べる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：６年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第13回：６年生理科①（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「要因や規則性，関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：６年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第14回：６年生理科②（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「要因や規則性，関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：６年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第15回：指導と評価の一体化：評価に基づいて指導に生かすための基礎的理解
事前学習：評価の観点と評価方法を確認する（２時間）。
事後学習：それぞれの評価が適正に行われるための指導方法について振り返る（２時間）。
定期試験は実施しない。
小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。

成　績　評　価　方　法

レポート（50%），提出物（30%），授業の取り組み（20%）

成　績　評　価　基　準

（１）小学校理科の授業内容を理解している。
（２）学習内容の目標に応じて、適切な指導方法を指摘することができる。

テキスト、参考図書

（１）小学校理科教科書
（２）文部科学省著「小学校学習指導要領解説　理科編」東洋館出版社　平成29年７月

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活 (Life Studies)			担当教員	筧　みち子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2255	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・生活

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）、幼稚園教諭一種免許状（選択）

授業の内容

「小学校学習指導要領解説（生活編）」に基づき「生活科」の目標や内容、指導計画作成上の配慮事項について学ぶ。

授業の到達目標

生活科の教科目標・学年目標を説明できる。9つの内容が事例を挙げて説明できる。学習指導要領の目標及び内容を踏まえて、指導計画を綿密に作成することの必要性が理解できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：「生活科学習指導要領」の変遷と生活科の目標について
　事前学習：授業前にテキストに目を通し生活科の概要を把握しておくこと。（2時間）
　事後学習：生活科改訂の趣旨及び要点をレポートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：生活科の教科目標、各学年の目標について
　事前学習：テキストの教科目標の構成と趣旨を項目を挙げてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：学年の目標と9つの内容とのつながりをまとめておくこと。（2時間）
第3回：生活科の内容（1）学校の施設の様子及び先生や安全を守っている人々（実習：学内探検）
　事前学習：生活科の内容（1）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：生活科の内容（1）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（2時間）
第4回：生活科の内容（2）家庭生活を支えている家族のことや自分の役割（発表）
　事前学習：生活科の内容（2）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。家庭生活の中での自分の役割をまとめておき、発表できるようにしておくこと。（2時間）
　事後学習：生活科の内容（2）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（2時間）
第5回：生活科の内容（3）地域で生活したり働いたりしている人々（グループワーク）
　事前学習：生活科の内容（3）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：生活科の内容（3）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（2時間）
第6回：生活科の内容（4）公共物や公共施設を利用し、身の周りのみんなで使う物やそれを支えている人々
　事前学習：生活科の内容（4）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：生活科の内容（4）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（2時間）

第７回：生活科の内容（５）身近な自然の観察や季節や地域の行事（フィールドワーク：自然観察）
事前学習：生活科の内容（５）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。身近な自然を観察カードに記録しておくこと。（２時間）
事後学習：生活科の内容（５）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第８回：生活科の内容（６）身近な自然や物を利用し、遊びや遊びに使う物を工夫して制作（実習：遊びに使う物づくり）
事前学習：生活科の内容（６）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。身近な自然や物を利用し、遊びや遊びに使う物を制作するための材料を集めておくこと。（２時間）
事後学習：生活科の内容（６）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第９回：生活科の内容（７）動植物を飼ったり育てたりし、生きものや命の大切さを実感（ディスカッション）
事前学習：生活科の内容（７）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。生きものや命の大切さについてディスカッションするための自分の意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：生活科の内容（７）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：生活科の内容（８）自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え会う活動を通して交流（グループワーク）
事前学習：生活科の内容（８）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。（２時間）
事後学習：生活科の内容（８）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第11回：生活科の内容（９）自分自身の成長を振返り、多くの人々の支えに対する感謝の気持ち　発表（プレゼンテーション）
事前学習：生活科の内容（９）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。自分自身の成長を振返り、成長が実感できるものを準備し発表できるようにしておくこと。（２時間）
事後学習：生活科の内容（９）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第12回：生活科の指導計画作成上の配慮事項（１）（２）（３）
事前学習：テキストの生活科の指導計画作成上の配慮事項（１）（２）（３）を熟読し各項目ごとに要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの生活科の指導計画作成上の配慮事項（１）の具体例を挙げてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：生活科の指導計画作成上の配慮事項（４））（５）（６）
事前学習：テキストの生活科の指導計画作成上の配慮事項（４）（５）（６）を熟読し各項目ごとに要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：スタートカリキュラムとして、大単元「がっこうだいすき　なかよしいっぱい」の指導計画を作成すること。（２時間）
第14回：生活科の内容取り扱いについての配慮事項
事前学習：テキストの生活科の内容取り扱いの配慮事項（１）～（６）を熟読し各項目ごとに要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：生活科における気づきの質を高める学習活動を具体例を挙げてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方
事前学習：テキストの生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方を熟読し要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：生活科の学習指導の特質を４項目にまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

毎回授業終了の５分間感想レポート（30%）平常点（20%）定期試験（50%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

生活科の教科目標・学年目標を説明できたか。９つの内容が事例を挙げて説明できたか。指導計画作成上の配慮事項等が理解できたか。

テキスト、参考図書
（1）「小学校学習指導要領解説（生活編）」文部科学省 東洋館出版社 平成30年 2 月 （2）「生活科教科書」東京書籍 ①「新編あたらしいせいかつ（上）」加藤明、濱田純、吉田豊香 他著 東京書籍 平成29年 ②「新編新しい生活（下）」加藤明、濱田純、吉田豊香 他著 東京書籍 平成29年
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

体育Ⅰ （Physical Education Ⅰ）			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2208	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・体育

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）、幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

実技指導を通して乳幼児期からの運動遊びの内容と指導方法を学習する。
幼児の運動に関する理論的裏付けとなる専門的知識を学習する。

授業の到達目標

運動遊びを中心とした体育の基礎技能を習得する。
幼児が興味を示し、自ら運動遊びに取り組めるような環境構成についての知識を習得する。
教材・教具についての理解を深め、その扱い方について習熟して幼児の活動に即した援助力を習得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：幼児の運動遊びの意義・分類
　事前学習：幼児の運動遊びの意義や分類について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第2回：ボール遊び
　事前学習：ボール遊びについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第3回：集団遊び、鬼遊び
　事前学習：集団遊び、鬼遊びについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第4回：マット遊び、鉄棒遊び
　事前学習：マット遊び、鉄棒遊びについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第5回：平均台、跳び箱遊び
　事前学習：平均台、跳び箱遊びについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第6回：フープ遊び、縄遊び
　事前学習：フープ遊び、縄遊びについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第7回：伝承遊び
　事前学習：伝承遊びについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第8回：運動能力の測定
　事前学習：運動能力の測定について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）

第９回：運動能力の評価
　　事前学習：運動能力の評価について調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第10回：運動能力測定の統計処理
　　事前学習：運動能力測定の統計処理について調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第11回：集団遊び、鬼遊びの指導案作成
　　事前学習：集団遊び、鬼遊びの指導案作成の準備をしておくこと。（２時間）
　　事後学習：発表に向け、指導案を作成する。（２時間）
第12回：集団遊び、鬼遊び指導の実際：第１グループの発表
　　事前学習：発表に向けた準備をする。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第13回：集団遊び、鬼遊び指導の実際：第２グループの発表
　　事前学習：発表に向けた準備をする。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第14回：集団遊び、鬼遊び指導の実際：第３グループの発表
　　事前学習：発表に向けた準備をする。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第15回：幼児の運動能力の発達
　　事前学習：幼児の運動能力の発達について調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）

普段から遊びや運動について関心を持ち調べておく。
授業で実践した運動あそびや講義の内容について復習する。

成　績　評　価　方　法

実技試験（60％）、レポート（40％）

成　績　評　価　基　準

運動遊びを中心とした体育の基礎技能を習得できているか。
幼児が興味を示し、自ら運動遊びに取り組めるような環境構成について理解できているか。
教材・教具について理解を深め、その扱い方について習熟し幼児の活動に即した援助力が習得できているか。

テキスト、参考図書

参考図書：出村慎一監修 「幼児のからだとこころを育てる運動遊び」 杏林書院　2012年

その他（受講上の注意）

体調を整え、運動に適した服装、靴で出席して下さい。遅刻、欠席、および早退は減点の対象とします。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

体育Ⅱ （Physical EducationⅡ）			担当教員	野田　政弘、乾　　典子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2258	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・体育

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）、幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（選択）

授業の内容

幼児および児童の豊かな人間性を育むためには、心身の発育発達段階に即した適切な運動の経験と健康・安全についての理解が必要である。「器械運動」や「表現運動」の運動課題をとおしてその特性に応じた知識および技能を身につける。

授業の到達目標

「器械運動」や「表現運動」の運動課題の特性を理解し、実践できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：固定施設を使っての運動遊びの紹介（グループワーク）野田
　事前学習：固定施設を使った運動遊びの事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で紹介された運動遊びについてレポートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：器械・器具を使っての運動遊びの紹介（グループワーク）　野田
　事前学習：器械・器具を使った運動遊びの事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で紹介された運動遊びについてレポートにまとめておくこと。（2時間）
第3回：器械運動（1）マット運動①（実技）　野田
　事前学習：マット運動の事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第4回：器械運動（2）マット運動②（実技）野田
　事前学習：マット運動の事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第5回：器械運動（3）跳び箱運動①　（実技）野田
　事前学習：跳び箱運動の事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第6回：器械運動（4）跳び箱運動②（実技）野田
　事前学習：跳び箱運動の事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第7回：器械運動（5）鉄棒運動①（実技）野田
　事前学習：鉄棒運動の事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第8回：器械運動（6）鉄棒運動②（実技）野田
　事前学習：鉄棒運動の事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）

第９回：表現運動（１）リズム体験（乾）
　　事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく（0.5時間）
　　事後学習：動かした体のクールダウンのため、習った柔軟体操をしておく（0.5時間）
第10回：表現運動（２）リズムダンス（乾）
　　事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく（0.5時間）
　　事後学習：学習したリズムダンスを復習しておく（0.5時間）
第11回：表現運動（３）リズムダンスの指導法と創作方法（乾）
　　事前学習：学習したリズムダンスを実施しておく（0.5時間）
　　事後学習：習ったリズムダンスを復習しておく（0.5時間）
第12回：表現運動（４）ヒップホップダンスの体験（乾）
　　事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく（0.5時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、習ったヒップホップダンスを復習しておく（0.5時間）
第13回：表現運動（５）ヒップホップダンスの体験（乾）
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、習ったヒップホップダンスを復習しておく（0.5時間）
第14回：表現運動（６）ヒップホップダンスのグループ活動（乾）
　　事前学習：ダンスの動画を見て、フォーメーションの例題を探る（0.5時間）
　　事後学習：グループワークでの内容を確認する（0.5時間）
第15回：表現運動（７）ヒップホップダンスの発表（乾）
　　事前学習：グループにてヒップホップダンスの復習をしておく（0.5時間）
　　事後学習：ダンスのグループ発表動画を見て自己評価する（0.5時間）

成　績　評　価　方　法

レポート（40％）、実技試験（40％）、平常点（20％）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

「器械運動」や「表現運動」の運動課題の特性を理解し、実践できている。

テキスト、参考図書

文部科学省「小学校学習指導要領解説（体育編）」 東洋館出版社　平成29年７月

その他（受講上の注意）

演習形式の授業であるので積極的に参加し、主体性をもって積極的に参加すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

算数科教育法 (Teaching Method s of Arithmetic)			担当教員	伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2207	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学習指導要領に示された算数科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業の到達目標

算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：算数・数学教育の現状と課題(グループワークと討議)
　事前学習：テキスト『入門算数学』の第7章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：グループワークと討議を通して確認したわが国の算数・数学教育の現状と課題について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第2回：算数科の目標について ── 資質・能力の育成と主体的・対話的で深い学び
　事前学習：参考書『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育』の序章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：講義をもとに資質・能力とアクティブ・ラーニングについて、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第3回：数と計算(1)入門期の算数と子供の認知発達(グループワークと討議)
　事前学習：テキスト『入門算数学』の第1章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：グループワークと討議を通して確認した入門期の算数について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第4回：数と計算(2)子供たちの学力状況と整数の乗除(グループワークと討議)
　事前学習：テキスト『入門算数学』の第2章を読み、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：グループワークと討議を通して確認した主に整数の乗除とその意味に関する現状について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第5回：数と計算(3)子供たちのつまずきと小数・分数(グループワークと討議)
　事前学習：テキスト『入門算数学』の第3章第1・2節及び第8節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：グループワークと討議を通して確認した小数・分数の意味とつまずきについて、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第6回：学習指導案の作成と授業における教師の指導言(発問・指示・説明・評価)(グループワーク)
　事前学習：授業における教師の指導言について分類・整理し、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：グループワークをもとに整理した教師の指導言について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第７回：模擬授業の実施と学習評価（グループワークと発表）
事前学習：数と計算領域における指導案をグループで作成する。（２時間）
事後学習：各グループの模擬授業に関する省察（学習評価を含む）の発表を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：図形（１）情報機器の利用と平面図形の性質（面積や角の大きさ含む）（実習）
事前学習：デジタル教科書の活用実践事例を調べ、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：デジタル教科書等の実習を通して考えたその利点と課題について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：図形（２）教具の効果的利用と立体図形（実技）
事前学習：小学校の被教育体験のうち教具を利用した授業について、その意義の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：実技をもとに数学的モデルとしての教具についての意義について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：測定　長さ、かさ、重さなどの外延量の４段階指導とその具体化（グループワーク）
事前学習：テキスト『入門算数学』の第３章第６節第７節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：グループワークを通して学んだ外延量について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：模擬授業の実施と学習指導の創意・工夫（板書やノート指導など）（グループワークと発表）
事前学習：図形または外延量に関する指導案をグループで作成する。（２時間）
事後学習：各グループの模擬授業に関してその創意・工夫を中心とした省察の発表を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：変化と関係（１）速さなどの内包量と比例（実験）
事前学習：テキスト『入門算数学』の第６章第３節第４節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：大根と人参の浮き沈みの実験を通して考えた内包量（混み具合等）について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：変化と関係（２）及びデータの活用　割合とデータの分類整理・棒グラフの活用（実技）
事前学習：テキスト『入門算数学』の第６章第５節第６節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：割合測定器の実技をもとに割合の意味等について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：模擬授業の実施とパフォーマンス課題（グループワークと発表）
事前学習：変化と関係または割合等に関するパフォーマンス課題を含んだ指導案をグループで作成する。（２時間）
事後学習：各グループの模擬授業に関する省察（主にパフォーマンス課題）の発表を、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第15回：真正の学習とこれからの算数教育
事前学習：参考書『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育』の第７章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに学力の質とパフォーマンス課題等真正の学習について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）

成　績　評　価　方　法

毎回のＡ４表裏１枚のリフレクション・レポート（30％）、模擬授業のリフレクションレポート（15％×３回）、講義終了後の最終レポート（25％）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・算数科における教育目標、育成すべき資質・能力を理解できたか。
・学習指導要領に示された各領域の内容を背景となる学問領域と関連させて理解できたか。
・様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：黒木哲徳『入門算数学［第３版］』日本評論社、2017年
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』東洋館出版、2018年
参考書・参考資料等：小寺隆幸編著『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育　コンテンツとコンピテンシーを見すえて』ミネルヴァ書房、2018年

その他（受講上の注意）

小学校学習指導要領（平成29年３月）の総則と第２章第３節「算数」及び同解説の「算数」は、講義に関連する項目の事前・事後に必ず読むこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

理科教育法 (Teaching Method s of Science)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2257	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

小学校理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業の到達目標

学習指導要領に示された小学校理科の目標や内容を理解する。また，基礎的な学習理論を理解し，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：学習指導要領の特色とその背景・子どもの学びの実体と理科を学ぶ力
　事前学習：学習指導要領を読む(2時間)。
　事後学習：学習指導要領について振り返り、具体的な学習内容と関連づける(2時間)。
第2回：学習指導案の書き方、評価の方法(ルーブリックの作成)
　事前学習：学習指導案の書き方やルーブリックによる評価について予習する(2時間)。
　事後学習：学習指導案の書き方のポイントや評価規準、評価基準などについて整理する(2時間)。
第3回：指導技術：ICTの活用、板書の方法、各種教材教具の使い方
　事前学習：ICTの活用などの有効な指導について調べる(2時間)。
　事後学習：具体的な指導例を調べる(2時間)。
第4回：3年生理科のポイント(比較しながら調べる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技)
　事前学習：3年生理科の概要を調べる(2時間)。
　事後学習：3年生理科で用いる実験器具について復習する(2時間)。
第5回：模擬授業3年生理科(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「比較しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技)
　事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2時間)。
　事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する2時間)。
第6回：4年生理科のポイント(働きや時間などと関係付けながらしらべる能力)・実験器具の取扱い(・グループワーク、・発表、・実験、実技)
　事前学習：4年生理科の概要を調べる(2時間)。
　事後学習：4年生理科で用いる実験器具について復習する(2時間)。
第7回：模擬授業4年生理科①(授業準備、後始末、振り返り、授業評価)を通して、「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める(・グループワーク、・発表、・実験、実技)
　事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる(2時間)。
　事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する2時間)。

第８回：模擬授業４年生理科②（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（２時間）。
事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する２時間）。
第９回：５年生理科のポイント（変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：５年生理科の概要を調べる（２時間）。
事後学習：５年生理科で用いる実験器具について復習する（２時間）。
第10回：模擬授業５年生理科①（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（２時間）。
事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する２時間）。
第11回：模擬授業５年生理科②（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（２時間）。
事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する２時間）。
第12回：６年生理科のポイント（要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：６年生理科の概要を調べる（２時間）。
事後学習：６年生理科で用いる実験器具について復習する（２時間）。
第13回：模擬授業６年生理科①（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（２時間）。
事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する２時間）。
第14回：模擬授業６年生理科②（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（２時間）。
事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する２時間）。
第15回：指導と評価の一体化：評価に基づいて指導に生かすための基礎的理解
事前学習：評価の観点と評価方法を確認する（２時間）。
事後学習：それぞれの評価が適正に行われるための指導方法について振り返る（２時間）。
小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。

成　績　評　価　方　法

レポート（50%），　提出物（40%），　平常点（10%）

成　績　評　価　基　準

（１）小学校理科の授業内容を理解している。
（２）学習内容の目標に応じて、適切な学習指導ができる。

テキスト、参考図書

（１）小学校理科教科書
（２）文部科学省著「小学校学習指導要領解説　理科編」東洋館出版社　平成29年７月

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽表現Ⅰ (Music Expression Ⅰ)			担当教員	桂屋　京子、飯田　由美、太田　佳代、 福田安希子、野村加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2209	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

保育園・幼稚園・小学校の現場で用いられる歌唱教材を使って、「歌唱表現の在り方」と「ピアノ伴奏法」の両方を総合的に融合した弾き語りの演習を通して、音楽表現の研究を進める。

授業の到達目標

歌唱教材の中の言葉や歌の内容の適切な分析と把握をして表現することができる。また、ピアノ伴奏において効果的な音色と和声感を身に付けて表現することができる。

アクティブ・ラーニング

□ 課題解決型学修(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■ 発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技)
　事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。(0.5時間)
第2回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技)
　事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。(0.5時間)
第3回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技)
　事前学習：第1回、第2回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。(0.5時間)
第4回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技)
　事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。(0.5時間)
　事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。(0.5時間)
第5回：公開演奏［第1回～第4回までの曲を対象とした“弾き語り”］(発表)
　事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。(0.5時間)
第6回：保育園・幼稚園/動物のうた(実技)
　事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。(0.5時間)
第7回：保育園・幼稚園/動物のうた(実技)
　事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。(0.5時間)

第８回：保育園・幼稚園/動物のうた（実技）
事前学習：第６回、第７回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間）
第９回：保育園・幼稚園/動物のうた（実技）
事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間）
第10回：公開演奏［第６回～第９回までの曲を対象とした“弾き語り”］（発表）
事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）
第11回：小学校の歌（実技）
事前学習：指定された歌の中から２～３曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。（0.5時間）
第12回：小学校の歌（実技）
事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。（0.5時間）
第13回：小学校の歌（実技）
事前学習：第11回、第12回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間）
第14回：小学校の歌（実技）
事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間）
第15回：公開演奏［第11回～第14回までの曲を対象とした“弾き語り”］（発表）
事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）

成績評価方法

定期試験（80%）：３回行う公開演奏を試験とする。 平常点（20%）平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

正しい音程とリズムに基づき、豊かな歌唱表現、伴奏表現ができるか。

テキスト、参考図書

「ポケットいっぱいのうた」実践子どものうた　簡単に弾ける144選（教育芸術社）
※上記テキストは、一部の曲を除いて簡易伴奏譜なので、能力によっては、その都度、本格伴奏譜も使用する。

その他（受講上の注意）

テキスト等、譜面なしでは受講できない。音楽力は日々の修練の成果として身に付くことから、事前・事後学修の他に継続的な学修が望ましい。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽表現Ⅱ (Music Expression Ⅱ)			担当教員	桂屋　京子、飯田　由美、太田　佳代、 福田安希子、野村加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2209	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

「音楽表現Ⅰ」に引き続き、題材としての楽曲を更に多彩に拡げ、より豊かな音楽表現を深める。

授業の到達目標

歌唱教材の中の言葉や歌の内容の適切な分析と把握をして表現することができる。また、ピアノ伴奏において効果的な音色と和声感を身に付けて表現することができる。

アクティブ・ラーニング

□ 課題解決型学修(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■ 発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技)
　事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。(0.5時間)
第2回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技)
　事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。(0.5時間)
第3回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技)
　事前学習：第1回、第2回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。(0.5時間)
第4回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた(実技)
　事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。(0.5時間)
　事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。(0.5時間)
第5回：公開演奏［第1回～第4回までの曲を対象とした“弾き語り”］(発表)
　事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。(0.5時間)
第6回：保育園・幼稚園/楽しいうた(実技)
　事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。(0.5時間)
第7回：保育園・幼稚園/楽しいうた(実技)
　事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。(0.5時間)

第８回：保育園・幼稚園/楽しいうた（実技）
事前学習：第６回、第７回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間）
第９回：保育園・幼稚園/楽しいうた（実技）
事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間）
第10回：公開演奏［第６回～第９回までの曲を対象とした“弾き語り”］（発表）
事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）
第11回：文科省唱歌（実技）
事前学習：指定された歌の中から２～３曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。（0.5時間）
第12回：文科省唱歌（実技）
事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。（0.5時間）
第13回：文科省唱歌（実技）
事前学習：第11回、第12回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間）
第14回：文科省唱歌（実技）
事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間）
第15回：公開演奏［第11回～第14回までの曲を対象とした“弾き語り”］（発表）
事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）：３回行う公開演奏を試験とする。 平常点（20%）平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

正しい音程とリズムに基づき、豊かな歌唱表現、伴奏表現ができるか。

テキスト、参考図書

「ポケットいっぱいのうた」実践子どものうた　簡単に弾ける144選（教育芸術社）
※上記テキストは、一部の曲を除いて簡易伴奏譜なので、能力によっては、その都度、本格伴奏譜も使用する。

その他（受講上の注意）

テキスト等、譜面なしでは受講できない。音楽力は日々の修練の成果として身に付くことから、事前・事後学修の他に継続的な学修が望ましい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

発達心理学Ⅱ (Developmental Psychology Ⅱ)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2210	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

「発達心理学Ⅰ」では主として発達心理学の関連理論や基礎的な専門知識を学ぶので、それを受けて、この発達心理学Ⅱでは現実の具体的な発達と保育の場面を数多く見ていく。
知的、情意的、社会的な発達の具体的な道筋を知り、理論的な確認を行う。

授業の到達目標

・知的な発達の場面について、発達心理学Ⅰで学んだ説明理論が妥当であるかどうかが確認できる。
・情意的な発達の場面について、発達心理学Ⅰで学んだ説明理論が妥当であるかどうかが確認できる。
・社会的行動の発達の場面について、発達心理学Ⅰで学んだ説明理論が妥当であるかどうかが確認できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：保育における子どもの理解と意義と養護及び教育の一体的展開。
　　事後学習：一問一答式のワークシートの解答による発達心理学Ⅰの復習(4時間)
第2回：子どもに対する共感的理解と子どもに対する関わり。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(2時間)
　　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(2時間)
第3回：子どもの生活や遊びの理解。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(2時間)
　　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(2時間)
第4回：保育の人的環境としての保育者と子どもの発達。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間)
　　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(1時間)
第5回：子ども相互の関わりと関係づくり。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間)
　　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(1時間)
第6回：集団における経験、葛藤やつまずきと育ち。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間)
　　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(1時間)
第7回：保育環境の意図的な構成と変化・移行。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間)
　　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること(1時間)
第8回：ここまでのまとめ及び今日的諸問題。グループワークでこれまでの疑問点の集約と意見交換のまとめを発表する。
　　(ディスカッション・グループワーク・発表)
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ(3時間)
　　事後学習：授業内容のまとめること(1時間)

第９回：子どもを理解する方法～観察と記録～。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
　　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること（１時間）
第10回：子どもを理解する方法～省察・評価から観察へ。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
　　事後学習：次回の亭移出用小レポートとし、授業内容のまとめること（１時間）
第11回：職員との情報共有と保育者への情報共有。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
　　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること（１時間）
第12回：発達の課題に応じた援助と関わり。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
　　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること（１時間）
第13回：独別な配慮を要する子どもの理解と援助。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
　　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること（１時間）
第14回：発達の連続性と就学への支援。
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
　　事後学習：次回の提出用小レポートとし、授業内容のまとめること（１時間）
第15回：ここまでのまとめ及び今日的課題。グループワークでこれまでの疑問点の集約と意見交換のまとめを発表する。
　　（ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
　　事後学習：授業内容のまとめること（１時間）

成　績　評　価　方　法

提出する小レポートの数とその内容の適切さで100パーセント

成　績　評　価　基　準

知的、情意的、社会的場面の具体的な諸相について、発達心理学Ⅰなどで学修した関連理論が当てはまっていることを指摘することが出来る。また、当てはまっていないケースがあることを例示することができる。

テキスト、参考図書

使用しない。授業担当講師の作成したワークシートを準備した資料に従って進める。参考書はテーマごとにその都度紹介するが、授業全体を通じての参考書を以下に挙げておく。小田豊（監）『保育の心理学Ⅱ』（光生館、2012年）、清水益治・無藤隆（編）『保育の心理学Ⅱ』（北大路書房、2011年）。

その他（受講上の注意）

主に視聴覚教材を使い、それに基づいた意見交換を行うことがあるので、遅刻しないこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもの保健Ｉb (Children's Health Ｉ b)			担当教員	岸　慎治
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2211	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

保育実践に係る児童の疾病の特徴とその予防および事故防止と安全・衛生管理、子供の心と健康について教授する

授業の到達目標

児童の疾病とその予防および事故防止と安全・衛生管理、子供の心と健康、保育現場における事故、安全対策、母子保健対策を含む児童の健康および安全の実施体制について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：主な疾患の特徴①　(新生児、先天性の病気)
事前学習：授業前にテキスト第14講を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第2回：主な疾患の特徴②　(循環器、血液、呼吸器)
事前学習：授業前にテキスト第15講を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第3回：主な疾患の特徴③　(アレルギー、免疫)
事前学習：授業前にテキスト第16講を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第4回：主な疾患の特徴④　(腎疾患、脳神経疾患)
事前学習：授業前にテキスト第17講を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第5回：主な疾患の特徴⑤　(感染症)
事前学習：授業前にテキスト第18講を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第6回：子どもの疾病の予防と適切な対応
事前学習：授業前にテキスト第19講を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)

第７回：子どもの生活環境と精神保健
事前学習：授業前にテキスト第21講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第８回：子どものこころの健康とその課題①（発達障害）
事前学習：授業前にテキスト第22講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第９回：子どものこころの健康とその課題②（生活からみる子どもの課題　グループワークディスカッション）
事前学習：授業前にテキスト第22、23講を読み、生活からみる子どもの課題についてまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第10回：保育環境整備と保健、保育現場における衛生管理
事前学習：授業前にテキスト第24講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第11回：子どもの事故の現状と課題
事前学習：授業前にテキスト第25講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第12回：保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理
事前学習：授業前にテキスト第26講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第13回：応急処置・救命処置（グループワークディスカッション）
事前学習：授業前にテキスト第27講を読み、事故・けがに対する応急処置についてまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第14回：母子保健・職員間、地域との連携
事前学習：授業前にテキスト第28－30講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第15回：まとめ
事前学習：授業前に第１回から第14回までに配布された資料、問題を見直し、不明な点をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）　平常点（20%）　（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

児童の疾病とその予防および事故防止と安全・衛生管理、子供の心と健康、保育現場における事故と危機管理、児童の健康および安全の実施体制について説明できる。

テキスト、参考図書

基本保育シリーズ　子どもの保健Ⅰ　　中央法規出版　2016年
講義時にプリントを配布する。

その他（受講上の注意）

講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

子どもの保健Ⅱ (Children's HealthⅡ)			担当教員	日下　純子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2262	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

普段から保健的観点を踏まえた保育環境の整備や援助ができるように具体的な演習を行う。体調不良や感染症について理解を深め、個別的な対応を必要とする子どもや場面、集団にも対応できるようにする。保育における安全対策や事故を防止できるように健康教育の演習や保護者、自治体、その他関係機関との連携についても学習する。

授業の到達目標

保育の場において、子どもの健康と安全について関連するガイドラインを踏まえて、理解し、個や集団に対して具体的な対応ができるようにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他(　事例検討)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：保育環境及び衛生管理と援助　(発表)
　事前学習：テキストの第1章を熟読し、望ましい保育環境、衛生管理、援助についてノートにまとめる。(2時間)
　事後学習：授業やクラスメートの発表を聞いて学んだ内容をノートに補充する。(2時間)
第2回：子どもの健康と観察(実技)
　事前学習：テキストの2章を熟読し乳幼児の健康について理解を深めておく(2時間)
　事後学習：人形を使用して乳児の観察を行った結果から観察のポイントをノートにまとめる。(2時間)
第3回：子どもの保健に関する個と集団の対応
　事前学習：テキストの第3章を熟読し子どもの保健について理解を深めておく。(2時間)
　事後学習：子どもの保健に関して個と集団での対応の違いについて、授業を通して学んだことをまとめる。(2時間)
第4回：事故防止と安全対策　(発表)
　事前学習：テキストの第4章を熟読し事故の起こり方、対応、防止についてノートにまとめる。また、新聞等から子どもの事故についての資料を収集しておく。(2時間)
　事後学習：クラスメートの発表や教員の資料も補充して事故防止と安全対策についてノートにまとめる。(2時間)
第5回：災害への備えと危機管理　(グループワーク)
　事前学習：テキストの第4章を熟読し災害への備えと危機管理について理解を深めておく。(2時間)
　事後学習：事例を用いてグループワークを行った学習内容をノートにまとめる。(2時間)
第6回：体調不良や障害が発生した時の適切な対応　(グループワーク)
　事前学習：テキストの第6章を熟読し体調不良やけがについて自分の体験等についてもまとめる。(2時間)
　事後学習：自己、他者の体験をもとに、体調不良や傷害が起きた時の対応について理解を深め、落ち着いて対応ができるように、ノートにまとめる。(2時間)

第７回：応急処置、救急処置及び救急蘇生法
事前学習：テキストの第４章、５章を熟読し応急処置や救急蘇生ができるようにシュミレーションをしておく。（２時間）
事後学習：テキストや視聴覚教材で学んだ内容を整理して、緊急時の対応ができるように学習を深めておく。（２時間）
第８回：感染症の理解と予防
事前学習：テキストの第５章、６章を熟読し子どもの感染症についてノートにまとめる。（２時間）
事後学習：感染症の種類、原因の分類等、ノートにまとめ理解を深める。（２時間）
第９回：感染症発生時と罹患後の対応
事前学習：テキストの第６章を熟読し、感染症発生時のフローチャートを作成する。（２時間）
事後学習：感染症について広がった知識について、テキスト、講義をふり返り資料を整理して理解を深める。（２時間）
第10回：保育における保健的対応の基本的な考え方について
事前学習：テキストの第７章を熟読し、保育における保健的対応について考えをまとめる。（２時間）
事後学習：授業の復習を行い保健的対応の重要性について理解すること。（２時間）
第11回：３歳未満児への対応
事前学習：３歳未満児の健康、発育、発達を理解できるようにノートにまとめる。（２時間）
事後学習：３歳未満児の保健的対応について振り返り、補充する内容をノートに記載する。（２時間）
第12回：個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等）　（事例検討）
事前学習：個別駅な対応を必要とする慢性疾患やアレルギーについて文献やガイドラインにそって、まとめる。（２時間）
事後学習：授業を通して深まった学習内容を事前学習に追加する。（２時間）
第13回：健康及び安全の管理の実施体制について職員間の連携・協働
事前学習：テキストの第８章を熟読し、園の安全体制や職員間の連携・協働にについて理解する。（２時間）
事後学習：授業を通して学んだことをノートにまとめる。（２時間）
第14回：母子保健・地域保健における自治体との連携について
事前学習：テキストの第８章を熟読し母子保健、地域保健、自治体との連携について理解する。（２時間）
事後学習：自分の身近な地域での母子保健や地域保健、自治体についての機関を調べる。（２時間）
第15回：家庭、専門機関、地域の関係機関との連携について
事前学習：テキストの第８章を熟読し、専門機関、地域の関係機関について理解を深める。（２時間）
事後学習：各機関についての特徴や役割についてまとめ、理解する。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験　（50%）　、　平常点（50%）
平常点はグループワーク、発表、受講態度、ノートの記載内容等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

保育士として身につけておくべき社会的、職業的能力が習得できること。

テキスト、参考図書

テキスト：野原八千代 「子どもの健康と安全」 2019年　建帛社
参考図書等：保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版　厚生労働省）、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年３月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

事前・事後学習を必ず行うこと。専用のノートを用意し、まとめた内容について適宜、確認を行うので授業の際には必ず持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(人間関係) (Studies on Contents of Early Childhood Care and Education(Personal Relations))			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2202	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（必修）

授業の内容

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等を基に、「人間関係」を視点とした乳幼児期の発達の特徴、乳児保育の３つの視点、領域「人間関係」のねらい・内容について学ぶとともに、事例検討、指導案作成、模擬保育を通して、幼児理解や保育者としての関わり方など指導法について学びを深める。

授業の到達目標

・乳幼児期の「人とかかわる力」の発達について説明することができる。
・乳児保育の３つの視点、保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解する。
・乳幼児の「人とかかわる力」を育むための環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程の実際について理解し、考察を深めることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：乳児保育の３つの視点と領域「人間関係」の基本となる考え方
　事前学習：これまでの子どもと関わる経験から人間関係に関する関わりについて学びたいことをまとめておく（２時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらい・内容（２時間）
第２回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達の特性①愛着と信頼関係の形成
第３回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達の特性②情緒の安定
第４回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達の特性③自我の発達
第５回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達の特性④協同する経験
第６回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達の特性⑤道徳性と規範意識の芽生え
　第２回～第６回の事前学習：各回の授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく（10時間）
　第２回～第６回の事後学習：各回の授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる（10時間）
第７回：事例検討（１）グループワーク
　事前学習：教科書の事例を読み、グループワークのテーマのどれに該当するかをまとめておく（２時間）
　事後学習：グループワークで作成したレジュメを見直し、発表原稿を作成しておく（２時間）
第８回：事例検討（２）発表と討論①（信頼関係・仲間関係）
第９回：事例検討（３）発表と討論②（道徳性・規範意識）
第10回：事例検討（４）発表と討論③（情動発達）
　第８回～第10回の事前学習：各発表で使用される事例を読んで理解し、質問項目をまとめておく（６時間）
　第８回～第10回の事後学習：各グループの発表を参考に事例の解釈をまとめておく（６時間）

第11回：「人間関係」の発達と指導（１）指導案の作成について（情報機器及び教材の活用含む）
事前学習：これまで作成した指導案を見直し、指導案作成の要点をまとめておく（２時間）
事後学習：作成した指導案を元にグループで役割分担や手順・準備物の確認をしておく（２時間）
第12回：「人間関係」の発達と指導（２）模擬保育①（計画・実践・記録を中心に）
第13回：「人間関係」の発達と指導（３）模擬保育②（省察・評価・改善を中心に）
第12回・第13回の事前学習：模擬保育の細案を作成し、準備物を用意する（４時間）
第12回・第13回の事後学習：模擬保育を参考に配布された指導案を修正する（４時間）
第14回：「人間関係」における現代的課題と対応（１）特別な配慮を必要とする子ども
第15回：「人間関係」における現代的課題と対応（２）保護者の意識・子どもの気質
第14回・第15回の事前学習：各回の授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく（４時間）
第14回・第15回の事後学習：各回の授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる（４時間）
定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）　授業中の発表・討論の参加態度（30％）

成　績　評　価　基　準

・乳幼児期の「人とかかわる力」の発達について説明することができるか。
・保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解しているか。
・乳幼児の「人とかかわる力」を育くむ保育者の援助・環境構成について考察することができるか。

テキスト、参考図書

事例で学ぶ保育内容　領域人間関係（岩立京子 編　萌文書林　平成30年）
保育所保育指針解説（フレーベル館　平成30年）
<参考図書>
平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（チャイルド本社　平成29年）

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(環境) (Studies on Contents of Early Childhood Care and Education(Environment))			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2203	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■総合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)，保育士資格(必修)

授業の内容

領域「環境」の意義を捉えることと、その指導法の習得を目的とする。幼児の心身成長に自然環境や社会環境、物的環境や人的環境が重要な役割を果たしていることを理解する。その上で、自然環境を活かした保育の方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。

授業の到達目標

幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。また，幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容
　事前学習：幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいを読んでおく(2時間)。
　事後学習：ねらいをレポートとしてまとめる(2時間)。
第2回：物の性質に気づき，考え，関心をもつという一連の活動(発表・グループワーク)
　事前学習：ものや道具に関わる遊びについて調べる(2時間)。
　事後学習：ものや道具に関わって遊ぶことについてレポートとしてまとめる(2時間)。
第3回：身近な素材を活用した遊びをテーマにした模擬保育，領域「環境」の評価の考え方(発表・グループワーク)
　事前学習：身近な素材を活用した遊びについて調べる(2時間)。
　事後学習：身近な素材を活用した遊びについてレポートとしてまとめる(2時間)。
第4回：身近な素材を取り入れた遊びから探究心を育てる活動(発表・グループワーク)
　事前学習：身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについて調べる(2時間)。
　事後学習：身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについてレポートとしてまとめる(2時間)。
第5回：自然の中のものをテーマに気づきを引き出す模擬保育(発表・グループワーク・実技)
　事前学習：自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法を調べる(2時間)。
　事後学習：自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法についてレポートとしてまとめる(2時間)。
第6回：ものの性質や仕組みに気づき仲間と共有する活動を取り入れた模擬保育(発表・グループワーク・実技)
　事前学習：文字や標識、数量や図形に関心をもたせる方法を調べる(2時間)。
　事後学習：文字や標識、数量や図形に関心をもたせる方法についてレポートとしてまとめる(2時間)。
第7回：動物の飼育，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動(情報機器の活用も含む)(発表・グループワーク)
　事前学習：動物の飼育，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例を調べる(2時間)。
　事後学習：動物の飼育，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例をレポートとしてまとめる(2時間)。

第８回：植物の栽培，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動（情報機器の活用も含む）（発表・グループワーク）
事前学習：植物の栽培，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例を調べる（２時間）。
事後学習：植物の栽培，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例をレポートとしてまとめる（２時間）。
第９回：植物の特徴を利用した模擬保育（発表・グループワーク・実技）
事前学習：植物の特徴を利用した模擬授業の指導計画を立てる（２時間）。
事後学習：植物の特徴を利用した活動例をレポートとしてまとめる（２時間）。
第10回：生き物との関わり合いの中で思考力を育てる活動を取り入れて模擬保育（発表・グループワーク・実技）
事前学習：幼児期の思考力の芽生えについて調べる（２時間）。
事後学習：幼児期の思考力の芽生えについてレポートとしてまとめる（２時間）。
第11回：自然に対して好奇心をもち，探究する心を育てる活動（発表・グループワーク）
事前学習：自然に対する好奇心について調べる（２時間）。
事後学習：自然に対して好奇心をもち，探究する心を育てる具体的な活動ついてレポートとしてまとめる（２時間）。
第12回：飼育動物と関わり合い方を学ぶ活動（グループワーク）
事前学習：飼育動物との関わり合方について調べる（２時間）。
事後学習：飼育動物との関わり合方について学んだことをレポートとしてまとめる（２時間）。
第13回：生き物の観察を通して自然を探究する活動（グループワーク）
事前学習：生き物の観察を通して自然を探究する活動例を調べる（２時間）。
事後学習：生き物の観察を通して自然を探究する活動例をレポートとしてまとめる（２時間）。
第14回：自然の美しさや不思議さに触れる活動（グループワーク）
事前学習：自然の美しさや不思議さに触れる活動例を調べる（２時間）。
事後学習：生き物の観察を通して自然を探究する活動例をレポートとしてまとめる（２時間）。
第15回：自然との関わり方や生命を尊重する態度（グループワーク）
事前学習：自然との関わり方や生命を尊重する態度とは何かについて調べる（２時間）。
事後学習：自然との関わり方や生命を尊重する態度についてレポートとしてまとめる（２時間）。
書籍やインターネット等、様々な手段を用いて、授業に関する情報を積極的に収集した上で、授業に臨む。

成績評価方法

レポート（50%），課題等の提出物（30%），授業の取り組み（20%）

成績評価基準

（１）保育内容としての「環境」を理解し、そのねらいを達成することができる。
（２）様々な活動を通して、自然に親しみ、生き物と触れあうことができる。

テキスト、参考図書

テキスト
無藤隆監修・福元真由美編集代表「新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　環境」萌文書林，2018年
参考図書
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(言葉) (Studies on Contents of Early Childhood Care and Education(Language))			担当教員	笠原　茂子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2204	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(必修)

授業の内容

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の言葉の発達や音声言語から文字言語への遊びを、通しての学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

授業の到達目標

幼稚園教育において育みたい「言葉」の資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された保育領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。さらに、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、指導案を作成したり模擬保育を体験したりすることを通して具体的な指導場面を構想する方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：新教育要領の特色とその背景 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」
　事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておく。
　事後学修：テキストの第2章4(言葉の獲得に関する領域「言葉」)についてまとめておくこと。
第2回：言葉の発達過程①0～2歳児(言葉の前のことば・乳幼児期の言葉)　(課題解決型学習)
　事前学習：テキスト第1章2(これからの0～2歳児の保育)を読み、質問事項をまとめておくこと。
　事後学修：授業中に視聴したDVDを参考にして、乳幼児期の言葉の発達についてノートにまとめておくこと。
第3回：言葉の発達過程②3～5歳児(話し言葉・伝え合う喜び　(発表)
　事前学習：テキスト第5章(自分の考えや思いを伝えることば)と、保育所保育指針解説書の「おおむね4歳」の発達に関する箇所を読み、質問事項をまとめておくこと。
　事後学修：授業中に視聴したDVDを参考にして、幼児期における身近な人との関わりを通しての言葉の発達をとらえ、保育者の援助についてノートにまとめておくこと。
第4回：言葉が培う力①(伝え合う喜び・いざこざと教師の援助)　(討議)
　事前学習：テキストの事例研究をよみ、自分なりの感想や質問をまとめておくこと。
　事後学修：授業中に視聴したDVDを参考にして、幼児期における遊びを通しての言葉の発達を捉え、保育者の援助についてノートにまとめておくこと。
第5回：言葉が培う力②(ごっこあそびの指導と援助)(討議)
　事前学習：テキストの事例研究を読み、自分なりの感想や質問事項をまとめておくこと
　事後学修：授業中に視聴したDVDを参考にして、幼児期におけるごっこ遊びを通しての言葉の発達を捉え、保育者の援助についてノートにまとめておくこと。
第6回：言葉の育ち① 児童文化財(絵本・紙芝居・NHK教育番組等)の意義と実演(討議)
　事前学習：自分が興味を持っている児童文化財について調べ、ノートにまとめておくこと
　事後学修：児童文化財についてテキスト等を見直し、分からないところがあったら参考図書で調べたり担当教員に質問したりすること。

第７回：言葉の育ち②言葉遊び（しり取り・なぞなぞ等）の意義と体験, NHK教育番組視聴　（グループワーク）
事前学習：参考図書や図書館、NHK教育番組の録画等から言葉を豊かにする遊び（体験）には、どんなものがあるか調べておくこと。
事後学修：言葉遊びについてテキスト等を見直し、分からないところがあったら参考図書で調べたり担当教員に質問したりすること。
第８回：言葉を育む遊びと環境①０～２歳児（指導案作成）　（発表）
事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておく。
事後学修：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。
第９回：言葉を育む遊びと環境②（模擬保育・ビデオ録画をもとに省察）（グループワーク）
事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。
事後学修：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。
第10回：言葉を育む遊びと環境③３歳児（指導案作成）（実技）
事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。
事後学修：模擬保育について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめておくこと。
第11回：言葉を育む遊びと環境④（模擬保育・ビデオ録画をもとに省察）（実技）
事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。
事後学修：模擬保育について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめておくこと。
第12回：言葉を育む遊びと環境⑤４～５歳児（指導案作成）（グループワーク・討議）
事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。
第13回：言葉を育む遊びと環境⑥（模擬保育・ビデオ録画をもとに省察）　（実技）
事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。
事後学修：模擬保育について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめておくこと。
第14回：文字の習得と学校教育との連続性
事前学習：テキスト第８章４（領域「言葉」における評価と小学校との連携）を読み、質問事項をまとめておくこと。
事後学修：小学校１年生の国語教科書を読んで、自分なりの感想や意見をノートにまとめておくこと。
第15回：保育現場における言葉をめぐる諸問題（障碍・外国籍・発達障碍など）　（課題解決型学習）
事前学習：テキスト第８章（幼児教育の現代的課題と領域「言葉」）を読んだり、図書館で調べたりして、質問事項をまとめておくこと。
事後学修：テキストや図書館で調べたこと、模擬保育での反省等を参考にしながら、言葉に対する感覚を養い、状況に応じた適切な表現を使えるような子どもを育てる保育教諭になるための努力事項をノートにまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（50%）　授業内の課題レポート・テスト（30%）　授業への取り組み（20%）

成　績　評　価　基　準

乳幼児期からの言葉の発達過程や保育者の援助について理解し、指導計画案を作成し実践することができるか。

テキスト、参考図書
テキスト 文部科学省　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館　2018年 高濱裕子編著　『事例で学ぶ保育内容＜領域＞言葉』萌文書林　20018年 厚生労働省　『保育所保育指針』2017年 内閣府　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年 幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省） 参考図書 コンパス　保育内容言葉（内藤知美・新井美保子編著　建帛社　平成29年） 保育内容領域言葉（秋田喜代美他編（株）みらい　平成22年）
その他（受講上の注意）
事例研究、指導案作成・模擬授業はグループでの作業が中心となります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容研究(表現Ｂ) (Studies on Contents of Early Childhood Care and Education(Expression B))			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2256	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（選択）

授業の内容

幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された幼児教育の基本を踏まえ、造形表現領域のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの課程を理解するとともに具体的な指導場面を想定して教育・保育計画を立てて実際に教育・保育を実践する方法を身に付ける。

授業の到達目標

幼稚園教育において育てたい資質や能力を理解するとともに幼稚園教育要領に示された造形表現領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解する。幼児の発達や環境に即して、具体的な指導場面を想定して教育・保育計画を立てるとともに実際に教育・保育をする方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他（模擬保育）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：新幼稚園教育要領、新保育所保育指針、新認定こども園教育・保育要領の特色とその背景
　事前学習：幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を読んで、まとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておくこと。（2時間）
第2回：子どもの遊びと造形表現活動
　事前学習：子どもの遊びと5領域についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておくこと。（2時間）
第3回：子どもの造形活動における発達過程
　事前学習：造形活動の発達についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておくこと。（2時間）
第4回：造形表現技術と技法（実技）
　事前学習：造形表現技法についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：様々な造形表現の作品を完成させる。（2時間）
第5回：教材研究の意義と方法及びＩＣＴの活用（実技）
　事前学習：ＩＣＴの活用と保育展開を考えて、まとめておくこと。（2時間）
　事後学習：具体的な保育内容を考えて、まとめておくこと。（2時間）
第6回：造形表現領域指導案の書き方と評価の仕方（実技）
　事前学習：模擬保育の内容を考えて、指導案の下書きをしておくこと。（2時間）
　事後学習：模擬保育指導案を作成する。（2時間）
第7回：教材研究平面造形（実技）
　事前学習：平面造形についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：平面造形の作品を作り、完成させる。（2時間）

第８回：教材研究立体造形（実技）
　　事前学習：立体造形についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：立体造形の作品を作り、完成させる。（２時間）
第９回：模擬保育未満児及び３歳児平面造形･立体造形と省察
　　事前学習：模擬保育の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正する。（２時間）
第10回：模擬保育未満児及び３歳児鑑賞と省察（模擬保育・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬保育の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第11回：模擬保育４歳児平面造形･立体造形と省察（模擬保育・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬保育の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第12回：模擬保育４歳児鑑賞と省察（模擬保育・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬保育の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第13回：模擬保育５歳児平面造形･立体造形と省察（模擬保育・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬保育の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第14回：模擬保育５歳児鑑賞と省察（模擬保育・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬保育の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第15回：造形表現の課題と展望
　　事前学習：造形表現の課題と展望について考えをまとめておくこと。
　　事後学習：子どもと造形表現活動についてレポートにまとめる。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（30％）、模擬保育（40％）、作品（30％）

成　績　評　価　基　準

・学んだ造形技法について説明できる。
・学んだ造形技法の特質を活かした表現ができる。
・子どもと造形について発達過程を踏まえて説明できる。

テキスト、参考図書

（１）文部科学省　『幼稚園教育要領』、厚生労働省　『保育所保育指針』、 内閣府　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』　チャイルド社　2017年
（２）文部科学省　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館　2017年
（３）大場幸夫著　『保育所保育指針解説』　フレーベル館　2017年
（４）伊東知之著　『造形表現・図画工作　教材集』　2017年
（５）実習要項・教育実習（幼稚園）の手引き（伊東知之編著　仁愛大学子ども教育学科　2010年）

その他（受講上の注意）

図工用具一式を毎時間持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

乳児保育 (Infant Care and Education)			担当教員	八木　　和
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2206	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

本授業では、3歳未満児の発育・発達の過程や特性及び養護と教育の一体性を踏まえた保育計画・保育内容・方法・環境構成・援助・観察・記録・評価について具体的に理解し、乳児保育に必要な専門的技術を身につけることを目的とする。そのために、発育・発達を捉えその時期にふさわしい豊かな体験、主体性を尊重する生活や遊びを支える環境の構成等について実習する。

授業の到達目標

1．3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
2．養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
3．乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。
4．上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他(DVD視聴)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(授業の概要説明)　子どもと保育士等との関係の重要性
　事前学習：テキスト「第1章」を読み、乳児保育の定義、理念、意義について学習しておくこと。(2時間)
　事後学習：配布された資料を見直しやわからないところがあったら、次回授業時に質問すること。(2時間)
第2回：個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
　事前学習：テキスト「第2章」を読み、乳幼児の発達の特性と基本的な援助やかかわりについて学習しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で課されたワークシート(年月齢別発達)を作成し第6回の授業までに提出すること。(2時間)
第3回：子どもの主体性の尊重と自己の育ち
　事前学習：保育所保育指針解説「第1章(3)指導計画の展開」を読み、子どもの主体的な活動を促す多様な援助について学習しておくこと。(2時間)
　事後学習：配布資料を通して、授業内容を整理、見直しをし必ず復習しておくこと。(2時間)
第4回：子どもの体験と学びの芽生え
　事前学習：保育所保育指針解説「第1章　総則」を通して、3つの「資質・能力」について学習しておくこと。(2時間)
　事後学習：乳児保育の「ねらい」及び「内容」について、3つのの視点と5領域の関連を復習しておくこと。(2時間)

第５回：子どもの１日の生活の流れと保育の環境
事前学習：テキスト「第６章」・保育所保育指針解説「第２章　乳児保育に関わるねらい及び内容」を通して、３歳未満児のデイリープログラムについて学習しておくこと。（２時間）
事後学習：授業時間内に仕上がらない場合は次週までに完成し提出すること。（２時間）
第６回：子どもの生活や遊びを支える環境の構成
事前学習：テキスト「第４章」・保育所保育指針解説「第１章（４）保育の環境」を読み、３歳未満児保育における環境（物的環境・人的環境・自然・社会事象）の意義を学習しておくこと。（２時間）
事後学習：３歳未満児の情緒が安定し、夢中になって遊べる環境構成についてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第７回：３歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際（調乳・おむつ交換等実技）（実技）
事前学習：テキスト「第２章、第３章、第５章」を読み、体験学習に関連することを学習しておくこと。（２時間）
事後学習：配布資料を通して、体験学習のそれぞれのポイントを見直し復習しておくこと。（２時間）
第８回：３歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際（手作りおもちゃ作成）（実技）
事前学習：テキスト「第５章」を読み、３歳未満児の遊びの特性を踏まえ、発達や興味に即した遊具を製作する為に、テキスト・保育図書などから作るおもちゃを決め、必要な材料・用具を全て自分で用意して授業に臨むこと。
（例・小型玩具、手で持てる、一人で遊べる、繰り返し遊べる、安全性等を考慮する等）（２時間）
事後学習：授業時間内に仕上がらない場合は次週までに完成し提出すること。（２時間）
第９回：子ども同士の関わりとその援助の実際
事前学習：１歳～２歳児が夢中になれる遊びと保育の配慮と工夫について、学習しておくこと。（２時間）
事後学習：配布資料を通して、社会的発達と環境・精神的発達について復習しておくこと。（２時間）
第10回：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
事前学習：テキスト「第３章」を読み、乳幼児の健康状態や発育、衛生管理、安全管理について学習しておくこと。
事後学習：配布資料を通して、ポイントを見直し復習しておくこと。（２時間）
（２時間）
第11回：集団での生活における配慮（DVD視聴）
事前学習：テキスト「第５章」を読み、新生児から１～２歳児の生活について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：DVD視聴から学んだことをレポートにまとめておくこと。（２時間）
第12回：環境の変化や移行に対する配慮
事前学習：人的環境と物的環境の相互作用について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：保育指針解説「第２章保育の内容」と「第１章総則養護」を通して、乳児期の環境について復習しておくこと。（２時間）
第13回：長期的な指導計画と短期的な指導計画
事前学習：テキスト「第６章」・保育所保育指針解説「１章」を読み、３歳未満児保育の計画について学習しておくこと。
事後学習：テキスト「第６章P207～224」を通して、様々な指導計画について復習しておくこと。（２時間）　（２時間）
第14回：個別的な指導計画と集団の指導計画
事前学習：テキスト「第６章」を読み、３歳未満児保育の計画について学習しておくこと。（２時間
事後学習：授業で課された項目を保育図書やインターネットを参考にして学習し、準備をしておくこと。（２時間）
第15回：保育実践グループワーク（グループワーク）
事前学習：グループ別に保育士役や子ども役になって手遊び、歌あそび、絵本の読み聞かせ等を実践するので話術や表現力について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト「第１章～６章」を熟読し、これまでの授業内容を復習し重要点をまとめておくこと。更に、テキストの「参考資料　P271 ～P280」を復習し、関連法律を理解しておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　課題（30%）　平常点（20%）
課題はワークシート・手作りおもちゃ・復習レポート等の全ての提出物を総合して判断します。
平常点は授業への参加状況、受講態度、グループワークの参加態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

1．3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解することができるか。
2．養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解することができるか。
3．乳児保育における配慮の実際について具体的に理解することができるか。
4．上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解することができるか。

テキスト、参考図書

テキスト・・・・待井和江・福岡貞子編　「現代の保育学8　　乳児保育　第9版」　　ミネルヴァ書房　2017年
参考図書‥厚生労働省編　「保育所保育指針解説　　平成30年3月」　　フレーベル館　2018年

その他（受講上の注意）

・教科書以外の授業の教材は、必要に応じてプリントを配布する。各自ファイルに綴じること。
・数回授業終了前約15分程度、授業を振り返り復習レポートを記載提出する。提出された復習レポートは、重要ポイントをはじめ一人ひとりの質問等に対してコメントし、次週配布する。確認してファイルに綴じること。
・手作りおもちゃは必要な材料・ハサミ、のり、糸や針等の用具を全て自分で用意して授業に臨むこと。
A4用紙に学籍番号・氏名・作品名・対象年月齢・ねらい・材料・工夫した点をまとめ、作品に沿える。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

障がい児保育 (Child Care for Children with Disabilities)			担当教員	安井　弘二
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2261	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

障がい児保育の理念や障害のある子の発達特性を理解し、心身の発達状況に応じた援助や特別な配慮について理解を深める。また、保育園等における障がい児保育・家庭支援・関係機関と連携や協働の知識を深め、具体的技能を獲得するとともに実践能力を高める。

授業の到達目標

1）障がい児保育を支える理念や歴史的変遷いついて学び、障がい児及びその保育について理解する。
2）個々の特性や心身の発達に応じた援助や配慮について理解する。
3）障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
4）障がい児その他の特別な配慮を要する子ども家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
5）障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(事例検討、体験学習)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：「障害」の概念と障がい児保育の歴史的変遷(発表)
　事前学習：テキストの第1～2講を熟読し、「障害」の概念と障がい児保育の歴史的変遷についてノートにまとめること。(2時間)
　事後学習：パワーポイントによる授業とクラスメイトの発表を聞き、ノーマライゼーションやバリアフリー等の語句の理解を深め、それらをまとめノートに補充し整理すること。(2時間)
第2回：障害のある子どもの地域社会への参加・包容及び合理的配慮と障がい児保育の基本
　事前学習：テキストの第2講を熟読し、障がいある子どもの地域社会への参加・包容・及び合理的配慮等についてノートにまとめること。(2時間)
　事後学習：授業で配布された資料をもう一度読み返し、インクルージュンやユニバーサルデザイン等の語句の理解を深め、それらの知見をノートに補充し整理すること。(2時間)
第3回：肢体不自由児の理解と援助(発表)
　事前学習：テキストの第4講を熟読し、肢体不自由児の特徴等をノートにまとめること。(2時間)
　事後学習：パワーポイント及びＤＶＤによる授業で肢体不自由児への理解を深め、クラスメイトの発表を聞きノートに知見を補充し整理すること。(2時間)
第4回：知的障がい児の理解と援助(グループワーク・発表)
　事前学習：テキストの第5講を熟読し、知的障がい児の特徴についてノートにまとめること。(2時間)
　事後学習：パワーポイントによる授業と授業中のグループワーク「妊娠中の血液検査で胎児がダウン症と診断された妊婦とその家族の対応」について各グループの意見を聞きながら、当事者の複雑な気持ちの理解とその寄り添い方等を学習するとともに、知的障害児の理解をより深めノートに要旨を補充すること。(2時間)

第５回：視覚障害・聴覚障害・言語障害児の理解と援助（体験学習・発表）
事前学習：テキスト第３講を熟読し、視覚障害・聴覚障害・言語障害児についてノートにまとめること。（２時間）
事後学習：授業で「アイマスクをつけクラスメイトに導かれる」視覚障害を体験し、視覚障害児の気持ちになって支援できるよう、その時のクラスメート意見等もノートに補充しておくこと。（２時間）
第６回：発達障害児の理解と援助①（ＡＤＨＤ、ＬＤ等）（グループワーク・発表）
事前学習：テキスト第６講を熟読し、ＡＤＨＤ（注欠陥多動性障害）児やＬＤ（学習障害）児の特徴をノートにまとめること。（２時間）
事後学習：パワーポイント及びＤＶＤ視聴の授業で、発達障害児の理解を深めるとともに、ＬＤ児で手先の不器用な子が折り紙を楽しくできる方法をグループで話し合い、意見発表する中で良い方法があればクラスで共有し、今後に活かすためノートに補充しておくこと。（２時間）
第７回：発達障害児の理解と援助②（ＰＤＤ等）
事前学習：テキストの第８講を熟読し、ＰＤＤ（広汎性発達障害）児の特徴等をノートにまとめること。（２時間）
事後学習：パワーポイント及びＤＶＤの授業によりＰＤＤ児の特徴をより深く理解し、その接し方、また保育や教育場面に必要と言われている感覚統合訓練、ティーチプログラム（構造化）等についての知見を事前学習ノートに補充すること。（２時間）
第８回：重症心身障害児、医療的ケア児理解と援助（発表）
事前学習：インターネットあるいは大学の図書室で重症心身障害児、医療的ケア児について調べ、その特徴をノートにまとめること。（２時間）
事後学習：パワーポイントによる授業の資料及びクラスメイトの発表などから、医療的ケアが必要な児童の理解を深め援助方法を学習し、その知見を事前学習ノートに補充すること。（２時間）
第９回：特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助
事前学習：テキスト８講を熟読し、特別な配慮（合理的配慮）を必要とする子どもへのアプローチ方法についてノートにまとめること。（２時間）
事後学習：パワーポイントの授業で合理的配慮を必要とする子どもへのアプローチ方法を学び、受容的態度がなによりも大切だと理解するとともに、授業で得た知見を事前学習ノートに補充すること。（２時間）
第10回：障がい児その他特別な配慮を必要とする子どもの指導計画及び支援計画の作成（グループワーク）
事前学習：テキスト第10講について熟読し、障がい児その他特別な配慮を必要とする児童の指導計画及び支援計画の作成についてまとめること。（２時間）
事後学習：グループワーク：定型児の指導計画に加え合理的配慮すると障がい児等の支援計画を加えることで、それぞれの子どもが互いに成長できるできる計画（案）をグル──ワークでまとめ、その結果をノートに補充すること。（２時間）
第11回：個々の発達を促す生活や遊びの環境（発表）
事前学習：テキストの第８講を熟読し、個々の発達を促す生活や遊びの環境をまとめること。（２時間）
事後学習：授業で学習した、「生活動作をできる限り分解する」方法を用い、衣類の着脱やうがいが上手にできるようにように、一連の動作をいくつかに分解してみるとともに、両親の生活の知恵なども借りて、子どもの日常生活に必要な重要動作のいくつかを５～６の行程に分解して整理するとともに、今後の保育活動等に役立てられるようノートに補充しておくこと。（２時間）
第12回：子ども同士のかかわりと育ち合い（事例検討）
事前学習：第９講を熟読し、統合保育・分離保育・並行通園、交流保育等のメリット・デメリットについてノートにまとめること。（２時間）
事後学習：授業を聞き、保育形態の違いによるメリット・デメリットを再確認するとともに、子ども同士の関わりあいの中で生まれる育ちについて事例を通して学び、それらの知見をノートに補充すること。（２時間）
第13回：障がい児保育における子どもの健康と安全
事前学習：インターネットや大学の図書室にて、障害児の医療的ケア（呼吸・嚥下障害、胃食逆流症、吸引・経管栄養・導尿等、また、てんかん発作時の対応と緊急薬剤の使用等、また、アレルギー（食物、ぜんそく、アナフィラキシー等）についてノートにまとめること。（２時間）
事後学習：医療的ケアにかかる体制整備及び危機管理マニュアル（ケーススタディ：緊急時対応訓練、ヒアリハットリスクの検討）等について授業で学習し、ノートに補充すること。（２時間）

第14回：職員間の連携・協働（発表）
事前学習：テキストの第10、11，12講を熟読するほか、インターネットにてノーマライゼーションの理念に基づいて、障がいのある子と他の子どもが相互のコミュニケーション能力を育み、子どもたちの成長・発達をねらう保育を行うには、保育士の連携が大切であることや、保育士と他の専門家が協働（コラボレーション）することで、より統合保育の質の向上につながる例などについて調べノートにまとめること。（2時間）
事後学習：パワーポイントによる授業、授業中のクラスメートの発表で、保育士と他の専門家との協働（コラボレーション）等で成果を上げたものについて知り、ノートに補充すること。（2時間）
第15回：家庭および自治体・関係機関との連携等
事前学習：テキストの第12，13講を熟読し、家庭および自治体・関係機関との具体的連携についてノートにまとめること。（2時間）
事後学習：パワーポイントでの授業を聞き、家庭および自治体・関係機関との連携の重要性を学習し、連携の分かりやすい図式を作成しノートに補充すること。（2時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験（40%）　課題レポート（30%）　平常点（20%）　小レポート（10%）
（平常点は、授業の参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成績評価基準

①ノーマライゼーションの理念が説明できるか
②統合保育について適切に説明できるか
③障害の種類（知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥・多動性障害等）の特徴が理解できその支援方法を説明できるか
④障がい児とその家族に対する支援方法が理解できているか（連携・協働等）
⑤障がい児のアセスメント方法を説明できるか
⑥発達支援の方法でよく用いられているものを説明できるか
⑦発達に障害のある児童についての保育計画が立てられるか等

テキスト、参考図書

テキスト；西村重稀、水田敏郎著『障害児保育』 中央法規
参考図書：尾崎康子、小林新、水内豊和、阿部美穂子編『よくわかる障害児保育』ミネルバ書房
参考図書：前田泰弘著『実践に生かす障害児保育』萌文書林
参考図書：伊丹昌一著『インクルーシブ保育論』ミネルバ書房

その他（受講上の注意）

特記すべき点はなし。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会的養護内容 (General Social Nursing)			担当教員	木越　直昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2212	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

本授業は、社会的養護を必要としている子ども達とのかかわり方を中心に、あわせてその制度等も学ぶことを目的とする。

授業の到達目標

やむなく家族と離れて生活をせざるを得ない子どもたちの心身の成長・発達を保障し、更に自立に向けて支援するための知識と技術を習得していく。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□ 発表(プレゼンテーション)■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：社会的養護を必要とする子どもとは　(グループワーク)
　事前学習：厚生労働省のHPなどを利用し,社会的養護の基本理念と社会的養護を必要とする子ども達はどのような環境で生活をしていたのかをまとめておく。(2時間)
　事後学習：社会的養護の原理として掲げられている6つをまとめレポートを出す。(2時間)
第2回：社会的養護の歴史的変遷　(グループワーク)
　事前学習：児童福祉法誕生から1994年「児童の権利に関する条約」に批准し今日に至るまでの歴史を調べ、質問をまとめておく。(2時間)
　事後学習：2016(平成28年)「児童福祉法等の一部を改正する法律」について4つの概要をまとめたレポートを提出する。(2時間)
第3回：社会的養護を必要とする子どもの権利擁護　(グループワーク)
　事前学習：「児童の権利に関する条約」の前文と第3条・第12条・第19条・第20条・第26条を熟読すること。(2時間)
　事後学習：児童福祉施設の子どもの権利養護の実践と課題をまとめレポートを提出する。(2時間)
第4回：乳児院における子どもの養育(グループワーク)
　事前学習：全国乳児福祉協議会のHP等から乳児院のあゆみ・乳児院を利用する理由、また入所している子どもたちの人数を調べておく。(2時間)
　事後学習：乳児院における養育の在り方と今後の課題をまとめレポートを提出する。(2時間)
第5回：児童養護施設における子どもの養育(家庭的養育)(グループワーク)
　事前学習：全国児童養護施設協議会HPや厚生労働省のHPから児童養護施設を利用する理由と児童養護施設ではどのように子どもを養育しているのかをまとめておく。(2時間)
　事後学習：児童養護施設での養育がどのように変化しているのか、また今後の課題をまとめレポートを提出する。(2時間)

第６回：被虐待児（発達障害児）への関わり方（実技）
事前学習：厚生労働省HP「児童虐待の定義と現状」から児童虐待の定義をまとめておく。さらに厚生労働省HPから平成29年度児童相談所の児童虐待相談対応件数から４種類の虐待の数の移り変わりをまとめておく。（２時間）
事後学習：被虐待児が受ける後遺症と援助方法をまとめレポートを提出する。（２時間）
第７回：被虐待児（発達障碍児）への関わり方（施設の環境整備）（グループワーク）
事前学習：発達障害について図書館などで調べ、それぞれどのような障がいなのかをまとめておく。（２時間）
事後学習：被虐待児および発達障害を抱えている児童の関わりとして大切なことを施設の環境整備の上からまとめレポートを提出する。（２時間）
第８回：社会的養護家庭再構築のアプローチ（児童虐待防止の家庭支援）（グループワーク）
事前学習：要保護児童対策地域協議会について質問できるようにしておく。（２時間）
事後学習：児童虐待防止に関する家庭支援の現状と課題をまとめレポートを提出する。（２時間）
第９回：自立支援計画表アセスメントおよび作成（グループワーク）
事前学習：児童自立支援計画とはなにかまとめておく。（２時間）
事後学習：提示する事例に伴い自立支援計画を作成し提出する。（２時間）
第10回：子ども最善の利益のための自立支援（リービングケア・アフターケア）　（実習）
事前学習：家庭的養護と家庭養護の違いと自立支援のためにどのようなケアをしているのかまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容から児童養護施設等の施設養育と里親養育においてアフターケアに関することをまとめアフターケアの計画表を作成する。（２時間）
第11回：パーマンシーの保障と課題（グループワーク）
事前学習：厚生労働省平成29年８月に出された「新しい社会的養育ビジョン」の概要についてまとめておく。（２時間）
事後学習：授業よりフォスタリング機関およびパーマネンシ - 保障としての特別養子縁組の推進についてまとめレポートを提出する。（２時間）
第12回：社会的養護の家庭支援に対する相談援助技術（グループワーク）
事前学習：第11回までの授業を復習し、社会的養護における家庭支援について、何が必要なのかを自分なりに考えまとめておく。（２時間）
事後学習：社会的養護における家庭支援の在り方をまとめレポートを提出する。（２時間）
第13回：子どもの権利擁護ノート作成　（実技）
事前学習：児童福祉施設等の権利ノートの内容を調べ発表できるようにしておく。（２時間）
事後学習：児童の権利に関する条約・授業で扱った子どもの権利をまとめ「権利ノート」を作成する。（２時間）
第14回：施設の運営と管理（グループワーク）
事前学習：子ども福祉サービスの利用方式である措置制度・利用契約制度・選択利用制度についてそれぞれまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容から施設の運営と管理についてまとめレポートを提出する。（２時間）
第15回：援助者としての倫理と資質、専門技術と相談援助（グループワーク）
事前学習：児童福祉施設および保育士の倫理綱領を熟読し、支援者における倫理の必要性をまとめる。（２時間）
事後学習：社会的養護における倫理の重要性と専門性を深める意義をまとめレポートを提出する。（２時間）

成　績　評　価　方　法

レポート（50%）　平常点（50%）（平常点は、授業への参加状況、受講態度など総合的に判断します。）

成　績　評　価　基　準

家庭的養護を必要とする子どもの気持ちを受け止めているかどうか。
子供の権利擁護という視点に立っているかどうか。

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて、資料を配付する。

そ　の　他（受　講　上　の　注　意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅰ (Guidance for Field Practice Ⅰ)			担当教員	青井　夕貴、柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-E-2213	2単位	2年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

保育所での学外実習(以下、保育所実習)と保育所以外の児童福祉施設等での学外実習(以下、施設実習)を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、実習の意義と目的、実習の際の留意事項、記録の書き方などを理解する。また、現職の保育士や施設職員を招いて特別講義を行う。事後指導では、個別指導、グループ討議、全体反省会等を通して、実習の成果と課題を共有するとともに、今後の目標を明らかにする。

授業の到達目標

事前指導
1．保育実習の意義・目的を理解する。
2．実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3．実習施設における子どもや利用者等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4．実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
事後指導
5．自己評価と個別指導を通して、自己の長所と課題を整理する。
6．グループ討議や全体反省会等を通して、実習の総括を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

【前期――事前指導】
第1回：実習の目的、概要説明(青井・柿本)
　事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。(2時間)
　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。(2時間)
第2回：保育所実習での心構え(柿本)
　事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。(2時間)
　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。(2時間)
第3回：施設実習での心構え(青井)
　事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。(2時間)
　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。(2時間)
第4回：保育所・認定こども園の理解(柿本)
　事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。(2時間)
　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。(2時間)
第5回：保育所実習における実習の内容と計画(柿本)
　事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。(2時間)
　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。(2時間)

第６回：保育所実習の目標・課題設定と観察・記録の内容と方法（柿本）
　　事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。（２時間）
　　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（２時間）
第７回：保育所実習における指導案の書き方（柿本）
　　事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。（２時間）
　　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（２時間）
第８回：各施設の理解（青井）
　　事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。（２時間）
　　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（２時間）
第９回：施設実習における実習の内容と計画（青井）
　　事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。（２時間）
　　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（２時間）
第10回：施設実習の目標・課題設定（青井）
　　事前学習：これまでの学びを踏まえて、実習で達成したい目標を整理する。（２時間）
　　事後学習：討議した結果等を踏まえて、目標を見直し、整理する。（２時間）
第11回：施設実習における観察・記録の内容と方法（青井）
　　事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。（２時間）
　　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（２時間）
第12回：特別講義～保育所実習で何を学ぶか（柿本）
　　事前学習：保育所実習で学びたいことや心構えを振り返る。（２時間）
　　事後学習：説明等で学んだことをまとめ、自分の考えを整理する。（２時間）
第13回：特別講義～施設実習で何を学ぶか（青井）
　　事前学習：施設実習で学びたいことや心構えを振り返る。（２時間）
　　事後学習：説明等で学んだことをまとめ、自分の考えを整理する。（２時間）
第14回：事前指導まとめ～留意事項（人権擁護、守秘義務など）の確認（青井・柿本）
　　事前学習：これまでの資料等を見直し、疑問点等をまとめる。（２時間）
　　事後学習：留意事項等を含めて、実習に必要な書類等を確認するとともに、実習に向けた課題を明確にする。（２時間）
第15・16回：施設見学（青井）
　　事前学習：障害者支援施設について資料等を調べ、理解を深める。（２時間）
　　事後学習：見学や説明等をまとめ、自分の考えをまとめる。（２時間）

【後期 ── 事後指導】
第１回：保育所実習の振り返り～自己評価（柿本）
　　事前学習：実習ノートを中心に実習で学んだこと等を振り返る。（２時間）
　　事後学習：振り返った内容を再度自分なりに整理し、理解を深める。（２時間）
第２回：施設実習の振り返り～自己評価（青井）
　　事前学習：実習ノートを中心に実習で学んだこと等を振り返る。（２時間）
　　事後学習：振り返った内容を再度自分なりに整理し、理解を深める。（２時間）
第３回：保育所実習の振り返り①～グループ討議（柿本）
　　事前学習：実習ノートを中心に実習で学んだこと等を振り返る。（２時間）
　　事後学習：討議した内容を再度自分なりに整理し、理解を深める。（２時間）
第４回：保育所実習の振り返り②～グループ発表準備（柿本）
　　事前学習：グループで発表する内容をまとめ、資料等を準備する。（２時間）
　　事後学習：資料等の修正をし、発表の練習をする。（２時間）
第５回：施設実習の振り返り①～グループ討議（青井）
　　事前学習：実習ノートを中心に実習で学んだこと等を振り返る。（２時間）
　　事後学習：討議した内容を再度自分なりに整理し、理解を深める。（２時間）
第６回：施設実習の振り返り②～グループ発表準備（青井）
　　事前学習：グループで発表する内容をまとめ、資料等を準備する。（２時間）
　　事後学習：資料等の修正をし、発表の練習をする。（２時間）
第７回：保育所実習の全体反省会を通した成果の共有、課題の明確化（柿本）
　　事前学習：発表の内容を見直し、練習をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表を通して感じたことなどをまとめる。（２時間）
第８回：施設実習の全体反省会を通した成果の共有、課題の明確化（青井）
　　事前学習：発表の内容を見直し、練習をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表を通して感じたことなどをまとめる。（２時間）
第９回：個別指導を通した実習の成果、課題、今後の目標の共有①（青井・柿本）
　　事前学習：個人・グループでの振り返りを整理する。（２時間）
　　事後学習：実習での学びを総括し、次の実習への理解を深める。（２時間）

第10回：個別指導を通した実習の成果、課題、今後の目標の共有②（青井・柿本）
事前学習：個人・グループでの振り返りを整理する。（２時間）
事後学習：実習での学びを総括し、次の実習への理解を深める。（２時間）
第11回：個別指導を通した実習の成果、課題、今後の目標の共有③（青井・柿本）
事前学習：個人・グループでの振り返りを整理する。（２時間）
事後学習：実習での学びを総括し、次の実習への理解を深める。（２時間）
第12回：個別指導を通した実習の成果、課題、今後の目標の共有④（青井・柿本）
事前学習：個人・グループでの振り返りを整理する。（２時間）
事後学習：実習での学びを総括し、次の実習への理解を深める。（２時間）
第13回：個別指導を通した実習の成果、課題、今後の目標の共有⑤（青井・柿本）
事前学習：個人・グループでの振り返りを整理する。（２時間）
事後学習：実習での学びを総括し、次の実習への理解を深める。（２時間）
第14回：実習報告会の準備（青井・柿本）
事前学習：担当になった実習の内容をまとめ、報告会の資料等を作成する。（２時間）
事後学習：資料等の修正をし、発表の練習をする。（２時間）
第15回：実習報告会を通した総括（青井・柿本）
事前学習：発表の内容を見直し、練習をする。（２時間）
事後学習：自他の発表を通して感じたことなどをまとめる。（２時間）

成　績　評　価　方　法

課題レポート（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

事前指導
１．保育実習の意義・目的を説明することができるか。
２．実習の内容や自らの実習の課題を説明することができるか。
３．実習施設における子どもや利用者等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について説明することができるか。
４．実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について説明することができるか。
事後指導
５．自己評価と個別指導を通して、自己の長所と課題を認識することができたか。
６．グループ討議や全体反省会等を通して、実習の総括を行い、今後の学習に向けた課題や目標を説明することができるか。

テキスト、参考図書

保育所保育指針（平成29年告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針解説（平成30年３月　厚生労働省）
小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子『幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』わかば社、2017
小櫃智子『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社、2015
守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵『施設実習パーフェクトガイド』わかば社、2014

その他（受講上の注意）

やむをえず欠席するときは、大学または担当教員に連絡すること。
上記テキストと共に、実習要項を毎回持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習Ⅰa (Field Practice Ⅰa (Day Care Center))			担当教員	青井　夕貴、柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2214	2単位	2年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

2年次8月に2週間の保育所実習を行う。保育所における実習を通して、保育所の機能や保育士の役割・業務内容を理解するとともに、子どもと関わりながら子どもへの理解を深める。また、既習の教科目の内容を踏まえ、保護者への支援や、保育の計画・観察・記録及び自己評価等についても具体的に理解する。

授業の到達目標

1．保育所の役割や機能を具体的に理解する。
2．観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。
3．既習の教科目の内容を踏まえ、子ども及び保護者への支援について総合的に理解する。
4．保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1．保育所の役割と機能
　(1)保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
　(2)保育所保育指針に基づく保育の展開
2．子どもの理解
　(1)子どもの観察とその記録による理解
　(2)子どもの発達過程の理解
　(3)子どもへの援助や関わり
3．保育内容・保育環境
　(1)保育の計画に基づく保育内容
　(2)子どもの発達過程に応じた保育内容
　(3)子どもの生活や遊びと保育環境
　(4)子どもの健康と安全
4．保育の計画・観察・記録
　(1)全体的な計画と指導計画及び評価の理解
　(2)記録に基づく省察・自己評価
5．専門職としての保育士の役割と職業倫理
　(1)保育士の業務内容
　(2)職員間の役割分担や連携・協働
　(3)保育士の役割と職業倫理
　　事前学習：事前指導や既習の教科の内容を振り返り、実習における課題を明確にする。(5時間)
　　事後学習：実習ノートをもとに実習全体を振り返り、学んだことを記録する。(5時間)

成　績　評　価　方　法
実習園からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。
成　績　評　価　基　準
実習評価表の項目（５項目及び総合評価）による。
テキスト、参考図書
なし
その他（受講上の注意）
大学及び実習保育所から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習Ⅰb (Field Practice Ⅰ b (Childcare)			担当教員	青井　夕貴、柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2215	2単位	2年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

児童福祉施設等(保育所以外)において2年次9月に10日間の実習を行う。見学・観察及び参加実習を通して、児童福祉施設等(保育所以外)の機能等を理解するとともに、当該施設の子ども・利用者とその生活について理解を深める。また、児童福祉施設等(保育所以外)における保育士の職務と役割を理解し、職員間の連携・協働を把握するとともに、保育士に必要な技術・知識の水準を認識する。

授業の到達目標

1．保育所以外の児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2．観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。
3．既習の教科目の内容を踏まえ、子ども・利用者及び保護者への支援について総合的に理解する。
4．支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

既習の教科目の内容を踏まえ、実習先での観察や子ども・利用者との関わりを通して、以下の内容について理解、考察する。

1．施設の役割と機能
　(1)施設における子ども・利用者の生活(一日の流れ等)と保育士の援助や関わり
　(2)施設の役割と機能
2．子ども・利用者の理解
　(1)子ども・利用者の観察とその記録
　(2)個々の特性やニーズとそれに応じた援助や関わり
　(3)子どもの最善の利益、利用者の権利擁護についての配慮
3．施設における子ども・利用者の生活と環境
　(1)計画に基づく活動や援助
　(2)子ども・利用者の心身の状態に応じた生活と環境
　(3)子ども・利用者の活動と環境
　(4)健康管理、安全対策
4．計画と記録
　(1)支援計画の理解と活用
　(2)記録に基づく省察・自己評価

5．専門職としての保育士の役割と倫理
（1）保育士の業務内容
（2）職員間の役割分担や連携
（3）保育士の役割と職業倫理
事前学習：事前指導の振り返りを行い、実習先に関する資料等をまとめ、実習生としての心構えや課題を整理し、実習施設の理解を深める。（5時間）
事後学習：実習ノートをもとに実習全体を振り返り、学んだことを記録する。（5時間）

成　績　評　価　方　法

実習施設からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

実習評価表の項目（5項目及び総合評価）による。

テキスト、参考図書

なし

その他（受講上の注意）

大学及び実習施設から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	伊東　知之、中野　研也、柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2216	2単位	2年通年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

演習形態で子どもを対象にした発表や実践を伴うため、制作に費やす時間が別途企画されたり、時間外実践活動で学外(地域社会というフィールド)に出かけることもある。

授業の到達目標

学生が授業等で身に付けた理論や実践学習を学内外で子どもたちと共に具体的展開を試みる講座である。内容は音楽・身体・造形・児童文化などの表現活動を中心にした社会的活動実践を主軸に置く。フィールドは地域自治体からの要求に応じた場や自ら発表の場や対象を開拓して対応もする。長期・短期の活動時期を勘案して、学生自らが企画立案・運営し、対外交渉から実践、事後処理まで含めて主体的に活動していくことができるようにする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション。授業概要の説明､実践における計画書の作成　(伊東, 中野、柿本)(PBL･グループワーク)
　事前学習：どのような内容にするか考えをまとめておく。(2時間)
　事後学習：さらに内容を深めて考えをまとめる。(2時間)
第2回：グループ編成と企画案作成(伊東、中野、柿本)(PBL・グループワーク)
　事前学習：グループ編成及び企画案を作成しておくこと。(2時間)
　事後学習：グループ編成の確認と企画案を具体的に考える。(2時間)
第3回：音楽･造形･子どもの文化の分野での班別制作実践1　(伊東、中野、柿本)(PBL･グループワーク･実技)
　事前学習：制作に必要な物をまとめ、準備する。(2時間)
　事後学習：さらに準備物をまとめ、調達する。(2時間)
第4回：音楽･造形･子どもの文化の分野での班別制作実践2　(伊東、中野、柿本)(PBL･グループワーク･実技)
　事前学習：制作に必要なものをまとめ、準備する。(2時間)
　事後学習：さらに準備物をまとめ、調達する。(2時間)
第5回：音楽･造形･子どもの文化の分野での班別制作実践3　(伊東、中野、柿本)(PBL･グループワーク･実技)
　事前学習：制作に必要なものをまとめ、準備する。(2時間)
　事後学習：さらの準備物をまとめ、調達する。(2時間)
第6回：企画内容を総合的に組み立てプログラム作成　(伊東、中野、柿本)(PBL・グループワーク)
　事前学習：各班の実践内容をまとめておく。(2時間)
　事後学習：プログラムを完成させる。(2時間)
第7回：総合的内容の実践発表参加者への案内　(伊東、中野、柿本)(PBL・グループワーク・実技)
　事前学習：案内チラシの原案を考え、ラフスケッチを行う。(2時間)
　事後学習：案内チラシ原画を完成させる。(2時間)

第８回：実践発表参加者への案内　（伊東、中野、柿本）（PBL・グループワーク・実技）
　　事前学習：配布先の一覧表を作成する。（２時間）
　　事後学習：配布先全てに配布する。（２時間）
第９回：実践発表の班別練習　（伊東、中野、柿本）（PBL・グループワーク・発表・実技）
　　事前学習：練習準備を行う。（２時間）
　　事後学習：さらに練習を行う。（２時間）
第10回：学外会場における実践発表準備　（伊東、中野、柿本）（PBL・グループワーク・発表・実技）
　　事前学習：発表準備を行う。（２時間）
　　事後学習：さらに制作、練習等準備を行う。（２時間）
第11･12回：学内会場における実践発表　（伊東､中野､柿本）（PBL･グループワーク･発表･フィールドワーク･実技）
　　事前学習：最終準備を行う。（４時間）
　　事後学習：不十分なところをまとめ、対応する。（４時間）
第13･14回：学外会場における実践発表　（伊東､中野､柿本）（PBL･グループワーク･発表･フィールドワーク･実技）
　　事前学習：さらに準備を行う。（４時間）
　　事後学習：最終準備を行う。（４時間）
第15回：発表会実践後始末　（伊東、中野、柿本）（PBL・グループワーク・実技）
　　事前学習：発表内容の反省点をまとめる。（２時間）
　　事後学習：会場の後始末、掃除を行う。（２時間）

成　績　評　価　方　法

子ども対象の実践発表と学外実践への参加（50％）および実践結果の振り返りレポート（40％）、受講態度（10％）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

実践の企画・立案・展開方法・制作の吟味・発表ができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

その都度、各分野の授業時にプリントを配布したり、資料の紹介等を行う。ファイル作りをしていくこと。

その他（受講上の注意）

規定外の時間帯に制作練習、実践発表等が組み込まれることがあるので、自主的に活動することを望む。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもの映像文化 (Visual Media for Children)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2260	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、小学校教諭一種免許状(選択)

授業の内容

子ども教育のためのマルチメディアコンテンツの制作

授業の到達目標

この授業では、子どもの映像に対する認知的特性や学習効果について理解する。視聴覚教材やアニメーションの制作技術や近年多く利用されつつあるWWWやインタラクティブアニメーションについての制作技術を習得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業の概要説明、使用設備等の説明、視聴覚教材・映像の鑑賞
　　事後学習：インターネット上の様々な映像について、興味のあるものをリストアップする。(1時間)
第2回：静止画素材(スキャンニング・撮影・ペインティング)(実技)
　　事後学習：自身で撮影した写真データをPCで加工する方法を復習する。(3時間)
第3回：静止画編集(合成・修復)(実技)
　　事後学習：グラフィックソフトで自身を撮影した写真と背景写真を合成してみる。(4時間)
第4回：音素材編集(サンプリング)(実技)
　　事後学習：CD等から抽出した音楽データに自身のナレーションを重ねる。(4時間)
第5回：音素材編集(スコア)(実技)
　　事後学習：曲の楽譜から、スコアデータを作成する。(6時間)
第6回：ビデオ編集(撮影・編集)(実技)
　　事後学習：自身で撮影した動画を編集してみる。(4時間)
第7回：ビデオ作品の制作(実技)
　　事後学習：自身のビデオ作品を制作する。(6時間)
第8回：ストップモーションアニメーション作品の企画
　　事後学習：作品の内容を考える。(2時間)
第9回：ストップモーションアニメーションの制作(1)(実技)
　　事後学習：作品を制作する。(6時間)
第10回：ストップモーションアニメーションの制作(2)(実技)
　　事後学習：作品を制作する。(6時間)
第11回：キーフレームアニメーションの基礎(実技)
　　事後学習：ソフトウェアの利用方法について確認する。(2時間)
第12回：キーフレームアニメーション作品の計画
　　事後学習：作品の内容を考える。(2時間)
第13回：キーフレームアニメーション作品の制作(1)(実技)
　　事後学習：作品を制作する。(6時間)

第14回：キーフレームアニメーション作品の制作（２）（実技）
　　事後学習：作品を制作する。（６時間）
第15回：作品の相互評価
　　事前学習：制作した作品を閲覧できるようにしておく。（２時間）
定期試験は行わない

成　績　評　価　方　法

各回で課す課題を提出する課題40%
テーマに沿った作品制作60%

成　績　評　価　基　準

視聴覚教材やアニメーションの制作技術を修得できたか。

テキスト、参考図書

特に指定しないが、プリント及びe－Learning教材を授業時に使用する。

その他（受講上の注意）

様々な課題作品を制作することになるため、毎回の授業時間内のみならず、放課後や空き時間などにも、制作に多くの時間が必要となる。 またより良い作品とするためには多くの資料を参考に自主的に取り組む必要もある。欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽の世界 (The World of Music)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1321	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

さまざまな音楽の魅力や特徴を探り、生み出された背景を知る。

授業の到達目標

音楽に関する通論的な知識と通史的な知識を身に付け、作品に対する自分の考えを持つことができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：音とは何か　～私たちを取り巻くさまざまな音(グループワーク)
　事前学習：身近で聞こえる音を書き出しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。(2時間)
第2回：音楽の誕生　～いつ・なぜ・どのようにして生まれたのか
　事前学習：音楽がいつ・なぜ・どのようにして生まれたのか、自分の考えをまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。(2時間)
第3回：音楽の3要素　1　～旋律を中心として
　事前学習：旋律が美しいと感じたことのある曲を書き出しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。(2時間)
第4回：音楽の3要素　2　～拍子やリズムを中心として
　事前学習：リズムや拍子がおもしろいと感じたことのある曲を書き出しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。(2時間)
第5回：音楽の3要素　3　～和声を中心として
　事前学習：和声とは何か辞書等を参考に調べ、書き出しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。(2時間)
第6回：西洋の音楽史　1　クラシック音楽の誕生と発展
　事前学習：西洋クラシック音楽で、知っている作曲家を書き出しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。(2時間)
第7回：西洋の音楽史　2　クラシック音楽の落日とその後(グループワーク)
　事前学習：小学校、中学校、および高校の音楽の授業で聴いたことのある曲を書き出しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。(2時間)
第8回：音楽鑑賞・視聴　1　～器楽作品(予定)　鑑賞レポート提出
　事前学習：音楽鑑賞・視聴の題材として予告された作品について、Web等の情報を参考に下調べを行い、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で鑑賞・視聴した作品のレポートを作成し、次回授業時に提出すること。(2時間)

第９回：音色とは何か　騒音と心地のよい音
　　事前学習：騒音と心地のよい音との違いについて、自分の思うところをまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。（２時間）
第10回：音楽と美術　１　～音楽と美術との関係
　　事前学習：音楽と美術との違いについて、自分の考えを書き出しておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。（２時間）
第11回：ジャズ　１　～ジャズが誕生した背景とその音楽的特徴
　　事前学習：ジャズについて、Web等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。（２時間）
第12回：ジャズ　２　～モダン・ジャズの世界（グループワーク）
　　事前学習：モダン・ジャズとは何か、Web等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。（２時間）
第13回：ロック・ポピュラー音楽　誕生と発展
　　事前学習：20世紀とはどのような時代であったのか、Web等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。（２時間）
第14回：音楽を記録するということ　エジソンからデジタルまで
　　事前学習：録音・再生を行う機材にはどのような物があるのか、Web等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で出された宿題プリントを実施すること。（２時間）
第15回：音楽鑑賞・視聴 ２ ～ミュージカル作品（予定）　鑑賞レポート提出
　　事前学習：音楽鑑賞・視聴の題材として予告された作品について、Web等の情報を参考に下調べを行い、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で鑑賞・視聴した作品のレポートを作成し、指定の日時までに提出すること。（２時間）
第16回：定期試験
授業で配布された資料と宿題プリント、授業でお話した内容のメモを見返して下さい。

成　績　評　価　方　法

２度のレポート（20%）、定期試験（50%）、授業への参加状況（30%）で評価する。

成　績　評　価　基　準

音楽に関する通論および通史的な知識が身につき、作品に対する自分の考えを持つことができたか。

テキスト、参考図書

特定のテキストは使用しない。授業ごとに資料（プリント）を配布する。

その他（受講上の注意）

試験問題は、配布資料（プリント）と授業で話した内容とを合わせて出題する。配布物と自分でメモをとったものは試験までは紛失しないように所持おくこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活と環境C (Life Science and the Environment C)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2331	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

有史以来の環境問題を、人間生活の豊かさ、疑似科学と科学の違いと関連させながら説明します。

授業の到達目標

有史以来、環境問題が如何に発生したか、人類はそれに如何に対処してきたかについて、その概要を説明できる。現代の環境問題が人口の増大と生活の豊かさとリンクし、その複雑さゆえ単純な解決法を持たないことを説明できる。環境問題に対峙し、自ら意思決定に関わる姿勢を身につける。具体的には、①環境に関わる語句を正しく説明できる　②「科学的に正しい」とはどういうことかを理解している　③正解がない問題に対して、論理的に自分の意見を述べる、または書くことができる　ことを目標とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：イントロダクション(講義全体の紹介)
　事前学習：事前配布した講義内容に関連する用語を列挙したもの、ごく基本的な科学的知識を問う問題に取り組み、知らない用語について下調べを行うこと。
　なお解答用紙は提出を求めるが、ここでの正答率の高低は成績に影響しない。(2時間)
　事後学習：課題提出に必要となる、Office365等、学習に必要な動画受信、電子的な課題提出に必要な操作について、指定されたテスト用送受信を行い、トラブルが生じた場合は情報サポート室や担当教員に問い合わせ、解決する。(2時間)
第2回：地球の歴史と生物の進化(酸素、光と生物の関係を中心に)
　事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第3回：オゾンホール(発明当時にはわからなかったこと)
　事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第4回：大気汚染ガス①(大気汚染問題の変遷)
　事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第5回：大気汚染ガス②(自動車の排ガス、PM2.5について考える)
　事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

第６回：疑似科学と科学リテラシー（この発明は革命的か？）
事前学習：事前配布した、ある発明を報じたニュース動画および記事を閲覧し、その報道に対する感想・意見を用意しておく。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第７回：BSEと食環境（「安全」と「安心」はどう違う？）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第８回：映画「キング・コーン」を題材に（あなたの体が"コーン"でできていたとしたら？）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内で閲覧した動画に対する感想、および現代の食生活に対する問題点を整理すること。（２時間）
第９回：有機野菜・遺伝子組換え作物（賛成・反対とそれぞれの「根拠」）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第10回：「科学的に正しい」「科学では解けない」とはどういうことか（科学哲学、統計、エビデンス）
事前学習：履修者に対して配信した動画を閲覧し、その感想・意見をオンラインツールを使って交換すること。（２時間）
事後学習：講義で説明した内容について、講義担当者が示す主張に対する意見をまとめること。（２時間）
第11回：温室効果ガス（温室効果の原理、IPCCの将来予測と国際協調の論理）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第12回：持続可能な社会①（「成長の限界」と「マルサスの人口論」）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第13回：持続可能な社会②（「経済成長」と「人口」の先にあるもの）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第14回：情報化社会における「正しさ」（「ポスト真実」と「フィルターバブル」）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第15回：人類の未来を予測する（「ホモ・デウス」とその関連書籍を中心に）、まとめ
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）

成績評価方法

授業への取り組み30%、事前・事後学習での小レポート（オンラインツールによるディスカッションを含む）40%、大レポート30%で評価する。定期試験は実施しない。授業への取り組みは、所定書式で作成したノートテイクの内容を点数化する。小レポートは、指定した回の予・復習のいずれかの内容について、Ａ４用紙半分～１枚程度にまとめたもので点数化する。大レポートについては、レポートは講義数回分を踏まえた課題を２つ指定し、それぞれについてＡ４用紙１～２枚程度にまとめたものを点数化する。

成績評価基準

①環境に関わる語句を正しく説明できるか。②「科学的に正しい」ことの意味を理解できているか。③正解がない問題に対して、論理的に自分の意見を述べる、または書くことができるか。 以上３つの視点を評価する。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。参考図書：廣瀬千秋訳「改訂・実感する化学－地球感動編」（株）NTS・2015年、西岡秀三監修「地球温暖化」ニュートンプレス・2010年、石井彰著「エネルギー論争の盲点－天然ガスと分散化が日本を救う」ＮＨＫ出版新書・2011年、SYNODOS編「もうダマされないための『科学』講義」光文社新書・2011年、坂口謙吾著「環境汚染で滅びないために：生物学者の目から見た環境問題」オーム社・2008年、ユヴァル・ノア・ハラリ著・柴田裕之訳「ホモ・デウス（上）（下）」河出書房新社・2018年。

その他（受講上の注意）

受講上講義内容のノートをとる用紙を毎回配布・回収（電子的に取り込み、用紙はその場で返却）します。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅲa (EnglishⅢa)			担当教員	R ダイクス
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL-1341	1単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given.

授業の到達目標

The focus of the course is on developing reading and discussion skills. Students will learn about the world around them and then engage in thoughtful discussions in an effort to deepen their international understanding.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習 (PBL)　■討議 (ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表 (プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Introductions（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第2回：Who Is J.K. Rowling? ①（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第3回：Who Is J.K. Rowling? ②（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第4回：What Are Some New Year's Customs? ①（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第5回：What Are Some New Year's Customs? ②（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第6回：Where Is Buckingham Palace? ①（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第7回：Where Is Buckingham Palace? ②（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第8回：Mid-term Examination / Why Are Cows Special In India? ①（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)

第 9 回：Why Are Cows Special In India? ②（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第10回：Why Do People Give Gifts For Weddings? ①（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第11回：Why Do People Give Gifts For Weddings? ②（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第12回：What's Special About The Blowfish? ①（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）（ディスカッション）
第13回：What's Special About The Blowfish? ②（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第14回：Who Are The Sami? ①（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第15回：Who Are The Sami? ②（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第16回：Final Examination
Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.

成 績 評 価 方 法

Proactive In-class Participation, Homework and Assignments - 25%
Mid-term Examination - 25%
Final Examination - 50%

成 績 評 価 基 準

Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final examinations.

テキスト、参考図書

Broukal, Milada. What A World Reading 1: Amazing Stories from Around the Globe. Pearson Longman. ISBN 978-0-13-247267-8

その他（受講上の注意）

Active participation in class is essential for success in this course.

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅲb (EnglishⅢb)			担当教員	Rダイクス
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL-1342	1単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

建学の精神である仏教精神に基づく人間性の涵養と幅広い視野から物事をとらえ、高い論理性と的確な判断を下すことができる力を養う。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given.

授業の到達目標

The focus of the course is on developing reading and discussion skills. Students will learn about the world around them and then engage in thoughtful discussions in an effort to deepen their international understanding.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習 (PBL)　■討議 (ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表 (プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Introductions（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第2回：Why Are Rain Forests Important? ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第3回：Why Are Rain Forests Important? ②（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第4回：What Is Tornado Alley? ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第5回：What Is Tornado Alley? ②（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第6回：Who Was Andrew Carnegie? ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第7回：Who Was Andrew Carnegie? ②（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第8回：Mid-term Examination / Why Do People Decorate Their Bodies? ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと (30分)
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)

第 9 回：Why Do People Decorate Their Bodies? ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第10回：What Is Canada's Favorite Sport? ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第11回：What Is Canada's Favorite Sport? ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第12回：What's Special About New Zealand? ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第13回：What's Special About New Zealand? ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第14回：Who Were The Men Sailing Dragon Ships? ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第15回：Who Were The Men Sailing Dragon Ships? ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第16回：Final Examination
Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.

成 績 評 価 方 法

Proactive In-class Participation, Homework and Assignments – 25%
Mid-term Examination – 25%
Final Examination – 50%

成 績 評 価 基 準

Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final examinations.

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

Broukal, Milada. What A World Reading 1: Amazing Stories from Around the Globe. Pearson Longman. ISBN 978-0-13-247267-8

そ の 他（受 講 上 の 注 意）

Active participation in class is essential for success in this course.

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会福祉論 (Social Welfare)			担当教員	木村　多佳子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2309	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

「健康」と「幸せ」につながる社会福祉の理念や法制度について講義し、栄養士・管理栄養士に必要とされる社会福祉の基礎知識について解説する。

授業の到達目標

・わが国の社会保障のしくみと主な社会福祉制度を理解し、栄養士・管理栄養士の職務とのつながりを説明できる。
・栄養士・管理栄養士が保健医療福祉および教育分野で連携する社会福祉専門職の業務を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(事例検討)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第2回：日本の社会福祉の歴史
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第3回：社会福祉を展開する組織と専門職
　事前学習：保健医療福祉専門職の業務について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第4回：社会福祉施設の役割
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第5回：社会保障制度の体系と社会保険①
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第6回：社会保障制度の体系と社会保険②
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第7回：社会保障制度の体系と社会保険③
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第8回：低所得者福祉(事例検討)
　事前学習：指定した事例を熟読し、それに関連することを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)

第９回：子ども福祉
　　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第10回：障害者福祉
　　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第11回：高齢者福祉
　　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第12回：介護保険制度と専門職の役割①
　　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第13回：介護保険制度と専門職の役割②（事例検討）
　　事前学習：指定した事例を熟読し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第14回：医療福祉と精神保健福祉（事例検討）
　　事前学習：指定した事例を熟読し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第15回：地域福祉
　　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（90％）　平常点（10％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・わが国の社会保障のしくみと主な社会福祉制度を理解することができる。
・栄養士・管理栄養士が保健医療福祉および教育分野で連携する社会福祉専門職の業務を理解することができる。

テキスト、参考図書

鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論第４版（KS医学・薬学専門書）』　講談社　2018年

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養生化学実験 (Experiments in Nutritional Biochemistry)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2315	1単位	3年後期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルまでの機能を理解する。

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

栄養生化学とは、栄養素の代謝および関連する生体成分の特性を生化学的手法を用いて究明する学問分野である。本科目では、生体成分の分析、消化実験、栄養素の摂取と生体指標の関係性についての実験を通して、栄養素と生体生化学反応・生理機能との相互関連ひいては生化学と生理学、栄養学とをつなぐ総合的な知識の定着を図るよう授業を展開する。
授業内ではグループに分かれて実験を実施し、個人で作成する実験報告書（個人レポート）の他に「班レポート」（実験グループの構成メンバーが共同で作成する）を提出する。班レポートは原則として個人レポートの締め切り前に提出するものであり、回収後は速やかに実験データや考察内容などについてコメントして返却する。班レポートの評価内容、修正点を確認し、個人レポートに反映させると良い。
その他、授業内容・学生の理解度に応じてその他の課題を与えることがある。

授業の到達目標

栄養学の科学的根拠を得る上で生化学的な視点は不可欠であり、その手法は発達を続けている。本講義は化学実験（定性・定量・機器分析）の内容を基本として、栄養実験、生理・生化学実験の具体的な手技の習得と、実験の結果を正確にとらえ、考察を導き出す洞察力・思考力を培うこと、正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルまでの機能について実技を通して理解することを目的とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食品中の天然色素の分離①　ペーパークロマトグラフィー法　（実験）
第2回：食品中の天然色素の分離②　クロマトグラフィーの理論と考察　（ディスカッション, グループワーク）
第3回：薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の定性　（実験）
第4回：食品中遊離アミノ酸の同定　（実験）
第5回：薄層クロマトグラフィーの理論と考察　（ディスカッション, グループワーク）
第6回：食品の種類と消化率　でんぷんの消化　（実験）
第7回：でんぷんの種類と消化率についての考察　（ディスカッション, グループワーク）
第8回：栄養素の摂取状況と生体指標　実験計画の検討　（ディスカッション, グループワーク）
第9回：栄養素の摂取と生体指標　試料分析（1）　生化学的指標①　（実験）
第10回：栄養素の摂取と生体指標　試料分析（2）　生化学的指標②　（実験）
第11回：栄養素の摂取と生体指標　試料分析（3）　生化学的指標③　（実験）
第12回：栄養素の摂取と生体指標　試料分析（4）　生化学的指標④　（実験）
第13回：データ整理ならびに統計処理の理論と実際　（グループワーク）
第14回：栄養素の摂取と生体指標に関するグループディスカッション　（ディスカッション）
第15回：栄養素の摂取と生体指標に関する発表会　（プレゼンテーション）
第16回：定期試験

実験報告書（レポート）については原理・考察を記述する際に参考文献を引用し、出典を明記すること。各学生は、個人レポートの作成にあたり返却された班レポートを十分に確認することが望ましい。
ディスカッション・発表形式の授業に際しては、事前に参考とする情報の検索・整理、媒体や発表原稿の作成に取り組むこと。

成 績 評 価 方 法

レポート20%、発表20%、定期試験50%、平常点10%とし、合計で評価する。
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断する。）

成 績 評 価 基 準

クロマトグラフィーの理論と実際の手技について理解していること。
実験を通して得た知見をもとに、食品成分が消化性に与える影響について説明できること。
栄養素の摂取状況について、実験方法、成分分析、統計処理など一連の手法を通して個体の栄養状態について適切に考察できること。
以上を鑑み、総合点60点以上を合格として単位を認定する。（詳細は履修規定第７条を確認すること）

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは特に指定しない
授業内容に応じて適宜、参考図書の紹介、資料の配布をおこなう。

その他（受講上の注意）

実験室に入室する際は必ず白衣・上履きを着用し、タオル・ハンカチを持参すること。長い髪はまとめ、前髪や顔の横に垂れる髪についてはピンで留める。実験操作に支障をきたす化粧などはしない。安全管理上、授業中の指示や実験室使用のルールについては必ず従うこと。指示に従わない者、危険な行為に及ぶ者については実験を中止し、退去を命じることがある。
レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。また、期限内に提出された場合でも内容不十分な場合は再提出となる。
欠席については、可能な限り補講として追実験を実施する。日程については担当教員に相談すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅱ（子ども・高齢期栄養教育論） （Nutrition EducationⅡ（Children and Elderly））			担当教員	細田　耕平
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2340	2単位	3年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

栄養教育マネジメントで用いる行動科学の理論やモデルを踏まえ，ライフステージ（妊娠・授乳期，乳幼児期，学童期，思春期，成人期，高齢期）に応じた栄養教育のあり方を学修する。栄養教育プログラムを実践するために必要となる教材の選定や環境整備についても学修する。必要に応じて演習を交え授業を進める。

授業の到達目標

ライフステージ（妊娠・授乳期，乳幼児期，学童期，思春期，成人期，高齢期）に応じた栄養教育のあり方を修得する。また，栄養教育プログラムを実践するために必要となる，教材の選定や食環境の整備について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：栄養カウンセリングの基本1
　事前学習：授業前にp47－60を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第2回：栄養カウンセリングの基本2
　事前学習：授業前にテキストp47－61を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第3回：行動変容のための技法の活用、栄養教育への応用
　事前学習：授業前に事前配布資料（第2回に配布予定）を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第4回：妊婦、授乳婦、乳児の特性
　事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第5回：妊婦、授乳婦、乳児における栄養教育
　事前学習：授業前にテキストp149－156を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）

第６回：幼児期の特性
事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第７回：幼児期における栄養教育
事前学習：授業前にテキストp156－165を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第８回：学童期、思春期の特性
事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第９回：学童期、思春期における栄養教育
事前学習：授業前にテキストp165－183を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第10回：成人期の特性
事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第11回：成人期における栄養教育
事前学習：授業前にテキストp188－197を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第12回：高齢期の特性
事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第13回：高齢期における栄養教育
事前学習：授業前にテキストp199－204を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第14回：傷病者の栄養教育
事前学習：授業前にテキストp210－218を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第15回：ライフステージに応じた栄養教育 質疑応答
事前学習：栄養教育実習の集団栄養教育として各班が行った内容と教育方法等を振り返り、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験（70%），平常点（30%）
平常点は，授業への参加状況，受講態度，小テストの結果等から評価する。

成績評価基準

ライフステージ（妊娠・授乳期，乳幼児期，学童期，思春期，成人期，高齢期）に応じた栄養教育の進め方について説明することができるか。栄養教育プログラムを実践するために必要となる教材の環境整備について説明することができるか。

テキスト、参考図書

エッセンシャル栄養教育論　第３版，春木敏　編，医歯薬出版，2014年

その他（受講上の注意）

授業計画は，進捗状況により変更することがある。

オ フ ィ ス ア ワ ー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

栄養教育論Ⅲ（行動療法・カウンセリング） (Nutrition EducationⅢ(Behavior Theory and Counseling))			担当教員	森　　俊之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2341	1単位	3年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

行動変容を促す基礎理論として、行動療法やカウンセリング理論の基本について学ぶとともに、具体的な栄養教育場面での実践方法について考える。

授業の到達目標

・行動療法・カウンセリング理論など行動変容に関する理論の基礎について理解する。
・栄養教育の場面で、どのような関わり方をしたらいいか考える。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス（栄養教育において人間を理解する意義）
　事前学習：栄養教育論Ⅰのカウンセリングに関する内容について復習しておく（1時間）
　事後学習：授業時に指定されたキーワードについて、自分なりに整理しておく（1時間）
第2回：行動変容の基礎理論（行動療法・カウンセリング）
　事前学習：前回の授業終了時に指定されたキーワードについて、参考書等で言葉の意味を調べておく（2時間）
　事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業内容を参考にしながら、自分なりの言葉に書き直してみる（2時間）
第3回：カウンセリングの基本的技術（相手を聴く）
　事前学習：前回の授業終了時に指定されたキーワードについて、参考書等で言葉の意味を調べておく（2時間）
　事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業内容を参考にしながら、自分なりの言葉に書き直してみる（2時間）
第4回：カウンセリングの基本的技術（自分を伝える）
　事前学習：前回の授業終了時に指定されたキーワードについて、参考書等で言葉の意味を調べておく（2時間）
　事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業内容を参考にしながら、自分なりの言葉に書き直してみる（2時間）
第5回：行動変容を促す効果的な環境設定
　事前学習：前回の授業終了時に指定されたキーワードについて、参考書等で言葉の意味を調べておく（2時間）
　事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業内容を参考にしながら、自分なりの言葉に書き直してみる（2時間）

第６回：行動変容を促す効果的な報酬と罰
事前学習：前回の授業終了時に指定されたキーワードについて、参考書等で言葉の意味を調べておく（２時間）
事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業内容を参考にしながら、自分なりの言葉に書き直してみる（２時間）
第７回：発達期に合わせた関わり方（乳幼児期・児童期）
事前学習：前回の授業終了時に指定されたキーワードについて、参考書等で言葉の意味を調べておく（２時間）
事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業内容を参考にしながら、自分なりの言葉に書き直してみる（２時間）
第８回：発達期に合わせた関わり方（青年期・成人期・老年期）
事前学習：前回の授業終了時に指定されたキーワードについて、参考書等で言葉の意味を調べておく（２時間）
事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業内容を参考にしながら、自分なりの言葉に書き直してみる（２時間）
第９回：定期試験
授業終了時に、次回までにしておいてほしいことを指示する。
質問等がある場合は、積極的に研究室に来て質問すること。

成　績　評　価　方　法

学期末に実施する筆記試験（80%）と、授業時に課す課題や授業時の受講態度等（20%）により、評価する。

成　績　評　価　基　準

・行動療法・カウンセリング理論など行動変容に関する理論の基礎について説明できるか。
・栄養教育の場面で、どのような関わり方をしたらいいか考えることができ、模擬的に実践できるか。

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配付するとともに、参考図書を紹介する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅳ（健康栄養情報処理演習） （Nutrition EducationⅣ（Statistical Practice in Health Nutrition））			担当教員	三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2342	1単位	3年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

健康栄養に関する情報の処理と活用について学修する。

授業の到達目標

栄養教育論におけるニーズアセスメントや評価に活用する健康栄養に関する情報をMicrosoft Excelを用いて処理し、実際に利用するための技術を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　～授業計画の詳細と栄養情報処理演習についての説明
　事前学習：eラーニングに掲載している資料を要点をまとめておくこと。（1時間）
　事後学習：授業で課されたeラーニングの演習課題を行い提出すること。（3時間）
第2回：基本統計量について（その1）　代表値＜平均値、中央値、最頻値など＞
　事前学習：代表値の特徴について調べ、まとめておくこと。（1時間）
　事後学習：授業で課されたeラーニングの演習課題を行い提出すること。（3時間）
第3回：基本統計量について（その2）　散布度＜分散、標準偏差、変動係数、四分位数など＞
　事前学習：散布度の特徴について調べ、まとめておくこと。（1時間）
　事後学習：授業で課されたeラーニングの演習課題を行い提出すること。（3時間）
第4回：基本統計量について（その3）　分布について＜度数分布＞
　事前学習：分布の特徴について調べ、まとめておくこと。（1時間）
　事後学習：授業で課されたeラーニングの演習課題を行い提出すること。（3時間）
第5回：データのグラフ化　統計量要約グラフ＜誤差グラフ、散布図＞
　事前学習：教科書の13章のデータ入力、図表作成の要点をまとめておくこと。（1時間）
　事後学習：授業で課されたeラーニングの演習課題を行い提出すること。（3時間）
第6回：クロス集計、単相関係数、単回帰分析
　事前学習：教科書の17章の相関関係と回帰直線の要点をまとめておくこと。（1時間）
　事後学習：授業で課されたeラーニングの演習課題を行い提出すること。（3時間）
第7回：栄養情報におけるデータ解析①　カイ2乗検定
　事前学習：教科書の15章のカイ2乗検定の要点をまとめておくこと。（1時間）
　事後学習：授業で課されたeラーニングの演習課題を行い提出すること。（2時間）
第8回：栄養情報におけるデータ解析②　2群の平均値の比較（t検定）
　事前学習：教科書の18章の2群の平均値の比較の要点をまとめておくこと。（1時間）
　事後学習：授業で課されたeラーニングの演習課題を行い提出すること。（2時間）
教科書等を参考に統計やMicrosoft Excelの操作を予習することが望ましい。復習は演習時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深めるとともに、演習課題の取り組みにおいては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成　績　評　価　方　法
授業ごとの演習課題および期末課題80%、演習への取り組み態度等20%の総合評価（100%）
成　績　評　価　基　準
Microsoft Excelを活用して、健康栄養情報の処理や統計解析をすることができる。
テキスト、参考図書
テキスト： 「栄養科学シリーズNEXT　公衆栄養学実習」 講談社サイエンティフィク　2011年 参考図書： 「Excelで学ぶ統計解析入門　Excel2016/2013対応版」 菅民郎　オーム社　（2016年） 「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」 武藤志真子　建帛社　（2012年）
その他（受講上の注意）
管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので演習中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。演習課題は必ず提出すること。なお演習内容は連続性があり、欠席や遅刻ををすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養教育論実習 (Nutrition Education Practicum)			担当教員	細田　耕平
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2343	1単位	3年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

健康および生活の質(Quality of Life)の向上をめざした栄養教育プログラムの計画，実施，評価について一連のプロセスを学ぶ。集団栄養教育，個別栄養教育についてはグループワークにより学修する。

授業の到達目標

対象者のアセスメント，栄養教育プログラムの計画，実施，評価について一連のプロセスを学び，栄養教育の実践力を高め，栄養教育プログラムを総合的にマネジメントできる力を習得する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス，青年期における食生活課題の把握　【グループワーク，ディスカッション】
第2回：青年期を対象とした食生活ニーズアセスメント，質問紙設計　【グループワーク】
第3回：質問紙設計(続)，完成　【グループワーク】
第4回：集計・解析　【グループワーク】
第5回：集計・解析(続)　【グループワーク】
第6回：考察，プレゼンテーション準備　【グループワーク】
第7回：青年期のニーズアセスメント報告会　【発表】
第8回：集団栄養教育 テーマ設定(乳児・幼児期，学童期，青年期，成人期，高齢期)　【グループワーク】
第9回：集団栄養教育 行動科学理論に基づく指導計画，教材作成　【グループワーク】
第10回：集団栄養教育 模擬演習　【グループワーク】
第11回：集団栄養教育の実演　【実習】
第12回：個別栄養教育 テーマ設定 計画立案　【問題解決型学習】
第13回：個別栄養教育 行動科学理論に基づく指導計画，教材作成　【問題解決型学習】
第14回：個別栄養教育 模擬演習　【問題解決型学習】
第15回：個別栄養教育の実演　【実習】

成績評価方法

レポート(50%)，発表・実演等(30%)，平常点(20%)
平常点は，授業への参加状況，受講態度等から総合的に評価する。

成績評価基準

対象者のアセスメント，栄養教育プログラムの計画，実施，評価についての一連のプロセスを理解しているか。
栄養教育プログラムを総合的にマネジメントすることができるか。

テキスト、参考図書

授業時に指示する。必要に応じてプリントを配布する。

その他（受講上の注意）
グループのコミュニケーションをよくとって取り組むこと。また，実習内容には連続性があるため，欠席すると内容理解に支障をきたすことがある。 レポート等の提出期限は厳しく管理する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

臨床栄養病理学 (Clinical Dietetic Pathology)			担当教員	岸　慎治
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2344	1単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的知識・技能　■理論的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

臨床現場での栄養治療は、病態をよく理解して、食事や種々栄養剤に含まれる栄養素がどのように作用するかを正しく把握しながら実施していく必要がある。各種疾患の病態を十分理解したうえで、根拠に基づいた食事療法および栄養療法について教授する。

授業の到達目標

各疾患の病態を正確に把握した上で、その食事療法および栄養療法について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：臨床栄養病理学概説、生活習慣病概説（グループワーク、ディスカッション）
事前学習：授業前に生活習慣病とはなにか、どんな疾患があり、その発症機序、症候、診断、合併症、予防、治療について、学習しまとめておく事。（2時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第2回：内分泌疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち13）を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第3回：消化器疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち10）を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第4回：呼吸器疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち15）を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第5回：運動器疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち16ｂ）を読み、質問事項をまとめておく事。（1時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）

第６回：血液疾患
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち18ｂ）を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第７回：免疫とアレルギー疾患（グループワーク、ディスカッション）
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち19）を読み、ヒトの免疫応答機序、自己免疫疾患、アレルギーについてまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第８回：感染症
事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち20）を読み、質問事項をまとめておく事。（１時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第９回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

各種疾患の病態を正確に把握した上で、その食事療法および栄養療法について説明できる。

テキスト、参考図書

－サクセス管理栄養士講座－『人体の構造と機能及び疾病の成り立ち』 加藤昌彦　第一出版　2016年
講義時にプリントを配布する。

その他（受講上の注意）

講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅰ（栄養療法） （Clinical Nutrition Ⅰ（Dietetic Therapy））			担当教員	佐藤　裕保
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2345	2単位	3年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、先天性代謝異常などを、各疾患別にその発症機序、臨床症状に応じて、疾患の改善に必要な条件を栄養学の面から明らかにし、栄養食事療法の意義や方法・効果について学習する。

授業の到達目標

疾病と栄養・食事療法の関連を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（学生は毎回100文字程度の質問もしくは感想を提出、教員は次回それに対してリアクションする）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス、傷病者に対する栄養（その他）
　事前学習：傷病者に対する栄養について、図書館・インターネットなどにて予習（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第2回：消化器疾患：逆流性食道炎・胃十二指腸潰瘍（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第3回：消化器疾患：クローン病・潰瘍性大腸炎（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第4回：消化器疾患：急性肝炎・慢性肝炎（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第5回：消化器疾患：肝硬変・膵炎（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第6回：代謝疾患：糖尿病（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第7回：代謝疾患：肥満・メタボリックシンドローム（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第8回：代謝疾患：脂質異常症（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）

第９回：代謝疾患：高尿酸血症（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第10回：循環器疾患：狭心症・心筋梗塞（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第11回：循環器疾患：高血圧（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第12回：腎疾患：ネフローゼ症候群（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第13回：腎疾患：慢性腎臓病・透析（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第14回：先天性代謝異常：フェニルケトン尿症（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第15回：小児疾患：食物アレルギー・質疑応答（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第16回：定期試験
毎回終了時に次回のプリントを配布するので、事前学習に用いること。その際、基礎科目との知識の連携を心がけること。併せて、各疾病と関連する解剖生理学・生化学などの復習を含めること。
事後学習においては、関連する基礎科目の知識と統合できるように復習すること。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

疾病と食事・栄養療法の関連を説明することができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリント配布

その他（受講上の注意）

出席カードに、授業内容に対する質問もしくは感想の記入を求める。内容の軽薄なものは、出席と認めない。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅱ(栄養アセスメント) (Clinical NutritionⅡ(Nutrition Asessment))			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2346	2単位	3年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

傷病者の栄養状態あるいは疾病コントロール状況を評価・判定し、適切な栄養ケアプランを立案できる知識と技術を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、身体・栄養状態の評価・判定法について説明できる

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：臨床栄養の概念(医療の現状と問題、管理栄養士の職務、医療における栄養管理の意義)
　事前学習：授業前にテキストの臨床栄養の概念に関する項を予習する。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(2時間)
第2回：診療報酬と管理栄養士の役割、クリニカルパスとバリアンス
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの管理栄養士の役割について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(2時間)
第3回：栄養スクリーニングとアセスメントの意義と方法
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養スクリーニングとアセスメントについて調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(2時間)
第4回：問診、観察、身体計測と臨床症候
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの身体計測と臨床症候について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(2時間)
第5回：臨床検査、食事摂取量調査
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの臨床検査項目と食事調査方法について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(2時間)
第6回：栄養診断、エネルギー必要量の算出
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養診断について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(2時間)
第7回：炭水化物、タンパク必要量、脂質の必要量の算出
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養素の必要量の算出方法について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。(2時間)

第８回：水分出納と水分必要量の算出
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの水分出納と水分必要量の算出について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第９回：ミネラルのアセスメントと必要量
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントのミネラルの役割と食事摂取基準について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第10回：ビタミンのアセスメントと必要量
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントのビタミンの役割と食事摂取基準について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第11回：栄養管理計画と実施
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養管理計画の作成について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第12回：栄養補給法の種類と適応
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養補給法の種類と適応について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第13回：傷病者・要介護者の栄養教育、モニタリング、再評価
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養教育、モニタリング、再評価について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第14回：口腔アセスメント、摂食嚥下障害、嚥下食
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの摂食嚥下評価方法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第15回：薬と栄養・食物の相互作用
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの薬と栄養・食物の相互作用について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験90%（授業の理解度を評価する）、 平常点10%（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、身体・栄養状態の評価・判定法、栄養計画について説明できるか

テキスト、参考図書

栄養科学シリーズ
新・臨床栄養学　　編者　竹谷豊ほか　講談社

その他（受講上の注意）

医学会の治療基準等の改定により、授業計画は変更することがある。
各回の講義を受けた後で、配付資料と教科書・参考書を見直して、次回の授業に臨んでください。また、講義予定に合わせて教科書・参考書の関連する項目を読み、疑問点などを考えておくこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅲ（チーム医療） （Clinical NutritionⅢ（Team Healthcare））			担当教員	佐藤　裕保
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2347	2単位	3年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

医療・介護保険における管理栄養士業務、チーム医療における管理栄養士の役割について学習する。
チーム医療の一員として活動するための知識を学習する。

授業の到達目標

チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（学生は毎回100文字程度の質問もしくは感想を提出、教員は次回それに対してリアクションする）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス、チーム医療への参画がなぜ必要か（その他）
　事前学習：チーム医療について、図書館・インターネットなどにて予習（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第2回：医療保険制度Ⅰ（制度概要・入院時食事療養）（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第3回：医療保険制度Ⅱ（特別食加算）（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第4回：医療保険制度Ⅲ（入院基本料・NST加算）（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第5回：医療保険制度Ⅳ（栄養食事指導料）（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第6回：介護保険制度（制度概要・療養食加算・居宅療養管理指導）（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第7回：医療・介護保険制度まとめ（グループワーク）（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第8回：NST・ターミナルケア（その他）
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）

第９回：管理栄養士としての倫理（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第10回：米国のRD（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第11回：リスクマネジメント・災害時対応（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第12回：クリティカルパス（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第13回：医薬品と食品の相互作用Ⅰ（医薬品とは）（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第14回：医薬品と食品の相互作用Ⅱ（実例）（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第15回：チーム医療における管理栄養士・質疑応答（グループワーク）（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第16回：定期試験
毎回終了時に次回のプリントを配布するので、事前学習に用いること。併せて、２－６回は「健康管理概論」「社会福祉論」における関連部分の復習を含めること。
事後学習においては、他の臨床栄養学科目の知識と統合できるように復習すること。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について理解できたか。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリント配布

その他（受講上の注意）

出席カードに、授業内容に対する質問もしくは感想の記入を求める。内容の軽薄なものは、出席と認めない。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅳ（臨床栄養管理） （Clinical NutritionⅣ（Nutritional Care Management））			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2348	2単位	3年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

栄養ケア・マネジメントを実践する上で栄養状態の適格な判断・評価に必要な知識と技術を解説する。各種疾患別に身体状況（口腔状態を含む）や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法について解説する。各疾病の病態と適切な臨床栄養管理における注意点について解説する。

授業の到達目標

各種疾患別に栄養状態を適格に評価・判定でき、身体状況（口腔状態を含む）や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法と施行時の注意点について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：臨床栄養管理学の意義、飢餓、たんぱく質、エネルギー栄養障害（PEM）
　事前学習：授業前にテキスト　栄養障害の項、予習する。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第2回：経腸栄養法、静脈栄養法の合併症
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの経腸・静脈栄養法の合併症について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第3回：術前の栄養管理（予後栄養アセスメント、低栄養と術後合併症）
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの予後栄養アセスメンについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第4回：術後の栄養管理（ダンピング症候群、ミネラル・ビタミン欠乏、短腸症候群）
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントのダンピング症候群について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第5回：消化器疾患の栄養管理（胃食道逆流症、過敏性腸症候群）
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの胃食道逆流症について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第6回：消化器疾患の栄養管理（クローン病、潰瘍性大腸炎）
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの炎症性腸疾患について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第7回：がんの栄養管理（ガン悪液質、栄養代謝異常）
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントのガン悪液質について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）

第８回：免疫・アレルギー疾患の栄養管理
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントのⅠ型アレルギーについて調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第９回：腎疾患の栄養管理（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病）
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの慢性腎臓病の食事療法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第10回：腎疾患の栄養管理（糖尿病性腎症、透析療法）
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの糖尿病性腎症、透析患者の食事療法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第11回：肝疾患の栄養管理（肝炎と肝硬変）
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの肝疾患のアセスメントと食事療法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第12回：脂質異常症の栄養管理（高脂血症と動脈硬化症）
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの動脈硬化症予防のための食事療法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第13回：糖尿病の薬物療法と食事療法
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの糖尿病薬の種類と特徴について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第14回：妊娠糖尿病と妊娠高血圧症候群の栄養管理
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの妊娠糖尿病の診断基準と治療について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第15回：特定健康診査（選定・階層化と支援プログラム）
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの特定健康診査の項目と階層化について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）、小テスト（30％）、平常点（20％）（平常点は、授業への参加状況・授業態度、質問用紙の提出状況を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

各種疾患別に栄養状態を適格に評価・判定でき、身体状況（口腔状態を含む）や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法と施行時の注意点について説明できるか。

テキスト、参考図書

１）新・臨床栄養学、竹谷豊ら　編　栄養科学シリーズNEXT、講談社サイエンティフィク
２）臨床栄養学実習書、医歯薬出版
３）その他、参考プリントを、授業の進捗過程で必要に応じて配布する。

その他（受講上の注意）

授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。また、国内外の文献・記事なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅰ（食事療法） (Clinical Nutrition Practicum Ⅰ (Dietetic Therapy))			担当教員	佐藤　裕保
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2349	1単位	3年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、先天性代謝異常などを、各疾患別に疾病の改善や回復を、より適切に効果的に促進するための栄養食事療法を実習する。
対象者を的確に把握し、疾患の特徴と栄養食事療法の特徴を結び付けて考えることができるように、治療食作成の技術を学習する。
５－６人のグループにて授業を行う。

授業の到達目標

治療食作成を通して、栄養・食事療法を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：ガイダンス、治療食献立作成について
第２回：消化器疾患：易消化食（献立作成）（グループワーク・実習）
第３回：消化器疾患：易消化食（調理・試食）（グループワーク・実習）
第４回：消化器疾患：急性肝炎・肝硬変（献立作成）（グループワーク・実習）
第５回：消化器疾患：肝硬変非代償期（調理・試食）（グループワーク・実習）
第６回：代謝疾患：糖尿病（献立作成）（グループワーク・実習）
第７回：代謝疾患：糖尿病（調理・試食）（グループワーク・実習）
第８回：代謝疾患：高コレステロール血症・高トリグリセライド血症（献立作成）（グループワーク・実習）
第９回：代謝疾患：高コレステロール血症（調理・試食）（グループワーク・実習）
第10回：循環器疾患：高血圧症（献立作成）（グループワーク・実習）
第11回：循環器疾患：高血圧症（調理・試食）（グループワーク・実習）
第12回：腎疾患：慢性腎臓病（献立作成）（グループワーク・実習）
第13回：腎疾患：慢性腎臓病（調理・試食）（グループワーク・実習）
第14回：先天性代謝異常：フェニルケトン尿症（献立作成）（グループワーク・実習）
第15回：小児疾患：食物アレルギー（献立作成）（グループワーク・実習）
臨床栄養学Ⅰとの知識の連携を心がけること。

成績評価方法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成績評価基準

治療食作成を通して、栄養・食事療法を理解できたか。

テキスト、参考図書
「臨床栄養学実習書」医歯薬出版 「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病協会 「腎臓病食品交換表」医歯薬出版
その他（受講上の注意）
毎回、提出物を求める。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅱ（栄養アセスメント） (Clinical Nutrition Practicum Ⅱ (Nutrition Asessment))			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2350	1単位	3年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

栄養ケア・マネジメントを実践するための栄養状態を適格に判断・評価できる栄養スクリーニングと栄養アセスメントの知識と技術を解説し、個人個人の栄養問題を解決していける臨床栄養管理能力を修得させる。各種疾患別症例の検討による栄養状態の把握と具体的な栄養管理方法について解説する。

授業の到達目標

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、各種計測による身体・栄養状態の評価・判定、栄養管理法の進め方について理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション　臨床栄養学実習を学ぶにあたって　（臨床栄養管理に必要な技能）
第2回：身体計測　（実習、実技）
第3回：骨格筋量、体脂肪量の測定　（実習、実技）
第4回：エネルギー消費量　（実習、実技）
第5回：バイタルサイン（体温、脈拍、呼吸数）　（実習、実技）
第6回：バイタルサイン（血圧測定）　（実習、実技）
第7回：臨床診査と臨床検査　（討議、実習、実技）
第8回：尿検査、タンパクと塩分摂取量の算出　（討議、実習、実技）
第9回：嚥下機能評価と訓練　（討議、実習、実技）
第10回：嚥下障害食－とろみ剤の検討、嚥下訓練－　（討議、実習、実技）
第11回：経腸栄養法と静脈栄養法の種類と特徴　（討議、実習、実技）
第12回：食後血糖上昇の評価　（討議、実習、実技）
第13回：SOAPに沿った栄養記録の作成　（討議、実習、実技）
第14回：症例検討　（COPD）－肺活量、一秒率の測定－　（討議、実習、実技）
第15回：症例検討　（肝硬変患者のアセスメント）　（討議）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験（50%）、レポート（30%）、平常点（20%）（平常点は、授業への参加状況・授業態度、質問用紙の提出状況を総合して判断します。）

成績評価基準

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、各種計測による身体・栄養状態の評価・判定、栄養管理法の進め方について説明できるか。

テキスト、参考図書
1）臨床栄養管理学実習、塚原丘美　編　栄養科学シリーズNEXT、講談社サイエンティフィク 2）臨床栄養学実習書、医歯薬出版 3）日本糖尿病学会編 「糖尿病食事療法のための食品交換表」 文光堂 4）腎臓病食品交換表、黒川清　監修／中尾俊之　編集代表、医歯薬出版 5）糖尿病性腎症の食品交換表、日本糖尿病学会（著）、文光堂
その他（受講上の注意）
授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。また、国内外の文献・資料なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅲ(臨床栄養管理) (Clinical Nutrition PracticumⅢ(Nutritional Care Management))			担当教員	山本　浩範、石黒真理子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2351	1単位	3年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

傷病者個々の病態や栄養状態に適合した栄養管理を行う能力を養うために、症例モデルを用いた栄養アセスメント・栄養管理計画・栄養量の設定・栄養教育計画など、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントについて、グループディスカッションを通して臨床栄養管理を実習する。

授業の到達目標

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴を理解し、栄養管理計画および栄養ケア計画を立てることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：職業倫理と臨床栄養管理について　(山本、石黒)
第2回：栄養管理手順、医療情報の収集について　(実習、発表)　(山本、石黒)
第3回：栄養ケア計画、栄養管理計画について　(実習、発表)　(山本、石黒)
第4回：経腸栄養法、静脈栄養法の合併症　(実習、発表)　(山本、石黒)
第5回：栄養管理計画書の作成　(実習、発表)　(山本)
第6回：栄養管理計画(胃癌術後)　(実習、討議、発表)　(山本)
第7回：栄養管理計画(クローン病)　(実習、討議、発表)　(山本)
第8回：医学的・栄養学的問題点(肥満、高血圧症、糖尿病)　(実習、討議、発表)　(山本)
第9回：症例検討(慢性腎不全)　(討議、発表)　(山本)
第10回：症例検討(非代償性肝硬変)　(討議、発表)　(山本)
第11回：症例検討(動脈硬化)　(討議、発表)　(山本)
第12回：症例検討(脳梗塞、嚥下障害)　(討議、発表)　(石黒)
第13回：特定保健指導(階層分けと積極的支援)　(実習、討議、発表)　(石黒)
第14回：特定保健指導(積極的支援プログラム)　(実習、討議、発表)　(石黒)
第15回：特定保健指導(積極的支援プログラムにおける個人面談)　(実習、討議、発表)　(石黒)
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験(50%)、レポート(30%)、平常点(20%)(授業への参加状況・授業態度、質問用紙の提出状況を総合して判断します。)

成績評価基準

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴を理解し、栄養管理計画および栄養ケア計画を立てることができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリント配布
その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公衆栄養学Ⅱ（栄養疫学） (Public Health NutritionⅡ(Nutritional Epidemiology))			担当教員	三浦　　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2353	2単位	3年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

日本における健康や栄養摂取状況の実態や国内や海外で行われている栄養疫学調査についての学術文献等で紹介し、さらに食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法の理論について学ぶ。

授業の到達目標

保健・医療・福祉・介護システムにおいて、地域住民の栄養摂取状況における疾病の発症のハイリスク集団の特定とともに集団または個々の対象者の健康・栄養状態を適切に把握し、対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができるようにするために必要な理論と手法を修得する。集団または個々の対象者の栄養摂取状況を把握するための食事調査法を学び、さらに食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　－授業計画の詳細と公衆栄養学Ⅱ（栄養疫学）の概要についての説明－
　事前学習：授業前に前期で履修した公衆栄養学実習で学んだことを復習しておくこと。（1時間）
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（3時間）
第2回：栄養関連の法規と調査統計
　事前学習：授業前に教科書の第3章と巻末の栄養関連法規の要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間）
第3回：国民健康・栄養調査　概要と調査法
　事前学習：授業前に厚労省のサイトにある国民健康・栄養調査結果報告の調査概要の内容をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間）
第4回：我が国の健康・栄養の推移と現状①（国民健康・栄養調査結果から）
　事前学習：授業前に厚労省のサイトにある国民健康・栄養調査結果報告の結果概要の内容をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料の内容ついて、整理してまとめておくこと。（2時間）
第5回：我が国の健康・栄養の推移と現状②（国民健康・栄養調査結果から）
　事前学習：授業前に厚労省のサイトにある国民健康・栄養調査結果報告の内容をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間）
第6回：我が国の健康・栄養の推移と現状③（県民健康・栄養調査結果から）
　事前学習：授業前に福井県のサイトにある県民健康・栄養調査結果報告書の内容をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間）

第７回：諸外国の健康と栄養の現状と課題
事前学習：教科書の第2,3章の関連するところを調べまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第８回：栄養疫学の概要（役割と応用）
事前学習：教科書の第４章の栄養疫学の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第９回：研究結果の競合的解釈
事前学習：前回配布した資料と教科書の第４章の栄養疫学の指標についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第10回：研究デザインの概要
事前学習：教科書の第４章の栄養疫学の方法の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第11回：暴露情報としての食事摂取量（食物摂取の変動要因）
事前学習：教科書の第４章の栄養疫学の指標で該当するところを調べまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布されたプリントの内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第12回：食事調査法の概要①（24時間思い出し法、秤量記録法＜秤量法と目安法＞）
事前学習：教科書の第４章の食事摂取量の測定方法の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第13回：食事調査法の概要②（食物摂取頻度調査法）
事前学習：教科書の第４章の食事摂取量の測定方法と前回配布した資料で該当するところを調べまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第14回：食事摂取量を反映する身体計測値・生化学的指標
事前学習：教科書の第４章の食事摂取量と評価方法の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で配布されたプリントの内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第15回：栄養疫学研究の文献紹介
事前学習：栄養関連について研究した文献を１つ検索して、その研究内容をまとめておくこと。（３時間）
事後学習：授業で行った内容について、整理してまとめておくこと。（１時間）
第16回：定期試験
公衆栄養学Ⅰの講義で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておこくと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深める。課題の取り組みについては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成　績　評　価　方　法

定期試験60%、課題レポート20%、授業への取り組み態度等20%の総合評価（100%）

成　績　評　価　基　準

対象者の栄養摂取状況を把握するための食事調査法の理論を理解している。
食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法を理解している。
対象者の健康・栄養状態を適切に把握し、疾病の発症のハイリスク集団の特定ができる。
対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができる。

テキスト、参考図書

「健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学（改訂第６版）」 南江堂　2018年
「日本人の食事摂取基準（2015年版）」 第一出版　2015年

その他（受講上の注意）

管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので講義中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があり、欠席や遅刻ををすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公衆栄養学実習 (Public Health Nutrition Practicum)			担当教員	三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2354	1単位	3年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

公衆栄養学の講義内容で学修した知識を基礎にして、地域における効果的な公衆栄養学活動が推進できるように学内で模擬的な実習を行う。

授業の到達目標

地域や職域等の集団における保健・医療・介護の実態把握や食生活状況や栄養摂取状況についての情報収集をどのように行うか、また得られた情報を実際にどのように処理し分析・解析していくかを修得する。さらに、実践で栄養摂取状況において疾病の発症のハイリスク集団に対しての適切な栄養関連サービスを行うプログラム作成・実施・評価することや総合的にマネジメントを行うことができるように手法を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　～授業計画の詳細についての説明と公衆栄養学研究とは～ ＜講義＞
第2回：公衆栄養学関連の文献検索法と資料検索 ＜実習＞
第3回：公衆栄養学における研究の情報処理　データ処理①(データの取り扱い方) ＜実習＞
第4回：公衆栄養学における研究の情報処理　データ処理②(データ整理と集計の仕方) ＜実習＞
第5回：公衆栄養学における研究の情報処理　データ処理③(作表、データ解析の仕方 ＜実習＞)
第6回：公衆栄養学における研究デザイン(観察研究と介入研究) ＜実習＞
第7回：研究計画書作成、倫理審査、インフォームドコンセント ＜実習＞
第8回：質問票の作成法(テーマの設定、質問票の構成) ＜実習＞
第9回：生活活動時間調査によるエネルギー消費量測定 ＜実習＞
第10回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法①　食品の目安量(ポーションサイズ)、摂取量の推定 ＜実習＞
第11回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法②　24時間思い出し法 ＜実習＞
第12回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法③　秤量記録法(実測値) ＜実習＞
第13回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法④　食物摂取頻度調査法 ＜実習＞
第14回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法⑤　市販パソコンソフトによる調査(FFQ) ＜実習＞
第15回：栄養摂取状況の評価　食事摂取基準の活用法 ＜実習＞
公衆栄養学Ⅰ、Ⅱの講義で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておこくと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深めるとともに、実習課題の取り組みにおいては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

成績評価方法

課題レポート70%、実習への取り組み態度等30%の総合評価(100%)

成　績　評　価　基　準

地域や職域等の集団における保健・医療・介護の実態把握や食生活状況や栄養摂取状況についての情報収集ができ、さらに得られた情報を適切に処理し分析・解析できること。
栄養摂取状況を評価し、疾病の発症のリスクの対象者や集団を見出し、それに対しての適切な栄養関連サービスを行うプログラム作成・実施・評価する総合的にマネジメントができること。

テキスト、参考図書

「栄養科学シリーズNEXT　公衆栄養学実習」 講談社サイエンティフィク　2011年
「健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学（改訂第６版）」 南江堂　2018年
「日本人の食事摂取基準（2015年版）」 第一出版　2015年

その他（受講上の注意）

栄養士免許資格、管理栄養士国家試験受験資格を修得するためには、この科目は必修になるので積極的に実習に臨むこと。私語など他人に迷惑をかける行為をする者、指示に従わない者に対しては、単位を認定しないこともある。なお実習内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。授業の計画の予定は、変更されることもある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅱ(マネジメント)(編入生) (Food Service Management Ⅱ (Management))			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2256	2単位	3年前期	演習	必須

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

給食運営や食品流通の理解を基に、経営管理(組織・人事、会計・原価、情報処理、事故・災害時対策等)について関連の資源(食品の流通や食品開発の状況、給食に関わる組織やそれにかかる経費)との関係を総合的に述べ、栄養面、安全面に加え、経済面全般のマネジメントが行えるようにする。また、マーケティングの原理やその応用法、組織管理などマネジメントの基本的考え方や方法について述べる。また、さらに各種給食施設の特徴についても講義する。

授業の到達目標

・経営管理の意義と機能について説明出来る。
・給食とマーケティングについて説明出来る。
・給食の衛生管理について説明出来る。
・給食の人事管理について説明出来る。
・給食の原価構成について説明出来る。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：給食経営管理の概要
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営と管理の科学の給食経営管理の概要を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。(2時間)
第2回：管理栄養士の役割
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営と管理の科学)の管理栄養士の役割を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。(2時間)
第3回：経営管理の意義Ⅰ(給食経営と組織)
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営と管理の科学)の経営管理の意義Ⅰ(給食経営と組織)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。(2時間)
第4回：経営管理の意義Ⅱ(給食経営管理の評価)
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営と管理の科学)の経営管理の意義Ⅱ(給食経営管理の評価)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。(2時間)
第5回：経営管理の機能と展開Ⅰ(栄養・食事管理)
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営と管理の科学)の経営管理の機能と展開Ⅰ(栄養・食事管理)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。(2時間)

第６回：経営管理の機能と展開Ⅱ（品質の標準化）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の経営管理の機能と展開Ⅱ（品質の標準化）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第７回：マーケティングⅠ（マーケティングの原理）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）のマーケティングⅠ（マーケティングの原理）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第８回：マーケティングⅡ（マーケティングの活用）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）のマーケティングⅡ（マーケティングの活用）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第９回：衛生管理の意義Ⅰ（HACCPシステムの運用）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の衛生管理の意義Ⅰ（HACCPシステムの運用）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第10回：衛生管理の意義Ⅱ（危機管理対策）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の衛生管理の意義Ⅱ（危機管理対策）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第11回：給食の人事管理Ⅰ（雇用形態）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の給食の人事管理Ⅰ（雇用形態）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第12回：給食の人事管理Ⅱ（教育・訓練）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の給食の人事管理Ⅱ（教育・訓練）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第13回：給食の原価構成Ⅰ（原価計算）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の給食の原価構成Ⅰ（原価計算）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第14回：給食の原価構成Ⅱ（財務諸表）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の給食の原価構成Ⅱ（財務諸表）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第15回：財務管理
事前学習：授業前にテキスト（給食経営と管理の科学）の財務管理を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験（50%）、授業への取り組み（30%）、小テスト（20%）

成績評価基準

・経営管理の意義と機能について説明出来るか。
・給食とマーケティングについて理解しているか。
・給食の衛生管理について理解しているか。
・給食の人事管理について理解しているか。
・給食の原価構成について理解しているか。

テキスト、参考図書

『栄養管理と生命科学シリーズ』
給食経営と管理の科学　理工図書　2016年

その他（受講上の注意）

毎回授業終了時に復習として小テストを実施する。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅲ(食料商品学) (Food Service ManagementⅢ(Food Product Studies))			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2357	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

食品流通についての記述・説明・検証する能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

食料を食品として捉え、食品産業(生鮮食品、加工食品、特定保健用食品、外食産業など)の概念から食品産業の生み出す様々な食品素材の製造技術及び新製品の開発状況を紹介する。食品産業の占める経済活動について学び、食品の安全性問題をベースに今日の食環境の問題点を提起し、あるべき食品商品像について考える。

授業の到達目標

・食品産業を取り巻く環境を理解出来ている。
・食品産業の特色について理解する。
・国際化する食品産業について理解する。
・食品産業で働くことについて理解する。
・食品産業の未来について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食品産業について
　事前学習：授業前に配布資料(食品について)を読み、質問項目を整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間)
第2回：食品産業を取り巻く環境
　事前学習：授業前に配布資料(食品産業を取り巻く環境)を読み、質問項目を整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間)
第3回：食品産業の特色Ⅰ(わが国最大の生活産業)
　事前学習：授業前に配布資料(食品産業の特色Ⅰ(わが国最大の生活産業))を読み、質問項目を整理してこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間)
第4回：食品産業の特色Ⅱ(食の三つの「不」の解消を通じた食生活の革新)
　事前学習：授業前に配布資料(食品産業の特色Ⅱ(食の三つの「不」の解消を通じた食生活の革新))を読み、質問項目を整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間)
第5回：食品業界活性化Ⅰ(食品をめぐるライバル競争の特徴)
　事前学習：授業前に配布資料(食品業界活性化Ⅰ(食品をめぐるライバル競争の特徴))を読み、質問項目を整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。(2時間)

第６回：食品業界活性化Ⅱ（花や化粧品への参入で多角化を目指す）
事前学習：授業前に配布資料（食品業界活性化Ⅱ（花や化粧品への参入で多角化を目指す））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第７回：国際化する食品業界Ⅰ（守るも攻めるも「国際化」は不可避）
事前学習：授業前に配布資料（国際化する食品業界Ⅰ（守るも攻めるも「国際化」は不可避））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第８回：国際化する食品業界Ⅱ（地域密着型で国際化をリードする）
事前学習：授業前に配布資料（国際化する食品業界Ⅱ（地域密着型で国際化をリードする））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第９回：食品産業の魅力市場Ⅰ（温故知新の伝統回帰食品）
事前学習：授業前に配布資料（食品産業の魅力市場Ⅰ（温故知新の伝統回帰食品））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第10回：食品産業の魅力市場Ⅱ（効能訴求で成長する食品）
事前学習：授業前に配布資料（食品産業の魅力市場Ⅱ（効能訴求で成長する食品））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第11回：食品産業の魅力市場Ⅲ（新しい衣をまとい成長する伝統食品）
事前学習：授業前に配布資料（食品産業の魅力市場Ⅲ（新しい衣をまとい成長する伝統食品））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第12回：食品企業で働くⅠ（営業は企業の顔、底力なり）
事前学習：授業前に配布資料（食品企業で働くⅠ（営業は企業の顔、底力なり））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第13回：食品企業で働くⅡ（求められる多様な人材の獲得と育成）
事前学習：授業前に配布資料（食品企業で働くⅡ（求められる多様な人材の獲得と育成））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第14回：21世紀の企業条件
事前学習：授業前に配布資料（21世紀の企業条件）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
事第15回：食品産業の未来
事前学習：授業前に配布資料（食品産業の未来）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、授業への取り組み（30%）、小テスト（20%）

成　績　評　価　基　準

・食品産業を取り巻く環境を理解しているか。
・食品産業の特色について理解しているか。
・国際化する食品産業について理解しているか。
・食品産業で働くことについて理解しているか。
・食品産業の未来について理解しているか。

テキスト、参考図書

関係資料、プリント配布

その他（受講上の注意）

板書などが見えにくい場合は、必ず申し出ること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅰ (Integrated Seminar Ⅰ)			担当教員	佐藤　裕保、三浦　　努、樽井　雅彦、山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2259	2単位	2年後期･3年･4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。
オムニバスにて臨地実習の事前事後指導を行う。
事前指導として、臨地実習の意義についての指導および、実習に際しての具体的準備を行う。
実習先施設の特徴の把握、実習テーマ設定等を実習グループにて行う。
事後指導として、実習の成果および実習テーマについてまとめ、プレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：臨地実習オリエンテーション：社会人としてのマナーについて（佐藤裕・三浦・樽井・山本）
　　事前学習：社会人としてのマナーについて、ネット検索などによりまとめる（2時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第2回：（給食運営実習）：実習施設の特徴について（樽井）
　　事前学習：給食の運営について、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（2時間）
第3回：（給食運営実習）：給食の運営について（樽井）
　　事前学習：給食の運営について、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第4回：（給食運営実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（樽井）
　　事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（2時間）
　　事後学習：実習ノートを熟読する（2時間）
第5回：（給食運営実習）：実習報告（発表）（樽井）
　　事前学習：発表媒体・原稿の準備（2時間）
　　事後学習：他施設の発表についてまとめる（2時間）
＜公衆栄養臨地実習＞
第6回a：（公衆栄養臨地実習）：実習施設の特徴について（三浦）
　　事前学習：公衆栄養臨地実習について、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（2時間）
第7回a：（公衆栄養臨地実習）：公衆栄養マネジメントについて（三浦）
　　事前学習：公衆栄養マネジメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）

第８回a：（公衆栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（三浦）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第９回a：（公衆栄養臨地実習）：実習報告（発表）（三浦）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
＜給食経営管理臨地実習＞
第６回b：（給食経営管理臨地実習）：実習施設の特徴について（樽井）
事前学習：給食経営管理臨地実習について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（２時間）
第７回b：（給食経営管理臨地実習）：給食経営管理について（樽井）
事前学習：給食経営管理について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第８回b：（給食経営管理臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（樽井）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第９回b：（給食経営管理臨地実習）：実習報告（発表）（樽井）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第10回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の発表、臨床栄養臨地実習の聴講）（発表）（佐藤裕・三浦・樽井・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第11回：（臨床栄養臨地実習）：実習施設の特徴について（佐藤裕・山本）
事前学習：臨床栄養臨地実習について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（２時間）
第12回：（臨床栄養臨地実習）：栄養ケアマネジメントについて（佐藤裕・山本）
事前学習：栄養ケアマネジメントについて、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第13回：（臨床栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク･ディスカッション）･実習ノートについて（佐藤裕･山本）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第14回：（臨床栄養臨地実習）：実習報告（発表）（佐藤裕・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第15回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の聴講、臨床栄養臨地実習の発表）（発表）（佐藤裕・三浦・樽井・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にすること。

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解できたか。

テキスト、参考図書

それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。
必要に応じてプリント配布。

その他（受講上の注意）

正当な理由なく事前指導を欠席した場合、臨地実習に出られない場合がある。
６－９回については、選択した臨地実習に出席する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

給食経営管理臨地実習 (Field Practice in Food Service Management)			担当教員	樽井　雅彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2361	1単位	3年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（選択）

授業の内容

給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養うために、マーケティングの原理や応用について理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。

授業の到達目標

・各種給食施設に応じた栄養面のマネジメントが出来る。
・各種給食施設に応じた衛生面及び安全面のマネジメントが出来る。
・各種給食施設に応じた経済面のマネジメントが出来る。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

3年次8～9月に1週間（45時間）の給食施設（学校・病院・福祉施設・事業所等）実習を行う。
①実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ（実習）
②実習施設ごとの実習計画による実習（実習）
③実習施設についての理解（組織・運営）（実習）
④食材料管理の把握・考察（実習）
⑤作業管理・業務分担の把握・考察（実習）
⑥安全・衛生管理の把握・考察（実習）
⑦給食に関するマネージメント全般についての理解（実習）
⑧給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶなど・実習施設について事前に十分な下調べ（施設概要等）を行なうこと。（実習）
⑨実習成果に関する報告書及び発表（グループワーク及び発表）

成績評価方法

各自の実習実施施設の指導管理栄養士の評価70%、実習ノート30%

成績評価基準

・各種給食施設に応じた栄養面のマネジメントが出来るか。
・各種給食施設に応じた衛生面及び安全面のマネジメントが出来るか。
・各種給食施設に応じた経済面のマネジメントが出来るか。

テキスト、参考図書

給食経営管理論Ⅰや給食経営管理論実習にて使用した教科書、参考図書及び実習ノート。
『栄養管理と生命科学シリーズ』　給食経営と管理の科学　理工図書　2015年
給食経営管理実習　ワークブック（第3版）　(株) みらい　2015年

その他（受講上の注意）
・実習施設について事前に十分な下調べ（施設概要等）を行なうこと。 ・事前に出された課題は、必ず準備して実習に臨むこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養臨地実習 (Field Practice in Clinical Nutrition)			担当教員	佐藤　裕保、山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2362	2 単位	3年後期･4年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
傷病者を対象とした臨床栄養管理について病院や老人保健施設において管理栄養士の業務を臨地で実習する。
外来・入院患者や入所者に対する栄養評価・判定、栄養食事指導、診療科やベッドサイド訪問、栄養ケアプランの作成などを実習し、NST（栄養サポートチーム）における管理栄養士の役割など、医師・看護師など医療専門職との連携の実際を学び、医療スタッフの一員として必要な技術・能力を修得する。

授業の到達目標

医療領域における管理栄養士業務の実際を理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ（実習）
実習施設ごとの実習計画による実習（実習）
実習施設についての理解（組織・運営）（実習）
医療施設・介護老人保健施設における管理栄養士業務の理解（実習）
栄養評価・判定（PBL・実習）
栄養食事指導（PBL・実習）
診療科やベッドサイド訪問により栄養アセスメント、栄養介入の実際を学ぶ（PBL・実習）
栄養管理計画（栄養ケアプラン）の作成（PBL・実習）
実習内容に沿ったプレゼンテーション（グループワーク・発表）
医療専門職との連携・共働の実際について学ぶ　などこれまでに学習した知識を総動員すること。
これまでに使用した教科書および参考図書を、最大限に活用すること。

成績評価方法

準備状況（20%）実習状況（20%）実習ノート等の提出物（20%）実習施設指導担当者による評価（40%）

成績評価基準

医療領域における管理栄養士業務の実際を理解できたか。

テキスト、参考図書

臨床栄養学および臨床栄養学実習にて使用した教科書および参考図書、配布プリント。

その他（受講上の注意）
社会の一員としての自覚を持ち、守秘義務、職業倫理の遵守に努めること。 事故発生時は、早急に実習施設および大学に連絡すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

公衆栄養臨地実習 (Field Practice in Public Health)			担当教員	三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2363	1単位	3年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（選択）

授業の内容

都道府県の保健所および市町村の保健センターなどで栄養行政における栄養マネジメントを体験し、公衆栄養マネージメントの能力を修得する。

授業の到達目標

都道府県の保健所や市町村の保健センターにおける栄養行政の役割について理解する。また、地域に食生活習慣における問題点を解析して明らかにし、生活習慣や食行動の変容を図る知識と技術を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

栄養総合演習Ⅰの実習事前授業で実習の概要や内容について理解し、さらに、実習施設へ実習計画の事前打ち合わせを行う。
臨地実習中では、各実習施設の実習計画にもづいて実習を行う。実習項目として、下記に示す1）～7）までのいずれかの項目を実習で行う。
1）地域の生活環境の実態把握
2）地域における食生活習慣の問題点の分析
3）食生活の変容のための計画作成
4）地域において実施されている健康増進事業の参加
5）各段階での評価方法についてに学ぶ
6）各自でＰＤＣＡサイクルの模擬体験
7）各種専門職との連携・共働についてを実際に学ぶ。
実習中または実習後の栄養総合演習Ⅰの事後授業にて実習中に学んだことのまとめを行う。栄養総合演習Ⅰや臨地実習の時間内では、計画したテーマ、課題、与えられた業務を終えることは出来ないので、実習前、実習中の終了時間後、実習終了後などに取り組むことが必要である。
※実習中における所内学習時間とそれに関わる学習時間を含めて45時間を1単位とする。下記に45時間の目安となる内訳を示す。
・実習施設先との打ち合わせおよび事前準備（1.5時間）
・実習施設所内における実習（5日間・40時間）
・実習中における実習施設所外（自宅）での実習内容の記録とまとめ（2.5時間）
・実習報告書の作成（1時間）

成績評価方法

実習前の準備作業の取り組み状況（20%）、実習中の取り組み状況（20%）、実習ノート、課題等の提出物の評価（20%）、実習施設の指導担当者による評価（40%）

成　績　評　価　基　準
都道府県の保健所や市町村の保健センターが担う栄養行政の役割について理解したか。 地域における食生活上の問題点を明らかにし、生活習慣や食行動の変容を図る知識と技術を修得できたか。
テキスト、参考図書
本学作成「公衆栄養学臨地実習ノート」を使用する。その他、関係教科の教科書、参考書
その他（受講上の注意）
実習への取り組む姿勢や態度の他、礼儀、身だしなみ、規律、衛生管理、体調管理など十分留意して臨地実習に取り組むこと。臨地実習開始１カ月以内になったら、実習準備等に支障をきたすので私事の用事を入れないこと。また、教員の指示に従わないものや規律を順守せず問題行動を起こす学生に対しては、実習に参加させることはできない。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	樽井　雅彦、佐藤　真実、池田　涼子、 浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2165	2単位	1～3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。

授業の到達目標

1・2・3年次を対象に自己の進路を見据えた体験学習を課題にして設ける。例えば、福祉施設、病院などでの奉仕活動、事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施してたり、得られた成果について報告書を提出する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習 (PBL)　□討議 (ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表 (プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1年次～3年次に事前学習及び事後学習を合計60時間行う。
①受講希望者は、各フィールドワーク演習の企画教員から内容を確認したうえで実施する。
　参画する奉仕活動やインターンシップについて事前に十分な下調べ (概要等) を行なうこと。
②実際に体験したボランティア活動について報告書 (内容・到達目標・経過時間・得られた成果) を作成すること。また作成した報告書は企画教員から押印後、フィールドワーク演習担当教員に提出し承認を得ること。承認後の報告書は各自で保管すること。
③各種ボランティア活動について (フィールドワーク)
　参加した全てのボランティア活動の詳細 (参加時間数の合計等) についてまとめておくこと。
④3年次終了時に報告書一覧表 (ボランティア活動毎の報告書添付) を作成しフィールドワーク演習担当教員に提出すること。

成績評価方法

プログラム取り組み (40%)、レポート (30%)、プレゼンテーション (30%)

成績評価基準

参加した福祉施設、病院などでの奉仕活動で自身が得た成果について報告書を参考に評価する。事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施する。

テキスト、参考図書

使用しない

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	岸　慎治、山本　浩範、尼子　克己、池田　涼子、細田　耕平、佐藤　裕保、三浦　努、浦本　裕美、佐藤　真実、樽井　雅彦、鳴瀬みどり、野村　卓正、石黒真理子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。
第1回：ガイダンス
　　事前学習：準備（2時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第2回：研究の方法に関する説明
　　事前学習：準備（2時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第3回：資料、文献検索の仕方、
　　事前学習：準備（2時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第4回：資料・研究レポートとミーティング1
　　事前学習：準備（2時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第5回：資料・研究レポートとミーティング2
　　事前学習：準備（2時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第6回：資料・研究レポートとミーティング3
　　事前学習：準備（2時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第7回：資料・研究レポートとミーティング4
　　事前学習：準備（2時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）

第８回：資料・研究レポートとミーティング５
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第９回：資料・研究レポートとミーティング６
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第10回：資料・研究レポートとミーティング７
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第11回：資料・研究レポートとミーティング８
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第12回：資料・研究レポートとミーティング９
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第13回：資料・研究レポートとミーティング10
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第14回：卒業研究へのアプローチ
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50％）　平常点（50％）
（レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生涯発達心理学 (Developmental Psychology)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2370	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

・最近の発達心理学の諸理論と代表的な研究法を概説する。
・DVD等の視聴覚教材を援用しながら、具体的にケースを提示し、発達心理学的に考察を行う。

授業の到達目標

・授業中において、扱う発達心理学的なテーマ教材に関する内容について積極的に自分の考えを発表し論じる。
・他者の発達心理学的な発言内容を適切に理解し、それに対して論理的に賛否を示すことができる。
・考察した内容を適切な日本語によって短時間に作成するレポートとしてまとめることができる。
・最近の代表的な発達心理学の理論について正しく理解することに努めることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：生涯発達心理学の基礎.。「生涯」の意味や最近のテーマを概説。
　　事後学習：各自に関心のある課題のリストアップと発表準備メモの作成。（4時間）
第2回：発達研究の方法。発表、前回の宿題の各自の発表、発達を心理学的に研究する諸方法につての概説。
　　事前学習：発表資料の作成（1時間）
　　事後学習：授業内容の各自のまとめ（3時間）
第3回：胎児期・乳児期。討議、胎児・乳幼児に関するDVD視聴（30分程度）と意見交換。
　　事後学習：DVD内容の要約（4時間）
第4回：幼児期。討議、幼児期に関するDVD視聴（30分程度）と意見交換。
　　事後学習：DVD内容の要約（4時間）
第5回：児童期。討議、児童期に関するDVD視聴（45分程度）と意見交換、
　　事後学習：DVD内容の要約（4時間）
第6回：発表、ここまでの内容のいくつかに関する各自の短い発表。
　　事前学習：発表準備、（4時間）
第7回：ここまでの内容に関する発達心理学の方法論的な解説。
　　事後学習：第6回発表内容に関する各自の振り返りの短いレポート作成作業（4時間）
第8回：青年期（生徒・学生時代）。グループワーク、学校生活における心理学的諸問題～特に進路選択～。
　　事前学習：各自の周辺を含む印象あるエピソードの発表準備（3時間）
　　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）
第9回：青年期（生徒・学生時代）。グループワーク、学校生活における心理学的諸問題～特に教師・生徒関係～。
　　事前学習：各自の周辺を含む印象あるエピソードの発表準備（3時間）
　　事後学修：授業内容のまとめ（1時間）

第10回：青年期（生徒・学生時代）。グループワーク、学校生活における心理学的諸問題～特に友人関係～。
事前学習：各自の周辺を含む印象あるエピソードの発表準備（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第11回：成人期（有職者を中心に）。グループワーク、仕事における心理学的諸問題。
事前学習：周囲の風聞・映画・小説などの印象あるエピソードの発表準備。見当たらない場合には担当教員が呼び案を準備する（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第12回：生涯発達心理学に貢献した人物と思想（１）エリクソンほか。討議。
事前学習：人物に関する事前の調べ、（１時間）
事後学習：授業内容のまとめ（３時間）
第13回：生涯発達心理学に貢献した人物と思想（２）ピアジェほか。討議。
事前学習：人物に関する事前の調べ（１時間）
事後学習：授業内容のまとめ（３時間）
第14回：総括。これまでにまとめた自分なりの短いレポートを振り返る。グループワーク。
事前学習：事前のまとめの発表準備（３時間）
事後学習：まとめの修正（１時間）
第15回：総評。
事後学習：提出用の最終総括レポート作成（４時間）

成績評価方法

・提出を課した短いレポート（40パーセント）
・意見の発表と意見交換（60パーセント）
の合計により評価する。

成績評価基準

・授業等で解説した代表的な発達心理学の理論を知っているかどうか。
・発達心理学的な観点から、自分なりの意見・考えを口頭で発表できるかどうか。
・発達心理学的な資料を見ながら自分なりの意見・考えをレポートとして短時間でまとめることができるかどうか。

テキスト、参考図書

例年、受講生の数が大きく変動するので、授業担当者が用意する紙資料とDVD等の教材によって進める。

その他（受講上の注意）

学科に割り当てられた一般教育（大学、学部共通科目）には、発達心理学や心理学の授業科目がなにも配当されていないので、特に意識して、発達心理学の研究法や考え方に馴染んでもらいたい。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

食文化論 (Dietary Culture)			担当教員	新澤　祥恵
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2374	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

人類は与えられた気候・風土のなかで、調理・加工・保存法や調理器具・食器、さらに食事法を発達させ、その中で、食事に対する観念や作法など、食事に関する様々な習慣を生み出し、受け継いできた。この授業では、「食」を文化としての視点でとらえ、世界各国の食文化も取り上げながら、日本の食文化を学び、さらに郷土食を知ることを通して、地域の食文化を理解する。

授業の到達目標

食生活の歴史を振り返ることにより、先人たちが工夫と努力により食物を獲得し、それぞれの時代において試行錯誤を繰り返しながら、安全でおいしい食べ物を後世に伝えてきた精神と文化を学び取る。また、行事食や郷土料理についても学び当地域の食文化の特徴を知り、後世に伝える意欲を持つ。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食文化の領域
　事前学習：テキストの1章を読み概要をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：講義より、人間の食の特徴と食文化の概念についてまとめておくこと。(2時間)
第2回：世界の食文化の形成と展開
　事前学習：テキストの2章を読み、食文化の形成に影響するものを調べてまとめておく。(2時間)
　事後学習：6大食文化圏の特徴を調べてまとめておくこと。(2時間)
第3回：日本の食文化形成と展開
　事前学習：日本料理の特徴について、調べてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：講義より日本料理(あるいは日本の食)を特徴づける要因を調べてまとめておくこと。(2時間)
第4回：異文化の移入が及ぼした影響(グループワーク・発表)
　事前学習：日頃食べているものの中で、外国から伝えられた料理とそのルーツを調べてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：あなたの食生活はどの国の影響を最も大きく受けているか考え、まとめておくこと。(2時間)
第5回：主食の文化
　事前学習：米や米製品を使った料理や加工食品を上げて、その調理・加工過程をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：主穀の概念を整理し、様々な穀類の特徴とその利用方法をまとめておくこと。(2時間)
第6回：副食の文化
　事前学習：テキストの6章を読み、食品群毎に食用の歴史を整理し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：今日私達の食用となっている様々な食品の歴史について、まとめておくこと。(2時間)

第７回：調味料・菓子・茶・酒・香辛料の発達（グループワーク）
事前学習：テキストの７～８章を読み、食品群毎に食用の歴史を整理し、まとめておくこと。（２時間）。
事後学習：調味料、菓子等その歴史を調べてまとめておくこと。（２時間）
第８回：台所・食器・食卓の文化
事前学習：テキストの10章を読み、テキストで上げられる食に関わる諸道具について、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：調理文化の発達とそれに関わる調理設備・器具・食器について、調べてまとめておくこと。（２時間）
第９回：宗教と食文化（グループワーク）
事前学習：食物禁忌や精進料理について、調べてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：様々な宗教が今日の食に与えている影響について、調べてまとめておくこと。（２時間）
第10回：日本料理の形成と発達
事前学習：テキストの９章より、我が国の供応食のながれをまとめておくこと。（２時間）
事後学習：今日の供応食の歴史について、調べてまとめておくこと。（２時間）
第11回：日本の年中行事と行事食
事前学習：伝統的年中行事、通過儀礼と新しい年中行事を調べてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：上記の行事にどのような食が用意されるかまとめ、今日の動向も整理し、まとめておくこと。（２時間）
第12回：日本の郷土料理の分類と郷土料理（グループワーク）
事前学習：自身の周囲にある郷土料理と考えられるものを調べてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：各地域の郷土料理にどのようなものがあるか整理し、まとめておくこと。（２時間）
第13回：福井の食（グループワーク）
事前学習：福井の郷土食を調べてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：福井の食文化とその背景を調べてまとめておくこと。（２時間）
第14回：北陸の食（グループワーク）
事前学習：北陸３県の郷土食を調べてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：北陸３県における食の共通性と差異について、調べてまとめておくこと。（２時間）
第15回：食育における和食の継承とその課題（ディスカッション・発表）
事前学習：ユネスコ無形文化遺産に登録された和食の特徴をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：これから専門職として食育に携わる上で、和食を継承する意義を考え、まとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

期末試験50%、提出課題40%、授業への取り組み態度など10%

成　績　評　価　基　準

先人達が残した食文化を理解できたか。また、地域の行事食や郷土料理も知ることができたか。これらの食文化を後世に残す意欲を持つことが出来たかを試験、レポート、発表などから評価する。

テキスト、参考図書

新版日本の食文化「和食」の継承と食育
編著者　江原絢子　石川尚子
著者　大久保洋子　富岡典子　中澤弥子　島崎とみ子　橋爪伸子
アイ･ケイコーポレーション

その他（受講上の注意）

講義毎に指定された課題のレポートを提出すること

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

定期情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

学校栄養教育の理論と方法 (School Health Education)			担当教員	細田　耕平、塚田　明美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2375	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　栄養に係る教育に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項
・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項
・食生活に関する歴史的及び文化的事項

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

栄養教諭の職務内容，学校給食の教育的な意義・給食管理の実際，児童生徒の食生活を取り巻く課題，食生活の機能，地域の食文化等，栄養教諭として必要な事項を演習を交えながら学修する。

授業の到達目標

栄養教諭の職務内容，学校給食の教育的な意義，児童生徒の食生活を取り巻く課題，食生活の機能や地域の食文化について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：栄養教諭の役割と職務内容(細田)【ディスカッション】
事前学習：授業前にテキストp1−15を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第2回：食生活の機能(細田)【グループワーク】
事前学習：授業前に事前配布資料(第1回に配布予定)を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第3回：学校給食の変遷と意義・目的・献立の充実(細田)【グループワーク、ディスカッション】
事前学習：授業前にテキストp16−36を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第4回：児童生徒の食生活の現状と問題点(細田)　【ディスカッション】
事前学習：授業前にテキストp37−47を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第5回：児童および生徒の栄養に係る諸問題、健康なからだをつくる食事(細田)
事前学習：授業前に事前配布資料(第4回に配布予定)を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)

第６回：食生活および食文化の変遷と学校教育（細田）【ディスカッション】
事前学習：授業前に事前配布資料（第５回に配布予定）を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第７回：学校給食の栄養・衛生・安全管理（塚田）
事前学習：食品衛生学や給食経営管理論で学習した内容を復習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第８回：学校から家庭に対する食情報提供（１）「給食たより」の作成（塚田）【課題解決型学習】
事前学習：自身の母校や出身自治体が出している「献立表」や「給食たより」を入手し、どのような内容が書かれているかを確認しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第９回：学校から家庭に対する食情報提供（２）「給食たより」の発表（塚田）【発表、ディスカッション】
事前学習：第９回では、各自作成の給食たよりの発表を行うので、事前に必要な資料をもとに給食たよりを作成しておくこと。（２時間）
事後学習：他の学生の作成した「たより」の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、自身の作成したたよりを見直しておくこと。（２時間）
第10回：食に関する啓発の推進（１）講話の演習 指導案作成（塚田）【課題解決型学習】
事前学習：第10回の講義では、給食の時間に行う児童・生徒への指導を考えてもらうので、テキストや食に関する指導の手引きをもとに、これまでに学習した内容を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第11回：食に関する啓発の推進（２）教材作り（塚田）【課題解決型学習】
事前学習：第11回の講義では、給食時間の指導用教材の作成を行うので、事前に必要な資料を図書館などで調べたり、収集しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第12回：学校給食における地場産物の活用方法（塚田）
事前学習：これまでの学習した内容を振り返り、地場産物を学校給食や教育に活用する理由について自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第13回：福井県の食育の先人、石塚左玄の訓えに学ぶ（塚田）
事前学習：福井県内の児童生徒が活用している「食育チャレンジ」から石塚左玄について読み解き、左玄の訓えと段階をおった指導にふれておく。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第14回：食に関する啓発の推進（３）発表と評価①（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
事前学習：第14、15回の講義では、給食の時間の指導の実演を行ってもらうので、一人５分程度で指導が行えるよう準備しておくこと。（２時間）
事後学習：他の学生の行った講話の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、発表内容を見直しておくこと。（２時間）
第15回：食に関する啓発の推進（３）発表と評価②（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
事前学習：第14、15回の講義では、給食の時間の指導の実演を行ってもらうので、一人５分程度で指導が行えるよう準備しておくこと。（２時間）
事後学習：他の学生の行った講話の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、発表内容を見直しておくこと。（２時間）

成績評価方法

レポート60%，平常点40%，
平常点は，授業への参加状況，受講態度，模擬授業，提出物の内容等から総合的に評価する。

成績評価基準

栄養教諭の職務内容，学校給食の教育的な意義，児童生徒の食生活を取り巻く課題，食生活の機能や地域の食文化について説明することができるか。

テキスト、参考図書

栄養教諭論－理論と実際　三訂版;第２版，金田雅代著，建帛社，2012年
食に関する指導の手引　第１次改訂版，文部科学省，東山書房，2010年

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

食育指導の理論と方法 (School Food and Nutritional Education)			担当教員	細田　耕平、塚田　明美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2376	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　栄養に係る教育に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　食に関する指導の方法に関する事項

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

栄養教諭として学校における食育をマネジメントするために必要となる，食に関する指導の全体計画作成，給食の時間や各教科等における食に関する指導の実践方法について演習を通して学修する。

授業の到達目標

学校における食に関する指導を推進するための全体計画作成の意義，各教科等と食に関する指導の関連性について理解する。また，食育実践演習を通して，児童生徒への食育指導の方法を修得し，食育指導をすることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食に関する指導の意義 学校における食育の推進の必要性(細田)　【グループワーク】
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第2回：食に関する指導に係る全体計画の作成(1)　全体計画と指導計画の概要(細田)　【課題解決型学習】
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第3回：食に関する指導に係る全体計画の作成(2)　全体計画と指導計画の概要(細田)　【課題解決型学習】
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第4回：各教科における食に関する指導(1)授業の計画、進め方について(細田)
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第5回：各教科における食に関する指導(2)体育科保健領域(細田)　【グループワーク】
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第6回：各教科における食に関する指導(3)家庭科、総合的な学習の時間(細田)　【グループワーク】
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)

第７回：各教科における食に関する指導（４）生活科、理科、社会科（細田）　【グループワーク】
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第８回：個別的な相談指導の進め方（塚田）
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第９回：４年生による教育実習の報告（塚田・細田）
事前学習：前時までの授業内容をふりかえり、学校での栄養教諭の職務内容や役割を整理しておく。（２時間）
事後学習：４年生の発表から教育実習への思いなどをまとめる。（２時間）
第10回：学校給食を生きた教材として活用した食育の推進 楽しい食事の取り方（塚田）　【グループワーク】
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第11回：学校給食を生きた教材として活用した食育の推進 食事のマナー、勤労と感謝（塚田）
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第12回：学校給食を生きた教材として活用するための工夫、献立の充実（塚田・細田）　【発表、ディスカッション】
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第13回：食育実践演習（１）（塚田・細田）　【発表、ディスカッション】
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第14回：食育実践演習（２）（塚田・細田）　【発表、ディスカッション】
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第15回：食育指導の理論と方法 まとめ（塚田・細田）
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）

成　績　評　価　方　法

レポート60％，平常点40％
平常点は，授業への参加状況，受講態度，模擬授業，提出物の内容等から総合的に評価する

成　績　評　価　基　準

学校における食に関する指導を推進するための全体計画作成の意義，各教科等と食に関する指導の関連性について理解しているか。また，食育実践演習を通して，児童生徒への食育指導の方法を修得し，食育指導をすることができるか。

テキスト、参考図書

栄養教諭論－理論と実際　三訂版;第２版，金田雅代著，建帛社，2012年
食に関する指導の手引　第１次改訂版，文部科学省，東山書房，2010年

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

心と健康 (Health and Mind)			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2377	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

（1）集団から影響を受ける個人の行動を理解する
（2）ストレスとは何かについて理解する
（3）現実社会でおこる心の葛藤やストレスを理解し、対処方法を知る

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

人間は常に集団の中で生活している。その中で人間として生きる様々な技術を学習し発達していく。しかし、その人間関係からネガティブな影響を受けることもある。現代社会においては多くの人々が他者又は社会からのストレスを感じ健康を崩すことが多くなっている。授業では、そのような人間の心の発達の過程、他者の存在が心に与える影響について解説するとともに、様々な社会システムの中で生み出されるストレスと健康について考察していく。実社会で起こっている現象をとりあげ社会心理的視点から理解していくことをめざす。
更に、シミュレーションを使い見えない雰囲気から受ける心の状態を体験し、準備や対処の重要性について考える。

授業の到達目標

（1）集団から影響を受ける個人の行動を理解する
（2）ストレスとは何かについて理解する
（3）現実社会でおこる心の葛藤やストレスを理解し、対処方法を知る

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他（具体的に記述：シミュレーションゲーム：ICT（Googleフォームを使用し、課題を呈示、インタラクティブに意見を収集）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：心と健康について（ICT）
　事前学習：授業前に「心が健康に影響する」状況について考察する（1時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）
第2回：人間の行動の始まり（ICT）
　事前学習：授業前に「生得的行動と学習」の違いについて考えてみる（1時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）
第3回：社会的動物としての人間について（ICT）
　事前学習：授業前に「我々は社会から何を学ぶか」について考えてみる（1時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）
第4回：心の発達について（ICT）
　事前学習：授業前に「人の発達」についての関連書籍を読んでおくこと（2時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）
第5回：心の発達にかかせない他者（ICT）
　事前学習：授業前に「人の発達」についての関連書籍を読んでおくこと（2時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）
第6回：集団と個人（ICT・討議）
　事前学習：授業前に「集団」について関連書籍を読んでおくこと（2時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）

第７回：集団から影響を受ける（ICT）
　　事前学習：授業前に「我々は集団からどのような影響を受けるのか」について考察しておく（１時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第８回：人間関係とストレス（ICT）
　　事前学習：授業前に「人間関係とストレス」について考察しておく（１時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第９回：人間関係とストレス（２）（ICT）
　　事前学習：授業前に「組織の中のストレス」について関連書籍を読んでおくこと（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第10回：コーピングについて（ICT）
　　事前学習：授業前に「コーピング」について関連書籍を読んでおくこと（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第11回：パーソナリティと健康（ICT）
　　事前学習：授業前に「タイプA行動」について調べてみる（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第12回：問題解決と認知（ICT）
　　事前学習：授業前に「認知とは何か」関連書籍を読んでおくこと（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第13回：異文化交流ゲーム・分からない状況が生む心の葛藤について学ぶ（１）（ゲーム）
　　事前学習：授業前に「配布資料」を読んでおくこと（１時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第14回：異文化交流ゲーム・分からない状況が生む心の葛藤について学ぶ（２）（ゲーム）
　　事前学習：授業前に「配布資料」を読んでおくこと（１時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第15回：まとめと小テスト（ICT）
　　事前学習：各講義におけるノートをまとめる（２時間）
　　事後学習：分からなかったポイントについてまとめる（１時間）

成　績　評　価　方　法

授業中に実施する課題・小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。
【小テスト50%　課題・レポート40%　授業への参加態度10%】

成　績　評　価　基　準

○集団の中の個人の行動を理解できているか
○ストレスとは何かについて説明することができるか
○現実社会におけるストレスや葛藤を理解し、対処方法について説明することができるか

テキスト、参考図書

授業内で関係資料を配布する

その他（受講上の注意）

基本的に講義形式で行う。より理解を深めるために必要に応じてVTR視聴、自己分析、シミュレーションゲームを実施する。ゲームには必ず出席すること。
授業内において課題の提出を求めることがある。提出には、QRコードを読み取り、回答を送信するシステムを利用（googleフォーム）し、受講者の考え方や他者との行動の差異について共有すること、講義内容と実際の社会的問題を関連づけて考えること、を試みる。
そのため、個々の具体的行動や平均的行動パターン（グラフなど）についてスクリーンに呈示し、ディスカッションに活用する。
上記の実施にあたり、スマートフォン又はPCが必要となる（現在、殆どの学生がスマートフォンで対応）。
よって、携帯を忘れる、充電が無い、など無いよう気をつける必要がある。
なお、回答時以外でのスマートフォンの利用は不可、授業の中でQRで回答を求めた時にのみ使用を認める。使用を発見した場合、退出を願う場合が有る。
トイレは授業前に済ませ、意味のない入退出が無いようにする事。
授業に15分以上遅れた場合欠席になることがある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育経営論(健康栄養学科) (Educational Administration)			担当教員	奥谷　崇
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2383	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

日本国憲法・教育法規・学習指導要領に示される教育経営の理念を理解する。教育・学校・児童生徒を巡る諸課題を教育経営の観点から理解を深め、学校と地域の連携の意義と取り組み及び学校安全について自らの切実な課題として主体的に理解できるようにグループ討議を重視する。

授業の到達目標

中学校・高等学校教育・食の教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解し、社会の状況の変化と学校教育へ影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけ、学校と地域との連携と協働の仕方を理解し、学校管理下での事件・事故・食の安全・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解することが出来る。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■ 発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：教育経営論の理念と学習計画について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：教育経営論で身に付けたいことや考えたいことや教育に関する疑問点をノートにまとめてくること。(2時間)
　事後学習：現在の自分の教育観を見つめ、まとめ、疑問点などをまとめておくこと。(2時間)
第2回：我が国の幼・保教育及び小学校教育の変遷と課題について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：学習指導要領解説総則編P146～P157で我が国の教育の変遷を整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：教育とは何か、教育経営とは何か、教育の変遷を整理しておくこと。(2時間)
第3回：子どもの生活の変化と子どもの問題及び解決策について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：子どもの問題で気になる問題とその理由及び解決策を考えてくること。(2時間)
　事後学習：考えた子どもの問題の解決策と今後の取り組み計画をまとめておくこと。(2時間)
第4回：我が国の教育課題と学習指導要領の改訂について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：新聞で取り上げられている教育課題に対し、自分の考えや疑問をノートに書いてくること。(2時間)
　事後学習：教育課題を繰り返さずに解決するための施策を考え、共感的に共有し合うこと。(2時間)
第5回：世界の教育の実態と教育改革の現状について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：世界各国の教育事情を集め、それぞれの課題と取り組みを紹介できるようにしてくること。(2時間)
　事後学習：特徴的な課題と対策をまとめ、今後の世界の教育の改革について考えを整理すること。(2時間)
第6回：学校経営の理念と学校組織の在り方について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：特徴的な学校経営を行う学校の実践を調べて情報交換が出来るようにしてくること。(2時間)
　事後学習：大きな教育成果を挙げている学校の取り組みや先駆者の思想や実践をまとめておくこと。(2時間)

第７回：憲法・教育法規・関連法規と学校教育について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：日本国憲法・教育基本法・学校教育法を熟読してくること。（２時間）
事後学習：特に日本国憲法と教育基本法の精神をまとめ、整理しておくこと。（２時間）
第８回：教育行政の仕組みと課題について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：我が国の教育行政の仕組みと改善したい問題をまとめてくること。（２時間）
事後学習：教育行政と学校教育の課題と改善策をまとめておくこと。（２時間）
第９回：学校経営と学校評価の基礎理論について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：向上・改善のための実践と評価の大切さについて具体例を挙げて考えてくること。（２時間）
事後学習：学校評価の具体例を整理し、学校経営の充実・改善の取り組みを整理しておくこと。（２時間）
第10回：学級経営の仕組みと学級経営の課題について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：改善したい学級経営上の課題と解決策を考え、整理してくること。（２時間）
事後学習：様々な学級経営上の課題を整理し、対応改善策をまとめておくこと。（２時間）
第11回：教職員と学校外の関係機関との連携・協働について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：閉ざされた学校が開かれた学校へと移り変わった理由を考えてくること。（２時間）
事後学習：教職員の開かれた意識形成のためにどうしたらよいかについてまとめておくこと。（２時間）
第12回：学校と地域との連携・協働と教職員の使命について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：各地域の実践例に触れ、紹介できるようにしてくること。（２時間）
事後学習：主な実践を整理し、今後取り組んでいきたいプランをもてるようにすること。（２時間）
第13回：開かれた学校づくりの課題と解決について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：新聞記事で取り上げられる学校紹介記事を用意し、発表できるようにしてくること。（２時間）
事後学習：多様な取り組みを整理し、開かれた学校づくりの大切さに挑むことができるようにしておく。（２時間）
第14回：学校で起こる事件、事故、災害の実情と学校安全の具体策について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：具体事案をもとに未然防止策と事前指導の在り方を考えてくること。（２時間）
事後学習：家庭・地域ぐるみで子どもの安全を守る対策を整理しておくこと。（２時間）
第15回：学校、地域の安全管理と安全指導の徹底について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：居住地域の防災体制や学校の安全管理と指導の現状について考えてくること。（２時間）
事後学習：地域の安全・防災の充実のために積極的に行動できるようにすること。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験50％ 学習への意欲的な姿勢とノート30％ グループ討議20％

成　績　評　価　基　準

中学校・高等学校教育・食の教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解しているか。
社会の状況の変化と学校教育へ影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけているか。
学校と地域との連携と協働の仕方を理解し、学校管理下での事件・事故・食の安全・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解しているか。

テキスト、参考図書

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編（平成29年７月 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編（平成30年７月 文部科学省）
教育小六法（市川須美子・小野田正利・勝野正章・窪田眞二・中嶋哲彦・成嶋隆著 岳陽書房 平成28年）
中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年７月 文部科学省）
高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編（平成30年３月公示 文部科学省）

その他（受講上の注意）

私語・無気力厳禁。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法(健康栄養学科) (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2385	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育課程の意義及び編成の方法
・道徳及び特別活動に関する内容

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学校で道徳教育をいかに行うかが大きな課題となっている。本授業では、この古くて新しい課題について理解を深めたうえで、学習指導要領に示される道徳教育の目標や内容について考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成し、順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。

授業の到達目標

・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できる。
・道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(模擬授業)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間)
　事後学習：参考図書を検索し読書計画を立てるとともに、指導案の作成計画を立てる。(2時間)
第2回：道徳教育の難しさ(1)──道徳は知識なのか行為なのか
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第3回：道徳教育の難しさ(2)──宗教と道徳について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第4回：道徳教育の難しさ(3)──評価のあり方について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第5回：道徳性発達理論についての考察
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第6回：学習指導要領を読む──第1章「総則」、第3章「特別の教科　道徳」
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第7回：教材研究(1)──『心のノート』と『私たちの道徳』を中心に(グループワーク)
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)

第８回：教材研究（２）── 読み物教材の使い方（グループワーク）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第９回：日本における道徳教育の歴史
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第10回：指導法の検討（１）── インカルケーション（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第11回：指導法の検討（２）── ディベート（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第12回：指導法の検討（３）── モラルジレンマ（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第13回：指導法の検討（４）── ロールプレイ（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第14回：指導法の検討（５）── 構成的グループエンカウンター（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）
指導案の内容（25％）
平常点（25％）
（平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容、模擬授業に対する講評の内容をもとに評価する。）

成　績　評　価　基　準

・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できるか。
・道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：「小学校学習指導要領」（平成29年３月告示　文部科学省）、「中学校学習指導要領」（平成29年３月告示　文部科学省）
参考図書：授業時に指示する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生徒指導論 (Educational Guidance)			担当教員	黒田　祐二
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2387	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(生徒指導及び教育相談に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・生徒指導の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

授業の大まかな流れは次の通りである。まず生徒指導の概要と原理について講義し，次に児童生徒の理解について講義し，最後に全体指導や個別指導の具体的な進め方について講義する。全体指導や個別指導に関する授業では，グループ・ディスカッションや討論も取り入れ，指導のあり方や方法について主体的に考えられるようにする。

授業の到達目標

生徒指導の考え方や方法を学ぶことを通して，指導を効果的に進めていくために必要な知識，技能，素養を身につける。また，校内外の関係者と連携しながら学校全体で組織的に指導を進めていくことの意義や重要性を理解し，その具体的な方法について知識を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■　討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□ 発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：生徒指導の概要 ── 教育課程における位置づけと生徒指導の意義，生徒指導の体制とその運営，生徒指導が機能する場面や領域
事前学習：テキスト等を参考にして生徒指導の定義や概要について予習しておくこと(2時間)
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること(2時間)

第2回：生徒指導の意義と原理1 ── 生徒指導のベースになる発達観と指導観
事前学習：テキスト等を参考にして発達観と指導観について予習しておくこと(2時間)
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること(2時間)

第3回：生徒指導の意義と原理2 ── 集団指導と個別指導の方法原理
事前学習：テキスト等を参考にして集団指導と個別指導について予習しておくこと(2時間)
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること(2時間)

第4回：児童生徒の理解 ── その視点と方法
事前学習：テキスト等を参考にして児童生徒理解の視点と方法について予習しておくこと(2時間)
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること(2時間)

第5回：児童生徒の理解と指導1 ── 児童期の心理的特徴とそれを踏まえた指導のあり方
事前学習：テキスト等を参考にして児童期の心理について予習しておくこと(2時間)
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること(2時間)

第６回：児童生徒の理解と指導２ ── 思春期の心理的特徴とそれを踏まえた指導のあり方
事前学習：テキスト等を参考にして思春期の心理について予習しておくこと（２時間）
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第７回：全体指導の進め方１ ── 自己肯定感や存在感を育てる生徒指導
事前学習：テキスト等を参考にして自己肯定感や存在感とその育て方について予習しておくこと（２時間）
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第８回：全体指導の進め方２ ── 自己指導能力を育てる生徒指導
事前学習：テキスト等を参考にして自己指導能力とその育て方について予習しておくこと（２　時間）
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第９回：個別指導の進め方１ ── いじめの理解と対応（ディスカッションを含む）
事前学習：テキスト等を参考にしていじめの理解と対応について予習しておくこと（２　時間）
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第10回：個別指導の進め方２ ── 非行の理解と対応（ディスカッションを含む）
事前学習：テキスト等を参考にして非行の理解と対応について予習しておくこと（２時間）
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第11回：個別指導の進め方３ ── 不登校の理解と対応（ディスカッションを含む）
事前学習：テキスト等を参考にして不登校の理解と対応について予習しておくこと（２時間）
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第12回：個別指導の進め方４ ── 今日的な問題行動について
事前学習：テキスト等を参考にして今日的な問題行動の理解と対応について予習しておくこと（２時間）
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第13回：全体指導と個別指導の演習（ディスカッションを含む）
事前学習：栄養教諭が担える生徒指導について予習しておくこと（２時間）
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第14回：校内外の連携によるチーム支援
事前学習：テキスト等を参考にして校内外の連携について予習しておくこと（２時間）
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第15回：生徒指導に関係する法制
事前学習：テキスト等を参考にして生徒指導に関係する法制について予習しておくこと（２時間）
事後学修：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%），小課題（20%）

成　績　評　価　基　準

1.生徒指導に関する基本的な知識と考え方を身につけたかどうか。2.生徒指導上の諸問題に実践的に対応するための視点やスキルを身につけたかどうか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

参考図書：文部科学省『生徒指導提要』教育図書（平成23年）※文部科学省のホームページからもダウンロードできる。参考図書：黒田祐二（編集）『実践につながる教育相談』北樹出版（平成26年）

その他（受講上の注意）

講義のみならずディスカッションも多く取り入れるため，これらに積極的に取り組めることが大切です

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育経営論(子ども教育学科) (Educational Administration)			担当教員	奥谷　崇
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2300	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)、小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

日本国憲法・教育法規・学習指導要領に示される教育経営の理念を理解する。教育・学校・子どもを巡る諸課題を教育経営の観点から理解を深め、学校と地域の連携の意義と取り組み及び学校安全について自分の切実な課題として理解できるようにグループ討議を重視する。

授業の到達目標

保育園・幼稚園・小学校教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解し、社会の状況の変化と学校教育へ影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけ、学校と地域との連携と協働の仕方を理解し、学校管理下での事件・事故・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解することが出来る。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■ 発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：教育経営論の理念と学習計画について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：教育経営論で身に付けたいことや考えたいことや教育に関する疑問点をノートにまとめてくること。(2時間)
　事後学習：現在の自分の教育観を見つめ、まとめ、疑問点などをまとめておくこと。(2時間)
第2回：我が国の幼・保教育及び小学校教育の変遷と課題について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：学習指導要領解説総則編Ｐ146～Ｐ157で我が国の教育の変遷を整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：教育とは何か、教育経営とは何か、教育の変遷を整理しておくこと。(2時間)
第3回：子どもの生活の変化と子どもの問題及び解決策について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：子どもの問題で気になる問題とその理由及び解決策を考えてくること。(2時間)
　事後学習：考えた子どもの問題の解決策と今後の取り組み計画をまとめておくこと。(2時間)
第4回：我が国の教育課題と学習指導要領の改訂について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：新聞で取り上げられている教育課題に対し、自分の考えや疑問をノートに書いてくること。(2時間)
　事後学習：教育課題を繰り返さずに解決するための施策を考え、共感的に共有し合うこと。(2時間)
第5回：世界の教育の実態と教育改革の現状について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：世界各国の教育事情を集め、それぞれの課題と取り組みを紹介できるようにしてくること。(2時間)
　事後学習：特徴的な課題と対策をまとめ、今後の世界の教育の改革について考えを整理すること。(2時間)
第6回：学校経営の理念と学校組織の在り方について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
　事前学習：特徴的な学校経営を行う学校の実践を調べて情報交換が出来るようにしてくること。(2時間)
　事後学習：大きな教育成果を挙げている学校の取り組みや先駆者の思想や実践をまとめておくこと。(2時間)

第７回：憲法・教育法規・関連法規と学校教育について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：日本国憲法・教育基本法・学校教育法を熟読してくること。（２時間）
事後学習：特に日本国憲法と教育基本法の精神をまとめ、整理しておくこと。（２時間）
第８回：教育行政の仕組みと課題について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：我が国の教育行政の仕組みと改善したい問題をまとめてくること。（２時間）
事後学習：教育行政と学校教育の課題と改善策をまとめておくこと。（２時間）
第９回：学校経営と学校評価の基礎理論について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：向上・改善のための実践と評価の大切さについて具体例を挙げて考えてくること。（２時間）
事後学習：学校評価の具体例を整理し、学校経営の充実・改善の取り組みを整理しておくこと。（２時間）
第10回：学級経営の仕組みと学級経営の課題について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：改善したい学級経営上の課題と解決策を考え、整理してくること。（２時間）
事後学習：様々な学級経営上の課題を整理し、対応改善策をまとめておくこと。（２時間）
第11回：教職員と学校外の関係機関との連携・協働について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：閉ざされた学校が開かれた学校へと移り変わった理由を考えてくること。（２時間）
事後学習：教職員の開かれた意識形成のためにどうしたらよいかについてまとめておくこと。（２時間）
第12回：学校と地域との連携・協働と教職員の使命について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：各地域の実践例に触れ、紹介できるようにしてくること。（２時間）
事後学習：主な実践を整理し、今後取り組んでいきたいプランをもてるようにすること。（２時間）
第13回：開かれた学校づくりの課題と解決について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：新聞記事で取り上げられる学校紹介記事を用意し、発表できるようにしてくること。（２時間）
事後学習：多様な取り組みを整理し、開かれた学校づくりの大切さに挑むことができるようにしておく。（２時間）
第14回：学校で起こる事件、事故、災害の実情と学校安全の具体策について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：具体事案をもとに未然防止策と事前指導の在り方を考えてくること。（２時間）
事後学習：家庭・地域ぐるみで子どもの安全を守る対策を整理しておくこと。（２時間）
第15回：学校、地域の安全管理と安全指導の徹底について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：居住地域の防災体制や学校の安全管理と指導の現状について考えてくること。（２時間）
事後学習：地域の安全・防災の充実のために積極的に行動できるようにすること。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験50％ 学習への意欲的な姿勢とノート30％ グループ討議20％

成　績　評　価　基　準

保育園・幼稚園・小学校教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解しているか。
社会の状況の変化と学校教育へ影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけ、学校と地域との連携と協働の仕方を理解しているか。
学校管理下での事件・事故・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解することができているか。

テキスト、参考図書

小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説「総則編」(文部科学省 東洋館出版社 平成29 年)
教育小六法（市川須美子・小野田正利・勝野正章・窪田眞二・中嶋哲彦・成嶋隆著 岳陽書房 平成28年)
保育所保育指針解説書 (厚生労働省 フレーベル館 平成20 年)
幼稚園教育指導要領 (文部科学省 フレーベル館 平成20 年)

その他(受講上の注意)

私語・無気力厳禁。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法(子ども教育学科) (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2305	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　道徳の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学校で道徳教育をいかに行うかが大きな課題となっている。本授業では、この古くて新しい課題について理解を深めたうえで、学習指導要領に示される道徳教育の目標や内容について考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成し、順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。

授業の到達目標

・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できる。
・道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(模擬授業)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間)
　事後学習：参考図書を検索し読書計画を立てるとともに、指導案の作成計画を立てる。(2時間)
第2回：道徳教育の難しさ(1)──道徳は知識なのか行為なのか
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第3回：道徳教育の難しさ(2)──宗教と道徳について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第4回：道徳教育の難しさ(3)──評価のあり方について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第5回：道徳性発達理論についての考察
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第6回：学習指導要領を読む──第1章「総則」、第3章「特別の教科　道徳」
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第7回：教材研究(1)──『心のノート』と『私たちの道徳』を中心に(グループワーク)
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)

第８回：教材研究（２）── 読み物教材の使い方（グループワーク）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第９回：日本における道徳教育の歴史
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第10回：指導法の検討（１）── インカルケーション（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第11回：指導法の検討（２）── ディベート（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第12回：指導法の検討（３）── モラルジレンマ（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第13回：指導法の検討（４）── ロールプレイ（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第14回：指導法の検討（５）── 構成的グループエンカウンター（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）
指導案の内容（25％）
平常点（25％）
（平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容、模擬授業に対する講評の内容をもとに評価する。）

成　績　評　価　基　準

・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できるか。
・道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：「小学校学習指導要領」（平成29年３月告示　文部科学省）
参考図書：授業時に指示する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生徒・進路指導論 (Educational Guidance and Consultation)			担当教員	黒田　祐二
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2310	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・生徒指導の理論及び方法
・進路指導の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

授業計画の前半は生徒指導，後半は進路指導(キャリア教育)について講義する。どちらにおいても，まず概要と原理について講義し，次に全体指導や個別指導の具体的な進め方について講義するという順序で進める。全体指導や個別指導に関する授業では，グループ・ディスカッションや討論も取り入れる。

授業の到達目標

生徒指導及び進路指導(キャリア教育)の考え方や方法を学ぶことを通して，指導を効果的に進めていくために必要な知識，技能，素養を身につける。また，校内外の関係者と連携しながら学校全体で組織的に生徒・進路指導を進めていくことの意義や重要性を理解し，その具体的な方法について知識を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：生徒指導の概要 ── 教育課程における位置づけと生徒指導の意義，生徒指導が機能する場面や領域，生徒指導の体制とその運営，生徒指導に関わる主な法令
事前学習：テキスト等を参考にして生徒指導の定義や概要について予習しておくこと(2時間)
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること(2時間)

第2回：生徒指導の意義と原理1 ── 発達観と指導観
事前学習：テキスト等を参考にして発達観と指導観について予習しておくこと(2時間)
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること(2時間)

第3回：生徒指導の意義と原理2 ── 集団指導と個別指導の方法原理
事前学習：テキスト等を参考にして集団指導と個別指導について予習しておくこと(2時間)
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること(2時間)

第4回：児童生徒の理解と指導 ── 児童生徒の心理を踏まえた指導のあり方
事前学習：テキスト等を参考にして児童生徒の心理について予習しておくこと(2時間)
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること(2時間)

第5回：全体指導の進め方1 ── 自己肯定感や存在感を育てる生徒指導
事前学習：テキスト等を参考にして自己肯定感や存在感の育て方について予習しておくこと(2時間)
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること(2時間)

第６回：全体指導の進め方２ ── 自己指導能力を育てる生徒指導
事前学習：テキスト等を参考にして自己指導能力とその育て方について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２ 時間）
第７回：個別指導の進め方１ ── いじめの理解と対応（ディスカッションを含む）
事前学習：テキスト等を参考にしていじめの理解と対応について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第８回：個別指導の進め方２ ── 非行の理解と対応（ディスカッションを含む）
事前学習：テキスト等を参考にして非行の理解と対応について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第９回：個別指導の進め方３ ── 不登校の理解と対応（ディスカッションを含む）
事前学習：テキスト等を参考にして不登校の理解と対応について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第10回：個別指導の進め方４ ── 今日的な問題行動と校内外の連携のあり方
事前学習：テキスト等を参考にして校内外の連携について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第11回：進路指導の概要 ── 教育課程における位置づけ，進路指導とキャリア教育の関係，キャリア形成に関する今日的な課題とキャリア教育の重要性
事前学習：テキスト等を参考にして進路指導の定義と概要を予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第12回：全体指導の進め方１ ── ガイダンスとしての指導，発達段階毎の進路指導・キャリア教育のあり方と進め方
事前学習：テキスト等を参考にして発達段階毎のキャリア教育について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第13回：全体指導の進め方２ ── キャリア教育の視点を取り入れたカリキュラムの編成と実施，キャリア教育と教科・特別活動・総合的な学習の時間との関係
事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア教育と他の教育活動との関係について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第14回：個別指導の進め方１ ── 自己理解・自己評価とキャリア形成の関係，ポートフォリオの作成と活用例
事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア教育の進め方について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第15回：個別指導の進め方２ ── キャリア・カウンセリングの考え方と実践方法
事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア・カウンセリングについて予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第16回：定期試験

成 績 評 価 方 法

定期試験（80%），小課題（20%）

成 績 評 価 基 準

1.生徒・進路指導に関する基本的な知識と考え方を身につけたかどうか。2.生徒・進路指導上の諸問題に実践的に対応するための視点やスキルを身につけたかどうか。

テキスト、参考図書

参考図書：文部科学省『生徒指導提要』教育図書（平成23年）※文部科学省のホームページからもダウンロードできる。
参考図書：黒田祐二（編集）『実践につながる教育相談』北樹出版（平成26年）

その他（受講上の注意）

講義のみならずディスカッションも多く取り入れるため，これらに積極的に取り組めることが大切です。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育相談(子ども教育学科) (Educational Counseling)			担当教員	佐々木雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2357	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(選択)

授業の内容

教育相談の意義と理論の理解が、実践技術を裏打ちするものとなるために、いじめ、不登校など各種架空事例を用いて、問題の所在や対応策の検討を行う。教育相談における様々な予防促進的支援技術の体験学習を行う。

授業の到達目標

学校における教育相談の意義と理論を理解する。教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事項を含む)を理解する。教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：15回の全体計画と学習のポイント及び到達目標の説明。教育相談の視点から学校という場、資源について。グループディスカッション。(ディスカッション)
事後学習：チーム学校に関し、指示した課題について、調べレポートにまとめておくこと。(3時間)

第2回：教育相談に生かす心理学的理解；見立て。事例検討で学ぶ、問題の背景、影響要因、資質のとらえ方。心理・社会的側面、学習・発達的側面のとらえ方。傾聴訓練を含むグループディスカッション。(ディスカッション)
事前学習：第1回に配布した資料を熟読しておくこと。(2時間)
事後学習：見立てについて、理解したことをレポートにまとめておくこと。(2時間)

第3回：教育相談に生かす心理学的理解；介入。事例に即して、教育相談のチーム作り、介入プランの立て方。開発的、予防的援助。グループディスカッション。傾聴訓練。(グループワーク)
事前学習：第2回に配布した事例について、自分なりの介入プランを立てること。(2時間)
事後学習：介入プランの立て方について、ポイントをレポートにまとめておくこと。(2時間)

第4回：不登校の現状、対策の有効性について。文科省の調査研究報告等にあたり、多角的視点による対応の考察。(プレゼンテーション)
事前学習：文科省の調査研究報告等前回の授業で指示した資料を調べまとめ、レポートにすること。(3時間)
事後学習：学校現場でどのような対応が望ましいか、学んだことをまとめておくこと。(2時間)

第5回：子供の貧困について。架空事例に触れ、学校生活での問題の現れ方、介入に際して配慮すべきこと、活用できる社会資源。(ディスカッション)
事前学習：日本の実態と、どのような対策がなされているか調べレポ──トにまとめておくこと。(2時間)
事後学習：子どもの貧困について、保育、幼児教育、学校現場でどのような対応が可能か、学んだことをまとめておくこと。(2時間)

第６回：いじめ理解、いじめ対応の基礎知識。非行について教育相談の意味。（ディスカッション）
事前学習：いじめ防止対策推進法について調べ、レポートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で検討したこと、学んだことについて、まとめておくこと。（２時間）
第７回：発達障害の学校での現れ方。発達障害の流動性。支援のための人格発達仮設。発達障害支援シートの活用。保護者支援。外部機関との連携。（ディスカッション）
事前学習：発達支援シートについて調べて、ディスカッションの資料になるように、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：二次障害の予防と対応、連携についてまとめておくこと。（２時間）
第８回：予防開発的アプローチとしてのSST の意味。SST の用い方。SST ワークの体験。現場で使われているSST の道具の体験。（グループワーク）
事前学習：第７回に配布した資料を熟読し、チェックリストを完成しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で、自分で作った宿題の回答を試みること。（２時間）
第９回：SST で開発できる分野。自分を振り返り、SST を活用する。（グループワーク）
事前学習： 児童生徒の相談内容からのＳＳＴについて、模擬課題を考えておくこと。（２時間）
事後学習：教育相談においてＳＳＴの効果的適応法についてまとめておくこと。（２時間）
第10回：予防開発的アプローチとしてのアサーティブトレーニングの意味。自尊感情、対等性、誠実であること、人権。自己理解、他者理解。（グループワーク）
事前学習：第９回に配布した資料を熟読し、質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学習： ＳＳＴとアサーティブネスの関係について、まとめておくこと。（２時間）
第11回：アサーティブトレーニングに基づいた、葛藤場面への対処。DESC。ワークの体験。（グループワーク）
事前学習：第10回に配布した資料を熟読し、質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：自分にとってのアサーティブネスについて検討し、レポートにすること。（２時間）
第12回：事件・事故・災害対応。危機管理について。緊急事態における教育相談の役割。チームのあり方。保護者支援。（ディスカッション）
事前学習：児童生徒を取り巻くリスクについて、想定し、対応策を考え、書き出しておくこと。（２時間）
事後学習： サイコロジカルファーストエイドにつて要点をまとめておくこと。（２時間）
第13回：学齢期の精神科疾患の基礎知識。学校での現れ方。専門機関との連携。
事前学習：第12回に配布した資料を熟読しておくこと。（２時間）
事後学習：支援のための連携機関について、図に整理すること。（２時間）
第14回：リラクゼーションとは。ストレスマネージメントについて。体験学習。教育相談での活かし方。（グループワーク）
事前学習：第13回に指示した、リラクゼーションの技法についてあらかじめ調べておくこと。（２時間）
事後学習：教育現場のストレスマネージメントの有効性について、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：ふりかえり。今まで学んだことの振り返り。改めて事例をもとに、見立て、介入プランの試作。
事前学習：授業全体を振り返り、疑問や質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：参考図書について、指示した要点を確認しておくこと。（２時間）

成 績 評 価 方 法

小レポート（50%） 平常点（50%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成 績 評 価 基 準

いじめ、不登校、発達障害について、基礎知識をもち、カウンセリングマインドを生かした支援ができる。支援プランを立てることが出来る。

テキスト、参考図書

テキスト
西本絹子著『教師のための初等教育相談』萌文書林
参考図書
藤田哲也監修『絶対役立つ教育相談』ミネルヴァ書房
小野田正利、藤川信夫監修『体験型ワークで学ぶ教育相談』大阪大学出版会
河合隼雄著『こころの子育て－誕生から思春期までの48 章』朝日新聞社

その他（受講上の注意）

都度資料を配布し、レポートを課していきますので、本教科のためのファイルを用意してください。
予習復習については、授業時に資料や課題を指示します。また授業で行う体験学習に積極的に取り組んでください。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家庭 (Domestic Science)			担当教員	高原　信江
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2301	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　家庭

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）

授業の内容

家庭科教育についての理論と実践を探究的に学ぶ

授業の到達目標

家庭科の学習内容の理解を深めるとともに、生活における課題意識をもち、解決へと取り組むことができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□ 発表（プレゼンテーション）■実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（模擬授業）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：「じゃがいも」から見えること 調理法 栄養価など
　事前学習：家庭科教科書を読み、内容を把握しておく。（2時間）
　事後学習：別の視点でじゃがいもから見えてくる事柄について調べ、レポートにまとめる。（2時間）
第2回：「じゃがいも」調理での廃棄率 調理法の実践（実習）
　事前学習：調理実習の手順等を把握しておく。（2時間）
　事後学習：実習で得た学びを生活の中で実践する。（2時間）
第3回：消費者教育 表示と選択 カップ麺の塩分量（グループワーク）
　事前学習：どんな視点で商品を選択しているかについてまとめておく。（2時間）
　事後学習：カップ麺と健康について考察し、レポートにまとめる。（2時間）
第4回：消費者教育 表示と選択 ジュースの表示と本当の甘さ（グループワーク）
　事前学習：どんな視点で飲み物を選択しているかについてまとめておく。（2時間）
　事後学習：飲み物を購入する時のポイントをまとめる。（2時間）
第5回：指導案作成 食領域「食品の表示」
　事前学習：食品を購入するときのポイントをまとめておく。（2時間）
　事後学習：指導案の内容を推敲し仕上げる。（2時間）
第6回：模擬授業に向けて 教材・教具づくり 評価と支援
　事前学習：授業に向けて必要なことを把握しておく。（2時間）
　事後学習：模擬授業に向けての準備を整える。（2時間）
第7回：模擬授業 振り返り
　事前学習：模擬授業に向けての発問や板書などを確認する。（2時間）
　事後学習：授業後の振り返りをまとめる。（2時間）
第8回：子どもの食物アレルギー
　事前学習：食物アレルギーについて調べておく。（2時間）
　事後学習：学校教育において配慮すべき点をレポートにまとめる。（2時間）
第9回：伝統文化「こぎん刺し」時代背景 こぎん刺しの基本（実習）
　事前学習：伝統文化について調べておく。（2時間）
　事後学習：こぎん刺しの基本練習を完成させる。（2時間）

第10回：こぎん刺しで作品づくり（実習）
　　事前学習：作品の構想を考えておく。（２時間）
　　事後学習：こぎん刺しの作品を完成させる。（２時間）
第11回：自然の材料を生かした草木染め
　　事前学習：草木染めについて調べておく。（２時間）
　　事後学習：それぞれの材料を準備しておく。（２時間）
第12回：草木染め 染液（よもぎ）で布を染める（実習）
　　事前学習：資料を読み、染料（よもぎ）の作り方を理解しておく。（２時間）
　　事後学習：染めた布の後処理を行う。（２時間）
第13回：草木染め 染液（たまねぎの皮）で布を染める（実習）
　　事前学習：資料を読み、染料（たまねぎ）の作り方を理解しておく。（２時間）
　　事後学習：染めた布の後処理を行う。（２時間）
第14回：草木染め（よもぎ）の布を使ってコースターづくり（実習）
　　事前学習：コースターの作り方を理解しておく。（２時間）
　　事後学習：コースターの作品を完成させる。（２時間）
第15回：草木染め（たまねぎ）の布を使って作品づくり（実習）
　　事前学習：作品の構想を考えておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（30％）作品・レポート（50％）授業への取組（20％）
（授業への取組は、授業への参加状況・受講態度などを総合的に判断する。）

成　績　評　価　基　準

家庭科の内容について理解を深めることができたか。
生活全般について興味・関心をもち、課題解決に向けて実践的に学ぶことができたか。

テキスト、参考図書

（１）「小学校学習指導要領解説（家庭編）」文部科学省、東洋館出版社、平成29年度７月
（２）「小学校家庭科教科書 わたしたちの家庭科５・６」桜井 純子 他、開隆堂、平成26年４月

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

国語科教育法 (Teaching Method s of Japanese Language)			担当教員	笠原　茂子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2351	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学習指導要領に示された小学校国語科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の到達目標

小学校国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科お内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を身につける。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：新学習指導要領における国語科の目標・内容・構造の特色とその背景
事前学修：テキスト「小学校学習指導要領解説　国語編」の第1章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：「初等国語教育の基本的視点」について、テキスト「初等国語科教育」等を見直しノートにまとめておくこと。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間)
第2回：今日的課題「言葉による見方・考え方」、指導技術「ICTの活用」、板書の仕方　(討議・実技)
事前学修：テキストの第2章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：「メディアリテラシー・ICTの活用」について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間)
第3回：国語科学習指導案の書き方、評価の仕方　(実技・グループワーク)
事前学修：テキストの第4章(1・2)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと(2時間)
事後学修：「学習指導案が持つ意義と指導案作成の実際」について、テキスト等を見直しノートにまとめておくこと。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間)
第4回：教材研究の方法と学習指導案作成①「読むこと」の教育(物語文教材)　(グループワーク・発表)
事前学修：テキストの第3章第1節(2　思考力・判断力・表現力等)を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：「文学的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。(2時間)

第５回：教材研究の方法と学習指導案作成②「読むこと」の教育（説明文教材）（グループワーク・発表）
事前学修：テキストの第３章第２節（２　思考力・判断力・表現力等）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学修：「説明的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（２時間）
第６回：教材研究の方法と学習指導案作成③「書くこと（書写を含む）」の教育　（グループワーク・発表）
事前学修：テキストの第３章第３節（２　思考力・判断力・表現力等）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学修：「書くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（２時間）
第７回：教材研究の方法と学習指導案作成④「話すこと・聞くこと」の教育　（グループワーク・発表）
事前学修：テキストの第４章（３）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（２時間）
「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておくこと。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（２時間）
事後学修：「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（２時間）
第８回：教材研究の方法と学習指導案作成⑤「知識及び技能（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化）」の教育　（グループワーク・発表）
事前学修：テキストの第３章第１・２・３節（１　知識及び技能）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学修：「国語の特質に関する事項・伝統的な言語文化」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておく。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（２時間）
第９回：模擬授業と省察①「読むこと」の教育（物語教材）　（実技・グループワーク・討議）
事前学修：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他者の模擬授業指導案（４本分）を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：模擬授業（４本）について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめておく。（２時間）
自分が模擬授業を実施した場合は、指導案と授業について各グループの評価表を参考にして見直し、「協議から」と「感想」の２項目を付け加えて指導案を書き直すこと。（２時間）
第10回：模擬授業と省察②「読むこと」の教育（説明文教材）　（実技・グループワーク・討議）
事前学修：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案（４本分）を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：模擬授業（４本）について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめておくこと。（２時間）
第11回：模擬授業と省察③「書くこと（書写を含む）」の教育　（実技・グループワーク・討議）
事前学修：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案（４本分）を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：模擬授業（４本）について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめておくこと。（２時間）
第12回：模擬授業と省察④「話すこと・聞くこと」の教育　（実技・グループワーク・討議）
事前学修：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案（４本分）を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：模擬授業（４本）について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめておくこと。（２時間）
第13回：模擬授業と省察⑤「知識及び技能」の教育　（実技・グループワーク・討議）
事前学修：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案（４本分）を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：模擬授業（４本）について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの評価（良かった点・改善点）をまとめておくこと。（２時間）

第14回：国語科におけるユニバーサルデザイン　（課題解決型学習・発表）
事前学修：テキスト「初等国語科教育」の第13章を読み、ユニバーサルデザインの授業について調べておくこと。（２時間）
事後学修：図書館や書店、インターネット等で、国語教育に関してどのような書籍や雑誌があるかを探り、見つけた本の内容や読んでみたい本についてノートにまとめること。（２時間）
第15回：指導と評価の一体化（評価を指導に生かすための具体的な手立てと工夫）　（課題解決型学習・発表）
事前学修：「初等国語教育の課題と展望」についてテキスト「初等国語科教育」の第15章を参考にしながら、ノートにまとめること。（２時間）
事後学修：テキスト②の第15章や図書館で調べたことを参考にしながら、「①この講義を受講して、具体的にまなんだこと②学び続ける国語教師になるための努力事項」についてノートにまとめること。（２時間）

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（50%）、授業内の課題レポート（30%）、 模擬授業の発表内容（20%）

成　績　評　価　基　準

基本を踏まえながら、児童の国語の力の育成に資する国語科学習指導案を作成し、実践することができるか。

テキスト、参考図書

１．『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年３月
２．『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年７月
３．『MINERVAはじめて学ぶ教科教育１　初等国語科教育』吉田　武男 監修、ミネルヴァ書房、平成30年３月
参考書・参考資料等
小学校国語科教育法（牛頭哲宏・森篤嗣著　ココ出版　平成24年）
小学校教育課程実践講座「国語」（樺山敏郎編　ぎょうせい　平成29年）
文学教材を深く読むための国語授業デザイン（三好修一郎編　明治図書　平成29年）

その他（受講上の注意）

準備物については、その都度指示します。
指導案作成と模擬授業は個人でします。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会科教育法 (Teaching Method s of Social Science)			担当教員	奥谷　崇
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2352	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学習指導要領に示された小学校社会の目標や内容を理解し、小学校社会の基礎的な学習理念を理解し、各学年の具体的な授業場目を想定した授業設計と授業実践の方法を身につける。

授業の到達目標

小学校社会に教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された社会の学習内容について理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■ 発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：社会科教育の意義と役割について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
事前学習：社会科教育の特質について自分の意見をまとめてくること。(2時間)
事後学習：社会科教育の意義と役割をまとめ、社会科教育の使命と責任の大きさを自覚すること。(2時間)
第2回：社会科教育の目標と内容について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
事前学習：学習指導要領解説社会編Ｐ17～Ｐ30を熟読し、社会科教育の目標を整理してくる。(2時間)
事後学習：目指す社会科教育の目標を明確に理解し、要点を整理しておくこと。(2時間)
第3回：学習指導要領の改定と社会科教育の方法について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
事前学習：学習指導要領の改訂の要点を把握し、社会科教育をどのように改善していくかをまとめてくる。(2時間)
事後学習：改訂の趣旨を踏まえ生かしていく社会科教育の方法を整理しておくこと。(2時間)
第4回：主体的な社会科学習の方法と評価の方法(ルーブリックの作成)について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
事前学習：全体・集団・個人の学習活動の評価のポイントと評価の方法について考えてくること。(2時間)
事後学習：単元の指導計画に応じた評価計画について書き上げてくる。(2時間)
第5回：児童の実態を踏まえた社会科学習指導案の書き方について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
事前学習：学習指導案の具体例を読み、実態の把握と学習指導との関連と方針についてまとめてくること。(2時間)
事後学習：指導による実態の改善について自分の小中高の社会科授業を振り返り検証してくること。(2時間)
第6回：3・4年社会の目標・内容と指導上の留意点について　(ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表)
事前学習：学習指導要領解説社会編Ｐ31～Ｐ69を読み、要点をノートに整理してくること。(2時間)
事後学習：3年と4年の児童の発達特性を踏まえて指導の工夫と配慮を明確に整理しておくこと。(2時間)

第７回：３・４年社会の学習指導案と作成について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：学習指導要領解説編Ｐ31～Ｐ69を踏まえ、扱う内容を選び学習指導案を書いてくること。（２時間）
事後学習：課題解決型学習とアクティブラーニングを意識した学習計画指導案を仕上げること。（２時間）
第８回：模擬授業と指導内容に応じた指導技術（板書、ICT、資料の活用）について　（討議・発表）
事前学習：導入部分の実践計画をワークシートに書き上げてくること。（２時間）
事後学習：学習課題の設定に重点を置いて振り返り、導入の仕方をまとめてくる。（２時間）
第９回：５年社会の目標・内容と指導上の留意点について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：学習指導要領解説社会編Ｐ70～Ｐ96を読み、要点をノートに整理してくること。（２時間）
事後学習：５年の児童の発達特性を踏まえて指導の工夫と配慮を明確に整理しておくこと。（２時間）
第10回：５年社会学習指導案の作成について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：学習指導要領解説編Ｐ70～Ｐ96を踏まえ、扱う内容を選び学習指導案を書いてくること。（２時間）
事後学習：課題解決型学習とアクティブラーニングを意識した学習計画指導案を仕上げること。（２時間）
第11回：模擬授業と指導技術（学習単元の理解・学習課題設定・学習方法の関連）について　（討議・発表）
事前学習：展開部分の実践計画をワークシートに書き上げてくること。（２時間）
事後学習：充実したアクティブラーニングを保証する各指導技術を自己評価し、技術向上に努めること。（２時間）
第12回：６年社会の目標・内容と指導上の留意点について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：学習指導要領解説社会編Ｐ97～Ｐ134を読み、要点をノートに整理してくること。（２時間）
事後学習：６年生のアクティブラーニングを活発に促す指導・助言について考え工夫をまとめておくこと。（２時間）
第13回：６年社会学習指導案の作成について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク）
事前学習：学習指導要領解説社会編Ｐ97～Ｐ134を踏まえ、単元を選び、書き上げてくること（２時間）
事後学習：導入・展開・終末に分けて学習過程のポイントを整理しておくこと。（２時間）
第14回：模擬授業と目標に応じた授業方法の工夫について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：本時の目標を確認し、目標の実現に向けた授業方法を考えてくる。（２時間）
事後学習：深い学びを実現し、児童の社会的な見方・考え方を高める方法をまとめること。（２時間）
第15回：社会科教育の指導と評価の方法について　（ＰＢＬ・討議・グループワーク・発表）
事前学習：知識・理解から社会を生き抜く社会科教育と評価の方法を考えてくること。（２時間）
事後学習：求められる社会科教育について要点をまとめること。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）、模擬授業（30％）、社会授業の取り組み（20％）

成　績　評　価　基　準

小学校社会に教育目標、育成を目指す資質・能力を理解しているか。
学習指導要領に示された社会の学習内容について理解を深めているか。
様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけているか。

テキスト、参考図書

小学校学習指導要領（平成29年３月告示 文部科学省）
小学校学習指導要領解説 社会編（平成29年７月 文部科学省）
小学校社会科教科書 新編 新しい社会３・４年上・下（北俊夫他著他 東京書籍 平成27年）
小学校社会科教科書 新編 新しい社会３・４年上・下（北俊夫著他 東京書籍 平成27年）
小学校社会科教科書 新編 新しい社会５ 年上・下（北俊夫他著他 東京書籍 平成27年）
小学校社会科教科書 新編 新しい社会６ 年上・下（北俊夫他著他 東京書籍 平成27年）
新編新しい地図帳（松田博康著他 東京書籍 平成27年）

その他（受講上の注意）

私語及び授業への無気力厳禁。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生活科教育法 (Teaching Method s of Life Studies)			担当教員	筧　みち子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2353	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学習指導要領に示された小学校生活科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の到達目標

小学校生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学習領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■ 発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：講義～年間指導計画作成の配慮事項(指導要領の生活科の目標及び内容の理解)について
　事前学習：テキストの年間指導計画作成の配慮事項(1)～(6)を熟読し要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：生活科の特性を考慮した年間指導計画のポイントをまとめること。(2時間)
第2回：実習～生活科全体を見通しての年間指導計画作成(実習：1・2学年のカリキュラム作成)
　事前学習：年間指導計画の構想を立てておくこと。(2時間)
　事後学習：年間指導計画作成の配慮事項の観点から自分の作成した年間指導計画を見直す。(2時間)
第3回：講義～生活科の単元計画の作成、評価の在り方について
　事前学習：テキストの単元計画の作成、評価の在り方についてを熟読し要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：生活科の評価の特性をまとめておくこと。(2時間)
第4回：講義～学習指導の進め方と学習指導案の書き方について(情報機器及び教材の活用を含む。)
　事前学習：テキストの学習指導の進め方を熟読し要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：模擬授業をする単元を決めておく(2時間)。
第5回：実習～模擬授業実施計画と内容(6)「あきまつり」の活動計画(情報機器及び教材の活用を含む。)　(グループワーク)
　事前学習：内容(6)身近な自然を利用した遊び「あきまつり」での遊びの計画・準備をする。(2時間)
　事後学習：「あきまつり」に使う自然のものを集める。(フィールドワーク)(2時間)
第6回：実習～内容(6)「あきまつり」の準備・制作(情報機器及び教材の活用を含む。)(実習・グループワーク)
　事前学習：グループで出す店において、個人で出来る範囲の準備をしておくこと。(2時間)
　事後学習：グループで出す店において、グループで準備について確認し、改良できることはないかを話し合うこと。(2時間)

第７回：演示授業～内容（６）（自然や物を使った遊び)「あきまつり」（実習・グループワーク）
繰り返しや試行錯誤の活動を重視、伝え合い交流する場の工夫、児童の多様性を生かした活動の充実、振り返りカードの活用、適切な発問、板書の仕方、教材教具の使い方
事前学習：「あきまつり」がより楽しくなるように、遊び方や遊び方がわかるような表示などの工夫を重ねる。（２時間）
事後学習：テキストの学習指導の進め方を再読し、「あきまつり」の授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第８回：模擬授業～内容（１）（学校と生活）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「学校と生活」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第９回：模擬授業～内容（２）（家庭と生活）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「家庭と生活」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第10回：模擬授業～内容（３）（地域と生活）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「地域と生活」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第11回：模擬授業～内容（４）（公共物や公共施設の利用）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「公共物や公共施設の利用」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第12回：模擬授業～内容（５）（季節の変化と生活）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「季節の変化と生活」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第13回：模擬授業～内容（７）（動植物の飼育・栽培）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「動植物の飼育・栽培」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第14回：模擬授業～内容（８）（生活や出来事の交流）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「生活や出来事の交流」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第15回：模擬授業～内容（９）（自分の成長）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「自分の成長」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）、生活科年間指導計画作成（10％）、模擬授業の取り組み（30％）
毎回授業終了時の５分間感想レポート（10％）

成　績　評　価　基　準

生活科年間指導計画を作成できたか。単元計画の作成と学習指導の進め方を理解し、模擬授業に生かすことができたか。

テキスト、参考図書

テキスト
小学校学習指導要領解説　生活編　（平成30年２月　文部科学省）
新編あたらしいせいかつ（上）（加藤明、濱田純、吉田豊香 他著　東京書籍　平成29年）
新編新しい生活（下）（加藤明、濱田純、吉田豊香 他著　東京書籍　平成29年）
参考書・参考資料等
小学校新学習指導要領の展開　生活科編（木村吉彦 編著、明治図書　平成20年）

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽科教育法 (Teaching Method s of Music)			担当教員	木村　悦子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2302	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学習指導要領に示された小学校音楽科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業の到達目標

小学校学習指導要領に示された「音楽科の目標」について理解し、音楽科目標達成のための具体的な学習指導内容「表現と鑑賞」活動について理解を深める。また、学習指導計画並びに学習指導案の作成について研究したり、授業展開の実際を互いの授業から学んだりして、実践的な能力を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：音楽科教育法(全般)と今後の授業計画について、表現活動(発声法)の実践(実技)
　事後学修：授業で学んだ発声法や指揮法についてふり返り、各自練習すること。(1時間)
第2回：小学校学習指導要領「音楽科の目標及び内容」について
　表現活動(合唱・指揮法)の実践(実技)
　事前学修：授業前に学習指導要領(音楽科)に目を通し、概略を知ったり質問事項をまとめておくこと。(1時間)
　事後学修：授業で学んだ小学校学習指導要領(音楽科)を復習しまとめておくこと。また、学んだ発声法や指揮法をふり返り各自練習すること。(1時間)
第3回：小学校学習指導要領「第1学年及び第2学年の目標と内容」について
　低学年(1，2年)の歌唱教材指導のポイントと実際
　事前学修：授業前に学習指導要領(音楽科)に目を通し、概略を理解し質問事項をまとめておくこと。(1時間)
　事後学修：授業で扱った低学年の歌唱教材の指導の実践例をふり返り、低学年の教科書から歌唱指導教材を取り出し、ねらいと授業の大まかな計画を立てること。(1時間)
第4回：低学年の器楽指導のポイントと実際、簡易楽器の奏法と実践(実技)
　事前学修：授業前に教科書に目を通し、小学校で扱う簡易楽器の種類を調べておくこと。(1時間)
　事後学修：授業で扱った簡易楽器の奏法をふり返り、正しい奏法を身に付けること。(1時間)
第5回：小学校学習指導要領「第3学年及び第4学年の目標と内容」について
　中学年(3，4年)の歌唱教材指導のポイントと実際
　事前学修：授業前に学習指導要領(音楽科)に目を通し、概略を理解し質問事項をまとめておくこと。(1時間)
　事後学修：授業で扱った中学年の歌唱教材の指導の実践例をふり返り、中学年の教科書から歌唱指導教材を取り出し、ねらいと授業の大まかな計画を立てること。(1時間)

第６回：音楽づくり指導のポイントと実践
リコーダー指導のポイントと実際（奏法と音色・響き合い）（実技）
事前学修：授業前に教科書に目を通し、「音楽づくり」とはどのような活動なのかを調べておくこと。またリコーダーの奏法について調べ、練習すること。（２時間）
事後学修：授業で扱った音楽づくりの指導の実践例及びリコーダー指導のポイントをふり返り、美しい響きが出せるように練習すること。（２時間）
第７回：小学校学習指導要領「第５学年及び第６学年の目標と内容」について
高学年（５，６年）の歌唱教材指導のポイントと実践
事前学修：授業前に学習指導要領（音楽科）に目を通し、概略を理解し質問事項をまとめておくこと。（１時間）
事後学修：授業で扱った高学年の歌唱教材の指導の実践例をふり返り、高学年の教科書から歌唱指導教材を取り出し、ねらいと授業の大まかな計画を立てること。（１時間）
第８回：鑑賞指導のポイントと実際（１～６年の教科書の教材から）
音楽科学習指導案（模擬授業）の書き方について
事前学修：授業前に教科書に目を通し、各学年の共通鑑賞教材を調べておくこと。（２時間）
事後学修：授業で扱った鑑賞教材の指導の実践例をふり返り、音楽科学習指導案の書き方を復習し、質問事項をまとめておくこと。（１時間）
第９回：２重奏リコーダー発表会（全員）、模擬授業の進め方、相互評価の仕方について（実技）
事前学修：２人組で美しい響きが出せるように、それぞれの課題曲を二重奏練習しておくこと。（４時間）
事後学修：模擬授業の進め方のプリントを基にふり返り、シミレーションしながらポイントをつかむこと。（２時間）
第10回：模擬授業①（１年教材から）とふり返り、授業評価、音楽と身体表現、１・２学年における情報機器の使い方について（ディスカッション）
事前学修：模擬授業の指導案を立て模擬授業の準備をすること。（５時間）
事後学修：模擬授業のふり返りで討議されたことやアドバイスをまとめること。（１時間）
第11回：模擬授業②（２年教材から）とふり返り、授業評価、表現と鑑賞の表裏一体について（ディスカッション）
事前学修：模擬授業の指導案を立て模擬授業の準備をすること。（５時間）
事後学修：模擬授業のふり返りで討議されたことやアドバイスをまとめること。（１時間）
第12回：模擬授業③（３年教材から）とふり返り、授業評価、合唱指導のポイントと実際、３・４ 学年における情報機器の使い方について（ディスカッション）
事前学修：模擬授業の指導案を立て模擬授業の準備をすること。（５時間）
事後学修：模擬授業のふり返りで討議されたことやアドバイスをまとめること。（１時間）
第13回：模擬授業④（４年教材から）とふり返り、授業評価、器楽指導のポイントと実際について（ディスカッション）
事前学修：模擬授業の指導案を立て模擬授業の準備をすること。（５時間）
事後学修：模擬授業のふり返りで討議されたことやアドバイスをまとめること。（１時間）
第14回：模擬授業⑤（５年教材から）とふり返り、授業評価、音楽づくり（リズムアンサンブル）のポイントと実際、５・６ 学年における情報機器の使い方について（ディスカッション）
事前学修：模擬授業の指導案を立て模擬授業の準備をすること。（５時間）
事後学修：模擬授業のふり返りで討議されたことやアドバイスをまとめること。（１時間）
第15回：模擬授業⑥（６年教材から）とふり返り、授業評価、日本の音楽の指導と実際について（ディスカッション）
事前学修：模擬授業の指導案を立て模擬授業の準備をすること。（５時間）
事後学修：模擬授業のふり返りで討議されたことやアドバイス等をまとめること。（１時間）
第16回：定期試験

成績評価方法

定期試験（50%）　模擬授業の取り組み（30%）　音楽的表現・鑑賞能力（20%）

成績評価基準

音楽教育の目標を理解したうえで、実践的な授業の進め方や指導法を体得しているか。

テキスト、参考図書

＜テキスト＞
小学生の音楽１～６（教育芸術社）
小学校学習指導要領解説音楽編（教育芸術社）
福井県小学生の歌集「うたはともだち」（福井県小学校教育研究会音楽研究部会）
＜参考文献＞
音楽教育における「不易」と「流行」（教育芸術社出版）
小学校鑑賞ガイドブック（教育芸術社出版）

その他（受講上の注意）

表現活動や模擬授業の中で、積極的に実践活動に取り組み、人を指導する体験を積み重ねることを望む。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

図画工作科教育法 (Teaching Method s of Arts and Crafts)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2303	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学習指導要領に示された小学校図画工作科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業を想定して授業計画を立てるとともに授業を行う方法を身に付ける。

授業の到達目標

小学校図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。また、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業を想定して授業計画を立てるとともに、授業を行う方法を身に付ける。
・指導案の意味や作成方法を説明できる。
・指導案を作成し、実践することができる。
・教材研究の意味を理解し、教材研究をすることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他(模擬授業)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：教育における図画工作科の特殊性と学力の構造
　事前学習：学習指導要領図画工作編解説を読み、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容をまとめておくこと。(2時間)
第2回：新学習指導要領における図画工作科の目標・内容の特色とその背景
　事前学習：学習指導要領図画工作編解説表現、鑑賞についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容をまとめておくこと。(2時間)
第3回：指導技術「ＩＣＴの活用」、板書の仕方、授業の展開方法
　事前学習：ＩＣＴ活用、授業展開についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業内容をまとめておくこと。(2時間)
第4回：図画工作科学習指導案の書き方、評価の仕方
　事前学習：指導案題材を複数考えてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：模擬授業を行う指導案題材を決め、授業展開をまとめておくこと。(2時間)
第5回：教材研究の方法と学習指導案作成
　事前学習：指導案下書きを作成しておくこと。(2時間)
　事後学習：指導案を清書し、提出できるようにしておくこと。(2時間)
第6回：模擬授業1・2年生平面表現と省察(模擬授業・実技・グループワーク)
　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。(2時間)
　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。(2時間)
第7回：模擬授業1・2年生立体表現と省察(模擬授業・実技・グループワーク)
　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。(2時間)
　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。(2時間)

第８回：模擬授業１・２年生鑑賞と省察（模擬授業・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第９回：模擬授業３・４年生平面表現と省察（模擬授業・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第10回：模擬授業３・４年生立体表現と省察（模擬授業・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第11回：模擬授業３・４年生鑑賞と省察（模擬授業・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第12回：模擬授業５・６年生平面表現と省察（模擬授業・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第13回：模擬授業５・６年生立体表現と省察（模擬授業・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第14回：模擬授業５・６年生鑑賞と省察（模擬授業・実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第15回：指導と評価の一体化、評価に基づいて指導に活かすための基礎的理解
　　事前学習：作品評価、図画工作科教育についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：図画工作科教育に関するレポートを作成して提出する。（２時間）
・指導案を作成し、作品例をいくつか制作する
・課題となるレポートを作成する
・定期試験は実施しない

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（40％）、模擬授業（40％）、模擬授業の取組（20％）

成　績　評　価　基　準

・緻密な指導案を作成できるか。
・指導案に基づいて模擬授業を行えるか。
・作品例を制作しながら教材研究を行えるか。
・工夫した作品を制作できるか。
・課題に即したレポートを作成できるか。

テキスト、参考図書

文部科学省　『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』　平成29
教科書　『図画工作１年生上・下、２年生上・下、３年生上・下、４年生上・下、５年生上・下、６年生上・下』　日本文教出版
伊東知之著　『造形表現・図画工作　教材集』　平成29年
仁愛大学子ども教育学科　『小学校教育実習の手引き』

その他（受講上の注意）

図工用具一式を毎時間持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家庭科教育法 (Teaching Method s of Domestic Science)			担当教員	高原　信江
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2354	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

衣食住などに関する実践的・体験的な活動や問題解決的な学びを通して、目標や学習内容の理解を深めるとともに、授業を創造し、実践しながら授業づくりの方法を身に付ける。今日的課題 である環境に配慮した生活への理解を深める。

授業の到達目標

小学校家庭科における教育目標や育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容を踏まえた授業づくりや学習活動を支える基礎を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□ 発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他(模擬授業)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：学習指導要領に示された家庭科教育の目標と学習内容の理解
　事前学習：学習指導要領を読み、内容を理解しておく。(2時間)
　事後学習：学習指導要領解説を読んでおく。(2時間)
第2回：住領域 整理・整頓の仕方と必要性 使用目的や頻度、物の取り出しさや空間の有効性への理解
　事前学習：住領域の指導要領解説を読んでおく。(2時間)
　事後学習：授業内容を実践し、成果と課題を把握しておく。(2時間)
第3回：住領域 環境に配慮した生活の工夫　3R・5Rの理解 不要になった衣類を生かした作品づくり(コースター、アームカバー)(実習)
　事前学習：不要になった衣類を準備し、作品の構想を考える。(2時間)
　事後学習：作品を完成させる。(2時間)
第4回：食領域 じゃがいもに関しての探究(産地、栄養、栽培、ソラニンなど) じゃがいも を使った調理計画 評価項目の工夫
　事前学習：じゃがいもについて視点をもって調べておく。(2時間)
　事後学習：じゃがいもについてまとめておく。(2時間)
第5回：食領域 じゃがいもを使った調理実習 じゃがいもの廃棄率(環境) 切り方の基礎 環境に優しい後片付けの仕方(実習)
　事前学習：調理実習の手順や準備を整えておく。(2時間)
　事後学習：調理の振り返りを行う。(2時間)
第6回：衣領域 衣類実験＜繊維の性質：通気性 保湿性 吸湿性 伸縮性 防しわ性＞(実験)
　事前学習：素材の違う衣類を調べ準備しておく。(2時間)
　事後学習：それぞれの性質についてレポートにまとめておく。(2時間)
第7回：衣領域 洗濯実験(なぜ汚れが落ちるのか) 洗剤の成分 界面活性剤の働き＜浸透作用 乳化作用 分散作用 再付着防止作用＞と生分解性(環境)の理解 手洗いの良さ(実験)
　事前学習：我が家の洗剤を調べ、実験に必要な準備を行う。(2時間)
　事後学習：洗濯に関する実験をレポートにまとめる。(2時間)

第８回：衣領域 洗濯用洗剤の働き　種類 取り扱い絵表示 適切な使用量（環境）
事前学習：取り扱い絵表示と意味を調べておく。（２時間）
事後学習：環境に優しい洗剤の使用についてレポートにまとめる。（２時間）
第９回：授業づくり（衣領域）衣類実験と洗濯実験を生かした授業づくり 指導案の書き方 ICT や教材・教具の活用
事前学習：既習の実験について振り返り、教科書の内容と照らし合わせておく。（２時間）
事後学習：授業案を検討し練り上げておく。（２時間）
第10回：模擬授業 グループでの振り返り 全体での振り返り 指導と評価
事前学習：教科書の指導内容（衣領域）を理解しておく。（２時間）
事後学習：授業の振り返りをまとめておく。（２時間）
第11回：食領域 ５大栄養素の働き 米の栄養素 調理計画（味噌汁とご飯）評価項目の工夫
事前学習：我が家の味噌汁について調べておく。（２時間）
事後学習：我が家の味噌汁の出汁や実について確かめておく。（２時間）
第12回：食領域 ビーカーによる炊飯実験（炊飯の様子） 玄米と白米の違い 米の浸水時間による違い 味噌汁づくり（だし、味噌汁の実の切り方や入れる順）塩分率と塩分量（実習）
事前学習：炊飯の方法、味噌汁の作り方を理解しておく。（２時間）
事後学習：炊飯実験をレポートにまとめておく。（２時間）
第13回：授業づくり（食領域） ５大栄養素の働き・炊飯実験・味噌汁づくりを生かした授業づくり　ICTや教材・教具の活用
事前学習：教科書の指導内容（食領域）を理解しておく。（２時間）
事後学習：授業案を検討し練り上げておく。（２時間）
第14回：模擬授業 グループでの振り返り 全体での振り返り 指導と評価
事前学習：教科書の指導内容（食領域）を理解しておく。（２時間）
事後学習：授業の振り返りをまとめておく。（２時間）
第15回：衣領域 基本縫いの理解と作品づくり（フェルトを素材に、縫い取り・なみ縫い・半返し縫い・本返し縫い・かがり縫いの習得（実習）
事前学習：基本の縫い方を教科書で確かめておく。（２時間）
事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

小レポート・作品（50%）、授業中の取組（20%）、定期試験（30%）
（授業中の取組は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

小学校家庭科における教育目標や育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容を踏まえた授業づくりや学習活動を支える基礎を身に付けることができたか。

テキスト、参考図書

テキスト 小学校学習指導要領解説 家庭編（平成29年７月 文部科学省）
わたしたちの家庭科 ５・６（内野紀子、鳴海多恵子、石井克枝著、開隆堂出版株式会社）
参考書・参考資料等
小学校家庭科授業づくり（筒井恭子編著 明治図書出版株式会社 平成26年）
新評価規準を生かす授業づくり小学校編第４ 巻（筒井恭子編著 株式会社ぎょうせい 平成23 年）
授業力ＵＰ家庭科の授業（鶴田敦子・伊藤葉子編著 株式会社日本標準 平成20年）

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

体育科教育法 (Teaching Method s of Physical Education)			担当教員	宗倉　啓
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2304	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・各教科の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

小学校体育科の教育目標、領域、教科内容を理解する。
また具体的な授業場面を想定した子どものつまずき、教材づくり、評価、教授スキル、安全管理等に関する基礎的な学習指導理論を理解する。

授業の到達目標

小学校体育科における教育目標、教科内容について、背景となる発育発達論や運動学、運動生理学などの学問領域と関連づけた理解を深める。また様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うための原則を理解する。
詳細は以下の通り。
1．体育科の目標、領域、教科内容について説明することができる。
2．学習のつまずきの原因の追究方法とその解決方法及び教材づくりに関する手続きがわかる。
3．授業の組織化、評価、教授スキル、指導言、安全管理の原則がわかるとともに、学習指導案を作成することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□ 発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(模擬授業)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、子どもの発育発達の特性と運動学・生理学の関連
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。
第2回：小学校学習指導要領における体育科の目標と領域
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)。
第3回：教科内容−学習者のつまずき−教材づくりの関係(1) 走・跳・陸上運動
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)
第4回：教科内容−学習者のつまずき−教材づくりの関係(2) 器械運動
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)
第5回：教科内容−学習者のつまずき−教材づくりの関係(3) ボール運動
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)
第6回：教科内容−学習者のつまずき−教材づくりの関係(4) 水遊び・水泳
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと(2時間)。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと(2時間)

第７回：教科内容－学習者のつまずき－教材づくりの関係（５）体つくり、表現運動
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第８回：教科内容－学習者のつまずき－教材づくりの関係（６）保健
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第９回：体育科のカリキュラム、年間指導計画、単元指導計画の作成上の原則
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第10回：学習指導過程の組織化（授業マネジメント及びリスクマネジメント）と評価
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第11回：学習指導案の作成－低学年－及び模擬授業（実習）
　　事前学習：模擬授業を行うので、学習指導案を作成しておくこと（２時間）。
　　事後学習：次回の模擬授業のための学習指導案を作成しておくこと（２時間）
第12回：学習指導案の作成（保健含む）－中学年－及び模擬授業（実習）
　　事前学習：模擬授業を行うので、学習指導案を作成しておくこと（２時間）。
　　事後学習：次回の模擬授業のための学習指導案を作成しておくこと（２時間）
第13回：学習指導案の作成（保健含む）－高学年－及び模擬授業（実習）
　　事前学習：模擬授業を行うので、学習指導案を作成しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第14回：教育機器の活用と教授スキル
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）。
第15回：指導と評価の一体化（ディスカッションを含む）
　　事前学習：これまでの講義内容を復習し、まとめておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）。
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（60%）　学習指導案（20%）　小レポート（20%）

成　績　評　価　基　準

体育（保健）授業の組織化のための原則と手続きに関する知識を踏まえて、学習指導案を作成することができる。

テキスト、参考図書

小学校学習指導要領解説体育編（平成29年７月文部科学省）及び授業者作成の配付資料

その他（受講上の注意）

ＶＴＲを多用するので、欠席すると授業内容の文脈の理解が困難となる。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

音楽演習 (Music Practice)			担当教員	篠田　　洋
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2307	1単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

器楽演奏に必要と思われる演奏法、リズム表現等を重視した器楽アンサンブルの知識、技術の向上をねらう。

授業の到達目標

幼児が個々に感じた歌やリズムを音楽的にとらえ、楽器を用いたアンサンブルの楽しさを理解させる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：手拍子等によるリズム表現1、及び打楽器を用いての演奏表現(実技)
　事前学習：簡単なリズムを自分なりの手拍子を実践すること。(0.5時間)
　事後学習：授業内で出たリズムやメロディを楽器を使って演奏すること。(0.5時間)
第2回：手拍子等によるリズム表現2、及び打楽器を用いての演奏表現や譜面の読み方(実技)
　事前学習：前回のリズムやメロディを声に出して歌うこと。(0.5時間)
　事後学習：授業内で出たリズムやメロディを楽器を使って演奏すること。(0.5時間)
第3回：手拍子や打楽器を用いたリズム表現、及びリズムアンサンブル1(グループワーク)
　事前学習：簡単なリズムを両手で手拍子にして実践すること。(0.5時間)
　事後学習：身近な楽器を用いてリズムやメロディを演奏すること。(0.5時間)
第4回：手拍子や打楽器を用いたリズム表現、及びリズムアンサンブル2(グループワーク)
　事前学習：いろんな調の音階を確認し、練習すること。(0.5時間)
　事後学習：簡単なリズムやメロディを鍵盤ハーモニカを用いて練習すること。(0.5時間)
第5回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、簡単な楽曲演奏表現(実技)
　事前学習：鍵盤ハーモニカの呼吸奏法を書籍等を用いて、調べておくこと。(0.5時間)
　事後学習：木琴、鉄琴の奏法を実践し、復習すること。(0.5時間)
第6回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、簡単な楽曲演奏、及び二重奏の表現(グループワーク)
　事前学習：鉄琴、木琴を用いて様々な調の音階を練習すること。(0.5時間)
　事後学習：二重奏楽曲の演奏上注意点を確認し、理解すること。(0.5時間)
第7回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、楽曲演奏、及びアンサンブル表現1(グループワーク)
　事前学習：木琴、鉄琴の奏法に伴うマレットの移動法について調べておくこと。(0.5時間)
　事後学習：鍵盤ハーモニカと木琴、鉄琴とのアンサンブルへの楽曲演奏の内容を確認し、理解すること。(0.5時間)
第8回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、楽曲演奏、及びアンサンブル表現2(グループワーク)
　事前学習：木琴、鉄琴の奏法に伴うマレットの移動法について調べておくこと。(0.5時間)
　事後学習：木琴、鉄琴等を用いた楽曲と打楽器との調整内容を確認し、理解すること。(0.5時間)

第９回：音律のない打楽器による、リズム表現、及びアンサンブル表現１（実技）
事前学習：ドラムセットの体験や、スネアドラムのスティックパフォーマンスに関して調べておくこと。（0.5時間）
事後学習：楽曲に会わせたリズム打ちを実践的に練習すること。（0.5時間）
第10回：音律のない打楽器による、リズム表現、及びアンサンブル表現２（実技）
事前学習：音色を重視出来るよう演奏方法を確認し、練習すること。（0.5時間）
事後学習：楽曲に合わせたドラムセットとの重奏にを認識し、理解すること。（0.5時間）
第11回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現１（グループワーク）
事前学習：木琴、鉄琴の演奏技術と奏法について書籍等を用いて、調べておくこと。（0.5時間）
事後学習：簡単なメロディのアンサンブルパターンを確認し、練習すること。（0.5時間）
第12回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現２（グループワーク）
事前学習：前回のアンサンブル曲の奏法、技術を確認し、練習すること。（0.5時間）
事後学習：２～７パートに分けられた際のアンサンブル注意点を確認し、練習すること。（0.5時間）
第13回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現３（グループワーク）
事前学習：前回のアンサンブル曲の奏法、技術を確認し、練習すること。（0.5時間）
事後学習：ドラムセットを加えた音量に留意しバランスの確認をすること。（0.5時間）
第14回：いろんな楽器の導入によるアンサンブル表現や総譜の読み方（グループワーク）
事前学習：バスドラム、カスタネット、トライアングルの奏法書籍等を用いて、調べておくこと。。（0.5時間）
事後学習：各自が様々な楽器を演奏できるよう楽譜を十分に確認し、理解すること。（0.5時間）
第15回：楽曲のアンサンブル表現、及び簡単な総譜読み方及び作成（グループワーク）（実技）
事前学習：総譜（スコア）を見て、各自の演奏ラインを確認し、練習すること。（0.5時間）
事後学習：演奏曲のどの部分に重要性が有るかを探り、アンサンブルの協調性を重視する姿勢を十分に理解すること。（0.5時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　演奏表現（40%）　平常点（10%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

演奏技術、譜読能力に重視し、演奏表現を評価する。また、アンサンブルでの協調性等も重視する。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

前半は、自作の楽譜等で実施し、後半は市販のアンサンブル楽曲（ミュージック・エイト社等）を用いる。

その他（受講上の注意）

楽器等の搬入・搬出時に伴う楽器の損傷、学生たちの怪我に十分注意を払う。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

相談援助 (Social Work)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2315	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

現在保育所等は、社会的な状況を踏まえ、児童の保育・教育と共に保護者や地域住民を対象とした相談援助、他専門機関との連携などの業務が求められている。つまり、保育者にとって、ソーシャルワークの習得・実践は不可欠といえる。本授業では、発表や事例分析を通して、ソーシャルワークの理論や技術を体得してほしい。

授業の到達目標

相談援助(ソーシャルワーク)の意義・原則を説明することができる
相談援助(ソーシャルワーク)の方法・技術を理解し、対人援助のスキルを身につける
相談援助(ソーシャルワーク)の具体的展開過程を説明することができる

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション～授業の目的と計画、相談援助とは
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第2回：対人援助の基礎
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。(2時間)
第3回：相談援助の歴史的変遷
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。(2時間)
第4回：相談援助の意義と機能、専門基盤
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。(2時間)
第5回：保育における相談援助
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。(2時間)

第６回：相談援助の方法と技術
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。（２時間）
第７回：相談援助の対象と過程
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。（２時間）
第８回：面接技術とスーパービジョン
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。（２時間）
第９回：相談援助の計画、記録、評価
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。（２時間）
第10回：関係機関・専門職との連携・協働
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。（２時間）
第11回：子どもの最善の利益と福祉の遵守
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。（２時間）
第12回：事例分析①～虐待、マルトリートメント、いじめへの支援
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。（２時間）
第13回：事例分析②～障害のある子どもとその保護者への支援
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。（２時間）
第14回：事例分析③～低所得世帯の児童への支援
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。（２時間）
第15回：事例分析④～社会的養護施設、保育所における支援
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。発表担当者は、プレゼンテーションの資料等を準備する。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。発表担当者は、行ったプレゼンテーションについて振り返る。（２時間）

成績評価方法

毎回のコメントシート（40%）、授業中の発表（40%）、小レポート（20%）

成績評価基準

・相談援助の意義と原則を説明することができるか。
・相談援助の方法や技術を説明することができるか。
・相談援助の具体的展開過程を説明することができるか。

テキスト、参考図書

西尾祐吾　監修 「保育実践を深める相談援助・相談支援」 晃洋書房

その他（受講上の注意）
演習を通した理論や技術の習得を重視するため、積極的・意欲的な参加を求める。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

児童福祉援助技術 (Social Work for Child Welfare)			担当教員	天谷　泰公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2316	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

少子増加齢化、核家族化等の進行により、家庭や地域の子育て機能も低下し、それらを背景に児童虐待や不登校等の児童福祉問題が増加していることを理解する。また、児童福祉の専門相談機関である児童相談所等の業務内容を通して児童福祉問題を理解するとともに、学生が主体となった演習方式によって児童の福祉問題について議論をする。

授業の到達目標

児童の家庭の現状、児童問題等を理解させ、児童やその家族に対する福祉的なかかわりや援助方法等について理解する。
また、福井県内の児童相談所等の児童専門機関についても理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(グループワーク)
　事前学習：授業前に児童福祉援助技術に関する参考図書を読んでまとめておくこと。(4時間)
　事後学習：グループ毎に配布資料・参考図書をもとにまとめておくこと。(2時間)
第2回：最近の児童問題(主に児童虐待について)(発表)
　事前学習：参考図書・第13講「子ども虐待の予防と対応」を読んで児童虐待の種類についてまとめておくこと。(1時間)
　事後学習：配布資料と講義内容をもとに「児童虐待」についてレポートにまとめておくこと。(2時間)
第3回：児童福祉援助技術について(児童相談所における相談支援等)(発表)
　事前学習：参考図書の第2．3講を読んで児童福祉援助技術についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：児童相談所における児童虐待に対する相談支援についてレポートにまとめておくこと。(2時間)
第4回：社会福祉援助技術について(発表)
　事前学習：参考図書の第2．3．8講等を読んで社会福祉援助技術についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：社会福祉援助技術について、特に関心を持った内容についてレポートにまとめておくこと。(2時間)
第5回：グループ発表　個別援助技術について(グループワーク・発表)
　事前学習：参考図書の第2．3．8講等を読んで個別援助技術についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：個別援助技術について、発表内容についてレポートにまとめておくこと。(2時間)
第6回：グループ発表　集団援助技術について(グループワーク・発表)
　事前学習：参考図書の第2．3．8講等を読んで集団援助技術についてまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：集団援助技術について、発表内容についてレポートにまとめておくこと。(2時間)

第７回：グループ発表　電話相談について（ＳＮＳを利用した相談も含む）（グループワーク・発表）
事前学習：ＳＮＳ等で電話相談について調べた範囲でまとめておくこと。（２時間）
事後学習：電話相談について、発表・講義内容をレポートにまとめておくこと。（２時間）
第８回：グループ発表　地域子育て支援拠点事業について（グループワーク・発表）
事前学習：参考図書の第10講やＳＮＳ等で「地域子育て支援拠点事業」についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表・講義内容についてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第９回：グループ発表　児童虐待の対応について（グループワーク・発表）
事前学習：参考図書・第13講と厚生労働省ＨＰ等で児童虐待の対応についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表・講義内容をもとにレポートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：グループ発表　不登校児童の支援について（グループワーク・発表）
事前学習：ＳＮＳや文部科学省ＨＰ等で「不登校」について調べた範囲でまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表・講義内容をレポートにまとめておくこと。（２時間）
第11回：グループ発表　発達障害児の支援について（グループワーク・発表）
事前学習：厚生労働省ＨＰ等で「発達障害」について調べた範囲でまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表・講義内容をレポートにまとめておくこと。（２時間）
第12回：グループ討議　知的障害児の支援について（グループワーク・討議）
事前学習：参考図書の第11講やＳＮＳ等で「知的障害」特に「定義」を中心に支援についてもまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表・講義内容についてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：グループ討議　身体障害児の支援について（グループワーク・討議）
事前学習：参考図書の第11講やＳＮＳ等で「身体障害」に調べた範囲でまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表・講義内容についてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：グループ討議　児童福祉援助事業に必要な関係機関と社会資源について（グループワーク・討議）
事前学習：参考図書の第８．10．11講等で調べた範囲でまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表内容についてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：まとめ（講義・発表）
事前学習：前回までの講義内容で疑問点や質問項目等をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表内容についてレポートにまとめておくこと。（１時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）　レポート（30%）　平常点（20%）

成　績　評　価　基　準

福祉援助技術について説明することができるか。
児童の問題や家庭の問題について理解するとともに支援について説明できるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

参考図書：　新・保育シリーズ　第19巻 「子育て支援」

その他（受講上の注意）

参考図書と配布するプリントにより授業を進めるので、事前に参考図書を読んでおくこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもの食と栄養 (Nutrition for Children)			担当教員	桑守　豊美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2358	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

幼児期・学童期の子どもの指導者として、食の領域での職務を十分に果たすために必要な知識・技能(小児の発育・発達、小児の栄養特性、小児の食生活の問題点、栄養と疾病、生活習慣と食習慣、小児への栄養教育の必要性と方法、人間形成と食習慣など)について解説し、指導者としての資質を培う指導をする。

授業の到達目標

栄養の基礎知識を理解し、子どもの成長・発育を支援する栄養と食の知識と技能、問題解決能力を修得する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□ 発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(講義内容を再度まとめ、教科の修得を計る)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：子どもの心身の健康と食生活の意義、現状と課題
　事前学習：1章の予習をし、興味ある項目をあげて授業に参加すること。(約2時間)
　事後学習：授業、質問して分かったことをノートにまとめること。(約2時間)
第2回：栄養の基礎知識1
　事前学習：2章、栄養素について予習すること。(約2時間)
　事後学習：授業、プリントを参考にノートをまとめること。(約2時間)
第3回：栄養の基礎知識2
　事前学習：2章、2,3,4節について予習すること。(約2時間)
　事後学習：授業、プリントを参考にノートをまとめること。(約2時間)
第4回：食事摂取基準と献立・調理
　事前学習：食事摂取基準について予習すること。(約2時間)
　事後学習：食事摂取基準と献立・調理をノートにまとめること。(約2時間)
第5回：小児の成長と発達
　事前学習：3章、について予習すること。(約2時間)
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。(約2時間)
第6回：胎児・妊娠期の食生活
　事前学習：胎児・妊娠期、について予習すること。(約2時間)
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。(約2時間)
第7回：乳児期の授乳の意義と食生活
　事前学習：乳児期の栄養、について予習すること。(約2時間)
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。(約2時間
第8回：離乳の意義と食生活
　事前学習：離乳期の栄養、について予習すること。(約2時間)
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。(約2時間)

第９回：幼児期の心身の発達と食生活
事前学習：幼児期の栄養、について予習すること。（約２時間）
事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめ、幼児期の栄養についてテーマを決め、調べること。（約２時間）
第10回：幼児期（グループワーク、発表）・学童期・思春期の心身の発達と食生活
事前学習：グループワークにむけて、自分の発表をまとめ、学童期・思春期について予習すること。（約２時間）。
事後学習：幼児期のグループワークで学習したこと、学童期・思春期についてノートにまとめること。（約２時間）
第11回：子どもに対する食育の意義・目的と計画、実施・評価
事前学習：食育について予習すること。（約２時間）
事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめ、自分の行いたい食育について調べること。（約２時間）
第12回：食育のための環境づくりと保護者への支援と食育（課題解決型学習）
事前学習：類似した食育のテーマ毎にグループで課題解決型学習に向けて準備する。（約２時間）
事後学習：食育のための環境づくりと保護者への支援と課題解決型学習について、ノートにまとめる。（約２時間）
第13回：児童福祉施設・家庭における食と栄養
事前学習：児童福祉施設の給食について予習すること。（約２時間）
事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約２時間）
第14回：疾病・体調不良・アレルギー、障害のある子どもの食と栄養
事前学習：小児期の病気、障害のある子どもの食生活について予習すること。（約２時間）
事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約２時間）
第15回：第15回：まとめ（その他）
事前学習：まとめの講義内容のプリントについてまとめること。（約２時間）
事後学習：まとめのプリントを仕上げ、知識、技能、問題解決能力を修得すること。（約２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験80％、提出物や授業の取り組み態度などで20％とする。

成　績　評　価　基　準

栄養の基礎知識は理解できたか。子どもの成長･発育を支援する栄養管理の知識と技術を修得できたか。

テキスト、参考図書

高内正子監修「子どもの食と栄養」保育出版社

その他（受講上の注意）

授業計画は進捗状況により変更することがある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神保健 (Mental Health)			担当教員	明神　一浩
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2309	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

こころの健康・不健康とはどのようなことかを見きわめ、精神病理と身体病理・社会病理の密接な関係について知る。

授業の到達目標

①成長過程における精神機能や自我の発達、こころの健康に影響する要因を説明できる。
②こころの健康の維持増進に関する基礎的な知識を体系的に習得し、教育・保育に活用できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□ 発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：精神障害者の基本的な考え方
　事前学修：テキストの第1章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学修：レポートによる復習課題を課す。(2時間)
第2回：社会の変化とメンタルヘルス
　事前学修：テキストの第1章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学修：レポートによる復習課題を課す。(2時間)
第3回：集団心理
　事前学修：テキストの第1章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学修：レポートによる復習課題を課す。(2時間)
第4回：人のこころのさまざまな理解
　事前学修：テキストの第2章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学修：レポートによる復習課題を課す。(2時間)
第5回：こころの防衛機制
　事前学修：テキストの第2章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学修：レポートによる復習課題を課す。(2時間)
第6回：こころの危機
　事前学修：テキストの第2章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学修：レポートによる復習課題を課す。(2時間)
第7回：人格の発達と情緒体験(グループワーク)
　事前学修：テキストの第3章を熟読し、人格の発達と情緒体験について、自分の意見をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
第8回：人生各期の発達課題(ディスカッション)
　事前学修：テキストの第4章を熟読し、人生各期の発達課題について、自分の意見をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：レポートによる復習課題を課す。(2時間)

第９回：現代社会とこころ
　　事前学修：テキストの第５章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学修：レポートによる復習課題を課す。（２時間）
第10回：現代社会と親と子（グループワーク）
　　事前学修：テキストの第５章を熟読し、人格の発達と情緒体験について、自分の意見をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学修：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第11回：ストレスに対する身体的反応
　　事前学修：テキストの第６章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学修：レポートによる復習課題を課す。（２時間）
第12回：家族の課題
　　事前学修：テキストの第７章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学修：レポートによる復習課題を課す。（２時間）
第13回：嗜癖と依存
　　事前学修：テキストの第８章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学修：レポートによる復習課題を課す。（２時間）
第14回：人権擁護
　　事前学修：テキストの第９章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学修：レポートによる復習課題を課す。（２時間）
第15回：精神医療の歴史
　　事前学修：テキストの第10章を熟読し、これまで講義内容を復習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学修：レポートによる復習課題を課す。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（60%）　小レポート（20%）　平常点（20%）
なお、平常点は授業への参加状況ならびに受講態度等を総合的に判断し、定期試験は60点以上を必要とする。

成　績　評　価　基　準

精神保健に関して論理的に説明でき、教育・保育に活用可能なように工夫できる。

テキスト、参考図書

出口禎子編集 ナーシング・グラフィカ 精神看護学①情緒発達と看護の基本 メディカ出版

その他（受講上の注意）

授業ではスライドや視聴覚教材を使用するため、欠席や遅刻・私語および授業中の出入りについては慎んでもらいたい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家庭支援論 (Family Support)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2317	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

子どもの発達にとって基礎的な環境(集団)のひとつが家庭である。その家庭の機能やあり方は、核家族化や少子高齢化などのような社会のさまざまな影響を受け、大きく変化している。同時に、地域や家庭での子育てを支援する形態も多様に展開されている。本授業では、子育て家庭に対する支援の重要性とそのあり方について考察してほしい。

授業の到達目標

子育て家庭やそれを構成する家族のもつ機能や役割について説明することができる。
子育て家庭のニーズに応じた支援の展開や体制について説明することができる。
子育て家庭を支える関係機関とその連携について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、家庭・家族とは
　事前学習：家族や家庭について、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第2回：家庭支援の必要性
　事前学習：家庭への支援について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第3回：家庭生活を取り巻く社会的状況
　事前学習：家庭を取り巻く社会的状況について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第4回：家族関係のあり方〜夫婦関係
　事前学習：夫婦のあり方について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第5回：家族関係のあり方〜親子関係
　事前学習：親子関係のあり方について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第6回：家族関係のあり方〜きょうだい関係、祖父母との関係
　事前学習：きょうだい・祖父母のあり方について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)

第７回：子育て家庭の福祉を図るための法体系と社会資源
事前学習：子育て家庭に活用される社会資源について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第８回：子育て支援・次世代育成支援における施策
事前学習：子育て支援等における施策について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第９回：子育て支援サービスの体系とその内容
事前学習：家庭への支援について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第10回：保育所入所児童の家庭への支援
事前学習：保育所に通う子どもの家庭への支援について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第11回：地域の子育て家庭への支援
事前学習：地域の子育て家庭への支援について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第12回：要保護児童及びその家庭に対する支援
事前学習：要保護児童の家庭への支援について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第13回：子育て家庭支援における関係機関との連携
事前学習：関係機関との連携・協働について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第14回：子育て家庭の福祉を図るための課題
事前学習：子育て家庭の福祉を図るための課題について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ、家庭支援の意義とは
事前学習：これまでの学びを踏まえ、家庭支援の意義について、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、提出課題（30%）

成　績　評　価　基　準

子育て家庭やそれを構成する家族のもつ機能や役割について説明することができるか。
子育て家庭のニーズに応じた支援の展開や体制について説明することができるか。
子育て家庭を支える関係機関とその連携について説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。ただし、「社会福祉」「児童家庭福祉」で使用したテキストを参考にすることがある。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育内容総論 (General Early Childhood Care and Education)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2355	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(選択)、保育士資格(必修)

授業の内容

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を通して、わが国の幼稚園等における現代の保育観と保育の内容(5領域)及び指導法を理解する。また、幼稚園等の教育課程・全体的な計画の試案作成をグループワークで取り組み、模擬保育を行うことを通して、保育内容のあり方及び保育者としての関わり方について考える。

授業の到達目標

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領にもとづいたわが国の保育観と保育の内容(5領域)及び指導法について、基本的な知識を身につけ、保育の内容を立案する際の基礎となる考え方を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業のオリエンテーション、「保育内容総論」の概要と学修のポイント
　事前学習：これまでの授業や実習を振り返り、保育内容とは何かについてまとめておく。(2時間)
　事後学習：テキスト第1章を読み、教育保育施設の役割を復習する。(2時間)
第2回：わが国の保育観と保育内容(1)幼稚園教育要領
　事前学習：幼稚園教育要領を読み、わが国の保育観について質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をふまえて、わが国の保育観をノートにまとめる。(2時間)
第3回：わが国の保育観と保育内容(2)保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領
　事前学習：保育所保育指針及びテキスト第2章・第6章を読み、保育所保育の特性について質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をふまえて、保育所保育の特性をノートにまとめておく。(2時間)
第4回：幼稚園と保育所の保育内容の歴史的変遷
　事前学習：テキスト第4章を読み、質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をふまえて、保育内容の歴史て変遷についてノートにまとめる。(2時間)
第5回：資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
　事前学習：テキスト第3章・第5章を読み、質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容でわからないことについて図書館で調べたり担当教員に質問する。(2時間)
第6回：保育内容の5領域と保育指導法(環境を通して行う保育・遊びを通した総合的な指導)
　事前学習：テキスト第7章・第8章を読み、質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容でわからないことについて図書館で調べたり担当教員に質問する。(2時間)
第7回：子どもの発達の特性と保育内容(健康・人間関係・言葉)
　事前学習：テキスト第9章・第10章を読み、質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：全体的な計画の編成の課題を見据えて、健康・人間関係・言葉領域の具体的な保育内容についてまとめる。(2時間)

第８回：保育の内容における情報機器の活用（環境・表現）
事前学習：テキスト第９章・第10章を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：全体的な計画の編成の課題を見据えて、環境・表現領域の具体的な保育内容についてまとめる。（２時間）
第９回：教育課程・全体的な計画と指導計画
事前学習：幼稚園教育要領・保育所保育指針を読み、教育課程・全体的な計画について質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：テキスト第13章・第14章・第15章を参照しながら、全体的な計画の編成にあたっての基本的な留意点をまとめる。（２時間）
第10回：教育課程・全体的な計画の編成（グループワーク①養護及び５領域）
事前学習：次回の授業では全体的な計画の編成についてグループワークをするため、保育の方針や理念について自分なりの意見をまとめておく。（２時間）
事後学習：グループワークの役割にもとづいて全体的な計画の作成を進める。（２時間）
第11回：教育課程・全体的な計画の編成（グループワーク②行事）
事前学習：次回の授業では全体的な計画の編成について引き続きグループワークをするため、行事のあり方や内容について自分なりの意見をまとめておく。（２時間）
事後学習：グループワークの役割にもとづいて全体的な計画の作成を進める。（２時間）
第12回：教育課程・全体的な計画の編成（模擬保育①３歳未満児）
事前学習：次回の授業では模擬保育を行うため、その準備を行う。（２時間）
事後学習：模擬保育の実践を振り返り、評価と反省をまとめる。（２時間）
第13回：教育課程・全体的な計画の編成（模擬保育①３歳以上児）
事前学習：次回の授業では模擬保育を行うため、その準備を行う。（２時間）
事後学習：模擬保育の実践を振り返り、評価と反省をまとめる。（２時間）
第14回：保育内容と評価（幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録等）
事前学習：テキスト第11章を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容でわからないことについて図書館で調べたり担当教員に質問する。（２時間）
第15回：保育内容と小学校の教科学習との接続（生活科を中心に）
事前学習：テキスト第12章を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：これまでの授業の内容を振り返り、わからないことについて図書館で調べたり担当教員に質問したりして定期試験の準備をする。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）　グループワークの取り組みと発表（30％）

成　績　評　価　基　準

幼稚園教育要領と保育所保育指針におけるわが国の保育観及び保育の内容と指導法について説明することができるか。
グループワーク（全体的な計画の編成または模擬保育など）に協働して取り組み、グループの考えを明確に表現し発表することができるか。

テキスト、参考図書

石川昭義他編『基本保育シリーズ15　保育内容総論』〔第３版〕（中央法規、2019年）
保育内容総論〔第２版〕（石川昭義他編、中央法規、平成29年）
参考図書
幼稚園教育要領（平成29年３月31日告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月31日告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月31日告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

1.2年次に他の授業で使った幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参考書として引き続き使います。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育相談支援 (Early Childhood Care and Education Counseling and Support)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2363	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

家庭や地域の養育機能の低下等により、保育者には、子どもの保育だけでなく保護者を対象とした相談・支援の業務が課せられ、保育相談支援に必要な知識・技術の習得が不可欠となっている。本授業では、「相談援助」で学んだ理論・技術を基に、事例検討や体験学習等を実施する。その中で、保育者として子どもの最善の利益を擁護するために、保護者を理解する多面的な視点をもち、保護者に対して根拠に基づいた支援を展開できるための基礎を築いてほしい。

授業の到達目標

保育相談支援の意義と原則を説明することができる。
保育者として保護者を支援するための基本的姿勢や技術を身につける。
保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際を説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション～授業の目的と計画、保育相談支援とは
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第2回：保育相談支援の意義
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第3回：保育相談支援の原則(1)～子どもの最善の利益
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第4回：保育相談支援の原則(2)～バイスティック
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第5回：保育相談支援の進め方(1)～全体のプロセス
　事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)

第６回：保育相談支援の進め方（２）～アセスメント
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第７回：保育相談支援の技術（１）～社会資源の活用
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第８回：保育相談支援の技術（２）～記録の書き方
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第９回：保育相談支援の技術（３）～連絡帳の活用
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第10回：保育相談支援の技術（４）～面接の技法（非言語）
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第11回：保育相談支援の技術（５）～面接の技法（言語）
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第12回：保育相談支援の技術（６）～面接の実際
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第13回：保育相談支援の実際～多様な保護者支援
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第14回：保育相談支援の実際～関係機関との連携
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ
事前学習：テキストの該当頁を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）

成績評価方法

平常点（80%）、小レポート（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、毎回のワークシートの提出状況等を総合して判断する。）

成績評価基準

・保育相談支援の意義と原則を説明することができるか。
・保育者として保護者を支援するための基本的姿勢や技術を説明することができるか。
・保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際を説明することができるか。

テキスト、参考図書

児童育成協会（監修）「基本保育シリーズ19保育相談支援」 中央法規　2015
その他、適宜プリント等を配付する。

その他（受講上の注意）

「相談援助」の復習をしておく。演習を通した理論や技術の習得を重視するため、積極的・意欲的な参加を求める。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実践演習 (Seminar on Practice in Early Childhood Care and Education)			担当教員	鈴木　智子、西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2364	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

保育に関するこれまでの学びをグループワークで振り返り、習得した専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等を整理し、発表・討論する。また保育に関する現代的課題から関心のあるテーマを設定し、グループワーク・プレゼンテーションを通して、保育のあり方を分析・検討し、考察し、各学生の課題、今後に向けて取り組むべきことを明確化する。

授業の到達目標

・これまでの保育に関する学びを振り返り、保育士として必要な専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたことを確認する。
・保育に関する現代的課題について、関心のあるテーマを設定し、保育士として乳幼児をどのように理解し、また保育を進めていくべきかについて分析・検討し、考察する力を習得する。
・保育の実践における自己の課題を明確化し、必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション：各自の学びを振り返る(保育内容、倫理観、社会性、保護者支援と連携、職員間・他機関との連携など)(鈴木)
事前学習：授業前にこれまでの学修を振り返り、保育実践に関する自分の課題をまとめておくこと。(2時間)
事後学修：授業で示された保育に関する現代的課題について、図書館やインターネットを利用して調べた内容をレポートにまとめておく。(2時間)
第2回：グループ討論(テーマ設定)(グループワーク)(鈴木)
事前学習：保育所保育指針解説第1章総則を読み、保育所保育の基本原則、幼児教育を行う施設として共有すべき事項についてまとめておく。(2時間)
事後学修：グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。(2時間)
第3回：グループ討論(発表内容のまとめ)(グループワーク)(鈴木)
事前学習：グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。(2時間)
事後学修：発表内容のまとめを振り返り、発表の練習をしておく。(2時間)
第4回：グループによる発表・全体的討論(ディスカッション)(鈴木)
事前学習：予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。(2時間)
事後学修：他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。(2時間)
第5回：グループによる発表・全体的討論(ディスカッション)(鈴木)
事前学習：予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。(2時間)
事後学修：他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。(2時間)

第６回：グループによる発表・全体的討論（ディスカッション）（鈴木）
事前学習：予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学修：他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。（２時間）
第７回：発表・全体的討論を踏まえた発表内容の再検討（グループワーク）（鈴木）
事前学習：全体的討論を踏まえて、自身のグループ発表の修正箇所を各自でまとめておく。（２時間）
事後学修：発表内容の修正を踏まえて、どこが不十分で、どのように修正したのかについての要点をまとめておく。（２時間）
第８回：保育に関する知識・技術・能力等に対する今後の課題の明確化（鈴木）
事前学習：各グループの発表を踏まえて、保育における現代的課題に対する質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学修：授業内容を踏まえて、保育の現代的課題に対応するために必要な資質・能力についてレポートにまとめておく。（２時間）
第９回：課題の明確化，課題設定，情報収集，考察，評価などについての概論（西出）
事前学習：保育における現代的課題を整理しておく。（２時間）
事後学修：授業内容を踏まえて、課題設定から評価に至るまでの活動を確認し、見通しを立てる。（２時間）
第10回：グループ討論（テーマ設定）（西出）
事前学習：現代的課題の中からテーマを選ぶための準備をしておく。（２時間）
事後学修：自身のグループで設定した課題に対する情報収集の方法を確認し、見通しを立てる。（２時間）
第11回：グループ討論（資料収集・整理）（西出）
事前学習：グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。（２時間）
事後学修：授業内容を踏まえて、さらに必要な情報を整理する。（２時間）
第12回：グループ討論（資料収集・整理）（西出）
事前学習：グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。（２時間）
事後学修：授業内容を踏まえて、さらに必要な情報を整理する。（２時間）
第13回：グループ討論（課題に対する主張とその根拠の明確化）（西出）
事前学習：設定した課題に対して一定の結論が導き出せているかを精査し、問題点を整理しておく。（２時間）
事後学修：授業内容を踏まえて、自身のグループ発表の論理展開を確認する。（２時間）
第14回：グループ討論を踏まえた発表内容の再検討（西出）
事前学習：予定されている発表内容に対する自身の理解を深め、発表内容を検討する（２時間）
事後学修：グループ討論を振り返り、課題に対する取り組みを明確にする（２時間）
第15回：保育の現代的課題における自己の今後の課題と取り組み方法の明確化（西出）
事前学習：予定されている発表内容について確認し、想定される質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学修：授業内容を踏まえて、保育の現代的課題に対応するために必要な資質・能力について振り返る。（２時間）

成　績　評　価　方　法

平常点（20%）、グループ発表・討議（40%）、レポート（40%）

成　績　評　価　基　準

保育に関する諸課題の中からテーマを取り上げ、そのテーマについて、グループワークで分析、考察を行い、発表することができたか。
グループワークで協働して取り組み、各自が役割上の責務を果たすことができたか。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリントを配布する。

その他（受講上の注意）

担当者２人が分担し、計15回の授業を行う。欠席が全15回の３分の１を超えると失格となる。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅱ (Guidance for Field Practice Ⅱ)			担当教員	石川　昭義、出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-E-2313	1単位	3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

保育所の学外実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方を理解する。実習終了後は、グループ討議及び個別指導を行い、実習を振り返りながらさらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授業の到達目標

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができる。
実習日誌及び指導計画の書き方、エピソード記録の書き方の基本を身につける。
事後指導では、振り返りシートを通じて自己の長所と課題を理解し、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：保育所実習オリエンテーション①(実習の意義、目的の理解)
　事前学習：2年生の「保育実習Ⅰa」を振り返り、2回目の実習の目標をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容及び保育所保育指針をもとに実習の目標の充実を図る。(2時間)
第2回：保育所実習オリエンテーション②(実習の内容の理解―グループワーク)
　事前学習：配属クラスの年齢を想定して、実習の内容(段階)についてまとめておく。(2時間)
　事後学習：グループワークで議論したことをもとに実習の内容をまとめる。(2時間)
第3回：保育所実習オリエンテーション③(演習課題の討議―グループワーク)
　事前学習：次回の授業で演習課題を討議するため、自分なりの意見をまとめておく。
　事後学習：グループワークで議論したことをもとに課題をまとめ直す。(2時間)
第4回：保育所実習オリエンテーション④(実習の留意事項)
　事前学習：実習における心構や留意事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をふまえ指導計画の作成を行う。(2時間)
第5回：保育所実習オリエンテーション⑤(エピソード記述)
　事前学習：配布資料を読み、エピソード記述について質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：資料を読み直し、わからないことは図書館で調べたり担当教員に質問する。(2時間)
第6回：保育所実習の事後指導①(個別振り返りシート)
　事前学習：実習を終えて、実習ノートをもとに自らの評価を行っておく。(2時間)
　事後学習：個別振り返りシートを作成する。(2時間)
第7回：保育所実習の事後指導②(グループレポート集の作成)
　事前学習：グループメンバーと協働してレポート集を作成作業を進める。(2時間)
　事後学習：グループレポート集の完成に向けて作業を進める。(2時間)
第8回：保育所実習の事後指導③(実習のまとめ)
　事前学習：発表の準備を行う。(2時間)
　事後学習：実習を振り返り、これからの学修の課題を明らかにする。(2時間)

成　績　評　価　方　法
課題レポート（50%）　平常点（50%） （平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。）
成　績　評　価　基　準
事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができるか。 実習日誌、指導計画、エピソード記録の書き方の基本を身につけられたか。 事後指導では、振り返りシートを通して自己の長所と課題を認識し、さらに研鑽すべき課題を明らかにすることができたか。
テキスト、参考図書
授業において紹介する
その他（受講上の注意）
この科目は、「保育実習Ⅱ」と組み合わせて履修すること。 やむをえず欠席するときは、大学に連絡すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習Ⅱ (Field PracticeⅡ(Day Care Center))			担当教員	石川　昭義、出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2361	2単位	3年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

3年次11月に2週間の保育所実習を行う。

授業の到達目標

この実習科目は、保育士資格取得のための選択必修科目としての保育所実習であり、「保育実習Ⅰa」を経て、さらに発展的に課題の解決に取り組む実習科目である。「保育実習Ⅰa」の経験を踏まえ、乳幼児に対する理解、保育士の職務に対する理解をよりいっそう深めることが目標である。2週間の期間で、「見学・観察」、「参加」、「部分」、「指導」の各段階の実習を行うが、特に「部分」、「指導」の各段階を多く取り入れ、より実践的な能力を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶため、次の内容を経験し、学習する。
1．保育全般に参加し、保育技術を習得する。
2．子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。
3．指導計画を立案し、実際に実践する。
4．記録にもとづいて振り返りを行い、自己の学習課題を明らかにする。
5．子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
6．地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。
7．子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。
8．保育士としての職業倫理を理解する。
9．保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。実習ノートを記載しながら振り返りを行う。
事前学習：部分実習等の指導計画を立案し、実習に向けた準備を行うこと。(5時間)
事後学習：実習ノートを記載し、振り返りを行うこと。(5時間)

成績評価方法

実習園からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。

成績評価基準

実習評価表の項目(5項目及び総合評価)による。

テキスト、参考図書
なし
その他（受講上の注意）
大学及び実習保育所から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅲ (Guidance for Field Practice(Childcare Institution))			担当教員	石川　昭義、出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2314	1単位	3年後期･4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）、児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

保育所以外の児童福祉施設等（児童館を含む）の学外実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方を理解する。実習終了後は、グループ討議及び個別指導を行い、実習を振り返りながらさらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授業の到達目標

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができる。
実習日誌及び指導計画の書き方、エピソード記録の書き方の基本を身につける。
事後指導では、振り返りシートを通じて自己の長所と課題を理解し、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：施設実習オリエンテーション①（児童館を含む施設実習の意義、目的の理解）
　事前学習：2年生の「保育実習Ⅰb」を振り返り、2回目の実習の目標をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業の内容をもとに実習先の種別ごとに、その役割についてまとめる。（2時間）
第2回：施設実習オリエンテーション②（児童館の役割について）
　事前学習：次回の授業で児童館を取り上げるので、児童館の役割についてまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業の内容をもとに児童館における実習の内容（段階）をまとめる。（2時間）
第3回：施設実習オリエンテーション③（DVD児童館の役割 ── グループワーク）
　事前学習：次回の授業で児童館を取り上げるので、児童厚生員の職務内容についてまとめておく。（2時間）
　事後学習：グループワークでの議論をもとに実習の目標をまとめ直す。（2時間）
第4回：施設実習オリエンテーション④（実習の内容、実習ノート）
　事前学習：実習における部分実習の指導案を作成する。（2時間）
　事後学習：実習ノートの書き方を復習する。（2時間）
第5回：施設実習オリエンテーション⑤（施設実習の留意事項 ── ゲストスピーカー）
　事前学習：次回の授業で現職の職員の講義を聴くので、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後学習：講義をふまえて、小レポートを作成する。（2時間）
第6回：施設実習の事後指導①（個別振り返りシート）
　事前学習：実習を終えて、実習ノートをもとに自らの評価を行っておく。（2時間）
　事後学習：個別振り返りシートを作成する。（2時間）
第7回：施設実習の事後指導②（グループレポート集の作成）
　事前学習：グループメンバーと協働してレポート集を作成作業を進める。（2時間）
　事後学習：グループレポート集の完成に向けて作業を進める。（2時間）

第８回：施設実習の事後指導③（実習のまとめ）
事前学習：発表の準備を行う。（２時間）
事後学習：実習を振り返り、これからの学修の課題を明らかにする。（２時間）

成　績　評　価　方　法

課題レポート（50%）　平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

事前指導では、施設実習の意義と目的を説明することができるか。
実習日誌、指導計画の書き方の基本を身につけられたか。
事後指導では、振り返りシートを通して自己の長所と課題を認識し、さらに研鑽すべき課題を明らかにすることができたか。

テキスト、参考図書

授業において紹介する

その他（受講上の注意）

この科目は、「保育実習Ⅲ」と組み合わせて履修すること。
やむをえず欠席するときは、大学に連絡すること。
事後指導は４年次の前期時間割の中で実施する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育実習Ⅲ (Field PracticeⅢ(Childcare Institution))			担当教員	石川　昭義、出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2362	2単位	3年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）、児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

3年次2～3月に10日間の施設実習（または児童館における実習）を行う。

授業の到達目標

この実習科目は、保育士資格取得のための選択必修科目としての施設実習であり、「保育実習Ⅰb」を経て、さらに発展的に課題の解決に取り組む実習科目である。特に、ケースに応じた個別的な関わりを通して児童の理解を深め、保育士及び他職員との協力関係による児童への援助的な働きかけを実践的に理解する。また、実習施設の中に、社会福祉関係諸法令の規定に基づいて設置されている施設も含め、幅広い観点からケアの実践的能力を身に付ける。
なお、児童厚生員資格の取得を希望する人は、児童館において実習を行い、児童館の役割や児童厚生員の職務内容を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

居住型児童福祉施設または児童館において、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士、児童厚生員の職務について学ぶため、次の内容を経験し、学習する。
1．養護全般に参加し、養護技術を習得する。
2．子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。
3．援助計画を立案し、実際に実践する。
4．記録にもとづいて振り返りを行い、自己の学習課題を明らかにする。
5．子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
6．地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。
7．子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
8．保育士、児童厚生員としての倫理を具体的に学ぶ。
9．児童福祉施設等の保育士、児童厚生員に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。実習ノートを記載しながら振り返りを行う。
事前学習：部分実習等の指導計画を立案し、実習に向けた準備を行うこと。（5時間）
事後学習：実習ノートを記載し、振り返りを行うこと。（5時間）

成績評価方法

実習施設からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。

成績評価基準

実習評価表の項目（5項目及び総合評価）による。

テキスト、参考図書
なし
その他（受講上の注意）
大学及び実習施設から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導(幼稚園) (Guidance for Field Practice(Preschool))			担当教員	鈴木　智子、中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2109	1単位	1年･3年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

この授業は「教育実習Ⅰ(幼稚園)」(1年次)及び「教育実習Ⅱ(幼稚園)」(3年次)の事前事後指導として実施されるものである。幼稚園実習の目的・内容・方法及び留意事項などを理解するとともに、実習日誌の記録や指導計画の作成をはじめとして、実践に必要な基礎的な技能・技法についても学習する。また、教育実習を評価・反省することを通して、実習後の学習課題を明確にしていくための場でもある。

授業の到達目標

・実習の目的や意義を理解する。
・実習に必要な知識や技能を修得する。
・実習に必要な態度や心構えを身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1年次
第1回：教育実習オリエンテーション・教育実習の意義と目的を理解する(鈴木智子・伊東知之)
第2回：4段階実習(見学・観察実習、参加実習、部分実習、指導実習)の意義・役割とその方法について理解する(鈴木智子・伊東知之)
第3回：実習ノート(日誌)等の取り方、記入の仕方を学習する(鈴木智子・伊東知之)
第4回：指導案(週案・日案・設定保育案)の作成法、模擬保育実践を仮定して、立案を試みる(鈴木智子・伊東知之)
第5回：模擬保育①(鈴木智子・伊東知之)
第6回：模擬保育②(鈴木智子・伊東知之)
第7回：模擬保育③(鈴木智子・伊東知之)
第8回：研究テーマ、実習の心構えの作成及び実習に臨む際、子どもの健康面、安全面などへの配慮、留意すべき点の確認をする(鈴木智子・伊東知之)
第9回：実習報告会(2年生の実習体験報告を聞き、疑問点等を質問する)(鈴木智子・伊東知之)
第10回：スキルアップ講座①(学外指導者による実習に対する講演)(鈴木智子・伊東知之)
第11回：スキルアップ講座②(学外指導者による実践的指導)(鈴木智子・伊東知之)
第12回：スキルアップ講座③(学外指導者による実践的指導)(鈴木智子・伊東知之)
3年次
第1回：教育実習オリエンテーション・実習の目標、課題の持ち方、観察の仕方等の再学習をする(鈴木智子・中野研也)
第2回：実習ノート(日誌)、指導案について教育実習Ⅱの様式で再学習する(鈴木智子・中野研也)
第3回：実習園への事前訪問内容や心構えを確認する(外部講師)(鈴木智子・中野研也)
第4回：実習ノート(日誌)の書き方について教育実習Ⅱの様式で学習をする(外部講師)(鈴木智子・中野研也)
第5回：指導案の作成について教育実習Ⅱの様式で学習する(外部講師)(鈴木智子・中野研也)

第６回：模擬保育を想定して指導案を実際に作成する（鈴木智子・中野研也）
第７回：模擬保育①（鈴木智子・中野研也）
第８回：模擬保育②（鈴木智子・中野研也）
第９回：模擬保育③（鈴木智子・中野研也）
第10回：模擬保育④（鈴木智子・中野研也）
第11回：教育実習Ⅱオリエンテーションについて（鈴木智子・中野研也）
第12回：まとめ・お礼状の書き方について（鈴木智子・中野研也）・模擬保育の指導案を作成し、実施に必要なものを準備する。
・模擬保育の練習を行う。
・実習の心構えや研究テーマを作成する。

成　績　評　価　方　法

課題提出物（40％）、模擬保育（40％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・実習の意義や目的を理解している。
・指導案がしっかり作成されている。
・実習に必要な提出物が提出されている。

テキスト、参考図書

林幸範、石橋裕子編　『最新　保育園幼稚園の実習　完全マニュアル』
<参考図書>
・文部科学省　『幼稚園教育要領』
・仁愛大学実習指導委員会編　『教育実習（幼稚園）実習の手引き』

その他（受講上の注意）

１年次の受講者は、３年次も受講すること。評価は３年次末にあわせて行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習Ⅱ（幼稚園） （Teaching PracticeⅡ（Preschool））			担当教員	鈴木　智子、中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2312	3単位	3年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目（教育実習）

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）

授業の内容

3年次9月に公私立幼稚園等において、3週間（15日）の教育実習を行う。

授業の到達目標

・幼児の心身の発達、興味や関心、生活や遊び、特性を理解する。
・幼児と適切に関わることができる。
・保育の方法と技術を修得する。
・保育に取り組む姿勢を修得する。
・積極的で適切な実習中の態度を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

教育実習は次に掲げる目的をもって幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を身につけ、教職課程を学ぶ学生の問題意識の構築や専門的学習の必要性を知る機会とする（鈴木智子・中野研也）。
（1）実習先の運営機構、教育方針、指導計画、事務分掌、教育環境等を理解する。
（2）グループ別、個人別等の形態により、観察、参加、指導、研究授業、教材及び指導法の研究、指導案の作成等の方法を通じて、学級経営の在り方を理解する。
（3）園の行事・運営にかかる実践活動への参加をする。
（4）保護者、地域社会と幼稚園の連携、相互理解等における教師の関わり方などを観察、把握する。・実習ノート（日誌）を毎日記録し、実習園に提出する。
・指導案を作成し、指導者の助言により修正を繰り返す。
・部分実習等の責任実習の準備を行う。
・ピアノ課題曲の練習を行う。

成績評価方法

実習園の評価（評価表）と大学の評価を総合して評価する。

成績評価基準

・幼児の心身の発達、興味や関心、生活や遊び、特性を理解できたか。
・幼児と適切に関わることができたか。
・保育の方法と技術を修得できたか。
・保育に取り組む姿勢がよかったか。
・実習中の態度がよかったか。

テキスト、参考図書
文部科学省　『幼稚園教育要領』 子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習（幼稚園）実習の手引き』 子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習Ⅱ（幼稚園）実習ノート』
その他（受講上の注意）
教育実習は、卒業後、教員として就職することを強く希望する学生のために、実習園の教育的配慮・好意によって受け入れていただくものである。また、受講要件として、学生便覧、実習要項に記載されている科目の履修が必要である。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導(小学校) (Guidance for Field Practice(Elementary))			担当教員	伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-E-2360	1単位	3年後期、4年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

事前指導として、教育実習の意義についての指導及び実地実習に際しての具体的指導を大学及び実習校で行う。また、教育実践場面に関わる学習として、学校参観・授業参観を行う。事後指導として、授業を中心とした教育実習の成果・課題を踏まえ、教職に必要な事項について実践的な指導を行う。

授業の到達目標

・事前学習を通して教育実習の意義を理解し、実地実習に際しての予備的な学習を行う。学校参観・授業参観を通して、学校教育について理解を深め、実践的知識を身に付ける。
・事後指導を通して各自の実習の成果・課題を確認し、それを踏まえ教職についての理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

[事前指導]
第1回：小学校教育実習の意義、目的、内容
　事前学習：テキスト『小学校教育実習の手引き』の第1章第1・2節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：講義をもとに教育実習の意義や目的等改めて振り返り、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第2回：教育実習の準備と心得
　事前学習：テキスト『手引き』の第1章第3節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：講義をもとに教育実習の事前学習の確認と今後の計画等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第3回：授業参観の目的とその観点(討議)
　事前学習：テキスト『手引き』の第1章第3節の特に観察実習について熟読し、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業見る視点についての討議を踏まえ、再度整理し、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第4回：協力校における授業参観(フィールドワーク)
　事前学習：協力校の学校要覧を読んで学校教育目標等を確認し、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：観察をもとに自分の設定した視点から学んだことを振り返り、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第5回：協力校における授業参観(フィールドワーク)
　事前学習：協力校の学校要覧を読んで学校教育目標等を確認し、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：観察をもとに自分の設定した視点から学んだことを振り返り、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第６回：授業参観しての意見交換（グループワーク、討議）
事前学習：リフレクションシートをもとに、グループ協議に向けたテーマで整理し直し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：グループ討議による他者の気づきや視点で印象に残っていることを、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第７回：協力校における授業参観（フィールドワーク）
事前学習：協力校の学校要覧を読んで学校教育目標等を確認し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：観察をもとに自分の設定した視点から学んだことを振り返り、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：教材研究と学習指導案の作成方法（一般）
事前学習：テキスト『手引き』の第３章第１節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに学習指導案作成の留意点等について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：教材研究と学習指導案の作成方法（算数）
事前学習：テキスト『手引き』の第３章第２節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：学習指導案作成に向けた（算数）教材研究を行い、そのプロセスをリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：模擬授業（実技、討議）
事前学習：テキスト『手引き』の第３章第１・２節をもとに学習指導案（算数）を作成しておくこと。（２時間）
事後学習：グループでの討議を踏まえ模擬授業での成果や課題等について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：特別講義「教育実習の心得」（小学校教諭を招いての特別講義）
事前学習：講師の実践記録等の資料を事前に読んで、その要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：特別講義をもとに印象に残ったことや取れ入れたいことなど、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：ICT活用した模擬授業（グループワーク、実習、実技）
事前学習：ICTやデジタル教材に関する活用事例を調べて、その要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：パソコン等の実習とグループでの協議を踏まえ模擬授業での成果や課題等について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：実習日記の記入方法及び教育実習の具体的留意点
事前学習：テキスト『手引き』の第１章第４節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに実習ノートの書き方や実習の留意点を再度確認し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：教育実習直前指導
事前学習：テキスト『手引き』の第４章を読み、実習中の心構えについて要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに実習中の心構え等について再度確認し、抱負等をリフレクションシートにまとめる。（２時間）
［事後指導］
第15回：教育実習の振り返り①（実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。
事前学習：実習ノートや指導案等実習中の資料を分類・整理し、各自の成果等要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：「子ども理解」や「授業」等の大枠の視点で実習ノートを整理するとともに、各自の成果、課題を明確にしていき、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第16回：教育実習の振り返り②（実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。
事前学習：実習ノートや指導案等実習中の資料を分類・整理し、各自の課題等要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：「子ども理解」や「授業」等の細部のテーマを設定しその視点で実習ノートを整理するとともに、各自の成果、課題を明確にしていき、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第17回：教育実習反省会①（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）
事前学習：学年（低・中・高）ごとの子どもの特徴等実習中の気づきについて、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：グループ討議による他者の気づきや視点について学んだことを、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第18回：教育実習反省会②（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）
事前学習：教科ごとの子どもの反応や特徴等実習中の気づきについて、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：グループ討議による他者の気づきや視点について学んだことを、リフレクションシートにまとめる。（２時間）

第19回：教育実習反省会③（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）
事前学習：学年（低・中・高）ごとの子どもの発達の特徴と教科理解の道筋について、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：異学年のグループ討議による子どもの発達や授業における特性等について実習を通して学んだことを、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第20回：教育実習報告書作成①（各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。（グループワーク、討議）
事前学習：これまでの反省会をもとに、再度教育実習における成果と課題を整理し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：まとめた要点のグループ討議からさらにブラッシュアップし、報告書の予定校を作成する。（２時間）
第21回：教育実習報告書作成②（各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。（グループワーク、討議）
事前学習：報告書の予定校をもとに、実習報告書の第１稿を作成しておくこと。（２時間）
事後学習：実習報告書の第１稿のグループ討議からさらにブラッシュアップし、報告書の最終稿を作成する。（２時間）
第22回：教育実習の総括①（全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。（グループワーク、討議）
事前学習：教育実習後の教育課題について10テーマから各自一つを選択し､要点をまとめておくこと｡（２時間）
事後学習：教育課題のテーマごとグループ討議から卒業後の課題を明確にし、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第23回：教育実習の総括②（全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。
事前学習：教育実習の評価表を精査し、自己の課題について考えることの要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：自己の振り返りと評価表から明らかになった卒業後の課題を焦点化して、記録しておく。（２時間）

成　績　評　価　方　法

レポート（60%）、各活動への取り組み状況（40%）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・事前指導で教育実習の意義を理解し、実践的知識を習得できているか。
・事後指導で教育実習の成果や課題を踏まえ、教職についての理解が深まったか。

テキスト、参考図書

小学校教育実習の手引き
小学校教科書（国語，社会，算数，理科）

その他（受講上の注意）

教育実習校は、実習生が実習に必要な学習内容を十分に習得し、教育について深く理解していることを前提として迎えてくれる。そして、実習生には教職に就きたいという強い意志を持って臨むことが求められる。
教育実習に全力で臨むためにも、事前指導で十分準備を、事後指導で実習の省察をすることが重要である。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

算数・数学教育に関するこれまでの学修を基礎に、国際調査（TIMMS・PISA）や国内調査（全国学力・学習状況調査等）の公表された結果から算数・数学教育の現状と課題を把握する。実際の授業を、数学的活動（数学的問題解決の過程／数学化サイクル）の視点から考察し、自己の興味関心のある課題を発見し、研究テーマを明確化していく。先行研究や先行実践を手がかりに、自己の研究テーマへのアプローチの方法について考える。

授業の到達目標

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、国内外の諸調査から算数・数学教育の現状と課題を把握し、学習指導要要領の改定の経緯や算数科改定の趣旨及び算数科の目標等を理解し、先行研究・実践の事例分析を通して、数学的問題解決のプロセスにおける教師の指導言の役割などを理解するとともに、研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について理解する。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける契機とする。

1．算数・数学教育の現状と課題を理解している。
2．学習指導要領の算数科改訂の趣旨及び要点や算数科の目標を理解し、各領域の内容の概観ができる。
　また、数学的活動の意義を理解している。
3．算数科学習における「数学的見方・考え方」と授業における指導言との関わりを理解している。
4．先行研究や先行実践を、自己の研究テーマとの関わりで読みとることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■ 発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（発表、討議）
　事前学習：各自、算数・数学教育の被教育体験から課題だと考えられることを、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：算数・数学教育の課題の発表、討議から気づいたことを、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第2回：TIMMSにみる我が国の算数・数学教育の現状（発表、討議）
　事前学習：文科省のHPや報告書等からTIMMSの結果の概要の要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：発表、討議をもとにわが国の算数・数学教育の現状等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第3回：PISAにみる我が国の算数・数学教育の課題（主に活用力を中心に）（発表、討議）
　事前学習：文科省のHPや報告書等からPISAの結果の概要の要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：発表、討議をもとにわが国の数学教育の課題（活用力）等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（2時間）

第４回：全国学力・学習状況調査にみる算数科の現状と課題（発表、討議）
事前学習：文科省のHPや報告書等から全国学調の結果の概要の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表、討議をもとにわが国の算数教育の具体的な課題等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第５回：国際調査（TIMMS・PISA）や国内調査（全国学力・学習状況調査）の重点課題（単位あたり量や割合、表現力等）（発表、討議）
事前学習：諸調査から明らかにされた具体的課題から一つ選択し、その単元を調べ、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：調べた課題の発表、討議から、その課題解決の方策を自分なりに考察し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第６回：新学習指導要要領の改定の経緯及び基本方針、算数科改定の趣旨及び要点（討議）
事前学習：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』第１章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：討議をもとに算数科改定の背景等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第７回：新学習指導要要領における算数科の目標（討議）
事前学習：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』第２章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：討議をもとに資質・能力に基づいた算数教育の目標を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：新学習指導要要領における算数科の内容と数学的活動（討議）
事前学習：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』第３章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：討議をもとに数学的活動の意義等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：授業における教師の指導言の分析
事前学習：授業における教師の指導言について自分なりにいくつかに類型化し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに数学的問題解決過程における発問について整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：算数科の学習における「数学的見方・考え方」（主に発問との関わり）
事前学習：『解説　算数編』等から「数学的見方・考え方」について調べ、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに数学的見方・考え方と発問との係わりについて、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：先行研究・実践の事例分析①（課題の発見）（発表、討議）
事前学習：自分の興味のある単元等の先行研究や実践を調べ、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに課題を見つけ、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：先行研究・実践の事例分析②（課題の明確化）（発表、討議）
事前学習：前時のリフレクションシートにまとめた課題に関する研究・実践を精査し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：さらなる調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに課題を明確化し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：先行研究・実践の事例分析③（課題へのアプローチの方法－認知的側面）（発表、討議）
事前学習：自分の課題とする単元の認知的成果が得られた先行研究や実践を調べ、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに認知的課題解決の方策について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：先行研究・実践の事例分析④（課題へのアプローチの方法－情意的側面）（発表、討議）
事前学習：自分の課題とする単元の情意的成果が得られた先行研究や実践を調べ、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに情意的課題解決の方策について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第15回：研究計画を立てる。（発表、討議）
事前学習：これまでの学修をもとに自分の研究課題を設定しその設定理由の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：研究課題の発表、討議をもとに更に細部まで検討した研究課題を作成する。（２時間）

成　績　評　価　方　法

参考書や調査課題等の要約レポート（30％）、事例分析レポート（30％）、総合レポート（15％×２）、討論の様子等（10％）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・算数・数学教育の現状と課題を把握できたか。
・算数科改訂の趣旨等を理解し、算数教育の目標や数学的活動の意義が理解できたか。
・「数学的見方・考え方」と関連させて授業における教師の指導言の機能や役割を理解できたか。
・先行研究・実践の分析を通して、興味関心をもって研究しようとするテーマを見つけることができたか。

テキスト、参考図書

参考書・参考資料等：小寺隆幸編著『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育　コンテンツとコンピテンシーを見すえて』ミネルヴァ書房、2018年
藤村宣之『数学的・科学的リテラシーの心理学－子どもの学力はどう高まるか－』有斐閣、2012年
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』東洋館出版、2018

その他（受講上の注意）

基本的に要約レポートをもとにディスカッションをしながら演習を進めるので、積極的な態度で授業に臨むこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。
幼児教育や保育の現場における諸問題や子どもの発達と援助について興味・関心を掘り起こし、問題意識を育む。そして、深く多面的な理解を育むために資料や情報を収集しつつ、問題解決についての考えを展開し構築していく。専門分野における理解を深めるとともに、少人数、双方向型の教育によって発表や集団討議を繰り返すことで、問題意識と関連させた内省が生まれる。それを契機として、幼児教育者を志す自身の在り方や生き方についても問いかけができるように切磋琢磨する。

授業の到達目標

幼児教育・保育にかかわる諸問題について理解を深める。
多様な研究方法について理解を深める。
一つのテーマに基づいて問題意識を持ち、討論する力を養う。
卒業研究につながる各自の研究テーマを明確化する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：これまでの学習を振り返り、探求したい自己のテーマを決めてくる（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、探求したい自己のテーマに関連する書籍等を読む（2時間）
第2回：文献検索、先行研究の読み方
　事前学習：探求したいテーマに関するキーワードを用意する（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、テーマに関連する文献を検索し、講読する文献を用意する（2時間）
第3回：文献講読1
第4回：文献講読2
第5回：文献講読3
第6回：文献講読4
第7回：文献講読5
第8回：文献講読6
　第3回～第8回の事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する（12時間）
　第3回～第8回の事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する（12時間）
第9回：中間のまとめ
　事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、問題意識を明確にする（2時間）

第10回：研究発表と討論１
第11回：研究発表と討論２
第12回：研究発表と討論３
第13回：研究発表と討論４
第14回：研究発表と討論５
第10回～第14回の事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（10時間）
第10回～第14回の事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（10時間）
第15回：まとめ
事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、問題意識を明確にする（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、討論への参加態度（30%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

幼児教育にかかわる諸問題について理解を深めることができているか。
多様な研究方法について理解を深めることができているか。
一つのテーマに基づいて問題意識を持ち、討論する力を養うことができているか。
卒業研究につながる各自の研究テーマを明確化できているか。

テキスト、参考図書

テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的な思考力と想像力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎とし、課題設定、仮説の立て方、研究の方法、結果のまとめ方、発表の方法を学び、問題解決能力の向上を目指す。

授業の到達目標

科学教育に関する課題を見出し，適切に探究活動を行うことができる。自然科学領域に関する観察・実験・調査等を行い、結果を適切に考察し，まとめたり、発表したりすることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：探究活動とは何かについて調べて、まとめておく（2時間）。
　事後学習：年間を通した活動内容を整理し、大きな見通しをもつ（2時間）。
第2回：実験器具、実験室の使い方
　事前学習：実験器具の使い方を整理し、基礎的な操作方法を確認しておく（2時間）。
　事後学習：実験器具の使い方について基礎的技能を確認する（2時間）。
第3回：科学的なものの見方・考え方
　事前学習：科学的とは何かについて、自分の考えをまとめる（2時間）。
　事後学習：科学的なものの見方・考え方について整理する（2時間）。
第4回：先行研究の調べ方
　事前学習：先行研究とは何かについて、自分の考えを整理する（2時間）。
　事後学習：自分の課題に関する先行研究を調べて、その概略をまとめる（2時間）。
第5回：課題設定の方法
　事前学習：自分の興味や関心のあるテーマをリストアップする（2時間）。
　事後学習：課題設定のための方法を試みる（2時間）。
第6回：仮説の立て方
　事前学習：仮説とは何かについて、自分の考えを整理する（2時間）。
　事後学習：具体的な事例に基づいて、仮説を立てる練習を行う（2時間）。
第7回：実験ノートの書き方，結果のまとめ方
　事前学習：実験ノートについての自分の考えをまとめる（2時間）。
　事後学習：実験に関するノートの書き方を理解し、事例に基づいて書いてみる（2時間）。
第8回：先行研究の調査・論文発表①
　事前学習：自分の興味・関心のある論文を探し、発表形式にまとめる（2時間）。
　事後学習：自分の発表を振り返り、次の発表に反映させる（2時間）。

第９回：先行研究の調査・論文発表②
　　事前学習：自分の興味・関心のある論文を探し、発表形式にまとめる（２時間）。
　　事後学習：自分の発表を振り返り、次の発表に反映させる（２時間）。
第10回：先行研究の調査・論文発表③
　　事前学習：自分の興味・関心のある論文を探し、発表形式にまとめる（２時間）。
　　事後学習：自分の発表を振り返り、次の発表に反映させる（２時間）。
第11回：課題の設定
　　事前学習：これまでの活動から課題を設定し、探究活動の見通しをもつ（２時間）。
　　事後学習：課題に対する仮説の確認を行う（２時間）
第12回：仮説の立案
　　事前学習：課題解決の見通しをもって、仮説を立てる（２時間）。
　　事後学習：検証可能な仮説になっているかについて確認する（２時間）。
第13回：探究活動のための材料と方法
　　事前学習：仮説を検証するための適切な材料と方法を考える（２時間）。
　　事後学習：検討した材料と方法について具体的な行動計画を立てる（２時間）。
第14回：研究計画書の作成
　　事前学習：研究計画書を作成する（２時間）。
　　事後学習：授業でのディスカッションに基づいて研究計画書の修正をする（２時間）。
第15回：研究計画に基づいて探究活動の遂行
　　事前学習：自律的に探究活動を行うことの重要性を意識する（２時間）。
　　事後学習：自分の探究活動を振り返り、問題点を整理し、改善策を考える（２時間）。

成　績　評　価　方　法

論文紹介発表（50%），平常点（30%），　提出物（20%）
平常点は授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

（１）科学教育における課題を見出すことができる。
（２）課題を適切に処理し、考察し、結論を導くことができる。

テキスト、参考図書

必要に応じて提示する。

その他（受講上の注意）

学外での授業研究会や学会等への参加、支援活動等も含まれる。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。必要に応じて、保育関連のフォーラムや研修会に参加して、専門的な知識を習得する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(ゼミの概要や方針について説明)
　事前学習：これまでの大学での学びの成果と課題をまとめておく(2時間)
　事後学習：この1年間の学習の目標をまとめる。(2時間)
第2回：文献検索の方法(図書館の活用方法)
　事前学習：関心のあるテーマについて関連する記事や文献をまとめておく(2時間)
　事後学習：文献検索の手法を用いて、複数の文献をピックアップする。(2時間)
第3回：文献・雑誌講読
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。(2時間)
第4回：文献・雑誌講読
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。(2時間)
第5回：文献・雑誌講読
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。(2時間)
第6回：自主課題の発表
　事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。(2時間)
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。(2時間)
第7回：自主課題の発表
　事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。(2時間)
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。(2時間)
第8回：自主課題の発表
　事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。(2時間)
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。(2時間)

第９回：文献・雑誌講読
　　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（２時間）
第10回：文献・雑誌講読
　　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（２時間）
第11回：文献・雑誌講読
　　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（２時間）
第12回：文献・雑誌講読
　　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（２時間）
第13回：研究のデザイン発表
　　事前学習：４年生に予定している研究（内容・方法）について報告するためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直す。（２時間）
第14回：研究のデザイン発表
　　事前学習：４年生に予定している研究（内容・方法）について報告するためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直す。（２時間）
第15回：研究のデザイン発表
　　事前学習：４年生に予定している研究（内容・方法）について報告するためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直す。（２時間）

成　績　評　価　方　法

課題レポート（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況、レポート発表を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法について、デザイン発表することができるか。

テキスト、参考図書

講読する文献、論文は適宜紹介する。

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自が卒業論文のテーマに沿って構想からとりまとめを進めてゆく。
卒業論文の内容の準備については、中断することなく定期的に進め、他のゼミ生のナイーブな意見にも十分に説明できるよう、深く根拠を探り検討してゆく。自分なりに構想を発表し、多様な観点からの検討を加える。

授業の到達目標

・所定の形式によるレポートを期限までに提出する。
・レポートには過去の諸研究の文献的成果を反映させることができる。
・研究したい目的を達成するための具体的な方法をまとめることができる。
・レポートを適切な日本語を用いてまとめることができる。
・レポートは、研究されわかっていること、まだわかっていないことを明確に区別するようにまとめることができる。

アクティブ・ラーニング

□■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：観察法の解説。講義を聴き、その後、疑問点について意見交換をする（グループワーク）。
　　事後学習：挙げられた課題を分担して調べ要約し共有する。（4時間）
第2回：観察法の演習。
　　事前学習：学習課題の説明を聞き演習を行ったことについて短いレポートを作成する。（1時間）
　　事後学習：学習課題の説明を聞き演習を行ったことについて短いレポートを作成する。（3時間）
第3回：質問紙調査法の解説。講義を聴き、その後、疑問点について意見交換をする（グループワーク）
　　事後学習：挙げられた課題を分担して調べ要約し共有する。次回の準備をする。（4時間）
第4回：質問紙調査法の演習。演習課題の説明をし演習を実施する。
　　事前学習：結果を短いレポートとして作成する。（1時間）
　　事後学習：結果を短いレポートとして作成する。（3時間）
第5回：面接法の解説。講義を聴き、その後、疑問点について意見交換をする。（グループワーク）。
　　事後学習：挙げられた課題を分担して調べ要約し共有し、次回の準備をする。（4時間）
第6回：面接法の演習。講義を聴き、その後、疑問点について意見交換をする。（グループワーク）。
　　事後学習：挙げられた課題を分担して調べ要約し共有し、次回の準備をする。（4時間）
第7回：発達検査法の解説と模擬演習。
　　事前学習：配付資料に関する予習（2時間）
　　事後学習：模擬演習の復習（2時間）
第8回：発達検査法の解説と模擬演習。
　　事前学習：配付資料に関する予習（2時間）
　　事後学習：模擬演習の復習と（2時間）

第９回：子ども向けの心理検査法の講義。
　　事前学習：資料の理解と実施の準備（１時間）
　　事後学習：まとめ（３時間）。
第10回：研究法に着目した研究論文の講読と発表。受講生間の意見交換。
　　事前学習：意見交換の準備（３時間）
　　事後学習：まとめ（１時間）
第11回：研究法に着目した研究論文の講読と発表。受講生間の意見交換。
　　事前学習：発表準備（３時間）
　　事後学習：まとめ（１時間）
第12回：研究法に着目した研究論文の講読と発表。受講生間の意見交換。
　　事前学習：発表準備（３時間）
　　事後学習：まとめ（１時間）
第13回：研究法に着目した研究論文の講読と発表。受講生間の意見交換。
　　事前学習：発表準備（３時間）
　　事後学習：（１時間）
第14回：研究法に着目した研究論文の講読と発表。受講生間の意見交換。
　　事前学習：発表準備（３時間）
　　事後学習：まとめ（１時間）
第15回：全体のまとめと講評。
　　事前学習：発表準備（４時間）
学習関心に応じて、DVD教材や図書、あるいは研究論文を紹介するので、各自で十分に時間を取って進めてゆく。

成　績　評　価　方　法

演習で、授業中の発表の準備と提出レポートにより100パーセント

成　績　評　価　基　準

授業の到達目標に記載した行動目標を達成しているかどうかによる。分割してポイント制による加算とせず、総合的に評価する。

テキスト、参考図書

授業担当者が準備した資料を配付する。配付資料による解説を行うが、加えて受講生自身が準備した資料によっても演習を進めてゆく。

その他（受講上の注意）

継続的な学習・探究的態度が重要であるから中断しないこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

絵本や児童文学をはじめとした子ども文化の分野を中心に、自分自身が特にどのようなことに興味や関心があるのかを考える。またその分野でどのような先行研究があるのかなどを整理し、卒業研究の方向性を決める。

授業の到達目標

自分の関心を適切な言葉で説明できる。先行研究でどこまで明らかになっているかを整理し、自分の考えと区別して論じることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(ゼミの進め方の説明など)
　事前学習：ゼミ募集要項を熟読しておく(2時間)
　事後学習：自分の関心のある内容についてまとめる(2時間)
第2回：資料の探し方(実技)
　事前学習：自分の関心のあるキーワードを列挙し、インターネット等で調べておく(2時間)
　事後学習：自分の関心のあるキーワードをもとに、検索ツールを用いて調べる(2時間)
第3回：ゼミ報告の仕方(グループワーク)
　事前学習：教科書の該当箇所を読み、疑問点をまとめておく(2時間)
　事後学習：文献調査を行い、レポートをまとめる(2時間)
第4回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：文献調査を行い、レポートをまとめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、レポートを修正し、課題をまとめる(2時間)
第5回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：文献調査を行い、レポートをまとめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、レポートを修正し、課題をまとめる(2時間)
第6回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：文献調査を行い、レポートをまとめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、レポートを修正し、課題をまとめる(2時間)
第7回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：文献調査を行い、レポートをまとめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、レポートを修正し、課題をまとめる(2時間)
第8回：中間まとめ(発表)
　事前学習：これまでの進捗と課題について、中間報告書にまとめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、レポートを修正する(2時間)

第９回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：文献調査を行い、レポートをまとめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、レポートを修正し、課題をまとめる（２時間）
第10回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：文献調査を行い、レポートをまとめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、レポートを修正し、課題をまとめる（２時間）
第11回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：文献調査を行い、レポートをまとめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、レポートを修正し、課題をまとめる（２時間）
第12回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：文献調査を行い、レポートをまとめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、レポートを修正し、課題をまとめる（２時間）
第13回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：文献調査を行い、レポートをまとめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、レポートを修正し、課題をまとめる（２時間）
第14回：卒業研究にむけて（グループワーク）
　　事前学習：これまでの成果をまとめ、４年生への質問内容を整理しておく（２時間）
　　事後学習：４年生からの助言をもとに、卒論完成までのスケジュールを作成する（２時間）
第15回：卒業研究にむけて（グループワーク）
　　事前学習：４年生の卒業論文を読み、質問内容をまとめる（２時間）
　　事後学習：これまでの成果をまとめ、研究計画書を作成する（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表時の内容40％、レポート40％、討論への参加状況20％で総合的に評価します。

成　績　評　価　基　準

自分の関心を適切な言葉で説明できているか。先行研究でどこまで明らかになっているかを整理し、自分の考えと区別して論じることができているか。討論の内容を踏まえたレポートが作成できているか。

テキスト、参考図書

白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』２版、ミネルヴァ書房、2013
その他については授業中に適宜紹介します。

その他（受講上の注意）

発表者はゼミが円滑に進められるよう配付資料（作品の該当部分や先行研究のコピーなど）を人数分準備してください。
欠席の場合は必ず担当教員または他のゼミ生へ連絡すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

音楽または音楽に関連することについて、各自が興味を持つ対象を研究・発表し、少人数での討論を行う。

授業の到達目標

1.音楽に関する知識と理解を深める。
2.音楽を通して、豊かな教養を身に付け、教育・保育に活かす。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション。各自の関心と研究テーマについて選定の視点と今後の要望について述べる。(ディスカッション)
　事前学習：オリエンテーションへ向けて、自分がゼミで行いたい研究テーマについて書き出しておくこと。(2時間)
　事後学修：第1回授業時に仮決定したテーマについて、省察を行うこと。(2時間)
第2回：それぞれのテーマについての文献及び関連情報を収集する。
　事前学習：仮決定した研究テーマについて、資料・文献等の出版状況を調べておくこと。(2時間)
　事後学修：資料・文献の収集状況により、研究テーマを決定する。(2時間)
第3回：それぞれのテーマについての文献及び関連情報を通読する。
　事前学習：決定した研究テーマについて、資料・文献を読んでおくこと。(2時間)
　事後学修：教員の指導内容を踏まえ、レポートにまとめる。(2時間)
第4回：それぞれのテーマについての発表をする。(発表)
　事前学習：発表のための資料などの準備をしておくこと。(2時間)
　事後学修：それぞれの発表について、自分の感じたことを書き出す。(2時間)
第5回：それぞれのテーマについての発表と討議をする。(グループワーク、ディスカッション)
　事前学習：それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。(2時間)
第6回：ここまでに研究したテーマについて、必要であれば見直しを行う
　事前学習：研究テーマについて、再検討が必要かどうか自分の考えを書き出しておくこと。(2時間)
　事後学修：研究テーマに関連する文献・資料の選択を行う。(2時間)
第7回：それぞれのテーマについて実践している現場の観察1
　事前学習：観察を行う現場について、事前に調べておくこと。(2時間)
　事後学修：観察結果をもとに、レポートを作成する。(2時間)
第8回：それぞれのテーマについて実践している現場の観察2
　事前学習：1回目の観察結果をもとに、2回目に観察を行う現場を決定しておくこと。(2時間)
　事後学修：観察結果をもとに、レポートを作成する。(2時間)

第９回：現場の観察についての発表と討議１　（グループワーク、ディスカッション）
　　事前学習：１回目の観察結果をもとに、２回目に観察を行う現場を決定しておくこと。（２時間）
　　事後学修：観察結果をもとに、レポートを作成する。（２時間）
第10回：現場の観察についての発表と討議２　（グループワーク、ディスカッション）
　　事前学習：発表のための資料などの準備をしておくこと。（２時間）
　　事後学修：それぞれの発表について、自分の感じたことを書き出す。（２時間）
第11回：ここまでに研究したテーマについて、必要であれば見直しを行う
　　事前学習：研究テーマについて、再検討が必要かどうか自分の考えを書き出しておくこと。（２時間）
　　事後学修：研究テーマに関連する文献・資料の選択を行う。（２時間）
第12回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換１　（グループワーク、ディスカッション）
　　事前学習：発表のための資料などの準備をしておくとともに、それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
　　事後学修：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。（２時間）
第13回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換２　（グループワーク、ディスカッション）
　　事前学習：発表のための資料などの準備をしておくとともに、それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
　　事後学修：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。（２時間）
第14回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換３　（グループワーク、ディスカッション）
　　事前学習：発表のための資料などの準備をしておくとともに、それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
　　事後学修：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。（２時間）
第15回：次年度への展望のまとめ文献等の情報収集に努め、要点をまとめておくこと。
　　事前学習：研究テーマに関連する文献・資料の選択を再度行う。（２時間）
　　事後学修：次年度への展望について、レポートを作成する。（２時間）

成　績　評　価　方　法

授業に対する姿勢（50％）、およびレポートなどの提出物（50％）を総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

音楽および音楽関連についての知識が深まったか。

テキスト、参考図書

ゼミ生個々の主体的な研究に負うため、共通のテキストは用いない。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習における文献購読、発表、議論を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。

授業の到達目標

自らの関心や問題意識を明確化し、他者へ論理的に伝えることができる。
他者の関心や問題意識にも関心をもち、議論することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスとゼミ要項を熟読して、疑問点等を整理する。（2時間）
　事後学習：配付された資料等を整理し、理解を深める。（2時間）
第2回：文献の探し方、読み方、まとめ方
　事前学習：文献の探し方等に関する文献を読み、疑問点等を整理する。（2時間）
　事後学習：配付された資料等を整理し、理解を深める。（2時間）
第3回：担当者による発表と討議①
　事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（2時間）
第4回：担当者による発表と討議②
　事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（2時間）
第5回：担当者による発表と討議③
　事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（2時間）
第6回：担当者による発表と討議④
　事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（2時間）

第７回：担当者による発表と討議⑤
　　事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（２時間）
第８回：中間まとめ～研究テーマの方向性の共有
　　事前学習：これまでの議論等を振り返り、自分の考えや疑問点などを整理する。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（２時間）
第９回：先行研究と研究計画に関する発表と討議①
　　事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（２時間）
第10回：先行研究と研究計画に関する発表と討議②
　　事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（２時間）
第11回：先行研究と研究計画に関する発表と討議③
　　事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（２時間）
第12回：先行研究と研究計画に関する発表と討議④
　　事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（２時間）
第13回：先行研究と研究計画に関する発表と討議⑤
　　事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（２時間）
第14回：研究計画書の作成と発表①
　　事前学習：これまでの議論を踏まえ、研究計画書を作成する。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画書を修正する。（２時間）
第15回：研究計画書の作成と発表②
　　事前学習：これまでの議論を踏まえ、研究計画書を作成する。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画書を修正する。（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、議論への参加状況（50%）

成　績　評　価　基　準

自らの関心や問題意識を明確化し、他者へ論理的に伝えることができるか。
他者の関心や問題意識にも関心をもち、議論することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。参考図書は、テーマに合わせて適宜紹介する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方、レポートの作成方法について学ぶ。

授業の到達目標

文献の内容を理解できる。他者の発表に対して討議に参加できる。レポートが作成できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(演習の概要や方針に関するガイダンス)
　事前学習：過去の卒業研究要旨集を参照しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)
第2回：研究資料の収集方法(文献検索の方法、図書館の利用方法)
　事前学習：文献検索に関する資料を調べておくこと。(2時間)
　事後学習：図書館で文献検索を体験しておくこと。(2時間)
第3回：レポート(ゼミ資料)の作成方法
　事前学習：図書館等でレポート作成の文献を調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業の内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)
第4回：文献講読(討議)
　事前学習：指定された文献を読み込んでおくこと。(2時間)
　事後学習：討議の内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)
第5回：文献講読(討議)
　事前学習：指定された文献を読み込んでおくこと。(2時間)
　事後学習：討議の内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)
第6回：文献講読(討議)
　事前学習：指定された文献を読み込んでおくこと。(2時間)
　事後学習：討議の内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)
第7回：文献講読(討議)
　事前学習：指定された文献を読み込んでおくこと。(2時間)
　事後学習：討議の内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)
第8回：中間まとめ(討議)
　事前学習：これまでの討議内容を整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：討議の内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)
第9回：文献講読(発表、討議)
　事前学習：図書館等で文献を収集し発表レジメを作成しておくこと。(2時間)
　事後学習：討議の内容を整理してレポートにまとめておくこと。(2時間)

第10回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：図書館等で文献を収集し発表レジメを作成しておくこと。（２時間）
　　事後学習：討議の内容を整理してレポートにまとめておくこと。（２時間）
第11回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：図書館等で文献を収集し発表レジメを作成しておくこと。（２時間）
　　事後学習：討議の内容を整理してレポートにまとめておくこと。（２時間）
第12回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：図書館等で文献を収集し発表レジメを作成しておくこと。（２時間）
　　事後学習：討議の内容を整理してレポートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：研究課題の設定（討議）
　　事前学習：研究課題の概略を作成しておくこと。（２時間）
　　事後学習：討議の内容を整理してレポートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：研究課題の設定（討議）
　　事前学習：研究課題の概略を作成しておくこと。（２時間）
　　事後学習：討議の内容を整理してレポートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：まとめ（討議）
　　事前学習：研究課題を作成しておくこと。（２時間）
　　事後学習：討議の内容を整理して研究課題をレポートにまとめておくこと。（２時間）
自らの関心がある問題について積極的に情報を収集すること。

成　績　評　価　方　法

発表内容・課題レポート（80%）、平常点（20%）平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

文献の内容を理解できている。他者の発表に対する討議に参加できている。レポートが論理的に作成できている。

テキスト、参考図書

関連する文献、図書などを必要に応じて紹介する。

その他（受講上の注意）

常に問題意識をもち主体的、継続的に取り組むこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

造形・美術養育等の分野で自分自身がどのようなことに興味や関心があるのかを考え、各自が卒業研究に向けて研究を深めていく内容、テーマを探っていく。併せてこれまでの卒業研究を参考にしながらテーマや自分にあった研究の方法についても考えていく。

授業の到達目標

・自分の興味や関心のある内容を説明できる。
・研究の方法について説明できる。
・研究の計画を立てることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：自分の興味のあるテーマについて考えをまとめておく。（2時間）
　事後学習：研究テーマについて概要をまとめる。（2時間）
第2回：美術・造形について
　事前学習：美術について疑問点をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業の内容についてまとめておく。（2時間）
第3回：美術・造形教育について
　事前学習：美術・造形教育についての疑問点をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業の内容をまとめておく。（2時間）
第4回：作品、作家研究①
　事前学習：自分の興味のある作家、作品をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間）
第5回：作品、作家研究②
　事前学習：自分の興味のある作家、作品について調べておく。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間）
第6回：作品、作家研究③
　事前学習：自分の興味のある作家、作品について深く調べる。（2時間）
　事後学習：授業の内容をまとめておく。（2時間）
第7回：作品、作家研究④
　事前学習：調べたことを発表できるようにまとめておく。（2時間）
　事後学習：質問があった項目について調べておく。（2時間）
第8回：作品、作家研究⑤
　事前学習：発表用の資料を作成する。（2時間）
　事後学習：質問項目につて調べ、まとめておく。（2時間）

第９回：文献研究①
　　事前学習：自分のテーマに合う文献、資料をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容をまとめておく。（２時間）
第10回：文献研究②
　　事前学習：テーマに合う文献、資料を調べるておく。（２時間）
　　事後学習：授業の内容をまとめておく。（２時間）
第11回：文献研究③
　　事前学習：自分のテーマに合う文献、資料を調べて発表できるようにしておく。（２時間）
　　事後学習：質問項目につてまとめておく。
第12回：文献研究④
　　事前学習：自分のテーマについて文献、資料を調べて発表用の資料を作成する。（２時間）
　　事後学習：質問のあった項目について調べておく。（２時間）
第13回：文献研究⑤
　　事前学習：発表用の資料を作成する。
　　事後学習：質問項目につて調べておく。（２時間）
第14回：研究発表
　　事前学習：これまで調べたことをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：発表用ｊの資料を作成する。（２時間）
第15回：研究発表
　　事前学習：発表用の資料を作成する。（２時間）
　　事後学習：質問等を調べ、資料に追加しておく。（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・研究内容について説明できるか。
・今後の計画を説明できる。

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

「図画工作Ⅰ」「図画工作Ⅱ」「保育内容研究（表現Ｂ）」「美術の世界」の単位を取得しており、「図画工作科教育法」を履修していること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究に必要となる関連知識や技術の修得

授業の到達目標

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について習得できる。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つけることができる。
特に、情報メディアやソフトウェアの活用方法について理解を深められる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習 (PBL)　□討議 (ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表 (プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ゼミに関するガイダンス・研究に関する興味・関心分野の確認
　事前学習：ゼミ選択時の志望理由について確認しておく。(1時間)
　事後学習：興味・関心分野を文書にまとめる。(2時間)
第2回：学習するプログラミング言語やソフトウェアの選定
　事後学習：選定したソフトウェア等に関連する書籍を用意し、その内容をどのように進めるか計画する。(4時間)
第3回：ソフトウェア環境の構築
　事後学習：必要となるソフトウェアを自身が利用するPCにインストールし環境を設定しておく。(5時間)
第4回：進捗報告①
　事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。(1時間)
第5回：進捗報告②
　事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。(1時間)
第6回：進捗報告③
　事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。(1時間)
第7回：進捗報告④
　事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。(4時間)
第8回：先行研究の調査・文献収集
　事前学習：自身の興味・関心分野について確認しておく。(2時間)
　事後学習：先行研究について検索等を行い、資料を収集する。(2時間)
第9回：関連ソフトウェア・システムの検討
　事後学習：先行研究に関連して必要となるソフトウェア等について調べ、環境を構築する。(4時間)

第10回：進捗報告⑤
　　事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。（１時間）
第11回：進捗報告⑥
　　事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。（１時間）
第12回：進捗報告⑦
　　事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。（１時間）
第13回：進捗報告⑧
　　事前学習：ソフトウェアに関して自主学習をし進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように自主学習を進めるか検討する。（１時間）
第14回：成果物のまとめと発表（発表）
　　事前学習：これまでの内容をまとめ発表の準備を行う。（４時間）
第15回：次年度に向けての計画設定
　　事前学習：次年度にどのような研究を行うか計画をし報告の準備を行う。（４時間）

成　績　評　価　方　法

平常点100%（受講態度、研究計画に対する達成状況により総合的に判断する。）

成　績　評　価　基　準

選択したプログラミング言語やソフトウェアについて、参考資料に記載された内容を理解できたか。またそれを踏まえ独自の応用的な成果物を作成できたか。研究に関する進捗報告を定期的に行えたか。

テキスト、参考図書

前半のプログラミングやソフトウェアに関する図書、後半のソフトウェア・システムに関連する図書を、それぞれ１冊以上ずつ選定し参考にする必要がある。

その他（受講上の注意）

PCを多用するので、購入することが望ましい。
授業の大半は、担当教員と相談の上各自が設定する計画に基づき、授業時間外に自主的に進めてきたことの報告と、それに対する助言や議論・次の計画の時間に充てる。
従って、授業時間外も意欲をもち積極的に研究に取り組む必要がある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。
本演習では、とりわけ文献学的な手法を用いて課題にアプローチしていく。文献の蒐集、読解、さらなる蒐集を行うことにより、文献を批判的に読む技術を身につける。また、文献にもとづいた討論の仕方についても考える機会としたい。

授業の到達目標

相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができる。
自らが興味のあることを研究課題としてまとめることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：研究テーマを模索したうえで、関連文献を調べておく。(2時間)
　事後学習：研究テーマを練り上げ、関連文献を絞り込む。(2時間)
第2回：文献の探し方について
　事前学習：研究計画を作成する。(2時間)
　事後学習：研究テーマに沿った文献を検索する。(2時間)
第3回：文献講読(発表、討議)
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間)
第4回：文献講読(発表、討議)
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間)
第5回：文献講読(発表、討議)
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間)
第6回：文献講読(発表、討議)
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間)
第7回：文献講読(発表、討議)
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。(2時間)

第８回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第９回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第10回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第11回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第12回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第13回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第14回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第15回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）

成　績　評　価　方　法

討論への参加状況（50％）
発表内容（50％）

成　績　評　価　基　準

相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができるか。
自らが興味のあることを研究課題としてまとめることができるか。

テキスト、参考図書

相談して決める。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	笠原　茂子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

これまでの学修を基礎に、専門的研究を進める際の課題の選び方や課題解決絵のアプローチの仕方について学び、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の購読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らのテーマを設定できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（課題解決型学習）
　事前学修：進路調査票やゼミエントリーシートをもとに、本ゼミに自分が期待することをノートにまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：国語教育関係の本を読み、興味・関心が持てることをノートにまとめておくこと。(2時間)
第2回：文献検索の方法(図書館の活用法)(実技)
　事前学修：「小学校学習指導要領解説　国語編」第1章を読んで疑問や質問をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：授業でのプレゼンや図書館でのネット検索による資料等をもとに「小学校学習指導要領解説　国語編」第1章の内容をノートに分かり易くまとめること。(2時間)
第3回：テキスト講読　(発表・グループワーク)
　事前学修：「小学校学習指導要領解説　国語編」第2章を読んで疑問や質問をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：授業でのプレゼンや話し合いをもとに「小学校学習指導要領解説　国語編」第2章の内容をノートに分かり易くまとめること。(2時間)
第3回：テキスト講読　(発表・グループワーク)
　事前学修：「小学校学習指導要領解説　国語編」第3章第1節を読んで疑問や質問をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：授業でのプレゼンや話し合いをもとに「小学校学習指導要領解説　国語編」第3章第1節の内容をノートに分かり易くまとめること。(2時間)
第4回：テキスト講読　(発表・グループワーク)
　事前学修：「小学校学習指導要領解説　国語編」第3章第2節を読んで疑問や質問をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：授業でのプレゼンや話し合いをもとに「小学校学習指導要領解説　国語編」第3章第2節の内容をノートに分かり易くまとめること。(2時間)

第５回：テキスト講読　（発表・グループワーク）
事前学修：「小学校学習指導要領解説　国語編」第３章第３節を読んで疑問や質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業でのプレゼンや話し合いをもとに「小学校学習指導要領解説　国語編」第３章第２節の内容をノートに分かり易くまとめること。（２時間）
第６回：テキスト講読　（発表・グループワーク）
事前学修：「小学校学習指導要領解説　国語編」第４章を読んで疑問や質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業でのプレゼンや話し合いをもとに「小学校学習指導要領解説　国語編」第４章の内容をノートに分かり易くまとめること。（２時間）
第７回：テキスト講読　（発表・グループワーク）
事前学修：「小学校学習指導要領解説　国語編」付録を読んで疑問や質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業でのプレゼンや話し合いをもとに「小学校学習指導要領解説　国語編」付録の内容をノートに分かり易くまとめること。（２時間）
第８回：中間のまとめ　　（発表・討議）
事前学修：新旧「小学校学習指導要領解説　国語編」について違いをまとめ、改訂の趣旨について自分なりの感想をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業での討論をもとに、新学習指導要領における国語科の課題についてノートにまとめること。（２時間）
第９回：課題（国語科の今日的課題）について発表①　（発表・グループワーク）
事前学修：新学習指導要領における国語科の課題についての発表原稿・資料等を準備しておくこと。（２時間）
事後学修：発表について授業での討議を参考にしながら、自分なりの意見や感想をノートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：課題（国語科の今日的課題）について発表②　（発表・グループワーク）
事前学修：新学習指導要領における国語科の課題についての発表原稿・資料等を準備しておくこと。（２時間）
事後学修：発表について授業での討議を参考にしながら、自分なりの意見や感想をノートにまとめておくこと。（２時間）
第11回：指導案検討会①　（討議）
事前学修：３学期の教材から研究テーマにあった単元を選び、指導案を作成すること。（２時間）
事後学修：討論を踏まえて、指導案を書き直すこと。（２時間）
第12回：指導案検討会②　（討議）
事前学修：各自の指導案に目を通し、問題点をまとめめておくこと。（２時間）
事後学修：討論を踏まえて、指導案を書き直すこと。（２時間）
第13回：教材・教具作成　（実技）
事前学修：研究授業に必要な準備についてノートに纏めておくこと。（２時間）
事後学修：研究授業に必要な準備物を完成させること。（２時間）
第14回：協力校での 研究授業　　（実習）
事前学修：研究授業に向けての諸準備を完成させておくこと。（２時間）
事後学修：研究授業の記録をまとめておくこと。（２時間）
第15回：研究授業の考察　（討議）
事前学修：記録をもとに成果と課題を簡単にまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業での討議をもとに実践授業の考察の仕方について要点をまとめ、自分の研究に活かせるようにしておくこと。（２時間）

成　績　評　価　方　法

課題レポート（50%）、、平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポートにまとめ、発表することができるか。

テキスト、参考図書

「小学校学習指導要領解説　国語編」文部科学省　東洋館出版社　平成29年７月

その他（受講上の注意）

講読する文献や論文は、適宜紹介します。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2318	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

研究を実施する際の課題設定、課題解決のための計画立案、実施、データの処理、および論文の作成方法について学習する。

授業の到達目標

研究の実施に必要な基本的な知識(課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成)を習得する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス、研究について
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第2回：研究課題の設定について(文献検索の方法)
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第3回：発表資料の作成方法
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第4回：発表、質疑応答①
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第5回：発表、質疑応答②
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第6回：発表、質疑応答③
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第7回：発表、質疑応答④
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第8回：中間まとめ
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)

第９回：発表、質疑応答⑤
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第10回：発表、質疑応答⑥
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第11回：発表、質疑応答⑦
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第12回：発表、質疑応答⑧
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第13回：研究課題の設定①
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第14回：研究課題の設定②
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容（50％）、レポート（50％）

成　績　評　価　基　準

研究の実施に必要な基本的な知識（課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成）を理解できているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布、紹介する。

その他（受講上の注意）

遅刻、欠席、および早退は減点の対象とします。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

特別支援教育論 (Theory of Special Educational Needs)			担当教員	水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2311	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　0

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（選択）、小学校教諭一種免許状（選択）

授業の内容

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解し、教育課程や支援の方法を学ぶ。

授業の到達目標

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：（全15回の授業計画と全体概要。学習の仕方と成績評価）
　事前学習：インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育について、該当部分の熟読と質問項目をまとめる（2時間）
　事後学習：障害児教育の歴史と特別支援教育の基本的な考え方についてプリントをまとめる（2時間）
第2回：特別支援学校における教育
　事前学習：教育課程の編成と指導、個別の指導計画と教育支援計画について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（2時間）
　事後学習：センター的機能とその役割についてプリントをまとめる（2時間）
第3回：小学校・中学校等における特別支援教育
　事前学習：小・中学校等における特別支援教育の推進、特別支援学級、通級における指導の仕組み、幼稚園や高等学校における特別支援教育の推進について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（2時間）
　事後学習：関係機関との連携についてプリントをまとめる（2時間）
第4回：視覚障害
　事前学習：視覚障害の基礎知識と実態把握、視覚障害のある子供に応じた教育課程編成について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（2時間）
　事後学習：各教科等の指導方法、主な視機能の検査法についてプリントをまとめる（2時間）
第5回：聴覚障害
　事前学習：聴覚障害の基礎知識と実態把握 、聴覚障害のある子供に応じた教育課程編成について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（2時間）
　事後学習：各教科等の指導方法、主な聴覚検査法についてプリントをまとめる（2時間）
第6回：知的障害
　事前学習：知的障害の基礎知識と実態把握 、知的障害のある子供に応じた教育課程編成について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（2時間）
　事後学習：各教科等の指導方法、主な検査の種類と方法についてプリントをまとめる（2時間）

第７回：肢体不自由
事前学習：肢体不自由の基礎知識と実態把握、肢体不自由児に応じた教育課程編成について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：各教科等の指導方法、自立活動についてプリントをまとめる（２時間）
第８回：病弱・身体虚弱
事前学習：病弱・身体虚弱の基礎知識と実態把握 、病弱・身体虚弱のある子どもに応じた教育課程編成について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：各教科等の指導方法、慢性疾患に関する理解についてプリントをまとめる（２時間）
第９回：重複障害
事前学習：重複障害の基礎知識と実態把握 、重複障害児に応じた教育課程の編成について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：重複障害児の指導方法についてプリントをまとめる（２時間）
第10回：言語障害と情緒障害
事前学習：言語障害の基礎知識と実態把握、言語障害のある子どもに応じた教育課程編について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：情緒障害の基礎知識と実態把握、情緒障害のある子どもに応じた教育課程編について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（２時間）
第11回：発達障害①　自閉スペクトラム症（自閉症）（PBL、グループワーク）
事前学習：自閉症の基礎知識と実態把握、自閉症のある子どもに応じた教育課程編成について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：学習面や行動面、心理面の困難さへの対応、自閉症のある子供の指導・支援の実際についてプリントをまとめる（２時間）
第12回：発達障害②　注意欠陥／多動性障害（AD/HD）（PBL、グループワーク）
事前学習：AD/HDの基礎知識と実態把握　、AD/HDのある子どもの学習面や行動面、心理面の困難さへの対応について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：AD/HDのある子供の指導・支援の実際についてプリントをまとめる（２時間）
第13回：発達障害③　学習障害（LD）（PBL、グループワーク）
事前学習：LDの基礎知識と実態把握、LDのある子どもの学習面や心理面の困難さへの対応について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：LDのある子供の指導・支援の実際についてプリントをまとめる（２時間）
第14回：通常学級における特別に支援を要する児童生徒に関する理解
事前学習：母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の理解について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の理解についてプリントをまとめる（２時間）
第15回：障害のある子どもへのアセスメントと情報機器の活用（PBL、グループワーク）
事前学習：障害のある子どもへのアセスメントと情報機器の活用について該当部分の熟読と質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：障害のある子どもへのアセスメントと情報機器の活用についてプリントをまとめる（２時間）
第16回：定期試験
各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、小レポート（30%）、授業への積極的参加（20%）

成　績　評　価　基　準

■通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害について理解できたか。
■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解できたか。
■個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解できたか。

テキスト、参考図書

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著　ジアース教育新社出版（2015）
プリントも授業中に配布
キーワードブック特別支援教育（玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編、クリエイツかもがわ出版、平成27年）
参考図書：『知的障害の心理学 ── 発達支援からの理解』 小池敏英・北島善夫著　北大路書房（2001）

その他（受講上の注意）

障害に対する理解を得たり、疑問点を解決しようとするなど、目的意識をもって受講することを期待します。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもの発達臨床 (Clinical Development of Children)			担当教員	水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−BD−2360	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　(幼)教職に関する科目(生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目)
(小)教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　(幼)幼児理解の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(選択)

授業の内容

幼児理解についての知識や考え方、基礎的態度を身につけるために、発達の各段階における心身の特徴を理解する。さらに、幼児理解の方法を身につけるために観察と記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を理解し、幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解する。

授業の到達目標

幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：(全15回の授業計画と全体概要。学習の仕方と成績評価)
発達の理解
・幼児理解の意義。発達の原理、段階と課題
事後学習：幼児理解や発達の原理、段階や課題についてこれまで学んだ講義やプリントから復習(4時間)

第2回：身体の運動発達
・身体、運動の発達と基本的生活習慣の形成
事前学習：身体、運動の発達についてこれまで学んだ講義やプリントから復習(2時間)
事後学習：基本的生活習慣の定着に関してプリントの熟読と質問項目をまとめる(2時間)

第3回：知的発達
・知覚、言語、思考の発達
事前学習：知覚、言語、思考の発達についてこれまで学んだ講義やプリントから復習(2時間)
事後学習：知覚、言語、思考の発達に関してプリントの熟読と質問項目をまとめる(2時間)

第4回：情緒と社会性の発達
・情緒の分化と防衛機制。愛着と自我、人格の形成
事前学習：情緒と社会性の発達についてこれまで学んだ講義やプリントから復習(2時間)
事後学習：情緒と社会性の発達に関してプリントの熟読と質問項目をまとめる(2時間)

第5回：幼児の発達障害①
・幼稚園教育と家庭教育。性格形成と育児不安。事例研究
事前学習：育児不安に関する事例を文献などで探し熟読(2時間)
事後学習：育児不安に関する事例のプリントを熟読し、質問項目をまとめる(2時間)

第6回：幼児の発達障害②(PBL、グループワーク)
・知的障害、自閉スペクトラム症。事例研究
事前学習：育知的障害、自閉スペクトラム症に関する事例を文献などで探しレジュメ作成(2時間)
事後学習：育知的障害、自閉スペクトラム症に関する事例のプリントを熟読し、質問項目をまとめる(2時間)

第７回：幼児の発達障害③（PBL、グループワーク）
・注意欠陥/多動性障害、学習障害、愛着障害。事例研究
事前学習：注意欠陥/多動性障害、学習障害、愛着障害に関する事例を文献などで探しレジュメ作成（２時間）
事後学習：注意欠陥/多動性障害、学習障害、愛着障害に関する事例のプリントを熟読し、質問項目をまとめる（２時間）
第８回：幼児理解の方法①
・観察法、実験法と質問紙法
事前学習：観察法、実験法と質問紙法がもちられている文献を探し熟読（２時間）
事後学習：観察法、実験法と質問紙法に関するプリントを熟読し、質問項目をまとめる（２時間）
第９回：幼児理解の方法②
・知能検査、発達検査と性格検査
事前学習：知能検査、発達検査と性格検査がもちられている文献などを探し熟読（２時間）
事後学習：知能検査、発達検査と性格検査に関するプリントを熟読し、質問項目をまとめる（２時間）
第10回：幼児理解の方法③（PBL、グループワーク）
・観察や諸検査の知見に関する事例研究
事前学習：観察・検査からの障害・つまづきの見立てに関して書かれた文献などを探しレジュメ作成（４時間）
第11回：小（中）学生の発達心理
・身体運動発達と知的、心理・社会的発達
事前学習：小（中）学生の発達障害事例が記されている文献などを探しレジュメ作成（３時間）
事後学習：小（中）学生の発達障害事例が記されている文献を熟読する（１時間）
第12回：小（中）学生の臨床上の問題①
・児童虐待の問題。非行の問題。事例研究
事前学習：小（中）学生の児童虐待、非行の事例支援が記されている文献などを探しレジュメ作成（３時間）
事後学習：小（中）学生の児童虐待、非行の事例支援が記されている文献を熟読（１時間）
第13回：小（中）学生の臨床上の問題②
・いじめと不登校の問題。事例研究
事前学習：小（中）学生のいじめ・不登校の事例支援が記されている文献などを探しレジュメ作成（３時間）
事後学習：小（中）学生のいじめ・不登校の事例支援が記されている文献を熟読（１時間）
第14回：精神障害と神経症
・境界例。統合失調症と躁鬱病。事例研究
事前学習：境界例、統合失調症と躁鬱病が記されている文献などを探しレジュメ作成（３時間）
事後学習：境界例、統合失調症と躁鬱病が記されている文献を熟読（１時間）
第15回：心理療法
・カウンセリング、遊戯療法、箱庭療法、行動療法。
事前学習：カウンセリング、遊戯療法、箱庭療法、行動療法が記されている文献などを探しレジュメ作成（３時間）
事後学習：カウンセリング、遊戯療法、箱庭療法、行動療法が記されている文献を熟読（１時間）
第16回：定期試験
ご各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。

成績評価方法

定期試験（50%）、事例研究に関する小レポート（30%）、授業中の積極的発表（20%）

成績評価基準

幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。
参考図書
子どもの理解と発達臨床（山口勝己著、北大路書房出版、平成19年）

その他（受講上の注意）

発達障害に対する理解と支援に関して、各回でグループごとにレジュメ発表。
発表班はローテーションします。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子どもと英語教育 (Child and English Education)			担当教員	内藤　　徹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2356	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）、幼稚園教諭一種免許状（選択）

授業の内容

第二言語習得理論、基礎英語（含英文法）、クラスマネジメントを踏まえて、オーラルスキル、発音の基礎と指導法、教育課程や指導計画、教材研究と教材作成、ティーチャートーク、授業実演など理論と実践面から子ども英語指導のあり方を研究する。

授業の到達目標

目標としての「子ども達に楽しく英語を学ばせるにはどうすればよいか」をテーマに、主に「子ども英語の基礎力」、「子ども英語指導法」、「指導計画の立て方」などを習得させ、子ども英語の教育者を育成する。従って、様々な英語指導法を理解した上で、いろいろな授業実践を体験することにより、子ども英語教育者として指導ができるようになることを目指す。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：子ども英語教育の目標（1）英語授業に必要な知識・理解（ディスカッション）
　事前学習：授業前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で課されたことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：子ども英語教育の目標（2）英語授業に必要な知識・理解（ディスカッション）
　事前学習：授業前にテキストを読み、自身が簡単な英語でのやりとりができるようにしておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で課されたことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第3回：子ども英語教育の理論（1）第二言語習得に関する知識と英語授業実践への応用①（ディスカッション）
　事前学習：授業前にテキストを読み、第二言語習得論が示唆することを理解しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第4回：子ども英語教育の理論（2）第二言語習得に関する知識と英語授業実践への応用②（ディスカッション）
　事前学習：授業前にテキストを読み、第二言語習得論がどのように役に立つかを理解しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第5回：子ども英語教育の理論（3）外国語授業実践と授業づくり（グループワーク）
　事前学習：授業前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第6回：子ども英語教育の理論（4）学習指導案と単元指導計画（グループワーク）
　事前学習：授業前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第7回：子ども英語教育の理論（5）評価について（グループワーク）
　事前学習：授業前にテキストを読み、評価についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）

第８回：子ども英語教育の指導法（１）クラスルームイングリッシュ（グループワーク）
事前学習：授業前にテキストを読み、研究開発校での成功例についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第９回：子ども英語教育の指導法（２）英語コミュニケーション能力（グループワーク）
事前学習：授業前にテキストを読み、コミュニケーションについてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：子ども英語教育の指導法（３）英語音声のしくみ（グループワーク）
事前学習：授業前にテキストを読み、音声指導がどうあるべきかについて企画をしておくこと。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第11回：子ども英語教育の指導法（４）英語の文法（グループワーク）
事前学習：授業前にテキストを読み、指導がどうあるべきかについて指導実演準備をしておくこと。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第12回：子ども英語教育の指導法（５）英語の歴史、英語文学、児童文学。（ディスカッション）
事前学習：授業前にテキストを読み、指導がどうあるべきかについて指導実演準備をしておくこと。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：子ども英語教育のための教材作成と指導実践（１）クラスマネジメント（課題解決型学習）
事前学習：授業前に指導案を作り、実際の指導を行ってみる。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：子ども英語教育のための教材作成と指導実践（２）自立した学習者（課題解決型学習）
事前学習：授業前に指導案を作り、実際の指導を行ってみる。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：子ども英語教育のまとめ（プレゼンテーション）
事前学習：授業前に指導案を確認し、実際の指導を他学生を児童に見立てて行ってみる。（２時間）
事後学習：授業で学んだ振り返り、反省などについて、レポートにまとめて提出する。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）プレゼンテーション（25％）平常点（25％）で総合的に評価する。（平常点は、授業への参加状況・受講態度、レポートなどの提出状況）

成　績　評　価　基　準

子ども英語の特徴を理解したうえで、教材を作成しその指導ができるか。

テキスト、参考図書

（１）村野井仁・『小学校英語教育の基礎知識』・大修館書店2018年
（２）内藤 徹・『小学校英語、外国語（英語）活動ー理論から実践へー』・自作教材冊子・2019年（改訂６版）　その他

その他（受講上の注意）

プレゼンテーションではパソコン（主にパワーポイント）を用いるので、使用法について習熟しておくこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

絵本・児童文学論 (Theory of Picture Books and Juvenile Literature)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2308	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　—

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□」キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）、幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（選択）

授業の内容

『桃太郎』などの作品に沿って子どもの本の歴史を辿る。また、絵本の読み方や制作方法についても理解を深める。

授業の到達目標

絵本や児童文学の特質を理解した上で物語の変容を時代性と関連づけて説明することができるようになる。また、自分で絵本を作ることを通して、絵本の文章だけでなく絵を含めて作品を鑑賞できるようになる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■　発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（授業の進め方などについて）
　事前学習：これまで実習などで読んだ絵本をリストにする（2時間）
　事後学習：自分が好きな絵本をリストにし、その理由について考える（2時間）
第2回：絵本の絵を読む①発表に向けて
　事前学習：ビブリオバトルについてホームページや文献で調べておく（2時間）
　事後学習：自分の好きな絵本について、絵だけを見ながら読み、気が付いたことをまとめる（2時間）
第3回：子どもにとって「良い本」とは（ディスカッション）
　事前学習：ディズニー版『白雪姫』の絵本または映画をみる（2時間）
　事後学習：授業で紹介した英文の雑誌記事を読む（2時間）
第4回：日本における子どもの本の歴史①児童文学の誕生と子ども観
　事前学習：授業で紹介したサイトを閲覧し、児童文学の歴史について概観しておく（2時間）
　事後学習：授業で配布した文献を読み、考えをまとめる（2時間）
第5回：日本における子どもの本の歴史②近代的絵本の夜明け
　事前学習：授業で紹介したサイトを閲覧し、絵本の歴史について概観しておく（2時間）
　事後学習：授業で紹介した明治期の文献についてインターネット上で閲覧し、再度考えをまとめる（2時間）
第6回：日本における子どもの本の歴史③オオカミをめぐる絵本いまむかし（ディスカッション）
　事前学習：自分がこれまで読んだことのあるオオカミの絵本や映画などをリストにする（2時間）
　事後学習：授業で紹介されたなかで、未見の資料について探し、読んでおく（2時間）
第7回：昔話の変遷①多様な「桃太郎」譚
　事前学習：家族などに知っている「桃太郎」の話の内容について尋ね、まとめる（2時間）
　事後学習：授業で紹介した文献をインターネット上で閲覧し、再度考えをまとめる（2時間）
第8回：昔話の変遷②近代の戦争と「桃太郎」
　事前学習：日清・日露戦争について日本史の教科書等を用いながら調べておく（2時間）
　事後学習：（2時間）
第9回：昔話の変遷③戦後の「桃太郎」と子どもへの願い
　事前学習：アジア・太平洋戦争について調べておく（2時間）
　事後学習：「桃太郎」物語の変遷について振り返り、まとめておく（2時間）

第10回：絵本の仕組みを考える
　　事前学習：本の基本的な構造や用語についてインターネットや文献で調べておく（２時間）
　　事後学習：複数の絵本を見比べ、授業の内容を再検討し気が付いたことをまとめる（２時間）
第11回：絵本の絵を読む②
　　事前学習：授業で紹介した参考文献を入手し、気になった章をまとめる（２時間）
　　事後学習：授業で紹介した手法で好きな絵本を読み、気が付いたことをまとめる（２時間）
第12回：手作り絵本①絵本の構造（実技）
　　事前学習：制作したい絵本の内容をまとめる（２時間）
　　事後学習：授業で紹介した画材の使い方について再度確認しておく（２時間）
第13回：手作り絵本②簡単製本でつくる絵本（実技）
　　事前学習：配布した資料を読み、製本の手順を確認する（２時間）
　　事後学習：製本キットを用いて絵本を完成する（２時間）
第14回：制作発表会（発表）
　　事前学習：自分が制作した絵本のポイントをまとめ、読み聞かせの練習をする（２時間）
　　事後学習：絵本の仕組みについて自分の絵本を見直しながら再度確認する（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：これまでの授業の資料を読み直す（２時間）
　　事後学習：昔話の変遷や絵本の歴史について学んだことをまとめる（２時間）
定期試験は実施しない

成　績　評　価　方　法

発表20％、制作20％、リフレクションシート20％、受講態度等20％、ミニレポート20％を総合して評価します。

成　績　評　価　基　準

子どもの本の歴史と子ども観の関わりを理解し説明できたか。絵本の絵と文章の役割を理解した上で作品を鑑賞・発表できたか。工夫をしながら主体的に絵本を制作できたか。

テキスト、参考図書

授業中に適宜紹介していきます。

その他（受講上の注意）

形式は講義ですが、授業中に発表や制作を行います。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

児童館論 (Theory of Children's Halls)			担当教員	小林加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2350	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

児童館の目的・役割についての講義を中心とし、地域における子どもの健全育成、子育て支援、地域福祉活動等の機能と児童厚生員の役割について理解するものとします。また、児童館ガイドラインを踏まえ、児童館実習にも参考となるよう実践例を学び考察します。

授業の到達目標

児童館の機能を地域児童の今日的福祉課題とあわせて説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■ 発表（プレゼンテーション）□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、子どもの健全育成と遊び
　事前学習：授業前にテキストの児童館関係法令、関連項目第1章・第3章1に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：子どもの健全育成と遊びの意義について、授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第2回：児童館の機能と特性
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童館の機能と特性について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第3回：遊びを通した子どもの支援
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第3章に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：遊びを通した子どもの支援について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第4回：児童厚生員の役割
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第4章に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童厚生員の役割について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第5回：児童館における遊びのプログラムの実際（グループワーク・発表）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童館における遊びのプログラムの実際について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第6回：児童館における子育て支援と親支援（グループワーク・発表）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章2に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童館における子育て支援と親支援について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第7回：児童館における中高生世代の居場所づくり（グループワーク・発表）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章4に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童館における中高生世代の居場所づくりについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）

第８回：放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）①
事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章３に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第９回：放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）②（グループワーク・発表）
事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章３に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第10回：地域連携とネットワーク
事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章７に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：地域連携とネットワークについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第11回：児童館におけるボランティアの育成・推進（グループワーク・発表）
事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章９に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：児童館におけるボランティアの育成・推進について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第12回：児童への安全指導と施設の安全管理
事前学習：授業前にテキストの関連項目に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：児童への安全指導と施設の安全管理について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第13回：子ども・子育て支援のためのソーシャルワーク（グループワーク・発表）
事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章７に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：子ども・子育て支援のためのソーシャルワークについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第14回：配慮を必要とする子どもへの関わり（グループワーク・発表）
事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章５に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：配慮を必要とする子どもへの関わりについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第15回：まとめ　（課題レポート）
事前学習：授業前にテキストと授業内容全体の配布資料に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：授業全体の振り返り。（２時間）

成　績　評　価　方　法

平常点（受講態度および取組姿勢）60％、課題レポート（授業中の課題含む）40％により総合的に評価します。

成　績　評　価　基　準

児童館の機能と社会的意義について、文章または口頭にて簡潔に説明できる。

テキスト、参考図書

『児童館論』　一般財団法人児童健全育成推進財団

その他（受講上の注意）

出席を重視し、欠席・遅刻・早退は減点します。
テキストの関連部分や配布資料を読み込んで授業に臨むこと。また授業時の板書やプリントを独自のノートにまとめること。授業の中の用語等に不明なものがあれば次回の授業までに調べるか、質問事項として付記すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

児童館活動内容 a (Activities of Children's Halls a)			担当教員	三浦　啓子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2306	2 単位	3 年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

児童ソーシャルワークをベースとした児童館・放課後児童クラブの日々の活動、行事の企画立案、利用者への対応、地域との関わり等について学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を学ぶ。

授業の到達目標

児童館・放課後児童クラブの活動の実際を理解し、説明できる。業務の実際を把握し、実践的に活用するための企画立案を行う。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第 1 回：児童館・放課後児童クラブの概要について
　事前学習：テキスト第 1 章、第 2 章の 3 を読み児童館・放課後児童クラブの役割について、まとめておくこと。（2 時間）
　事後学習：テキスト、配布資料を基に講義内容をまとめておくこと。（2 時間）
第 2 回：児童館・放課後児童クラブの 1 日（週、年）の流れと活動のねらい（実技・グループワーク）
　事前学習：自分の子どもの頃の遊びについてまとめておくこと。（2 時間）
　事後学習：児童館・放課後児童クラブにおける活動のねらいについて、レポートにまとめておくこと。（2 時間）
第 3 回：児童館・放課後児童クラブにおける遊びの環境構成
　事前学習：自分の子どもの頃の仲間関係、環境（社会状況）について、まとめておくこと。（2 時間）
　事後学習：テキスト、配布資料を基に講義内容をまとめ、わからないところがあったら担当教員に質問すること。（2 時間）
第 4 回：遊びを通じた支援の実際（プログラム作り、具体的展開、支援法）（グループワーク）
　事前学習：テキスト第 3 章 1 の（1）～（4）を読み、具体的なプログラム、展開、支援法について、自分なりにまとめておくこと。（2 時間）
　事後学習：児童館・放課後児童クラブにおける職員の指導の必要性について、レポートにまとめておくこと。（2 時間）
第 5 回：遊びを通じた児童の健全育成（ディスカッション）
　事前学習：第 3 章 1 の 5 を読み、それに関連することを調べておくこと。（2 時間）
　事後学習：テキスト、配布資料を基に遊びにおける健全育成上の意味について、レポートにまとめておくこと。（2 時間）
第 6 回：児童館・放課後児童クラブにおけるグループワーク
　事前学習：テキスト第 4 章の 1 を読み、質問事項をまとめておくこと。（2 時間）
　事後学習：テキスト、配布資料をもとにグループワークの機能・役割、支援についてまとめておくこと。（2 時間）

第７回：児童館・放課後児童クラブにおけるケースワーク
事前学習：テキスト第２章の６、第４章の２を読み、子どもの抱える課題についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：ケースワークの対象者と信頼関係を築くための態度について、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第８回：小学生の仲間づくり・居場所づくり
事前学習：テキスト第２章の１読み、質問事項をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト、配布資料を基に講義内容をまとめておくこと。（２時間）
第９回：子育て支援活動（グループワーク）
事前学習：第２章の２を読み、子育て支援の状況について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト、配布資料を基に子育て支援における今後の課題など、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：ボランティアの育成・支援
事前学習：第２章の９を読み、ボランティアの役割についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：ボランティアの育成・支援においてボランティアとの良好な関わり方についてまとめておくこと。（２時間）
第11回：児童館・放課後児童クラブにおける生活・学習支援（グループワーク）
事前学習：テキスト第２章の１を読み、健全育成からの生活・学習支援について意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：生活・学習支援において、児童館・放課後児童クラブとして考えられるアプローチについてまとめておくこと。（２時間）
第12回：保護者・学校・地域との連携
事前学習：テキスト第１章の６、第２章の３を読み、それに関連する事を調べそれぞれの役割について、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト、配布資料を基に連携をするための重要な態度について、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（演習）①
事前学習：社会状況や必要とされる指導を考慮し子どものニーズについて、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：行事やイベントの企画立案において自分なりの考えをまとめておくこと。（２時間）
第14回：子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（演習）②
事前学習：社会状況や必要とされる指導を考慮し子どものニーズについて、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：行事やイベント企画立案において自分なりの考えをまとめておくこと。（２時間）
第15回：企画発表会、講評
事前学習：今までの講義内容をふりかえり、企画発表の最終確認をする。（２時間）
事後学習：企画発表された内容について自分なりの意見をレポートにまとめておくこと。（２時間）

成　績　評　価　方　法

平常点（受講態度および取組姿勢　60%）、レポート（授業中の課題含む　40%）により総合的に評価します。出席を重視し、欠席・遅刻・早退は減点します。

成　績　評　価　基　準

児童館・放課後児童クラブの活動概要文章で説明できる。
現場における実践可能なプログラムの企画立案ができる。

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

『児童館論』一般財団法人児童健全育成推進財団

その他（受講上の注意）

特になし。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

栄養総合演習Ⅰ (Integrated Seminar Ⅰ)			担当教員	佐藤　裕保、三浦　　努、樽井　雅彦、山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2259	2単位	2年後期･3年･4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。
オムニバスにて臨地実習の事前事後指導を行う。
事前指導として、臨地実習の意義についての指導および、実習に際しての具体的準備を行う。
実習先施設の特徴の把握、実習テーマ設定等を実習グループにて行う。
事後指導として、実習の成果および実習テーマについてまとめ、プレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：臨地実習オリエンテーション：社会人としてのマナーについて（佐藤裕・三浦・樽井・山本）
　　事前学習：社会人としてのマナーについて、ネット検索などによりまとめる（2時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第2回：（給食運営実習）：実習施設の特徴について（樽井）
　　事前学習：給食の運営について、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（2時間）
第3回：（給食運営実習）：給食の運営について（樽井）
　　事前学習：給食の運営について、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第4回：（給食運営実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（樽井）
　　事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（2時間）
　　事後学習：実習ノートを熟読する（2時間）
第5回：（給食運営実習）：実習報告（発表）（樽井）
　　事前学習：発表媒体・原稿の準備（2時間）
　　事後学習：他施設の発表についてまとめる（2時間）
＜公衆栄養臨地実習＞
第6回a：（公衆栄養臨地実習）：実習施設の特徴について（三浦）
　　事前学習：公衆栄養臨地実習について、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（2時間）
第7回a：（公衆栄養臨地実習）：公衆栄養マネジメントについて（三浦）
　　事前学習：公衆栄養マネジメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）

第８回a：（公衆栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（三浦）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第９回a：（公衆栄養臨地実習）：実習報告（発表）（三浦）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
＜給食経営管理臨地実習＞
第６回b：（給食経営管理臨地実習）：実習施設の特徴について（樽井）
事前学習：給食経営管理臨地実習について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（２時間）
第７回b：（給食経営管理臨地実習）：給食経営管理について（樽井）
事前学習：給食経営管理について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第８回b：（給食経営管理臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（樽井）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第９回b：（給食経営管理臨地実習）：実習報告（発表）（樽井）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第10回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の発表、臨床栄養臨地実習の聴講）（発表）（佐藤裕・三浦・樽井・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第11回：（臨床栄養臨地実習）：実習施設の特徴について（佐藤裕・山本）
事前学習：臨床栄養臨地実習について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：実習施設について、ホームページ等を利用して、施設の特徴を把握する（２時間）
第12回：（臨床栄養臨地実習）：栄養ケアマネジメントについて（佐藤裕・山本）
事前学習：栄養ケアマネジメントについて、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第13回：（臨床栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク･ディスカッション）･実習ノートについて（佐藤裕･山本）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第14回：（臨床栄養臨地実習）：実習報告（発表）（佐藤裕・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第15回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の聴講、臨床栄養臨地実習の発表）（発表）（佐藤裕・三浦・樽井・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にすること。

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解できたか。

テキスト、参考図書

それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。
必要に応じてプリント配布。

その他（受講上の注意）

正当な理由なく事前指導を欠席した場合、臨地実習に出られない場合がある。
６－９回については、選択した臨地実習に出席する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅱ (Integrated SeminarⅡ)			担当教員	佐藤　裕保、三浦　　努、樽井　雅彦、 山本　浩範、石黒真理子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2460	2単位	4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

専門的な分野で学んだ理論と方法論を総合的に応用し、各領域で栄養評価や管理が行える能力を養う。
グループワークやグループディスカッション等を取り入れ、臨地実習で経験した内容や症例、カンファレンスなどの内容の理解を深める。
オムニバス方式にて行う。

授業の到達目標

臨地実習で確認できた知識や技術の不足部分の気付きや問題点について再認識し、理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：治療食献立作成に必要な知識「食品構成・荷重平均栄養成分値」(佐藤裕保)（グループワーク）
　事前学習：荷重平均栄養成分値について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第2回：治療食献立作成に必要な知識「コーディング・使用量・調味料」(佐藤裕保)（グループワーク）
　事前学習：献立集やネット検索により、食材料の常用量を把握しておく（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第3回：治療食献立作成に必要な食品学「食品選択について」(佐藤裕保)（グループワーク）
　事前学習：食品成分表に記載されている食品を把握しておく（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第4回：公衆栄養活動に必要な知識「県民栄養調査結果の概要」(三浦努)
　事前学習：県民栄養調査について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第5回：公衆栄養活動に必要な知識「福井県民の健康状態と課題」(三浦努)
　事前学習：福井県民の健康状態と課題について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第6回：公衆栄養活動に必要な知識「高齢者における健康問題と地域支援」(三浦努)
　事前学習：高齢者における健康問題と地域支援について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第7回：臨床栄養管理に必要な知識「病態と栄養代謝」(山本浩範)
　事前学習：病態と栄養代謝について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第8回：臨床栄養管理に必要な知識と技術「栄養アセスメント」(山本浩範)
　事前学習：栄養アセスメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）

第９回：臨床栄養管理に必要な知識と技術「栄養管理法の選択」(山本浩範)
事前学習：栄養管理法の選択について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第10回：給食における調理工程・提供管理システムについて（樽井雅彦）
事前学習：給食における調理工程・提供管理システムについて、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第11回：食品業界について「最新情報」(樽井雅彦)
事前学習：食品業界について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第12回：介護保険について「基礎編」(樽井雅彦)
事前学習：介護保険について、関連する教科書及び資料を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第13回：栄養量設定に必要な知識「食事摂取基準の理解」(石黒真理子)
事前学習：食事摂取基準について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第14回：栄養量設定に必要な知識「食事摂取基準の活用」(石黒真理子)
事前学習：食事摂取基準について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第15回：栄養量設定に必要な知識「食事摂取基準の展開」(石黒真理子)
事前学習：食事摂取基準について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にしたうえで、授業に臨むこと。

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

臨地実習で確認できた知識や技術の不足部分の気付きや問題点について再認識し、理解を深めたか。

テキスト、参考図書

必要に応じてプリント配布。
それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床栄養臨地実習 (Field Practice in Clinical Nutrition)			担当教員	佐藤　裕保、山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2362	2単位	3年後期･4年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
傷病者を対象とした臨床栄養管理について病院や老人保健施設において管理栄養士の業務を臨地で実習する。
外来・入院患者や入所者に対する栄養評価・判定、栄養食事指導、診療科やベッドサイド訪問、栄養ケアプランの作成などを実習し、NST（栄養サポートチーム）における管理栄養士の役割など、医師・看護師など医療専門職との連携の実際を学び、医療スタッフの一員として必要な技術・能力を修得する。

授業の到達目標

医療領域における管理栄養士業務の実際を理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ（実習）
実習施設ごとの実習計画による実習（実習）
実習施設についての理解（組織・運営）（実習）
医療施設・介護老人保健施設における管理栄養士業務の理解（実習）
栄養評価・判定（PBL・実習）
栄養食事指導（PBL・実習）
診療科やベッドサイド訪問により栄養アセスメント、栄養介入の実際を学ぶ（PBL・実習）
栄養管理計画（栄養ケアプラン）の作成（PBL・実習）
実習内容に沿ったプレゼンテーション（グループワーク・発表）
医療専門職との連携・共働の実際について学ぶ　などこれまでに学習した知識を総動員すること。
これまでに使用した教科書および参考図書を、最大限に活用すること。

成績評価方法

準備状況（20%）実習状況（20%）実習ノート等の提出物（20%）実習施設指導担当者による評価（40%）

成績評価基準

医療領域における管理栄養士業務の実際を理解できたか。

テキスト、参考図書

臨床栄養学および臨床栄養学実習にて使用した教科書および参考図書、配布プリント。

その他（受講上の注意）
社会の一員としての自覚を持ち、守秘義務、職業倫理の遵守に努めること。 事故発生時は、早急に実習施設および大学に連絡すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and Nutrition Ⅱ)			担当教員	池田　涼子、山本　浩範、佐藤　裕保、 浦本　裕美、佐藤　真実、樽井　雅彦、 鳴瀬みどり、野村　卓正、尼子　克己、 鈴木　和春、石黒真理子、岸　　慎治、 細田　耕平
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2467	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。

授業の到達目標

自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回（授業）ごとにたてる。
第1回 ガイダンス
　事前学習：準備（2時間）
　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第2回研究方法に関する説明
　事前学習：準備（2時間）
　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第3回文献検索の仕方、論文の読み方
　事前学習：準備（2時間）
　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第4回研究発表と討議1
　事前学習：準備（2時間）
　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第5回研究発表と討議2
　事前学習：準備（2時間）
　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第6回研究発表と討議3
　事前学習：準備（2時間）
　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）
第7回研究発表と討議4
　事前学習：準備（2時間）
　事後学習：配布プリントを熟読する（2時間）

第８回研究発表と討議５
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第９回研究発表と討議６
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第10回研究発表と討議７
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第11回研究発表と討議８
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第12回研究発表と討議９
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第13回研究発表と討議10
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第14回研究発表と討議11
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
第15回まとめ
　　事前学習：準備（２時間）
　　事後学習：配布プリントを熟読する（２時間）
課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50％）　平常点（50％）
（レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ初回に、ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅲ (Seminar in Health and NutritionⅢ)			担当教員	鳴瀬みどり、野村　卓正、佐藤　裕保、 三浦　　努、樽井　雅彦、佐藤　真実、 池田　涼子、浦本　裕美、山本　浩範、 鈴木　和春、石黒真理子、岸　　慎治、 細田　耕平、尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2468	2単位	4年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各科目の総復習をする。
オムニバス形式で行い、理解不十分な点について補完する。

授業の到達目標

管理栄養士に必要な、基本的知識を確認する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：公衆衛生学(鳴瀬みどり)
　事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)
第2回：病理学・解剖生理学(岸慎治)
　事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)
第3回：生化学(尼子克己)
　事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)
第4回：基礎栄養学(池田涼子・鈴木和春)
　事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)
第5回：応用栄養学(石黒真理子)
　事前学習：担当教員指定の教材(テキスト・配布資料・参考書)等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと(2時間)

第６回：調理学（佐藤真実）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第７回：食品学（浦本裕美）
事前学習：事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第８回：食品衛生学・微生物学（野村卓正）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し､ートにまとめておくこと（２時間）
第９回：栄養教育論（細田耕平）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第10回：臨床栄養学ー栄養アセスメントー（山本浩範）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第11回：臨床栄養学ー栄養療法ー（佐藤裕保）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第12回：公衆栄養学（三浦努）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第13回：管理栄養士の心得（三浦努）
事前学習：担当教員から配布された資料を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容に関する課題について、授業中に配布された指定の書式を完成し提出すること（２時間）
第14回：栄養学の実践のために（三浦努）
事前学習：担当教員から配布された資料を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容に関する課題について、授業中に配布された指定の書式を完成し提出すること（２時間）
第15回：給食経営管理論（樽井雅彦）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

管理栄養士に必要な、基本的知識を確認できたか。

テキスト、参考図書

当該科目で使用した教科書および、参考図書。
必要に応じてプリント配布。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)	担当教員	岸　慎治、池田　涼子、山本　浩範、 佐藤　裕保、浦本　裕美、佐藤　真実、 樽井　雅彦、鳴瀬みどり、野村　卓正、 尼子　克己、鈴木　和春、石黒真理子、 細田　耕平

講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2469	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

基本的な授業の内容は以下のとおりである。
・栄養管理に関わる研究テーマを深める
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する
・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる

授業の到達目標

医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。
・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる
・栄養管理に関わる研究テーマの明確化
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備
・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成
計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。
4月下旬：卒業研究題目提出
11月下旬：卒業研究要旨提出
12月中旬：卒業研究発表会
12月下旬：卒業論文提出

成績評価方法

①卒業研究要旨の提出
②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）
③卒業研究成果物（論文）の提出
を単位認定の基本要件とする。
そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。

成　績　評　価　基　準
研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。 質の高い研究成果物を提出できたか。 積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。
テキスト、参考図書
参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
その他（受講上の注意）
実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育相談(健康栄養学科) (Educational Counseling)			担当教員	佐々木　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2488	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(生徒指導及び教育相談に関する科目)

<科目に含めることが必要な事項>　・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

教育相談の意義と理論の理解が、実践技術を裏打ちするものとなるために、いじめ、不登校など各種架空事例を用いて、問題の所在や対応策の検討を行う。教育相談における様々な予防促進的支援技術の体験学習を行う。

授業の到達目標

学校における教育相談の意義と理論を理解する。教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事項を含む)を理解する。教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：15回の全体計画と学習のポイント及び到達目標の説明。教育相談の視点から学校という場、資源について。グループディスカッション。(ディスカッション)
事後学習：チーム学校に関し、指示した課題について、調べレポートにまとめておくこと。(3時間)
第2回：教育相談に生かす心理学的理解；見立て。事例検討で学ぶ、問題の背景、影響要因、資質のとらえ方。心理・社会的側面、学習・発達的側面のとらえ方。傾聴訓練を含むグループディスカッション。(ディスカッション)
事前学習：第1回に配布した資料を熟読しておくこと。(2時間)
事後学習：見立てについて、理解したことをレポートにまとめておくこと。(2時間)
第3回：教育相談に生かす心理学的理解；介入。事例に即して、教育相談のチーム作り、介入プランの立て方。開発的、予防的援助。グループディスカッション。傾聴訓練。(グループワーク)
事前学習：第2回に配布した事例について、自分なりの介入プランを立てること。(2時間)
事後学習：介入プランの立て方について、ポイントをレポートにまとめておくこと。(2時間)
第4回：不登校の現状、対策の有効性について。文科省の調査研究報告等にあたり、多角的視点による対応の考察。(プレゼンテーション)
事前学習：文科省の調査研究報告等前回の授業で指示した資料を調べまとめ、レポートにすること。(3時間)
事後学習：学校現場でどのような対応が望ましいか、学んだことをまとめておくこと。(2時間)
第5回：子供の貧困について。架空事例に触れ、学校生活での問題の現れ方、介入に際して配慮すべきこと、活用できる社会資源。(ディスカッション)
事前学習：日本の実態と、どのような対策がなされているか調べレポ―トにまとめておくこと。(2時間)
事後学習：子どもの貧困について、保育、幼児教育、学校現場でどのような対応が可能か、学んだことをまとめておくこと。(2時間)
第6回：いじめ理解、いじめ対応の基礎知識。非行について教育相談の意味。(ディスカッション)
事前学習：いじめ防止対策推進法について調べ、レポートにまとめておくこと。(2時間)
事後学習：授業で検討したこと、学んだことについて、まとめておくこと。(2時間)

第７回：発達障害の学校での現れ方。発達障害の流動性。支援のための人格発達仮設。発達障害支援シートの活用。保護者支援。外部機関との連携。（ディスカッション）
事前学習：発達支援シートについて調べて、ディスカッションの資料になるように、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：二次障害の予防と対応、連携についてまとめておくこと。（２時間）
第８回：予防開発的アプローチとしてのSST の意味。SST の用い方。SST ワークの体験。現場で使われているSST の道具の体験。（グループワーク）
事前学習：第７回に配布した資料を熟読し、チェックリストを完成しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で、自分で作った宿題の回答を試みること。（２時間）
第９回：SST で開発できる分野。自分を振り返り、SST を活用する。（グループワーク）
事前学習： 児童生徒の相談内容からのＳＳＴについて、模擬課題を考えておくこと。（２時間）
事後学習： 教育相談においてＳＳＴの効果的適応法についてまとめておくこと。（２時間）
第10回：予防開発的アプローチとしてのアサーティブトレーニングの意味。自尊感情、対等性、誠実であること、人権。自己理解、他者理解。（グループワーク）
事前学習：第９回に配布した資料を熟読し、質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学習： ＳＳＴとアサーティブネスの関係について、まとめておくこと。（２時間）
第11回：アサーティブトレーニングに基づいた、葛藤場面への対処。DESC。ワークの体験。（グループワーク）
事前学習：第10回に配布した資料を熟読し、質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：自分にとってのアサーティブネスについて検討し、レポートにすること。（２時間）
第12回：事件・事故・災害対応。危機管理について。緊急事態における教育相談の役割。チームのあり方。保護者支援。（ディスカッション）
事前学習：児童生徒を取り巻くリスクについて、想定し、対応策を考え、書き出しておくこと。（２時間）
事後学習： サイコロジカルファーストエイドにつて要点をまとめておくこと。（２時間）
第13回：学齢期の精神科疾患の基礎知識。学校での現れ方。専門機関との連携。
事前学習：第12回に配布した資料を熟読しておくこと。（２時間）
事後学習：支援のための連携機関について、図に整理すること。（２時間）
第14回：リラクゼーションとは。ストレスマネージメントについて。体験学習。教育相談での活かし方。（グループワーク）
事前学習：第13回に指示した、リラクゼーションの技法についてあらかじめ調べておくこと。（２時間）
事後学習：教育現場のストレスマネージメントの有効性について、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：ふりかえり。今まで学んだことの振り返り。改めて事例をもとに、見立て、介入プランの試作。
事前学習：授業全体を振り返り、疑問や質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：参考図書について、指示した要点を確認しておくこと。（２時間）

成績評価方法

小レポート（50%） 平常点（50%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

いじめ、不登校、発達障害について、基礎知識をもち、カウンセリングマインドを生かした支援ができる。支援プランを立てることが出来る。

テキスト、参考図書

テキスト
西本絹子著『教師のための初等教育相談』萌文書林
参考図書
藤田哲也監修『絶対役立つ教育相談』ミネルヴァ書房
小野田正利、藤川信夫監修『体験型ワークで学ぶ教育相談』大阪大学出版会
河合隼雄著『こころの子育て－誕生から思春期までの48 章』朝日新聞社

その他（受講上の注意）

都度資料を配布し、レポートを課していきますので、本教科のためのファイルを用意してください。
予習復習については、授業時に資料や課題を指示します。また授業で行う体験学習に積極的に取り組んでください。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職実践演習(栄養教諭) (Applied Systems in School Education(Nutrition Teachers))			担当教員	細田　耕平、奥谷　　崇、塚田　明美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2489	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教職実践演習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

これまで学修した教職課程科目や教職に関する経験を振り返るとともに，ロールプレイ，事例研究，グループ討議等により，栄養教諭として必要な能力の向上をはかる。

授業の到達目標

教職課程におけるこれまでの学習成果を振返り，栄養教諭に必要な知識や資質を確認し，栄養教諭としての総合的な資質能力を高める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

＜奥谷 崇 担当分(5回)　細田　耕平 担当分(5回)　塚田 明美 担当分(5回)＞
細田　耕平 担当分①(5回中1回)
第1回：教職課程(栄養教諭)の振り返りおよびグループ討論　【ディスカッション】
　事前学習：第1回の授業では教育実習全体を通した振り返りを行ったあとで教職カルテを記入し、それをもとにしたディスカッションを行うため、教育実習ノートを中心に実習内容をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：これまでの教職カルテの記録をもとに、より深めたい内容を整理しておくこと(2時間)
奥谷 崇 担当分(5回)
第2回：教職の意義、教職員の職務と役割、児童・生徒に対する使命と責任の重さについて事例研究・ロールプレーイング・グループ討論　【ディスカッション】
　事前学習：第2回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと(2時間)
第3回：児童・生徒理解と学級経営について事例研究・グループ討論　【ディスカッション】
　事前学習：第3回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと(2時間)
第4回：教科等や生徒指導の方法についての事例研究・グループ討論　【ディスカッション】
　事前学習：第4回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと(2時間)

第５回：学校現場の調査研究とグループ討論　【ディスカッション】
事前学習：第５回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
第６回：社会性や対人関係能力についての確認　【ディスカッション】
事前学習：第６回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
細田　耕平 担当分②（５回中４回）
第７回：食に関する全体指導計画に関する演習
事前学習：第７回の授業では、全体計画をテーマにワークを行うので、３年次に学習した内容をの復習しておくとともに、実習校の全体計画について確認しておく（２時間）
事後学習：資料等の見直しを行うとともに、ワークを進めるなかで理解が不十分と感じた部分があれば、担当教員に質問すること（２時間）
第８回：食に関する年間指導計画に関する演習
事前学習：第８回の授業では、年間指導計画をテーマにワークを行うので、３年次に学習した内容を復習しておくとともに、実習校の年間指導計画について確認しておく（２時間）
事後学習：資料等の見直しを行うとともに、ワークを進めるなかで理解が不十分と感じた部分があれば、担当教員に質問すること（２時間）
第９回：食を通じて知識を引き出す指導方法についての講義および討論　【ディスカッション】
事前学習：第９回の授業では、知識を引き出す指導方法（アクティブラーニングなど）についてディスカッションを行うので、教育実習で自身が行った指導の工夫点をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、新たな指導方法を取り入れた場合の指導構想をまとめる（２時間）
第10回：国が示す最新の資料等について【ディスカッション、グループワーク】
事前学習：４年次前期から紹介してきた、今年に入って出た答申や資料等について見直し、分からない単語等があれば調べておくこと（２時間）
事後学習：資料等の見直しを行い、そのなかで分からない部分が出てきた場合には、担当教員に質問すること（２時間）
塚田 明美 担当分（５回）
第11回：栄養教諭としての学修理解についての自己評価及びグループ討論【ディスカッション】
事前学習：第11回の授業では、学校給食や食文化についてディスカッションを行うので、３年次からこれまでの学習内容を思い出し、復習をしておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
第12回：栄養教諭としての使命と役割についての講義及びグループ討論【ディスカッション】
事前学習：第12回の授業では、各自、行事食を取り入れた学校給食献立とそれを活用した食育指導について発表し、ディスカッションを行うので、発表資料を作成し、準備しておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
第13回：事例を踏まえた実践的指導力を培うためのとグループ討論 1　【ディスカッション】
事前学習：第13回の授業では、実践事例をもとにディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出したり、これまでの学習内容を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
第14回：事例を踏まえた実践的指導力を培うためのとグループ討論 2　【ディスカッション】
事前学習：第14回の授業では、実践事例をもとにディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出したり、これまでの学習内容を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
第15回：事例を踏まえた実践的指導力を培うためのとグループ討論 3　【ディスカッション】
事前学習：第15回の授業では、実践事例をもとにディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出したり、これまでの学習内容を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）

成　績　評　価　方　法
グループ討論の様子や事例研究（50%），レポートまたは授業における作成物（30%），平常点（20%） 平常点は，授業への参加状況，受講態度等から総合的に評価する。
成　績　評　価　基　準
栄養教諭として働くうえで必要となる知識や技能，資質等が身についているか。
テキスト、参考図書
参考図書は適宜指示する。
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

事前・事後指導(栄養教諭) (Directed Teaching Practicum(Nutrition Teachers))			担当教員	細田　耕平、塚田　明美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2490	1単位	4年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(栄養教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

栄養教育実習に臨むにあたって必要な心構え，実践的な教職能力の基礎を学修する。
第１～15回は前期，第16～23回は後期に行う。

授業の到達目標

「事前指導」では栄養教育実習の意義や目的を理解し，実習生としての態度や心構えを身につける。栄養教育実習に向け，課題意識をもって積極的に取り組むことができ，模擬授業をすることができる。
「事後指導」は実習について報告し，実習での体験とその反省をもとに栄養教諭に求められる資質・能力を高める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

【前期】
第１回：オリエンテーション、栄養教育実習の意義・目的（細田）
第２回：授業の進め方についての基礎（細田）
第３回：学習指導案の作成 演習（塚田）
第４回：課題研究１（塚田）
第５回：模擬授業１（塚田）【発表、ディスカッション】
第６回：模擬授業２（塚田）【発表、ディスカッション】
第７回：栄養教諭による食育授業の実践例１（塚田）
第８回：模擬授業３（塚田）【発表、ディスカッション】
第９回：模擬授業４（塚田）【発表、ディスカッション】
第10回：実習校における課題研究１（塚田・細田）
第11回：栄養教諭による食育授業の実践例２（塚田・細田）
第12回：実習校における課題研究２（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
第13回：実習校における課題研究３（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
第14回：実習校における課題研究４（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
第15回：実習校における課題研究５（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
【後期】
第16回：実習状況報告書の作成・実習アンケート（細田）
第17回：学習体験発表・意見交換・評価１（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
第18回：学習体験発表・意見交換・評価２（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
第19回：学習体験発表・意見交換・評価３（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
第20回：学習体験発表・意見交換・評価４（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
第21回：学習体験発表・意見交換・評価５（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
第22回：学習体験発表・意見交換・評価６（塚田・細田）【発表、ディスカッション】
第23回：学習体験発表・意見交換・評価７（塚田・細田）【発表、ディスカッション】

成　績　評　価　方　法
模擬授業および発表等（60%），レポート等の提出物（20%），平常点（20%） 平常点は，授業への参加状況，受講態度等から総合的に評価する。
成　績　評　価　基　準
栄養教育実習の意義や目的を理解し，実習生としての態度や心構えを身につけ，栄養教育実習に向けて課題意識をもって積極的に取り組むことができ，模擬授業をすることができるか。実習の体験とその反省をもとに栄養教諭に求められる資質・能力を身につけているか。
テキスト、参考図書
適宜資料を提示する。
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

教育実習(栄養教諭) (Teaching Practicum(Nutrition Teachers))			担当教員	細田　耕平、塚田　明美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2491	1単位	4年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　栄養教育実習

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

小学校または中学校において1週間の教育実習を行う。

授業の到達目標

教育現場において栄養教諭の職務を経験し，授業方法，指導案作成能力，児童生徒への声掛け，接し方など栄養教諭として身につけるべき基本的能力を習得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

（1）　実習校でのオリエンテーション
　実習校の運営機構，教育方針，指導計画，事務分掌，教育環境等の理解
（2）　授業参観
　授業参観を通して，児童及び生徒個々の心身及び知的発達状況の段階，学級機能の特性を観察し，
　個人指導及び集団指導の実態についての把握
（3）　授業実習
　食に関する指導にかかわる授業計画・指導案の作成，指導にかかわる知識・技術・資料の準備及び事前研究。授業実習の実施状況の検討・評価。
（4）　学校経営への参加実習（参観，補助）
　給食放送指導，配膳指導，後片付け指導への参加。配属学級の授業，放課後の研究指導，クラブ活動への参加，学校行事への参加等実習校から与えられた課題に真摯に取組むこと。

成績評価方法

実習校からの評価（80%），教員の巡回指導の記録・実習ノートの内容等（20%）

成績評価基準

授業方法，指導案作成能力，児童生徒への声掛け，接し方など栄養教諭として身につけるべき基本的能力を習得できているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて，教材・資料等を紹介する。

その他(受講上の注意)

教育実習には，将来，教職に就きたいという強い意志を持ち，事前準備を計画的に行い，体調を整えて臨むこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

教職実践演習(幼・小) (Seminar on the Teaching Profession(Preschool & Elementary))			担当教員	高野　秀晴、鈴木　智子、伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2454	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教職実践演習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)、幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

本授業は、教員になるうえで自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着と実践的指導力の育成を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできることを目的とする。授業方法としては、ロールプレーイングやグループ討論、事例研究、模擬授業などを取り入れ、学びの集大成とする。
なお、本授業は、教科に関する科目及び教職に関する科目担当者3人がオムニバス形式で行うこととし、教師の意義と使命・幼稚園教諭・小学校教諭の各視点から、自己にとっての課題を考えさせ、その課題解決を通して、実践的指導力を育てることを目指す。
また、必要に応じ個別に補完的な指導を行うこととするが、この場合、補完する領域・内容等によっては、授業担当者以外の教科に関する科目の科目担当教員又は教職に関する科目の科目担当教員の参画を得て指導を行う。

授業の到達目標

教職の意義や使命、役割について説明することができる。
教員に求められる資質能力について説明することができる。
教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化することができる。
幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。
小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■ その他(模擬授業)

授業の計画及び授業外の学習方法

高野秀晴担当分(5回)
第1回：教員の意義と使命、役割について(事例研究)
　事前学習：実習時の記録を読み直し、検討を要するエピソードをピックアップする。(2時間)
　事後学習：授業時に検討した事例をもとに、教員の意義と使命、役割についてレポートにまとめる。(2時間)
第2回：地域・家庭と連携するための方策を考える(グループ討論)
　事前学習：実習時の記録を読み直し、実習時に地域・家庭とどのような関わりがあったかを整理する。(2時間)
　事後学習：地域・家庭との連携・協働を深めるにはどうすればよいかについてレポートにまとめる。(2時間)
第3回：教員に求められる資質能力を明確化する(グループ討論)
　事前学習：履修カルテを読み、これまでに身に付けられた資質能力を自分なりにカテゴライズする。(2時間)
　事後学習：これまでに身に付けた資質能力を教職に活かすための方途をレポートにまとめる。(2時間)

第４回：教員に求められる社会性や対人関係能力を培うにはどうすればよいか（ロールプレーイング）
事前学習：社会性や対人関係能力に関する図書を調べる。（２時間）
事後学習：社会性や対人関係能力を培うにはどうすればよいかについてレポートにまとめる。（２時間）
第５回：今後の課題を明確化する（グループ討論とレポート）
事前学習：履修カルテを読み、今後身に付けるべき資質能力をピックアップする。（２時間）
事後学習：履修カルテ、および、これまでにまとめたレポートを基にして、自身の今後の課題についてレポートにまとめる。（２時間）
鈴木智子担当分（５回）
第６回：幼児教育者に求められる資質能力を明確化する（グループ討論）
事前学習：これまでの学修や実習体験を振り返り、幼稚園教諭に求められる資質能力について、自分の意見をまとめておく。（２時間）
事後学習：履修カルテを読み、授業時のグループ討論も踏まえて、幼稚園教諭としての自分の課題をレポートにまとめる。（２時間）
第７回：実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える（ロールプレーイングとグループ討論）
事前学習：これまでの実習体験における「気になる子」への関わりを振り返り、自分の関わりのねらいや反省点についてまとめておく。（２時間）
事後学習：「気になる子」への指導を通して、幼児理解、クラス運営のあり方について自分の考えをレポートにまとめる。（２時間）
第８回：自らの課題を洗い出し、幼児理解を深める方策を考える（事例研究とグループ討論）
事前学習：ドキュメンテーション、ポートフォリオなどの保育記録の方法について、事前に調べ、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内での事例の記録を通して、幼児の様子を考察する方法を利用して、実習記録を読み直し、自身の幼児理解を再度考察する。（２時間）
第９回：自らの課題を洗い出し、実践的指導力を培う方策を考える（模擬授業とグループ討論）
事前学習：実習体験を踏まえて、自分が課題とするテーマの遊びを調べて、模擬授業として発表できる準備をしておく。（２時間）
事後学習：授業での他の学生の模擬授業を踏まえて、多様な遊びを調べ、そのねらいについて、レポートにまとめる。（２時間）
第10回：これまでの学びを振り返り、今後の課題を明確化する（グループ討論とレポート）
事前学習：幼稚園教育要領を読み、求められる幼児教育について考え、質問項目をまとめる。（２時間）
事後学習：これまでの授業内容を振り返り、幼稚園教育要領が求める幼児教育を踏まえた上で、自身の課題をレポートにまとめる。（２時間）
伊禮三之担当分（５回）
第11回：各自が課題を洗い出し、全員でいくつかの課題に集約する。その解決のための学習計画を立てる。（話し合いと協働作業）
事前学習：これまでの学修や実習体験を振り返り、各自が課題を洗い出し、自分の意見をまとめておく。（２時間）
事後学習：講義の話し合いと協働作業を踏まえ、焦点化した課題（問い）について学習計画の細部を立案し、リフレクションレポートにまとめる。（２時間）
第12回：学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。
（例：授業の構成の仕方　グループ討論）
事前学習：グループごとの課題について解決案に対する自分の意見をまとめておく。（２時間）
事後学習：グループごとの話し合いと協働作業（エキスパート活動）を踏まえ、課題解決を振り返り、リフレクションレポートにまとめる。（２時間）
第13回：学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。
（例：発問と応答について　ロールプレーイング）
事前学習：各グループの課題について、自分なりの解決案について考えをまとめておく。（２時間）
事後学習：新しいグループごとの話し合いと協働作業（ジグソー活動）を踏まえ、課題解決を振り返り、リフレクションレポートにまとめる。（２時間）
第14回：学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。
（例：子ども理解について　事例研究）
事前学習：最初の課題（問い）について、自分なりの解決案について考えをまとめておく。（２時間）
事後学習：元のグループごとの話し合いと全体的な話し合い（クロストーク）を踏まえ、課題解決を振り返り、リフレクションレポートにまとめる。（２時間）
第15回：学習計画にしたがって課題解決のための実践的指導力の習得にあたる。これまでの学びを振り返る。
（例：学級経営について　グループ討論とレポート）
事前学習：最初に立てられた課題（問い）に再び向き合い、各個人で問いに対する答えをまとめておく。（２時間）
事後学習：これまでの授業内容を振り返り、各個人の課題をレポートにまとめる。（２時間）
本授業は、これまでの学びの集大成であるため、これまでの学習内容を振り返り、整理する作業が必要となる。また、この作業を通じて見出された今後の課題に応じて、各自に補完的な学習が求められる。

成　績　評　価　方　法
レポート（25%） 事例研究の内容（25%） グループ討論やロールプレーイングの参加状況（25%） 模擬授業の内容（25%）
成　績　評　価　基　準
教職の意義や使命、役割について説明することができるか。 教員に求められる資質能力について説明することができるか。 教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化できているか。 幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。 小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。
テキスト、参考図書
参考図書は授業時に紹介する。
その他（受講上の注意）
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導(小学校) (Guidance for Field Practice(Elementary))			担当教員	伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2360	1単位	3年後期、4年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

事前指導として、教育実習の意義についての指導及び実地実習に際しての具体的指導を大学及び実習校で行う。また、教育実践場面に関わる学習として、学校参観・授業参観を行う。事後指導として、授業を中心とした教育実習の成果・課題を踏まえ、教職に必要な事項について実践的な指導を行う。

授業の到達目標

・事前学習を通して教育実習の意義を理解し、実地実習に際しての予備的な学習を行う。学校参観・授業参観を通して、学校教育について理解を深め、実践的知識を身に付ける。
・事後指導を通して各自の実習の成果・課題を確認し、それを踏まえ教職についての理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

[事前指導]
第1回：小学校教育実習の意義、目的、内容
　事前学習：テキスト『小学校教育実習の手引き』の第1章第1・2節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：講義をもとに教育実習の意義や目的等改めて振り返り、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第2回：教育実習の準備と心得
　事前学習：テキスト『手引き』の第1章第3節を読み、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：講義をもとに教育実習の事前学習の確認と今後の計画等について、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第3回：授業参観の目的とその観点(討議)
　事前学習：テキスト『手引き』の第1章第3節の特に観察実習について熟読し、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業見る視点についての討議を踏まえ、再度整理し、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第4回：協力校における授業参観(フィールドワーク)
　事前学習：協力校の学校要覧を読んで学校教育目標等を確認し、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：観察をもとに自分の設定した視点から学んだことを振り返り、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第5回：協力校における授業参観(フィールドワーク)
　事前学習：協力校の学校要覧を読んで学校教育目標等を確認し、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：観察をもとに自分の設定した視点から学んだことを振り返り、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第６回：授業参観しての意見交換（グループワーク、討議）
事前学習：リフレクションシートをもとに、グループ協議に向けたテーマで整理し直し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：グループ討議による他者の気づきや視点で印象に残っていることを、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第７回：協力校における授業参観（フィールドワーク）
事前学習：協力校の学校要覧を読んで学校教育目標等を確認し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：観察をもとに自分の設定した視点から学んだことを振り返り、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：教材研究と学習指導案の作成方法（一般）
事前学習：テキスト『手引き』の第３章第１節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに学習指導案作成の留意点等について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：教材研究と学習指導案の作成方法（算数）
事前学習：テキスト『手引き』の第３章第２節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：学習指導案作成に向けた（算数）教材研究を行い、そのプロセスをリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：模擬授業（実技、討議）
事前学習：テキスト『手引き』の第３章第１・２節をもとに学習指導案（算数）を作成しておくこと。（２時間）
事後学習：グループでの討議を踏まえ模擬授業での成果や課題等について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：実習日記の記入方法及び教育実習の具体的留意点
事前学習：テキスト『手引き』の第１章第４節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに実習ノートの書き方や実習の留意点を再度確認し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：教育実習直前指導
事前学習：テキスト『手引き』の第４章を読み、実習中の心構えについて要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに実習中の心構え等について再度確認し、抱負等をリフレクションシートにまとめる。（２時間）
［事後指導］
第15回：教育実習の振り返り①（実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。
事前学習：実習ノートや指導案等実習中の資料を分類・整理し、各自の成果等要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：「子ども理解」や「授業」等の大枠の視点で実習ノートを整理するとともに、各自の成果、課題を明確にしていき、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第16回：教育実習の振り返り②（実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。
事前学習：実習ノートや指導案等実習中の資料を分類・整理し、各自の課題等要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：「子ども理解」や「授業」等の細部のテーマを設定しその視点で実習ノートを整理するとともに、各自の成果、課題を明確にしていき、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第17回：教育実習反省会①（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）
事前学習：学年（低・中・高）ごとの子どもの特徴等実習中の気づきについて、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：グループ討議による他者の気づきや視点について学んだことを、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第18回：教育実習反省会②（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）
事前学習：教科ごとの子どもの反応や特徴等実習中の気づきについて、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：グループ討議による他者の気づきや視点について学んだことを、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第19回：教育実習反省会③（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）
事前学習：学年（低・中・高）ごとの子どもの発達の特徴と教科理解の道筋について、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：異学年のグループ討議による子どもの発達や授業における特性等について実習を通して学んだことを、リフレクションシートにまとめる。（２時間）

第20回：教育実習報告書作成①（各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。（グループワーク、討議）
事前学習：これまでの反省会をもとに、再度教育実習における成果と課題を整理し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：まとめた要点のグループ討議からさらにブラッシュアップし、報告書の予定校を作成する。（２時間）
第21回：教育実習報告書作成②（各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。（グループワーク、討議）
事前学習：報告書の予定校をもとに、実習報告書の第１稿を作成しておくこと。（２時間）
事後学習：実習報告書の第１稿のグループ討議からさらにブラッシュアップし、報告書の最終稿を作成する。（２時間）
第22回：教育実習の総括①（全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。（グループワーク、討議）
事前学習：教育実習後の教育課題について10テーマから各自一つを選択し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：教育課題のテーマごとグループ討議から卒業後の課題を明確にし、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第23回：教育実習の総括②（全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。
事前学習：教育実習の評価表を精査し、自己の課題について考えることの要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：自己の振り返りと評価表から明らかになった卒業後の課題を焦点化して、記録しておく。（２時間）

成　績　評　価　方　法

レポート（60%）、各活動への取り組み状況（40%）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・事前指導で教育実習の意義を理解し、実践的知識を習得できているか。
・事後指導で教育実習の成果や課題を踏まえ、教職についての理解が深まったか。

テキスト、参考図書

小学校教育実習の手引き
小学校教科書（国語，社会，算数，理科）

その他（受講上の注意）

教育実習校は、実習生が実習に必要な学習内容を十分に習得し、教育について深く理解していることを前提として迎えてくれる。そして、実習生には教職に就きたいという強い意志を持って臨むことが求められる。
教育実習に全力で臨むためにも、事前指導で十分準備を、事後指導で実習の省察をすることが重要である。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習(小学校) (Teaching Practice(Elementary))			担当教員	伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2402	4単位	4年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教職に関する科目(教育実習)

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状(必修)

授業の内容

1. 観察実習
　学校教育の全体、特に学習指導実践の具体的あり方を観察し、教育実践者としての力量を形成していくための準備をする。
2. 参加実習
　観察実習を、さらに実践に近づけたものである。指導教員が行う学習指導等に、できるだけ参画し、実践力の育成を目指す。
3. 実習(特に、授業実習)
　学習指導、生徒指導等、学校教育の全領域にわたって、指導教員の指導・助言を受けながら、現職教員を手本に実践を試みる。

授業の到達目標

実習校における各学級及び各学年の教育活動の観察・参加・指導実習を通し、小学校教育全般(授業・生徒指導・学級経営に関わる教育実務等)の基礎的な内容について実践的な理解を深め、教育者としての適性について振り返る。
1．児童理解の知識・技能に基づき、子どもに対応できる。
2．教員のための基礎実践能力を習得する。
3．学校における教育活動全般について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

4年次6月に小学校において、4週間の教育実習を行う。
各小学校教育実習校の実習計画により実施する。各小学校教育実践の実習計画に沿って、指導教員の指導・助言を受けながら、余裕をもって諸準備に取り掛かっておくこと。また、実習後の反省や指導教員のアドバイス等をその都度まとめ、次回に生かすこと。

成績評価方法

教育実習ノートの実践内容(60%)実習態度(40%)　で総合評価する。

成績評価基準

・児童理解の知識・技能に基づき、子供に適切に対応できたか。
・教員のための基礎実践能力を習得できたか。
・学校教育全般について理解できたか。

テキスト、参考図書

授業実習のため、主要教科(国・社・算・理)の教科書は、各自準備すること。

その他（受講上の注意）
各小学校教育実習校の指示に従うこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分が関心を持つテーマについて研究課題を設定する。研究課題は小学校の算数教育についての実践的研究又は開発的研究に関するものとする。各自研究計画をたて、これに基づいて研究を進める。
研究を推進する際、算数教育の現状を踏まえ「算数でどんな力をつけたいのか」、「授業の何を問い直したいのか」等の問題意識を明確にしながら、実践的研究又は開発研究をしていくように指導する。
研究成果については、レポートにまとめさせる。研究過程で研究協議の場を適宜設け、研究をさらに深めていくための新たな課題につなげていけるように指導する。

授業の到達目標

・自分が関心を持つテーマについて研究課題が設定できる。
・研究課題の問題意識を明確にすることができる。(どんな力をつけたいのか。授業の何を問い直したいのか。)
・実践的研究または開発研究するための研究計画を立てることができる。
・研究成果をレポートにまとめることができる。
・レポートの報告を基に、研究協議を行うことができる。
・関心を持つテーマについて、さらに深めていくための新たな課題につなげることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■ 発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(課題解決型学習、討議)
　事前学習：各自、3年次で設定した研究課題についてさらに検討して、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：研究課題の討議から事実を抽出し問題を見いだしたことを、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第2回：研究課題の設定・参考資料の収集と整理①(課題解決型学習、討議)
　事前学習：見出した問題に関する先行研究や先行実践論文の資料を収集し、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：調べた問題に対する討議から解決策(仮説)を立ててみて、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第3回：研究課題の設定・参考資料の収集と整理②(課題解決型学習、討議)
　事前学習：見出した問題に関する先行研究や先行実践論文の資料を収集し、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：調べた課題に対する討議から解決策(仮説)を焦点化し、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第４回：研究課題の研究計画再検討①（課題解決型学習、個別学習）
事前学習：解決策をもとに学習課題を設定し、追加情報を集め、その要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：追加情報に関する討議から仮説を検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第５回：研究課題の研究計画再検討②
事前学習：解決策をもとに学習課題を設定し、追加情報を集め、その要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：追加情報に関する討議からさらに仮説を検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第６回：研究構想の中間まとめ（課題解決学習、討議）
事前学習：これまでの討論から新しく得た知識と既有知識を統合し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：研究課題と見いだした問題の解決策（仮説）の討議からさらに検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第７回：中間まとめと検討会（課題解決学習、発表）
事前学習：検討会に向けた中間まとめを作成しておくこと。（２時間）
事後学習：検討会を通して焦点化された研究課題とその解決策について整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：研究課題・研究計画の検討（課題解決学習、討議）
事前学習：研究課題と抽出された問題その仮説を検証するための研究計画を策定し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：研究計画の討議から明らかになったことや課題等について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：研究資料・参考資料の収集と整理①（課題解決学習、個別学習）
事前学習：仮説を検証するための研究資料や参考資料の収集について計画を立てて、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：収集した研究資料等を整理し、その構造化を図り、要点をリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：研究資料・参考資料の収集と整理②（（課題解決学習、個別学習）
事前学習：仮説を検証するための研究資料や参考資料の収集について計画を立てて、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：収集した研究資料等を整理し、その構造化を図り、要点をリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：研究資料等の考察・検討①（課題解決学習、討議）
事前学習：各自が整理した研究資料等の要点を前もって読み合うこと。（２時間）
事後学習：研究資料等の考察や検討討議から、研究計画への位置づけを検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：研究資料等の考察・検討②（課題解決学習、討議）
事前学習：各自が整理した研究資料等の要点を前もって読み合うこと。（２時間）
事後学習：研究資料等の考察や検討討議から、研究計画への位置づけを検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：研究資料等の考察・検討③（課題解決学習、討議）
事前学習：各自が整理した研究資料等の要点を前もって読み合うこと。（２時間）
事後学習：研究資料等の考察や検討討議から、研究計画への位置づけを検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：研究構想レポートのまとめ・討議（課題解決学習、発表、討議）
事前学習：これまでの討議を踏まえて研究課題と見出した問題、その解決のための計画に関するレポート第１稿を作成しておくこと。（２時間）
事後学習：レポート第１項の発表・討議から、細部を検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第15回：研究構想発表会（課題解決学習、発表、討議）
事前学習：これまでの討議を踏まえた研究構想についてプレゼンテーション資料トを作成しておくこと。（２時間）
事後学習：研究構想発表とその討議を通して明らかになったことや課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）

成　績　評　価　方　法

リフレクション・レポート（30%）、中間及びまとめの研究レポート（30%×２）、研究協議等授業への参加状況（10%）等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・関心を持つ研究テーマを設定できたか。
・研究課題に対する問題意識を明確に表現できたか。
・研究計画を立てて、研究成果をレポートにまとめることができたか。
・積極的な研究協議ができたか。

テキスト、参考図書
特になし
その他（受講上の注意）
何回かのレポートの報告会を節目に研究を推進する。
オフィスアワー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分が関心を持つテーマについて課題研究を設定する。研究課題は保育・教育、子どもの発達や援助についての実証的研究又は開発的研究に関するものとする。各自研究計画をたて、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を受講者に報告し、お互いに批判・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。

「子ども教育特別演習Ⅰ」での学習成果を踏まえて、自主的研究のための課題をそれぞれが設定し、研究計画をたてる。その計画に沿ってそれぞれが研究成果を発表するとともに、相互理解・相互批判を繰り返しつつ研究を深めていく。

授業の到達目標

研究計画を立てて、研究を進めることができる。
他者の研究について批判的検討ができる。
論文の書き方を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：これまでの学習を振り返り、探求したい自己のテーマを決めてくる(2時間)
　事後学習：授業内容を踏まえて、探求したい自己のテーマを精査する(2時間)
第2回：研究発表と討論1
第3回：研究発表と討論2
第4回：研究発表と討論3
第5回：研究発表と討論4
第6回：研究発表と討論5
第7回：研究発表と討論6
第8回：研究発表と討論7
　第2回～第8回の事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する(14時間)
　第2回～第8回の事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する(14時間)
第9回：中間のまとめ
　事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく(2時間)
　事後学習：授業内容を踏まえて、保育・教育に対する問題意識を明確にする(2時間)
第10回：研究発表と討論1
第11回：研究発表と討論2
第12回：研究発表と討論3
第13回：研究発表と討論4

第14回：研究発表と討論５
　　第10回～第14回の事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（10時間）
　　第10回～第14回の事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（10時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく（２時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、保育・教育に対する問題意識を明確にする（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、討論への参加態度（30%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

研究計画を立てて、研究を進めることができるか。
他者の研究について批判的検討ができるか。
論文の書き方を修得できているか。

テキスト、参考図書

テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究に取り組む。課題設定、仮説設定、観察実験の方法、結果、考察についてまとめ、科学の方法を身につける。また、結果を発表し、ディスカッションする。

授業の到達目標

科学教育に関する課題を設定し、問題解決を図り、ディスカッションができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：課題の確認
　事前学習：これまでの活動から課題の確認を行い、探究活動全体の見通しを確認する(2時間)。
　事後学習：これまでに調べた先行研究を研究を整理し、課題設定との整合性を確認する(2時間)。
第2回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題①
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する(2時間)。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う(2時間)。
第3回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題②
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する(2時間)。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う(2時間)。
第4回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題③
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する(2時間)。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う(2時間)。
第5回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題④
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する(2時間)。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う(2時間)。
第6回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑤
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する(2時間)。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う(2時間)。
第7回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑥
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する(2時間)。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う(2時間)。
第8回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑦
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する(2時間)。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う(2時間)。
第9回：中間発表

第10回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑧
　　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（２時間）。
　　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（２時間）。
第11回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑨
　　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（２時間）。
　　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（２時間）。
第12回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑩
　　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（２時間）。
　　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（２時間）。
第13回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑪
　　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（２時間）。
　　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（２時間）。
第14回：探究活動のまとめ①
　　事前学習：これまでの結果を整理し、論文としてまとめるための準備を行う（２時間）。
　　事後学習：ディスカッション結果に基づき、論文としての骨格を考える（２時間）。
第15回：探究活動のまとめ②
　　事前学習：前回のディスカッションに基づき、探究活動の不十分な点を整理する（２時間）。
　　事後学習：修正点に関する実行計画を立てる（２時間）。

成　績　評　価　方　法

平常点（50％）　提出物（50％）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

（１）科学教育に関する課題を見出すことができる。
（２）課題を適切に処理し、考察し、結論を導くことができる。

テキスト、参考図書

必要に応じて提示する。

その他（受講上の注意）

学外での授業研究会や学会等への参加、支援活動等も含まれる。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自が卒業論文のテーマに沿って構想からとりまとめを進めてゆく。
自分なりに構想を発表し、現実的に論考を深めてゆく。

授業の到達目標

・前回から進めた箇所について所定の形式によるレポートを作成する習慣を身につける。
・研究したい目的を達成するための方法についてあらゆる可能性を探し現実的に絞り込む力を身につける。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価①。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（2時間）
以降、受講生の数に応じて第13回まで輪番とする。発表者は事前に他の受講生に資料を配付して各自で検討して授業の臨む。
第2回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価②。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（2時間）
第3回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価③。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（2時間）
第4回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価④。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（2時間）
第5回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑤。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（2時間）
第6回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑥。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（2時間）
第7回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑦。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（2時間）
第8回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑧。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（2時間）

第９回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑨。
　　事前学習：発表前の準備（２時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（２時間）
第10回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑩。
　　事前学習：発表前の準備（２時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（２時間）
第11回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑪。
　　事前学習：発表前の準備（２時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（２時間）
第12回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑫。
　　事前学習：発表前の準備（２時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（２時間）
第13回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑬。
　　事前学習：発表前の準備（２時間）
　　事後学修：発表後のまとめと発展学習（２時間）
第14回：これまでのまとめ～その１～。
　　事前学習：質問、相談のリストアップ（２時間）
　　事後学修：授業後の各自の発展学習（２時間）
第15回：これまでのまとめ～その２～。
　　事前学習：質問、相談のリストアップ（２時間）
　　事後学修：授業後の各自の発展学習と特別演習３の準備（２時間）

成　績　評　価　方　法

・発表のためのレポート作成と関連資料の収集準備の程度で100パーセント

成　績　評　価　基　準

授業の到達目標に記載した行動目標を達成しているかどうかによる。分割によるポイント制とせず、総合的に評価する。

テキスト、参考図書

テキストは用いない。参考図書や関連文献はその都度の紹介。

その他（受講上の注意）

ゼミなので欠席しないこと。やむを得ず欠席するときは事前連絡し、代わりの日を決める手順をとること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅰ」を踏まえ、絵本や児童文学をはじめとした子どもの文化を中心とした分野で自分が関心を持つテーマについて、具体的な課題を設定する。各自研究計画をたて、これに基づいて研究を進め、成果を受講者に報告し、お互いに批判・検討し合うことで、今後の課題を明確にする。

授業の到達目標

具体的に課題設定ができる。先行研究を踏まえ、課題の解決方法や必要なデータを説明できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：研究計画について(発表)
　事前学習：これまでの成果をまとめ、研究計画書を作成する(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、計画書を修正する(2時間)
第2回：研究手法について(発表)
　事前学習：討論の内容をふまえ、研究手法について再検討しレポートにまとめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をふまえ、これまで読んできた文献についてまとめる(2時間)
第3回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)
第4回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)
第5回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)
第6回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)
第7回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)
第8回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)

第９回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む（２時間）
第10回：個別指導
　　事前学習：添削指導を受けられるよう、卒論および疑問点をまとめる（２時間）
　　事後学習：添削の内容をもとに、卒論を修正する（２時間）
第11回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む（２時間）
第12回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む（２時間）
第13回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む（２時間）
第14回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む（２時間）
第15回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表等の内容40％、レポート・論文60％で総合的に評価します。

成　績　評　価　基　準

具体的な課題設定ができているか。先行研究を踏まえて、課題の解決方法や必要なデータを説明できるか。討論の内容をレポートに反映できているか。

テキスト、参考図書

白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』２版、ミネルヴァ書房、2013
その他については授業中に適宜紹介します。

その他（受講上の注意）

発表者はゼミが円滑に進められるよう配付資料（作品の該当部分や先行研究のコピーなど）を人数分準備してください。
欠席の場合は必ず担当教員または他のゼミ生へ連絡すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

音楽または音楽に関連することについて、各自が興味を持つ対象を研究・発表し、少人数での討論を行う。

授業の到達目標

1. 音楽に関する知識と理解を深める。
2. 音楽を通して、豊かな教養を身に付け、教育・保育に活かす。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習 (PBL)　■討議 (ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表 (プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：学期の研究計画 (実践先・内容・回数) 発表 (発表)
　事前学習：1年間の展望をまとめておくこと。(2時間)
　事後学修：担当教員の指導をふまえ、研究方法の検討を行う。(2時間)
第2回：実践と報告1 (グループワーク、ディスカッション)
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間)
　事後学修：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索を行う。(2時間)
第3回：実践と報告2 (グループワーク、ディスカッション)
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間)
　事後学修：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間)
第4回：実践と報告3 (グループワーク、ディスカッション)
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間)
　事後学修：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間)
第5回：実践と報告4 (グループワーク、ディスカッション)
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間)
　事後学修：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間)
第6回：実践と報告、討議1 (ディスカッション)
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間)
　事後学修：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間)
第7回：実践と報告、討議2 (ディスカッション)
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間)
　事後学修：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間)
第8回：実践と報告、討議3 (ディスカッション)
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間)
　事後学修：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間)
第9回：実践と報告、討議4 (ディスカッション)
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。(2時間)
　事後学修：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。(2時間)

第10回：実践と報告、討議５（ディスカッション）
事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（２時間）
事後学修：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（２時間）
第11回：実践と報告、討議６（ディスカッション）
事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（２時間）
事後学修：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（２時間）
第12回：実践と報告、討議７（ディスカッション）
事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（２時間）
事後学修：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（２時間）
第13回：実践と報告、討議８（ディスカッション）
事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（２時間）
事後学修：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（２時間）
第14回：まとめと卒業研究論文作成計画への展望１（発表）
事前学習：ここまでの研究成果を簡潔にまとめておくこと。（２時間）
事後学修：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、研究方法の修正を行う。（２時間）
第15回：まとめと卒業研究論文作成計画への展望２文献などの情報収集には普段から心掛けておく。
実技の学生は、製作や練習に励む。（発表）
事前学習：卒業研究論文の大枠をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：卒業研究論文の執筆を開始する。（２時間）

成　績　評　価　方　法

授業に対する姿勢（50%）、およびレポートなどの提出物（50%）を総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

音楽および音楽関連についての知識が深まったか。
実技の場合、必要な技術が身についてきているか。

テキスト、参考図書

ゼミ生の主体的な研究テーマを出発点とするため、共通のテキストは用いない。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅰ」で学んだことを基に、各自の研究目的を明確化し、研究計画を立て、これに沿って研究を進めていく。途中経過を他の受講者に報告し、互いに批評、検討し合うことで、研究の質を高めていく。

授業の到達目標

研究目的を明確化し、研究計画に沿って、研究を進めることができる。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：今後の計画の確認①
　事前学習：子ども教育特別演習Ⅰを踏まえ、課題等を整理する。(2時間)
　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間)
第2回：今後の計画の確認②
　事前学習：子ども教育特別演習Ⅰを踏まえ、課題等を整理する。(2時間)
　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間)
第3回：研究経過報告(先行研究、目的)と議論①
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間)
　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間)
第4回：研究経過報告(先行研究、目的)と議論②
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間)
　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間)
第5回：研究経過報告(先行研究、目的)と議論③
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間)
　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間)
第6回：研究経過報告(先行研究、目的)と議論④
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間)
　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間)
第7回：研究経過報告(先行研究、目的)と議論⑤
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。(2時間)
　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。(2時間)
第8回：中間まとめ
　事前学習：これまでの議論等を踏まえ、先行研究及び目的を整理する。(2時間)
　事後学習：自他の発表と議論を踏まえ、方法につなげる。(2時間)

第９回：研究経過報告（方法）と議論①
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（２時間）
　　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（２時間）
第10回：研究経過報告（方法）と議論②
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（２時間）
　　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（２時間）
第11回：研究経過報告（方法）と議論③
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（２時間）
　　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（２時間）
第12回：研究経過報告（方法）と議論④
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（２時間）
　　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（２時間）
第13回：研究経過報告（方法）と議論⑤
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（２時間）
　　事前学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（２時間）
第14回：総括①
　　事前学習：これまでの議論等を踏まえ、進捗状況と課題を整理する。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論を踏まえ、結果と考察につなげる。（２時間）
第15回：総括②
　　事前学習：これまでの議論等を踏まえ、進捗状況と課題を整理する。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論を踏まえ、結果と考察につなげる。（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、議論への参加状況（50%）

成　績　評　価　基　準

研究目的を明確化し、研究計画に沿って、研究を進めることができるか。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習1」の学習成果をふまえて各自が関心をもつテーマに関連する研究資料・論文を収集し、先行研究についてまとめ、研究の理論と方法について学ぶ。研究課題を設定し計画を立て、成果をレポートにまとめて発表・報告する。他者(指導教員やゼミ生)との討議をとおして今後の課題を明らかにする。

授業の到達目標

先行研究についてまとめて課題を整理できる。研究課題に関連する理論や方法について理解できる。他者の発表に対して討議に参加できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(「子ども教育特別演習1」の振り返り、演習2の進め方)
　事前学習：「子ども教育特別演習1」の振り返り。(2時間)
　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。(2時間)
第2回：研究課題に関連する資料の収集・整理、理論の学習1
　事前学習：資料や文献を調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。(2時間)
第3回：研究課題に関連する資料の収集・整理、理論の学習2
　事前学習：資料や文献を調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。(2時間)
第4回：研究課題に関連する資料の収集・整理、理論の学習3
　事前学習：資料や文献を調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。(2時間)
第5回：研究課題に関連する資料の収集・整理、理論の学習4
　事前学習：資料や文献を調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。(2時間)
第6回：研究課題に関連する資料の収集・整理、理論の学習5
　事前学習：資料や文献を調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。(2時間)
第7回：中間のまとめ
　事前学習：前回までの資料・文献を整理し課題をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。(2時間)
第8回：研究課題に関する経過発表と討議1
　事前学習：研究経過を整理しディスカッションするため自分の意見をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。(2時間)

第９回：研究課題に関する経過発表と討議２
　　事前学習：研究経過を整理しディスカッションするため自分の意見をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第10回：研究課題に関する経過発表と討議３
　　事前学習：研究経過を整理しディスカッションするため自分の意見をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第11回：研究課題に関する経過発表と討議４
　　事前学習：研究経過を整理しディスカッションするため自分の意見をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第12回：研究課題に関する経過発表と討議５
　　事前学習：研究経過を整理しディスカッションするため自分の意見をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第13回：研究課題に関する経過発表と討議６
　　事前学習：研究経過を整理しディスカッションするため自分の意見をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第14回：研究課題に関する経過発表と討議７
　　事前学習：研究経過を整理しディスカッションするため自分の意見をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第15回：まとめと今後の課題の確認
　　事前学習：前回までのディスカッションを踏まえて課題内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
自ら疑問点や問題点を整理して授業に臨む。また、指導教員やゼミ生から指摘されたコメントを参考に次への作業を進める。

成　績　評　価　方　法

発表内容・課題レポート（80％）、平常点（20％）
平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

研究課題の発表レポートが提出され、発表ができている。他者の発表に対する討議に参加できている。

テキスト、参考図書

各自の研究課題に関連する文献、図書などをその都度紹介する。

その他（受講上の注意）

常に問題意識をもち主体的、継続的に取り組むこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅰ」で研究したことを基に造形、美術教育分野で自分が研究していく研究課題、テーマを設定し、そのテーマにそって各自が研究を深めていく。そしてその研究経過を定期的に報告しながら、問題点、改善方法等を検討するとともに、お互いに意見を出し合い、よりよいレポートになるようにさらに研究を深めていく。

授業の到達目標

・自分の研究課題について説明ができる。
・研究方法や計画について説明ができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習 (PBL)　□討議 (ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表 (プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：自分の興味のあるテーマについて資料を作成する。(2時間)
　事後学習：さらの自分のテーマについて深める。(2時間)
第2回：これまでの研究発表
　事前学習：発表資料を作成する。(2時間)
　事後学習：質問、課題項目を調べる。(2時間)
第3回：課題研究①
　事前学習：テーマの課題をまとめておく。(2時間)
　事後学習：質問、課題項目を調べる。(2時間)
第4回：課題研究②
　事前学習：さらにテーマの課題をまとめておく。(2時間)
　事後学習：質問、課題項目を調べる。(2時間)
第5回：課題研究③
　事前学習：さらにテーマの課題をまとめておく。(2時間)
　事後学習：質問、課題項目を調べる。(2時間)
第6回：課題研究④
　事前学習：さらのテーマの課題をまとめておく。(2時間)
　事後学習：質問、課題項目を調べる。(2時間)
第7回：各自研究、制作①
　事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。(2時間)
　事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。(2時間)
第8回：各自研究、制作②
　事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。(2時間)
　事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。(2時間)

第９回：各自研究、制作③
　　事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。（２時間）
　　事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。（２時間）
第10回：各自研究、制作④
　　事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。（２時間）
　　事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。（２時間）
第11回：各自研究、制作⑤
　　事前学習：研究・制作に必要なものを準備する。（２時間）
　　事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。（２時間）
第12回：研究発表①
　　事前学習：研究内容の途中発表資料を作成する。（２時間）
　　事後学習：質問、課題について調べる。（２時間）
第13回：研究発表②
　　事前学習：研究内容の途中発表資料を作成する。（２時間）
　　事後学習：質問、課題について調べる。（２時間）
第14回：研究発表③
　　事前学習：研究内容の途中発表資料を作成する。（２時間）
　　事後学習：質問、課題について調べる。（２時間９
第15回：まとめと課題
　　事前学習：出された課題を次回の報告までに研究してくる。（２時間）
　　事後学習：研究経過についてレジュメにまとめてくる。（２時間）

成　績　評　価　方　法

研究報告（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・研究内容について説明することができる。
・研究方法や研究計画について説明することができる。

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

保育・教育に関連する文献、論文を講読する。
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を受講者に報告し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。必要に応じて、保育関連のフォーラムや研修会に参加して、専門的な知識を習得する。

授業の到達目標

自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を受講者に報告し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（ゼミの概要や方針について説明）
　事前学習：3年生ゼミの内容をもとに1年間の研究計画を再度まとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をさらに具体化する。（2時間）
第2回：文献・雑誌講読
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）
第3回：文献・雑誌講読
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）
第4回：文献・雑誌講読
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）
第5回：文献・雑誌講読
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）
第6回：文献・雑誌講読
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）
第7回：文献・雑誌講読
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）
第8回：文献・雑誌講読
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）

第９回：文献・雑誌講読
　　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（２時間）
第10回：文献・雑誌講読
　　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（２時間）
第11回：研究の中間発表
　　事前学習：卒業研究の具体的な内容・方法について報告するためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直し、実施に向けた準備をする。（２時間）
第12回：研究の中間発表
　　事前学習：卒業研究の具体的な内容・方法について報告するためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直し、実施に向けた準備をする。（２時間）
第13回：研究の中間発表
　　事前学習：卒業研究の具体的な内容・方法について報告するためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直し、実施に向けた準備をする。（２時間）
第14回：研究の中間発表
　　事前学習：卒業研究の具体的な内容・方法について報告するためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直し、実施に向けた準備をする。（２時間）
第15回：前期のまとめ
　　事前学習：卒業研究の練り直した内容・方法について報告するためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直し、実施に向けた準備をする。（２時間）

成　績　評　価　方　法

課題レポート（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況、レポート発表を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。

テキスト、参考図書

授業前に指示する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探求的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究テーマについての報告と議論

授業の到達目標

設定したテーマについて研究したことを中心に、その報告と議論を行うことで、自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：卒業研究テーマの確認
　事前学習：卒業研究テーマについて検討する(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第2回：進捗報告①
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第3回：進捗報告②
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第4回：進捗報告③
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第5回：進捗報告④
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第6回：進捗報告⑤
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第7回：進捗報告⑥
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第8回：進捗報告⑦
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第9回：進捗報告⑧
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)

第10回：進捗報告⑨
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第11回：進捗報告⑩
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第12回：進捗報告⑪
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第13回：進捗報告⑫
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第14回：進捗報告⑬
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第15回：後期に向けての計画設定
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）

成　績　評　価　方　法

平常点100%（受講態度、研究計画に対する達成状況により総合的に判断する。）

成　績　評　価　基　準

設定したテーマについて研究したことを中心に定期的に報告が行えたか。自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになったか。

テキスト、参考図書

特に指定しないが、選定した研究テーマに関する書籍を多く読むこと。

その他（受講上の注意）

授業の大半は、担当教員と相談の上各自が設定する計画に基づき、授業時間外に自主的に進めてきたことの報告と、それに対する助言や議論・次の計画の時間に充てる。
従って、授業時間外も意欲をもち積極的に研究に取り組む必要がある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探求的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅰ」における学修を基礎に、各自が研究課題を明確化していくことを目指す。そのためには、自身の関心を先行研究との関連のもとに位置付けていく作業が不可欠となる。したがって、授業の内容は、各自が蒐集した文献の講読と討論が中心となる。

授業の到達目標

相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができる。
自らの関心と照らし合わせ、研究課題を明確化することができる。
研究課題について体系的に調べることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：講読文献を検索しておく。（2時間）
　事後学習：研究計画を作成する。（2時間）
第2回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第3回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第4回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第5回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第6回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第7回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第8回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）

第９回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第10回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第11回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第12回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第13回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第14回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第15回：担当者による発表と討論
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）

成　績　評　価　方　法

討論への参加状況（50％）
発表内容（50％）

成　績　評　価　基　準

相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができるか。
自らの関心と照らし合わせ、研究課題を明確化することができているか。
研究課題について体系的に調べることができているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて配布する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	笠原　茂子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

保育・教育に関連する文献、論文を講読する。
自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を受講者に報告し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。

授業の到達目標

自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を受講者に報告し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(今年度の予定や方針について説明)　(課題解決型学学習)
事前学修：昨年度の演習や実習をもとに卒業研究のテーマと副題について考え、ノートに概要をまとめておくこと。(2時間)
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて研究テーマを決定し、「研究の動機」について記載し、フォルダ内にまとめておくこと。(2時間)
第2回：文献講読　(討議・グループワーク)
事前学修：事前に渡された文献や図書館・ネット等で調べた参考資料を読んで、要点をノートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマについて更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。(2時間)
第3回：文献講読　(討議・グループワーク)
事前学修：事前に渡された文献や図書館・ネット等で調べた参考資料を読んで、要点をノートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマについて更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。(2時間)
第4回：文献講読　(討議・グループワーク)
事前学修：事前に渡された文献や図書館・ネット等で調べた参考資料を読んで、要点をノートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマについて更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。(2時間)
第5回：文献講読　(討議・グループワーク)
事前学修：事前に渡された文献や図書館・ネット等で調べた参考資料を読んで、要点をノートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマについて更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。(2時間)

第６回：文献講読　（討議・グループワーク）
事前学修：事前に渡された文献や図書館・ネット等で調べた参考資料を読んで、要点をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマについて更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。（２時間）
第７回：文献講読　（討議・グループワーク）
事前学修：事前に渡された文献や図書館・ネット等で調べた参考資料を読んで、要点をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマについて更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。（２時間）
第８回：文献講読　（討議・グループワーク）
事前学修：事前に渡された文献や図書館・ネット等で調べた参考資料を読んで、要点をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマについて更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。（２時間）
第９回：文献講読　（討議・グループワーク）
事前学修：事前に渡された文献や図書館・ネット等で調べた参考資料を読んで、要点をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマについて更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。（２時間）
第10回：文献講読　（討議・グループワーク）
事前学修：事前に渡された文献や図書館・ネット等で調べた参考資料を読んで、要点をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマについて更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。（２時間）
第11回：授業実践の整理　（発表・討議）
事前学修：教育実習における国語科の授業実践について資料を整理しておく。（２時間）
事後学修：授業での討論やグループワーク、指導教員の助言等をもとにして授業実践の記録をまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。（２時間）
第12回：授業実践の整理　（発表・討議）
事前学修：教育実習における国語科の授業実践について資料を整理しておく。（２時間）
事後学修：授業での討論やグループワーク、指導教員の助言等をもとにして授業実践の記録をまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。（２時間）
第13回：研究の中間発表　（発表・討議）
事前学修：「研究の動機」「研究方法」「実践例①」について資料を準備し、発表に備えること。（２時間
事後学修：授業での討論や指導教員の助言等をもとにして書き直し、フォルダ内に整理しておくこと。（２時間）
第14回：研究の中間発表　（発表・討議）
事前学修：「研究の動機」「研究方法」「実践例①」について資料を準備し、発表に備えること。（２時間）
事後学修：授業での討論や指導教員の助言等をもとにして書き直し、フォルダ内に整理しておくこと。（２時間）
第15回：まとめ　（討議・グループワーク）
事前学修：テーマに関する文献、論文等を読んでレポートにまとめる。（２時間）
事後学修：研究テーマについて更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。（２時間）

成績評価方法

課題レポート（50%）　平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況、レポート発表を総合して判断します。）

成績評価基準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。

テキスト、参考図書

授業前に指示する。

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2406	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

研究を実施する際の課題設定、課題解決のための計画立案、実施、データの処理、および論文の作成方法について学習する。

授業の到達目標

研究の実施に必要な基本的な知識(課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成)を習得する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(ゼミの概要や方針について説明)
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第2回：発表、質疑応答①
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第3回：発表、質疑応答②
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第4回：発表、質疑応答③
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第5回：発表、質疑応答④
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第6回：発表、質疑応答⑤
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第7回：発表、質疑応答⑥
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)
第8回：発表、質疑応答⑦
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。(2時間)
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。(2時間)

第９回：発表、質疑応答⑧
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第10回：中間まとめ
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第11回：研究の中間発表
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第12回：研究の中間発表
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第13回：研究の中間発表
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第14回：研究の中間発表
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、レポート（50%）

成　績　評　価　基　準

研究の実施に必要な基本的な知識（課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成）を理解できているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布、紹介する。

その他（受講上の注意）

遅刻、欠席、および早退は減点の対象とします。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (Seminar Ⅲ)			担当教員	伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

各自の研究計画に沿って進めるが、以下に実践研究を想定した授業計画を例として記載する。なお、研究推進上、授業等の実践が必要な場合は、本学との連携協力校等で実施できるような体制を整え、授業後の検討会では、できるだけ現場教師の講評がもらえるよう配慮する。

授業の到達目標

1.「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進めていく。これらの演習を通して専門分野に関する研究方法を習得すると同時に、卒業研究へとつなげていくことができる。
2.「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ」を踏まえ、自身が設定した研究テーマをさらに深め、完成度の高い研究になるように定期的な報告を重ねながら研究を進め、その総括として研究成果をまとめてレポートを作成することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(課題解決型学習、討議)
事前学習：各自、前期で策定した研究構想についてさらに検討して、要点をまとめておくこと。(2時間)
事後学習：研究構想の討議から具体的な取り組み内容とその計画を策定し、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第2回：単元の教材研究(課題解決型学習、討議)
事前学習：研究課題の仮説に関わる単元について教科書の比較等の教材研究を行い、要点をまとめておくこと。(2時間)
事後学習：教材研究に関する検討と討議から単元構想を策定し、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第3回：指導案等の作成(課題解決型学習、討議)
事前学習：単元構想に基づいて仮説を検証する授業時間を確定し、その指導案等を作成しておくこと。(2時間)
事後学習：仮説検証のための指導案に対する検討討議をもとに再度見直し、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第4回：協力校との打ち合わせ及び授業観察(課題解決型学習、フィールドワーク)
事前学習：検討討議に基づいて学習指導案を確定しておくこと。(2時間)
事後学習：協力校の担当教員との打ち合わせ及び当該学級の授業観察から、留意点をまとめ、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第5回：事前アンケート等の検討(課題解決学習、討議)
事前学習：レディネステストを含む事前・事後アンケートの案を作成しておくこと。(2時間)
事後学習：事前・事後アンケート等に関する検討討議からその内容を見直し、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第６回：授業及び授業研究会の実施（課題解決学習、実習、討議）
事前学習：授業の準備及び協力校当該学級で事前アンケートの趣旨説明を行い、アンケートを実施しておくこと。（２時間）
事後学習：研究授業の実施と実施後の研究会で出された成果と課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第７回：事後アンケートの実施と事前アンケート等の整理（課題解決学習、個別学習）
事前学習：授業後のアンケート等を当該学級の担任と再度検討し、実施してもらっておくこと。（２時間）
事後学習：事前に実施したアンケート等の整理を行い、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：事後アンケート等の整理（課題解決学習、個別学習）
事前学習：事後アンケート等の結果の整理を行い、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：事後アンケート等の結果の分析方法等について検討したことについて、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：アンケート結果の分析・検討（課題解決学習、討議）
事前学習：事前事後のアンケート等の比較のための資料の作成を行い、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：アンケート結果等の分析結果の妥当性等の検討討議を整理し、要点をリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：研究レポートの執筆①（課題解決学習、個別学習）
事前学習：研究レポートの章立て等の構成を検討し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：研究レポートの構成等の検討討議から章立てを確定し、要点をリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：研究レポートの執筆②（課題解決学習、討議）
事前学習：研究レポートの執筆を開始し、本論に相当する授業研究以降の部分の執筆を終えておくこと。（２時間）
事後学習：研究レポートの検討討議から、その課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：研究レポートの執筆③（課題解決学習、討議）
事前学習：研究レポートの検討討議を受け、書き直しておくこと。（２時間）
事後学習：書き直した研究レポートをもとにした検討討議からさらに課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：研究発表会用のプレゼンテーション資料の作成（課題解決学習、討議）
事前学習：研究レポートの最終稿を完成させ、発表会用のプレゼンテーション資料の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表会用のプレゼンテーション資料の検討討議から、その構成を見直し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：研究発表会のリハーサル（課題解決学習、発表、討議）
事前学習：検討後の発表会用プレゼンテーション資料を作成しておくこと。（２時間）
事後学習：研究発表リハーサルの検討討議から再度資料を見直して、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第15回：研究発表会（課題解決学習、発表、討議）
事前学習：これまでの討議を踏まえたプレゼンテーション資料を作成しておくこと。（２時間）
事後学習：研究発表とその討議を通して明らかになったことや課題を整理し、研究レポートにまとめ完成させる。（２時間）
各自の研究計画に沿って進める。必要に応じて研究についてのアドバイスを求めること。また、適宜参考資料を紹介するので、熟読し参考とすること。

成　績　評　価　方　法

リフレクション・レポート（30%）、研究レポート（70%）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・自らが設定した研究テーマを深め、研究成果をレポートにまとめることができたか。

テキスト、参考図書

必要に応じて参考書を紹介する。

その他（受講上の注意）

レポートの報告会を節目にして、研究を推進する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ」での研究成果を踏まえて、自主的研究のための課題をそれぞれが設定し、研究計画をたてる。その計画に沿ってそれぞれが研究成果を発表するとともに、相互理解・相互批判を繰り返しつつ研究を深めていく。まとめた研究を他者にわかりやすいものにするため、プレゼンテーションや質疑応答の準備を行う。

授業の到達目標

研究計画を立てて、研究を進めることができる。
他者の研究について批判的検討ができる。
論文の書き方を修得する。
研究成果のプレゼンテーション能力を養う。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　　事前学習：これまでの学習を振り返り、探求したい自己のテーマを決めてくる（2時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、探求したい自己のテーマを精査する（2時間）
第2回：研究発表と討論1
第3回：研究発表と討論2
第4回：研究発表と討論3
第5回：研究発表と討論4
第6回：研究発表と討論5
第7回：研究発表と討論6
第8回：研究発表と討論7
　　第2回～第8回の事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（14時間）
　　第2回～第8回の事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、研究のまとめを作成する（14時間）
第9回：中間のまとめ
　　事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく（2時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、保育・教育に対する問題意識を明確にする（2時間）
第10回：研究のまとめと口頭発表の準備
第11回：研究のまとめと口頭発表の準備
第12回：研究のまとめと口頭発表の準備
第13回：研究のまとめと口頭発表の準備

第14回：研究のまとめと口頭発表の準備
　　第10回～第14回の事前学習：研究をまとめ、他者にわかりやすく説明するため、PPTの作成を行う（10時間）
　　第10回～第14回の事後学習：授業内の討論を振り返り、自分の発表内容を修正する（10時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：研究発表のための質疑応答の準備をしておく（２時間）
　　事後学習：研究を振り返り、反省点や改善点をまとめる（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、討論への参加態度（30%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

研究計画を立てて、研究を進めることができるか。
他者の研究について批判的検討ができるか。
論文の書き方を修得できているか。
研究成果のプレゼンテーション能力を養うことができているか。

テキスト、参考図書

テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (Seminar Ⅲ)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究のまとめ方、発表の仕方、ディスカッションの仕方等を学び、各自の研究内容をより深化させる。さらに、他人の研究に対しても、適切なコメントを述べることができるように心がける。

授業の到達目標

各自の研究テーマについて適切に考察し、分かりやすく発表し、活発にディスカッションすることができる。他人の研究に対しても適切なコメントを述べることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：卒論執筆の概要
　事前学習：論文執筆のための見通しをもつ(2時間)。
　事後学習：材料と方法の確認を行う(2時間)。
第2回：卒業論文の「材料・方法」の完成
　事前学習：材料と方法についてまとめる(2時間)。
　事後学習：添削に従い、修正する(2時間)。
第3回：卒業論文の「結果」の骨格
　事前学習：結果の図やグラフを作成する(2時間)。
　事後学習：添削に従い、修正する(2時間)。
第4回：卒業論文の「結果」の完成
　事前学習：結果の図やグラフを作成する(2時間)。
　事後学習：添削に従い、修正する(2時間)。
第5回：卒業論文の「考察」の骨格
　事前学習：結果から分かることを整理する(2時間)。
　事後学習：添削に従い、修正する(2時間)。
第6回：卒業論文の「考察」の完成
　事前学習：課題設定における問題提起と結果との整合性を確認する(2時間)。
　事後学習：添削に従い、修正する(2時間)。
第7回：卒業論文の「はじめに」の骨格
　事前学習：先行研究を整理し、課題の背景と問題提起を整理する(2時間)。
　事後学習：添削に従い、修正する(2時間)。
第8回：卒業論文の「はじめに」の完成
　事前学習：問題提起と考察との整合性を確認する(2時間)。
　事後学習：添削に従い、修正する(2時間)。

第９回：卒業論文の引用文献、目次等の完成
事前学習：引用文献、参考文献の記載を確認し、最後に目次を完成させる（２時間）。
事後学習：卒業論文の最終チェックの準備を行う（２時間）。
第10回：卒業論文の最終チェック
事前学習：卒綾論文の誤字、脱字など最終チェックを行う（２時間）。
事後学習：修正点の確認を行う（２時間）。
第11回：卒業論文の完成
事前学習：卒業論文を完成させる（２時間）。
事後学習：卒業論文に沿って、要旨の作成に入る（２時間）。
第12回：卒業研究要旨の作成
事前学習：要旨を完成させる（２時間）。
事後学習：要旨に基づいて、発表スライドを作成する（２時間）。
第13回：卒業研究発表練習①
事前学習：発表のための準備を行う（２時間）。
事後学習：発表練習を振り返り、発表の修正を行う（２時間）。
第14回：卒業研究発表練習②
事前学習：１回目の発表練習の結果をもとに準備を行う（２時間）。
事後学習：発表練習の結果に基づき発表の修正を行うとともに、予想される質問について考察する（２時間）。
第15回：卒業研究発表会
事前学習：発表のための準備を行う（２時間）。
事後学習：発表会を振り返り、今後の課題を整理する（２時間）。

成　績　評　価　方　法

平常点（100％）
平常点は、普段の研究に対する取り組みを総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準

（１）設定した課題に対して明快に答えているか。
（２）仮説を適切に検証しているか。
（３）結果を適切に考察しているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて提示する。

その他（受講上の注意）

学外での授業研究会や学会等への参加、支援活動等も含まれる。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ （SeminarⅢ）			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進め、卒業研究へとつなげる。
これらの演習を通して、専門分野に関する研究方法を修得する。 必要に応じて、保育関連のフォーラムや研修会に参加して、専門的な知識を習得する。

授業の到達目標

自分の研究計画にしたがって研究を進め、自らの課題について自分なりの考察と解決方法をまとめる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：文献・雑誌講読①
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）
第2回：文献・雑誌講読②
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）
第3回：文献・雑誌講読③
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）
第4回：文献・雑誌講読④
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）
第5回：文献・雑誌講読⑤
　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに自分なりの考えをまとめる。（2時間）
第6回：卒業研究指導①
　事前学習：卒業研究の進捗について報告するためのレジメを作成する。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに作業を進める。（2時間）
第7回：卒業研究指導②
　事前学習：卒業研究の進捗について報告するためのレジメを作成する。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに作業を進める。（2時間）
第8回：卒業研究指導③
　事前学習：卒業研究の原稿を作成する。（2時間）
　事後学習：授業や討議をもとに作業を進める。（2時間）

第９回：卒業研究指導④
　　事前学習：卒業研究の原稿を作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに作業を進める。（２時間）
第10回：卒業研究指導⑤
　　事前学習：卒業研究の原稿を作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに作業を進める。（２時間）
第11回：卒業研究指導⑥
　　事前学習：卒業研究の原稿を作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに作業を進める。（２時間）
第12回：卒業研究発表に向けた準備①
　　事前学習：要旨集作成の原稿を作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに作業を進める。（２時間）
第13回：卒業研究発表に向けた準備②
　　事前学習：発表会のスライドと原稿を作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに作業を進める。（２時間）
第14回：卒業研究発表に向けた準備③
　　事前学習：発表会のスライドと原稿を作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに作業を進める。（２時間）
第15回：卒業研究発表に向けた準備④
　　事前学習：発表会のスライドと原稿を作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに作業を進める。（２時間）

成　績　評　価　方　法

課題レポート（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況、レポート発表を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究について、進捗状況を適宜報告するとともに、意欲的に進めることができるか。
研究の成果について、考察を加え、自分なりの課題解決方法を説明できるか。

テキスト、参考図書

授業前に提示する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自の卒業論文のテーマに深く関連すると思われる研究資料について意見交換や情報収集と評価を行う。
・研究論文や図書の内容を正しく理解する。
・研究論文や図書の内容を自分なりに評価できる。
・研究論文や図書の中から深く関わる資料を選択できる。

授業の到達目標

卒業論文の導きとなる先行研究に触れ,慣れ,取り入れ,学ぶこと、あるいは反映しなくてもその特徴を理解し自分なりに評価することができるようにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

同時進行の各自の卒業論文の作成に深くあるいは周辺的に関連すると思われる各種の図書や研究論文を収集し、読み、自分の構想の中に位置づけていく。
第1回：関連資料の発表と評価①
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（2時間）
第2回：関連資料の発表と評価②
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（2時間）
第3回：関連資料の発表と評価③
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（2時間）
第4回：関連資料の発表と評価④
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（2時間）
第5回：関連資料の発表と評価⑤
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（2時間）
第6回：関連資料の発表と評価⑥
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（2時間）
第7回：関連資料または構想発表と評価①
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（2時間）

第８回：関連資料または構想発表と評価②
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（２時間）
第９回：関連資料または構想発表と評価③
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（２時間）
第10回：関連資料または構想発表と評価④
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（２時間）
第11回：関連資料または構想発表と評価⑤
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（２時間）
第12回：卒業論文のアドバイスおよび意見交換①
　　事前学習：発表準備（３時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（２時間）
第13回：卒業論文のアドバイスおよび意見交換②
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（２時間）
第14回：子ども教育との関連性の確認①
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（２時間）
第15回：子ども教育との関連性の確認②
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学修：授業後のまとめ（２時間）
あらゆる機会を見つけて卒業論文に関連する資料を収集・検討する努力を惜しまないこと。

成　績　評　価　方　法

提出レポートとその発表、および意見交換の活動に関して100パーセント。

成　績　評　価　基　準

・専門的な知識の習得
・最近の動向について自分なりの理解と見識を持つことができていること。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

用いない。参考資料は、ゼミ発表の内容を受けて、授業中に、個別にその都度指示する。

その他（受講上の注意）

授業時間にとどまらず、オフィスアワー等を利用して広く関連する資料の収集に努めること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ」を発展させ、絵本や児童文学をはじめとした子どもの文化を中心とした分野で自分が設定した課題を解決へと導く。成果を受講者に報告し、お互いに批判・検討し合うことで、完成度の高い卒業研究を目指す。

授業の到達目標

先行研究を整理できる。課題の解決方法を明確に説明できる。必要なデータを収集・提示し、実証的に論じることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：進捗状況発表、討論(発表)
　事前学習：進捗状況と疑問点、今後の課題をまとめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、課題に取り組む(2時間)
第2回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)
第3回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)
第4回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)
第5回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)
第6回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)
第7回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)
第8回：各自発表、討論(発表)
　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる(2時間)
　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む(2時間)

第９回：各自発表、討論（発表）
　　事前学習：調査を行い、卒論をすすめる（２時間）
　　事後学習：討論の内容をもとに、卒論を修正し、課題に取り組む（２時間）
第10回：個別指導
　　事前学習：添削指導を受けられるよう、卒論および疑問点をまとめる（２時間）
　　事後学習：添削の内容をもとに、卒論を修正する（２時間）
第11回：個別指導
　　事前学習：添削指導を受けられるよう、卒論および疑問点をまとめる（２時間）
　　事後学習：添削の内容をもとに、卒論を修正する（２時間）
第12回：個別指導
　　事前学習：添削指導を受けられるよう、卒論および疑問点をまとめる（２時間）
　　事後学習：添削の内容をもとに、卒論を修正する（２時間）
第13回：個別指導
　　事前学習：添削指導を受けられるよう、卒論および疑問点をまとめる（２時間）
　　事後学習：添削の内容をもとに、卒論を修正する（２時間）
第14回：３年生向け報告会（グループワーク）
　　事前学習：これまでの成果をまとめ、３年生への報告内容を整理しておく（２時間）
　　事後学習：卒論要旨およびパワーポイントを作成する（２時間）
第15回：卒業研究発表会（発表）
　　事前学習：要旨集を読み、質問内容をまとめるとともに、報告の準備をする（２時間）
　　事後学習：試問の内容をまとめ、今後の課題を整理する（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表等の内容40％、レポート・論文60％で総合的に評価します。

成　績　評　価　基　準

先行研究を整理し、理解できているか。課題の解決方法が明確に説明できるか。必要データを収集・提示し、実証的に卒業論文がまとめられているか。

テキスト、参考図書

白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』２版、ミネルヴァ書房、2013
その他については授業中に適宜紹介します。

その他（受講上の注意）

発表者はゼミが円滑に進められるよう配付資料（作品の該当部分や先行研究のコピーなど）を人数分準備してください。
欠席の場合は必ず担当教員または他のゼミ生へ連絡すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ（Seminar Ⅲ）			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

子ども教育特別演習IIで研究した音楽または音楽関連についてさらに深く検証し、卒業研究へと繋げる。

授業の到達目標

1. 音楽に関する知識と理解を深める。
2. 音楽を通して、豊かな教養を身に付け、教育・保育に活かす。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：実践の検証と発表、討議1（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学修：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第2回：実践の検証と発表、討議2（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学修：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第3回：実践の検証と発表、討議3（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学修：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第4回：実践の検証と発表、討議4（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学修：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第5回：実践の検証と発表、討議5（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学修：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第6回：実践の検証と発表、討議6（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学修：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第7回：実践の検証と発表、討議7（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学修：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第8回：実践の検証と発表、討議8（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学修：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第9回：実践の検証と発表、討議9（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学修：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）

第10回：実践の検証と発表、討議10（ディスカッション）
　　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（２時間）
　　事後学修：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（２時間）
第11回：卒業研究論文（実践報告書）作成１（ディスカッション、グループワーク）
　　事前学習：卒業研究論文を整えておくこと。（２時間）
　　事後学修：担当教員の意見や指摘を執筆内容に反映させる。（２時間）
第12回：卒業研究論文（実践報告書）作成２（ディスカッション、グループワーク）
　　事前学習：前回出された意見や指摘をもとに、卒業研究論文を整えておくこと。（２時間）
　　事後学修：卒業研究論文の執筆内容を確認の後、提出する。（２時間）
第13回：「卒業研究要旨集」レジュメ作成、口頭発表準備１（ディスカッション、グループワーク）
　　事前学習：口頭発表のためのスライド作成を開始しておくこと。（２時間）
　　事後学修：スライドの修正。（２時間）
第14回：「卒業研究要旨集」レジュメ作成、口頭発表準備２（発表、ディスカッション）
　　事前学習：口頭発表のためのスライドを完成させておくこと。（２時間）
　　事後学修：発表のための練習を行う。（２時間）
第15回：「卒業研究要旨集」レジュメ作成、口頭発表準備３（発表、ディスカッション）
　　事前学習：配付資料の準備をしておくこと。（２時間）
　　事後学修：配付資料の印刷と、発表のための練習を行う。（２時間）
1. 文献等の情報収集に努め、要点をまとめておくこと。
2. 実技や作品発表の場合は、練習や製作に励むこと。

成　績　評　価　方　法

授業に対する姿勢（50%）、およびレポートなどの提出物（50%）を総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

音楽および音楽関連についての知識が深まったか。
実技もしくは作品発表のために必要な技術が身についたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

ゼミ生の主体的な研究テーマを出発点とするため、共通のテキストは用いない。

その他（受講上の注意）

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き授業を進めていく。これらの演習を通して、専門分野に関する研究方法を理解するとともに、卒業研究へとつなげていく。

授業の到達目標

研究計画に沿って、研究を進めることができる。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができる。
自分の研究結果や考察をまとめることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：研究経過報告(結果)と議論①
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間)
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間)
第2回：研究経過報告(結果)と議論②
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間)
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間)
第3回：研究経過報告(結果)と議論③
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間)
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間)
第4回：研究経過報告(結果)と議論④
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間)
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間)
第5回：研究経過報告(結果)と議論⑤
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間)
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間)
第6回：研究経過報告(考察)と議論①
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間)
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間)
第7回：研究経過報告(考察)と議論②
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間)
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間)
第8回：研究経過報告(考察)と議論③
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。(2時間)
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。(2時間)

第９回：研究経過報告（考察）と議論④
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（２時間）
第10回：研究経過報告（考察）と議論⑤
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（２時間）
第11回：卒業研究発表の準備①
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（２時間）
第12回：卒業研究発表の準備②
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（２時間）
第13回：卒業研究発表の準備③
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（２時間）
第14回：卒業研究発表の準備④
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（２時間）
第15回：卒業研究発表の準備⑤
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、議論への参加状況（50%）

成　績　評　価　基　準

研究計画に沿って、研究を進めることができたか。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができたか。
自分の研究結果や考察をまとめることができたか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探求的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習２」における学習を基礎に各自の研究課題に沿って計画を進め卒業研究につなげていく。各自が研究成果の途中経過をレポートにまとめて発表・報告し、他者（指導教員やゼミ生）との討議をとおして問題点、改善方法など今後の課題を明らかにする。さらには、プレゼンテーションや質疑応答の準備を行う。

授業の到達目標

研究計画に沿って研究を遂行できる。研究成果の途中経過をレポートにまとめて報告できる。他者の発表に対して討議に参加できる。効果的なプレゼンテーションができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：研究課題に関する経過発表と討議（討議）
　　事前学習：子ども教育特別演習Ⅱの内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第２回：研究課題に関する経過発表と討議（討議）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第３回：研究課題に関する経過発表と討議（討議）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第４回：研究課題に関する経過発表と討議（討議）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第５回：研究課題に関する経過発表と討議（討議）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第６回：卒業論文の中間報告（討議）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第７回：卒業論文の中間報告（討議）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第８回：研究課題に関する経過発表と討議（討議）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）

第９回：研究課題に関する経過発表と討議（討議）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第10回：卒業論文の確認（討議）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第11回：卒業論文の確認（討議）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第12回：卒業論文の確認（討議）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第13回：卒業研究発表に向けた準備（資料の作成、プレゼンテーション）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第14回：卒業研究発表に向けた準備（資料の作成、プレゼンテーション）
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）
第15回：総まとめ自ら疑問点や問題点を整理して授業に臨む。また、指導教員やゼミ生から指摘されたコメントを参考に次への作業を進める。
　　事前学習：前回の内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で指摘された内容について整理し課題をまとめておくこと。（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容・課題レポート（80%）、平常点（20%）平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

研究計画に沿って研究を遂行できている。研究課題の発表レポートが提出され、発表ができている。他者の発表に対する討議に参加できている。

テキスト、参考図書

テキストは使用せず、参考図書や関連文献はその都度紹介する。

その他（受講上の注意）

常に問題意識をもち主体的、継続的に取り組むこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ」を踏まえ、自身が設定した造形、美術教育等の研究課題をさらに深め、完成度の高い卒業研究となるように定期的な報告、検討を重ねながら進めていく。制作を伴うものについては、制作技術について学ぶとともに制作過程や制作方法等についてもレポートとしてまとめ、作品とともに総合的な研究としていく。

授業の到達目標

・研究内容について説明することができる。
・研究方法や研究計画について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：これまでの経過確認と今後の計画について
　事前学習：最終テーマと計画表を作成してくる。(2時間)
　事後学習：最終テーマと計画表の詳細を作成する。(2時間)
第2回：各自の研究、制作
　事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。(2時間)
　事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間)
第3回：各自の研究、制作
　事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。(2時間)
　事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間)
第4回：各自の研究、制作
　事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。(2時間)
　事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間)
第5回：各自の研究、制作
　事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。(2時間)
　事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間)
第6回：中間発表
　事前学習：発表用資料を作成する。(2時間9
　事後学習：質問、課題項目をまとめて、調べる。
第7回：各自の研究、制作
　事前学習：テーマの内容と課題をまとめておく。(2時間)
　事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間)
第8回：各自の研究、制作
　事前学習：テーマの内容、課題をまとめておく。(2時間)
　事後学習：テーマの課題について調べる。(2時間)

第９回：各自の研究、制作
　　事前学習：テーマの内容、課題をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：テーマの課題について調べる。（２時間）
第10回：各自の研究、制作
　　事前学習：テーマの内容、課題をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：テーマの課題について調べる。（２時間）
第11回：研究のまとめ
　　事前学習：報告書・論文の構成をまとめる。（２時間）
　　事後学習：質問、課題を調べて、まとめる。（２時間）
第12回：研究のまとめ
　　事前学習：テーマの課題をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：テーマの内容を報告書・論文としてまとめる。（２時間）
第13回：研究のまとめ
　　事前学習：報告書・論文作成についての課題をまとめる。（２時間）
　　事後学習：課題を調査し、報告書・論文としてまとめる。（２時間）
第14回：研究のまとめ
　　事前学習：報告書・論文作成についての課題をまとめる。（２時間）
　　事後学習：課題を調査し、報告書・論文としてまとめる。（２時間）
第15回：まとめ・報告書・論文の提出。
　　事前学習：研究課題について報告書・論文にまとめ、要旨、発表用スライドを作成する。（２時間）
　　事後学習：報告書・作品・論文、要旨を提出し、発表のリハーサルを行う。（２時間）

成　績　評　価　方　法

報告内容（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・研究内容について説明することができる。
・研究課題や研究計画について説明することができる。

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究テーマについての報告と議論

授業の到達目標

設定したテーマについて研究したことを中心に、その報告と議論を行うことで、自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：進捗報告①
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第2回：進捗報告②
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第3回：進捗報告③
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第4回：進捗報告④
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第5回：進捗報告⑤
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第6回：進捗報告⑥
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第7回：進捗報告⑦
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第8回：進捗報告⑧
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)
第9回：進捗報告⑨
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。(3時間)
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。(1時間)

第10回：進捗報告⑩
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第11回：論文内容の確認①
　　事前学習：論文内容について検討する。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように校正するか検討する。（１時間）
第12回：論文内容の確認②
　　事前学習：論文内容について検討する。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように校正するか検討する。（１時間）
第13回：論文内容の確認③
　　事前学習：論文内容について検討する。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように校正するか検討する。（１時間）
第14回：成果発表（発表）
　　事前学習：発表資料を作成しておく（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように校正するか検討する。（１時間）
第15回：成果発表（発表）
　　事前学習：発表資料を作成しておく（４時間）

成　績　評　価　方　法

平常点100%（受講態度、研究計画に対する達成状況により総合的に判断する。）

成　績　評　価　基　準

設定したテーマについて研究したことを中心に定期的に報告が行えたか。自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになったか。

テキスト、参考図書

特に指定しないが、選定した研究テーマに関する書籍を多く読むこと。

その他（受講上の注意）

授業の大半は、担当教員と相談の上各自が設定する計画に基づき、授業時間外に自主的に進めてきたことの報告と、それに対する助言や議論・次の計画の時間に充てる。
従って、授業時間外も意欲をもち積極的に研究に取り組む必要がある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進めていく。これらの演習を通して専門分野に関する研究方法を習得すると同時に、卒業研究へとつなげていく。

授業の到達目標

各自の研究課題を先行研究との関連のもとに、明確に記述することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：研究経過報告1(発表、討議)
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間)
第2回：研究経過報告2(発表、討議)
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間)
第3回：研究経過報告3(発表、討議)
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間)
第4回：研究経過報告4(発表、討議)
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間)
第5回：研究経過報告5(発表、討議)
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間)
第6回：研究経過報告6(発表、討議)
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間)
第7回：研究経過報告7(発表、討議)
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間)
第8回：研究経過報告8(発表、討議)
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間)
第9回：研究経過報告9(発表、討議)
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。(2時間)
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。(2時間)

第10回：研究経過報告10（発表、討議）
事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）
第11回：研究経過報告11（発表、討議）
事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）
第12回：研究経過報告12（発表、討議）
事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）
第13回：研究経過報告13（発表、討議）
事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）
第14回：研究経過報告14（発表、討議）
事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）
第15回：研究経過報告15（発表、討議）
事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表内容（100％）

成　績　評　価　基　準

各自の研究課題を先行研究との関連のもとに、論理的に記述することができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	笠原　茂子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進め、卒業研究へとつなげる。
これらの演習を通して、専門分野に関する研究方法を修得する。

授業の到達目標

自分の研究計画にしたがって研究を進め、自らの課題について自分なりの考察と解決方法をまとめる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
事前学修：研究テーマと副題について最終確認し、「研究の動機」について書き直し、レポートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：授業での討論をもとに「研究の動機」について記述し、フォルダ内に整理しておくことおくこと。(2時間)
第2回：文献講読①　(課題解決型学習・討議・グループワーク)
事前学修：事前に渡された文献参考資料や図書館・ネット等で調べた先行実践授業例を読んで、要点をノートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマや先行授業実践例について更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。(2時間)
第3回：文献講読②　(課題解決型学習・討議・グループワーク)
事前学修：事前に渡された文献参考資料や図書館・ネット等で調べた先行実践授業例を読んで、要点をノートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマや先行授業実践例について更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。(2時間)
第4回：文献講読③　(課題解決型学習・討議・グループワーク)
事前学修：事前に渡された文献参考資料や図書館・ネット等で調べた先行実践授業例を読んで、要点をノートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマや先行授業実践例について更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。(2時間)
第5回：文献講読④　(課題解決型学習・討議・グループワーク)
事前学修：事前に渡された文献参考資料や図書館・ネット等で調べた先行実践授業例を読んで、要点をノートにまとめておくこと。(2時間)
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、研究テーマや先行授業実践例について更に詳しく調べてレポートにまとめ、フォルダ内に整理しておくこと。(2時間)

第６回：卒業研究指導①研究授業指導案作成　（討議・グループワーク・実技）
事前学修：研究授業の指導案や教具を作成・準備しておくこと。（２時間）
事後学修：授業での討論やグループワークを踏まえて、指導案を書き直すこと。（２時間）
第７回：卒業研究指導②研究授業法指導案検討　（討議・グループワーク・実技）
事前学修：担当教員の助言を受けながら、研究授業指導案や準備物を作成しておくこと。（２時間）
事後学修：研究授業指導案・準備物を完成させ、連携校教員と打ち合わせをしておくこと。（２時間）
第８回：卒業研究指導③連携校での研究授業実践１回目（実習）
第９回：卒業研究指導④連携校での研究授業実践２回目（実習）　（２コマ連続・・半日）
事前学修：連携校において、指導案の検討及び対象学級の児童観察を行う。（４時間）
事後学修：担当教員や連携校教員のご高評・助言をまとめておくこと。（４時間）
第10回：卒業研究指導⑤研究授業反省と考察　（討議・グループワーク）
事前学修：授業の記録を整理し、反省と考察」をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業での討議をもとにフォルダ内に「反省と考察」を記載しておくこと。（２時間）
第11回：研究成果の発表①　（討議・発表）
事前学修：研究授業における学習過程での教師と児童の言動をまとめておくこと。（２時間）
事後学修：授業での討議をもとに、「研究の成果と課題」についてフォルダ内に記載しておくこと。（２時間）
第12回：研究成果の発表②　（討議・発表）
事前学修：卒業研究を完成させておくこと。（２時間）
事後学修：指導教員の助言や授業での討議をもとに書き直し、卒業研究をおおむね完成させること。（２時間）
第13回：卒業研究発表に向けた準備①
事前学修：要旨集の概略を作成すること。（２時間）
事後学修：指導教員の助言や授業での討議を踏まえて、要旨集を推敲すること。（２時間）
第14回：卒業研究発表に向けた準備②　（実技）
事前学修：要旨集をもとに、発表原稿とパワーポイントを作成すること。（２時間）
事後学修：指導教員の助言や授業での討議を踏まえて、発表原稿とパワーポイントを見直すこと。（２時間）
第15回：卒業研究発表に向けた準備③　（討議・実技）
事前学修：要旨集と発表原稿・パワーポイントの整合性を確認し、発表の練習をしておくこと。（２時間）
事後学修：授業での討議をもとに、発表原稿とパワーポイントを改善して完成させること。

成　績　評　価　方　法

課題レポート（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況、レポート発表を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容や研究授業の実践をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究について、進捗状況を適宜報告するとともに、意欲的に進めることができるか。
研究の成果について、考察を加え、自分なりの課題解決方法を説明できるか。

テキスト、参考図書

授業前に提示する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ （SeminarⅢ）			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2453	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進め、卒業研究へとつなげる。
これらの演習を通して、専門分野に関する研究方法を修得する。

授業の到達目標

自分の研究計画にしたがって研究を進め、自らの課題について自分なりの考察と解決方法をまとめる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（ゼミの概要や方針について説明）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第2回：文献講読①
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第3回：文献講読②
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第4回：文献講読③
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第5回：文献講読④
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第6回：卒業研究指導①
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第7回：卒業研究指導②
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第8回：卒業研究指導③
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第9回：卒業研究指導④
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）

第10回：卒業研究指導⑤
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第11回：研究成果の発表①
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第12回：研究成果の発表②
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第13回：卒業研究発表に向けた準備①
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第14回：卒業研究発表に向けた準備②
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第15回：卒業研究発表に向けた準備③
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）

自分の研究テーマに関連する文献、論文等を読んでレポートにまとめる。

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、レポート（50%）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究について、進捗状況を適宜報告するとともに、意欲的に進めることができるか。
研究の成果について、考察を加え、自分なりの課題解決方法を説明できるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布、紹介する。

その他（受講上の注意）

遅刻、欠席、および早退は減点の対象とします。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	伊禮　三之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4次当初に各自が研究課題を設定し、自己の研究計画を述べることができる。また、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などと並行して卒業研究を進め、これまで学んできたことの集大成として卒業論文に仕上げることができる。さらに、卒業研究の概要をまとめ、研究のポイントや残された課題を明確にしながら、他者にわかりやすく発表することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各自の研究計画に沿って進める。積極的に、研究へのアドバイスを求めたり、関連する資料や文献、参考図書等を調べ、卒業研究を深めること。

成績評価方法

① 研究成果物を提出する。
② 研究要旨を提出する。
③ 口頭発表を行うまたは口頭試問を受ける。
の3項目を単位認定の基本要件としたうえで、協議の上主査が評価を判定する。

成績評価基準

研究成果物、研究要旨、口頭発表等の内容が、研究テーマに即して論理的に考察、展開され適切であるか。

テキスト、参考図書

特にないが、必要に応じて卒業研究に必要な資料・文献を適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

卒業年次は、さまざまな取り組みが並行して行われるので、計画的に卒業研究を進めること。

オフィスアワー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

具体的には「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などによって深めた自身の専門的な問題意識に即してテーマを決定し、研究計画を立て、調査・事例研究・文献研究などの手法の導入によって研究の成果をまとめる。専門領域における知識を深めるとともに、計画立案、問題解決能力、論理的思考力、表現力、プレゼンテーション能力などの総合的な人間力を培うこともあわせて目指す。

授業の到達目標

研究計画を立てて、研究を進めることができる。
問題解決能力、論理的思考力を養う。
表現力、プレゼンテーション能力を養う。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

年度当初に受講生と協議する。受講生は具体的な研究計画をたてる。随時進捗状況を報告し、指導を受ける。研究計画に沿って、自主的に研究を進めていくことを予習、復習に含める。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

研究計画を立てて、研究を進めることができるか。
問題解決能力、論理的思考力を養うことができているか。
表現力、プレゼンテーション能力を養うことができているか。

テキスト、参考図書

テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2407	4 単位	4 年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

設定した課題について、観察実験の結果に基づいたり、調査結果に基づいたりし、根拠を示した上で結論を導く。その過程で科学の方法を身につけ、問題解決能力の向上を図る。

授業の到達目標

各自の研究テーマについて適切に考察し、分かりやすく発表し、活発にディスカッションすることができる。他人の研究に対しても適切なコメントを述べることができ、新たな課題を見出すことができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習 (PBL)　■討議 (ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表 (プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

定期的にミーティングを実施し、研究の進捗状況や懸案事項の確認を行い、対応策を考える。先行研究をしっかり調査し，その上で自分の課題を明確にする。また,「それってどういうこと？」という問いを用い、探究心の涵養に努める。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の３項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

（１）設定した課題に対して明快に答えているか。
（２）仮説を適切に検証しているか。
（３）結果を適切に考察しているか。

テキスト、参考図書

必要に応じて提示する。

その他(受講上の注意)

学外での授業研究会や学会等への参加、支援活動等も含まれる。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

個別に論文指導を行う

授業の到達目標

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

論文指導を行う。デザイン発表、中間発表、下書き提出等適宜指示する。自主的に研究を進める。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

研究の目的が明確か。研究の方法が妥当か。研究結果に対する考察が十分に行われて結論が導かれているか。論文(文章)の展開に一貫性があるか。

テキスト、参考図書

なし

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	大野木　裕明
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自の卒業論文のテーマに沿って構想から取りまとめまでを進めていく。
卒業論文の内容については、中断することなく定期的に進め、他のゼミ生のナイーブな意見にも謙虚に耳を傾ける時間を用意するので、積極的な参加が重要。

授業の到達目標

・提出の〆切までに卒業論文を作成することができる。
・適切な日本語で書くことができる。
・論理的に構成することができる。
・わかりやすい表現でかくことができる。
・図表を用いて誤解のないような実証的な書き方ができる。

アクティブ・ラーニング

□■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

他の卒業論文ゼミ生と同様に、合意したスケージュールに沿って、定期的に積極的に論文指導の時間に参加すること。また、そのために、充分な準備を怠ることのないように取り組むこと。
卒業論文の指導教員の論文指導や具体的なコメントに留まらず、自ら進んで探究するための時間を確保し論文に反映させること。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

子ども教育学科の教育目標に沿った卒業論文であること。適切な方法により、丁寧に論考し論理的に書かれていること。

テキスト、参考図書

一人ひとりの卒業論文テーマに関連する文献や図書など。随時、紹介し、解説を加える。

その他(受講上の注意)

継続的な学習・探究的態度が重要であるから中断しないこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	柿本　真代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業論文の執筆と、それにむけた資料やデータの収集など。

授業の到達目標

課題を設定し、解決に必要なデータ収集・提示し、実証的に卒業論文をまとめることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各自研究計画を立て、資料の収集や調査を行う。定期的な授業は行わない。質問や相談がある場合は事前にメール等で時間を決めた上で個別に面談を行う。子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲで報告を行い、討論を踏まえて論文を執筆する。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

課題の解決に必要なデータを収集・提示し、実証的に卒業論文がまとめられているか。

テキスト、参考図書

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。
これまで学んできたことの集大成として卒業研究に仕上げる。具体的には「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学んできたことを自分のテーマに即して卒業論文にまとめる。論文作成の過程において、残された課題を明確にしながら研究のポイントを示し、それに沿って卒業研究を進めるように指導する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各自の研究計画に沿って進める。必要に応じて研究にアドバイス、参考書等を紹介、卒業研究を深めまとめる。

成績評価方法

①研究成果物を提出する
②研究要旨を提出する。
③口頭発表を行うまたは口頭試問を受けるの3項目を単位認定の基本要件としたうえで、主査と副査による合議により評価を判定する。

成績評価基準

研究成果物、研究要旨、口頭発表等の内容が、研究テーマに即して論理的に考察展開され適切であるか

テキスト、参考図書

特になし

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

学生各自の１～３年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、４年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などを通して、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

目的に沿って、計画的に研究を進めることができる。
自分の研究について、批判的・論理的思考をもって検討、考察することができる。
自分の研究結果や考察を、他者にわかりやすく文章にまとめ、説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

個別に話し合い、各自の計画を立てる。定期的に進捗状況を報告し、助言を受ける。自主的に研究を進めていく。計画以外でも、必要な場合は、積極的に助言を求める。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の３項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

目的に沿って、計画的に研究を進めることができたか。
自分の研究について、批判的・論理的思考をもって検討、考察することができたか。
自分の研究結果や考察を、他者にわかりやすく文章にまとめ、説明することができたか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自が設定した卒業研究のテーマに沿って、論文全体の構想、段取り、文献収集・整理から論文の完成に到るまでの作業を計画的、継続的に進める。また、他者（指導教員やゼミ生）との積極的な意見交換をとおして論文の考察を深めてゆく。

授業の到達目標

卒業論文が論理的に構成されている。簡潔・平明な正しい日本語で書くことができる。文献の引用、図表の使用が適切である。提出締め切り日までに完成できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各自が設定したスケジュールに沿って研究を進めながら、指導教員と定期的な論文指導の時間を設定し、進捗状況を報告し論文指導を受ける（討議）。自ら疑問点や問題点を整理して論文指導に臨む。また、指導教員から指摘されたコメントを参考に次への作業を進める。そのためにも常に計画的に時間を確保する。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

子ども教育学科の教育目標に合致した卒業論文である。論理的に卒業論文が構成され、設定した研究課題に対して充分な考察がなされている。卒業研究発表会において発表、口頭試問に適切に対応できている。

テキスト、参考図書

各自の卒業論文テーマに関連する文献、図書などをその都度紹介する。

その他(受講上の注意)

常に問題意識をもち主体的、継続的に取り組むこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自の研究テーマに沿った研究、制作を行い、原則として定期的な授業は行わない。
これまで学んできたことの集大成として卒業研究を仕上げる。具体的には「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業の中で行われてきたものを自分のテーマに即してレポートとして完成させて提出する。造形、美術教育等に関する内容のものであることから、場合によっては作品が伴うこともあり、その場合は作品とレポートの両方を提出することとなる。大学4年間の総まとめとなるものであるから質、量ともに相応のものとしたい。

授業の到達目標

・研究課題を論文または報告書としてまとめることができる。
・作品がある場合には作品として質の高いものを制作することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

・年度当初に具体的な研究計画をたて、それに基づいて各自が研究を進めていく。
・研究内容を論文または、作品と報告書にまとめ、提出する。
・定期的な授業は行わない。
・研究課題について定期的に報告できるようにレジュメにまとめる。
・作品がある場合には、作品の質を高めるように制作を進める。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

・卒業研究として質の高い研究成果(論文、報告書、作品)が提出できる。
・卒業研究を踏まえて、的確な内容の要旨をまとめることができる。
・卒業研究発表会でわかりやすく発表することができる。

テキスト、参考図書

適宜、指示する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業論文の執筆

授業の到達目標

研究内容に関する卒業論文を執筆できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各自でテーマに従って、制作・実践活動を進める。
各自で進めた研究内容については、子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲで進捗報告を行い、助言を受け、次の計画を行うこと。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

研究成果物を提出したか。研究要旨を提出したか。口頭発表を行ったか。

テキスト、参考図書

特に指定しない。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

自らの関心、興味を研究課題へと昇華したうえで、課題に応じた論述を論理的にまとめることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各学生ごとに計画を立てる。
①資料に向き合う
②書き進める
③書き直す
特に指示されなくても、以上の作業を日頃より行うことが肝要となる。
また、行き詰ったときは、こまめに教員に相談することが必要である。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

自らの関心、興味を研究課題へと昇華したうえで、課題に応じた論述を論理的にまとめることができるか。

テキスト、参考図書

なし

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	笠原　茂子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

個別に論文指導を行う

授業の到達目標

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

論文指導を行う。
・テーマの確認　(課題解決型学習)
・参考文献の紹介
・協力校での授業実践　(実習)
・グループディスカッション　(グループワーク・討議)
・中間発表　(発表・討議)
・下書き提出
・輪読　(グループワーク)
・推敲　(グループワーク)
・発表練習　(プレゼンテーション)
　等、自主的に研究を進める。

成績評価方法

①研究成果物を提出する②研究要旨を提出する③口頭発表を行う(口頭試問を兼ねる)の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

研究の目的が明確か。研究の方法が妥当か。研究結果に対する考察が十分に行われて結論が導かれているか。論文(文章)の展開に一貫性があるか。

テキスト、参考図書

なし

その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2407	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

個別に論文指導を行う

授業の到達目標

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

論文指導を行う。デザイン発表、中間発表、下書き提出等適宜指示する。自主的に研究を進める。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

研究の目的が明確か。研究の方法が妥当か。研究結果に対する考察が十分に行われて結論が導かれているか。論文（文章）の展開に一貫性があるか。

テキスト、参考図書

なし

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保育原理Ⅱ (Principles of Early Childhood)			担当教員	石川　昭義
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2400	2単位	4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

平成29年改定の保育所保育指針を読み、旧指針との違いを把握しながら保育のあり方及び保育者のあり方について学ぶ。また、子ども・子育て支援新制度を含む近年の保育施策についてその概要を理解するとともに、それらの諸課題を探究する。

授業の到達目標

保育所保育指針の内容を理解し、その概要を説明することができる。子ども・子育て支援新制度を含む近年の保育施策について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(授業の概要、評価の方針など)
　事前学習：1年次の「保育原理Ⅰ」の内容を振り返り、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：わからないところについて図書館で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)
第2回：平成29年改定保育所保育指針(改定の背景)
　事前学習：保育所保育指針第1章1(解説を含む)を読み、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートにまとめる。(2時間)
第3回：保育所保育指針の意義(旧指針との比較)
　事前学習：保育所保育指針第1章2・3(解説を含む)を読み、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートにまとめる。(2時間)
第4回：保育所保育指針(3 歳未満児の保育の内容)
　事前学習：保育所保育指針第2章1・2(解説を含む)を読み、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートにまとめる。(2時間)
第5回：保育所保育指針(3 歳以上児の保育の内容)
　事前学習：保育所保育指針第2章3(解説を含む)を読み、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートにまとめる。(2時間)
第6回：保育者の専門性と資質向上
　事前学習：保育所保育指針第5章(解説を含む)を読み、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートにまとめる。(2時間)
第7回：保育者の自己評価と保育所の自己評価
　事前学習：保育所保育指針第1章4(解説を含む)を読み、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートにまとめる。
第8回：子ども・子育て支援新制度について
　事前学習：子ども・子育て支援法について調べ、質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートにまとめる。(2時間)

第９回：幼保連携型認定こども園について
　　事前学習：認定こども園法について調べ、質問事項をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業の内容をノートにまとめる。（２時間）
第10回：（改訂）幼保連携型認定こども園教育・保育要領について１
　　事前学習：幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、質問事項をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業の内容をノートにまとめる。（２時間）
第11回：（改訂）幼保連携型認定こども園教育・保育要領について２
　　事前学習：幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、質問事項をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業の内容をノートにまとめる。（２時間）
第12回：保育をめぐる現代の課題（学生発表１）
　　事前学習：現代の子どもまたは保育をめぐる状況について調べ、発表の準備を行う。（２時間）
　　事後学習：発表された内容に関連することをさらに図書館等で調べる。（２時間）
第13回：保育をめぐる現代の課題（学生発表２）
　　事前学習：現代の子どもまたは保育をめぐる状況について調べ、発表の準備を行う。（２時間）
　　事後学習：発表された内容に関連することをさらに図書館等で調べる。（２時間）
第14回：保育をめぐる現代の課題（学生発表３）
　　事前学習：現代の子どもまたは保育をめぐる状況について調べ、発表の準備を行う。（２時間）
　　事後学習：発表された内容に関連することをさらに図書館等で調べる。（２時間）
第15回：保育士養成の現状と課題
　　事前学習：これまでの学習内容を振り返り、わからいことをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：わからないことを図書館で調べたり、担当教員に質問したりして定期試験の準備を行う。（２時間）
第16回：定期試験

成　績　評　価　方　法

レポート（60％）　平常点（40％）（平常点は、授業への参加状況、受講態度、積極的な発表意欲及び発表内容を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

保育所保育指針の内容を理解し、その概要を説明することができているか。子ども・子育て支援新制度を含む近年の保育施策の諸課題について自分の見解が明確に述べられているか。

テキスト、参考図書

厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館、2018年）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、2018年）

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子育て支援論 (Child Care Support Families)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2404	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

子育て家庭を取り巻く環境や社会状況とともに、子育てを支える仕組みも大きく変化している。本授業では、現代の子育て環境を理解した上で、子育て支援における制度・施策から、専門機関や地域の役割、支援の実際を具体的に学ぶ。その学びを基に、子育て支援に求められる専門性、子育て支援の意義と限界について考察する。

授業の到達目標

子育て支援の制度・施策について説明することができる。
子育て支援にかかわる専門機関の役割とあり方について説明することができる。
子育て支援にかかわる専門職に必要な知識・技術について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション～子育て支援とは
　事前学習：子育て支援の定義や内容について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第2回：子育て環境の変遷と現状
　事前学習：子育て環境の変遷と現状について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第3回：子育て支援の必要性と役割
　事前学習：子育て支援の必要性と役割について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第4回：子育て支援における制度・施策の変遷と現状
　事前学習：子育て支援における制度・施策について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第5回：保育所における子育て支援の実際
　事前学習：保育所で実施されている子育て支援について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)

第６回：幼稚園、認定こども園における子育て支援の実際
事前学習：幼稚園、認定こども園で実施されている子育て支援について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第７回：地域子育て支援センターにおける子育て支援の実際
事前学習：地域子育て支援センターについて関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第８回：保健所・保健センターにおける子育て支援の実際
事前学習：保健所・保健センターで実施されている子育て支援について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第９回：児童館における子育て支援の実際
事前学習：児童館で実施されている子育て支援について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第10回：児童福祉施設等における子育て支援の実際
事前学習：児童福祉施設で実施されている子育て支援について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第11回：地域における子育て支援の実際
事前学習：地域で実施されている子育て支援について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第12回：海外における子育て支援の実際
事前学習：海外の子育て支援の現状について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第13回：子育て支援で求められる専門性
事前学習：子育て支援に携わる専門職について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第14回：子育て支援の意義と限界
事前学習：子育て支援の意義と限界について関連する事項を調べ、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ
事前学習：これまでの学びを総括し、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）

成　績　評　価　方　法

平常点（80%）、レポート（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、毎回のコメント用紙の提出状況等を総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

子育て支援の制度・施策について説明することができるか。
子育て支援にかかわる専門機関の役割とあり方について説明することができるか。
子育て支援にかかわる専門職に必要な知識・技術について説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

その他（受講上の注意）

「児童家庭福祉」、「家庭支援論」の復習をしておく。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

子育て支援演習 (Child Care Support Families(Practice))			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2451	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

「子育て支援論」で学んだことを基に、地域子育て支援センターでの実習を通して、子育て支援の目的・意義・限界や子育て支援に携わる保育者の専門性について考察し、理解を深める。

授業の到達目標

地域子育て支援センターの役割とあり方について説明することができる。
地域子育て支援センターの職員に必要な知識・技術について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート)　□グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：「子育て支援論」を基に地域子育て支援センターについて復習する。(2時間)
　事後学習：配付資料、説明の内容を見直し、自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第2回：地域子育て支援センターでの実習計画書の作成
　事前学習：実習で学びたいことについて、自分の考えをまとめる。(2時間)
　事後学習：「実習計画書」を完成させ、実習先の活動等について情報収集をする。(2時間)
第3回：地域子育て支援センターでの実習①
　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。(2時間)
　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、中間発表につなげる。(2時間)
第4回：地域子育て支援センターでの実習②
　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。(2時間)
　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、中間発表につなげる。(2時間)
第5回：地域子育て支援センターでの実習③
　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。(2時間)
　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、中間発表につなげる。(2時間)
第6回：地域子育て支援センターでの実習④
　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。(2時間)
　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、中間発表につなげる。(2時間)
第7回：地域子育て支援センターでの実習⑤
　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。(2時間)
　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、中間発表につなげる。(2時間)
第8回：中間まとめ・発表・質疑応答・討議
　事前学習：実習で学んだことを整理し、発表の準備をする。(2時間)
　事後学習：討議等で得た学びを整理し、次の実習の課題をまとめる。(2時間)

第９回：地域子育て支援センターでの実習⑥
事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（２時間）
事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、まとめの発表につなげる。（２時間）
第10回：地域子育て支援センターでの実習⑦
事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（２時間）
事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、まとめの発表につなげる。（２時間）
第11回：地域子育て支援センターでの実習⑧
事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（２時間）
事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、まとめの発表につなげる。（２時間）
第12回：地域子育て支援センターでの実習⑨
事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（２時間）
事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、まとめの発表につなげる。（２時間）
第13回：地域子育て支援センターでの実習⑩
事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（２時間）
事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、まとめの発表につなげる。（２時間）
第14回：実習のまとめ・発表・質疑応答・討議
事前学習：実習で学んだことを整理し、発表の準備をする。（２時間）
事後学習：配付資料、討議の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第15回：子育て支援の意義と限界
事前学習：子育て支援の意義と限界について、実習経験をもとに自分の考えを整理する。（２時間）
事後学習：配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）

成　績　評　価　方　法

発表（50%）、平常点（30%）、レポート（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、実習日誌の提出状況等を総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

地域子育て支援センターの役割とあり方について説明することができるか。
地域子育て支援センターの職員に必要な知識・技術について説明することができるか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

その他（受講上の注意）

「子育て支援論」の履修を原則とする。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域福祉論 (Theory of Community Welfare)			担当教員	杉本　吉弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2405	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

講義形式で地域福祉の枠組みや視点、手法の全体像をつかんでいく。

授業の到達目標

・今日の社会福祉動向を踏まえ、「地域福祉」の意義や位置づけを理解する。
・地域における援助技術の構造や機能、展開方法などを理解する。
・地域福祉の主体形成のあり方を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
□発表(プレゼンテーション)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション〜福祉(ふくし)とは何か
　事後学習：「ふくし」とは何かを具体的にイメージを調べて、自分自身の言葉で定義づけを行うこと。(4時間)
第2回：地域福祉の概念①〜地域社会の現状と私たちの暮らし(グループワーク)
　事前学習：身近な暮らしの中にある「生きづらさ」を調べて、整理すること。(3時間)
　事後学習：「生きづらさ」に関わる課題の解決方法をイメージし、整理しておくこと。(4時間)
第3回：地域福祉の概念②〜福祉コミュニティの形成(グループワーク)
　事前学習：各自が関わるコミュニティについて調べて、整理しておくこと。(3時間)
　事後学習：福祉コミュニティづくりの意義を調べて、整理しておくこと。(4時間)
第4回：地域福祉の概念③〜社会福祉制度の変遷における地域福祉の位置づけ(グループワーク)
　事前学習：明治以降の社会福祉制度について調べて、整理しておくこと。(4時間)
　事後学習：地域福祉に関わる諸制度を体系的に調べて、整理しておくこと。(4時間)
第5回：地域生活支援①〜地域を基盤にしたソーシャルワークの概念(グループワーク)
第6回：地域生活支援②〜地域ケアを推進する2つのソーシャルワーク実践(グループワーク)
第7回：地域生活支援③〜ボランティア活動と地域福祉(グループワーク)
　事前学習：地域のボランティア活動に関する事柄について、事前に調べておくこと(8時間)
　事後学習：ボランティアマインドが芽生える要件を調べて、整理する(6時間)
第8回：地域生活支援④〜コミュニティソーシャルワークと総合相談支援(グループワーク)
　事前学習：身近にある相談機関を調べて、整理しておくこと。(4時間)
　事後学習：総合相談の意義や必要性について調べて、整理しておくこと。(4時間)
第9回：地域福祉の実践①〜コミュニティソーシャルワークの実践展開(1)(映像教材を活用したグループワーク①)
第10回：地域福祉の実践②〜コミュニティソーシャルワークの実践展開(2)(映像教材を活用したグループワーク②)
第11回：地域福祉の実践③〜コミュニティソーシャルワークの実践展開(3)(映像教材を活用したグループワーク③)

第12回：地域福祉の実践④～コミュニティソーシャルワークの実践展開（4）（映像教材を活用したグループワーク④）
第13回：地域福祉の実践⑤～コミュニティソーシャルワークの実践展開（5）（映像教材を活用したグループワーク⑤）
第14回：地域福祉の計画化
事前学習：地域福祉を計画化することの意義づけを考え、整理しておくこと。（6時間）
事後学習：身近な地域の地域福祉計画の内容を調べて、十分に理解すること。（6時間）
第15回：これからの地域福祉～地域共生社会の実現

成 績 評 価 方 法

レポート（70%） 平常点（30%）
※平常点は授業の出席・振り返りシートの提出状況および授業態度を判断する。

成 績 評 価 基 準

・「地域福祉」の概念や全体像を自分の暮らしや地域の姿に引き寄せて整理できているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

・各講義でレジュメ資料等を配布する。

そ の 他（受 講 上 の 注 意）

・集中講義形式で各日の授業が長時間におよぶため、自分自身でメリハリをつけながら積極的な受講を求める。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域福祉演習 (Exercise of Community Welfare)			担当教員	杉本　吉弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2452	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

現代社会は、誰もが「生きづらさ」につながる問題の当事者になり得てしまう。それらの問題解決に「我が事・丸ごと」で取組む地域づくりの意義と地域福祉実践の展開過程を理解し、地域福祉推進の担い手としての主体形成を図る。

授業の到達目標

1. 今日の社会情勢や福祉動向を踏まえた「地域福祉」の意義と実践の枠組みを理解する。
2. ワークショップやフィールドワークを通じて、地域福祉実践の展開手法を理解する。
3. 地域福祉(実践)における自らの主体形成を図る。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク
■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション ～「ふくし」、「地域福祉」の概念
　事後学習：自分にとって身近な「ふくし」について具体的に調べて、整理しておくこと。(4時間)
第2回：地域福祉の概念① ～地域社会の現状と福祉コミュニティの形成(グループワーク)
　事前学習：身近にあるさまざまなコミュニティについて調べて、整理しておくこと。(5時間)
第3回：地域福祉の概念② ～福祉制度の変遷と地域福祉の位置づけ(グループワーク)
　事後学習：これまでの学習で触れた各種の福祉制度を体系的に整理すること。(4時間)
第4回：地域福祉の概念③ ～地域を基盤にしたソーシャルワーク実践の全体像(グループワーク)
　事後学習：これまでの学習で学んだソーシャルワーク実践をまとめて、体系的に整理しておくこと。(4時間)
第5回：地域福祉実践の実際① ～地域への働きかけ(グループワーク)
第6回：地域福祉実践の実際② ～総合相談を通じた個別課題の解決(グループワーク)
　事前学習：福祉相談の形態と相談機関等を調べて、整理しておくこと。(5時間)
第7回：地域福祉実践の実践③ ～さまざまな主体(グループワーク)
　事前学習：地域づくりに関わっているさまざま主体について調べて、整理しておくこと。(5時間)
　事後学習：地域福祉の主体形成に必要な要件等を調べて、整理しておくこと。(4時間)
第8回：地域福祉実践の実際④ ～地域福祉の計画化(グループワーク)
　事前学習：福祉に関係する計画について調べて、整理しておくこと。(4時間)
　事後学習：さまざまな福祉計画と地域福祉計画の関係性を調べて、整理しておくこと。(5時間)
第9回：フィールドワーク(グループワーク・フィールドワーク)
第10回：フィールドワーク(グループワーク・フィールドワーク)
第11回：フィールドワーク(グループワーク・フィールドワーク)
第12回：フィールドワーク(グループワーク・フィールドワーク)
　事後学習：フィールドワークでの学びと気づきを実生活にどう活かすかを調べて、整理しておくこと。(4時間)

第13回：地域福祉の主体形成① ～「地域」の捉え直し（グループワーク）
事前学習：「地域」を感じる場所や場面を各自で踏査し、レポートを作成しておくこと。（6時間）
事後学習：他の学生の発表を踏まえて、自分の捉え方や視点との違いを把握し、まとめておくこと。（4時間）
第14回：地域福祉の主体形成② ～住民参加と理解を促す啓発ツールづくり（1）（グループワーク）
事前学習：地域福祉を住民と共感していくための効果的な啓発方法を構想し、まとめておくこと。（6時間）
第15回：地域福祉の主体形成③ ～住民参加と理解を促す啓発ツールづくり（2）（グループワーク）

成 績 評 価 方 法

・レポート試験（70%）、平常点（30%）
※平常点は授業の出席・振返りシートの提出状況および授業態度で判断する。

成 績 評 価 基 準

・授業での演習課題に主体的に取組んだか。
・地域福祉の理論と方法を踏まえ、自分自身（自分事）を起点にした地域福祉実践の展開を具象化できているか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

・各講義でレジュメ資料等を配布する。

その他（受講上の注意）

・集中講義形式で各日の授業が長時間におよぶため、自分自身でメリハリをつけながら積極的な受講を求める。

オ フ ィ ス ア ワ ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

子どもと食育 (Children and Nutritional Education)			担当教員	細田　耕平
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2450	2単位	4年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科又は教職に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭1種免許状（選択）、幼稚園教諭1種免許状（選択）、保育士資格（選択）

授業の内容

子どもの食生活の現状を知り、今、何が子どもの食育に必要なのかを理解させる。また、食育の実践をとおして学修する。さらに福井の食文化と食育についても学ぶ。

授業の到達目標

子どもの食生活の現状を理解し、食育の必要性を知る。また、調理の実験や実習をとおして自分自身の正しい味覚や地場産物の利用、朝ごはんの作り方、食事のマナーを体験し、子どもの食育を実践できる能力を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
■発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：はじめに 今、なぜ、食育か？【ディスカッション】
　事前学習：授業前にテキストp10−21を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（2時間）
第2回：食育の現状と課題【ディスカッション】
　事前学習：第2回ではどんな食育が行われているかを話し合うので、第1回で扱った食生活の課題から興味のあるものを取り上げ、それに対してどのような食育が行われているかを調べ、まとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（2時間）
第3回：子どもの栄養と食生活
　事前学習：授業前にテキストp26−41を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（2時間）
第4回：子どもの生活習慣および食習慣と食育、環境・給食・食事バランスガイドと食育
　事前学習：授業前にテキストp42−45を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（2時間）
第5回：子どもの食育の実践（ 1 ）　食事バランスガイドを使った自身の食生活の振り返り　【実験、実技】
　事前学習：第5回は自身の1日分の食事内容をもとに、実際に演習に取り組みます。授業日までに平日1日分の食事記録を作成すること。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（2時間）

第６回：食の安全について　（食中毒予防、アレルギー対策を中心に）
事前学習：授業前にテキストp118－133,136－138を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（２時間）
第７回：子どもの発育段階と食育（１）乳児期①　幼児期の栄養と味覚の体験　【実験、実技】
事前学習：授業前にテキストp 50－51,54－57,62－68を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（２時間）
第８回：子どもの発育段階と食育（１）乳児期②　授乳期・離乳期の食事　【実験、実技】
事前学習：授業前にテキストp 52－53,58－61,69－79を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（２時間）
第９回：子どもの発育段階と食育（２）幼児期　幼児期の栄養と食事
事前学習：授業前にテキストp74－79を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（２時間）
第10回：幼児期の食育の実践（２）　絵本を使った食育をやってみよう①
事前学習：第10回は、幼児の調理体験活動の導入部分を想定した絵本を使った食育を各自に発表してもらうので、各自、絵本を選定し、調理活動へのつなげ方等を考えてくること。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（２時間）
第11回：幼児期の食育の実践（２）　絵本を使った食育をやってみよう②
事前学習：第11回は、幼児の調理体験活動を実際に体験してもらうので、これまでに学習した内容（特に、食中毒・アレルギー）を復習し、衛生管理のポイントが説明できるようにしておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（２時間）
第12回：子どもの発育段階と食育（３）学童期、思春期　学童期・思春期の栄養
事前学習：授業前にテキストp80－85,104－107を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（２時間）
第13回：子どもの食育の実践（３）　お弁当の日をやってみよう
事前学習：第13回は、簡易版のお弁当の日を行うので事前配布資料（第12回に配布予定）の内容をよく読み、思い出の味や料理について説明できるようにしておくこと。。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（２時間）
第14回：日本・福井の食文化と食育、学校・家庭・地域が連携した食育の推進
事前学習：幼稚園・学校に実習に出た時のことを思い出し、食育の題材として取り上げられていた行事等を整理しておく。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（２時間）
第15回：学校、幼稚園、保育所（園）における食育の在り方
事前学習：これまでの講義で学習した内容を思い出し、乳幼児期と児童期・思春期でどのような食育を行うとよいか説明できるようにしておくこと。（２時間）
事後学習：これまでの授業内容をもとに、「自分が就職したあとに食育をするために、今後深める必要があること」等について、レポートにまとめる。（２時間）

成　績　評　価　方　法

毎回の課題提出物（80点）と授業の取り組み態度（20点）で評価する。

成　績　評　価　基　準

食生活の現状を理解し、食育の必要性を知ることができたか。また、食育を実践できる能力が身についたかを課題提出物、授業中の態度などで評価する。

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

「子どもの食と栄養　改訂第２版」児玉浩子編　中山書店
その他必要に応じて資料を配付する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

児童館活動内容b (Activities of Children's Halls b)			担当教員	小林加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-B-2401	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

児童ソーシャルワークの展開方法。
中高生の居場所づくり、児童の参画、地域のネットワークづくり等、児童館・放課後児童クラブの発展的活動の実施方法。
児童館・放課後児童クラブ活動の記録方法。

授業の到達目標

児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画や、利用者への対応、地域とのかかわり等について学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク
■ 発表（プレゼンテーション）□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：授業前にテキストの児童館関係法令に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童館におけるソーシャルワークについて、テキストの第4章を読み込んでおくこと。（2時間）
第2回：児童館・放課後児童クラブにおけるコミュニティーワーク
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章・3章等に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：コミュニティワークについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第3回：コミュニティーワークの展開方法と児童厚生員の役割（討議・グループワーク）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第4章に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童厚生委の役割について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第4回：地域のネットワークづくり（地域資源の発掘・育成）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第2・3章に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：地域ネットワークづくりについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第5回：地域のネットワークづくり（地域の関係機関との連携・協働）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第2・3章に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：地域ネットワークづくりについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第6回：児童館・放課後児童クラブにおける相談対応（子ども、保護者）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章の3に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童館・放課後児童クラブにおける相談対応について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第7回：子どもの社会参画（考え方、プログラム）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章の8に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：子どもの社会参画について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）

第８回：中高生の居場所づくり
　　事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章の４に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：中高生の居場所づくりについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第９回：配慮を要する児童へのかかわり（討議）
　　事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章の５に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：参考事例の実践記録を参考に自己の実践記録の検証を行うこと。（２時間）
第10回：配慮を要する児童へのかかわり（グループワーク・発表）
　　事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章の５に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：参考事例の。（２時間）
第11回：実践記録の取り方
　　事前学習：授業前にテキストの関連項目に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：参考事例の実践記録を参考に自己の実践記録の検証を行うこと。（２時間）
第12回：実践レポートの書き方
　　事前学習：授業前にテキストの関連項目に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：参考事例のレポートを参考に自己の実践レポートの検証を行うこと。（２時間）
第13回：地域のニーズを踏まえた行事やイベント等の企画立案（演習）（グループワーク）
　　事前学習：課題を理解した上で自分なりの企画立案の提案ができるよう準備する。（２時間）
　　事後学習：グループ内での役割に基づいて発表資料を作成すること。（２時間）
第14回：企画発表会、講評（発表）
　　事前学習：授業前にグループ内での役割を確認し発表資料を整えておくこと。（２時間）
　　事後学習：各グループの行事企画についてのまとめと検証。（２時間）
第15回：まとめ　（課題レポート）
　　事前学習：授業前にテキストと授業内容全体の配布資料に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業全体の振り返り。（２時間）

成　績　評　価　方　法

平常点（受講態度および取組姿勢）60％、課題レポート（授業中の課題含む）40％により総合的に評価します。

成　績　評　価　基　準

児童ソーシャルワークを基本に、児童館・放課後児童クラブの日々の活動、地域とのネットワーク形成について文章または口頭にて簡潔に説明できる。

テキスト、参考図書

『児童館論』一般財団法人児童健全育成推進財団

その他（受講上の注意）

出席を重視し、欠席・遅刻・早退は減点します。
テキストの関連部分や配布資料を読み込んで授業に臨むこと。また授業時の板書やプリントを独自のノートにまとめること。授業の中の用語等に不明なものがあれば次回の授業までに調べるか、質問事項として付記すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

大学教育情報システム【授業に関するお知らせ】にて時間帯等を確認してください。

児童館実習 (Practice in Children's Halls)			担当教員	石川　昭義、出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2403	2単位	4年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識・技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成・社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解・自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

4年次の8月・9月に10日間、児童館･児童センターにおいて実習を行い、地域における子どもの健全育成と子育て支援に必要な児童館の役割及びその活動内容を理解する。

授業の到達目標

児童館･児童センターで実習を行い、児童館等の機能や運営について学ぶことを目的とする。地域福祉的視点をもって児童館の運営を考えることが大切であり、実際に子どもと関わることによって、子どもの理解を深めるとともに遊びの指導や生活指導についても学ぶ。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク
□発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

実地体験を通して、児童館の役割や児童クラブの機能、運営について理解することを目的としている。
そのため、児童館・児童センターの生活等に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、そこで働いている児童厚生員の職務について学ぶため、以下の内容を経験し、学習する。
1　児童館活動に参加し、活動についての知識、技術を学ぶ。
2　子どもの発育・発達について理解し、対応方法等を修得する。
3　児童厚生員としての倫理を学ぶ。
4　子どもの保護者等の子育て支援について学ぶ。
5　児童館を取り巻く地域社会との連携について学ぶ。
6　児童館等における児童厚生員に求められる資質・能力・技術等についての自己の課題を明確化する。実習ノートを記載しながら振り返りを行う。
実習児童館の指示にしたがい、翌日以降の実習の準備を行う。
児童･保護者との対応において疑問に思うことをまとめる。

成績評価方法

実習児童館からの評価、巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況、学内の事前事後指導に基づき総合的に評価する。

成績評価基準

児童館実習評価表の項目（10項目と総合評価）による。いずれの項目も、「特に優れている」「優れている」「普通」「努力が必要である」「特におとる」の5段階で評価される。

テキスト、参考図書

なし

その他(受講上の注意)

実習前に事前指導を行う。実習の１か月前を目途に実習する児童館に事前訪問を行い、オリエンテーションを受けること。実習後は、事後指導として個人レポート集を作成する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。